

数学 I

Mathematics I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

片野 修一郎

学習目標 (GIO) 現代社会において、数学の必要性は間違いなく単調に増加しているにもかかわらず、全ての科学の基礎となつて学力のベースを構成する数学のような学問は、目に見える卑近な成果ばかりを追いかける現代日本の風潮の中にあつては軽視されがちである。マンションの杭打ち基礎工事に問題があれば、後になって深刻な影響が出ることは、ニュースなどでも報道されることがあるので、記憶に新しい人もいるだろう。当該マンションは結局建て直しになり、大きな社会問題に発展した。薬学を学ぶ上でも、数学は大切な礎石部分を構成するのである。基礎工事ができていないまま大学の勉強を続けようとする、どのような恐ろしい事態を招くか、それは各自で考えて欲しい。この授業では、薬学にとって最も役立つ道具である「微分積分学」にスポットを当てて、薬学に自在に利用できるようになるまでしっかり理解することを目標として掲げたい。同時に、学問に向き合うときの姿勢をぜひ学んで欲しいとも思う。

- (1) How to を暗記するのではなく、Story を理解する。
- (2) 些細な計算ひとつとっても、工夫したり別の方法を考えたりする習慣を身につける。
- (3) 微積分の(少数の)基本原理を明確に理解する。
- (4) 薬学に必要な微積分の計算能力を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	関数の基本(表記の仕方や変数・定数の意味などを含む)についてきちんと身につける。指数の基本を徹底的に理解する。巨大な数や微小な数の表記の仕方にも慣れる。	X-7-2-1
2	指数関数の基本性質を心底から理解する。指数関数の際立った特徴を把握したうえで、グラフが描けるようになる。 $2x$ と 2^x の違いが曖昧、なんていうことが絶対ないように。指数計算に習熟する。	X-7-2-1
3	対数の定義と意味を明確に理解する。対数関数の基本性質を把握したうえで、そのグラフが描けるようになる。対数計算が確実にできる。	X-7-2-1
4	三角関数の基本性質を理解し、そのグラフが描ける。	X-7-2-2
5	極限の意味を直観的に理解し、微分法が何のために考えられたのか、何をするためにあるのかを自分の言葉で説明できる。定義に基づいて簡単な関数の微分が実行できる。化学反応の速度が微分によって捉えられることがわかる。	X-7-3-1~2
6	微分法の基本性質を理解し、それに基づいて多項式や有理式の微分が自在にできる。	X-7-3-2
7	指数関数の微分ができる。その過程で、自然対数の底 e の意味と意義とをはっきり知る。なぜ微分するときは常用対数ではなく自然対数を使うのか。この機会に、自然対数と常用対数それぞれの用途および双方の変換について認識を新たにする。	X-7-3-2
8	まず合成関数とは何かを理解する。次に合成関数の微分法の仕組みを理解し、自在に計算できるようになる(微分法学習最大の山場)。	X-7-3-2
9	逆関数の微分法則の応用として、対数関数の微分ができるようになる。薬学で現れる簡単な微分方程式にも触れ(組織的な説明は後期数学 II でやる)その数学的部分を丁寧に説明する。	X-7-3-2
10	積分の基本理念について理解する。原始関数の概念を、その表記法と共に理解する。基本になる少数の簡単な原始関数が確実に求められる。	X-7-3-3
11	合成関数微分の逆読みとしての積分(最も初歩的な置換積分)ができるようになる。薬学に必要な積分はほぼこのレベルで済む。	X-7-3-3
12	2変数関数とは何か、そのグラフはどんなものかを理解する。偏微分概念を表記法と共に明確に把握し、具体的な関数の偏導関数が計算できる。熱力学で現れる偏微分などについても知る。	X-7-3-5
13	2階の偏導関数までを確実に計算できる。記号等もきちんと使える。	X-7-3-5

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~4	片野	関数の基本事項、指数関数、対数関数の基本。本年度は、この項を入学前教育の中で実施する。	1, 2, 3
5~9	"	1変数関数の微分法(極限についての簡単な説明を含む)および微分方程式の入り口。三角関数の微分の折に、簡単な復習もする予定。この項からが正規の授業になる。	5, 6, 7, 8, 9
10~11	"	1変数関数の積分法	10, 11
12~13	"	偏微分法	12, 13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・学生が自ら手を動かして演習問題を解く時間をできるだけ設ける。
- ・黒板で演習問題の解答を発表させることもある。
- ・Webclass に教科書の演習問題の詳しい解答解説を適宜アップする。場合によっては、自習用にさらなる演習問題と解答解説をアップする。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・「これは何なのか」「どうしてこんなことを考えるのか」「なぜそうなるのか」「この式の意味は何か」といった理屈の部分（専門的にならない範囲で）徹底的に解説する。
- ・例や例題をできるだけ多く紹介し、解説している。
- ・演習問題を数多く解いて理解を深める機会を多く設けている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題の解答を授業中に発表させたり、質問に答える、WebClass に詳細な解説記事を掲載するなどして主体的な取り組みを促す。

2) 総括的評価

a) 知識：基本的には定期試験（100%）で評価するが、授業内の演習問題解答発表、（自主的な）レポートの提出などは助案する。

〔教科書〕

片野修一郎『根底から理解する 微分積分学入門』（ムイスリ出版）

高等学校数学Ⅱの学習に不安がある人は、数式の部分ではなく、本文の説明部分を入念に読んでください。本格的な微積分の本が読みたい人は大書店に行けば山ほどあります。授業を理解するだけで手一杯の人は、高校数学の教科書を常に手元に置いておくのと良いです。とりあえず一通りのことが、この薄さと安さで達成できる本はたぶん他にはありません。

〔参考書〕

小林賢・熊倉隆二編『わかりやすい薬学系の数学演習』（講談社）

この本は、中学校で学ぶような四則計算や濃度計算に始まり、微分方程式を用いる（本学では後期選択科目の数学Ⅱでしか学ばない）薬物動態や化学反応に関する国試問題の演習までを扱っています。国試を見据えた6年分の数学的問題の対策とまとめや、2・3年次で学ぶ専門科目と並行して日頃から取り組むという使い方も有効かと思えます。授業では使いません。

〔オフィスアワー〕

火曜午後に学習相談を設定してありますが、質問はそれとは無関係に、2109 研究室でいつでも受け付けます。質問するのに遠慮も予約も要りません。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109

〔準備学習（予習・復習等）〕

高等学校の数学Ⅱまではしっかり理解しておくことを強く望みます。高等学校で「ただ履修した」ことと「きちんと理解した」ことは天と地ほどの違いがあることをきちんと認識して下さい。特に指数・対数は薬学部生にとって命です。6年間ついてまわります。理工系大学に籍を置いているにも拘わらず、指数対数の基本中の基本さえ理解していない学生が非常に目につきます。「理解する」という言葉の意味が実感できなくなっているのではないかと危惧します。掛け算九九と同じくらいはしっかり理解して初めて「理解した」というのです。

この授業では、高等学校数学Ⅲを履修していることを仮定しません。上に書いたように、理解していないのなら、履修していないのと同じことです。数学Ⅲを履修していないことを気に病む学生を毎年相当数見かけますが、そんな暇があったら、数学Ⅱ（それ以前の教科書も含む）の教科書を完全に理解しておくことに全力を注いで下さい。数学Ⅱまでが完全にわかっているならば、この授業に臨むに当たっては何の不足もありません。また、数学の基礎基本が本当に良く理解できていれば、薬学に現れる数学は簡単だとわかるはずですよ。

〔学生へのフィードバック〕

授業中に可能な限り演習問題を試みてもらい、その解説を行うことでフィードバックとしたい。

〔教員からの一言〕

試験前に公式を覚えて計算さえできればよい、例題の真似ができればよい、答え合わせがよい、そういう風潮が日本全体を覆うようになりました。でも、それはほとんど間違いです。それは学問ではありません。そういう空気に浸り続けて、それが当たり前だと思ってしまうと、ある程度高度な数学を学ぶのは著しく困難になります。それどころか、濃度計算のようなごく基本的な計算まで上手にできなくなります。計算のとても下手な理科系学生が目立ちますが、それも答え合わせができればいいんだ、という態度に原因があるような気がしてなりません。このような態度の行き着く先は、三角関数が何なのか説明できない、定義すらわかっていないのに、 $\sin x$ の微分は？ と聞かれたら $\cos x$ と答えられればいいというような、表層的な試験対策、というか試験の結果のみにしか価値を認めない歪んだ勉学の姿です。今、日本でこのような光景を見かけない日はほとんどなくなりました。数学が好きな人・得意人には、この授業は（偏微分以外は高校数学の復習なので）易し過ぎて面白くないと思いますが、そういう人は後期の選択科目数学Ⅱを取ってください。

基礎情報学

Essential Information Science

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

土橋 朗、倉田 香織

学習目標 (GIO) 情報とは何かを理解し、情報を管理・活用するため、コンピュータを使いこなす能力 (コンピュータリテラシー) とインターネットを使いこなす能力 (インターネットリテラシー) を理解する。さらにネット社会の成立と社会の情報化がもたらす社会システムの変化および個人の活動への影響を理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	情報化社会におけるリテラシーの必要性を社会的背景をふまえて説明できる。	X-2-1-1
2	PC の 5 大装置の総称とその役割を説明できる。	X-8-1-1
3	コンピュータの取り扱い文字と文字の符号化を説明できる。	X-8-1-3
4	インターネットや LAN などのネットワークを構成する機器およびサーバの名称とその役割を説明できる。	X-8-1-4 ~ 5
5	代表的な TCP/IP プロトコルの名称を列挙し、そのプロトコルが提供するインターネットサービスを説明できる。	X-8-1-4
6	検索エンジンのしくみとその利用法を説明できる。	X-8-1-7
7	情報の収集と活用を目的としたデータベースの利用法を説明できる。	X-8-1-8
8	関係データベースにおける SQL の基本的な記述法を説明できる。	X-8-2-5
9	研究論文、ビジネス文書および電子メールの構成要素を説明できる。	X-8-1-6, X-9-2-1 ~ 2
10	医療情報の標準化に関わるコード体系および情報交換プロトコルの名称と特徴を説明できる。	X-8-1-3, X-8-3-5
11	代表的な構造化文書の名称と特徴を説明できる。	X-8-1-3
12	情報化社会における暗号による秘匿と認証の必要性を説明できる。	X-8-3-1
13	共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違いとその特徴を説明できる。	X-8-3-4
14	知的財産権を分類し、特許権および著作権を説明できる。	X-8-3-4
15	デジタル情報の特徴とその著作権に関わる問題点を説明できる。	X-8-3-4
16	人と機械を関係づけるインターフェースの特徴を理解し、アフォーダンスとは何かを説明できる。	X-8-1-2
17	人が犯す誤りを分類し、その特徴を説明できる。	T-1
18	情報の視覚化と化学構造の表現法の関連を説明できる。	X-8-2-3 ~ 4
19	情報のデジタル化がもたらす社会および個人への影響を説明できる。	X-8-3-6 ~ 8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	土橋	情報の概念	1
2	土橋	PC のしくみと特徴	2
3	土橋	コンピュータにおけるデータ表現と文字コード	3
4	土橋	インターネットのしくみと特徴	4、5
5	土橋	インターネットにおける情報検索	6
6	土橋	情報化社会と法律	14、15
7	倉田	情報検索とデータベース	7、8
8	倉田	PC による文書作成	9
9	倉田	医療情報の標準化と構造化文書	10、11
10	倉田	情報化社会における認証と秘匿	12、13
11	土橋	情報デザインとユーザビリティ	16、17
12	土橋	情報の可視化と化学構造型	18
13	土橋	情報化社会で得るものと失うもの	19

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1) 講義中に授業内容に関連する質問事項 (「講義での話題について教えてください」) を用意し、講義後に WebClass に解答してもらう。

2) 講義を振り返るための質問事項(「講義への理解度を確認しましょう」)を WebClass に準備し、講義後に解答してもらい、理解度を確認する。1)と2)の質問事項への解答結果は適宜、集計し、講義の振り返りに用いる。

3) 各講義回で授業内容に関連する単位課題(「講義後に、改めて考えてみましょう」)を用意し、適宜、2編ほどを講義後に WebClass にレポートとして提出してもらう。

4) 各講義回には演習問題を用意し、復習に役立ててもらう。

5) WebClass に会議室を設け、授業内容に関連する質問を受けつけ、解答する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

基礎情報学の講義用に教科書「医療情報リテラシー」を編纂し、各章ごとに要点をまとめた PowerPoint マテリアルで講義を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：各講義回で、講義中に授業内容に関連する質問事項(「講義での話題について教えてください」)および講義終了後に講義を振り返るための質問事項(「講義への理解度を確認しましょう」)を用意し、講義後に WebClass に解答してもらう。提出は必須事項とする。

2) 総括的評価

a) 知識：単位認定課題(レポート)提出(10%)、定期試験の成績(70%)

b) パフォーマンス：WebClass に準備された振り返り学習(ループリック)に対する参加(20%)

a) および b) を加算して総合的に評価する。なお、出席不良者(1/3 以上の欠席者)に対しては受験停止の措置を講ずる場合がある。

〔教科書〕

医療情報リテラシー 講義編

(土橋 朗編 著者 土橋 朗/小杉義幸/佐藤弘人/倉田香織、政光プリプラン)

〔参考書〕

医療情報 情報処理技術編/医学医療編/医療情報システム編(日本医療情報学会編)

IT Text 情報リテラシー(オーム社)

〔オフィスアワー〕

特に設定しませんが、前もってメールにて予約をしてください。

〔所属教室〕

土橋 朗 情報教育研究センター DR 棟 4 階 センター長室

倉田 香織 情報教育研究センター DR 棟 4 階 センター教員室

〔準備学習(予習・復習等)〕

予習：各講義回の教科書を読んてくること。

復習：各講義回後に WebClass に掲載した質問事項(「講義での話題について教えてください」と「講義への理解度を確認しましょう」)に解答して講義内容を振り返ること、「講義後に、改めて考えてみましょう」に掲げた質問事項を考えてみる。このうち、全講義の中から 2 編をレポートとして WebClass に提出すること。演習問題に答えること。

〔学生へのフィードバック〕

1) 講義中の授業内容に関連する質問事項(「講義での話題について教えてください」)への解答や講義を振り返るための質問事項(「講義への理解度を確認しましょう」)への解答を適宜、集計し、講義の振り返りに用いる。

2) WebClass に会議室を設け、授業内容に関連する質問を受けつけ、解答する。

〔教員からの一言〕

WebClass の会議室は開講期間中いつでも開いています。直接的な会議室への質問を歓迎します。

基礎情報学演習 I

Essential Information Science Practice I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

倉田 香織 (A、C、E、G)

佐藤 弘人 (B、D、F、H)

山田 寛尚 (E)

学 習 目 標 薬学を学ぶ上で基礎となる情報の収集・評価・加工・提供・管理に必要なデータや情報を有効活用できるよ
(GIO) うになるために、情報の授受に効果的なコンピュータやインターネットの利用法に関する基本的知識・技
能・態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	ビジネス文書やレポートなど、文書に定められた一般的なルールを説明できる。(知識)	X-9-2-1~2
2	OSの機能を活用して、電子ファイルの作成および管理ができる。(技能)	X-8-1-3, X-8-3-3
3	ネットワークを活用して、情報の受信・発信ができる。(技能)	X-8-1-7~8
4	ネットワーク利用におけるルール・マナーを遵守する。(態度)	X-8-1-6, X-8-3-2
5	信頼性の高いホームページで公開されている情報を収集できる。(技能)	X-8-1-8
6	ワープロソフト (MS Word) を用いて、レポートを作成することができる。(技能)	X-8-2-2
7	プレゼンテーションソフトウェア (MS PowerPoint) を用いて、ポスターやプレゼンテーションスライドを作成することができる。(技能)	X-8-2-2, X-9-3-1~3
8	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、表計算処理を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
9	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、グラフ描画を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
10	表計算ソフトウェア (MS Excel) を用いて、データ管理を行うことができる。(技能)	X-8-2-2
11	化学構造式描画ソフトウェア (ChemBioOffice) を用いて、平面構造式および 3 次元構造式を描画することができる。(技能)	X-8-2-3~4
12	身近な医薬品の情報を調査する際に、質の高い医薬品情報を選択することができる。(技能)	X-8-1-8, X-8-3-5
13	インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)	X-8-1-7, X-8-3-7
14	ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。(態度)	X-8-2-1, X-8-3-8

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (SBOs)
1	佐藤、倉田、山田	ファイル管理	1~4, 14
2	"	医薬品情報の取得	3~5
3	"	Word によるプリントの作成	1, 2, 6
4	"	Word による医薬品情報提供文書の作成	1~6, 12
5	"	Excel による表計算 1 回目	8
6	"	Excel による表計算 2 回目	8
7	"	Excel による関数の利用 1 回目	8
8	"	Excel による関数の利用 2 回目	8
9	"	Excel によるグラフ描画	1, 9
10	"	データベースを用いたデータ管理	10
11	"	調査・実験レポートの作成	1, 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13
12	"	医薬品の平面構造式の描画	1, 11
13	"	医薬品の 3 次元構造式の描画	3, 5, 11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

演習テーマごとに演習課題 (10 回) を提出してもらう。

提出した課題は e-ポートフォリオとして形成的評価および自己評価を行う。

提出された課題の一部は公開する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
入学以前の情報教育で身につけた知識・技能は個人差があるため、TAを教室内に配置し、PCの環境設定や使用ソフトはできるだけ統一している。演習用教材は画面キャプチャ図を多用し、これらはWebClassを介して公開している。確実な技能習得のため、医療関連の素材を活用した演習課題を適宜用意し、提出された課題へのフィードバックを行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：WebClassに提示した演習問題を繰り返し行い、自己評価する。
- b) 技能：示された模範解答例を参考に自己評価する。WebClass、メール等でこまめにフィードバックする。
- c) 態度：課題の作成および提出の際に観察し、WebClass、メール等でフィードバックする

2) 総括的評価

- a) 知識：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- b) 技能：最終提出課題の完成度により評価する。受講態度（10%）、データ処理技能（50%）、文書作成技能（40%）として評価する。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。

〔教科書〕

医療情報リテラシー 演習編

（著者 土橋 朗 / 小杉義幸 / 佐藤弘人 / 倉田香織、政光プリプラン）

〔参考書〕

情報リテラシー 総合編（FOM出版）

〔オフィスアワー〕

全員 特に設定しませんが、できれば前もって電子メール等で予約をしてください。

〔所属教室〕

佐藤 弘人 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2階2206
倉田 香織 情報教育研究センター DR棟4階 センター教員室
山田 寛尚 情報教育研究センター DR棟4階 センター教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業開始前に各自で授業用のノートPCの準備（ソフトウェアのインストールおよびLANへの接続テスト）が必要である。詳細は掲示等を確認すること。
WebClassへ資料を配布するので、よく読んで理解に努めること。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。

〔教員からの一言〕

高校までの「情報」の授業を発展させて、医薬品情報および患者情報を扱うために必要なデータ処理の基礎技術を身につけていただきます。専門の学習はこれからですが、医薬品添付文書や薬用量計算、診療報酬表など、可能な限り専門の学習につながる医療系の題材を選んでいきますので、楽しみにしてください。操作方法等でわからないところは、遠慮せずに質問してください。

〔備考〕

演習テーマによりクラス編成および授業担当者が変更になることがある。

英語（講読）I

English (Reading) I

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

神田 玲子 (1・4) 森本 信子 (2・5) 畑江 里美 (3・6)
田島 樹里奈 (7・10) 大野 真 (8・11) 首藤 理彩子 (9・12)

学習目標 (GIO) 英米人が実際に読んでいる書籍や雑誌を読解するために、科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を学習し、それらの構文や文法を理解する。イントロダクションで様々な辞書の使い分け方と使用方法、精読と速読の相違点を理解した上で、具体的なテキストの読解を行う。精読と速読の訓練を通じて、構文と文法の理解、テープやCDの聞き取り能力、文章の正確な発音、パラグラフの要旨把握能力、必須語彙を習得する。また、テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）についても理解を深め、自らの意見を発表できるように指導する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1-1~2
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1-1~2
4	精読において、テープを聞いた後に、文章の要旨を説明できる。	X-3-3-1~4
5	精読において、文章を正確に発音できる。	X-3-3-1~4
6	速読において、各パラグラフの要旨を説明できる。	X-3-1-1~2
7	英検準1級程度に相応する語彙を習得する。	X-3-2-1~4
8	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について理解する。	X-3-1-1~2
9	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について自らの意見を発表できる。	X-3-1-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、神田、森本、畑江、田島、首藤	前期授業のイントロダクション	1、2
2~13	"	前期テキストの講読	3~9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
課題の提出あるいは小テストを実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を読み、幅広い英語力と共に視野の広い思考力・判断力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

〔成績評価方法〕
1) 形成的評価
a) 知識：演習問題を繰り返し行う。
質問や提出物により、知識の到達レベルを確認している。
2) 総括的評価
a) 知識：定期試験（100%）にて評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕
西村 月満他『英語で学ぶ医療と健康 (Health Care Today)』(朝日出版社)
松本 茂 他『速読速聴・英単語 Core 1900 ver.5』(Z会)

〔参考書〕
リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

〔オフィスアワー〕
大野・森本 いつでも可。 但し、要予約。 非常勤講師 薬学事務課にて。 薬学部事務にて要予約。

〔所属教室〕
大野 真 第2英語研究室 教育3号館3階
森本 信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習（予習・復習等）〕

Health Care Today の教科書の Reading の部分を十分に予習してから授業に臨んで下さい。復習として、文章をしっかり音読すると効果的です。

授業ごとに予習と復習を各々 30 分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕

授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい個所を確認している。

英語 (コミュニケーション) I

English(Communication) I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

増田 由佳 (9・12) Sebastian Brooke (1・4) Donna McInnis (2・5・7・10)

Richard Shooltz (8・11) John Karoukis (3・6)

学習目標 Learning objectives:

(GIO)

By the end of the course (I & II), students will have acquired basic skills needed for communication in a variety of casual, day-to-day situations at false-beginner to pre-intermediate levels or at a level substantially higher than before (This is a mixed ability course).

The course focuses on the four language skills, namely listening, speaking, reading, and writing, and some of their subskills. Additionally an adequate amount of attention will be divided for vocabulary, grammar, study skills, and cultural awareness.

Regarding cultural awareness, the aim is NOT for students to 'reform' their conformity to own culture-specific social norms. The desired future outcome is to be aware and accept cultural diversity in order to function as an effective and responsible member of today's multicultural society, a member who can express or face constructive criticisms and act on them.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Learning practices: Listening skills: being aware of sentence stress patterns (e.g., 「ワットタイムイジルナ」 rather than 「ワットタイムイズイットナウ」); being aware of liaison (see the previous example), being aware of regional variations, listening speed	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1, X-3-3-3
2	Speaking skills: being able to recognize basic skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation); being able to maintain casual conversations for 10-15 minutes or longer; being able to describe past events	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3
3	Reading skills: reading fluency; establish habits of extensive reading for entertainment purposes; acquire knowledge about subskills such as skimming for general information and scanning for specific information	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7
4	Writing skills: being able to effectively express themselves in short essays (approximately 150 - 200 words or longer as a goal) on everyday topics; can format coursework for submission (clearly titled, spacing, use of staples, word count, etc.)	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-3, X-9-2-2
5	Vocabulary: knowledge and skills of vocabulary provided by the coursebook, incidentally during lessons and through extensive reading tasks; fluency in input and output; knowledge about vocabulary acquisition and its importance in language learning; being aware of own vocabulary profile	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1, X-3-3-3, X-9-2-2
6	Grammar: acquire automatic syntactic processing with realistic levels of accuracy through language use, rather than conscious and effortful adherence to prescriptive grammar through language analysis	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1, X-3-3-3, X-9-2-2
7	Study skills for effective language learning, with focus on vocabulary expansion and fluency improvement	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7, X-9-2-2
8	Cultural awareness: Being aware of cultural differences, being able to appreciate their own cultural inheritance as well as other peoples'; learning to agree to disagree	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	全担当者	Taught contents: - The assessment system is clearly explained, demonstrated so students understand it and can confidently plan their coursework accordingly - Students get to know each other through pair/group work (Unit 0) - Study skills (Unit 0) - A visit to the library to begin extensive reading on the spot	1 - 3, 7

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2-13	全担当者	<ul style="list-style-type: none"> - Skill-based classroom activities provided by the course-book/teacher (Unit 1 and onwards) - Planned/impromptu ad-hoc mini lessons focused on study skills and individual weaknesses - Task-based listening activities, including but not limited to listening for understanding and shadowing (Unit 1 and onwards) - Speaking activities, provided and assessed weekly - Extensive reading using graded readers in the library and closely monitored by the teacher - Speed reading - Essay writing ('My Story' at the end of each unit) with increasing minimum number of words, must be handwritten and well formatted - Unit tests (approximately 2 units or more will be covered per Semester) 	1-8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

Promotion of active learning:

Students will acquire the target language through classroom activities which simulate real-life communication as closely and realistically as possible; they will be frequently communicating in pairs or small groups in order to maximize communication channels and practice time using the target language, while use of L1 is permitted in checking understanding of the classroom instructions.

These activities in and outside of classes are guided by the communicative approach and are designed to

1. maximize students' language input and output and to
2. allow students to acquire English skills by actually using English in order to achieve communicative goals, based on intrinsic motivation wherever possible, rather than by practising purely for the purpose of practising ('because the teacher told us to').

To effectively achieve the above goals, lecturing ABOUT the language and/or teacher talking time (TTT) will be effectively controlled.

Students are consistently encouraged to participate and take initiative in improving class management, again contributing intrinsic motivation.

Overall, this course is designed to be communicative, student-centred and skill- and task-based, which is understood to be an ideal form of active learning in language classroom.

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

Emphasis on skills development:

- This course is designed using knowledge gained from research literature, e.g. the four strand strategy (Nation & Macalister, 2010) and adopts eclectic approach in order to maximize its learning effects.
- The course places emphasis on developing the areas of language and skills which students tend to lack, e.g., fluency in language use, approximately pre-intermediate to lower-intermediate levels of vocabulary as shown in research.
- In order to minimize stress and maximize improvements, goals of any learning activities are set at progressively increasing levels of volume and/or difficulty that are challenging but not innachievable.
- Students are assessed mostly by continuous assessment. This means their performance will be assessed and recorded weekly throughout the course. This method is expected not only to closely monitor learning, especially in skills development, but to help place emphasis on fluency development; because frequent assessment compensates for any underachievement at a given time, students tend to speak out more confidently, without excessive worries about committing errors typical in cases of terminal assessment.

〔成績評価方法〕

Cumulative assessment (encourage improvements through assessment)

Assessment criteria: The final criteria will be provided in Week 1 through Student Portal and explained in each class. The below is for your reference.

最終的な評価法については、第1週に学生ポータルで配布し、各クラスで説明します。以下は参考にして下さい。

1. 10% Active participation clearly observable, such as speaking out in class, carefully organised notes, helping out friends, supporting class management, pointing out teacher's spelling errors, etc.

出席しているだけでは得点はありません。積極的な学習態度が明白に認められる時にのみ、得点出来ます。

2. 25% Speaking skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation)*
発話は毎週評価します。概して、発話量が多ければ多いほど上達しやすいうえ、高得点が取れやすくなります。間違いを恐れずどんどんしゃべって下さい。

3. 20% Assignments (essay writing, listening tasks, and other homework)

各ユニットのテーマに沿った作文を含め、主に教科書から出題します。提出物は、様式に留意して下さい。提出切は出欠にかかわらず、特に授業中に指示がない限り、翌週の授業終了時です。

4. 20% Unit tests and other achievement tests (Note - no makeup tests nor final tests)

各ユニットの復習テスト、復習のための小テストなど (再テスト・期末テストはありません)

5. 25% Extensive reading task

図書館で英語で書かれた多読書を借り、多読課題を行います。読了語数で評価します。どんどん読んで評価を上げると同時に力を付けましょう。

Please note there will be no final exams.

期末試験はありません。評価は授業期間内に完結しますので、気を付けてください。

The teacher will walk around the classroom listening in on students' conversations almost every week. Frequently it will not be possible to assess the entire class but because of the number of repetition it

compiles into a volume of data large enough for more statistically fair and accurate than a single, face to face interview.

〔教科書〕

Coursebook: English Firsthand Success / Pearson

〔参考書〕

Other resources:

- Graded readers in Toyaku library (図書館の多読コーナーの図書)
- Dictionary 辞書(二言語もしくは単一言語)

授業中は電子通信機器(スマホ等)の使用は認めません。必ず、電子辞書その他を準備してください。You may NOT use digital communication devices during lessons. Prepare an electronic or paper dictionary. 単一言語辞書(英英辞典)は、必須ではありませんが、使えるようになると良いでしょう。以下にまとめた、比較的初心者用の英英辞典の例などを参考にしてください。

Monolingual dictionary examples:

- Oxford Essential Dictionary, New Edition (2012)
- Longman Active Study Dictionary
- Cambridge Learner's Dictionary

〔オフィスアワー〕

Office hours:

- 増田 由佳

下記以外を希望する場合は必ず午後の時間を東葉メールで予約してください。午前中の突然の来訪は対応できません。

(月) 1:30-4:30PM

ただし6/1~11, 11/30~10のみ(水) 1:30-4:30PM に変更予定

- その他の先生方

薬学事務課もしくは直接担当の先生に予約してください。

Please arrange with your teacher.

〔所属教室〕

増田 由佳 第3英語研究室

〔準備学習(予習・復習等)〕

Coursework outside of class:

復習を中心に、以下を「短時間でも」「出来るだけ毎日」こなすことが重要です。

【聞く力を伸ばす】教科書音声を利用して

- 課題を解く
- スマホなどに入れてバスの待ち時間等に、暗唱できるくらい何度も聞く
- シャドウイングする(授業で方法を指示)

【話す力を伸ばす】

- 毎週の発話で友達と話したい「話題」をまとめたり、英語の語句を調べたりしておく。
- 「話したい内容に焦点を当てる」ことに高い効果が期待されます。

実際の会話では話が中断することが普通です。「完璧な英訳をして暗記しておく」必要はありません。

【読む力を伸ばす】

- 毎週1冊程度を目標に、習慣的な多読を行う。
- 速読を練習する。

多読は、過去の研究で学習効果がとても高いことがわかっています。そのため、薬学部では2017年から多読を積極的に学習に取り入れています。

【書く力を伸ばす】

- 授業で指示する作文その他の課題を着実にこなす。
- まずは、文法の正確さより書く速さと語数を伸ばし、表現力を身に付けましょう。

〔学生へのフィードバック〕

Class feedback:

Class will receive mini lessons focused on individual weaknesses observed during lessons and/or through assignments outside of lessons.

They will also receive mid-semester feedback on their achievement where applicable.

〔教員からの一言〕

A message from the course designer:

Hi. Mastering a language, even your own, is a feat requiring an enormous time and effort. Find a way to enjoy what you do. It will make learning both effective and enjoyable.

(言語を習得することは、自分の母語でさえ、膨大な時間と努力を要する偉業です。勉強を楽しむ方法を見つけてください。学習効果も上がり、楽しみも増えます。)

英語（講読）II

English (Reading) II

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

神田 玲子（1・4） 森本 信子（2・5） 畑江 里美（3・6）

田島 樹里奈（7・10） 大野 真（8・11） 首藤 理彩子（9・12）

学習目標 (GIO) 英米人が実際に読んでいる書籍や雑誌を読解するために、科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を学習し、それらの構文や文法を理解する。イントロダクションで様々な辞書の使い分け方と使用方法、精読と速読の相違点を理解した上で、具体的なテキストの読解を行う。精読と速読の訓練を通じて、構文と文法の理解、テープやCDの聞き取り能力、文章の正確な発音、パラグラフの要旨把握能力、必須語彙を習得する。また、テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）についても理解を深め、自らの意見を発表できるように指導する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	精読と速読の相違点を理解する。	X-3-1-1~2
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1-1~2
4	精読において、テープを聞いた後に、文章の要旨を説明できる。	X-3-3-1~4
5	精読において、文章を正確に発音できる。	X-3-3-1~4
6	速読において、各パラグラフの要旨を説明できる。	X-3-1-1~2
7	英検準1級程度に相応する語彙を習得する。	X-3-2-1~4
8	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について理解する。	X-3-1-1~2
9	テキストの内容面（科学や医療、時事問題など）について自らの意見を発表できる。	X-3-1-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、神田、森本、畑江、田島、首藤	後期授業のイントロダクション	1、2
2~13	"	後期テキストの講読	3~9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
課題の提出あるいは小テストを実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
科学や医療、時事問題など様々な話題の英文を読み、幅広い英語力と共に視野の広い思考力・判断力を養えるように共通テキストを選定している。速読と精読の両方を訓練する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を繰り返し行う。質問や提出物により、知識の到達レベルを確認している。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験（90%）、TOEIC（10%）を総合的に評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

西村 月満他『英語で学ぶ医療と健康 (Health Care Today)』(朝日出版社)

松本 茂 他『速読速聴・英単語 Core 1900 ver.5』(Z会)

〔参考書〕

リーダーズ英和辞典(松田編 研究社)

〔オフィスアワー〕

大野・森本 いつでも可。 但し、要予約。 非常勤講師 薬学事務課にて。 薬学事務課にて要予約。

〔所属教室〕

大野 真 第2英語研究室 教育3号館3階

森本 信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習(予習・復習等)〕

Helath Care Today の教科書の Reading の部分を十分に予習してから授業に臨んで下さい。復習として、文章をしっかり音読すると効果的です。

授業ごとに予習と復習を各々 30 分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕

授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい個所を確認している。

英語 (コミュニケーション) II

English(Communication) II

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

増田 由佳 (9・12) Sebastian Brooke (1・4) Donna McInnis (2・5・7・10)

Richard Shooltz (8・11) John Karoukis (3・6)

学習目標 Learning objectives:

(GIO)

By the end of the course (I & II), students will have acquired basic skills needed for communication in a variety of casual, day-to-day situations at false-beginner to pre-intermediate levels or at a level substantially higher than before (This is a mixed ability course).

The course focuses on the four language skills, namely listening, speaking, reading, and writing, and some of their subskills. Additionally an adequate amount of attention will be divided for vocabulary, grammar, study skills, and cultural awareness.

Regarding cultural awareness, the aim is NOT for students to 'reform' their conformity to own culture-specific social norms. The desired future outcome is to be aware and accept cultural diversity in order to function as an effective and responsible member of today's multicultural society, a member who can express or face constructive criticisms and act on them.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Learning practices: Listening skills: being aware of sentence stress patterns (e.g., 「ワットタイムイジルナ」 rather than 「ワットタイムイズイットナウ」); being aware of liaison (see the previous example), being aware of regional variations, listening speed	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1, X-3-3-3
2	Speaking skills: being able to recognize basic skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation); being able to maintain casual conversations for 10-15 minutes or longer; being able to describe past events	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3
3	Reading skills: reading fluency; establish habits of extensive reading for entertainment purposes; knowledge about subskills such as skimming for general information and scanning for specific information	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7
4	Writing skills: being able to effectively express themselves in short essays (approximately 300 - 400 words or longer as a goal) on everyday topics; being able to format such coursework for submission (clearly titled, appropriate spacing, use of staples, word count, etc.)	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-3, X-9-2-2
5	Vocabulary: knowledge and skills of vocabulary provided by the coursebook, incidentally during lessons and through extensive reading tasks; fluency in input and output; knowledge about vocabulary acquisition and its importance in language learning; being aware of own vocabulary profile	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1, X-3-3-3, X-9-2-2
6	Grammar: acquire automatic syntactic processing with realistic levels of accuracy through language use, rather than conscious and effortful adherence to prescriptive grammar through language analysis	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1, X-3-3-3, X-9-2-2
7	Study skills for effective language learning, with focus on vocabulary expansion and fluency development, applicable during and after the course	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7, X-9-2-2
8	Cultural awareness: Being aware of cultural differences, being able to appreciate own cultural inheritance as well as other peoples'; learning to agree to disagree	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-3, X-8-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	全担当者	Taught contents: - The assessment system may be reviewed and made sure students understood it thoroughly and can confidently plan their coursework accordingly	7

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-11	全担当者	<ul style="list-style-type: none"> - Skill-based classroom activities provided by the course-book/teacher (Unit 1 and onwards) - Planned/impromptu ad-hoc mini lessons focused on study skills and individual weaknesses - Task-based listening activities, including but not limited to listening for understanding and shadowing (current unit onwards) - Speaking activities, provided and assessed weekly - Extensive reading using graded readers in the library and closely monitored by the teacher - Speed reading - Essay writing ('My Story' at the end of each unit) with increasing minimum number of words, must be handwritten and well formatted - Unit tests (approximately 2 units or more will be covered per Semester) 	1-8
12-13	全担当者	Continue with 2-11, or do the below optional task Optional task: <ul style="list-style-type: none"> - Students watch a film in English (no subtitles) and work on tasks in groups 	1-8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

Promotion of active learning:

Students will acquire the target language through classroom activities which simulate real-life communication as closely and realistically as possible; they will be frequently communicating in pairs or small groups in order to maximize communication channels and practice time using the target language, while use of L1 is permitted in checking understanding of the classroom instructions.

These activities in and outside of classes are guided by the communicative approach and are designed to

1. maximize students' language input and output and to
2. allow students to acquire English skills by actually using English in order to achieve communicative goals, based on intrinsic motivation wherever possible, rather than by practising purely for the purpose of practising ('because the teacher told us to').

To effectively achieve the above goals, lecturing ABOUT the language and/or teacher talking time (TTT) will be effectively controlled.

Students are consistently encouraged to participate and take initiative in improving class management, again contributing intrinsic motivation.

Overall, this course is designed to be communicative, student-centred and skill- and task-based, which is understood to be an ideal form of active learning in language classroom.

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

Emphasis on skills development:

- This course is designed using knowledge gained from research literature, e.g. the four strand strategy (Nation & Macalister, 2010) and adopts eclectic approach in order to maximize its learning effects.

- The course places emphasis on developing the areas of language and skills which students tend to lack, e.g., fluency in language use, approximately pre-intermediate to lower-intermediate levels of vocabulary as shown in research.

- In order to minimize stress and maximize improvements, goals of any learning activities are set at progressively increasing levels of volume and/or difficulty that are challenging but not unachievable.

- Students are assessed mostly by continuous assessment. This means their performance will be assessed and recorded weekly throughout the course. This method is expected not only to closely monitor learning, especially in skills development, but to help place emphasis on fluency development; because frequent assessment compensates for any underachievement at a given time, students tend to speak out more confidently, without excessive worries about committing errors typical in cases of terminal assessment.

〔成績評価方法〕

Cumulative assessment (encourage improvements through assessment)

Assessment criteria: The final criteria will be provided in Week 1 through Student Portal and explained in each class. The below is for your reference.

最終的な評価法については、第1週に学生ポータルで配布し、各クラスで説明します。以下は参考にしてください。

1. 10% Active participation clearly observable, such as speaking out in class, carefully organised notes, helping out friends, supporting class management, pointing out teacher's spelling errors, etc.

出席しているだけでは得点はありません。積極的な学習態度が明白に認められる時のみ、得点出来ます。

2. 25% Speaking skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation)*

発話は毎週評価します。概して、発話量が多ければ多いほど上達しやすいうえ、高得点が取れやすくなります。間違いを恐れずどんどんしゃべって下さい。

3. 20% Assignments (essay writing, listening tasks, and other homework)

各ユニットのテーマに沿った作文を含め、主に教科書から出題します。提出物は、様式に留意して下さい。提出切は出欠にかかわらず、特に授業中に指示がない限り、翌週の授業終了時です。

4. 20% Unit tests and other achievement tests (Note - no makeup tests nor final tests)

各ユニットの復習テスト、復習のための小テストなど (再テスト・期末テストはありません)

5. 25% Extensive reading task

図書館で英語で書かれた多読書を借り、多読課題を行います。読了語数で評価します。どんどん読んで評価を上げると同時に力を付けましょう。

Please note there will be no final exams.

期末試験はありません。評価は授業期間内に完結しますので、気を付けてください。

The teacher will walk around the classroom listening in on students' conversations almost every week. Frequently it will not be possible to assess the entire class but because of the number of repetition it compiles into a volume of data large enough for more statistically fair and accurate than a single, face to face interview.

〔教科書〕

English Firsthand Success / Pearson

〔参考書〕

Other resources:

・ Graded readers in Toyaku library (図書館の多読コーナーの図書)

・ Dictionary 辞書 (二言語もしくは単一言語)

授業中は電子通信機器 (スマホ等) の使用は認めません。必ず、電子辞書その他を準備してください。

You may NOT use digital communication devices during lessons. Prepare an electronic or paper dictionary.

単一言語辞書 (英英辞典) は、必須ではありませんが、使えるようになると良いでしょう。以下にまとめた、比較的 初心者用の英英辞典の例などを参考にしてください。

Monolingual dictionary examples:

- Oxford Essential Dictionary, New Edition (2012)

- Longman Active Study Dictionary

- Cambridge Learner's Dictionary

〔オフィスアワー〕

Office hours:

・ 増田 由佳

下記以外を希望する場合は必ず午後の時間を東薬メールで予約してください。午前中の突然の来訪は対応できません。

(月) 1:30-4:30PM

ただし 6/1 ~ 11, 11/30 ~ 10 のみ (水) 1:30-4:30PM に変更予定

・ その他の先生方

薬学事務課もしくは直接担当の先生に予約してください。

Please arrange with your teacher.

〔所属教室〕

増田 由佳 第3 英語研究室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

Coursework outside of class:

復習を中心に、以下を「短時間でも」「出来るだけ毎日」こなすことが重要です。

【聞く力を伸ばす】教科書音声を利用して

・ 課題を解く

・ スマホなどに入れてバスの待ち時間等に、暗唱できるくらい何度も聞く

・ シャドウイングする (授業で方法を指示)

【話す力を伸ばす】

・ 毎週の発話で友達と話したい「話題」をまとめたり、英語の語句を調べたりしておく。

「話したい内容に焦点を当てる」ことに高い効果が期待されます。

実際の会話では話が中断することが普通です。「完璧な英訳をして暗記しておく」必要はありません。

【読む力を伸ばす】

・ 毎週 1 冊程度を目標に、習慣的な多読を行う。

・ 速読を練習する。

多読は、過去の研究で学習効果がとても高いことがわかっています。そのため、薬学部では 2017 年から多読を積極的に学習に取り入れています。

【書く力を伸ばす】

・ 授業で指示する作文その他の課題を着実にこなす。

まずは、文法の正確さより書く速さと語数を伸ばし、表現力を身に付けましょう。

〔学生へのフィードバック〕

Class feedback:

Class will receive mini lessons focused on individual weaknesses observed during lessons and/or through assignments outside of lessons.

They will also receive mid-semester feedback on their achievement where applicable.

〔教員からの一言〕

A message from the course designer:

Hi. Mastering a language, even your own, is a feat requiring an enormous time and effort. Find a way to enjoy what you do. It will make learning both effective and enjoyable.

(言語を習得することは、自分の母語でさえ、膨大な時間と努力を要する偉業です。勉強を楽しむ方法を見つけてください。学習効果も上がり、楽しみも増えます。)

人間と薬学 I

Human Life and Pharmacy I

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

運営：益山光一、杉浦宗敏、北垣邦彦、櫻井浩子、山田安彦、柴崎浩美、下枝貞彦、

杉山健太郎、竹内裕紀、三浦典子、柳田顕郎、山田純司、恩田健二、中南秀将、谷口敦彦、吉江幹浩、吉田君成、石橋健一、藤田恭子、伊集院良祐、大沼友和、岸本久直、恒岡弥生、藤野智史、丸ノ内徹郎、輪島文明

講師：平塚明（本学学長） 三巻祥浩（本学薬学部長） 嶋根卓也（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所） 坂口眞弓（(株)ファーマスティ みどり薬局） 増田純一（国立国際医療研究センター病院） 杉山和夫（行徳総合病院） 増山ゆかり（財団法人いしずえサリドマイド福祉センター常務理事） 孫尚孝（株式会社ファーマシィ） 神保雄一（日野市立病院） 村山一茂（独立行政法人医薬品医療機器総合機構） 山口育子（認定 NPO 法人ささえあい医療人権センター COML） 遠藤潤一（金城学院大学）

学習目標 (GIO) 皆さんは、医療を担う薬学人として必要な知識や技術を体系的に学んでいく上で、豊かな人間性や広い視野を育てねばなりません。そのためには薬剤師や薬学に対する社会のニーズや期待、また医療人としての薬剤師の活動と責務をよく理解しておく必要があります。本講義では、薬剤師に求められる社会的ニーズと期待、医療スタッフとしての倫理観や薬剤師の役割などについて、学内外の専門家の方々に講義して頂きます。また、我が国の医療制度あるいは医療従事者の社会における活動状況と責務の概略を知り、薬学生としての学習に対するモチベーションを高めるために、卒業生の活躍する病院および薬局を訪問し、その体験に基づくグループ討議を行います。本講義を通じて、広い視野から「薬学」を考える力を養い、共感的な態度、能動的な学習態度を身につけてください。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	A-1-1-3
2	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-4
3	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-5
4	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-1-1-6
5	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-7
6	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	A-1-2-1
7	薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	A-1-2-2
8	健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-6
9	薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7
10	現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-8
11	代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6
12	代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-7
13	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	A-1-4-1
14	薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	A-1-4-2
15	薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	A-1-4-3
16	将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	A-1-4-4
17	倫理の基本的な諸概念を十分理解し、具体場面に関係づけて説明できる。	A-2-1-1
18	倫理の基本的な諸原理とその学説を十分理解し、具体場面に関係づけて説明できる。	A-2-1-2
19	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-4
20	適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	A-3-1-7
21	適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	A-3-1-8
22	他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	A-3-1-9

番号	内容	コアカリとの関連コード
23	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
24	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
25	患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	F-1-1-1
26	地域の保健・福祉を見聞した具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	F-1-1-2
27	ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。(技能)	X-8-2-2
28	著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。	X-8-3-4
29	目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。(技能)	X-9-1-2
30	目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。(技能)	X-9-1-3
31	定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。(知識・技能)	X-9-2-1
32	目的(レポート、論文、説明文書など)に応じて適切な文書を作成できる。(知識・技能)	X-9-2-2
33	課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。(技能)	X-9-3-2
34	効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。(技能・態度)	X-9-3-3
35	質問に対して的確な応答ができる。(技能)	X-9-3-4
36	他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。(知識・態度)	X-9-3-5
37	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-5
38	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3
39	重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-5
40	医療問題の中から倫理的な課題を見出し、解決策を考える態度と判断力を養う。	A-1-2-1, B-1-5-1, X-1-1-1
41	倫理の様々な個人的、社会的な形態について、説明できる。	A-1-1-7, A-2-2-1~3, B-1-4-1
42	人権の倫理的根拠を説明できる。	A-2-1-1, X-1-1-1
43	医療において尊重すべき基本価値を理解し、相互の葛藤を説明できる。	A-2-3-1
44	患者の権利(健康権、医療アクセス権、自己決定権、インフォームド・コンセントなど)の重要性と内容を説明し、尊重できる。	A-2-3-2~3, X-1-1-5
45	薬剤師倫理規定の基礎となる考え方を説明できる。	A-2-2-2, A-2-3-4
46	ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、生命倫理と人権に関する宣言の目的と基本性格について説明できる。	A-2-3-2, A-2-4-1
47	医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	A-1-3-1
48	人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	B-1-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	アドバイザー	SGD(1) 学習・生活等に関するガイダンス	20, 21, 22, 24
2	平塚 三巻 益山	日本の薬学における本学の歴史と教育理念 新薬学生への期待:6年間で学ぶこと これから「人間と薬学」で学ぶこと	13, 14, 15, 16, 23, 24
3	増田	病院薬剤師の役割とこれからの課題	1, 2, 6, 7, 8, 16, 25, 38
4	杉山	医薬品開発の背景と審査について	7, 8, 10, 16, 24, 37, 47
5	坂口	薬剤師の社会的使命	6, 7, 10
6	嶋根	大学生のための薬物乱用防止教育	9, 31, 32
7	増山	薬害被害者の立場から薬剤師に求めること	11, 12, 38, 39, 47, 48
8	神保	地域の医療機関について	1, 7, 16, 25, 26
9	アドバイザー	SGD(2) 早期臨床体験に向けて(事前調査発表)	20, 21, 22, 27, 29, 30, 33, 34, 36
10	別に定める	早期臨床体験 直前説明会	1, 6, 20, 22, 23, 25, 26
11~13	別に定める	早期臨床体験	1, 6, 7, 25, 26
14	アドバイザー	SGD(3) 早期臨床体験を終えて(感想文およびレポートの作成、事後報告発表)	2, 7, 8, 16, 20, 21, 22, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
15	櫻井	(1) イントロダクション 今、医療現場で何が起きているのか	1, 2, 3, 4, 5, 6, 17, 40
16	八王子市・櫻井	(2) 認知症患者と薬剤師 (認知症サポーター養成講座) 90分授業になります。	1, 6, 8, 7, 10, 17, 47
17	孫	(3) 在宅医療と薬剤師	1, 6, 7, 10, 17
18	村山	(4) 治験と倫理的問題	14, 37, 44, 17
19	櫻井	(5) 薬剤師に必要なコミュニケーション	20, 21, 22, 41, 42, 45, 46
20	山口	(6) 患者と薬剤師	2, 6, 47, 48
21	遠藤	発表方法	27, 30, 31, 32, 34

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- 1) 講義をより良く理解し、学生同士の話題を活発にするために、講義のワークシートや資料などを事前に配布している。
- 2) 講義で印象に残ったことなどについて感想文を作成させ、その都度学生自身でルーブリック表による自己評価を実施している。
- 3) 教員 (アドバイザー) と学生による SGD を 3 回実施し、その都度学生自身でルーブリック表による自己評価を実施している。
- 4) 学生が病院、薬局に自ら出向き、早期臨床体験をしている。
- 5) 学生がレポート (ポスター形式) を作成し、アドバイザーグループ単位で発表をさせている。
- 6) リアクションペーパーへのフィードバックを行い、相互学習を展開させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- 1) 人間と薬学ポートフォリオを利用します。学習記録や討論記録などを一元的に保存してください。
- 2) 講義時に講義内容などを書き留めるためメモを配布するので、感想文を書く際に活用してください。
- 3) 講義終了後、感想文を書き、提出してもらいます。
- 4) アドバイザー SGD を早期臨床体験の事前・事後に行います。早期臨床体験の事前調査やフィードバックとして利用します。また、SGD での取組状況については、グループワークやプレゼンテーションの向上に向けて、ルーブリック表により自己チェックを行います。
- 5) 早期臨床体験のプロダクトとして、感想文とレポート (ポスター形式) を作成します。これらを体験学習の客観的な見直しや自分以外の人の意見交換に役立ててもらいます。
- 6) 基礎情報学演習で学習した技術を実践してください。
- 7) PPT とサブノート式資料の併用により、視覚的確認と手作業による学習をすることで習得してもらいます。
- 8) 中間および最終まとめにおいて、テスト形式の自己チェックを行い、自ら習得レベルを確認し総復習しつつ、学習方法を改善するように援助しています。
- 9) 学生が比較的答えやすく、関心をもつべき事項の発問を心がけるなど、講義への参加意識を高める工夫をしています。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 早期臨床体験に関する SGD を行い、細かにフィードバックする。
 - b) 技能: MS Word や PowerPoint を活用する。
 - c) 態度: 受講態度により評価する。SGD を通して細かにフィードバックする。課題提出など、主体的に授業に参加する機会を多く設定する。
 - d) パフォーマンス: プレゼンテーションやコミュニケーション能力を向上されるための工夫として SGD 記録表を作成させる。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 感想文、レポート (ポスター形式) などにより総合的に評価 (40%) する。
 - b) 技能: レポート (ポスター形式) やスライドを作成、提出させる。
 - c) 態度: 受講態度により評価 (60%) する。
 - d) パフォーマンス: リアクションペーパーやポートフォリオを作成、提出させる。

〔教科書〕

人間と薬学ポートフォリオ
研究発表のための情報デザイン入門—スライドとポスターを効果的につくる (遠藤潤一・齋藤芳子著 株式会社中部日本教育文化会)

〔参考書〕

危険ドラッグ問題の表と裏 (北垣邦彦、嶋根卓也、益山光一他著 薬事日報社)
スタンダード薬学シリーズII 第1巻薬学総論
薬学生のための医療倫理 (松島哲久・盛永審一郎編 丸善出版)
目覚めよ、薬剤師たち! (鶴時靖夫 IN 通信社)

〔オフィスアワー〕

各アドバイザーおよび講師が別に定める。

〔所属教室〕

代表者のみを記載する。

益山光一 薬事関係法規研究室 教育3号館1階3102-2
杉浦宗敏 医薬品安全管理学教室 医療薬学研究棟3階M304号室
北垣邦彦 社会薬学研究室 教育3号館1階3102-3
櫻井浩子 生命・医療倫理学研究室 教育3号館1階3102-1

〔準備学習（予習・復習等）〕

【時間割】第1回から7回の全クラス合同講義（月曜日）は、3401教室で行います。ワークシートで翌週の講義の予習をして、講師に質問したいことなども準備してください。講義後に感想文を書いて提出します。感想文の作成後、ループリック表により自己評価を行ってください。考えていること・感じていることを適確に表現する学習となります。

第15回から20回の医療倫理基礎では、医療の身近な話題について知識を深め、さらに薬学生として、あるいは薬剤師として何をなすべきかについて考えます。

〔学生へのフィードバック〕

早期臨床体験で経験した内容について、SGDで発表するとともに、各アドバイザーよりSGDでの発表やディスカッションについて総括・講評を行います。

〔教員からの一言〕

講義は受動的に聴いているだけでは自分の知識になりません。問題意識を持って受講し疑問点や不明なことは調べたり、質問をしてわかることを増やしていきましょう。SGDでは仲間やアドバイザーとのコミュニケーションを通して積極的に自己表現して自分らしさを磨き、将来の可能性への扉を開いていくことを期待します。

〔備考〕

実務家教員担当科目

人間と薬学 II

Human Life and Pharmacy II

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

益山 光一 成井 浩二 櫻井 浩子 北垣 邦彦 三浦 典子 平田 尚人 輪島 丈明 富澤
 明子 喜熨斗 智也 曾根 悦子 原 貴大
 津波古 憲 井上 由美 沼田 幸恵 清水 綾乃 森屋 知加子 平久 奈美
 西田 みどり 本橋 勝 小原 道子 高田 勝利

学習目標 (GIO) 薬剤師は乳幼児から高齢者まで、健康な時も病気になった時も、いつでも、あらゆる人の生活に寄り添う存在です。人間と薬学 II では人間・病者を理解し、信頼される薬剤師になるための基本的態度と人間への共感的態度を体験的に学びます。

病者や同僚との信頼関係をつくる基礎として、基本的な心理・身体的な条件などを学び、人命に関わる最低限の応急処置法、AED の使い方、車いす介助の方法などを習得します。このように多様な演習により、思いやりをもって相手と関わり、相手への受容・共感的な態度を身につけた信頼される薬剤師を目指します。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	救急救命 緊急に必要な手当てができるように、正しい救急法の知識を習得する(知識・態度)	F-1-1-3
2	救急救命 成人・小児に対する標準的な一次救命処置(胸骨圧迫・人工呼吸・AED・窒息の解除)を習得する(態度・技能)	F-1-1-3
3	救急救命 市民に求められる基本的なファーストエイド(止血・固定・搬送法)を習得する(態度・技能)	F-1-1-3
4	救急救命 薬剤師が遭遇することが多い傷病への対処法を理解する(知識・態度・技能)	F-1-1-3
5	救急救命 医療人として救急蘇生法を習得することや、その技術・知識を生かし、地域に貢献する必要性を、述べる(知識・態度)	F-1-1-3
6	介助 車いすに利用者に対し、介助者として声かけや相手の意思確認などにより積極的にコミュニケーションを取ることができる。(技能・態度)	A-1-1-1, A-1-2-1, A-2-3-1, A-3-1-5, A-3-1-7
7	介助 医療人として障がい者、高齢者に対する介助の必要性や、その実施に関する問題点を述べる(知識・技能・態度)	A-1-1-1, A-1-2-1, A-3-1-5
8	<講義>人間の心理と行動の基本について学ぶ(知識)	A-1-1-5, A-3-1-2, X-2-1-1~3, X-2-2-2~3, X-2-3-3, X-2-4-1~3, X-2-5-1~3, X-2-6-1~4
9	<選択>薬剤師業務の多様性及び社会での責務について学ぶ	A-1-1-2, A-1-2-5~6, A-1-2-8, A-1-4-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~3	平田・喜熨斗・曾根・原・津波古・国土館大学防災・救急救助総合研究所	救急蘇生法(1)	1~5
4~6	平田・喜熨斗・曾根・原・津波古・国土館大学防災・救急救助総合研究所	救急蘇生法(2)	1~5
7~9	平田・喜熨斗・曾根・原・津波古・国土館大学防災・救急救助総合研究所	救急蘇生法(3)	1~5
10~11	成井・富澤・井上・沼田・清水・森屋・平久・西田	介助	6, 7
16	高田 勝利	人間の行動と心理について	8
17	本橋 勝	健康とは(総論) 薬剤師が健康に関する役割と重要性	8
18	小原 道子	健康とは(介護) 薬剤師が介護に関する役割と重要性(訪問介護)	8
19~21	益山	色々な薬剤師業務を学ぶ選択授業	9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1) 演習シートを用いた小演習などにより課題発見的思考を身につける。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- 1) 人間と薬学ポートフォリオを利用します。学習記録や討論記録などを一元的に保存して下さい。
- 2) AED や心肺蘇生のトレーナーを用いて救急蘇生法（一次救命処置・ファーストエイド）を習得します。緊急の事態に遭遇した場合に、躊躇せず、積極的に人命救助が出来るようにしておいて下さい。
- 3) 質疑応答が活発に展開するように、演習やディスカッションを取り入れます。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：各授業の前後において講義を行ない、細やかにフィードバックする。
 - b) 技術：車いす・AED を活用する。
 - c) 態度：各授業を通して細やかにフィードバックする。
 - d) パフォーマンス：
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：レポートなど課題提出物による総合的に評価（40%）する。
 - b) 技術：AED・心肺蘇生法やファーストエイド、介助技能を習得する。
 - c) 態度：受講態度により評価（60%）する。
 - d) パフォーマンス：

〔教科書〕

人間と薬学ポートフォリオ

〔参考書〕

ベーシック健康心理学 山蔦圭輔 ナカニシヤ出版 2015

〔オフィスアワー〕

- 櫻井 浩子 いつでも可。ただし、事前にメールで予約をしてください。
生命・医療倫理学研究室 教育3号館1階 3102-1
- 成井 浩二 いつでも可、メールまたは電話で在室を確かめてから来ると無駄足が無くなります。
研究室：ドラッグラショナル（DR）研究開発センター 3階
- 三浦 典子 いつでも可。メールで事前連絡してから来て下さい。
薬学教育推進センター 教育2号館1階 2109室
- 益山 光一 いつでも可。メールで事前連絡してから来て下さい。
薬事関係法規研究室 教育3号館1階 3102-2
- 輪島 文明 いつでも可。メールで事前連絡してから来て下さい。
病原微生物学教室 研究2号館5階
- 平田 尚人 水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要です。
臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟 2階 M206室

〔準備学習（予習・復習等）〕

予習：ポートフォリオの該当箇所を読み、実習の留意点を把握する。
復習：実習レポートを作成し、所定の期日までにコピーを提出する。原版はポートフォリオに保管し、自学習に役立てる。

〔学生へのフィードバック〕

実習の実施状況を確認しつつ、適宜必要なスキルを学生に伝える。

〔教員からの一言〕

実施時期に関する補足：救急救命法と介助の実施時期、日程は別に連絡する。
演習についての決まりごとや時間を厳守することは、医療人教育の基本中の基本です。少なくとも開始5分前には何時でも始められるように心がけること。
演習には協調的・積極的に参加して、感じたことや考えたことを自分のものとし、医療人としての自覚・責任と命への真摯な態度を身につけるように自分を律して臨んでください。

〔備考〕

実務家教員担当科目

物理学

Physics

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

横島 智

学習目標 (GIO) 物理学における自然現象のとらえ方、考え方は、薬学を含め自然科学諸分野の基礎となるものであり、これから学んでいくことになる専門科目を有効に学習するための基礎である。初めに、「運動と力(力学)」を典型例として、自然科学的な考察方法を理解・修得する。そして、薬がはたらくミクロな世界で大事になる「量子力学」について、基本となる法則を理解し、簡単な具体例の取り扱いを学習する。その際、ある程度の数式は補助手段として用いるが、あくまで考え方の理解・修得に力点を置く。
気体の分子運動と温度の関係や電場、磁場、電磁波としての光と電荷との相互作用などにも取り組む。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	物理学の重要性を説明できる。	T-1
2	物理量の基本単位の定義を説明できる。	X-4-1-1
3	SI 単位について説明できる。	X-4-1-2
4	基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。	X-4-1-3
5	物理量として、スカラー量とベクトル量を区別できる。	X-4-1-4
6	有効数字を考慮した計算ができる。	X-7-1-2
7	速度、加速度、時間の関係から、グラフを用いて進んだ距離との関係を説明できる。	X-4-2-1
8	運動の3法則について、説明できる。	X-4-2-1
9	運動の法則について、力、質量、加速度の関係を定量的に説明できる。	X-4-2-1
10	落下運動のモデル化を説明できる。	X-4-2-1~2
11	円運動、単振動を数式を用いて説明できる。	X-4-2-2
12	微小振動の持つ共通性を単振り子や連成振り子を例として説明できる。	X-4-2-2
13	仕事、エネルギー、運動量、角運動量とはどのようなものか例をあげながら説明できる。	X-4-2-3, X-4-3-1
14	保存則について説明できる。	X-4-3-2
15	熱と温度について巨視的に説明できる。	C1-2-1-2~3, X-4-3-2
16	気体についての、ボイル、シャルル、ボイル・シャルルの諸法則について説明できる。	T-1
17	理想気体の状態方程式を使って、圧力、体積、温度の関係を計算できる。	T-1
18	気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	C1-2-1-2~3
19	気体の温度、圧力について微視的に説明できる。	C1-2-1-2~3
20	電荷間に働くクーロンの法則について説明できる。	C1-1-2-2
21	光、音などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。	X-4-4-1
22	波を特徴づける量を理解し、グラフ等から読み取ることができる。	X-4-4-1
23	電荷と電流、電圧、電力、オームの法則などを説明できる。	X-4-6-1
24	抵抗とコンデンサーを含んだ回路の特性を説明できる。	X-4-6-2
25	電場と磁場について説明できる。	X-4-7-1
26	ローレンツ力について説明できる。	X-4-7-2
27	電場、磁場の中の荷電粒子の運動を説明できる。	X-4-7-2
28	光が電磁波であること、およびその性質について説明できる。	X-4-7-1
29	レーザーの性質を概説し、代表的な応用例を列挙できる。	X-4-5-1
30	光の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-2
31	電子の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-3
32	原子のボーアモデルと電子雲モデルの違いについて概説できる。	X-4-8-1
33	水素原子の軌道を説明できる。	X-5-1-3
34	原子の軌道を説明できる。	X-5-1-3
35	原子の電子配置について説明できる。	X-5-1-3
36	分子軌道の基本概念を説明できる。	C1-1-1-2
37	エネルギーの量子化について説明できる。	C1-2-1-3
38	分子軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
39	共役の概念を説明できる。	C1-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	物理学を学ぶ上での注意点と勉強法について、単位、スカラーとベクトル、有効数字	2,3,4,5,6
2	"	物体の運動と運動の3法則、理想気体の状態方程式	7,8,16,17
3	"	運動の3法則と自由落下	8,9
4	"	小テスト1	
5	"	小テスト1の解説、	1
6	"	波の性質、レーザー	21,22,29
7	"	クーロンの法則、電気回路、ミクロな世界の法則	20,23,24,28,30,31,33
8	"	小テスト2	
9	"	落下のモデル化、様々な力	10
10	"	小テスト2の解説 自然科学における物理学の位置づけ	
11	"	放物運動	8,9
12	"	中間試験	
13	"	円運動	11
14	"	単振動、単振り子と連成振り子	11,12
15	"	仕事	13
16	"	エネルギー、運動量、角運動量	13,14
17	"	クーロンの法則、物質と電場の相互作用	20,25,26,27
18	"	物質と磁場の相互作用	25,26,27
19	"	熱と温度、気体の状態方程式	15,16,17
20	"	気体の温度、圧力の微視的説明とエネルギーとの関係	18,19
21	"	光の性質、電子の性質	28,29,30,31
22	"	エネルギーの量子化	32,33,34,37
23	"	原子の軌道	35
24	"	分子軌道の意味、軌道の混成と共役	36,38,39

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

WebClassを使った小テストやクイズにより、授業で学んだ内容がきちんと理解できているかその場で確認する。授業中に全員に質問を出し、クリッカーを使って解答を集計・発表・コメントすることで、授業参加しているという意識をもてる環境を作っていく。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

簡単な実験が可能なものについてはデモおこない、そうでないものについては動画などを使って、物理現象や法則を直感的かつ身近に感じられるようにする。また、薬学と関係した内容を出来る限り取り上げていく。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識:小テストを繰り返しおこなう。

2) 総括的評価

知識:定期試験(76%)に加えて、中間試験(8%)、小テスト(16%)により総合的に評価する。

〔教科書〕

薬学のための物理学（宇野正宏著 愛智出版）

〔参考書〕

より深く学びたいという人には以下の本を薦める。力学については

「物理学序論としての力学（藤原邦男 東京大学出版会）」

「ファインマン物理学Ⅰ力学（ファインマン、レイトン、サンズ 坪井忠二訳 岩波書店）」

が、物理学入門の役割も持つ良書である。ファインマン物理学シリーズは他の巻も良い。特に

「ファインマン物理学Ⅱ光 熱 波動（ファインマン、レイトン、サンズ 富山小太郎訳 岩波書店）」

は本講義の力学以外の多くの範囲が含まれている。量子力学については、やや高度だが

「身につくシュレーディンガー方程式（牟田淳著 技術評論社）」

は段階を踏んで学べる内容になっている。量子化学なら

「量子化学入門(上)、(下)（米沢貞次郎、他著 化学同人）」

が定番の名著だが、難しいかもしれない。

より幅広く物理学の基礎については

「基礎講義 物理学 アクティブラーニングにも対応（井上英史監修、石飛昌光・高須昌子・宮川毅・森河良太著 東京化学同人）」

「第4版 物理学基礎（原康夫著 学術図書出版社）」

などが良いかもしれない。本講義では物理学全般について取り上げるが、特に、物理化学の教科書を独力で読むことが出来るようになることを意識して講義を構成している。その意味では

「アトキンス 物理化学要論 第7版（Peter Atkins・Julio de Paula 著 千原秀昭・稲葉章・鈴木晴訳

東京化学同人)」
を参考書として学ぶと、より効果的である。

〔オフィスアワー〕
いつでも可。

〔所属教室〕
薬学教育推進センター（教育2号館1階2109室）
普段、教育3号館2階の3205室にいます。

〔準備学習（予習・復習等）〕
4号館の教室で授業がおこなわれる場合には、小テストなどでコンピュータを使います。その場合は、必ずコンピュータを持参して下さい。また、授業で使うスライドをWebClassに載せますので、予習、復習のために活用して下さい。

〔学生へのフィードバック〕
小テストを行った後で、解答にあった問題点などを例示しながら解説をおこなう。また、期末試験終了後、フィードバック講義をおこなう。

〔教員からの一言〕
物理はとかく敷居が高いと言われ、実際にそのような側面もありますが、学んだ内容ばかりでなく、学ぼうとするプロセスからも多くのことを得ることができます。先入観をすてて取り組めば、こんなことも薬学と関係しているのかと、新鮮な驚きがあると思います。

化学平衡論

Chemical Equilibrium

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

柳田 顕郎 (E・F、G・H)

小谷 明 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 化学平衡論は化学物質の性質、化学反応、化学組成などにおける量的関係を解析するための基礎理論である。特に、物質の定性、定量を扱う分析化学において不可欠の概念である。ここでは、分析化学に深い種々の化学平衡、特に溶液内化学反応を通して、化学平衡の基礎概念を理解し、それらの量的な解析的取り扱いに習熟することを目標とする。この化学平衡の概念が、分析化学の基本であるばかりでなく、薬学分野における様々な反応、薬剤の溶解と吸収、生体における薬物動態などの理解に重要であることを会得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学ポテンシャルについて説明できる。	C1-2-4-1
2	化学平衡と自由エネルギーの関係を説明できる。	C1-2-4-2
3	活量と活量係数、電解質の活量係数の濃度依存性について説明できる。	C1-2-6-2
4	イオン強度について説明できる。	C1-2-6-4
5	起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。	C1-2-7-1
6	電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	C1-2-7-2
7	水溶液中の種々の反応の平衡定数を列挙できる。	C2-2-1-1, C2-2-2-1~4
8	酸・塩基平衡を説明できる。	C2-2-1-1
9	溶液の pH を計算できる。	C2-2-1-3
10	緩衝作用について具体例をあげて説明できる。	C2-2-1-4
11	錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2-2-2-1
12	沈殿平衡 (溶解度と溶解度積) について説明できる。	C2-2-2-2
13	酸化還元平衡について説明できる。	C2-2-2-3
14	分配平衡について説明できる。	C2-2-2-4
15	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2-3-1-1
16	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
17	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4
18	酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。	X-5-3-5
19	Nernst の式が誘導できる。	Y-3-4-1
20	代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	Y-3-8-1
21	イオン交換平衡について説明できる。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	柳田、小谷	化学平衡論総論、溶液の性質	1, 3, 4, 16
2	"	溶液の性質と化学平衡	2, 3, 7
3	"	酸と塩基	8, 9, 17
4	"	酸塩基平衡	7, 8, 9, 17
5	"	pH 緩衝作用と緩衝液	7, 9, 10, 20
6	"	多塩基酸と両性電解質の電離	7, 9, 10, 20
7	"	沈殿平衡	7, 12
8	"	沈殿平衡	12, 15
9	"	錯体生成反応	7, 11
10	"	錯体・キレート生成平衡	11, 15
11	"	酸化還元電位と化学平衡	5, 6, 7, 18, 19
12	"	酸化還元平衡	7, 13, 18, 19
13	"	分配平衡、イオン交換平衡	14, 21

{アクティブ・ラーニングの取り組み}

柳田： 毎回、オリジナル演習問題を出題し、講義時間内に各自解答させ、解説を加える時間を設けている。

小谷： 毎講義時間の最初の 5 分間に小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

柳田： 講義のねらいや予定、他教科との関連について、講義初回に概説する。講義は毎回、板書とスクリーン投影を併用して行う。容量分析の原理や仕組みを視覚的に理解させながら、計算演習（主に板書）をくり返すことで学習効果を高めている。スクリーンで解説する説明内容は PDF 資料にして前週までに WebClass に掲載し、授業の予習や復習ができるようにしている。

小谷： 初回の授業で、授業内容や小テストの課題の範囲を明示した予定表を配布し、予習と復習に役立てるようにしている。毎講義時間で習熟すべき点を、「本日のキーワード」として明示して目標を明確にしている。デモ実験を行い、反応や呈色変化を直に観察させることで、定性反応などの理解が進むように工夫している。WebClass による課題や質問の提出を通じて、学生の理解が及ばぬ点などをモニターしながら講義の展開を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識： 講義期間中を通じて演習問題や小テストを繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識： 定期試験の結果（90%）に、演習問題や小テストなどを加味して（10%）評価する。

〔教科書〕

薬学生のための分析化学 第 4 版（楠文代 / 渋澤庸一 編集 廣川書店）

なるほど分析化学-数字となかよくする本（楠文代 / 渋澤庸一 編集 廣川書店）

〔参考書〕

薬学生のための分析化学問題集（四宮一総 編集 廣川書店）

第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）

〔オフィスアワー〕

柳田 顕郎： いつでも可

小谷 明： いつでも可

〔所属教室〕

柳田 顕郎： 生体分析化学教室 研究 2 号館 4 階 405

小谷 明： 分析化学教室 研究 2 号館 4 階 406

〔準備学習（予習・復習等）〕

高校化学で学習した内容のうち、特に「溶液の濃度」「酸と塩基」「酸化還元反応」「水溶液中の化学平衡」などの項目を十分に復習し、理解した上で講義に臨んで下さい。授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。

柳田： 授業開始前に WebClass に掲載した資料を予習し、印刷して持参して下さい。さらに授業の板書ノートとあわせて復習して下さい。

小谷： 予定表に記載した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。WebClass に掲載した小テストは予習で内容を理解し、印刷して持参してください。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行なって下さい。

〔学生へのフィードバック〕

柳田： 講義で出題や解説した問題のリスト、およびまとめ事項を WebClass に掲載してフィードバックをしている。

小谷： 小テストの解説を WebClass に掲載してフィードバックをしている。

〔備考〕

出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがある。

無機化学

Inorganic Chemistry

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

袴田 秀樹 (A・B)

古石 裕治 (C・D)

吉田 君成 (E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 物質の物理的性質、化学的性質を理解するために、物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得します。さらに、医薬品を中心に代表的な無機化合物・錯体の構造、性質に関する基本的事項の知識を修得します。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子、分子、イオンの基本的構造について説明できる。	X-5-1-1
2	原子の電子配置について説明できる。	X-5-1-3
3	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
4	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
5	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
6	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	C2-3-1-1
7	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-1-2
8	日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-2-6
9	代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	C3-5-1-1
10	代表的な無機化合物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	C3-5-1-2
11	活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	C3-5-1-3
12	錯体・キレート生成平衡について説明できる。	C2-2-2-1
13	代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を列挙できる。	C3-5-1-4
14	医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	C3-5-1-5
15	活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	C4-1-2-3
16	生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	C4-1-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石、袴田、吉田	原子の構造1：原子の電子配置 (キーワード) 電子殻と原子軌道、量子数、基底状態、構成原理、フントの規則、パウリの排他原理	1, 2
2	"	原子の構造2：原子軌道エネルギー (キーワード) 水素原子とそれ以外の原子、遮蔽、有効核電荷、原子軌道エネルギーの計算、スレーターの規則	1, 2
3	"	原子の構造3：原子の性質と化学結合 (キーワード) 原子半径、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度、イオン結合と共有結合、極性共有結合、結合モーメントと極性モーメント	1~3
4	"	共有結合1：原子価結合法① (キーワード) 原子価、オクテット則、電子対の共有、ルイス構造式とケクレ構造式、結合角、原子価殻電子対反発則	1~4
5	"	共有結合2：原子価結合法② (キーワード) 共有結合により変化する原子の電子配置、軌道の混成、混成軌道の種類・エネルギー準位・電子配置	1~4
6	"	共有結合3：原子価結合法③ (キーワード) 単結合と多重結合、 σ 結合と π 結合、価電子の配置と形式電荷	1~4
7	"	共有結合4：原子価結合法④ (キーワード) π 電子が非局在化する条件、共鳴式、極限構造式の安定性と共鳴への寄与、共鳴混成体	1~5
8	"	共有結合5：分子軌道法 (キーワード) 二原子分子の分子軌道、結合性軌道と反結合性軌道、結合次数、常磁性と反磁性	1~5, 11

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9	"	共有結合のまとめ・元素の一般的性質への導入 (キーワード)原子価結合法、原子価殻電子対反発則、オクテット則、混成軌道、 σ 結合、 π 結合、電気陰性度、イオン化エネルギー、電子親和力、	1~5
10	"	典型元素の性質1:第14・15族元素 (キーワード)単体、水素化物、酸化物、連続する π 結合、オキソ酸、酸性雨、超原子価結合、共鳴、塩基、核酸の構造	1, 2, 5~11
11	"	典型元素の性質2:第16族元素 (キーワード)単体、水素化物、酸化物、オキソ酸、酸性雨、超原子価結合、共鳴、酸化還元、重金属の硫化物	1, 2, 5~11
12	"	典型元素の性質3:活性酸素の種類と生体への影響 (キーワード)活性酸素、分子軌道法、電子配置、結合次数、磁性、生体内での酸化還元	1, 2, 5~11, 15, 16
13	"	典型元素の性質4:第17族元素 (キーワード)単体、水素化物、酸化物、オキソ酸、超原子価結合、共鳴、酸化還元	1, 2, 5~10
14	"	金属錯体1:立体構造と配位結合 (キーワード)中心金属の酸化数と配位数の関係、配位数と立体構造の関係、イオン結合性と共有結合性	1~5, 12, 13
15	"	金属錯体2:医薬品としての金属錯体 (キーワード)臨床での適用、生理活性のメカニズム、生体分子と結合して生じる金属錯体	2~4, 6~8, 12~15
16	"	金属錯体3:遷移金属を含む様々な酵素の触媒作用 (キーワード)遷移金属のはたらき、電子のやりとりによる酸化還元、エステルやペプチドの加水分解、酸素の運搬	2~5, 12~16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

無機化学の講義とは別に化学系基礎演習(5月開講予定)とも連携することで、復習と課題演習を行い、学生の積極的な学習を促します。また、WebClassに教科書と一部の参考書の訂正一覧、教科書の章末問題の解答解説、オリジナルの練習問題とその解答解説、テーマ別要点集などを適宜掲載することで学生の自学習と理解を促します。オフィスアワー、学習相談も原則常時受け付けていて、学生の自学習を補佐しています。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

あらかじめ重要なキーワードを提示し、学習目標を明確に学生に伝えます。授業は基本的には板書・書画カメラ映写・パワーポイント等で行い、資料プリントを配布することもあります。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 学生は、講義内で適宜行われるミニテストに解答してその解説を聞くほか、WebClassに適宜掲載される演習問題に取り組んでこれらの解答解説を読むことで、各自がその時点での自分の理解度を把握でき、次の成長につなげることができます。

2) 総括的評価

a) 知識: 中間試験(50%)と前期定期試験(50%)の合計得点により評価します。

〔教科書〕

ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学(青木伸編 化学同人)第1版 第11刷

〔参考書〕

「アトキンス 物理化学要論 第7版(千原秀昭・稲葉章 訳 東京化学同人)」

後期に開講される科目「物理化学I」の指定教科書であり、皆さんは購入してお持ちなので推奨図書の本頭とした。無機化学の内容の多くをカバーしており、本科目の指定教科書に比べて記述も図も豊富である。内容が充実しているために難易度も高くなっているが、やや物理寄りの考え方に触れることがとても良い勉強になるという意味でも、積極的に目を通すことを推奨する。いきなりこれだけを読むのは難しいという場合には、授業の復習や、何かを調べる際に辞書の代わりのようにして用いるのも良い。

「無機化合物・錯体 生物無機化学の基礎 第3版(梶英輔編 廣川書店)」

先代の指定教科書で、WebClassにて用語集、訂正一覧表を公開している。現在の指定教科書よりも図は少ないが、その分だけ記述が充実しており、文章を読むことが苦手な方にはこちらの方が読んで分かりやすい、という学生もいる。難易度が指定教科書と同程度の別の教科書も読んでみたい、という学生に推奨する。

「基本無機化学 第3版(荻野博・飛田博実・岡崎雅明 著 東京化学同人)」

先々代の指定教科書(当時は第2版)で、分子軌道法、金属錯体に加えて化学反応のメカニズムを含む化学全般の基礎理論に関する記述が充実している。難易度は高めだが、化学全般に興味のある学生には一読することを推奨する。

「リー 無機化学(J. D. Lee 著 浜口博・菅野等 訳 東京化学同人)」

ページ数が多い分、記述が充実している。無機化学の勉強に限らず化学全般の学習に利用できる。ボリュームがあるので辞書のように使うと便利かもしれない。難易度は高めだが、化学全般に興味と自信がある学生には、辞書として使用するだけでなく全体を読むことに挑戦して欲しい。

「薬学のための無機化学(桜井弘編 化学同人)」

生体内での反応の記述が充実していて、無機化学を教えつつも、むしろ生物学と化学の基本的なつながりを分かりやすく伝えることの方に重きを置いているようにも感じられる。記述もやさしい傾向にある。高校で生物学を履修しなかった学生が、化学を軸に生物学の学習を始める助けとなる一冊である。

〔オフィスアワー〕

袴田: いつでも可(但し要予約) 分析化学教室 研究2号館4階406

予約の連絡先：hakaman@toyaku.ac.jp

古石：いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109
(学習相談受付時は教育2号館1階2110)

吉田：いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔所属教室〕

袴田 秀樹 分析化学教室 研究2号館4階406

古石 裕治 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

吉田 君成 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔準備学習(予習・復習等)〕

予習：シラバスで講義内容を確認した上で、講義1コマに対して最低でも30分程度は行うことを提案します。高校で学習した『化学基礎』の「物質の構成と化学結合」、『化学』の「無機物質」「有機化合物」の項目が本講義の基礎になります。無機化学講義の予習をする際には、必要に応じて高校の教科書や資料集、参考書などを用いて高校化学をよく復習して下さい。その上で指定教科書に目を通すことを、一つの予習法として推奨します。分からない事がある場合には、疑問点を明らかにした上で講義に臨んで下さい。

復習：講義1コマに対して最低でも30分程度は自学習として行うことを提案します。講義の内容は必ず毎回復習し、自学習だけで限界を感じる場合にはオフィスアワーや学習相談を利用するなどしてあいまいな点、よくわからない点をつぶしていき、理解を深めて下さい。復習は、次回の講義の準備でもあります。積み重ねの学習が最も重要であり、このことは無機化学に限らず、「苦手な科目ほどあてはまる」ということを認識して勉学に励み、充実した学生生活を送って下さい。

〔学生へのフィードバック〕

よくある質問に関しては、周知した方が良いと判断した場合には講義内で説明を行ったり、説明のための追加資料をWebClassに掲載することがあります。

〔教員からの一言〕

講義プリントの配布は最小限にとどめます。これはプリントを配布されただけで安心してしまう学生が最近増えてきていることへの対応ですので、ご理解ください。とはいえ、それでは化学が苦手な学生は不安だと思います。講義プリントの配布が少ないことの代わりに、WebClassでの追加資料掲載などを充実させるほか、オフィスアワー、学習相談にて可能な限り質問を受け付けますので、これらを活用してください。

また、無機化学に関する質問であれば、どの無機化学担当教員に質問していただいても構いません。自分の講義担当者になかなか連絡がとれない、会う時間の調整が難しい、などの場合には遠慮なく他の無機化学担当教員に質問して下さい。

物理化学Ⅰ

Physical Chemistry I

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

青山 洋史

学習目標 (GIO) 物質の存在状態は分子間相互作用に依存する。分子間相互作用を理解するために、分子の双極子モーメントとその分子論的意味、ファンデルワールスの状態方程式、気体の分子運動とエネルギーなどについて学習する。また、物質と電磁波との相互作用および分子の内部エネルギーとの関連についても学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ファンデルワールス力について説明できる。	C1-1-2-1
2	静電相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-2
3	双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-3
4	分散力について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-4
5	水素結合について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-5
6	電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-6
7	疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	C1-1-2-7
8	電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	C1-1-3-1
9	分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。	C1-1-3-2
10	電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。	C1-1-3-3
11	光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	C1-1-3-4
12	光の散乱および干渉について説明できる。	C1-1-3-5
13	結晶構造と回折現象について概説できる。	C1-1-3-6
14	ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	C1-2-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	青山	分子の分極と双極子モーメントについて	2、3
2	"	ファンデルワールス力について	2、3、4
3	"	双極子間相互作用、分散力について	4、5
4	"	水素結合について	5
5	"	電荷移動、疎水性相互作用について	1、6、7
6	"	物質の存在状態と気体分子の運動エネルギーについて	14
7	"	ファンデルワールスの状態方程式について	14
8	"	電磁波の性質および物質との相互作用	8
9	"	分子の振動、回転および電子遷移について	9
10	"	電子や核のスピンとその磁気共鳴について	10
11	"	光の偏光、および旋光性について	11
12	"	光の屈折、散乱、干渉について	11、12、13
13	"	X線結晶の回折現象について	12、13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に空欄を設けた講義資料を WebClass よりダウンロードし、講義中に空欄部分に対応する内容を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- 1) 講義開講日までに web class に講義資料をダウンロードできるようにすることで、受講者が講義の予習を十分に行えるようにしている。
- 2) 講義のはじめに、SBO の対象を示し、当日の講義に集中できるようにしている。
- 3) 講義中に、CBT や国家試験との関連を示し、要点を明確にしている。
- 4) 抜き打ちで小テストを行い、受講者の緊張感を保つようにしている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価

a) 知識:演習問題にて評価する

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験(100%)

評価基準の目安(変動あり)

- ・S(90%以上) :合格
 - ・A(80~90%未満):合格
 - ・B(70~80%未満):合格
 - ・C(60~70%未満):合格
 - ・D(60%未満) :不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

物理化学要論 第7版(アトキンス著、千原秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

〔参考書〕

ポール物理化学 上下巻(D.W.Ball 著、田中一義、阿竹 徹監訳 化学同人)

日本薬学会編 物理系薬学Ⅰ.物質の物理的性質(東京化学同人、スタンダード薬学シリーズ2)

薬学領域の物理化学(渋谷 皓編集、横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

青山 洋史 事前予約をとればいつでも可。

〔所属教室〕

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究1号館3階303

〔準備学習(予習・復習等)〕

Web Class のプリントを講義日までに一度は学習してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義の大項目が終わったタイミングで演習問題を WebClass より配布し、自学習の機会を設ける。

〔教員からの一言〕

大学の物理化学は難しいと決めつけていませんか?

語句や現象の説明が難しく感じた人は高校の化学の教科書や参考書を開いてみましょう。

そこにヒントが書いてあります。

分析化学

Analytical Chemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

東海林 敦 (A・B、C・D)

小谷 明 山本 法央 (E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 試料中に存在する物質の種類および濃度を正確に知るために、代表的な医薬品、その他の化学物質の滴定を含む各種の定量分析法の基本的知識と技能を習得する。化学平衡論で身につけた知識を活用して、化学量論に基づいた化学分析法である各種の容量分析法を習得する。更に、日本薬局方収載医薬品の定量法に基づいて測定した定量値の取り扱いや、分析法のバリデーションなどの基本的知識を習得し、それらを応用する技術を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	酸化還元電位について説明できる。	C1-2-7-2
2	測定値を適切に取り扱うことができる。	C2-1-1-2
3	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
4	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-1-2
5	中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-1
6	キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-2
7	沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-3
8	酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-4
9	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。	C2-3-2-5
10	日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-2-6
11	日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	C2-3-2-7
12	電位差滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	T-1
13	有効数字の概念を説明し、有効数字を含む値の計算ができる。	X-7-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	東海林、小谷	容量分析総論	4, 9, 10, 13
2	"	1) 酸塩基滴定 滴定曲線	5
3	"	酸塩基指示薬とその選択	5
4	"	多価の酸塩基、混合酸塩基	5
5	"	酸塩基滴定各論	5, 9
6	"	非水滴定、電位差滴定	1, 5, 12
7	東海林、山本	2) 沈殿滴定: 沈殿の生成	7
8	"	滴定曲線と指示薬、沈殿滴定各論、重量分析	7, 9, 11
9	"	3) 錯生成滴定: 金属錯体の生成	6
10	"	滴定曲線と金属指示薬、キレート滴定各論	6, 9
11	"	4) 酸化還元滴定: 酸化還元電位、滴定曲線	1, 8
12	"	酸化還元指示薬、酸化還元滴定各論、電位差滴定、ジアゾ化滴定	1, 8, 9, 12
13	東海林、小谷	5) 医薬品分析法のバリデーション	2, 3, 13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

東海林: 毎回、オリジナル演習問題を出題し、講義時間内に各自解答させ、解説を加える時間を設けている。

小谷、山本: 毎講義時間の最初の5分間に小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

東海林: 講義のねらいや予定、他教科との関連について、講義初めに概説する。講義は毎回、板書とスクリーン投影を併用して行う。容量分析の原理や仕組みを視覚的に理解させながら、計算演習(主に板書)をくり返すことで学習効果を高めている。スクリーンで解説する説明内容はPDF資料にして前週までに

WebClassに掲載し、授業の予習や復習ができるようにしている。

小谷、山本： 初回の授業で、授業内容や小テストの課題の範囲を明示した予定表を配布し、予習と復習に役立てるようにしている。毎講義時間で習熟すべき点を、「本日のキーワード」として明示して目標を明確にしている。デモ実験を行い、反応や呈色変化を直に観察させることで、滴定反応などの理解が進むように工夫している。WebClassによる課題や質問の提出を通じて、学生の理解が及ばぬ点などをモニターしながら講義の展開を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識： 講義期間中を通じて演習問題や小テストを繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識： 定期試験の結果（90％）に、演習問題や小テストなどを加味して（10％）評価する。

〔教科書〕

薬学生のための分析化学 第4版（楠文代／渋澤庸一 編集 廣川書店）

薬学生のための分析化学問題集（四宮一総 編集 廣川書店）

〔参考書〕

第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）

なるほど分析化学-数字となかよくする本（楠文代／渋澤庸一 編集 廣川書店）

〔オフィスアワー〕

東海林 敦 いつでも可。

小谷 明 いつでも可。

山本 法央 いつでも可。

〔所属教室〕

東海林 敦： 生体分析化学教室 研究2号館4階405室

小谷 明： 分析化学教室 研究2号館4階406室

山本 法央： 分析化学教室 研究2号館4階406室

〔準備学習（予習・復習等）〕

1年必修科目「化学平衡論」で学習した内容を十分に復習し、理解した上で講義に臨んで下さい。授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。

東海林： 授業開始前にWebClassに掲載した資料を予習し、印刷して持参して下さい。さらに授業の板書ノートとあわせて復習して下さい。

小谷、山本： 予定表に記載した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。WebClassに掲載した小テストは予習で内容を理解し、印刷して持参してください。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行なってください。

〔学生へのフィードバック〕

東海林： 講義で出題や解説した問題のリスト、およびまとめ事項をWebClassに掲載してフィードバックをしている。

小谷、山本： 小テストの解説をWebClassに掲載してフィードバックをしている。

〔備考〕

出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがある。

放射化学

Radiochemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

遠藤 朋宏

学習目標 (GIO) 医薬品開発では、放射性標識体と放射線が基礎研究から臨床試験に至るまで幅広く利用されている。また病院では、放射性医薬品が診断や治療に日々使用されており、その調製や品質管理は放射性医薬品取り扱いガイドラインに従い薬剤師が行うべきものである。このため、放射性医薬品・放射性物質の取り扱いに習熟した薬剤師を認定する核医学認定薬剤師制度が発足している。このように、医薬品開発に携わる研究者であっても、医療行為に携わる薬剤師であっても、放射性同位元素と放射線を取り扱う専門的知識が要求される。本講義では、放射性同位元素および放射線の性質、放射線の生物への影響ならびに医学・薬学への応用について学び、放射線や放射性同位元素等を取り扱う基礎的知識の修得を目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子の構造と放射壊変について説明できる。	C1-1-4-1
2	電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。	C1-1-4-2
3	代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。	C1-1-4-3
4	核反応および放射平衡について説明できる。	C1-1-4-4
5	放射線測定の方法と利用について概説できる。	C1-1-4-5
6	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
7	代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
8	電離放射線を防御する方法について概説できる。	D2-1-4-3
9	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	遠藤	イントロダクション：(1)放射線・放射能とは何か、(2)放射線・放射性物質の医学・薬学での利用概況、(3)なぜ薬剤師が放射線・放射能の知識を持たねばならないのか	1、9
2	遠藤	原子核、放射性壊変の形式、壊変図	1、2
3	遠藤	壊変速度、放射平衡	3、4
4	遠藤	天然放射性核種と人工放射性核種、核反応、加速器と原子炉、放射性核種の分離精製	3、4
5	遠藤	放射線と物質の相互作用	2、8
6	遠藤	測定法の原理と測定器	2、5
7	遠藤	放射線に関する量と単位	2、5
8	遠藤	標識化合物、アイソトープの研究への利用、放射線化学	9
9	遠藤	放射線の生物学的作用、放射線障害	6、7
10	遠藤	細胞および組織の放射線感受性	6、7
11	遠藤	遺伝的影響、体内被曝と体外被曝	6、7
12	遠藤	医療用放射性核種の条件、放射性医薬品と臓器特異性、放射性診断薬と治療薬 放射線治療に使用される機器および適用	2、6、7、9
13	遠藤	放射性同位元素等および放射線管理、放射線の安全取扱	2、3、8、9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各章毎に補助プリントを配布し、講義中に空欄部分を記入し、知識の整理に役立つようにしている。また、WebClassに章ごとの練習問題および放射薬学関連の薬剤師国家試験問題を掲載し、知識の定着を促進している。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

百聞は一見に如かずであり、測定機器等については、その写真や動画を見ることによって現実感を得られるようにしていく。

薬剤師あるいは医薬品開発研究者として携わる可能性がある放射性物質および放射線の利用[がんの放射線治療(重粒子線治療、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)を含めて)や医薬品開発時の薬物動態試験]を実例を交えて、紹介していく。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:演習問題を提示し、繰り返し知識の到達レベルを確認させている。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験(100%)にて評価する。

〔教科書〕

新 放射化学・放射性医薬品学 改訂第4版(佐治英郎、前田稔、小島周二 編、南江堂)

〔参考書〕

放射化学・放射薬品学 第2版(五郎丸毅、堀江正信 編、廣川書店)

薬学領域の放射科学(佐治英郎 監、廣川書店)

スタンダード薬学シリーズII 2 物理系薬学 1. 物質の物理的性質(日本薬学会編、東京化学同人)

スタンダード薬学シリーズII 5 衛生薬学 健康と環境(日本薬学会編、東京化学同人)

スタンダード薬学シリーズII 7 臨床薬学 1. 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(日本薬学会編、東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

担当者の学習相談担当時間(毎週更新される学習相談予定表を参照)

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 教育2号館 1F(2109)

〔準備学習(予習・復習等)〕

事前の配布資料に教科書の関連ページが記載されています。これを参考に教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。講義後の疑問点は、教科書や参考書を使って、まずは自分で調べてみてください。自分で調べた知識は、忘れないものです。(聞いただけの知識は、忘失が早いです。)それでも理解ができないようであれば、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。また、練習問題および薬剤師国家試験問題を活用し、知識を応用できるようになっているか、確認してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対し、必要に応じて全学生に講義中にその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。

〔教員からの一言〕

日本では「核」や「放射線」というものに拒絶的な反応を示す人が少なくありません。しかし、「放射線」は医学・薬学の分野では非常に多く利用されているのも事実です。本講義から「放射線はなぜ危険なのか？

防御できるのか？ なぜよく利用されるのか？」を科学的な見地から理解していきましょう。また、速度論など、一部上級学年で修得する知識が必要になる部分があります。詳細はその科目で譲り、放射化学では、その使い方や考え方を重視して理解していきましょう。

基礎化学

Basic Chemistry

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

宮岡 宏明 (C・D、G・H)

釜池 和太 (A・B、E・F)

学習目標 化学物質を理解できるようになるために、基本的な有機化合物の命名法、電子配置、化学結合、酸塩基など(GIO)に関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基本的な化合物をルイス構造式、ケクレ構造式、骨格構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
2	代表的な官能基を列挙することができる。	C3-3-1-1
3	アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	C3-2-1-2
4	代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
5	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
6	極性共有結合について説明できる。	C3-3-6-1
7	分子中の原子に形式電荷を付けることができる。	C1-1-1-3, C3-1-1-3
8	代表的な化合物やイオンの共鳴構造と電子の移動を示す矢印を書くことができる。	C1-1-1-3
9	ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
10	酸性度定数、 pK_a 値から酸、塩基の強さを判断することができる。	C3-3-7-1~2
11	誘起効果と酸・塩基の強さの関係を説明することができる。	C3-3-6-1
12	pK_a 値から酸塩基反応を予測することができる。	C3-3-7-1~2
13	ルイス酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
14	非共有結合性相互作用について概説できる。	C1-1-2-1, C1-1-2-3~5
15	周期表に基づいて原子の電気陰性度を説明できる。	X-5-1-4
16	分子の極性について概説できる。	X-5-2-2
17	代表的な化合物の名称と構造を列挙できる。	X-5-2-5
18	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	宮岡、釜池	有機化合物の構造式の書き方と官能基	1、2、17
2	宮岡、釜池	アルカン、シクロアルカンの命名法	3、4
3	宮岡、釜池	ハロゲン化アルキル、アルケン、アルキンの命名法	4、5
4	宮岡、釜池	アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の命名法 医薬品の基本骨格	4、5、17
5	宮岡、釜池	極性共有結合	6、15、16
6	宮岡、釜池	形式電荷	7
7	宮岡、釜池	共鳴構造と電子の移動を示す矢印	8
8	宮岡、釜池	ブレンステッド・ローリーの定義	9
9	宮岡、釜池	酸と塩基の強さ	10、11、18
10	宮岡、釜池	pK_a 値を用いる酸塩基反応の予測	10、11、12
11	宮岡、釜池	有機酸と有機塩基	10、11
12	宮岡、釜池	ルイス酸とルイス塩基	13
13	宮岡、釜池	非共有結合性相互作用	14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
課題による演習、小テストを実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。講義の進捗に合わせて、課題、小テスト等による演習、解説を行い、理解を深めるよう努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：中間テスト、演習、小テスト等を行う。
- c) 態度：受講状況（出欠等）を記録する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験（100%）で評価する。
- c) 態度：受講態度（出欠等）を総合的に評価する。受講態度不良者や出席不良者に対しては、定期試験について受験停止の措置を講ずることがある。

定期試験の得点率により、以下のように評価する。

- ・S（90%以上）：合格
 - ・A（80～90%未満）：合格
 - ・B（70～80%未満）：合格
 - ・C（60～70%未満）：合格
 - ・D（60%未満）：不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

マクマリー 有機化学 第9版（上、中、下）(J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人)

マクマリー 有機化学問題の解き方 第9版 英語版 (S. McMurry 著 東京化学同人)

日本の医薬品 構造式集 2019 (日本医薬情報センター編)

〔参考書〕

化合物命名法 IUPAC 勧告に準拠 第2版(日本化学会 命名法専門委員会 編 東京化学同人)

「有機化学」ワークブック (奥山 格 著 丸善)

電子の動きでみる有機反応のしくみ(奥山 格、杉村高志 著 東京化学同人)

困ったときの有機化学(D.R. クライン 著 竹内敬人、山口和夫 訳 化学同人)

ウォーレン 有機化学(W. Warren 著、野依ら 監訳、東京化学同人)

ボルハルト・ショアー 現代有機化学(K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著 古賀ら 監訳 化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

宮岡 宏明 生物分子有機化学講座 研究2号館2階205

釜池 和太 生物分子有機化学講座 研究2号館2階205

〔準備学習(予習・復習等)〕

高校で学習した『化学基礎』の「物質の構成と化学結合」、「物質の変化」、「化学」の「有機化合物」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。定期試験後にフィードバック講義を実施し、知識の定着を図る。

〔教員からの一言〕

本科目の学習内容は、以後の有機化学系科目を理解するための基礎となりますので、十分に習得して下さい。

一般化学

General Chemistry

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

宮岡 宏明 (C・D、G・H)

釜池 和太 (A・B、E・F)

学習目標 (GIO) 化学物質を理解できるようになるために、有機化合物の基本骨格となる脂肪族化合物の構造、性質などに関する基本的事項と基本的な有機化合物の立体構造などに関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アルカンの基本的な性質について説明できる。	C3-2-1-1
2	分子模型を用いて化学物質の立体構造をシミュレートすることができる。(知識・技能)	C3-1-2-1~5, C3-1-2-7~8, Y-3-20-1
3	フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	C3-1-2-7
4	エタン、ブタンなどの立体配座とその安定性について説明できる。	C3-1-2-8
5	構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	C3-1-2-1
6	シクロアルカンのシス-トランス異性について説明できる。	C3-1-2-1
7	シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	C3-2-1-3
8	シクロヘキサンのいす型配座における水素の結合方向(アキシアル、エクアトリアル)を図示できる。(技能)	C3-2-1-4
9	置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	C3-2-1-5
10	多環式分子の立体配座について説明することができる。	C3-2-1-5
11	キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	C3-1-2-2
12	絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	C3-1-2-5
13	エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	C3-1-2-3
14	ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	C3-1-2-4
15	旋光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
16	炭素-炭素二重結合の立体異性(cis, transならびにE, Z異性)について説明できる。	C3-1-2-6
17	比旋光度測定による光学純度決定法を説明できる。	Y-3-27-1
18	比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	Y-3-27-2
19	光学活性化合物を得るための代表的な手法である光学分割を説明できる。	Y-3-31-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	宮岡、釜池	アルカンの性質、エタンの立体配座	1、2、3、4
2	宮岡、釜池	その他のアルカンの立体配座	2、3、4、5
3	宮岡、釜池	シクロアルカンのシス-トランス異性	2、5、6
4	宮岡、釜池	シクロアルカンの安定性	2、7
5	宮岡、釜池	シクロプロパン、シクロブタン、シクロペンタンの立体配座	2、7
6	宮岡、釜池	シクロヘキサンの立体配座	2、8
7	宮岡、釜池	置換シクロヘキサンの立体配座	2、9
8	宮岡、釜池	多環式分子の立体配座	2、10
9	宮岡、釜池	キラリティーと光学活性	11、15、17、18
10	宮岡、釜池	CIP則、絶対配置の表示法(R, S)、アルケンの立体異性(E, Z)	2、12、16
11	宮岡、釜池	ジアステレオマーとメソ化合物	2、13、14
12	宮岡、釜池	ラセミ体と鏡像異性体の分割	2、14、16
13	宮岡、釜池	異性現象のまとめ	11~19

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

課題による演習、小テストを実施する。

各自で分子構造模型を組み立てさせ、分子の立体構造の理解を深めさせる。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。講義の進捗に合わせて、課題、小テスト等による演習、解説を行い、理解を深めるよう努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習、小テスト等を行う。

c) 態度：受講状況（出欠等）を記録する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験（100%）で評価する。

c) 態度：受講態度（出欠等）を総合的に評価する。受講態度不良者や出席不良者に対しては、定期試験について受験停止の措置を講ずることがある。

定期試験の得点率により、以下のように評価する。

・S（90%以上）：合格

・A（80～90%未満）：合格

・B（70～80%未満）：合格

・C（60～70%未満）：合格

・D（60%未満）：不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

マクマリー 有機化学 第9版（上、中、下）(J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人)

マクマリー 有機化学問題の解き方 第9版 英語版（S. McMurry 著 東京化学同人）

教材：分子構造模型

〔参考書〕

困ったときの有機化学（D.R. クライン 著 竹内敬人、山口和夫 訳 化学同人）

ウォーレン 有機化学（W. Warren 著、野依ら 監訳、東京化学同人）

ボルハルト・ショアー 現代有機化学（K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著、古賀ら 監訳、化学同人）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

宮岡 宏明 生物分子有機化学講座 研究2号館2階205

釜池 和夫 生物分子有機化学講座 研究2号館2階205

〔準備学習（予習・復習等）〕

前期に学習した『無機化学』の「混成軌道」、『基礎化学』の「アルカン」「アルケン」の項目が、本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから、講義に臨んでください。

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。定期試験後にフィードバック講義を実施し、知識の定着を図る。

〔教員からの一言〕

本科目の学習内容は、以後の有機化学系科目を理解するための基礎となりますので、十分に習得して下さい。

有機化学 I

Organic Chemistry I

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

平島 真一 (C・D、E・F)

三浦 剛 (A・B、G・H)

学習目標 有機反応全般に関する基礎事項(反応の分類, 反応に伴うエネルギー変化と平衡定数および反応速度, 反応エネルギー図, 曲がり矢印による反応機構の記述方法など)について理解する。アルケンの基本構造, 物理的性質, 合成法の概略, 炭素-炭素二重結合の関わる反応について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	有機反応の基本的分類を理解し、説明できる。	C3-1-1-6
2	平衡定数および反応速度とそれらを決める各因子との関連、反応エネルギー図の意味を理解し、説明できる。	C3-1-1-8
3	曲がり矢印による反応機構の記述方法を理解している。	C3-1-1-9
4	アルケンの構造および性質を、その構成原子の構造、電子配置、結合の形態等に基づいて説明できる。	C1-1-1-1 ~ 2
5	Cahn-Ingold-Prelog 則に従って、アルケンの E/Z を決定できる。	C3-1-2-6
6	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応の反応機構を記述し、論理的に説明できる。また、中間体および遷移状態の構造、反応エネルギー図を記述し、説明できる。	C3-1-1-8, C3-2-2-1
7	カルボカチオンの構造と安定性との関連とその理由を説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
8	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応の位置選択性を、反応機構、カルボカチオンの構造と安定性の関連、および Hammond の仮説に基づいて説明できる。	C3-1-1-7 ~ 8, C3-2-2-1
9	カルボカチオンの骨格転位反応の反応機構を記述し、説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
10	アルケンに対するハロゲンの付加反応の反応機構を記述し、その立体化学を説明できる。	C3-1-2-4, C3-2-2-1
11	アルケンの求電子付加反応によるハロヒドリンおよびハロエーテル生成の反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
12	アルケンのオキシ水銀化反応やヒドロホウ素化を経るアルコールおよびエーテル生成法の各反応段階の反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-2-2-1, C3-3-3-1
13	アルケンの接触水素化反応、過酸によるエポキシ化反応、ハロヒドリンと塩基との反応によるエポキシド生成反応について、それぞれ反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-2-2-2, C3-3-3-2
14	酸性および塩基性条件それぞれにおけるエポキシドの開裂反応について、反応機構を記述し、立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-3-3-2
15	四酸化オスmiumによる酸化を経るアルケンのジヒドロキシ化反応の反応機構を記述し、立体化学を説明できる。	C3-2-2-2
16	オゾン分解の各反応段階、過ヨウ素酸による 1,2-ジオールの酸化開裂反応、および、過マンガン酸塩によるアルケンの酸化開裂反応の反応機構を記述し、説明できる。	C3-2-2-2
17	アルケンの代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	C3-1-1-7, C3-2-2-1
18	アルケンの反応について、立体化学との関連を理解し、説明できる。	C3-1-2-3 ~ 4, C3-2-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平島, 三浦	有機反応の概観: 有機反応の分類、平衡定数、反応速度	1
2	"	有機反応の概観: 反応中間体、遷移状態、反応エネルギー図、曲がり矢印	2, 3
3	"	アルケンの構造、性質	4, 5
4	"	アルケンに対するハロゲン化水素の付加反応: 反応機構、カルボカチオン中間体の構造と安定性、Hammond の仮説、位置選択性	6, 8
5	"	カルボカチオンの骨格転位反応: 反応機構	7, 9
6	"	アルケンに対するハロゲンの付加反応: 反応機構、立体化学	10
7	"	ハロヒドリン、ハロエーテルの生成: 反応機構、立体化学、位置選択性	11
8	"	アルケンのオキシ水銀化反応を経るアルコール生成法: 反応機構、立体化学、位置選択性	12, 17, 18

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9	"	アルケンへのヒドロホウ素化反応を経るアルコール生成法： 反応機構、立体化学、位置選択性	12, 17, 18
10	"	アルケンの接触水素化反応：反応機構、立体化学 過酸によるエポキシ化反応：反応機構、立体化学	13, 18
11	"	ハロヒドリンからのエポキシド生成反応：反応機構、立体化学 エポキシドの開裂反応：反応機構、立体化学、位置選択性	13, 14
12	"	四酸化オスミウムによる酸化を経るアルケンのジヒドロキシ化反応：反応機構、立体化学 オゾン分解：反応機構	15, 16
13	"	過ヨウ素酸による 1,2-ジオールの酸化開裂反応：反応機構； 過マンガン酸塩によるアルケンの酸化開裂反応：反応機構	16
14	"	アルケンへのカルベンの付加反応：反応機構、立体化学； アルケンへの水の付加反応における立体化学	18

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義した内容に関する演習問題や薬剤師国家試験問題を実際に問いてもらってから、解説し、知識の定着に役立てている。また、各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

種々の性質、現象、反応等をもたらす「根本原理」を理解するため、常に、その分子の構成原子の性質、結合形態にまで立ち返り考察することに努めている。また、立体化学を理解するために、分子模型や反応機構動画を活用した視覚的に分かり易い講義を実施している。また、新たに学ぶ反応については、反応機構を深く理解し、記述できるようになることに重点をおいている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識： 適宜、演習問題やレポートを課す。

2) 総括的評価

a) 知識： 定期試験（100%）にて評価する。再試験を1回実施する。ただし、本試験の成績が著しく不良である際は、再試験の受験資格を認めないことがある。

<評価（総括的評価）>

・S（85%以上）：合格

・A（70～85%未満）：合格

・B（60～70%未満）：合格

・D（60%未満）：不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版（上，中，下）(J. McMurry 著，伊藤ら 訳，東京化学同人)

マクマリー有機化学 問題の解き方 第9版 (S. McMurry 著，東京化学同人)

〔参考書〕

「有機化学」ワークブック（奥山格 著，丸善）

有機反応機構（P. Sykes 著，久保田尚志 訳，東京化学同人）

ウォーレン 有機化学（W. Warren ら 著，野依ら 監訳，東京化学同人）

有機化学（奥山格 著，丸善）

ポルハルト・ショアー 現代有機化学（K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著，古賀ら 監訳，化学同人）

有機化学 基礎の基礎（山本嘉則 編著，化学同人）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

平島 真一 薬化学教室 講師 研究2号館3階306

三浦 剛 薬化学教室 教授 研究2号館3階306

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義開始時に、前回の講義の復習を短時間で行っている。演習問題を課し、予習復習に役立てる。事前に講義プリントを WebClass から配布するので、予習に利用できる。さらに、講義で使用したパワーポイントファイルも WebClass から配布するので、復習に利用できる。

〔学生へのフィードバック〕

定期試験の解説をフィードバック講義にて実施する。

〔教員からの一言〕

無機化学，基礎化学，一般化学の学習内容が前提となるので，よく復習し，修得しておくこと。

機能形態学Ⅰ

Human Anatomy and Physiology I

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

馬場 広子、山口 宜秀、林 明子、石橋 智子

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス（恒常性）の維持機構を理解するために、機能形態学Ⅰ（1年前期）、Ⅱ（1年後期）、Ⅲ（2年前期）によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	C7-1-3-1
2	ホメオスタシスについて概説できる。	C7-2-1-3
3	ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	C7-1-3-1
4	骨・筋肉について概説できる	C7-1-5-1
5	ヒトにおける主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C7-1-5-2
6	ヒトにおける主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。	C7-1-5-2
7	生命現象に関わる細胞膜を介した物質輸送について説明できる。	C6-1-1-1 ~ 2
8	生命現象に関わる細胞の電気的性質を説明できる。	C6-1-1-1
9	生命現象に関わる細胞間コミュニケーションについて説明できる。	C6-6-1-1
10	心臓、血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-7-1 ~ 2, C7-2-1-3
11	心電図を理解できる。	C7-1-7-1, C7-2-1-3
12	血圧の調節機構を説明できる。	C7-2-1-3, C7-2-5-1
13	胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-9-1
14	消化、吸収における神経の役割について説明できる。	C7-1-9-1, C7-2-1-3
15	消化、吸収における消化管ホルモンの役割について説明できる。	C7-1-9-1, C7-2-2-1
16	肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-9-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	馬場	機能形態学について -身体の構造とホメオスタシス-	1, 2
2	山口	身体の構造 (1)	3, 4, 5, 6
3	"	身体の構造 (2)	3, 4, 5, 6
4	馬場、山口、林、石橋	中間試験 (身体の構造)	3, 4, 5, 6
5	馬場	生理学総論 (1)	7, 8, 9
6	"	生理学総論 (2)	7, 8, 9
7	"	循環器系 (1)	10, 11, 12
8	"	循環器系 (2)	10, 11, 12
9	"	循環器系 (3)	10, 11, 12
10	林	消化器系 (1)	13, 14, 15
11	"	消化器系 (2)	13, 14, 15
12	"	消化器系 (3)、肝・胆道系	13, 14, 15, 16
13	"	肝・胆道系	16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書の図をスライドに用い、内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー（アンケート）を実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。確認問題集を使用することで復習の助けとしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a. 知識：中間試験を実施し、フィードバックを行う。成績不良者には課題を課す。

2) 総合的評価

a. 知識：定期試験(100%)にて評価する。再試験を1回実施する。

注) 出席不良者あるいは中間試験の未受験者と成績不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

〔教科書〕

グラフィカル機能形態学(馬場編 京都廣川書店)

グラフィカル機能形態学 確認問題演習(馬場編 京都廣川書店)

入門人体解剖学 改訂第5版(藤田著 南江堂)

〔参考書〕

標準生理学 第9版(本間監修 医学書院)

カラー図解 人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】<第3版>(坂井, 河原 編 日本医事新報社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

〔所属教室〕

馬場、山口、林、石橋 機能形態学教室 研究1号館202号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中にノートや教科書にメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。また確認問題集も使用し復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

中間試験の結果をフィードバックし、誤りやすい点の確認や重要な点の理解を促している。アンケートの結果をもとに講義を改善している。

〔教員からの一言〕

ここで得られる知識は「薬理学」や「疾病と薬物治療」などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

細胞生物学

Cell Biology

第 1 学年 前期 1 年必修科目 1 単位

野水 基義

吉川 大和

山田 雄二

学習目標 (GIO) 多細胞生物の成り立ちを細胞レベルで理解するために、細胞の構造と機能および組織構築に関する基本的知識を修得する。さらに、細胞を構成する基本分子としてのタンパク質、糖質、脂質、核酸について、それらの分子構造および性状について基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
2	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1
3	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
4	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
5	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	C6-2-4-1
6	多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	C6-3-1-1
7	ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	C6-2-5-1
8	染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	C6-4-2-1
9	細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	C6-1-2-1
10	細胞骨格の構造と機能を説明できる。	C6-1-3-1
11	タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	C6-3-2-1
12	細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	C6-1-1-1
13	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	C6-1-1-2
14	膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	C6-3-4-1
15	細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	C6-6-1-1
16	細胞周期とその制御機構について説明できる。	C6-7-1-1
17	細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	C6-7-2-1
18	細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	C6-6-3-1
19	主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	C6-6-3-2
20	個体発生について概説できる。	C7-1-2-1
21	細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	C7-1-2-2
22	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	C7-1-3-1
23	組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	C7-1-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	野水	はじめに、講義の到達目標、細胞の基本構造	1
2	"	生体構成物質(1)	2~6
3	"	生体構成物質(2)	6~8
4	"	細胞内小器官の構造と性質(1)	9
5	"	細胞内小器官の構造と性質(2)	9~11
6	"	細胞間の情報伝達	12~14
7	山田	細胞膜の構造、性質と細胞膜を介した物質輸送	15
8	"	細胞周期	16~17
9	吉川	細胞間結合	18

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	"	細胞外マトリックス	19
11	"	組織の構築	20~21
12	"	組織の形態と細胞の種類(1)	20~21
13	"	組織の形態と細胞の種類(2)	22~23

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・重要語句を授業中に書き込む形式になっているプリントを作成し、授業で活用している。
- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

・1年生前期の「生物学」「細胞生物学」から、1年生後期の「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」「生化学Ⅲ」、3年生の「バイオ医薬品」までを生物系講義の基礎から応用までのステップアップと捉え、一貫性を重視して理解度が高まるように工夫している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：プリントに練習問題を提示し、知識の到達レベルを確認させている。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験(100%)にて評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

自作プリント

薬学領域の生化学(伊東、藤木編 廣川書店)

〔参考書〕

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(和田著 羊土社)

illustrated 基礎生命科学(竹島、柿澤著 京都廣川書店)

グラフィカル機能形態学(馬場著 京都廣川書店)

〔オフィスアワー〕

野水 基義 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。

吉川 大和 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。

山田 雄二 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

野水 基義 病態生化学教室 研究2号館5階508号

吉川 大和 病態生化学教室 研究2号館5階508号

山田 雄二 病態生化学教室 研究2号館5階508号

〔準備学習(予習・復習等)〕

- ・高校で学習した『生物基礎』の細胞や遺伝子に関する内容が本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから講義に臨んでください。
- ・講義は主にプリントを使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。(生協で事前に購入すること)

〔学生へのフィードバック〕

学生からの質問に答える形でのフィードバックを行う。

〔備考〕

連絡先 042-676-5662

野水 基義 nomizu@toyaku.ac.jp

吉川 大和 kikkawa@toyaku.ac.jp

山田 雄二 yuyamada@toyaku.ac.jp

生物学

Biology

第1学年 前期 1年必修科目 1単位

高木 教夫
三浦 典子
林 秀樹
石橋 健一

学習目標 (GIO) 薬学を学ぶうえで必要な生物学の知識を身に付けるために、生物を構成する成分、ならびに生物にとって重要な現象を学習し、ヒトの誕生から成長、老化、死への過程に関する基本的知識を修得する。最も重要な点は、将来、薬学的臨床現場の知識として必須であること認識することである。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬学を学ぶ上で必要な生物学の基礎力を身につけるために、細胞、組織、器官、個体レベルでの生命現象と、誕生から死への過程に関する基本的事項を概説できる。	X-6-1-1, X-6-1-3, X-6-2-1
2	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-1
3	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-2-2
4	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
5	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1
6	代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
7	代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-6-1
8	代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	C6-2-7-1
9	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	C6-2-4-1
10	ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	C6-2-5-1
11	細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	C6-7-2-1
12	遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	C7-1-1-1
13	遺伝子多型について概説できる。	C7-1-1-2
14	得られた情報、意見をコミュニケーションによって、統合して発表、表現することができる。	A-3-1-7~8, A-5-1-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	石橋	生物基礎の復習	1
2	"	生物基礎の復習(小グループ討議)	1、14
3	高木、三浦、林	薬学における生物学について	1
4	三浦	糖質の種類と構造	2
5	"	糖質の性質と役割	3
6	"	アミノ酸の構造と性質	4
7	林	脂質の構造・性質・役割	5
8	"	生体高分子の化学的性質	6
9	"	ビタミンの構造・役割	7
10	"	必須微量元素の種類と役割	8
11	高木	タンパク質の構造と性質	9
12	"	ヌクレオチドと核酸	10
13	"	細胞死(アポトーシスとネクローシス)	11
	"	遺伝子と遺伝のしくみ	12
	"	遺伝子多型について	13

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・授業中に書き込む形式になってるプリントを作成し、授業で活用している。
- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。

・小グループ討議を行い、教科書等で調べながら正しい解答を導き出す。問題を解決するために、グループで話し合いながら自ら学ぶ大切さを理解することを目標としている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

1. 1年生の「細胞生物学」、「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」および「生化学Ⅲ」、さらに3年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップするための講義と捉え、一貫性を重視し、講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。

2. 本講義は、生物学導入教育の側面も十分考慮して行う。ただし、臨床的な意義を把握できるようにトピックスを紹介している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：課題、演習問題を行い、解説にてフィードバックする。

c) 態度：授業時間中を通じて観察、質疑応答などを行い、その場でフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験（92%）、小テスト（8%）で総合的に評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

自作プリント

フォトサイエンス生物図録（鈴木孝仁 監修）数研出版

〔参考書〕

基礎生命科学（竹島浩 京都廣川書店）

薬学領域の生化学 第2版（伊東 晃編集 廣川書店）

新しい機能形態学：ヒトの成り立ちとその働き（小林ら著 廣川書店）

〔オフィスアワー〕

高木 いつでも可。但し、要予約。

三浦 いつでも可。但し、要予約。

林 いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

高木・林 応用生化学教室 研究2号館6階606号室

三浦 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・講義はプリントも使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。

・授業後の復習は極めて重要です。判らないことは、教科書および参考書で必ず調べてください。自分で教科書を使って調べることがとても大切です。日常の学習は、内容を理解することを中心に進めてください。

〔学生へのフィードバック〕

課題、演習問題に対し、解説にてフィードバックを行う。

課題に対する発表や質疑応答に対し、その場でフィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

高校で生物を履修しなかった学生はWeb Classを参考にして、忘れずに予習をして下さい。

〔備考〕

新入生実力チェックテスト（生物学）で成績が振るわなかった学生は、補講（詳しくは学年掲示板を見てください）を行いますので、必ず参加してください。

機能形態学Ⅱ

Human Anatomy and Physiology II

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

山口 宜秀、林 明子、石橋 智子、稲葉 二郎

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス（恒常性）の維持機構を理解するために、機能形態学Ⅰ（1年前期）、Ⅱ（1年後期）、Ⅲ（2年前期）によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	細胞膜の電気的性質と興奮について説明できる。	C6-1-1-1, C7-2-1-1
2	神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	C7-2-1-1
3	シナプス伝達の調節機構を説明できる。	C4-1-2-1, C6-6-2-1~5, C7-2-1-1~3
4	中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	C7-1-4-1, C7-2-1-3
5	末梢神経系（体性神経系、自律神経系）の構成と機能の概要を説明できる。	C6-6-2-1~5, C7-1-4-2, C7-2-1-3
6	眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-13-1, C7-2-1-3
7	運動神経による骨格筋支配を説明できる。	C7-2-1-4
8	骨格筋の興奮収縮連関について説明できる。	C7-1-5-1, C7-2-1-4
9	骨格筋、心筋、平滑筋それぞれの収縮調節機構を比較し、説明できる。	C7-1-5-1, C7-2-1-4
10	血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-7-2
11	リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-7-3
12	血液成分について説明できる。	C7-1-14-1
13	骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-14-1
14	血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	C7-2-9-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	山口	神経系総論	1、2、3
2	"	神経系(1)	4
3	"	神経系(2)	4
4	"	神経系(3)	4
5	稲葉	末梢神経系と感覚器系(1)	5、6
6	"	末梢神経系と感覚器系(2)	5、6
7	"	末梢神経系と感覚器系(3)	5、6
8	林	運動器(1)	7、8
9	"	運動器(2)	7、8
10	"	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮機構	9
11	石橋	血管系・リンパ系	10、11
12	"	血液・血液凝固・線溶系(1)	12、13、14
13	"	血液・血液凝固・線溶系(2)	12、13、14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書の図をスライドに使用し、内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー（アンケート）を実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。予習や復習に役立つ講義資料を作成している。確認問題集を使用することで復習の助けとしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

2) 総合的評価

a. 知識：定期試験（100%）にて評価する。再試験を1回実施する。

注) 出席や受講態度の不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

〔教科書〕

グラフィカル機能形態学(馬場編 京都廣川書店)
グラフィカル機能形態学 確認問題演習(馬場編 京都廣川書店)
入門人体解剖学 改訂第5版(藤田著 南江堂)

〔参考書〕

標準生理学 第9版(本間監修 医学書院)
カラー図解 人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】<第3版>(坂井, 河原 編 日本医事新報社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

〔所属教室〕

山口、林、石橋 機能形態学教室 研究1号館202号室
稲葉 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階2306号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中にノートや教科書などにメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。また確認問題集も使用し復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

アンケートの結果をもとに講義を改善している。

〔教員からの一言〕

ここで得られる知識は「薬理学」や「疾病と薬物治療」などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

生化学 I

Biochemistry I

第 1 学年 後期 1 年必修科目 1 単位

野水 基義

吉川 大和

山田 雄二

学習目標 (GIO) 生化学は、生命活動を各種生体分子の化学反応として理解する学問であり、医学や薬学を合理的に理解するためには、その正確な知識が欠かせない。本講義では、生理活性物質、受容体、酵素などに関する生化学の基本的な知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
2	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1
3	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	C6-2-3-1
4	多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	C6-3-1-1
5	代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-2-1
6	血糖の調節機構について概説できる。	C7-2-6-1
7	血圧の調節機構について概説できる。	C7-2-5-1
8	代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-3-1
9	代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-4-1
10	細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-1
11	細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-2
12	細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-3
13	細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。	C6-6-2-4
14	細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	C6-6-2-5
15	細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	C4-1-2-1
16	酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	C6-3-3-1
17	酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	C6-3-3-2
18	代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	C6-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	野水	はじめに、講義の到達目標、生化学概論	1
2	"	生理活性物質概論	2~4
3	"	視床下部、下垂体のホルモン	5
4	"	骨とホルモン	5
5	"	膵臓とホルモン	5~6
6	"	松果体、甲状腺、副腎のホルモン	5
7	"	オータコイド(エイコサノイド)	8
8	"	オータコイド(ヒスタミンとセロトニン)	8
9	"	オータコイド(レニン-アンジオテンシン系、カリクレイン-キニン系など)	5, 7~8
10	山田	サイトカイン, 増殖因子, ケモカイン	4, 9
11	"	受容体と細胞内情報伝達機構	4, 10~15
12	吉川	酵素の種類と特性	4, 16~18
13	"	酵素の反応速度論	4, 16~18

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・重要語句を授業中に書き込む形式になっているプリントを作成し、授業で活用している。
- ・練習問題を提供して、各自で自習できるように工夫している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・1年生前期の「生物学」「細胞生物学」から、1年生後期の「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」「生化学Ⅲ」、3年生の「バイオ医薬品」までを生物系講義の基礎から応用までのステップアップと捉え、一貫性を重視して理解度が高まるように工夫している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：プリントに練習問題を提示し、知識の到達レベルを確認させている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験（100％）にて評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

自作プリント
薬学領域の生化学（伊東、藤木編 廣川書店）

〔参考書〕

illustrated 基礎生命科学（竹島、柿澤著 京都廣川書店）
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（和田著 羊土社）
入門人体解剖学（藤田著 南江堂）

〔オフィスアワー〕

野水 基義 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。
吉川 大和 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。
山田 雄二 いつでも可。ただし、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

野水 基義 病態生化学教室 研究2号館5階508号
吉川 大和 病態生化学教室 研究2号館5階508号
山田 雄二 病態生化学教室 研究2号館5階508号

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・高校で学習した『生物基礎』の生物の体内環境の維持に関する内容が本講義の基礎になりますので、良く復習をしてから講義に臨んでください。
- ・講義はプリントを主に使用しますので、しっかり読んで授業に臨んでください。（生協で事前に購入すること）

〔学生へのフィードバック〕

学生からの質問に答える形でのフィードバックを行う。

〔備考〕

連絡先 042-676-5662
野水 基義 nomizu@toyaku.ac.jp
吉川 大和 kikkawa@toyaku.ac.jp
山田 雄二 yuyamada@toyaku.ac.jp

薬と疾病入門

Introduction of Pharmacology

第1学年 後期 1年必修科目 1単位

吉江 幹浩 草間 和哉 田村 和広

学習目標 (GIO) 薬物療法は、疾病を治療する上で極めて重要な手段である。「なぜ薬がさまざまな疾患の治療に用いられるのか？」その本質を理解するためには、薬と生体との相互作用を明らかにする薬理学を修得することが必須である。本科目では、神経伝達物質やオタコイドなどの生理活性物質の作用とそれに関連する疾患とその薬物治療を学び、2学年前期からスタートする薬理学への学習基盤を築く。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物の用量と作用の関係を説明できる。薬理学的拮抗作用について説明できる。	E1-1-1-1
2	薬物の固有活性、アゴニスト、アンタゴニストについて説明できる。	C4-2-3-1, E1-1-1-2, E1-1-1-4
3	薬物の興奮効果、抑制効果についてノルアドレナリン (NA) やアセチルコリン (ACh) を例に挙げて説明できる。	E1-1-1-1
4	薬物の作用点である薬物受容体について受容体、酵素、イオンチャネル及びトランスポーターを具体的な例に挙げて説明できる。	E1-1-1-3
5	薬理作用の種類と薬理作用に影響をおよぼす要因について、また薬物連用について例を挙げて説明できる。	E1-1-1-7~9, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E3-3-1-1~2, E4-1-1-1, E4-1-2-1~5, E4-1-3-1, E4-1-3-4, E4-1-4-1, E4-1-4-3, E4-1-5-1, E4-2-2-1
6	受容体の種類とその特徴について説明できる。	C4-1-2-1, E1-1-1-4
7	細胞膜受容体と主要な G タンパク質の機能を説明できる。	C6-6-2-2
8	受容体と細胞内情報伝達系との連関を説明できる。	C6-6-2-1~5, E1-1-1-5
9	細胞内 Ca^{2+} レベルの調節と細胞応答について説明できる。	C6-6-2-4
10	神経伝達物質、オタコイド、サイトカイン、ホルモンの定義と生体での役割を説明できる。	C7-2-1-2, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1
11	末梢神経系 (自律神経系と体性神経系) の分類およびその形態と機能を説明できる。	C7-1-4-2
12	代表的な神経伝達物質の合成と分解経路を説明できる。	Y-3-60-1
13	アドレナリン受容体 ($\alpha_{1, 2}$, β_{1-3}) と ACh 受容体 (M_{1-3} , N_N , N_M) を説明できる。	E2-1-1-1~2
14	末梢神経系の主な支配臓器 (眼、気管支、血管、心臓、消化管、骨格筋、肝臓等) におけるアドレナリン受容体と ACh 受容体の刺激効果を説明できる。	C7-1-4-2, E2-1-1-1~2
15	NA、アドレナリン、イソプレナリンの構造活性相関を説明できる。	C4-3-5-1, E2-1-4-1
16	アドレナリン反転や ACh のニコチン様作用の薬理的観察法を説明できる。	E2-1-1-1~2
17	ヒスタミンの生成過程と生理作用、ヒスタミン関連薬の薬理作用と臨床適用を説明できる。	C7-2-3-1, E2-2-2-1, E2-2-2-3, E2-4-2-1, Y-3-59-1
18	セロトニンの生成過程と生理作用、セロトニン関連薬の薬理作用と臨床適用を説明できる。	C7-2-3-1, E2-1-3-4~6, E2-1-3-11, E2-4-2-1, E2-4-2-8, Y-3-59-1
19	エイコサノイド (プロスタグランジン、ロイコトリエン、トロンボキサンの生成過程と生理作用、エイコサノイド関連薬の薬理作用と臨床適用を説明できる。	E2-2-1-1, E2-2-2-1, E2-3-3-7, E2-4-1-1, E2-4-2-1, E2-6-1-1
20	アンジオテンシンとキニン類の生成過程と生理作用、アンジオテンシン関連薬の薬理作用と臨床適用を説明できる。	C7-2-3-1, E2-3-1-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1, 2	吉江	アゴニスト、アンタゴニストの概念、薬物の興奮・抑制効果、細胞膜受容体と細胞内受容体 薬物の用量と作用の関係、薬理的拮抗作用、薬理作用に影響をおよぼす要因	1~5
3, 4	吉江	細胞膜受容体と G タンパク質との関連および代表的薬物受容体 細胞内情報伝達系、細胞内 Ca^{2+} レベルの調節と細胞応答	6~10

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5、6	草間	(自律神経系に作用する薬物の基礎) 末梢神経系の形態的特徴と機能 神経伝達物質の生成と分解経路	11、12
7~9	吉江	アドレナリン受容体と ACh 受容体の特徴と機能 NA と ACh の作用 NA、アドレナリン、イソプレナリンの構造活性相関と薬理学的作用の相違、アドレナリン反転と ACh のニコチン様作用	13~16
10	田村	神経伝達物質、オータコイド、サイトカインおよびホルモンの概念 ヒスタミンの作用と関連薬の臨床応用	17
11	田村	セロトニンの作用と関連薬の臨床応用	18
12	吉江	プロスタグランジン、ロイコトリエン、トロンボキサンの作用と関連薬の臨床応用	19
13	吉江	アンジオテンシンおよびキニン類の作用とアンジオテンシン関連薬の臨床応用	20

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリント(資料)を WebClass にアップし、講義を進行しながら、資料の余白に重要なポイントを記入させている。学生を指名して質問し、他の教科で習った基本的な重要事項を復習させている。課題レポートを提出させ、学習理解度を確認するとともにフィードバックを行っている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本科目は、機能形態学、生化学、有機化学などの基礎薬学と病態生理学の知識を必要とするため、それら教科との関連性を意識して講義をすすめる。単元ごとに SBO を明示するとともに、演習問題を解くことにより理解を深める。自学自習を促すため、講義内容に関する課題レポートを提出してもらう。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:課題レポート、演習を行うことで学習到達度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験(90%)と課題レポート(10%)で総合的に評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

最新 薬理学要説(田村編、愛智出版)

〔参考書〕

薬系薬理学書(立川・田野中・弘瀬 編、南江堂)

〔オフィスアワー〕

吉江 幹浩 (yoshie@toyaku.ac.jp)

草間 和哉 (kkusama@toyaku.ac.jp)

田村 和広 (hiro@toyaku.ac.jp)

都合がよければ、いつでも可。事前にメールで連絡があれば確実です。

〔所属教室〕

吉江 幹浩 薬理学教室 研究2号館4階404号室

草間 和哉 薬理学教室 研究2号館4階404号室

田村 和広 薬理学教室 研究2号館4階404号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むこと。予め WebClass に講義資料を掲載するので、有効に利用する。また、講義後の復習を必ず行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

講義内容に関する質問に対して、必要に応じて講義中に解説を加えるなどの対応を行っている。定期試験後には、フィードバック講義を実施する。

〔教員からの一言〕

講義に関連する科目(機能形態学や生化学)を系統づけて学び、生体内の生理活性物質の役割を理解することが薬理学を学ぶ上で必要です。WebClass の資料はあくまでも補助資料ですので、教科書を読む習慣をつけ、内容を理解することが大事です。

基礎統計学

Basic Statistics

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

片野 修一郎

学習目標 (GIO) 薬学を学び、さらに薬学データの解析をする上で必要なデータ処理の基礎概念と統計データの解析方法を学ぶ。方法論の羅列とその丸暗記というありがちな事態に陥らないように、基本概念をしっかりと理解することをまず目標とした上で、薬学で実践できる統計的手法を我がものとする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	母集団と標本の違いを理解する。特に、無限母集団の場合にそれらが説明でき、標本抽出の意味がわかる。	X-7-5-5
2	データを度数分布表などの表にまとめ、ヒストグラムなどのグラフに表現できる。	X-7-5-2
3	代表値(平均値、中央値、最頻値)、散布度(範囲、4分偏差、分散、標準偏差)の意味および定義式について説明できる。それらを実際に計算して求められる。	E3-1-5-1, X-7-5-3
4	単なるデータの分布と確率分布の違いがわかる。確率分布の代表例をいくつか挙げられる。特に、最も重要な正規分布の特性について説明でき、正規分布表が正しく読みこなせる。	E3-1-5-3
5	確率分布の母数の点推定の意味がわかる。標本の分散、不偏分散、標準偏差、不偏標準偏差の定義を説明でき、それらの関係式を用いて具体的に求められる。	E3-1-5-1, X-7-5-3
6	標本平均の分布の特徴を、中心極限定理などを用いて説明できる。	E3-1-5-3, X-7-5-5
7	母平均を、正規分布やt分布を正しく使い分けて、標本から区間推定できる。	E3-1-5-1, X-7-4-2, X-7-5-5, Y-5-5-3
8	母比率の分布の特徴を説明でき、それを標本から区間推定できる。	E3-1-5-1, E3-1-5-3, X-7-4-2, X-7-5-5, Y-5-5-3
9	母分散を、カイ2乗分布を用いて、標本から区間推定できる。	E3-1-5-3, X-7-4-2, X-7-5-5, Y-5-5-3
10	検定における基本的な考え方を、帰無仮説と対立仮説、第1種と第2種の誤り、第1種の誤りと有意水準(危険率)などに関連させて説明できる。	E3-1-5-2, X-7-5-6
11	2つのグループの平均値や比率の違いを、正規分布やt分布を正しく使い分けて、検定できる。	E3-1-5-2, E3-1-5-5, X-7-5-6
12	2つのグループの分散の違いを、F分布を用いて検定できる。	E3-1-5-2~3
13	散布図(相関図)を作成でき、相関係数や回帰直線を求め、それらの意味を説明できる。	E3-1-5-6, X-7-5-4
14	データの独立性や適合度を、カイ2乗分布を用いて検定できる。パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定の意味についても触れる。	E3-1-5-3~4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1, 2	片野	データ分布の代表値と散布度の意味・意義・定義を理解して計算する。	2,3
3, 4	"	単なるデータ分布と確率分布の違いを理解し、典型的な確率分布としての正規分布に馴染む。母集団と標本の峻別について。確率分布の平均・分散・標準偏差の定義。	1,4,5
5, 6	"	標本平均はどのような分布になるか(中心極限定理)。母集団の平均値、分散、標準偏差を標本から点推定する(不偏分散と標本分散の違い)。	5,6
7~9	"	区間推定の考え方とその実行。母集団の平均値・比率・分散などを標本から区間推定する。	7,8,9
10~12	"	仮説検定とは何か。母平均・母分散・母比率あるいはそれらの差や違いの検定。	10,11,12
13	"	独立性、適合度の検定。母集団分布が不明なときの検定(ノンパラメトリック検定)。	14
14	"	相関と回帰	13

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・授業中に学生自ら手を動かして演習問題を解く機会をできるだけ沢山設ける予定である。
- ・Webclass上に、自習用の演習問題を、解答解説と共に適宜アップする予定である。
- ・可能ならば、授業中に演習問題の発表機会も与えたい。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

・「これは何なのか」「どうしてこんなものを考えるのか」「なぜそんなことがわかるのか」といった、現代の学生がとかく軽視しがちな理屈もしくはストーリー部分を、腹の底から納得できるように丁寧に解説している。

・例や例題を可能な限り多く紹介し、実践的な理解が深まるように配慮している。

・学生自身が手を動かして演習問題を考えることができる時間をとるように心がけている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題の解答を授業内で発表するとか、質問（するのと答えるのと両方）WebClass への詳細な解説記事の掲載などを通じて主体的に考えることを促す。

2) 総括的評価

a) 知識：基本的には定期試験（100%）で評価するが、授業時間内の演習問題の解答発表や（自主的な）レポートの提出などは勘案する。

〔教科書〕

片野修一郎 『統計学の基礎』（ムイスリ出版）

〔参考書〕

統計初歩の教科書はどれも大同小異です。必要なら適宜紹介します。高等学校数学 B の教科書にも、本講義の目的である推測統計学の初歩が解説されているようです。数学 B の教科書を持っている人はぜひ参考にするとよい。

〔オフィスアワー〕

毎週火曜午後に学習相談の時間が設定してありますが、それとは関係なく、質問は 2109 研究室にていつでも受け付けます。予約と遠慮は不要。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109

〔準備学習（予習・復習等）〕

特定の分野を前提とするというより、中学・高校・大学 1 年で学んできた数学全般の基礎学力がものをいいます。以下の項目については常識的に知っていること、慣れていることを要請します。

・高等学校で学んだ確率の基本事項

・関数概念、和記号 Σ 、数式の計算などの基本的な数学の運用能力

・微積分で学んだこと。特に自然対数 e を底とする指数関数や定積分が面積を表すこと

もうひとつ、極めて重要なことがあります。たとえば微積分で、 $\sin x$ の微分が $\cos x$ だというのは、意味を全く理解していなくても、禪問答のように覚えてしまえば正しく答えることができます。小学校低学年生でも答えられます。大学の勉強とは、このような 1 問 1 答の短いクイズに正しく答えられるように訓練することではありません。統計学においては、統計的な解析を待っている現実があり、先ずその状況を理解して、どのように統計的な手法を適用するかを考えなければなりません。従って、この授業の特に後半では、皆さんは常にある程度長い状況説明の文章を読まなければならなくなります。SNS に代表されるスラッパ的な短文のやり取りに浸りがちな日本の若者の読解力欠如が漸く最近になって本格的に危惧されるようになってきました。皆さんは大丈夫ですか。そういう意味で、この授業を、文章をきちんと正確に読むための訓練の場としても利用して欲しいと思っています。また、準備として高等学校数学 B の教科書を予め読んでおくこともよいかもしれません。

〔学生へのフィードバック〕

重要な内容に関しては、典型的な演習問題を事前に配布し、時間的余裕があればそれを黒板に書いて発表してもらい、その解答について解説や添削をする。時間的余裕がない場合も、できるだけ典型的問題の演習と解説を実施することでフィードバックとしたい。

〔教員からの一言〕

統計学を組織的に学ぶのは生まれて初めてという人が殆どでしょう。「統計」という言葉から世間の大多数の人は、データを表やグラフにしてまとめる、という程度の認識しか連想しないと思われそうですが、当講義の主目的である推測統計学はそれらとは違う世界の、数学に基づく数理統計学が基礎になったそれなりに高度な学問です。しかし、数学という強力な学問を基礎にしているからこそ、複雑なデータを分析するための極めて強力な武器になります。そんな素敵な統計学を、可能な限り丁寧に説明していこうと思います。馴染みやすい話から入って、次第に本格的な統計学に移行する予定です。学生の皆さんも主体的に取り組む姿勢を持っていただきたいと思います。

〔備考〕

現在は表計算ソフト Excel や統計ソフト R により、煩瑣な統計計算は簡単にできるようになっています。それらを用いた実習授業を取り入れることも考えたのですが、人数的に無理があって断念しました。代わりに関数電卓または普通の電卓（ただしルートの計算ができるもの）を持ってきてもらうといいですね。関数電卓は使いこなせば非常に便利ですが、ただ持っているだけで使い方のわからない人を多く見かけます。宝の持ち腐れですよ。前期試験では電卓を使わないと計算できない問題ばかりが出題されますから、メモリー計算には今のうちから慣れておくといいです。

薬学英语入門Ⅰ

Introduction to English for PharmacyⅠ

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

大野 真 (1・4) 野崎 直之 (2・5)

今井 亮一 (3・6・7・10) 森本 信子 (8・11) 廣幡 晴菜 (9・12)

学習目標 (GIO) 将来、薬学者として専門文献や科学記事を読解するために、科学的な文章を学習し、それらの構文や文法を理解し、かつ基礎的な専門語彙を習得する。また、それらの構文や文法・語彙を用いて英文を書くことを目標とした基礎的訓練を行う。さらに平行して多読の訓練を行い、パラグラフのすばやい要旨把握能力を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	精読と多読の相違点を理解する。	X-3-1-1~2
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1-1~2
4	精読において、基礎的な専門的語彙を習得する。	X-3-2-1~4
5	精読において、CDを聞き取り、文章を正確に発音できる。	X-3-3-1~4
6	多読において、各パラグラフの要旨をすばやく把握できる。	X-3-1-1~2
7	学習した構文と文法・語彙を用いた練習問題が解ける。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4
8	学習した構文と文法・語彙を用いて簡単な英文が書ける。	X-3-2-1~4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、野崎、今井、森本、廣幡	前期授業のイントロダクション	1、2
2~13	"	前期テキストの講読	3~8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
課題の提出あるいは小テストを実施している。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
医学・薬学的な話題を中心として、幅広い英語力と共に視野の広い思考力・判断力を養えるように共通テキストを選定している。精読と多読の両方を訓練する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：質問や提出物により、知識の到達レベルを確認している。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (80%)、多読 (20%) にて評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

瀬谷幸男他『医学・薬学系学生のための総合英語 (The Wonders of Medicine)』(南雲堂)

〔参考書〕

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

〔オフィスアワー〕

大野 真 いつでも可。 但し、要予約。

森本 信子 いつでも可。 但し、要予約。

非常勤講師 講師控室にて。 薬学部事務にて要予約。

〔所属教室〕

大野 真 第2英語研究室 教育3号館3階

森本 信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

教科書の本文を十分に予習してから授業に臨んでください。復習として、文章をしっかりと音読すると効果的です。授業ごとに予習と復習を各々30分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕

授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい箇所を確認している。

薬学英語入門Ⅱ

Introduction to English for PharmacyII

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

大野 真 (1・4) 野崎 直之 (2・5)

今井 亮一 (3・6・7・10) 森本 信子 (8・11) 廣幡 晴菜 (9・12)

学習目標 (GIO) 将来、薬学者として専門文献や科学記事を読解するために、科学的な文章を学習し、それらの構文や文法を理解し、かつ基礎的な専門語彙を習得する。また、それらの構文や文法・語彙を用いて英文を書くことを目標とした基礎的訓練を行う。さらに平行して多読の訓練を行い、パラグラフのすばやい要旨把握能力を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	様々な辞書の使い分け方と使用方法を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	精読と多読の相違点を理解する。	X-3-1-1~2
3	精読において、文章の構文と文法を正確に説明できる。	X-3-1-1~2
4	精読において、基礎的な専門的語彙を習得する。	X-3-2-1~4
5	精読において、CDを聞き取り、文章を正確に発音できる。	X-3-3-1~4
6	多読において、各パラグラフの要旨をすばやく把握できる。	X-3-1-1~2
7	学習した構文と文法・語彙を用いた練習問題が解ける。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4
8	学習した構文と文法・語彙を用いて簡単な英文が書ける。	X-3-2-1~4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、野崎、今井、森本、廣幡	後期授業のイントロダクション	1、2
2~13	"	後期テキストの講読	3~8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
課題の提出あるいは小テストを実施している。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
医学・薬学的な話題を中心として、幅広い英語力と共に視野の広い思考力・判断力を養えるように共通テキストを選定している。精読と多読の両方を訓練する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：質問や提出物により、知識の到達レベルを確認している。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (80%)、多読 (20%) にて評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

瀬谷幸男他『医学・薬学系学生のための総合英語 (The Wonders of Medicine)』(南雲堂)

〔参考書〕

リーダーズ英和辞典 (松田編 研究社)

〔オフィスアワー〕

大野 真 いつでも可。 但し、要予約。

森本 信子 いつでも可。 但し、要予約。

非常勤講師 講師控室にて。 薬学部事務にて要予約。

〔所属教室〕

大野 真 第2英語研究室 教育3号館3階

森本 信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

教科書の本文を十分に予習してから授業に臨んでください。復習として、文章をしっかりと音読すると効果的です。授業ごとに予習と復習を各々30分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕

授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい箇所を確認している。

医療コミュニケーション

Medical Communication

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

小松 正典、渡邊 幸子、梶原 進之介、高田 智生、六丸 友理、荻原 淳、渡邊 大輔、久保田 純平、荒木 文明、野口 幸志、村上 拓磨、秦野 和樹、八木 舞子、田名邨 清、関根 茜、久保 聡、三浦 典子

学習目標 (GIO) 人間は「関係的」に生きています。医療現場においては、病者（自己）と医療従事者（人）と物（薬、ほか）が関わり合いながら十分に機能して、病者の「人としての生活」が発展することが求められています。この講義では、1年時の「人間と薬学II 講義 人間の心理と行動」で学んだ臨床心理学の基礎知識をもとにして、患者・家族・同僚との信頼関係の確立を目指す基本的知識と実践的コミュニケーションスキルを修得します。最初に、医療コミュニケーションの総論として、コミュニケーションの基礎知識と大切さを学びます。続いて、臨床現場で活躍するヘルスケアの専門家を招き、薬局・店舗、在宅介護、病棟、災害、など、様々な状況での薬剤師のコミュニケーションについて事例をもとに学びます。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人間の一生についての多様な価値観を知る。	A-1-1-5~7
2	患者・患者家族が医療人に期待することを知り、医療の担い手にふさわしい態度を示すに際しての基本的理論と態度を学ぶ。	A-1-1-1~4
3	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	A-3-2-1
4	患者の「病の解釈モデル」を傾聴し、心理状態を把握し、配慮することができる。	A-3-1-5
5	患者家族の心理状態を把握し、配慮することができる。	A-3-1-5, A-4-3-1
6	患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応する。	A-3-1-3
7	相手の心理状態とその変化に配慮し、受容・共感的に関わることが出来る。	A-3-1-5~6
8	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	A-3-1-4, A-3-1-6
9	人間関係と健康心理について概説できる。	A-3-2-1
10	意思、情報の伝達に必要な要素を列挙し、言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	A-3-1-1~2
11	相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	A-3-1-3~4
12	基本的なコミュニケーションスキルを習得し、相手と円滑に対応することができる。	A-3-1-7~8
13	対立意見を尊重し、協力してよりよい解決方法を見出すことができる。	A-3-1-9
14	チームワークの重要性を例示して説明できる。チームに参加し、協調的態度で役割を果たす意義について概説できる。	A-4-1-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	三浦 典子	コミュニケーションの総論	1-14
2	小松 正典	薬剤師と健康食品	1-14
3	渡邊 幸子	薬剤師の仕事（過去・現在・未来）	1-14
4	梶原 進之介	在宅患者に寄り添うために	1-14
5	高田 智生	薬剤師と災害	1-14
6	六丸 友理	薬局業界と薬剤師業務の変化	1-14
7	荻原 淳	薬剤師とコミュニケーション（基礎）	1-14
8	渡邊 大輔	薬剤師とコミュニケーション（実践）	1-14
9	久保田 純平・荒木 文明	求められる薬剤師とは何か？	1-14
10	野口 幸志・村上 拓磨	ドラッグストア薬剤師の価値向上に向けての活動	1-14
11	秦野 和樹・八木 舞子	健康・予防領域における多職種連携	1-14
12	田名邨 清・関根 茜	医療・介護領域における多職種連携	1-14
13	久保 聡	これからの薬剤師に求められること	1-14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各講義で、補助プリント（パワーポイント講義関連資料）を配布し、講義を進行しながら、重要ポイントなどを記入させるようにする。

2回目以降の各講義で、問題数3問の小テスト（またはアンケート、感想文）を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

コミュニケーションの基礎知識を学び、様々な現場における患者さんやお客さまとの実践的なコミュニケーションシーンの事例を学ぶことで、「知識」を適切に処理し対応する「知恵」の重要性に気づいてもらう。また、それらが、コミュニケーションの場で活用できるようになることを目指している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：配布資料などで演習問題に取り組み、解説を行うことで、知識の定着と向上に努める。

2) 総括的評価

a) 知識：ペーパー試験（64%）、2回目以降の講義で行う小テスト（36%）

〔教科書〕

各講師が講義ごとに用意する資料をテキストとして使用。

必要に応じて WebClass に補助資料を掲載する。

〔参考書〕

薬学生のための人間の心理と行動理解（東京薬科大学出版会）

〔オフィスアワー〕

三浦典子（薬学教育推進センター：2109室） 事前に予約をしてください。

〔準備学習（予習・復習等）〕

薬剤師の社会での役割について常日頃から情報を集めておいてください。そして、患者に寄り添い、信頼される薬剤師となるためにはどのようなことが必要か、考えておいてください。

〔学生へのフィードバック〕

各社の最終回に、今後学ぶべきこと、こころがけること、また授業態度などから改善すべきことなどを学生にアドバイスする。

〔教員からの一言〕

講義を聴きながら感じたり・考えたことをメモする習慣をつけてください。そのことにより、自分の問題意識が明確になり、実務実習で患者さんやお客さんと対応をする際のヒントをつかむことが出来ます。将来、多くの患者さんやお客さんと接する時、その人ごと、その状況ごとに対応が異なってきます。様々な事例を学ぶことで、いろいろなアプローチ法で対応することが出来るでしょう。

〔備考〕

実務家教員担当科目

社会と薬学

Social Pharmaceutical Science

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

北垣 邦彦

学習目標 (GIO) 薬剤師として調剤、医薬品等の供給その他薬事衛生に係る任務を遂行し、人と社会に関わっていくために薬剤師・医薬品等を取り巻く法律、制度、及び倫理を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。また、医薬品の開発から承認までのプロセスや流通後の安全対策、地域薬局の在り方を学び、これらの社会環境とその変化を理解する能力をつける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	B-2-1-1~3
2	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な現状及び仕組みや規制について概説できる。国民医療費の動向について概説できる。	A-1-2-2, A-5-2-1, B-1-3-1, B-3-2-2
3	医薬分業の歴史と仕組みや意義を説明できる。	A-1-4-3, B-4-1-2
4	医薬品の定義及び販売、販売後の流れを概説できる。後発医薬品とその役割について説明できる。	B-2-2-1, B-3-2-3, B-4-1-3
5	薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について概説できる。薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。	A-2-2-1~2, B-1-4-1, B-2-1-8
6	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3~4, B-4-1-2
7	個人情報の取扱いについて概説できる。	B-2-1-7
8	薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規について説明できる。	B-2-2-6, B-4-1-1
9	医薬品の開発から承認までのプロセスと法規について概説できる。	B-2-2-2
10	後発医薬品とその役割について説明できる。	B-3-2-3
11	治験の意義と仕組みについて概説できる。	B-2-2-3
12	製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	B-2-2-5, B-2-2-10
13	健康被害救済制度について説明できる。	B-2-2-8
14	代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6, E1-4-2-1
15	薬物乱用防止における薬剤師の役割について説明できる。覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	A-1-2-7, B-2-3-3
16	学校薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	北垣	薬剤師の現状、薬学教育の現状	1, 2, 3
2	北垣	薬剤師とは?	1, 2, 3
3	北垣	調剤業務	4
4	北垣	薬剤師のコンプライアンス	5, 6
5	北垣	個人情報の保護	7
6	北垣	OTC 医薬品の販売規制	8
7	北垣	医薬品の承認制度	9
8	北垣	医薬品の開発	10
9	北垣	治験の意義と仕組み	11
10	北垣	医薬品等の安全対策における諸制	12
11	北垣	医薬品副作用被害救済制度	13
12	北垣	薬害の社会的な背景及びその後の対応	14
13	北垣	薬物乱用の現状と対策	15
14	北垣	学校薬剤師	16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義で取り上げたテーマについて発問を行い、学生に協議させ自らの考えを持たせるようにする。また、Webを活用して発問に対する学生の理解度を確認し、解説を通して講義内容の中の重要部分を補足する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

予習復習に活用できるように、講義資料は WebClass 上に掲載する。

振り返りの Web を用いた発問に対するクラスの正答率により学生の理解度を確認し、授業を進める。

1 回 1 回の授業が独立したものにならないよう、授業間で関連付けを可能な限り学生の振り返りを促す。

〔成績評価方法〕

1) 形式的評価

a) 知識：演習問題等により自己評価させる。解説にてフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験を行い評価（100 %）する。

3) 成績評価基準（総括的評価）

S（90 %～100 %）：合格

A（80 %～90 %未満）：合格

B（70 %～80 %未満）：合格

C（60 %～70 %未満）：合格

D（60 %未満）：不合格

再試験の成績：合格の場合 C

〔参考書〕

日本薬学会編 薬学総論 II：薬学と社会（東京化学同人）

危険ドラッグ問題の表と裏（薬事日報社）

〔オフィスアワー〕

北垣邦彦 いつでも可。ただしメールで予約してください。

〔所属教室〕

社会薬学研究室 教育 3 号館 1 階 3102-3

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目の SBOs を確認し、Web Class 上に掲載する講義資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に取り上げ、解説を加える等の対応を行います。

〔教員からの一言〕

2 年生で学ぶ「社会と薬学」は、3・4 年生で学ぶ「薬事関連法規と制度」につながります。これらは、薬局、病院、企業等どこで働くにしても薬剤師であれば理解しておかなければならないルールを学びます。

物理化学Ⅱ

Physical Chemistry II

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

青山 洋史

伊集院 良祐

高橋 浩司

学習目標 (GIO) 物質の状態変化や化学反応などの自然界で起こっている諸現象には、エネルギーと呼ばれる状態量の変化が関与している。諸現象が生じた際にエネルギーの形態はどのように変化するのか、どのような時に自発的な変化が起こるのか、などの知識を学ぶことで熱力学を習得する。また、物質は分子の集合体であり、物質の物理的性質は個々の分子の性質だけでなく分子の集合状態および分子間相互作用によって著しい影響を受ける。したがって、複雑な系における物質の状態を解析するために、物質の溶液の状態、相の状態（気相、液相、固相）と相変化、界面現象などに関する基礎的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	熱力学における系、外界、境界について説明できる。	C1-2-2-1
2	熱力学第一法則を説明できる。	C1-2-2-2
3	状態関数と経路関数の違いを説明できる。	C1-2-2-3
4	定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	C1-2-2-4
5	定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	C1-2-2-5
6	エンタルピーについて説明できる。	C1-2-2-6
7	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	C1-2-2-7
8	エントロピーについて説明できる。	C1-2-3-1
9	熱力学第二法則について説明できる。	C1-2-3-2
10	熱力学第三法則について説明できる。	C1-2-3-3
11	ギブズエネルギーについて説明できる。	C1-2-3-4
12	熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	C1-2-3-5
13	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	C1-2-4-1
14	ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	C1-2-4-2
15	平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	C1-2-4-3
16	共役反応の原理について説明できる。	C1-2-4-4
17	相変化に伴う熱の移動について説明できる。	C1-2-5-1
18	相平衡と相律について説明できる。	C1-2-5-2
19	状態図について説明できる。	C1-2-5-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	青山	熱力学における系、外界、境界について状態関数および経路関数について	1,3
2	"	熱力学第一法則と熱化学について	2,5,6
3	"	化学変化に伴うエンタルピー変化について	7
4	"	熱力学第二法則とエントロピーについて	8,9
5	"	カルノーサイクルについて	4,8,9
6	"	物理過程に伴うエントロピー変化について	4,8,9
7	"	熱力学第三法則について	8,10
8	"	化学反応における自由エネルギー変化について	11,12
9	"	ギブズ自由エネルギーの温度および圧力依存性について	11,12,13,14
10	"	生化学過程における共役反応について	16
11	"	相平衡と相律および一成分系の相図について	18,19
12	"	二成分および三成分系の相図について	18,19
13	青山・高橋	相変化に伴う熱の移動について	17
14	青山・伊集院	物質の溶解平衡および分配平衡について	14,15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に空欄を設けた講義資料を WebClass よりダウンロードし、講義中に空欄部分に対応する内容を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- 1) 講義開講日までに WebClass に講義資料をダウンロードできるようにすることで、受講者が講義の予習を十分に行えるようにしている。
- 2) 講義のはじめに、目標とするキーワードを示し、当日の講義に集中できるようにしている。
- 3) 講義中に、CBT や国家試験との関連を示し、要点を明確にしている。
- 4) 抜き打ちで小テストを行い、受講者の緊張感を保つようにしている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:演習問題にて評価する
 - 2) 総括的評価
 - a) 知識:定期試験 (100%)
- 評価基準の目安 (変動あり)
- ・ S (90 %以上) : 合格
 - ・ A (80 ~ 90 %未満): 合格
 - ・ B (70 ~ 80 %未満): 合格
 - ・ C (60 ~ 70 %未満): 合格
 - ・ D (60 %未満) : 不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

物理化学要論 第 6 版 (アトキンス著、千原秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

〔参考書〕

ボール物理化学 上下巻 (D.W.Ball 著、田中一義、阿竹 徹監訳 化学同人)
日本薬学会編 物理系薬学 I . 物質の物理的性質 (東京化学同人、スタンダード薬学シリーズ 2)
薬学領域の物理化学 (渋谷 皓編集、横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

青山 洋史 事前予約をとればいつでも可。
伊集院 良祐 事前予約をとればいつでも可。
高橋 浩司 いつでも可。

〔所属教室〕

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究 1 号館 3 階 303
伊集院 良祐 分子機能解析学教室 研究 1 号館 3 階 303
高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター 教育 2 号館 2 階 2209

〔準備学習 (予習・復習等)〕

WebClass のプリントを講義日までに一度は学習してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義の大項目が終わったタイミングで演習問題を WebClass より配布し、自学習の機会を設ける。

〔教員からの一言〕

前年度の物理化学 I が苦手と感じた人は、早いうちに復習をしておいてください。
熱力学の公式の導出には対数や微分積分を伴う計算が多数出てきます。高校時に数学が苦手だった人、忘れてしまった人は十分に復習をしておいてください。
なお、薬学部の熱力学は高校化学と重複する部分が多いです。高校の教科書や参考書を上手に活用しましょう。

臨床分析化学

Clinical Application of Analytical Chemistry

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

袴田 秀樹、小谷 明

学習目標 (GIO) 薬学の臨床や研究で分析技術を適切に応用するために、代表的な分析法の基本的知識を修得する。具体的には、生体試料の取り扱いと前処理法、光分析法、電気分析法、クロマトグラフィーや電気泳動による分離分析法、免疫学的測定法など、臨床や研究で使用されている分析法の原理と応用例を学修する。加えて、最近の生命科学の実験技術や臨床検査の概略を身につけ、更に代表的な画像診断技術の基本を学修する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。	C2-6-1-1
2	臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。	C2-6-1-2
3	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
4	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
5	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-3
6	原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-4
7	電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。	C1-2-6-3
8	代表的なドライケミストリーについて概説できる。	C2-6-2-4
9	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
10	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
11	クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	C2-5-1-5
12	電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	C2-5-2-1
13	臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。	C2-6-2-1
14	免疫化学的測定法の原理を説明できる。	C2-6-2-2
15	酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。	C2-6-2-3
16	代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。	C2-6-2-5
17	化学発光・生物発光の原理およびそれを利用する測定法を説明できる。	Y-3-11-2
18	質量分析法の生体分子解析への応用例について説明できる。	Y-3-13-1
19	代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。	Y-3-18-2
20	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-2-1
21	赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	袴田	イントロダクション 臨床における分析化学の役割、臨床検査の目的、臨床検査の種類 検査結果の意味づけ、基準値、病態識別値、精度管理の目的、精度管理の意義	2, 13
2	袴田	分析データの取り扱い 分析法の評価、分析法バリデーション、日常検査の精度管理、標準物質と標準化	3, 13
3	袴田	生体試料 (検体) の取り扱い 分析方法の選択、生体試料の採取、生体試料の保存と前処理	1, 13
4	袴田	赤外吸収スペクトル測定法の原理と応用例、核磁気共鳴スペクトル測定法の原理と応用例	20, 21
5	小谷	紫外可視吸光光度法を用いる臨床検査法 光分析総論、紫外可視吸光光度法の原理、臨床検査における測定例	4, 6, 8, 13
6	小谷	蛍光光度法又は発光を用いる臨床検査法 蛍光光度法の原理、臨床検査における測定例、発光を用いる分析法	5, 13, 17
7	小谷	電気分析法を用いる臨床検査法 電気分析法の原理、センサーによる臨床検査	7, 13, 19
8	小谷	クロマトグラフィー クロマトグラフィーの原理、HPLC における種々の高感度検出法、HPLC を用いる臨床検査法	9, 10, 11, 13, 18
9	袴田	電気泳動法 ゲル電気泳動、電気泳動を用いる臨床検査法、キャピラリー電気泳動 (1)	12, 13
10	袴田	電気泳動法 ゲル電気泳動、電気泳動を用いる臨床検査法、キャピラリー電気泳動 (2)	12, 13

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
11	袴田	生物学的分析法 バイオアッセイ、酵素化学的分析法、イムノアッセイを用いる臨床検査 (1)	13, 14
12	袴田	生物学的分析法 バイオアッセイ、酵素化学的分析法、イムノアッセイを用いる臨床検査 (2)	13, 15
13	袴田	画像検査の基本 内視鏡検査、X線 CT (コンピュータ断層撮影)、MRI、核医学検査 (1)	13, 16
14	袴田	画像検査の基本 内視鏡検査、X線 CT (コンピュータ断層撮影)、MRI、核医学検査 (2)	13, 16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各自が興味のある課題を選定し、それについてまとめるレポート提出を1回行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

教科書としてプリントを作成し、修得すべき内容をあらかじめ提示している。講義はパワーポイントを活用している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：講義に関するレポート等に基づき評価する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (95%) とレポート (5%) によって評価する。

〔教科書〕

プリントおよびスライドのWebClassでの配布

〔参考書〕

薬学生のための分析化学 第4版 (楠 文代他著 廣川書店)

第十七改正日本薬局方解説書 (廣川書店)

薬剤師に必要な臨床機器分析 (秋澤俊史編集 廣川書店)

薬学生のための分析化学問題集 (四宮一総 編集 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

いつでも可 分析化学教室 研究2号館406号 但し、要予約

〔所属教室〕

袴田 分析化学教室 研究2号館406号

小谷 分析化学教室 研究2号館406号

〔準備学習 (予習・復習等)〕

1年の化学平衡論と分析化学で取り扱った内容をよく理解してから授業に臨んで下さい。授業前にWebClassにある資料をダウンロードして、分からないところを把握した上で、講義を受けて下さい。講義後は、プリントの章末問題を解き、理解を確認してください。

〔学生へのフィードバック〕

フィードバック講義は行いませんが、受講者全員に周知した方がよいと考えられる質問等があった場合は、授業中に説明を行います。

機器分析学

Instrumental Analysis

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

柳田 顕郎

東海林 敦

学習目標 (GIO) 機器分析学は生命科学や医療薬学の基盤である。基本的な機器分析法の原理を修得すると同時に、生命科学や医療薬学と密接に関連した最先端技術について、それら技術を今後の医療の進展と的確に結びつけ、高度の薬剤師としての知識・技術を修得する。生体分子、化学物質の姿、かたちをとらえるために、それらの解析に必要な各種の計測法に関する基本的知識と技能修得の基盤を学ぶ。各種の分光法、質量分析、クロマトグラフィーの基本原則と知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
2	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-2
3	原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-4
4	旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
5	質量分析法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-3-1
6	X線結晶解析の原理および応用例を説明できる。	C2-4-4-1
7	粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。	C2-4-4-2
8	熱重量分析の原理および応用例を概説できる。	C2-4-5-1
9	示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。	C2-4-5-2
10	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
11	薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-2
12	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
13	ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	柳田、東海林	紫外可視吸光分析の原理と Lambert-Beer の法則	1
2	柳田、東海林	紫外可視吸光分析の応用例	1
3	柳田、東海林	蛍光分析の原理と応用例	2
4	柳田、東海林	原子吸光および原子発光分析	3
5	柳田、東海林	誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法	3
6	柳田、東海林	旋光度測定法と円二色性測定法	4
7	柳田、東海林	質量分析法の原理と応用	5
8	柳田、東海林	X線結晶解析および粉末 X線回折測定法	6,7
9	柳田、東海林	熱分析	8,9
10	柳田、東海林	クロマトグラフィーの理論	10,11,12,13
11	柳田、東海林	液体クロマトグラフィーの種類とその分離機構	10,12
12	柳田、東海林	ガスクロマトグラフィーの種類とその分離機構	10,13
13	柳田、東海林	クロマトグラフィーの応用例	10,11,12,13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・レポートを提出させる。
- ・リアクションペーパー (アンケート) を実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

機器分析で利用される物理現象を視覚的に理解できるようなパワーポイント資料を作成している。できるだけ、具体的な例を挙げて、機器分析の応用例を示し、機器分析における生命科学、創薬、医療薬学への貢献を理解できるようにする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: レポート課題により、知識の到達レベルを確認する。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (60%)、レポート (40%) にて評価する。

〔教科書〕

薬学生のための分析化学 -第 4 版- (廣川書店)

薬学生のための分析化学問題集 (四宮一総 編集 廣川書店)

プリント (WebClass で公開)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 研究 2 号館 405 号

〔所属教室〕

生体分析化学教室 研究 2 号館 4 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。指定されたキーワードを授業の前に調査してから講義に臨むこと。講義内容をまとめ、レポートとして提出する。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行う。レポート課題の内容について、必要に応じて授業中に解説する。

物理化学 III

Physical Chemistry III

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

伊集院 良祐

遠藤 朋宏

青山 洋史

学習目標 (GIO) 物質の状態変化や化学反応など自然界で起こっている諸現象において、変化の過程を時間の関数として取り扱う学問が反応速度論である。本講義では、物質の状態及び相互変換過程を解析できるようになるために反応速度論の基礎知識を修得する。

また、希薄溶液における束一性など、溶液の性質および結晶多形に関する基礎知識の習得を目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	相変化に伴う熱の移動について説明できる。	C1-2-5-1
2	希薄溶液の束一的性質について説明できる。	C1-2-6-1
3	活量と活量係数について説明できる。	C1-2-6-2
4	反応次数と速度定数について説明できる。	C1-3-1-1
5	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。	C1-3-1-2
6	代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	C1-3-1-3
7	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。	C1-3-1-4
8	代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。	C1-3-1-5
9	反応速度と温度との関係を説明できる。	C1-3-1-6
10	代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。	C1-3-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	伊集院	反応速度の表し方と反応次数について	4,6
2	"	基本的な反応速度式について-1	4,5,6
3	"	基本的な反応速度式について-2	4,6,7,8
4	"	複合反応の反応速度について-1	4,8
5	"	複合反応の反応速度について-2	5,8
6	"	反応速度と温度依存性について	8,9
7	"	衝突理論と遷移状態理論について	9,10
8	"	酸・塩基触媒反応について	9,10
9	"	酵素反応について	7,8,10
10	"	酵素阻害剤について	7,8,10
11	遠藤	ヘンリーの法則とラウールの法則について	2
12	"	結晶多形の確認方法および水への溶解性 希薄溶液の束一的性質について(沸点上昇、蒸気圧降下)	1,2
13	"	希薄溶液の束一的性質について(浸透圧、凝固点降下)	2
14	青山	活量と活量係数について	3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

公式の丸暗記を行うのではなく、考え方を学ぶために講義中に演習問題を行う。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義日までに資料を WebClass を用いて配布する。

講義にあたって、キーワードを提示し学ぶポイントを明確にする。

国家試験との関連性を明示し、どのように応用されているかを示す。

薬学になぜ物理化学が必要かを、他の科目との関連を説明する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識:演習問題にて評価する
2) 総括的評価
a) 知識:定期試験にて評価 (100%)

〔教科書〕

物理化学要論 第6版 (アトキンス著、千原 秀昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

〔参考書〕

薬学領域の物理化学 (渋谷 皓 編集 廣川書店)

レファレンス物理化学 (近藤 伸一、米持 悦生、山中 淳平 編集 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

伊集院 良祐 事前予約を取ること (メール可)

遠藤 朋宏 担当者の学習相談担当時間 (毎週更新される学習相談予定表を参照)

青山 洋史 事前予約を取ること (メール可)

〔所属教室〕

伊集院 良祐 分子機能解析学教室 研究1号館 303

遠藤 朋宏 薬学教育推進センター 教育2号館 2109

青山 洋史 分子機能解析学教室 研究1号館 303

〔準備学習 (予習・復習等)〕

WebClassの資料を講義日までに予習しておくこと

速度論の学習には微分・積分、指数・対数は絶対的に必要な知識である。

また、数式とグラフを関連付けることも重要である。

不安な場合には高校生の頃に使っていた教科書・参考書も活用し講義に臨むこと。

〔学生へのフィードバック〕

演習問題での結果に基づき、弱点を講義中に重点的に復習する。

前年度の定期試験で理解度が低かった部分の解法を理解できるようにする。

〔教員からの一言〕

物理化学で学ぶ内容は、薬学の基礎となるものです。物理という名前に惑わされずにしっかりと勉強してください。

重要なポイントとしては、文章から必要なグラフや数式を引き出すこと。またそのグラフや数式が意味していることを理解することが重要です。公式丸暗記ではその式にどの数値を用いるのかが解らなくなります。

質問に関しては、解らないところを明確に質問すること。ぼんやりと解らない、では対応しかねます。

有機化学 II

Organic Chemistry II

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

平島 真一 (C・D、E・F)

三浦 剛 (A・B、G・H)

学習目標 アルキンの基本構造，物理的性質，合成法の概略，炭素-炭素三重結合の関わる反応について理解する。また，有機ハロゲン化合物の構造，性質，製法，反応および立体化学との関連について理解する。(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アルキンの構造および性質を，その構成原子の構造，電子配置，結合の形態等に基づいて説明できる。	C3-2-2-3
2	アルキンの代表的な合成法について説明できる。	C3-2-2-3
3	アルキンに対するハロゲン化水素の付加反応の反応機構を記述し，立体化学および位置選択性を説明できる。	C3-1-1-7, C3-1-1-9, C3-2-2-3
4	アルキンのオキシ水銀化を経る水和反応，および，ヒドロホウ素化を経る水和反応の反応機構を記述し，位置選択性を説明できる。	C3-1-1-7, C3-1-1-9, C3-2-2-3
5	アルキンの接触水素化反応および Birch 還元によるアルケンの生成について，反応機構を記述し，立体化学を説明できる。	C3-1-1-7, C3-1-1-9, C3-2-2-3
6	アルキンからのアセチリドアニオンの生成と，そのアルキル化反応およびカルボニル基への付加反応について，反応機構を記述し，説明できる。	C3-1-1-9, C3-2-2-3
7	アルキンの代表的な位置選択的反応を列挙し，その機構と応用例について説明できる。	C3-1-1-7, C3-1-1-9, C3-2-2-3
8	アルケンおよびアルキンの各種反応を駆使した，標的化合物の合成経路を考案できる。	C3-2-2-1~3
9	有機ハロゲン化合物の構造と基本的性質を理解し，説明できる。	C3-3-2-1
10	アルカンのラジカルハロゲン化によるハロゲン化アルキル生成法の反応機構を記述し，説明できる。	C3-1-1-7, C3-3-2-1
11	ハロゲン化水素を用いる，第三級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法について，反応機構を記述し，立体化学を説明できる。	C3-3-2-1
12	SOCl_2 または PBr_3 を用いる，第一級または第二級アルコールからのハロゲン化アルキルの生成法について，反応機構を記述し，立体化学を説明できる。	C3-3-2-1
13	ハロゲン化アルキルと Mg を用いる Grignard 反応剤の生成反応について，説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-1
14	Grignard 反応剤と各種求電子剤との反応について，反応機構を記述し，説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-1, C3-3-4-1, C3-3-4-3
15	有機化合物の酸化・還元を，酸化数の概念に基づいて説明できる。	C3-3-2-1
16	S_N2 反応の反応機構を記述し，その立体化学および他の特徴 [基質の構造，求核剤，溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-2
17	S_N1 反応の反応機構を記述し，その立体化学および他の特徴 [基質の構造，求核剤，溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-2
18	$E1$ 反応の反応機構を記述し，その立体化学，位置選択性および他の特徴 [基質の構造，塩基，溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-3
19	$E2$ 反応の反応機構を記述し，その立体化学，位置選択性および他の特徴 [基質の構造，塩基，溶媒等の満たすべき要請] について説明できる。	C3-1-1-9, C3-2-1-4~5, C3-3-2-3
20	Walden サイクルの各反応段階の反応機構を記述し，立体化学を説明できる。	C3-1-1-9, C3-3-2-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平島，三浦	"アルキンの構造，性質 アルキンに対するハロゲン化水素の付加反応およびハロゲンの付加反応：反応機構，位置選択性 アルキンのオキシ水銀化を経る水和反応，およびヒドロホウ素化を経る水和反応：反応機構，位置選択性"	1-4, 7
2	"	アルキンの接触水素化反応および Birch 還元：反応機構，立体化学	5, 7
3	"	"アルキンからのアセチリドアニオンの生成：炭化水素の pKa と S 性 アセチリドアニオンのアルキル化反応：反応機構"	6, 7
4	"	アルケンおよびアルキンの各種反応による標的化合物の合成	1-8

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	"	"有機ハロゲン化合物の構造, 基本的性質, 命名 アルカンのラジカルハロゲン化によるハロゲン化アルキル 生成法"	9, 10
6	"	"ハロゲン化水素を用いる, 第三級アルコールからのハロゲ ン化アルキルの生成法 SOCl ₂ または PBr ₃ を用いる, 第一級または第二級アル コールからのハロゲン化アルキルの生成法"	11, 12
7	"	"ハロゲン化アルキルからの Grignard 反応剤およびアルキ ルリチウム反応剤の生成, 各種求電子剤との反応 有機化学における酸化・還元, 酸化数の概念"	13-15
8	"	S _N 2 反応: 反応機構, 立体化学	16, 20
9	"	S _N 1 反応: 反応機構, 立体化学	17
10	"	E1 反応, E2 反応の概略	18, 19
11	"	E1 反応: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	18
12	"	E2 反応: 反応機構, 立体化学, 位置選択性	19
13	"	"脱離反応とシクロヘキサンの立体配座 Walden サイクルとその立体化学"	19, 20
14	"	S _N 1 反応, S _N 2 反応, E1 反応, E2 反応の特徴に関するま とめ: 反応基質の構造が反応経路に与える影響 (立体効果, 脱離基の脱離能), 求核剤および塩基の性質が反応経路に与 える影響, 溶媒効果等	16-20

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義した内容に関する演習問題や薬剤師国家試験問題を実際に問いてもらってから、解説し、知識の定着に役立てている。また、各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

種々の性質、現象、反応等をもたらす「根本原理」を理解するため、常に、その分子の構成原子の性質、結合形態にまで立ち返り考察することに努めている。また、立体化学を理解するために、分子模型や反応機構動画を活用した視覚的に分かり易い講義を実施している。また、新たに学ぶ反応については、反応機構を深く理解し、記述できるようになることに重点をおいている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 適宜、演習問題やレポートを課す。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (100%) にて評価する。再試験を 1 回実施する。ただし、本試験の成績が著しく不良である際は、再試験の受験資格を認めないことがある。

< 評価 (総括的評価) >

- ・ S (85% 以上) : 合格
 - ・ A (70~85% 未満): 合格
 - ・ B (60~70% 未満): 合格
 - ・ D (60% 未満) : 不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版 (上, 中, 下) (J. McMurry 著, 伊藤ら 訳, 東京化学同人)

マクマリー有機化学 問題の解き方 第9版 (S. McMurry 著, 東京化学同人)

〔参考書〕

「有機化学」ワークブック (奥山格 著, 丸善)

有機反応機構 (P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)

ウォーレン 有機化学 (W. Warren ら 著, 野依ら 監訳, 東京化学同人)

有機化学 (奥山格 著, 丸善)

ボルハルト・ショアー 現代有機化学 (K. P. C. Vollhardt, N. E. Schore 著, 古賀ら 監訳, 化学同人)

有機化学 基礎の基礎 (山本嘉則 編著, 化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

平島 真一 薬化学教室 講師 研究2号館3階306

三浦 剛 薬化学教室 教授 研究2号館3階306

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義開始時に、前回の講義の復習を短時間で行っている。演習問題を課し、予習復習に役立てる。事前に講義プリントを WebClass から配布するので、予習に利用できる。さらに、講義で使用したパワーポイントファイルも WebClass から配布するので、復習に利用できる。

〔学生へのフィードバック〕

定期試験の解説をフィードバック講義にて実施する。

〔教員からの一言〕

無機化学，基礎化学，一般化学、有機化学Iの学習内容が前提となるので，よく復習し，修得しておくこと。

有機化学 III

Organic Chemistry III

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

松本 隆司 (E・F, G・H)

矢内 光 (A・B, C・D)

学 習 目 標 芳香族化合物の構造, 性質, 反応, 合成法などに関する基本的事項を修得する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	ベンゼン誘導体の性質と反応性を理解し, 説明できる。	C3-1-1-4, C3-2-3-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1
2	芳香族性の概念を説明できる。	C3-1-1-4, C3-2-3-2
3	芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	C3-1-1-4, C3-2-3-4, C3-3-5-1, C3-3-6-1, C3-3-7-2
4	ベンゼン誘導体の求電子置換反応の反応性, 配向性, 置換基の効果について理解し, 説明できる。	C3-1-1-4, C3-1-1-9, C3-2-3-3, C3-3-4-2~3, C3-3-6-1
5	代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性, 配向性, 置換基の効果について理解し, 説明できる	C3-1-1-4, C3-1-1-9, C3-2-3-5, C3-3-6-1
6	代表的な官能基を理解し, 性質を説明できる。	C3-1-1-4, C3-3-1-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1~2
7	含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。	C3-3-7-2
8	フェノール類の性質と反応を理解し, 説明できる。	C3-1-1-4, C3-1-1-9, C3-3-3-1, C3-3-7-1
9	芳香族化合物の求核置換反応の反応性, 置換基の効果について理解し, 説明できる。	Y-3-22-1, Y-3-29-5
10	アミン類の基本的な性質と反応を列挙し, 説明できる。	C3-3-5-1
11	置換芳香族化合物の基本的な合成法を理解し, 説明できる。	C3-1-1-4, C3-1-1-9, C3-2-2-1~2, C3-3-3-1~2, C3-3-4-1, C3-3-4-3, C3-3-6-1, Y-3-29-5

授業内容

回 数	担 当	内 容	対応 (SBOs)
1, 2	松本, 矢内	ベンゼンと芳香族性	1, 2
3, 4	松本, 矢内	芳香族イオン, 複素環式芳香族化合物, 多環式芳香族化合物	2, 3, 7
5, 6	松本, 矢内	芳香族求電子置換反応	4
7, 8, 9	松本, 矢内	芳香族求電子置換反応の配向性と置換基効果	3, 4, 5, 6
10, 11	松本, 矢内	芳香族求核置換反応	9
12~15	松本, 矢内	置換芳香族化合物の変換と合成	4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
適宜, 課題による演習を実施する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 課題演習により, 知識の到達レベルの確認する。

c) 態度: 受講状況, 課題・演習の結果を記録する。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (100%); 本試験の成績が著しく不良である場合には, 再試験の受験資格を認めないことがある。

c) 態度: 受講態度, 課題・演習への取り組み態度が不良である場合には減点する。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版(上,中,下)(J. McMurry 著,伊東ら 訳,東京化学同人)
マクマリー有機化学問題の解き方 第9版(S. McMurry 著,東京化学同人)

〔参考書〕

有機反応機構(P. Sykes 著,久保田尚志 訳,東京化学同人)

最新 全有機化合物名称のつけ方(廖春荣 著,三共出版)

ウォーレン 有機化学(W. Warren 著,野依ら 訳,東京化学同人)

ボルハルト・ショアー 現代有機化学(K. P. C. Volhardt, N. E. Schore 著,古賀ら 訳,化学同人)

有機化学(奥山ら 著,丸善)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし,要予約。

〔所属教室〕

松本隆司 薬品製造学教室 研究2号館3階304

矢内 光 薬品製造学教室 研究2号館3階304

〔準備学習(予習・復習等)〕

本科目の学習内容を理解するには,これ以前の有機化学系科目を習得していることが必要である。必ず,よく復習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

講義や課題に対する質問に,個別に対応する。

〔教員からの一言〕

全ての内容について,しっかりと「理解し」,「紙に書いて他人に説明できる」ことを求めます。まずは,教科書を隅々まで何度も読み返す癖をつけて下さい。また,章末問題は全て解いて,ノートに書くようにして下さい。

植物薬品学

Pharmacognosy

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

黒田 明平 横須賀 章人 松尾 侑希子 (E・F、G・H)

蓮田 知代 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 日本薬局方に記載されている主として植物性医薬品のうち、国家試験に頻出する重要なものについて理解するために、基原植物の産地、性状、薬用部位、薬効、成分、確認試験などに関する基礎的知識を修得する。また、植物性医薬品が古来からの漢方薬のみならず、現代医療においても重要であることを理解するために、最近の話題、研究成果、植物性医薬品の発展経緯などに関する基礎的知識も修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬用植物の歴史について概説できる。	Y-3-39-1
2	生薬の歴史について説明できる。	Y-3-40-1
3	生薬の生産と流通について説明できる。	Y-3-40-2
4	シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して説明できる。	Y-3-43-2
5	医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を挙げて説明できる。	Y-3-43-3
6	代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げて説明できる。	C5-1-1-1
7	代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	C5-1-1-2
8	法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。	C5-1-1-4
9	日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を挙げて説明し、その基原、薬用部位を説明できる。	C5-1-2-1
10	日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	C5-1-3-1
11	副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を挙げて説明できる。	C5-1-3-2
12	日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	C5-1-4-2
13	代表的な生薬の確認試験を説明できる。	C5-1-4-4
14	生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	C5-2-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1、2	黒田、蓮田	1) 植物性医薬品と日本薬局方収載生薬 2) 植物の特殊性と正しい取扱い 3) 生薬の歴史と特徴、生産と流通、植物の器官および分類体系 4) 成分分類、生合成経路、品質評価	1-5、12、14
3	横須賀、蓮田	藻類、真菌類、および裸子植物を基原とする生薬(カンテン、マクリ、チョレイ、ブクリョウ、マオウなど)	6、7、9-13
4~8	"	離弁花植物を基原とする生薬(ダイオウ、ケイヒ、オウレン、プシ、ジュウヤク、シャクヤク、ボタンビ、アヘン、キョウニン、トウニン、カンゾウ、センナ、オウバク、オンジ、ニンジン、ウイキョウ、サイコなど)	6-13
9~11	松尾、蓮田	合弁花植物を基原とする生薬(ウワウルシ、ゲンチアナ、センブリ、オウゴン、ハッカ、ロートコン、ペラドンナコン、ジギタリス、ソウジュツ、ビャクジュツなど)	6、7、9-13
12	"	単子葉植物を基原とする生薬(アロエ、バクモンドウ、サフラン、ピンロウジ、ハンゲ、ウコン、ショウキョウなど)	6、7、9-13
13	"	1) 動物・鉱物を由来とする生薬(ボレイ、センソ、コウタン、ゴオウ、カッセキ、セッコウ、リュウコツなど) 2) 植物から医薬品開発の現状	6、7、9-13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、授業の進行に伴い空欄部分を記入させる。全講義終了時には、補助プリントがまとめノートとなるように仕上げる。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本学薬用植物園に於いて、生薬の基となる植物(基原植物)や薬用植物を観察し、学生の理解度をより深める機会を設けている。

ニュース等で取り上げられた植物（毒草なども含む）、生薬、天然由来化学成分などを解説し、講義で扱っている薬用植物、生薬との関連を示すことで、学生に理解を深めるように促している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
a) 知識: 適宜課題演習を行い、解答と解説を提示してフィードバックする。
- 2) 総括的評価
a) 知識: 定期試験により評価する（100%）。

〔教科書〕

パートナー生薬学（改訂第3版増補）（竹谷、木内、小松編、南江堂）

〔参考書〕

第十七改正 日本薬局方解説書 学生版（廣川書店）

カラーグラフィック薬用植物 第4版（北中、寺林、高野編、廣川書店）

〔オフィスアワー〕

黒田 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい
薬学教育推進センター 教育2号館2110室

横須賀 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい
漢方資源応用学教室 研究2号館408室

松尾 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい
漢方資源応用学教室 研究2号館408室

蓮田 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい
天然医薬品化学講座 研究1号館201室

〔所属教室〕

黒田 薬学教育推進センター 教育2号館2110室

横須賀 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

松尾 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

蓮田 天然医薬品化学講座 研究1号館201室

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、予習をすること。講義において学んだ生薬については、基原植物（科名、学名など）、薬用部位、主要成分（薬効成分）、用途等をしっかり復習し、次回の授業に臨むこと。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問などに対して、必要に応じて講義中に全学生に対してその内容を伝え、解説等の対応を行っている。

〔教員からの一言〕

植物薬品学は、薬学部に入学者初めての生薬、薬用植物に関する講義である。本講義は、2年後期「生薬学」、3年前期「漢方薬物学Ⅰ」につながる重要な科目なので、予習復習を怠らず、受講すること。出席不良者に対しては、受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。

生薬学

Chemistry of Natural Medicines

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

一柳 幸生

学習目標 (GIO) 生薬は我が国における医薬品の原点である。医師が薬師（クスシ）と呼ばれていた時代、彼等は専ら生薬を治療に供していた。明治以降、西欧文明の上に立つ学問は分析的な方向に進み、生薬を研究する学問は細分化されて、有機化学、薬理学、生化学、植物栽培学などが関与するようになった。本講義では2年前期の植物薬品学を基に生薬を化学的な側面、更には広い視野から見て、薬効成分、成分の確認、生合成、利用などを修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	生薬より薬効成分発見の歴史について概説できる。	C5-2-4-1
2	医薬品として使われている天然有機化合物を、具体例を挙げて説明できる。	C5-2-4-1
3	天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を、具体例を挙げて説明できる。	C5-2-4-2
4	代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。	C5-2-1-1
5	代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-3, C5-2-4-3
6	代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-3
7	代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-2~3
8	代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-4, C5-2-4-3
9	代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-2, C5-2-1-4
10	代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。	C5-2-1-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	一柳	生薬学の目的、天然医薬品化学の歴史など	1, 2
2	一柳	生薬成分の生合成経路について	4
3~4	一柳	生理活性を有する成分各論 (フェノール性成分: クマリン、フラボン、タンニン、リグナンなど)	2, 3, 5, 6, 7
5	一柳	生理活性を有する成分各論 (キノン類: ベンゾキノン、ナフトキノン、アントラキノン、フェナントラキノンなど)	2, 7
6~7	一柳	生理活性を有する成分各論 (テルペン類・ステロイド)	2, 3, 8
8	一柳	生理活性を有する成分各論 (配糖体: サポニン、強心配糖体、グルコシノレート、靑酸配糖体など)	2, 9
9~11	一柳	生理活性を有する成分各論 (真性アルカロイド: キニーネ、ニコチン、モルヒネ、ベルベリン、アトロピン、パッカクアルカロイドなど)	2, 3, 10
12	一柳	生理活性を有する成分各論 (プソイドアルカロイド、辛味成分、色素など)	2, 7, 8, 10
13	一柳	新薬開発における生薬及び生薬成分の利用について	2, 3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

習熟度に懸念のある学生に課題を提出させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

復習に役立つ資料を WebClass 上に公開または配布する。教科書等に記載されていない情報を随時提供する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識: 講義中に質問等を行う。

2) 総括的評価

知識: 定期試験により評価する (100%)。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

パートナー天然物化学 第3版（海老塚、森田、阿部編 南江堂）

〔参考書〕

Medicinal Natural Products: A Biosynthetic Approach, 3rd edition (Paul M. Dewick 著 Wiley)

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可

〔所属教室〕

天然医薬品化学講座 研究1号館2階

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行ってください。授業を受ける前に教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

試験結果から習熟度が低いと思われる項目について講義内容の見直しを行っている。

機能形態学 III

Human Anatomy and Physiology III

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

馬場 広子、山口 宜秀、林 明子、石橋 智子

学習目標 (GIO) ヒトの成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解し、ホメオスタシス（恒常性）の維持機構を理解するために、機能形態学Ⅰ（1 年前期）、Ⅱ（1 年後期）、Ⅲ（2 年前期）によって生命体の構造とダイナミックな機能調節機構に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-10-1
2	尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	C7-2-7-2
3	体液の調節機構を説明できる。	C7-2-7-1
4	血液、肺、腎における酸塩基平衡の調節を説明できる。	C7-2-7-1
5	血液の pH 変化と酸素解離曲線との関係について説明できる。	C7-2-7-1
6	皮膚の構造と働きを説明できる。	C7-1-6-1
7	皮膚の付属器とそれぞれの働きを説明できる。	C7-1-6-1
8	体温の調節機構を説明できる。	C7-2-8-1
9	肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-8-1, C7-2-1-3
10	肺および組織におけるガス交換を説明できる。	C7-1-8-1, C7-2-1-3
11	脳下垂体、甲状腺、副腎などの主な内分泌系臓器の機能と構造を関連づけて説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-2-1
12	主要なホルモンの分泌機および作用機構を説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-2-1
13	血糖の調節機構を説明できる。	C7-2-6-1
14	生殖腺と性ホルモン分泌調節を関連づけて説明できる。	C7-1-11-1, C7-2-10-1, C7-2-2-1
15	性ホルモンの種類とそれぞれの働きを説明できる。	C7-1-11-1, C7-2-10-1, C7-2-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	馬場	泌尿器系 (1)	1、2
2	"	泌尿器系 (2)	1、2
3	"	泌尿器系 (3)	1、2
4	"	体液調節、イオンバランス、血圧調節、酸塩基平衡 (1)	3、4、5
5	"	体液調節、イオンバランス、血圧調節、酸塩基平衡 (2)	3、4、5
6	林	皮膚	6、7
7	"	体温調節	8
8	石橋	呼吸器系 (1)	9、10
9	"	呼吸器系 (2)	9、10
10	山口	内分泌系 (1)	11、12
11	"	内分泌系 (2)	11、12
12	"	内分泌系 (3) 生殖器系 (1)	12、13、14、15
13	"	生殖器系 (2)	14、15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書の図をスライドに使用し、内容を確認させながら講義を実施している。
リアクションペーパー（アンケート）を実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。確認問題集を使用することで復習の助けとしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (100%) にて評価する。再試験を 1 回実施する。

注) 出席や受講態度の不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。また、定期試験の結果が極めて悪い場合には、再試験の受験を認めないことがある。

〔教科書〕

グラフィカル機能形態学 (馬場編 京都廣川書店)

グラフィカル機能形態学 確認問題演習 (馬場編 京都廣川書店)

入門人体解剖学 改訂第 5 版 (藤田著 南江堂)

〔参考書〕

標準生理学 第 9 版 (本間監修 医学書院)

カラー図解 人体の正常構造と機能【全 10 巻縮刷版】 < 第 3 版 > (坂井, 河原 編 日本医事新報社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、あらかじめ教室を訪問し、予約すること。

〔所属教室〕

馬場、山口、林、石橋 機能形態学教室 研究 1 号館 202 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義前に必ず、グラフィカル機能形態学の講義関連部分を読み、予習すること。講義中にノートや教科書にメモしたものを利用し、再度、教科書を読みながら講義内容を復習すること。また確認問題集も使用し復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

アンケート結果をもとに講義を改善している。

〔教員からの一言〕

ここで得られる知識は「薬理学」や「疾病と薬物治療」などに直結します。予習・復習をするだけで講義のおもしろさは変わりますので、必ず実行してください。また講義中は、自分が重要だと思ったことや疑問に思ったことを必ずメモしながら受講し、復習に役立ててください。

生化学 II

Biochemistry II

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

佐藤 隆 (A・B、C・D、E・F、G・H)

学習目標 (GIO) 生化学 II では、生物 (ヒト) における生命現象を、生体を構成する分子による生体内化学反応と捉え、その一連の反応である代謝を分子レベルで理解することを学習目標とする。当該科目では、生体内化学反応のための生体触媒である酵素の性質と役割に基づき、糖質および脂質の消化吸収と代謝および生体酸化とエネルギー産生について学ぶ。また、これら代謝の異常と疾病との関連性についても学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	糖質の消化と吸収について説明できる。	D1-3-1-2
2	解糖系の特徴と経路について説明できる。	C6-5-2-1
3	基質レベルのリン酸化について説明できる。	C6-5-2-1
4	好気的および嫌気的条件下におけるピルビン酸の代謝を説明できる。	C6-5-2-1, Y-3-53-2
5	クエン酸回路について説明できる。	C6-5-2-2
6	ペントースリン酸回路やグルクロン酸経路の生理的意義と解糖系との繋がりに関して説明できる。	C6-5-5-3
7	糖新生について説明できる。	C6-5-2-5
8	グリコーゲンの代謝調節 (生合成と分解) について説明できる。	C6-5-2-4
9	糖質の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	C7-2-6-1
10	電子伝達系 (酸化的リン酸化) における ATP 産生について説明できる。	C6-5-2-3
11	電子伝達系および酸化的リン酸化の阻害物質を列挙し、その阻害機構について説明できる。	Y-3-53-1
12	還元型補酵素 (NADH) のミトコンドリアへの移行機構について説明できる。	Y-3-53-3
13	脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	C6-2-1-1
14	脂質の運搬に関わる血漿リポタンパク質を挙げて、その特性と役割について説明できる。	C6-3-4-2
15	脂肪酸の酸化 (β 酸化) について説明できる。	C6-5-3-1
16	ケトン体の生成とその生体内利用について説明できる。	C6-5-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2	佐藤	糖質の消化と吸収、嫌気的条件下での糖代謝 (解糖系)、好気的条件下での糖代謝 (クエン酸回路)	1、2、3、5
3~4	佐藤	アルコール発酵と乳酸発酵、ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路	4、6
5~6	佐藤	糖新生、グリコーゲン合成と分解およびその調節	7、8、9
7~8	佐藤	ミトコンドリアにおける電子伝達系と酸化的リン酸化による ATP の産生、電子伝達系および酸化的リン酸化の阻害物質	10、11、12
9~10	佐藤	脂質の分類、構造および役割、脂質の消化・吸収および運搬	13、14
11~12	佐藤	脂肪酸の β 酸化、ケトン体の生成とその利用	15、16
13~14	佐藤	振り返り講義	1~16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. 補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
2. WebClass を利用した振り返り学習として練習問題を課し、各自で自習できるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

1. 1 年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1 年生後期の「生化学 I」、2 年生の「生化学 III」さらに 3 年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義ととらえ一貫性を重視し講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。
2. WebClass では、講義に使用する補助プリントおよびスライド資料 (一部) についても公開している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:WebClass を活用し、知識レベルの到達度を確認させている。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験および WebClass 課題にて評価する (100%)、再試験を 1 回実施する。

〔教科書〕

薬学領域の生化学 第 2 版 (伊東 晃編集 廣川書店)

〔参考書〕

生物系薬学 I (スタンダード薬学シリーズ II-4) 生命現象の基礎 (日本薬学会編 東京化学同人)

生物系薬学 IV 演習編 (日本薬学会編 東京化学同人)

ハーバー・生化学 (上代 淑人監訳 丸善)

ロスコスキー生化学 (田島 陽太郎監訳 西村書店)

マッキー生化学 (市川 厚監修 福岡 伸一監訳 化学同人)

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可ですが、あらかじめ時間の確認のため連絡が必要。

〔所属教室〕

佐藤 隆 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

・講義プリント (WebClass により事前配布) は事前に読んで、講義に臨んでください。

・講義の冒頭に、前回の講義内容について復習をします。

〔学生へのフィードバック〕

知識の定着を図るために、全体の振り返り講義を実施します。

〔教員からの一言〕

教科書を読む習慣をつけてください。WebClass を活用して勉強する癖をつけてください。

微生物学

Basic Microbiology

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

中南 秀将 (E・F)

輪島 文明 (G・H)

中瀬 恵亮 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 地球上には、原虫、真菌、細菌、ウイルスなど、多種多様な微生物が存在し、物質循環の一端を担っている。さらに、微生物には、疾病の予防や治療に役立つものもあり、様々な角度からヒトと深く関わっている。このような微生物を理解するために、分類、形態、構造および生活史等の基本的な知識を習得する。さらに、有害な微生物による汚染や感染を予防するために必要な滅菌、消毒や感染症治療薬の基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	微生物学の歴史について概説できる。	A-1-4-1~2
2	微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	C5-2-2-1~2
3	微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	C5-2-2-2
4	細菌のDNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	C6-4-1-1~2
5	細菌のDNAの複製、転写、翻訳過程について説明できる。	C6-4-3-1, C6-4-4-1, C6-4-4-5
6	原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	C8-3-1-1
7	細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。	C8-3-2-1
8	細菌の構造と増殖機構について説明できる。	C8-3-2-2
9	細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。	C8-3-2-3
10	細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。	C8-3-2-4
11	代表的な細菌毒素について説明できる。	C8-3-2-6
12	ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	C8-3-3-1
13	真菌の性状を概説できる。	C8-3-4-1
14	原虫および蠕虫の性状を概説できる。	C8-3-4-2
15	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8-3-5-1
16	主な滅菌法および消毒法について説明できる。	C8-3-5-2
17	ヒトや環境中の常在微生物について説明できる。	C8-4-1-1
18	真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。	C8-4-2-8
19	原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。	C8-4-2-9
20	以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル)を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬	E2-7-1-1
21	代表的な抗菌薬の基本構造と薬理作用を概説できる。	E2-7-10-1
22	代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。	Y-3-63-1
23	プリオンの構造と感染機構について分子レベルで説明できる。	Y-3-66-1
24	代表的なグラム陽性菌と陰性菌について概説できる。	C8-4-2-3~6
25	代表的なDNAウイルスとRNAウイルスについて概説できる。	C8-4-2-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	中南、輪島、中瀬	微生物学の歴史 微生物の分類	1、6、7
2	"	微生物細胞の形態	7
3	"	細菌の細胞構造と染色法 細菌の増殖機構と代謝機構	8、9
4	"	代表的なグラム陽性菌、陰性菌	24
5	"	細菌の遺伝と変異、毒素	4、5、10、11
6	"	ウイルスの基本構造と増殖機構	12、22

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
7	"	代表的な DNA ウイルス、RNA ウイルス	25
8	"	真菌の形態、構造、生理	13、18
9	"	原虫・寄生虫の形態と性状	14、19
10	"	環境と微生物、常在微生物	17
11	"	抗菌薬の構造的分類と作用点 (1)	2、3、20、21
12	"	抗菌薬の構造的分類と作用点 (2)	2、3、20、21
13	"	滅菌法と消毒法	15、16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に、適宜学生を指名し答えさせる。また、重要なポイントに関しては、メモを取らせるようにする。また、WebClass 上に練習問題を掲載し、各自で知識の定着を図らせる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義は教科書を中心に行うが、パワーポイント等を用いて最新の感染症情報を随時提供している。また、図や顕微鏡写真を用いて、通常は見えない微生物を視覚的にとらえられるような講義を行っている。講義内容の定着を目的とした、練習問題を WebClass で公開している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：ペーパー試験に加え、WebClass の確認問題や口頭試問等にて評価する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (80%)、WebClass の確認問題 (20%) 等にて評価する。

成績評価の基準

S (90% 以上): 合格

A (80 ~ 89%): 合格

B (70 ~ 79%): 合格

C (60 ~ 69%): 合格

D (60% 未満): 不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

出席不良者 (全講義の 1/3 以上の欠席) に対しては、定期試験の受験停止措置を講ずることがある。欠席や遅刻等で、適切な理由があるものは欠席届を提出すること。

〔教科書〕

新しい微生物学 第 5 版 (廣川書店)

〔参考書〕

戸田新細菌学 (吉田 真一ら編 南山堂)

標準微生物学 (神谷 茂ら編 医学書院)

ブラック微生物学 (林 英生ら監訳 丸善)

イラストレイテッド微生物学 (山口 恵三ら監訳 丸善)

病原真菌と真菌症 (山口 英世著 南山堂)

〔オフィスアワー〕

中南、輪島、中瀬 いつでも可 (病原微生物学教室)

〔所属教室〕

中南 秀将 病原微生物学教室 研究 2 号館 5 階

輪島 文明 病原微生物学教室 研究 2 号館 5 階

中瀬 恵亮 病原微生物学教室 研究 2 号館 5 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義資料は WebClass に掲載しますので各自ダウンロードし、持参してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義前に前回の講義内容に関する練習問題を行い、解答と解説によるフィードバックを行う。また、定期試験後は、試験に関する質問を随時受け付け、フィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

微生物は、我々の周りに広く存在しています。しかし、肉眼で見えない分、理解しにくいかもしれません。分からないことがあれば積極的に質問し解決するようにしてください。

生化学 III

Biochemistry III

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

佐藤 隆 (C・D、G・H)

水野 晃治 (A・B、E・F)

学習目標 (GIO) 生物(ヒト)における生命活動は、生体に摂取された物質あるいは生体を構成する成分の化学反応から生じる生体エネルギーにより支えられていると捉えることができる。当該科目では、生化学 II で学んだ糖質代謝およびエネルギー産生機構と脂質分解に加えて、脂質の生合成調節、また生体における重要な構成成分であるアミノ酸(タンパク質)および核酸の代謝とその調節について、基本的な知識を学習する。さらに、生化学 I および II で習得した代謝に関する知識も含めて、生体内における代謝の総合的な調節機構について学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	脂肪酸の生合成と変換について説明できる。	C6-5-3-1, C6-5-4-2
2	アラキドン酸代謝経路とその阻害物質について説明できる。	Y-3-59-1
3	グリセリン脂質の生合成経路について説明できる。	Y-3-54-1
4	コレステロールの生合成経路と代謝について説明できる。	C6-5-3-2
5	貯蔵脂肪からの脂肪酸の動員機構について説明できる。	C6-5-4-2
6	脂質の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	E2-5-1-2
7	アミノ基の転移・除去(酸化的脱アミノ化)について説明できる。	C6-5-5-1
8	ケト原性、糖原性アミノ酸を分類し、それらのクエン酸回路中間体との関連性について説明できる。	Y-3-55-1
9	アンモニアの代謝機構および尿素回路(オルニチン回路)について説明できる。	C6-5-5-1
10	アミノ酸が関与する特殊な生体成分や生理活性物質(生理活性アミンなど)の生合成について説明できる。	C6-5-5-1
11	芳香族アミノ酸および分枝アミノ酸の代謝について説明できる。	C6-5-5-1
12	アミノ酸の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	C6-5-5-1
13	DNA と RNA の構造について説明できる。	C6-2-5-1
14	核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。	C6-5-5-2
15	各生体成分の統合的な代謝系路について概説できる。	C6-5-1-1, X-6-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~2	佐藤、水野	脂肪酸の生合成と変換	1、2、5、6
3	佐藤、水野	リン脂質の代謝、コレステロールの代謝	3、4
4	佐藤、水野	アミノ酸代謝:アミノ基の転移・除去反応、アミノ酸代謝と糖代謝との関連	7、8
5~6	佐藤、水野	アンモニア代謝と尿素回路	9
7~8	佐藤、水野	アミノ酸が関与する特殊な生体成分および生理活性物質の生合成とその機能	10
9	佐藤、水野	芳香族アミノ酸の代謝、分枝アミノ酸の代謝、生理活性アミンの生合成	11、12
10~11	佐藤、水野	DNA と RNA の構造、核酸の代謝:プリン・ピリミジン骨格の生合成と異化作用	13、14
12	佐藤、水野	生体における代謝の総合的調節機構	15
13	佐藤、水野	振り返り講義	1~15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. 補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
2. WebClass を利用した振り返り学習として練習問題を課し、各自で自習できるようにしている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

1. 1 年生前期の「生物学」および「細胞生物学」、1 年生後期の「生化学 I」、2 年生の「生化学 III」さらに 3 年生の「バイオ医薬品」を生物系の関連科目、すなわち基礎から応用までステップアップする講義とと

ら一貫性を重視し講義の理解度を上げることを工夫している。一方、限られた講義時間を効率よく利用するために講義の重複部分についても必要・不要等の調整をおこなっている。

2. WebClass では、講義に使用する補助プリントおよびスライド資料（一部）についても公開している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:WebClass を活用し、知識レベルの到達度を確認させている。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験および WebClass 課題にて評価する（100%）、再試験を 1 回実施する。

〔教科書〕

薬学領域の生化学 第 2 版（伊東 晃編集 廣川書店）

〔参考書〕

生物系薬学Ⅰ（スタンダード薬学シリーズⅡ-4）生命現象の基礎（日本薬学会編 東京化学同人）

生物系薬学Ⅳ 演習編（日本薬学会編 東京化学同人）

ハーバー・生化学（上代 淑人監訳 丸善）

ロスコスキー生化学（田島 陽太郎監訳 西村書店）

マッキー生化学（市川 厚監修 福岡 伸一監訳 化学同人）

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

佐藤 隆 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

水野 晃治 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・ 講義プリント（WebClass により事前配布）は事前に読んで、講義に臨んでください。

・ 講義の冒頭に、前回の講義内容について復習をします。

〔学生へのフィードバック〕

最終回の講義において、全体の振り返り講義を実施します。

定期試験問題に関するフィードバック講義を行います。

〔教員からの一言〕

教科書を読む習慣をつけてください。WebClass を活用して勉強する癖をつけてください。

病原微生物学

Pathogenic Microbiology

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

中南 秀将 (A・B、C・D)

輪島 文明 (E・F)

中瀬 恵亮 (G・H)

学 習 目 標 (GIO) 多種多様な微生物のうち、ヒトや動物に感染症を起こすものが病原微生物と呼ばれる。感染症の予防と治療には、原因となる微生物の特徴や病原性、感染メカニズムを理解することが重要である。また、感染症治療薬の特徴や作用メカニズムに関する知識も必要である。本講義では、代表的な病原微生物と感染症治療薬の基礎的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。	C8-4-1-1
2	DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。	C8-4-2-1
3	RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。	C8-4-2-2
4	グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など）について概説できる。	C8-4-2-3
5	グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。	C8-4-2-4
6	グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。	C8-4-2-5
7	抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。	C8-4-2-6
8	マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。	C8-4-2-7
9	真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。	C8-4-2-8
10	原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど） 蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。	C8-4-2-9
11	代表的な細菌毒素について説明できる。	C8-3-2-6
12	感染症法における、感染症とその分類について説明できる。	D1-2-2-2
13	代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。	D1-3-3-1
14	代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-7
15	以下の抗菌薬の薬理作用、機序、スペクトルを説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノグリコシド系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤、その他の抗菌薬	C4-3-4-3~5, E2-7-1-1
16	細菌感染症に関係する代表的な生物製剤（ワクチン）をあげ、その作用機序を説明できる。	E2-7-1-2
17	ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理、予防方法および病態・薬物治療を説明できる。	E2-7-4-1
18	サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理および病態・薬物治療を説明できる。	E2-7-4-2
19	インフルエンザについて、治療薬の薬理、感染経路と予防方法および病態・薬物治療を説明できる。	E2-7-4-3
20	ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理、感染経路と予防方法および病態（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）・薬物治療を説明できる。	C4-3-4-1, E2-7-4-4
21	後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	C4-3-4-1, E2-7-4-5
22	以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態・薬物治療を説明できる。 伝染性紅斑（リンゴ病） 手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病	E2-7-4-6

番号	内容	コアカリとの関連コード
23	抗真菌薬の薬理および臨床適用を説明できる。	E2-7-5-1
24	以下の真菌感染症について、病態・薬物治療を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症	E2-7-5-2
25	以下の原虫感染症について、治療薬の薬理および病態・薬物治療を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢	E2-7-6-1
26	以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理および病態・薬物治療を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症	E2-7-6-2
27	病原微生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を概説できる。	E2-7-10-1
28	細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。	Y-3-65-1
29	主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。	E2-7-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	中南、輪島、中瀬	抗菌薬各論(1)細胞壁合成阻害薬	1, 15, 27
2	"	抗菌薬各論(2)細胞壁合成阻害薬、タンパク合成阻害薬、核酸合成阻害薬	1, 15, 27
3	"	抗菌薬各論(3)その他の抗菌薬 薬剤耐性メカニズム	1, 15, 27, 29
4	"	病原細菌各論(1)グラム陽性球菌	1, 4, 11, 12, 13, 14, 28
5	"	病原細菌各論(2)グラム陽性桿菌、その他のグラム陽性菌	4, 11, 12, 13, 14, 16, 28
6	"	病原細菌各論(3)抗酸菌、グラム陰性球菌	5, 7, 11, 12, 14, 16, 28
7	"	病原細菌各論(4)グラム陰性桿菌	5, 11, 12, 14, 16, 28
8	"	病原細菌各論(5)グラム陰性桿菌、らせん菌	5, 6, 11, 12, 14, 16, 28
9	"	病原細菌各論(6)マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア	8, 12, 28
10	"	ウイルス各論(1)DNAウイルス、抗ウイルス薬	2, 12, 14, 17, 18
11	"	ウイルス各論(2)RNAウイルス、抗ウイルス薬	3, 12, 14, 19, 22
12	"	ウイルス各論(3)レトロウイルス、肝炎ウイルス、抗ウイルス薬	2, 3, 12, 14, 20, 21
13	"	病原真菌各論、抗真菌薬 原虫・寄生虫各論、抗原虫・寄生虫薬	9, 10, 12, 23, 24, 25, 26, 27

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義資料はWebClassに掲載するが、重要なポイントは講義中に教え、各自にメモを取らせるようにしている。

また、WebClass上に確認問題を掲載し、各自で知識の定着を図らせる。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義は教科書を中心に行うが、パワーポイント等を用いて最新の感染症情報を随時提供している。また、図や顕微鏡写真を用いて、通常は見えない微生物を視覚的にとらえられるような講義を行っている。講義内容の定着を目的とした、確認問題をWebClassで公開している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：ペーパー試験に加え、WebClassの確認問題や口頭試問等にて評価する

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験(80%)、WebClassの確認問題(20%)にて評価する。

成績評価の基準

<評価(総括的評価)>

S(90%以上):合格

A(80~90%未満):合格

B(70~80%未満):合格

C(60~70%未満):合格

D(60%未満):不合格

再試験の成績・・・合格の場合C

出席不良者(全講義の1/3以上の欠席)に対しては、定期試験の受験停止措置を講ずることがある。欠席や遅刻等で、適切な理由があるものは欠席届を提出すること。

〔教科書〕

新しい微生物学 第5版(廣川書店)

〔参考書〕

戸田新細菌学（吉田 眞一ら編 南山堂）
標準微生物学（神谷 茂ら編 医学書院）
ブラック微生物学（林 英生ら監訳 丸善）
イラストレイテッド微生物学（山口 恵三ら監訳 丸善）
病原真菌と真菌症（山口 英世著 南山堂）

〔オフィスアワー〕

中南、輪島、中瀬 いつでも可（病原微生物学教室）

〔所属教室〕

中南 秀将 病原微生物学教室 研究2号館5階
輪島 丈明 病原微生物学教室 研究2号館5階
中瀬 恵亮 病原微生物学教室 研究2号館5階

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義資料はWebClass上に掲示します。各自、ダウンロードし、持参してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義開始時に前回の講義内容に関する練習問題を行い、解答と解説によるフィードバックを行う。また、定期試験後は、試験に関する質問を随時受け付け、フィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

病原微生物学では、微生物学で学んだ知識を発展させ、病原体に焦点を当てた講義を行います。微生物学の内容をきちんと理解しておくとともに、わからない点は積極的に質問し、解決するようにしてください。

〔備考〕

モデル・コアカリキュラムに書かれている微生物関連の知識は最小限である。そのため、本講義では、医療現場に必要な知識は全て講義する。

免疫学

Immunology

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

安達 禎之、山中 大輔

学習目標 (GIO) 生体はさまざまな仕組みを用いて恒常性を維持している。これらの仕組みの中で、病原微生物によってもたらされる感染症や遺伝子異常等によっておこる悪性腫瘍などに対し、これらを排除するために中心となって働くのは免疫機構（あるいは生体防御機構）である。この免疫機構・生体防御機構は原始的な生物からヒトまで広く備わっている。本講義では、主に高等動物の免疫機構について理解を深めるために、前半は免疫機構の仕組みやそれらを構成する組織、細胞、因子について学習する。さらに、感染、移植、アレルギーなど代表的な免疫関連の疾患について概要を学ぶ。免疫関連疾患については3年次の臨床免疫で詳しく学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。	C8-1-1-1
2	免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。	C8-1-1-2
3	自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。	C8-1-1-3
4	体液性免疫と細胞性免疫について説明できる	C8-1-1-4
5	免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。	C8-1-2-1
6	免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C8-1-2-2
7	免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	C8-1-2-3
8	自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。	C8-1-3-1
9	MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。	C8-1-3-2
10	T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。	C8-1-3-3
11	抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	C8-1-3-4
12	免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	C8-1-3-5
13	炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-1
14	アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-2
15	自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。	C8-2-1-3
16	臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	C8-2-1-4
17	感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。	C8-2-1-5
18	腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。	C8-2-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	安達・山中	はじめに、免疫機構全体の概説、講義の到達目標	1,3
2	"	免疫組織(1) 中枢リンパ組織、末梢リンパ組織、造血組織	5,6
3	"	免疫組織(2) 粘膜面の免疫組織	1,3,5,6
4	"	免疫担当細胞(1) 免疫担当細胞の種類	6,7,8,13,14
5	"	免疫担当細胞(2) リンパ球と機能	2,3,4,6,8
6	"	免疫担当細胞(3) 顆粒球、単球と機能	2,3,4,6,7,8
7	"	免疫担当細胞(4) 免疫担当細胞の増殖、分化と活性化	2,3,4,6,7
8	"	抗原と抗体(1) 抗原と抗体の基本構造	4,10,11
9	"	抗原と抗体(2) 抗体のクラスと機能	4,10,11
11	"	補体	1,13
12	"	サイトカインとケモカイン	4,7,12,13,14,15,
13	"	免疫学的自己の確立と組織適合性抗原	9,16
14	"	免疫応答	16,17,18
15	"	免疫疾患	13,14,15

{アクティブ・ラーニングの取り組み}

- 1) プレテスト演習を行っている。
- 2) 講義メモを配布し、講義を聴きながら、要点を各自がメモしやすい環境を作っている。
- 3) 複数回のレポート提出を課し、復習のチャンスを増やすとともに、'問題解決能力の醸成'に努めている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。

前年度の講義資料は Web 公開しており、予習に役立てるようにしている。

教科書への書き込みのチャンスを増やし、講義に集中できる工夫をしている。

講義対応 Web を WebClass に開設し、講義資料ならびに課題提出などに用いている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:小テスト、課題レポート、Web クラス講義資料などにより項目ごとに行う。

c) 態度:受講態度（出席状況等）により評価する。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験（70%）、レポート（30%）などにより総合的に評価する。

〔教科書〕

免疫学概説（宿前ら 廣川書店）

〔参考書〕

免疫生物学（笹月監訳 南江堂）

免疫学イラストレイテッド（高津監訳 南江堂）

免疫学辞典（大沢利昭ら編 東京化学同人）

医系免疫学（矢田純一著 中外医学社）

医科免疫学（菊池、上出編 南江堂）

標準免疫学（谷口克、宮坂昌之編 医学書院）

臨床に役立つ免疫学（奥村、橋本監訳 メディカルサイエンスインターナショナル）

〔オフィスアワー〕

安達 いつでも可 免疫学教室 研究2号棟 505号 ただし、メールにて予約すること。

山中 いつでも可 免疫学教室 研究2号棟 505号 ただし、メールにて予約すること。

〔所属教室〕

安達 免疫学教室 研究2号棟 505号

山中 免疫学教室 研究2号棟 505号

〔準備学習（予習・復習等）〕

予習：年度初めに、提示する各回の講義内容について、事前に教科書を読み、問題点、疑問点を抽出しておくこと。

復習：講義中に配布するメモについて、各自で補足説明を加えること。課題として指示されたものは、期限までに必ず実施し、提出すること。

〔学生へのフィードバック〕

日々の質問に丹念に答え、定期試験前には準備すべき学習内容について入念に復習講義を行い、定期試験後にはフィードバック講義を行う。

〔教員からの一言〕

専門用語など難解な点もあるかと思いますが、各項目が各々関連して免疫応答系へと体系化しています。分かり難い項目を放置せずにその都度理解するように努めてください。

健康保持と疾病予防

Health Care and Disease Prevention

第2学年 前期 2年必修科目 1単位

藤原 泰之

篠田 陽

高橋 勉

学習目標 (GIO) 人々の健康と疾病の現状と動向、および疾病や健康障害の発生要因を把握し、さらに、疾病予防と健康保持に貢献するために、保健統計、疫学、および感染症、生活習慣病、職業病の現状とその予防、健康管理に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	D1-1-1-1
2	集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	D1-1-2-1
3	人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。	D1-1-2-2
4	人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。	D1-1-2-3
5	疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	D1-1-3-1
6	疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。	D1-1-3-2
7	疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。	D1-1-3-3
8	リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）	D1-1-3-4
9	疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	D1-2-1-1
10	健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。	D1-2-1-2
11	現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。	D1-2-2-1
12	感染症法における、感染症とその分類について説明できる。	D1-2-2-2
13	代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-2-3
14	予防接種の意義と方法について説明できる。	D1-2-2-4
15	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	D1-2-3-1
16	生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	D1-2-3-2
17	食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）	D1-2-3-3
18	新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	D1-2-4-1
19	母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-4-2
20	代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。	D1-2-5-1
21	労働衛生管理について説明できる。	D1-2-5-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	藤原	健康保持と疾病予防概論	1~21
2~3	"	社会・集団と健康（保健統計）	2、3
4	"	社会・集団と健康（健康と疾病をめぐる日本の現状）	4
5~6	"	社会・集団と健康（疫学）	5、6、7、8
7	"	疾病の予防（健康とは）	1、10
8~9	"	疾病の予防（疾病の予防とは）	9、18、19
10~11	高橋	疾病の予防（感染症の現状とその予防）	11、12、13、14
12	篠田	疾病の予防（生活習慣病とその予防）	15、16、17
13	"	疾病の予防（職業病とその予防、など）	20、21

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に課題を配布して問題演習を行う。問題の解答解説を通して、講義内容の重要部分を再度確認する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

教科書に沿って体系的に授業を行うように努めている。併せて、保健衛生に関するデータや政策や関連法規の変更点、社会的に注目されている疾病などについて、随時資料を配布し、最新情報を伝えるように努めている。また、常に変化する保健衛生分野の社会情勢について、日常的に自主的に情報収集・学習し続ける習慣を身につけるように指導している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：課題、演習問題を行い評価する。解説にてフィードバックする。
- c) 態度：受講態度により評価する。主体的に授業に参加する機会を多く設定する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験（100%）にて評価する。再試験を1回実施する。

3) 成績評価基準（総括的評価）

- S（90%以上）：合格
 - A（80%～90%未満）：合格
 - B（70%～80%未満）：合格
 - C（60%～70%未満）：合格
 - D（60%未満）：不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

最新 衛生薬学（別府、平塚編 廣川書店 第3版10刷）

〔参考書〕

国民衛生の動向 2019/2020 年（厚生労働統計協会）

図説 国民衛生の動向 2019/2020（厚生労働統計協会）

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

公衆衛生学教室 研究1号館4階401号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。参考資料や過去問題を配布するので、よく読んで理解に努めること。

〔学生へのフィードバック〕

演習問題を行い、解説にてフィードバックする。
定期試験終了後に、フィードバック講義を実施する。

〔教員からの一言〕

新聞報道やニュースを通じて、常日頃より我が国の公衆衛生事情に関心を持つように努めて下さい。

生活環境と健康

Environmental Health

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

藤原 泰之

篠田 陽

高橋 勉

学習目標 (GIO) 生活環境や生態系を保全、維持するために、それらに影響を及ぼす自然現象、人間の活動を理解し、環境汚染物質の発生源や成因、人体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的知識と手法を修得し、環境の改善に向かって努力する態度を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	D2-2-1-1
2	生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	D2-2-1-2
3	化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。	D2-2-1-3
4	地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	D2-2-1-4
5	人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D2-2-1-5
6	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
7	代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
8	電離放射線を防御する方法について概説できる。	D2-1-4-3
9	非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-4
10	典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	D2-2-2-1
11	環境基本法の理念を説明できる。	D2-2-2-2
12	環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。	D2-2-2-3
13	原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	D2-2-3-1
14	水の浄化法、塩素処理について説明できる。	D2-2-3-2
15	水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-3-3
16	下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	D2-2-3-4
17	水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-3-5
18	富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	D2-2-3-6
19	主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	D2-2-4-1
20	主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	D2-2-4-2
21	大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	D2-2-4-3
22	室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-5-1
23	室内環境と健康との関係について説明できる。	D2-2-5-2
24	廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	D2-2-6-1
25	廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	D2-2-6-2
26	マニフェスト制度について説明できる。	D2-2-6-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	藤原	生活環境と健康概要	1~26
2	"	地球環境の成り立ち、生態系の構造と特徴	1、2
3	"	化学物質の環境内動態と健康(重金属、有機合成化合物、化学物質事前審査制度、POPsによる環境汚染など)	3
4~5	"	地球規模の環境問題(オゾン層破壊、酸性雨、地球温暖化、海洋汚染など)	4、5
6	"	環境中の放射性核種と健康影響(非電離放射線、電離放射線の生体影響)	6、7、8、9
7	"	廃棄物(種類、関連法及び制度、現状が抱える問題点)	24、25、26
8	"	環境保全(公害とその防止対策、環境基本法、各種の法規制)	10、11、12

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9~11	高橋	水環境 (水の衛生、水質汚濁、下水処理)	13、14、15、16、17、18
12	篠田	大気環境 (大気汚染、発生要因)	19、20、21
13	篠田	室内環境 (各種指標)	22、23

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に課題を配布して問題演習を行う。問題の解答解説を通して、講義内容の重要部分を再度確認する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

衛生薬学の視点から、生活環境や地球環境のかつての状況、現在の状況を理解させるとともに、その保全策、改善策についても考えさせる教育を目指している。

環境関連分野では法令や各種の制度が頻繁に制定、改廃されるので、速やかに新しい情報を提供するようにしている。例えば、教科書改訂後に行われた環境関連の法改正などについては作成した新資料を配付するようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：課題、問題演習を行い評価する。解答解説にてフィードバックする。
- c) 態度：受講態度により評価する。主体的に授業に参加する機会を多く設定する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験 (100%) にて評価する。再試験を 1 回実施する。

3) 成績評価基準 (総括的評価)

- S (90 % 以上) : 合格
 - A (80 ~ 90 % 未満): 合格
 - B (70 ~ 80 % 未満): 合格
 - C (60 ~ 70 % 未満): 合格
 - D (60 % 未満) : 不合格
- 再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

最新 衛生薬学 (別府、平塚編 廣川書店 第3版 1.0刷)
必携・衛生試験法 第2版 (日本薬学会編 金原出版)

〔参考書〕

衛生試験法・注解 2015 (日本薬学会編 金原出版)
国民衛生の動向 2019/2020 (厚生労働統計協会)

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

公衆衛生学教室 研究1号館4階401号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。参考資料や過去問題を配付するので、よく読んで理解に努めること。

〔学生へのフィードバック〕

演習問題を行い、解説にてフィードバックする。
定期試験終了後に、フィードバック講義を行う。

〔教員からの一言〕

社会問題となっている環境に関わる記事やニュースに関心を持ち、新聞や TV、インターネット等で理解しておいてください。

栄養と食品機能

Nutrition and Food Function

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

藤野 智史 (A・B、C・D)

早川 磨紀男 (E・F、G・H)

学習目標 人とその集団の健康維持、向上に貢献できるようになるために、食生活が健康に与える影響について科学的(GIO) 理解を深め、栄養と食品機能および食品衛生についての基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1, D1-3-1-1
2	各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	D1-3-1-2
3	食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	D1-3-1-3
4	五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。	D1-3-1-4
5	エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	D1-3-1-5
6	日本人の食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
7	栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	D1-3-1-7
8	疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	D1-3-1-8
9	特別用途食品と保健機能食品について説明できる。	D1-3-2-6
10	食品衛生に関する法的規制について説明できる。	D1-3-2-7

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	早川、藤野	三大栄養素(糖質)	1、3
2	"	三大栄養素(脂質)	1、3
3	"	三大栄養素(タンパク質)	1、3
4	"	栄養素(脂溶性ビタミン)	1、7
5	"	栄養素(水溶性ビタミン)(1)	1、7
6	"	栄養素(水溶性ビタミン)(2)	1、7
7	"	栄養素(ミネラル)	1、7
8	"	栄養素の消化・吸収・代謝	2
9	"	栄養素以外の食品成分	4
10	"	エネルギー代謝	5
11	"	食事摂取基準	6
12	"	栄養摂取の現状と問題点	6、7、8
13	"	食品成分の表示と法的規制	10
14	"	新しい形態の食品	9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

化学構造式から生理作用を想起できるようになるために、各ビタミンの構造式を記載した補助プリントをWebClassに掲示し、授業内容の復習を兼ねて、各自が空欄となっている生理作用、欠乏症・過剰症などの欄を埋めるよう指導する。また、SBOに掲げられていて授業でも取り上げる重要な項目を網羅した自己点検チェックシートを配布し、受講後、各項目について説明できることを目指すよう指導する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

栄養と健康、食品にまつわる社会問題について、時事問題として関心をもってもらうよう、折に触れて紹介し、問題意識の確立と客観的判断能力の育成に努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：講義の進行とともにWebClassで重要な資料を掲示しており、学生の閲覧状況を随時、把握してい

る。

2) 総括的評価

知識：定期試験 (100%) により評価する。

〔教科書〕

最新衛生薬学 (別府正敏、平塚明 編集 廣川書店)

〔参考書〕

特に指定しない。

〔オフィスアワー〕

早川 後期 原則いつでも可であるが、事前にメール等で連絡するのが望ましい。 衛生化学教室 研究棟 1 号館 402-0 号

藤野 後期 原則いつでも可であるが、事前にメール等で連絡するのが望ましい。 衛生化学教室 研究棟 1 号館 402-3 号

〔所属教室〕

早川 衛生化学教室 研究棟 1 号館 402-0 号

藤野 衛生化学教室 研究棟 1 号館 402-3 号

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習は講義前に 10 分程度で良いので、シラバスに記載された予定授業内容に対応する教科書の記載を読んでから講義に臨んでください。復習は、講義後 WebClass に掲示された資料を随時閲覧して、理解できているかどうか確認してください。特に各ビタミンの生理作用、欠乏症、過剰症、所在などについては、構造式と結びつけて復習すること。近年、施行された食品表示法、日本人の食事摂取基準については、各自のノートにより復習する他、消費者庁ホームページ (食品表示法) 厚生労働省ホームページ (日本人の食事摂取基準) を参照すると良いでしょう。

〔学生へのフィードバック〕

フィードバック講義を行う。

〔教員からの一言〕

国家試験で度々出題される領域を扱います。また、法律の改正に伴う制度の改正などの時事問題を授業内でとりあげます。

〔備考〕

D1 健康 (3) 栄養と健康のうち、[1. 栄養] に関する D1-3-1-1 から D1-3-1-8 まで全ての SBOs と [2. 食品機能と食品衛生] の中の D-1-3-2-6 と D-1-3-2-7 の一部について、行動目標として取り上げます。

物理薬剤学

Physical Pharmaceutics

第2学年 後期 2年必修科目 1単位

根岸 洋一

多田 豊

学習目標 (GIO) 薬物は、錠剤、注射剤などのように患者に投与できる形態（剤形）に製剤化されて、はじめて医薬品として医療現場に提供される。薬物の有効性や安全性を高めた製剤とするには、生体内において適切な作用時間および臓器・組織での作用発現を考慮した剤形の工夫が必要である。そこで、物理薬剤学では新たな投与形態としての DDS 製剤について紹介するとともに、それらの医薬品製剤開発に必須な薬物と製剤材料の物理学的な性質を理解するために、溶液論、粉体科学、界面化学、分散系、レオロジー、医薬品の安定性・安定化など、薬剤学の基礎知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Drug delivery system (DDS) の概要について説明できる。	E5-3-1-1, E5-3-4-1
2	代表的な放出制御型製剤について概説できる。	E5-3-2-1~3
3	代表的な標的指向型製剤について概説できる。	E5-3-3-1~3
4	薬物の溶解速度および溶解速度を改善する製剤学的手法を説明できる。	E5-1-1-3~5
5	界面の性質（界面張力と溶質の表面吸着など）について説明できる。	E5-1-3-1
6	代表的な界面活性剤の種類と性質（ミセル形成と可溶性など）について説明できる。	E5-1-3-1~2
7	代表的な分散系と分散粒子の安定性について説明できる。	E5-1-3-2~4
8	流動と変形（レオロジー）について説明できる。	E5-1-2-1
9	高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。	E5-1-2-2
10	製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。	E5-1-4-1
11	粉体粒子の物理化学的性質について説明できる。	E5-1-1-1~2
12	粉体粒子の粒子径と粒度分布について説明できる。	E5-1-1-1
13	結晶や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。	E5-1-1-2
14	薬物の安定性（分解速度など）および安定性に影響を及ぼす因子について説明できる。	E5-1-4-2
15	薬物の安定性を高める代表的な手法を列挙し、説明できる。	E5-1-4-3, E5-3-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	根岸、多田	DDS の概要	1、2、3
2	"	放出制御型製剤および標的指向型製剤の基本概念	2、3
3	"	界面現象と界面活性剤	5、6
4-5	"	分散系（コロイド・乳剤・懸濁剤の性質、その安定性と安定化法）	7
6-7	"	レオロジー（半固形・液状材料、製剤材料の性質）	8、9、10
8-9	"	粉体（粒子・粉体の物理化学的性質）	11、12、13
10	"	製剤からの薬物の溶出	4
11-13	"	製剤の安定性	14、15
14	"	総合演習	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ① 特に、計算問題に関しては理解力が不足がちな領域であり、必要に応じて国家試験問題等を提示し、学生自らがその場で板書して解説を加えたり、また次回までの宿題を課し、理解力の涵養に努めている。
- ② 各回に空欄部分を設けた補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ① 適宜、前回の講義内容に関するチェックテストを実施し、理解度の確認・フィードバックを実施している。
- ② 講義の始めに、学んで欲しい項目およびキーワードを提示している。
- ③ 講義内に、国家試験を基にした演習問題を行い、特に計算問題の理解を深める工夫を行っている。
- ④ 物理薬剤学の基礎が、最新の医薬品開発にどのように関連しているかを説明している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：講義の開始時、10分程度を使い前回の講義の重要な点に関して指名して質問を投げかけ、重要な点を明確にするとともに理解を深める。配付資料およびWebClassにチェックテストを提示し、知識の到達レベルを確認している。

2) 総括評価

a) 知識：定期試験(100%)により評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

最新薬剤学 第11版(井上勝央、尾関哲也編、廣川書店)

〔参考書〕

物理薬剤学・製剤学-計算問題の解法-(唐澤健、坂根稔康編、廣川書店)

わかりやすい物理薬剤学 第5版(辻彰、河島進編、廣川書店)

マーチン フィジカルファーマシー(大塚、瀬崎編、廣川書店)

ベーシック薬学教科書シリーズ 物理化学 第2版(石田寿昌編、化学同人)

製剤への物理化学 第2版(嶋林三郎、斎藤博幸、田中秀治編、廣川書店)

パートナー薬剤学 改訂第3版(原島秀吉、伊藤智夫、寺田勝英編、南江堂)

コンパス物理薬剤学・製剤学 改訂第2版(大塚誠、湯浅宏編、南江堂)

〔オフィスアワー〕

根岸 洋一 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

多田 壘 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

根岸 洋一 薬物送達学教室 研究1号館3階

多田 壘 薬物送達学教室 研究1号館3階

〔準備学習(予習・復習等)〕

① これまで学んだ「物理化学」関連の内容をよく復習しておくこと。

② 講義内やWebClassを通じ、復習を兼ねて課題を課しますが、必ず自分で解いて、理解を深めること。

〔学生へのフィードバック〕

① 学生から寄せられた質問や意見などに対して、必要に応じて講義中に内容と解説をフィードバックさせる等の対応を行っている。

② 理解度チェックテストを随時実施し、結果を学生へフィードバックする。

〔教員からの一言〕

薬剤学は薬学部においてのみ唯一開講されている特徴的な講義科目である。応用の学問であり、薬学を修めていくうえで重要な講義内容が多々含まれている。物理薬剤学は、物理化学的な講義内容を多く含んでいることから敬遠されがちであるが、興味を持って学習に臨んでほしい。

薬理学 I

Pharmacology I

第 2 学年 前期 2 年必修科目 1 単位

田村 和広、吉江 幹浩 草間 和哉

学習目標 (GIO) 1 年次後期に学んだ「薬と疾病入門」の履修内容 (医薬品の作用を理解する上で必要な薬理学の総論、主要な生理活性物質の作用と関連疾患) を土台にして、「薬理学 I」では、自律神経系並びに内分泌系に作用する薬物について学習する。自律神経系と内分泌系に関わる生理活性物質の作用の理解を深めると共に、これらの系に作用する薬物の薬理作用、作用機序 (治療根拠)、医療用途の他、副作用、薬物相互作用などを学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	内分泌系作用薬の作用点と分類について、概要を説明できる。	C7-2-2-1
2	下垂体ホルモンとの関連で視床下部ホルモンの作用を説明し、その関連薬をあげられる。	C7-2-2-1
3	オキシトシンとバソプレシンの作用、また医療用途を説明できる。	E2-5-2-4
4	ACTH 関連薬とその医療応用を説明できる。	C7-2-2-1
5	副腎皮質ホルモン (糖質コルチコイド) の薬理作用と副作用を説明できる。	C7-2-2-1
6	副腎皮質で生成されるホルモンの生合成経路とその調節因子について説明できる。	C7-2-2-1, E2-5-2-5, E2-5-3-1
7	メチラボン、トリロスタン、スピロラクトンの薬物特性と医療用途を説明できる。	E2-5-2-5
8	プロラクチンの作用とその分泌に影響する薬物を説明できる。	E2-5-2-5
9	GH の作用メカニズムとその関連薬を説明できる。	E2-5-2-5
10	TSH, TRH の作用と医療用途、および甲状腺ホルモンの生理作用とその生合成阻害薬の作用機序と適用を説明できる。	C7-2-2-1, E2-5-2-2
11	甲状腺機能障害の疾患の病態と治療薬の治療根拠を説明できる。	E2-5-2-2
12	血中の Ca^{2+} 調節因子の分泌調節機構と骨、腎臓、腸管への作用を説明できる。	E2-2-3-4
13	骨粗鬆症治療薬の機序別の分類を説明できる。	E2-2-3-2
14	月経周期、妊娠の成立・維持・分娩までのホルモンの変動とそれらの生理的意義について、説明できる。	C7-2-10-1
15	GnRH 誘導体の医療用途と副作用を説明できる。	E2-5-2-1
16	代表的な合成卵胞ホルモンと黄体ホルモンをあげ、その作用と適用を説明できる。	E2-5-2-1
17	抗エストロゲン薬とエストロゲン合成阻害薬の特性と適用を説明できる。	E2-5-2-1
18	経口避妊薬として用いられる化合物とその作用機序、副作用、および子宮作用薬の作用機序を説明できる。	E2-5-2-1
19	女性生殖系疾患 (子宮内膜症、子宮筋腫、流早産治療薬、妊娠高血圧症候群など) に用いる薬物の作用機序を説明できる。	E2-3-3-6
20	代表的な合成男性ホルモン、蛋白同化ホルモン、男性性腺機能に及ぼす薬物の作用機序や特性を説明できる。	E2-5-2-1
21	アドレナリン受容体 (α, β) とムスカリン受容体 (M) について、主要な存在部位と興奮時の生理的効果と薬理学的作用を説明できる。	E2-1-1-1
22	ノルアドレナリンとアドレナリンの静注時に見られる心拍数に対する差異を、アドレナリン β 受容体の特性の観点から説明できる。	E2-1-1-1
23	アドレナリン作動薬を作用様式から大きく 3 つに分類してその代表的薬物をあげ、薬理作用の特性を説明できる。	E2-1-1-1
24	アドレナリン $\alpha 1$ 受容体遮断薬をあげ、それらの薬理作用の特徴、臨床用途、副作用を説明できる。	E2-1-1-1
25	アドレナリン β 受容体遮断薬をあげ、それらの薬理作用の特徴、臨床用途、副作用を説明できる。	E2-1-1-1
26	アドレナリン作動性神経遮断薬の薬理作用、機序、副作用について説明できる。	E2-1-1-1
27	コリン作動薬を 2 つに分類して主要なコリン作動薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-1-2
28	代表的なムスカリン受容体遮断薬 (抗コリン薬) をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-1-2
29	排尿障害改善薬、頻尿治療薬の作用機序を説明できる。	E2-1-1-2, E2-3-3-4
30	緑内障、加齢黄斑変性の病態の概要およびその主な治療薬の作用機序について説明できる。	E2-1-1-2, E2-6-1-1, E2-6-1-3
31	自律神経節刺激薬および遮断薬の薬理学的効果について説明できる。	E2-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	田村	内分泌系作用薬 1: 内分泌系作用薬の分類、下垂体後葉ホルモン関連薬、ACTH および副腎皮質ホルモン関連薬	1~7
2	田村	内分泌系作用薬 2: プロラクチン、成長ホルモン、TSH 関連薬、甲状腺ホルモン関連薬	8~11
3	田村	内分泌系作用薬 3: PTH とカルシトニン関連薬、骨粗鬆症治療薬概要	12, 13
4	吉江	内分泌系作用薬 4: 月経周期とホルモン、ゴナドトロピン関連薬、卵胞ホルモン関連薬	14~16
5	吉江	内分泌系作用薬 5: 卵胞ホルモン関連薬 (続き)、経口避妊薬などの黄体ホルモン関連薬、妊娠・分娩関連薬	17~19
6	草間	内分泌系作用薬 6: 男性ホルモン関連薬、男性性腺機能に影響する薬物	20
7	草間	自律神経作用薬 1: アドレナリン作動薬: カテコールアミンを中心に	21~23
8	田村	自律神経作用薬 2: アドレナリン作動薬: 非カテコールアミン	23
9	田村	自律神経作用薬 3: アドレナリン作動性効果遮断薬 (アドレナリン α 受容体遮断薬)	24
10	田村	自律神経作用薬 4: アドレナリン作動性効果遮断薬 (アドレナリン β 受容体遮断薬)、アドレナリン作動性ニューロン遮断薬	25, 26
11	田村	自律神経作用薬 5: コリン作動薬	27
12	田村	自律神経作用薬 6: 抗コリン薬 (抗ムスカリン薬)、泌尿器系作用薬 (排尿障害・頻尿治療薬)	28, 29
13	田村	自律神経作用薬 7: 眼に作用する薬物 (緑内障、加齢黄斑変性、縮瞳・散瞳薬)、自律神経節作用薬	30, 31

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義で用いる講義資料(補助プリント: 予習・復習、試験対策にも用いる)は、WebClass にアップし、講義に持参するように指示する。演習問題を公開し、各自の学習到達度のチェックを可能にする。演習問題の一部は、講義内に学生に発表させ、補足説明を講義者が行う。また、それらの一部は、レポート課題として、提出してもらう。再履修者に対しては、SBO 項目の要点をまとめるレポート提出を課し、数回の補講を義務付けている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

最重要項目については、可能な限り図を用いて板書し、ノートを取らせている。Audience response system などを用いて、学生の理解度を把握し、到達度の確認に役立てている。また、テキストの説明のみならず、各疾病の薬物作用の理解に役立つ DVD や動画の視聴により、体内での薬の作用がイメージできるよう試みている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 試験で問う記憶しておくべき最小限の薬物と具体的項目は、学生に明確化し、各自ノート整理する。WebClass 上に公開した演習問題を課題として行う (復習課題)。一部の問題については、レポート課題として、模範解答を提出させる。理解度の低い問題については、講義でフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (90%) と課題提出の有無と内容 (10%) の結果で評価する。再試験を一回行う。

〔教科書〕

最新 薬理学要説 (田村編、愛智出版)

加えて、WebClass にて講義資料を事前に提示

〔参考書〕

薬がみえる vol. 1~4 (メディックメディア)

薬系 薬理学書 (田野中ら編、南江堂)

グラフィカル機能形態学 (馬場編、廣川書店)

基礎から学ぶ内分泌薬学 (厚味編、エルセビア・ジャパン)

薬学生のための新臨床医学 第2版 (市田・細山田編、廣川書店)

〔オフィスアワー〕

田村 原則、平日は、18 時以降いつでも可。事前に予約があれば確実

吉江 原則、平日は、18 時以降いつでも可。事前に予約があれば確実

草間 原則、平日は、18 時以降いつでも可。事前に予約があれば確実

〔準備学習 (予習・復習等)〕

本教科を深く理解・習得するためには、講義後に、上記の SBO 31 項目を各自、ノートにまとめておくことが望ましい。よって、授業ごとに予習 (講義予定 SBO 項目のテキストを読む) と復習 (授業プリントとテキストを用いたノート整理) を各自、確保するように (詳細は、東薬生のファーストステップ冊子参照のこと)。また、授業を踏まえて、それに関連した問題 (WebClass にアップ) に解答できるようにする。薬物の構造活性相関についても重要な項目が多々あり (有機化学の復習は重要)、随時、機能形態学、生化学な

どの周辺科目の復習も必要である。

〔学生へのフィードバック〕

ウェブ(WebClass)に、講義プリント、演習問題を公開しており、難解な部分については、講義中に解説する。また、過去の定期試験問題についても同様に、教科のポイントを自発的な学習により学び取り、かつ試験対策にも役立つようにしている。定期試験前に、「具体的質問項目リスト」をWebClassに掲載する。

〔教員からの一言〕

授業中の約束事

①私語厳禁、②板書したことはノートにとる(自分で説明できるように理解)、③内職、漫画、スマホ、ゲームは禁止(見つけた者は評価で減点)。

薬理学 II

Pharmacology II

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

高木 教夫

学習目標 (GIO) 医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、体内での運命、医療用途、および主な副作用に関する基本的知識を修得する。薬理学 II では、薬と疾病入門、薬理学 I の内容に加えて、体性神経系および中枢神経系に作用する薬物について学習する。薬剤師としての職能に直結する重要な科目であり、機能形態学、生化学、免疫学、微生物学などで修得した広範囲の知識と効果的に連動させ、それらを応用して考える能力が要求される。

本講義では、中枢神経系作用薬、局所麻酔薬、筋弛緩薬に関する基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	中枢神経系について概説できる。 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	C7-1-4-1~2
2	神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	C7-2-1-1~4
3	代表的な全身麻酔薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-1
4	代表的な催眠薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-1
5	代表的な統合失調症治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-4
6	代表的なうつ病・躁病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-5
7	代表的な抗不安薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-6
8	代表的なてんかん治療薬、中枢性筋弛緩薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-7
9	代表的なパーキンソン病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-9
10	代表的なアルツハイマー病治療薬を挙げ、薬理作用、機序、適用、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-10
11	脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。	E2-1-3-8
12	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。	E2-1-3-2
13	中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。	E2-1-3-3
14	片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）について説明できる。	E2-1-3-11
15	知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-1
16	運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-1-2-2
17	神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	E2-1-4-1
18	進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）について説明できる。	E2-1-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	高木	中枢神経系作用薬 1：中枢神経系の構成と機能	1、2
2	"	中枢神経系作用薬 2：全身麻酔薬	3、17
3	"	中枢神経系作用薬 3：催眠薬	4、17
4	"	中枢神経系作用薬 4：統合失調症治療薬	5、17
5	"	中枢神経系作用薬 5：抗うつ薬、抗そう薬、抗不安薬	6、7、17
6	"	中枢神経系作用薬 6：抗てんかん薬、中枢性筋弛緩薬	8、17

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
7	"	中枢神経系作用薬 7: パーキンソン病治療薬	9、17
8	"	中枢神経系作用薬 8: アルツハイマー病治療薬	10、17
9	"	中枢神経系作用薬 9: 脳血管疾患治療薬	11、17
10	"	中枢神経系作用薬 10: 麻薬性・非麻薬性鎮痛薬	12、17
11	"	中枢神経系作用薬 11: 中枢興奮薬	13、17
12	"	中枢神経系作用薬 12: 片頭痛治療薬	14、17
13	"	体性神経系作用薬 1: 局所麻酔薬	1、2、15、17
14	"	体性神経系作用薬 2: 末梢性筋弛緩薬・その他	1、2、16、17、18

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に対応する補助プリントを配布し、講義しながら、空欄部分や補足部分を記入させるようにしている。

WebClassにおいて、講義の復習を演習形式で各自自習できるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

毎回、講義の最初に進行予定範囲とキーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にしている。

機能形態学、生化学などで得た知識を可能な限り復習し、これら知識と病態、そして薬の効くプロセスを連動させて考え、応用力を養えるよう努めている。

教科書等に未掲載の最新の作用機序や副作用情報、および新薬に関する情報は講義用補助プリントに随時反映させ、提供・解説している。

〔成績評価方法〕

形成的評価

知識: WebClassにおいて、講義の復習を演習形式で自習し、知識の到達レベルを確認させている。

総括的評価

知識: 定期試験の成績 (100%)

〔教科書〕

薬系薬理学書 (南江堂)

〔参考書〕

補助プリントを配布

グラフィカル 機能形態学 (京都廣川書店)

〔オフィスアワー〕

高木 原則的にいつでも可 応用生化学教室 研究2号館6階606

〔所属教室〕

高木 応用生化学教室 研究2号館6階606

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義用資料を予め配布しており、それに従って予習が行えるように配慮している。復習についてもテキストだけでなく、講義用資料およびWebClassの演習を活用するように指導している。予習よりも復習に重点を置いた指導を行っている。

〔学生へのフィードバック〕

講義内で関連科目に関する質問を行い、解説をしてフィードバックする。

WebClassの演習に対してフィードバックを行なっている。

疾病と薬物治療 I

Diseases and Pharmacotherapy I

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

平田 尚人

杉浦 宗敏

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの的確な患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識を修得する。疾病と薬物治療 I~VIII のうち本講義では、病態を理解する上で必要な臨床検査の知識および血液・造血器疾患に関して病態生理、臨床症状、検査・診断、治療、患者説明の知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生理機能検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-6
2	尿及び糞便を用いた代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-1
3	血液学的検査の代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-2
4	血液生化学的検査の代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-3
5	感染症・炎症に関する代表的な免疫学的検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-4, E1-2-2-7
6	悪性腫瘍に関する代表的な検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E2-7-7-2
7	動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-5
8	代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-8
9	血液・造血器系について概説できる。	C7-1-14-1
10	代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-4-1
11	血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	C7-2-9-1
12	止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-1
13	抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-2
14	以下の貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-2-3
15	播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-2-4
16	以下の疾患(血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症)について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-2-5

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	平田	臨床検査-1 基本的検査と基準値、フィジカルアセスメント	1,8
2	平田	臨床検査-2 尿・便検査	2
3	平田	臨床検査-3 血液学的検査	3,11
4	平田	臨床検査-4 血液生化学的検査(1)	4
5	平田	臨床検査-5 血液生化学的検査(2)	4
6	平田	臨床検査-6 血液生化学的検査(3)、感染症検査、動脈血ガス検査	4,5,7
7	平田	臨床検査-7 免疫学的検査、腫瘍マーカー検査	5,6
8	杉浦	血液・造血器疾患-1 総論	9-16
9	杉浦	血液・造血器疾患-2 鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血	9,10,14
10	杉浦	血液・造血器疾患-3 巨赤芽球性貧血、腎性貧血	9,10,14

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
11	杉浦	血液・造血器疾患-4 鉄芽球性貧血、自己免疫性溶血性貧血	9,10,14
12	杉浦	血液・造血器疾患-5 白血球減少症、血栓性血小板減少性紫斑病	10,11,12,16
13	杉浦	血液・造血器疾患-6 特発性血小板減少性紫斑病、血友病	10,11,12,16
14	杉浦	血液・造血器疾患-7 播種性血管内凝固症候群、血栓塞栓症	11,12,13,15,16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書のみでなく、Web クラスにアップした補助プリントを用いて知識の定着を図る。(平田)
補助プリントを Web クラスにアップする。講義のなかで知識の確認を図る。(杉浦)

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:講義中に補助プリントに示した演習問題を行う。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験にて評価する。再試験を 1 回実施する。(100%)

〔教科書〕

薬学生のための病態検査学(改訂第3版) 南江堂(臨床検査)
能動的薬物治療論 血液系疾患と悪性腫瘍 京都廣川書店(血液・造血器疾患)

〔参考書〕

病気が見える5 血液 メディックメディア
臨床検査データブック(2019-2020年版) 医学書院

〔オフィスアワー〕

平田 尚人 水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要です。臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟 2階 M206 室
杉浦 宗敏 いつでも可。ただし事前に予約が必要。医薬品安全管理学教室 医療棟 3階 304 号室

〔所属教室〕

平田 尚人 臨床薬剤学教室准教授 医療棟 2階 206 号室
杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室教授 医療棟 3階 304 号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

次回の講義で扱う内容については、教科書及び補助プリントで予習しておくことが望ましい。(平田)
講義内容について教科書及び補助プリントで予習および復習をすること。(杉浦)

〔学生へのフィードバック〕

講義中に出た質問等で特に解説が必要なものについては、次回の補助プリントにも追加記載して更に理解を深める。(平田)

〔備考〕

実務家教員担当科目

疾病と薬物治療 II

Diseases and Pharmacotherapy II

第 2 学年 後期 2 年必修科目 1 単位

山田 純司 大友 隆之

学習目標 (GIO) 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。本講義では、代謝系・内分泌系および骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-3-2
2	変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-3-3
3	カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-3-4
4	糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-5-1-1
5	脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-5-1-2
6	Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-5-2-2
7	甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-5-2-3
8	尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-5-2-4
9	以下の疾患について説明できる：先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）。	E2-5-2-5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-5	山田	糖尿病	4、9
6-8	"	脂質異常症、肥満症・メタボリック症候群	5、6、9
9-10	"	甲状腺機能異常症、尿崩症	6、7、8、9
11-13	大友	骨粗鬆症、変形性関節症、骨軟化症	1、2、3、9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に教科書へのマークや書き込みを促し、全講義終了後には、学生各自が作成し、自らに適した「まとめの学修ノート」として仕上がるように仕向けている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

各種疾患の診療ガイドラインに基づいて講義を行い、症例や処方例を紹介することにより具体的なイメージを持たせるようにしている。パワーポイントや書画カメラを利用して、写真や医療器具など、視覚に訴える資料を活用している。また、疾患ごとに最初の講義時間を関連する解剖生理学や生化学的知識の復習に充てており、本論の理解を深めるように促している。初学者といえども現場で直ぐに役立つ講義内容を目指している。

〔成績評価方法〕

総括的評価 a) 知識：定期試験（100%）の結果に基づいて評価する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

疾病と薬物治療 II（代謝・内分泌疾患）、生協にて販売。

〔参考書〕

治療薬マニュアル（医学書院）、今日の治療指針（医学書院）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

山田 臨床医療薬学センター 医療薬学研究棟 3階 M303号室

大友 臨床医療薬学センター 医療薬学研究棟 3階 M305号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に、シラバスを開いて講義予定項目のSBOsを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に向けてその内容を伝え、解説を加える等の対応を行う。また、特に必要性の高いものについては翌年以降の講義内容に反映させる。

〔教員からの一言〕

分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。

実用薬学英語

Practical English for Pharmacy

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

大野 真 森本 信子 今井 志乃ぶ 西山 貴仁 林 秀樹 別生 伸太郎 袴田 秀樹 早川 磨紀男

学習目標 (GIO) 薬学領域において、科学における共通語としての英語の必要性は近年ますます高まりつつある。このような時代的要請を念頭において、薬学専門教員と英語教員からなる複数の担当者がその専門性を活かして講義を行い、薬学・医療関連情報の英文読解力および表現力の向上を目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	構文と文法の理解に基づいて、科学論文を正確に読解できること。	X-3-1-2
2	科学論文の大意を短時間に把握し、パラグラフごとに完結にまとめられること。	X-3-1-2
3	科学論文に頻出する重要構文を正確に書けること。	X-3-2-3~4
4	科学論文に出てくる technical terms を理解し正確に記述できること。	X-3-1-1, X-3-2-3
5	科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現を理解し列挙できること。	X-3-2-2
6	薬学関連の研究で用いられる基本的会話を英語でできること。	X-3-3-1~4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
7回分	大野、森本	・ 構文と文法の理解に基づく精読の訓練。 ・ 大意を素早く把握する多読の訓練。 ・ 科学論文に頻出する重要構文を正確に書く訓練。	1、2、3
3回分	今井、西山、林、別生	・ 科学論文に出てくる technical terms の説明と訓練。 ・ 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現の説明と訓練。 ・ 薬学関連の研究で用いられる基本的会話の説明と訓練。	4、5、6
3回分	袴田、早川	・ 科学論文に出てくる technical terms の説明と訓練。 ・ 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表現の説明と訓練。 ・ 薬学関連の研究で用いられる基本的会話の説明と訓練。	4、5、6
14・15回目		必要に応じて補講	1,2,3,4,5,6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
レポートの提出を頻繁に実施している。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
英語教員、薬学専門教員が協力して、それぞれの持ち味を活かした講義をしている。科学や医療についての様々な英語を扱い、幅広い英語力と共に視野の広い思考力を養うようにしている。
重要語句、構文は英語で正確に書けるように訓練を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：提出物を小まめに出させる。演習問題を繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (100%) にて評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

鈴木伸二『英語医薬論文の読みかた・訳しかた』(薬事日報社)
講義用プリント

〔参考書〕

必要に応じて授業時に指示する。

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 要事前予約。

〔所属教室〕

大野 第二英語 教育3号館3階

森本 第四英語 教育3号館3階

今井 医薬品安全管理学 医療薬学研究棟3階

林 応用生化学 研究2号館6階
袴田 分析化学 同上4階
早川 衛生化学 研究1号館4階
西山 薬物代謝安全性学 同上4階
別生 薬学実務実習教育センター 教育5号館5階

〔準備学習(予習・復習等)〕

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。
授業ごとに予習と復習を各々30分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕

授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい個所を確認している。

薬事関連法規と制度 I

Pharmaceutical Affairs Law I

第 3 学年 後期 3 年必修科目 1 単位

益山 光一、松田 勉

学習目標 調剤、医薬品等の供給、その他薬事衛生に係る任務を適正に遂行するための責務等が定められている「薬剤師法」や、薬剤師が取り扱う医薬品等について規制する「医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法律（医薬品医療機器等法）」について学習し、その意義を理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	B-2-1-1
2	薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	B-2-1-2
3	薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の項目とその内容を説明できる。	B-2-1-3
4	個人情報の取り扱いについて概説できる。	B-2-1-7
5	薬剤師の刑事責任や民事責任について概説できる。	B-2-1-8
6	医薬品医療機器等法の目的や必要な用語の定義について説明できる。	B-2-2-1
7	医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。	B-2-2-2
8	医薬品等の製造販売や製造に関する規制の説明ができる。	B-2-2-4
9	市販後安全対策について説明できる。	B-2-2-5
10	薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業の法規範について説明できる。	B-2-2-6
11	医薬品医療機器等法の規定について説明できる。	B-2-2-7
12	生物由来製品の取り扱いと血液供給体制について説明できる。	B-2-2-9
13	日本における社会保障制度のしくみを説明できる。	B-3-1-1
14	医薬分業の意義と動向を説明できる。	B-4-1-2
15	かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	B-4-1-2
16	調剤業務に関わる事項（処方箋、調剤録等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	F-2-1-1
17	調剤業務に関わる法的文書（処方箋、調剤録等）の適切な取り扱いができる。	F-2-1-2
18	毒薬劇薬等の管理と取扱いについて説明できる。	F-2-5-3
19	特定生物由来製品の管理と取扱いについて説明できる。	F-2-5-4
20	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	益山	憲法と薬事関係法規、法令の構成	1
2	益山	個人情報保護と製造物責任	4、5
3	益山	日本の社会保障と医療制度	13
4	益山	薬剤師法（1） 薬剤の責任、資格、任務	1、2、3、14、15
5	益山	薬剤師法（2） 調剤と疑義照会	1、2、3、16、17
6	益山	医薬品医療機器等法（1） 目的と定義	6、11
7	益山	医薬品医療機器等法（2） 薬局	6、10、11
8	益山	医薬品医療機器等法（3） 医薬品等の販売業	6、10、11
9	益山	医薬品医療機器等法（4） 製造販売業等	6、7、8、10、11
10	松田	医薬品医療機器等法（5） 医薬品の製造販売後の安全対策	6、9、11、20
11	益山	医薬品医療機器等法（6） 医薬品等の流通の適正化	6、10、11、18
12	益山	医薬品医療機器等法（7） 監督、薬事監視、指定薬物等	6、10、11
13	益山	安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律	12、19

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義終了時に毎回、小テスト（演習問題）を実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

できるだけわかりやすく、最新の状況や動向も取り入れた上で、体系化しながら講義を行っている。講義毎に要点をまとめた講義資料を作成し、WebClass上にカラーで掲載するが、空欄補充となっているので、予習で記入し、講義中に確認するようにしている。また、講義内容を聞くだけでは知識にならないので、薬剤師国家試験の実践形式の小テストを実施し、知識の確認を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:演習問題を行い、自己評価させる。成績不良者には課題を課す。

2) 総括的評価

a) 知識： a) 知識:定期テスト（80％）、小テスト（20％）にて評価する。再試験を1回行う。

<総括的評価>

- ・ S（90点以上～100点）：合格
- ・ A（80点以上～90点未満）：合格
- ・ B（65点以上～80点未満）：合格
- ・ C（55点以上～65点未満）：合格
- ・ D（55点未満）：不合格

〔教科書〕

2020-21「薬事法規・制度 解説」薬事衛生研究会（薬事日報社）

〔参考書〕

やさしい医薬品医療機器等法（第2版、じほう）

〔オフィスアワー〕

益山 光一 薬事関係法規研究室 研究4号館5階
いつでも可 ただしメールで予約してください。

〔所属教室〕

益山 光一 薬事関係法規研究室 教育3号館1階 3102-2

〔準備学習（予習・復習等）〕

WebClassから講義資料を打ち出し（又はダウンロード）し、目を通して、空欄を補充し、疑問点や興味のある点を見つけてください。また、小テストの内容はできるだけ早い時点（できるだけその日のうちに）で、講義内容を思い出しながら、復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義資料の空欄部分について、その内容説明と解説等を行い、各講義毎に最終的な理解を確認するための小テストを実施し、後日、WebClassにて解説をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

薬剤師業務は法律で書かれていることは必須で、その責務は重いことはいうまでもないですが、法律になりながらも、患者のために必要であれば、医療人として実施する必要があります。その差を、法規を理解して、適切に実施する薬剤師が必要されており、そのため国家試験でも必須項目となっています。その点も理解して、薬剤師の基礎・基本となる薬剤師法と医薬品医療機器等法をしっかり勉強してください。

医療倫理学

Medical Ethics

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

櫻井 浩子

学習目標 (GIO) 医療にかかわる薬剤師には薬の知識のみならず、医療という広い観点から患者の置かれている環境・思想・価値観などを俯瞰的に観て考える姿勢が求められている。そのために、本講義では薬剤師に必要な不可欠な資質である倫理観を養うことを目標とし、実際に臨床現場で起きているテーマをとおして人々の多様な生き方や価値観を理解し、自分の考えを述べるができるようにする。また、動物のいのちについても取り上げ、生命を尊重する態度を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。	A-1-1-4
2	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。	A-1-1-5
3	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。	A-1-1-6
4	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。	A-1-1-7
5	現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。	A-1-2-8
6	代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6
7	代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。	A-1-3-7
8	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。	A-2-1-1
9	生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。	A-2-1-2
10	生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。	A-2-1-3
11	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-4
12	医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。	A-2-2-1
13	薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師行動規範等）について説明できる。	A-2-2-2
14	医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	A-2-2-3
15	患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。	A-2-3-2
16	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A-2-3-3
17	知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。	A-2-3-4
18	臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	A-2-4-1
19	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
20	健康被害救済制度について説明できる。	B-2-2-10

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	櫻井	イントロダクション	1~19
2	櫻井	終末期 その1 終末期医療の概要と倫理的問題	2~4、10
3	櫻井	終末期 その2 安楽死、尊厳死、自殺ほう助 終末期鎮静	2~4、10
4	櫻井	脳死、遷延性意識障害	2~4、10
5	櫻井	臓器移植 その1 脳死と臓器移植、子どもの虐待	11
6	櫻井	臓器移植 その2 ドナー家族の思い、医療ツーリズム	11
7	櫻井	生殖補助医療	9、14
8	櫻井	出生前診断	5、6、14
9	櫻井	新生児医療	5
10	櫻井	小児在宅医療	1、5
11	櫻井	治療方針決定のためのガイドライン	4、13、16
12	櫻井	研究倫理・研究者倫理、動物の倫理	16~19

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
13	櫻井	薬害の歴史、医薬品副作用被害救済制度	6、7、20

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

ビデオ視聴や当事者の生の声を聴く機会を設ける。
各回に学生を指名して発表させる。
レポート提出を実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

WebClassにて講義資料をダウンロードできるようにし、授業外学習を促す。
ビデオ視聴をとおして具体的にイメージし、より深く考えるようにする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識:課題に対する小レポートの提出により評価する。
- c) 態度:各テーマに関するディスカッションの際の積極的な発言により評価する。

2) 総括的評価

- a) 知識:定期試験 (70%)、小レポート (30%) により評価する。

〔教科書〕

毎回の授業でレジюмеと資料を配布します。

〔参考書〕

- 「薬学生のための医療倫理」(松島哲久・盛永審一郎編 丸善出版)
 - 「命は誰のものか」(香川知晶著 ディスカヴァー・トゥエンティワン)
 - 「医学的無益性」の生命倫理」(櫻井浩子編著 山代印刷出版部)
 - 「安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定」(松田純著 中公新書)
 - 「長寿時代の医療・ケア エンド・オブ・ライフの論理と倫理」(会田薫子著 ちくま新書)
- 他は講義内で紹介します。

〔オフィスアワー〕

何時でも可。ただし、事前にメールで予約をしてください。

〔所属教室〕

櫻井 浩子 生命・医療倫理学研究室 教育3号館1階 3102-1

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: WebClassにある講義資料を事前に読む。
復習: 講義で学んだことについて、さらに自分で調べる。

〔学生へのフィードバック〕

本講義は教員からの一方的な授業ではなく、教員と学生、学生同士の様々な意見を聞くことによって、学生の視点を広げることを目指します。そのため、講義中の意見交換や、適宜レポートの提出を求めます。また、講義や課題に対する質問に、個別対応します。

〔教員からの一言〕

講義では医療倫理を考えるうえでの題材を提供します。日頃から、メディアや新聞などを通じて発信される医療問題やいのちに関する情報に関心を持ち、自らの問題意識を深めるよう心がけてください。

有機化学Ⅳ

Organic Chemistry IV

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

松本 隆司 (A・B, C・D)

矢内 光 (E・F, G・H)

学習目標 アルコール、フェノール類、エーテル類、アミン類、アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびカルボン酸誘導体(GIO) の構造、性質、反応、合成法などに関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-1
2	アルコールの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-4
3	フェノール類の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-5
4	アルコール、フェノール、カルボン酸、アミン類、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	C3-3-5-1, C3-3-7-1~2
5	エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-2
6	エーテル類の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-6
7	アルデヒドおよびケトンの基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-1
8	アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-7
9	カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-2
10	カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-8
11	ニトリル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	Y-3-24-1
12	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-3
13	カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-9
14	官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	C3-3-6-1
15	代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-29-11

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	松本, 矢内	アルコール、フェノール類、エーテル類、アミン類の命名、構造、性質	1~6, 15
2, 3	松本, 矢内	アルコール、フェノール類、エーテル類(エポキシド)、アミン類の反応と合成法	1~6, 15
4	松本, 矢内	アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびカルボン酸誘導体の命名、構造	7~15
5~9	松本, 矢内	アルデヒド、ケトンの性質、反応、合成法	7, 8, 14, 15
10~15	松本, 矢内	カルボン酸およびカルボン酸誘導体の性質、反応、合成法	9~15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

適宜、課題による演習を実施する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 課題演習により、知識の到達レベルの確認する。

c) 態度: 受講状況、課題・演習の結果を記録する。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験(100%); なお、本試験の成績が著しく不良である場合には、再試験の受験資格を認めないことがある。

c) 態度: 受講態度、課題・演習への取り組み態度が不良である場合には減点する。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版(上、中、下)(J. McMurry 著 伊藤ら訳 東京化学同人)

マクマリー有機化学問題の解き方(第9版)(S. McMurry 著 東京化学同人)

〔参考書〕

有機反応機構 (P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)

最新 全有機化合物名称のつけ方 (廖春荣 著, 三共出版)

ウォーレン 有機化学 (W. Warren ら 著, 野依ら 訳, 東京化学同人)

ボルハルト・ショアー 現代有機化学 (K. P. C. Volhardt, N. E. Schore 著, 古賀ら 訳, 化学同人)

有機化学 (奥山ら 著, 丸善)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

松本隆司 薬品製造学教室 研究2号館3階304

矢内 光 薬品製造学教室 研究2号館3階304

〔準備学習(予習・復習等)〕

本科目の学習内容を理解するには、これ以前の有機化学系科目を習得していることが必要である。必ず、よく復習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

講義や課題に対する質問に、個別に対応する。

〔教員からの一言〕

全ての内容について、しっかりと「理解し」、「紙に書いて他人に説明できる」ことを求めます。まずは、教科書を隔々まで何度も読み返す癖をつけて下さい。また、教科書の章末問題は全て解いて、ノートに書くようにして下さい。

生体分子の化学

Bioorganic Chemistry

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

林 良雄、田口 晃弘

学習目標 医薬品の標的となる生体分子の基本化学構造と、その化学的性質に関する基本的事項を修得する。特に、糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質、核酸など生体で機能する主要な有機分子を分子レベルの化学として理解する能力を養う。また、医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項をも修得し、医薬品の分子レベルでの理解に繋げていく。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	単糖および多糖類の基本構造を概説できる。	C4-1-1-1
2	グルコース以外の単糖類の構造、化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1
3	グルコース以外の単糖類の構造、化学的性質を説明できる。 二糖の種類、構造、化学的性質を説明できる。 代表的な多糖の構造を説明できる。	C4-1-1-1, C6-2-2-1~2
4	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1, C6-2-4-1
5	ペプチドの構造的特徴および化学的性質を説明できる。	C4-1-1-1~2
6	タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。	C4-1-1-1~2
7	核酸の構造が書ける。 塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。	C4-1-1-1, C4-2-1-1~2, C6-2-5-1
8	DNA、RNAの構造について説明できる。 核酸に関連する生体物質の化学構造の特徴を説明できる。	C4-1-1-1, C4-1-1-1, C4-2-1-1, C4-2-1-1~2, C4-2-1-2
9	生体内で起こる有機反応について説明できる。	C4-2-4-1~2
10	化学発がんの仕組みを理解できる。	C4-2-4-2, C4-3-6-3
11	抗がん剤(アルキル化剤)の仕組みを理解できる。	C4-3-2-2, C4-3-6-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	林	生体関連物質の構造およびその役割についての概説	1、4、6、7、8
2~3	"	単糖の命名、Fischer投影式、Haworth投影式	1、2、3
4	"	単糖の立体配座解析および配糖体について	1、2、3
5	"	オリゴ糖、多糖の構造と性質	2、3
6	田口	アミノ酸の構造と性質	4、5
7	"	アミノ酸側鎖のpKaおよび等電点と電気泳動	4、5
8	"	ペプチド結合の特性、アミノ酸分析、Edman分解	4、5
9	"	タンパク質の高次構造	5、6
10-11	林	核酸の構造と性質、核酸に基づく医薬品	7、8、10
12	"	解糖系の化学	9
13-14	"	抗がん剤、補酵素の化学	8、10、11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

課題を与え、SGD活動および復習により、理解の深化を図る。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本講義を理解する上で必要な有機化学の復習を含めながら授業を進めている。また、体系的な理解を深めるために、各論と基本原理の関連に重点を置いた解説を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：小試験により確認する。

c) 態度：授業態度を評価する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験の結果で判定する(100%)。

〔教科書〕

- ・マクマリー有機化学第7版(下) J. McMurry 著 (伊東他訳 東京化学同人)
- ・化学系薬学 II. 生体分子・医薬品の化学による理解 (スタンダード薬学シリーズ II3、日本薬学会編、東京化学同人)

〔参考書〕

- ・薬がわかる構造式集 (林、青柳、飯島編 廣川書店)
- ・ベーシック創薬化学 (赤路、津田、林著 化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、要事前連絡。

〔所属教室〕

林、田口 薬品化学教室 研究2号館3階305

〔準備学習(予習・復習等)〕

13年次の有機化学を十分に復習して講義に望んでください。

〔学生へのフィードバック〕

講義や課題に対する質問事項を個々の対応のみならず、学生全体にお話する。

〔教員からの一言〕

くすりを単なる白い粉でなく、その本質である化学構造に基づいて理解するための基本となる講義です。多くの医薬品は、生体分子を標的に作用し、生体分子の構造を基に作られています。したがって、生体分子の化学構造やそれに基づく機能を理解することは、医薬品の分子レベルでの理解に繋がります。くすりを好きになるために、「生体分子の化学」を楽しんでみて下さい。

漢方薬物学 I

Kampo Medicine I

第 3 学年 前期 3 年必修科目 1 単位

三巻 祥浩 横須賀 章人 松尾 侑希子

学習目標 (GIO) 漢方の特徴、陰・陽、虚・実、寒・熱、表・裏、気・血・水など漢方独自の基礎概念と証、漢方薬に配合される生薬の成分と薬理作用、重要な健康保険適用漢方薬と配合生薬ならびにその臨床応用、漢方薬の使用上の注意、漢方薬の副作用と薬物相互作用を理解する。医師が西洋医学的な治療に併せて漢方薬を処方した際に、その処方目的を理解し、患者に適切な漢方医薬品情報を提供できるまでの基礎知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	漢方の歴史を概説できる。	Y-5-1-1
2	漢方医学と漢方薬の特徴を概説できる。	E2-10-1-1
3	漢方医学と中医学の違いを概説できる。	Y-5-1-2
4	漢方薬と西洋薬の相違を説明できる。	E2-10-1-4
5	漢方薬と民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違を説明できる。	E2-10-1-4
6	漢方医学における証の概念(陰・陽、虚・実、寒・熱、表・裏、気・血・水など)を説明できる。	E2-10-1-2
7	漢方医学の診断法を概説できる。	E2-10-2-1
8	漢方医学における体質や病態の捉え方、治療法を概説できる	E2-10-2-1
9	日本薬局方収載されている漢方薬の適応症と配合生薬を説明できる。	E2-10-1-3, E2-10-2-2
10	漢方薬に配合される代表的な生薬を例示し、薬効に関与している成分を説明できる。	E2-10-1-3, E2-10-2-2
11	漢方薬の剤形と特徴を説明できる。	Y-5-2-3
12	現代医療における漢方薬の重要性を説明できる。	E2-10-2-3
13	漢方薬の使用上の注意点を説明できる。	E2-10-3-1
14	漢方薬の副作用を説明できる。	E2-10-3-1
15	漢方薬と西洋薬との相互作用を説明できる。	E2-10-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	三巻	漢方医学の歴史と特徴	1、2、3
2	"	漢方医学における証の概念と疾患の捉え方	4、6
3	"	漢方医学における診断法(四診)	6、7、8
4	"	漢方薬の保険適用 慢性頭痛と呉茱萸湯、釣藤散など 漢方薬と民間薬の相違	5、8、9、10、12
5	横須賀 松尾	漢方薬各論(1): 桂枝湯、桂枝加芍薬湯、桂枝加芍薬大黄湯、小建中湯、当帰建中湯、黄耆建中湯、芍薬甘草湯、大黄甘草湯など こむらがえりと芍薬甘草湯、便秘と大黄甘草湯 漢方の治療原則(1)	8、9、10、12
6	"	漢方薬各論(2): 桂枝加朮附湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、葛根湯、葛根湯加川キユウ辛夷、麻黄湯など 術後下腹部疼痛と当帰四逆加呉茱萸生姜湯、慢性副鼻腔炎(蓄膿症)と葛根湯加川芎辛夷 附子の修治法	8、9、10、12
7	三巻	漢方薬各論(3): 小青竜湯、麦門冬湯、大建中湯など インフルエンザと麻黄湯、コデイン抵抗性の咳嗽と麦門冬湯、癒着性イレウス(腸閉塞)と大建中湯	8、9、10、12
8	横須賀 松尾	漢方薬各論(4): 小柴胡湯、柴胡桂枝湯、大柴胡湯、柴陷湯など 高血圧症と大柴胡湯 漢方の治療原則(2)	8、9、10、12
9	"	漢方薬各論(5): 四逆散、柴胡加竜骨牡蛎湯、柴胡桂枝乾姜湯、乙字湯、小柴胡湯加桔梗石膏など 神経症状と柴胡加竜骨牡蛎湯 漢方薬の剤形	8、9、10、11、12

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	三巻	漢方薬各論 (6) : 補中益気湯、加味逍遙散、半夏瀉心湯、三黄瀉心湯、六君子湯、人参湯など 漢方薬の臨床応用 (1) : 胆石症、胃食道逆流症 (非びらん性胃食道逆流症)、機能的胃腸症など 柴胡剤と瀉心湯類	8、9、10、12
11	"	漢方薬各論 (7) : 八味地黄丸、牛車腎気丸、柴朴湯、半夏厚朴湯、麻杏甘石湯、五虎湯、神秘湯、苓甘姜味辛夏仁湯など 漢方薬の臨床応用 (2) : 抗がん剤の副作用の軽減、高齢者糖尿病、気管支喘息など	8、9、10、12
12	"	漢方薬各論 (8) : 柴苓湯、五苓散、加味帰脾湯、酸棗仁湯、抑肝散、抑肝散加陳皮半夏、当帰芍薬散、桂枝茯苓丸、加味逍遙散など 漢方薬の臨床応用 (3) : ネフローゼ症候群、不眠症、認知症、更年期障害など	8、9、10、12
13	"	漢方薬の使用上の注意と副作用、相互作用 (1) 胃腸障害、肝機能障害、間質性肺炎など	13、14、15
14	"	漢方薬の使用上の注意と副作用、相互作用 (2) 偽アルドステロン症、腸間膜静脈硬化症など 小児、高齢者、妊婦に対する使用上の注意	13、14、15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義プリントに、説明事項や板書事項を書き込む形式で講義を進める。

薬剤師国家試験問題のうち、漢方薬に関する問題を題材として、出題意図、解答、関連項目をレポートに纏めてもらう。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義 1 回ごとにキーワードを示し、学生がプリントに説明事項や板書事項を書き込む形式で講義を進める。最終的に各自のオリジナル講義ノートが完成することになり、それをもとに復習をすれば、重要なポイントを見落とすことなく学習することができる。また、適宜実物の生薬や漢方薬を提示し、理解を深めるように努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：過去の定期試験問題を用いて演習を行い、知識の定着度を確認する。
- c) 態度：受講態度不良者に対して改善の指導をする。
- d) パフォーマンス：主に国家試験の問題を用いて演習を行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験にて評価する (100%)。再試験を 1 回実施する。

〔教科書〕

薬学生のための漢方薬入門第 4 版 (指田、三巻編著、廣川書店)

漢方薬物学 I 講義ノート、漢方薬物学 I 資料集 (生協にて購入のこと)

〔参考書〕

漢方の第一歩 (並木監、渡辺著、南江堂)

症例実解漢方薬学 (小池、庄子、塚田著、京都廣川書店)

今日の治療薬 2020 (浦部、島田、川合編集、南江堂)

〔オフィスアワー〕

三巻 祥浩 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。研究 2 号館 4 階 408 教授室

〔所属教室〕

三巻 祥浩 漢方資源応用学教室 研究 2 号館 4 階 408 教授室

横須賀 章人 漢方資源応用学教室 研究 2 号館 4 階 408 室

松尾 侑希子 漢方資源応用学教室 研究 2 号館 4 階 408 室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。予習は、漢方薬物学 I 講義ノートに各項目の教科書の該当ページが記載されているので、該当箇所をよく読んで講義に臨むこと。復習では、漢方薬物学 I 講義資料集に掲載されている練習問題を十分に活用すること。

〔学生へのフィードバック〕

講義の最後に課題を課し、次回の講義で解説を行う。

〔教員からの一言〕

2 年前期の漢方薬物学実習の内容を、より深く、理論的に解説します。

バイオ医薬品

Biopharmaceutics in Medicine

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

高木 教夫

林 秀樹

学習目標 (GIO) 医療におけるバイオテクノロジーの応用は広範囲にわたっている。当該科目においては、生化学Ⅰ～Ⅲで修得した知識統合しながら、遺伝子情報に基づく遺伝子操作法への理解を深め、遺伝子診断・治療、テーラーメイド医療、ゲノム創薬および再生医療の概念を修得する。さらに、バイオテクノロジーを駆使したバイオ医薬品、細胞治療、遺伝子治療および分子標的薬などによる疾患治療に関する知識と具体例を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。 DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	C6-4-1-1~2
2	染色体(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)および遺伝子(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)の構造、RNAの種類と機能について説明できる。	C6-4-2-1~3
3	DNAの複製過程およびDNAからRNAへの転写過程について説明できる。	C6-4-3-1, C6-4-4-1
4	エピジェネティックな転写制御について説明できる。 転写因子による転写制御について説明できる。	C6-4-4-2~3
5	RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。 RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	C6-4-4-4~5
6	DNAの変異と修復について説明できる。	C6-4-5-1
7	遺伝子工学技術(イデンシクローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)について概説できる。 遺伝子改変動物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物など)について概説できる。	C6-4-6-1~2
8	細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	C6-7-2-1
9	正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。 がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	C6-7-3-1~2
10	組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。 組換え体医薬品の安全性について概説できる。	E2-8-1-1~3
11	遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。	E2-8-2-1
12	移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。	E2-8-3-1
13	摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。 胚性幹細胞(ES細胞)、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。	E2-8-3-2~4
14	代表的な遺伝子組換え体の抗リウマチ薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 代表的な遺伝子組換え体の骨粗鬆症治療薬および関連薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-2-3-1~2
15	代表的な遺伝子組換え体の血液製剤類、血液凝固関係製剤、抗血栓剤を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-3-2-2, E2-3-2-5
16	分子標的治療薬としての代表的な抗悪性腫瘍薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	E2-7-8-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	高木	生命情報を担う遺伝子概論と遺伝子情報を担う分子	1, 2
2~4	"	遺伝子の複製および転写・翻訳の過程と調節および遺伝子の変異・修復	3~6
5~6	"	遺伝子工学技術と遺伝子改変動物	7
7, 8	"	細胞死および正常細胞・がん細胞 がん遺伝子とがん抑制遺伝子	8, 9
9	"	組換え体医薬品	10
10~11	"	遺伝子治療および細胞、組織を用いた移植医療	11~13
12~14	林(秀)	代表的な遺伝子組換え体の治療薬の薬理作用、機序、副作用	14~16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に対応する補助プリントを配布し、講義しながら、空欄部分や補足部分を記入させるようにしている。

WebClass において、講義の復習を演習形式で各自自習できるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

毎回、講義の最初に進行予定範囲とキーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にしている。

機能形態学、生化学などで得た知識を可能な限り復習し、これら知識と病態、そして薬の効くプロセスを連動させて考え、応用力を養えるよう努めている。

教科書等に未掲載の最新バイオ医薬品の作用機序や副作用情報は講義用補助プリントに随時反映させ、提供・解説している。

〔成績評価方法〕

形成的評価

知識： 講義内で関連科目に関する質問を行う。関連事項の解説をしてフィードバックする。

総括的評価

知識： 定期試験の成績（100％）

〔教科書〕

薬学領域の生化学 第2版（伊東 晃編 廣川書店）

バイオ医薬品（京都廣川書店）

〔参考書〕

補助プリントを配布

ハーバー・生化学（上代 淑人監訳 丸善）

遺伝子工学 ―基礎から応用まで―（野島博著 東京化学同人）

〔オフィスアワー〕

高木 原則としていつでも可。ただし要事前連絡。

林（秀）原則としていつでも可。ただし要事前連絡。

〔所属教室〕

高木 応用生化学教室 研究2号棟6階 606号

林（秀）応用生化学教室 研究2号棟6階 606号

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義用資料を予め配布しており、それによって予習が行えるように配慮している。復習についてもテキストだけでなく、講義用資料を活用するように指導している。予習よりも復習に重点を置いた指導を行っている。

〔学生へのフィードバック〕

講義内で関連科目に関する質問を行い、解説をしてフィードバックする。

WebClass の演習に対してフィードバックを行なっている。

〔教員からの一言〕

抗体医薬品等を中心とするバイオ医薬品、細胞治療、遺伝子治療などは、薬学領域でもこれから益々重要になってくる分野です。日々進化していく分野の中で、その必要性和重要性を実感しながら学んでいってください。

感染制御学

Infection Control Science

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

中南 秀将 (E・F、G・H)

輪島 文明 (A・B、C・D)

学習目標 (GIO) 感染症は微生物が人(宿主)に定着・侵入することによって発症し、その原因微生物の伝播によって拡大する疾患である。さらに、易感染性宿主の増加や生活環境の変化が、新たな感染症の流行や薬剤耐性菌の出現につながり、感染症の治療が難しくなっている。そのため、感染症治療薬の適正使用が重要となっている。本講義は、薬剤師として感染症治療に必要な基本知識に加え、変化する感染症に対応できる能力の習得を目指している。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。	E2-7-1-2
2	代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	E1-2-2-7
3	以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)・感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎)	E2-7-3-1
4	以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性虫垂炎、胆のう炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎	E2-7-3-2
5	以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎	E2-7-3-3
6	以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎	E2-7-3-4
7	以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)・予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等	E2-7-3-5
8	脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-6
9	以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、せつ、毛のう炎、ハンセン病	E2-7-3-7
10	以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等	E2-7-3-9
11	以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症	E2-7-3-10
12	ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-1
13	サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-2
14	エンゼについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-3
15	ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)・症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-4
16	後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-5
17	以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト-ヤコブ)病	E2-7-4-6

番号	内容	コアカリとの関連コード
18	抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	E2-7-5-1
19	以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症	E2-7-5-2
20	以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢	E2-7-6-1
21	以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症	E2-7-6-2
22	病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	E2-7-10-1
23	ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。	C8-2-2-1
24	現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。	D1-2-2-1
25	感染症法における、感染症とその分類について説明できる。	D1-2-2-2
26	代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-2-3
27	予防接種の意義と方法について説明できる。	D1-2-2-4
28	母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	D1-2-4-2
29	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8-3-5-1
30	主な滅菌法および消毒法について説明できる。	C8-3-5-2
31	感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。	C8-4-1-1
32	日和見感染と院内感染について説明できる。	C8-4-1-2
33	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
34	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
35	院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的提案ができる。	F-2-6-14

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	中南、輪島	感染症総論 感染症法、新興再興感染症、感染経路と潜伏期、治療法、臨床検査、予防接種	1、2、23、24、25、27、31
2	"	感染症治療 総論 治療薬の副作用、相互作用、薬物動態、抗微生物薬の適正使用、PK/PD	3~22
3	"	感染症各論（1） 消化器系（肝炎を含む）、循環器系、腎・泌尿器系	4、6
4	"	感染症各論（2） 呼吸器、感覚器系、中枢系神経系（髄膜炎）	3、5、8
5	"	感染症各論（3） 皮膚・軟部組織、性感染症、母子感染症、その他	7、9、11、26、28
6	"	感染症各論（4） グラム陽性菌感染症	2、3、5、8、9、10、11
7	"	感染症各論（5） グラム陰性桿菌感染症	2、3、4、5、6、7
8	"	感染症各論（6） グラム陰性桿菌、その他の細菌感染症	3、7、10
9	"	感染症各論（7） DNA ウイルス感染症（ヘルペスウイルス、サイトメガロウイルス、突発性発疹、伝染性単核球症、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症）	12、13、15
10	"	感染症各論（8） RNA ウイルス感染症（インフルエンザ、伝染性紅斑（リンゴ病）手足口病、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、	14、15
11	"	感染症各論（9） RNA ウイルス感染症（レトロウイルス感染症）とプリオン 輸入感染症、国際協力	2、16、17
12	"	感染症各論（10） 真菌感染症、原虫・寄生虫感染症	2、18、19、20、21
13	"	感染制御 院内感染、薬剤耐性菌対策、感染症対策、サーベイランス、AST、ICT	29、30、32、33、34、35

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

WebClass に講義資料および確認試験を掲示。
確認試験により、学修の到達レベルを確認させている。
講義中に、学生を指名し、質問について回答させている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・新聞やTVニュース等で報道された最新の感染症情報や開発中の抗微生物薬や副作用情報などを、図表や写真・新聞記事を活用して、リアルタイムで講義に取り入れ、興味ある講義を心がけている。
- ・WebClass に、講義内容をまとめた図表を掲示し、学修しやすいようにしている。
- ・WebClass に確認問題を掲示し、学修の到達レベルが確認できるようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:ペーパー試験に加え、WebClass の確認問題や口頭試問等にて評価する。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験（80%）、WebClass の確認問題（20%）等にて評価する。

3) 成績評価の基準

S（90%以上）:合格

A（80～89%）:合格

B（70～79%）:合格

C（60～69%）:合格

D（60%未満）:不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

出席不良者（全講義の1/3以上の欠席）に対しては、定期試験の受験停止措置を講ずることがある。欠席や遅刻等で、適切な理由があるものは欠席届を提出すること。

〔教科書〕

新しい微生物学 第5版（廣川書店）

〔参考書〕

JAID/JSC 感染症治療ガイド 2019（岩田健太郎 総合医学社）

抗菌薬虎の巻 改訂2版（大曲貴夫・監修 南山堂）

グローバル感染症マニュアル（南江堂）

医科ウイルス学 改訂第3版（南江堂）

葉がみえる Vol.3（Medic Media）

感染症診療スタンダードマニュアル 第2版（羊土社）

〔オフィスアワー〕

いつでも可（病原微生物学教室）

〔所属教室〕

中南 秀将 病原微生物学教室 研究2号館5階

輪島 丈明 病原微生物学教室 研究2号館5階

〔準備学習（予習・復習等）〕

・講義資料はWebClass上に掲示します。各自、ダウンロードし、持参してください。

・確認問題がWebClassに掲示されています。成績評価にも反映されますが、それ以外でも各自で、予習や復習に活用してください。

〔学生へのフィードバック〕

講義において、練習問題を提示して、解答と解説を行い、講義内容のフィードバックする。

最終の講義において、重要点を解説する。

〔教員からの一言〕

感染制御学は、病院にとどまらず、在宅においても重要になっています。また、感染症は福祉制度、公衆衛生、生活環境によって変わります。年によって、流行する感染症は異なります。これらの変化に対応できる薬剤師になれるように、講義だけに頼らず、視野を社会に広げてください。

常に、新しい情報を取得できるように心がけてください。

本講義は、知識よりも、感染症に対する考え方やその情報処理について学修できることを重点においています。

臨床免疫学

Clinical Immunology

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

大野 尚仁、安達 禎之、山中 大輔

学習目標 (GIO) 生体はさまざまな仕組みを用いて恒常性を維持している。これらの仕組みの中で、病原微生物によってもたらされる感染症や悪性腫瘍などに対し、これを排除するために中心となって働くのは免疫機構（あるいは生体防御機構）である。この免疫機構・生体防御機構は原始的な生物からヒトまで広く備わっている。本講義では、2年次に「免疫学」で修得した免疫に関わる基礎的な知識（免疫組織、細胞、因子など）を基盤として、感染、移植、腫瘍、アレルギー、自己免疫、免疫不全など、免疫の維持と関連疾患について病態と治療法を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	自然免疫、獲得免疫、受動免疫、能動免疫について説明できる。	C8-1-1-3
2	体液性免疫、細胞性免疫について説明できる。	C8-1-1-4
3	移植片の拒絶と生着の機構を説明できる。	C8-2-1-4
4	GVH 反応について説明できる。	C8-2-1-4
5	腫瘍と宿主免疫系との相互関係について説明できる。	C8-2-1-6
6	感染症に関わる免疫機構について説明できる。	C8-2-1-5
7	免疫・神経・内分泌の関係について説明できる。	C8-2-1-1
8	免疫抑制薬、免疫増強薬について説明できる。	C8-2-2-1, C8-2-2-3, E2-2-2-2, E2-2-4-1
9	アレルギー疾患の病態と治療法について説明できる。	C8-2-1-2, E2-2-2-1
10	免疫学的自己非自己を制御する仕組みを説明できる。	C8-1-1-2
11	免疫学的自己非自己の制御が破綻する仕組みを説明できる。	C8-1-1-2
12	自己免疫疾患の病態と治療法について説明できる。	C8-2-1-3
13	免疫不全の病態と治療法について説明できる。	C8-2-1-3
14	免疫増殖性症候群の病態と治療法について説明できる。	C8-2-1-6
15	免疫検査について説明できる。	E1-2-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、安達、山中	はじめに、自然免疫、獲得免疫、受動免疫、能動免疫	1,2,7
2	"	アレルギー（急性）	9
3	"	アレルギー（慢性）	9
4	"	アレルギー治療	8,9
5	"	自己免疫疾患（1）自己免疫疾患の発症機構	10,11,12
6	"	自己免疫疾患（2）代表的な自己免疫疾患の病態と治療	8,10,11,12
7	"	免疫不全・免疫増殖性症候群	8,13,14
8	"	移植免疫	1,2,3,4
9	"	腫瘍免疫	5,8
10	"	感染免疫	1,6,8
11	"	感染免疫	1,6,8
12	"	予防接種	1,6,8
13	"	免疫反応の応用、血液製剤	15
14	"	総合演習	1~15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

レポート課題に取り組み、Web 上の演習問題を解くことで、自ら課題を発見し解決する能力を醸成する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

1. すべての ppt ファイルは公開している。前年度のファイルを見ることで、講義全体の流れを知ることができ、また予習復習に役立てることができる。あらかじめキーワードのリストを「講義のポイント」として配布し、講義の目標を明確にしている。レポート提出を複数回実施し、自ら調査して報告書を作成する

ことを経験してもらっている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：レポート作成を通じて、解釈ならびに問題解決レベルの知識を醸成する。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験 (70%)、レポート (30%) などにより総合的に評価する。

〔教科書〕

免疫学概説 (宿前ら 廣川書店)

〔参考書〕

免疫生物学 (笹月監訳 南江堂)

免疫学イラストレイテッド (高津監訳 南江堂)

免疫のしくみ-免疫学入門- (大沢利昭訳 東京化学同人)

免疫学の基礎 (小山次郎、大沢利昭 東京化学同人)

免疫学辞典 (大沢利昭ら編 東京化学同人)

医系免疫学 (矢田純一著 中外医学社)

標準免疫学 (谷口克、宮坂昌之編 医学書院)

カラー図説免疫 (笹月健彦監訳 メディカルサイエンスインターナショナル)

分子細胞免疫学 (松島綱治訳、エルゼビア・ジャパン)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、メールにて予約すること。

〔所属教室〕

免疫学教室 研究2号棟 505号

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義資料を WebClass に事前に掲示する。これらを事前に読むこと。

課題レポートに取り組むことで、知識を定着させること。また、課題で遭遇する難病に対する医療者の取り組みに接することで、倫理観など医療人として必要なことを身に着ける。

〔学生へのフィードバック〕

日々の質問に丹念に答え、定期試験前には、準備すべき学習内容について入念に復習講義を行い、定期試験後にはフィードバック講義を行う。

〔教員からの一言〕

講義対応 Web WebClass

講義対応 Web に前年の同科目の講義ファイルが公開されています。これらを見て予習しておくことを勧めます。

〔備考〕

関連するコアカリ項目

C8-1 生体防御反応

C8-1 免疫を担当する組織・細胞

C8-1 分子レベルで見た免疫のしくみ

D1-2 感染症とその予防

D1-2 母子保健

D2-1 化学物質による発がん

E1-2 症候

E1-2 病態・臨床検査

E2-2 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

E2-3 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療

E2-4 呼吸器系疾患の薬、病態、治療

E2-4 消化器系疾患の薬、病態、治療

E2-5 代謝系疾患の薬、病態、治療

E2-5 内分泌系疾患の薬、病態、治療

E2-7 細菌感染症の薬、病態、治療

E2-7 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療

E2-7 悪性腫瘍の薬、病態、治療

E2-8 バイオ・細胞医薬品とゲノム情報

化学物質と生体影響

Chemical Substances and Biological Effects

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

小倉 健一郎 (C,D,E,F)

西山 貴仁 (G,H)

大沼 友和 (A,B)

学習目標 (GIO) 我々の身の回りには、栄養素や生体成分などの生体維持にとって不可欠な物質以外に、外来物質あるいは異物と呼ばれる多種多様な化学物質が存在している。例えば、医薬品、食品添加物、農薬、化粧品など、我々が意図的に創製した化学物質のみならず、非意図的に創り出された多くの環境汚染物質や天然物質などがある。これらの多種多様な異物は、飲食、呼吸、そして接触などにより体内に吸収されたのちに、各組織に分布し、代謝・排泄される。体内に吸収された異物の中には、そのままの型であるいはさらに代謝を受けた代謝物として有害作用あるいは薬理作用を発現するものもある。このような多種多様な化学物質の生体への影響（特に有害作用）を知るために、化学物質の吸収、分布、代謝、排泄（ADME）の基本的プロセスについて学習する。さらに、慢性毒性として最大の脅威である化学発がんについて、代表的な発がん性物質を例示しながらその発現機序について学ぶ。尚、食品や環境中に存在する化学物質の生体影響、毒性評価法、ならびに安全性評価と適正使用については、3年後期の化学物質の毒性と安全性で詳しく学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な有害化学物質の吸収、分布の基本的なプロセスについて説明できる。	D2-1-1-1
2	代表的な有害化学物質の代謝の基本的プロセスについて説明できる。	D2-1-1-1, E4-1-4-1
3	代表的な有害化学物質の排泄の基本的プロセスについて説明できる。	D2-1-1-1
4	代表的な薬物代謝酵素について概説できる。	D2-1-1-1, D2-1-3-1, E4-1-4-1
5	薬物代謝第Ⅰ相酵素が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	D2-1-1-1, D2-1-3-1, E4-1-4-2
6	薬物代謝第Ⅱ相酵素が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。	D2-1-1-1, D2-1-3-1, E4-1-4-2
7	活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	D2-1-1-4
8	発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	D2-1-3-1
9	遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。	D2-1-3-2
10	発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。	D2-1-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	小倉・西山・大沼	有害化学物質の体内動態	1,2,3
2	小倉・西山・大沼	有害化学物質の体内動態	1,2,3
3	小倉・西山・大沼	有害化学物質の体内動態	1,2,3
4	小倉・西山・大沼	有害化学物質の体内動態	1,2,3
5	小倉・西山・大沼	薬物代謝第Ⅰ相酵素の種類と特徴	4
6	小倉・西山・大沼	薬物代謝第Ⅱ相酵素の種類と特徴	4
7	小倉・西山・大沼	活性酸素毒性と生体防御機構	7
8	小倉・西山・大沼	薬物代謝酵素に影響を及ぼす因子	4
9	小倉・西山・大沼	薬物代謝第Ⅰ相酵素による化学物質の代謝的活性化	5,8
10	小倉・西山・大沼	薬物代謝第Ⅱ相酵素による化学物質の代謝的活性化	6,8
11	小倉・西山・大沼	化学物質による遺伝子障害とその検出法	9
12	小倉・西山・大沼	化学発がん（発がん性物質の種類と分子メカニズム）	8,10
13	小倉・西山・大沼	化学発がん（発がん性物質の種類と分子メカニズム）	8,10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義と関連する基礎的な内容をランダムに指名して口頭で回答させている。小テストや演習問題の回答とその理由をランダムに指名して口頭で述べさせている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

講義毎に行動目標を伝えさらに行動目標に関連するキーワードを提示する。薬毒物による中毒事件の報道などを紹介しつつ、講義内容に興味を湧くような授業としている。教科書と講義内容の関連性が明確になるように指示しながら講義を行い、予習・復習がし易いように心がけている。プロジェクターの使用は、写真や複雑な図などの板書出来ないものに限って行なう。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験（100％）にて評価する。

S（90％以上）：合格

A（80～90％未満）：合格

B（70～80％未満）：合格

C（60～70％未満）：合格

D（60％未満）：不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

最新衛生薬学（別府、平塚編 廣川書店）

〔参考書〕

裁判化学（吉村編著）衛生薬学 健康と環境（永沼、姫野、平塚編 丸善）薬毒物試験法と注解 2017（日本薬学会編）衛生試験法・注解 2015（日本薬学会編）

〔オフィスアワー〕

小倉 健一郎 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室 2）但し、要事前連絡。

西山 貴仁 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室 3）但し、要事前連絡。

大沼 友和 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室 2）但し、要事前連絡。

〔所属教室〕

小倉 健一郎 薬物代謝安全性学教室 准教授

西山 貴仁 薬物代謝安全性学教室 講師

大沼 友和 薬物代謝安全性学教室 助教

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨む。また、講義後の復習を必ずおこない、不明な箇所等についてはオフィスアワーを有効に活用して指導を受けるようにして下さい。

〔学生へのフィードバック〕

講義時間中に行う演習問題とその解説を通じて、学習内容の理解度を高める。

〔教員からの一言〕

医薬品、食品添加物、農薬、化粧品やその他工業用品など皆さんの生活を豊かにする化学物質が日々開発され、使用されています。しかしながら、それらのほとんどは人工的に化学合成されたものであり、その使用量、使用方法や、廃棄物としての処理法が不適切な場合には、重大な健康被害を及ぼすおそれがあります。皆さん一人ひとりの顔や性格が違うように、それら化学物質の構造や物理化学的性質、そして生体に対する影響も様々です。この講義を受講すれば、化学物質の毒性について予測することが可能となり、様々な化学物質による有害作用を回避し、適正に使用できる様になります。薬学部ならではの内容ですのでしっかり勉強して下さい。

食品の安全性と管理

Food Hygiene and Food Regulation

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

早川 磨紀男 (A・B, C・D)

安藤 堅 (E・F, G・H)

学習目標 健康維持に必要な食品の安全性を科学的に理解するために、食品の品質と管理、食中毒、食品汚染による健康被害に関する基本的知識を習得する。(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	農薬の安全性と残留基準について説明できる。	D1-3-3-3
2	遺伝子組換え食品の現状を説明できる。	D1-3-2-7
3	食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。	D1-3-2-7
4	代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。	D1-3-2-5
5	食品が腐敗する機構について説明できる。	D1-3-2-1, D1-3-2-3
6	油脂が変敗する機構を説明できる。	D1-3-2-2
7	食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。	D1-3-2-1
8	食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。	D1-3-2-3
9	食品を介した感染症(経口感染症)を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	D1-3-3-1
10	食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。	D1-3-3-1~2
11	代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防法について説明できる。	D1-3-3-1
12	食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。	D1-3-3-2
13	代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。	D1-3-3-3
14	食品成分由来の発がん物質を列挙し、それらの生成機構を説明できる。	D1-3-2-4
15	化学物質(ヒ素、メチル水銀、Cd、PCBなど)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	D1-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	安藤、早川	残留農薬による食品汚染	1
2	"	遺伝子組換え食品	2
3	"	食品添加物概説	3
4	"	食品添加物各論	4
5	"	食品の変質と腐敗	5、6、7
6	"	食品の安全性確保のための施策	8
7	"	経口感染症	9
8	"	食中毒の種類と発生状況	10
9	"	微生物による食中毒(1)	11
10	"	微生物による食中毒(2)	11
11	"	自然毒による食中毒	12
12	"	マイコトキシン	13
13	"	食物中の発癌物質	12、14
14	"	環境汚染物質による食品汚染	15

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

食品汚染、食中毒事件、環境汚染問題など、われわれの健康を脅かす社会問題や食品に新たに見いだされた機能性などをテーマとして、これらに関連した報道記事等を主体的に調査し、その内容を簡潔に報告するとともに、記事の背景となった事実や知見について、客観的視点で追跡・考察したレポートを課す。また、SBOに掲げられていて授業でも取り上げる重要な項目を網羅した自己点検チェックシートを配布し、

受講後、各項目について説明できることを目指すよう指導する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
食品の安全性に関わる時事問題を適時取り上げ紹介することにより、学生に食と健康への関心を高める機会を与えている。プロジェクターで映写して紹介した資料は、WebClass に掲示して、復習に役立てられるようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：講義の進行とともに WebClass で重要な資料を掲示しており、学生の閲覧状況を随時、把握している。

2) 総括的評価

知識：定期試験 (95%)、レポート (5%) により評価する。

〔教科書〕

最新衛生薬学（別府正敏、平塚明 編集 廣川書店）

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可であるが、事前にメール等で連絡するのが望ましい。

早川 衛生化学教室 研究1号館4階 402-0号

安藤 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔所属教室〕

早川 衛生化学教室 研究1号館4階 402-0号

安藤 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

予習は講義前に10分程度で良いので、シラバスに記載された予定授業内容に対応する教科書の記載を読んだから講義に臨んでください。復習は、講義後 WebClass に掲示された資料を随時閲覧して、理解できているかどうか確認してください。細菌性食中毒や経口感染症などについては、原因菌、特徴的な症状、予防法、発生状況などを表にまとめて復習すると良いでしょう。食品添加物は、教科書の図と WebClass 掲載資料を参照して構造式と添加物名、用途を結び付けられるようにしましょう。

〔学生へのフィードバック〕

フィードバック講義を実施する。

〔教員からの一言〕

「栄養と食品機能」(2年生後期)と同様、国家試験で度々出題される領域を扱います。食中毒の発生状況、新規に指定された食品添加物など、リアルタイムの内容を授業でとりあげます。

〔備考〕

D1 健康 (3) 栄養と健康のうち、[2. 食品機能と食品衛生] に関する D1-3-2-1 から D1-3-2-5 までの SBOs と D1-3-2-7 の一部、および、[3. 食中毒と食品汚染] に関する D1-3-3-1 から D1-3-3-3 の全ての SBOs を行動目標として取り上げます。

化学物質の毒性と安全性

Toxicity and Safety of Chemical Substances

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

小倉 健一郎 (C,D,E,F)

西山 貴仁 (G,H)

大沼 友和 (A,B)

学習目標 (GIO) 我々の身の回りには、栄養素や生体成分などの生体維持にとって不可欠な物質以外に、外来物質あるいは異物と呼ばれる多種多様な化学物質が存在している。例えば、医薬品、食品添加物、農薬、合成麻薬・覚醒剤など、我々が意図的に創製した化学物質の他、非意図的に創り出された多くの環境汚染物質や天然物質などがある。我々の日常生活は、それら様々な化学物質の恩恵のもとに成り立っている反面、それらが潜在的にもつ危険性に常に曝されている。多種多様な化学物質による危険性から回避でき、安全で安心な日常生活をおくれるようになるために、食品や環境中に存在する代表的な化学物質を例示しながら、その毒性発現機序、健康影響、毒性評価法に関する基本的知識を修得し、化学物質のリスク評価と適正使用（リスク管理）について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害物質の特徴について説明できる。	D2-1-1-3
2	農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	D2-1-1-3
3	肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。	D2-1-1-2
4	重金属による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	D2-1-1-4
5	薬物乱用による健康への影響について説明できる。	D2-1-1-5
6	代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	D2-1-1-6
7	代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。	D2-1-1-7
8	化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	D2-1-2-2
9	毒性試験の結果を評価するのに必要な量－反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。	D2-1-2-3
10	化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。	D2-1-2-4
11	有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。	D2-1-2-5
12	個々の化学物質の使用目的に鑑み、リスク評価と適正使用について説明できる。	D2-1-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	小倉・西山・大沼	農薬の急性毒性、慢性毒性発現機構	2
2	小倉・西山・大沼	農薬の急性毒性、慢性毒性発現機構	2
3	小倉・西山・大沼	PCB、ダイオキシンなどの急性毒性、慢性毒性発現機構	1
4	小倉・西山・大沼	PCB、ダイオキシンなどの急性毒性、慢性毒性発現機構	1
5	小倉・西山・大沼	有害化学物質の急性毒性、慢性毒性発現機構	3
6	小倉・西山・大沼	重金属の急性毒性、慢性毒性発現機構	4
7	小倉・西山・大沼	重金属毒性と生体防御機構	4
8	小倉・西山・大沼	一般毒性試験と特殊毒性試験	8
9	小倉・西山・大沼	化学物質のリスク評価、一日許容摂取量、実質安全量、トキシコキネティクス	8,9,10,12
10	小倉・西山・大沼	化学物質の事前審査制度（化審法） 化学物質の適正使用	8,9,11,12
11	小倉・西山・大沼	麻薬、覚せい剤の代謝と毒性ならびに検出法	5,7
12	小倉・西山・大沼	習慣性医薬品ならびにアルカロイド類の代謝と毒性ならびに検出法	5,7
13	小倉・西山・大沼	中毒原因物質と解毒処置	6

{アクティブ・ラーニングの取り組み}

講義と関連する基礎的な内容をランダムに指名して口頭で回答させている。小テストや演習問題の回答とその理由をランダムに指名して口頭で述べさせている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
講義毎に行動目標を伝えさらに行動目標に関連するキーワードを提示する。薬毒物による中毒事件の報道などを紹介しつつ、講義内容に興味を湧くような授業としている。教科書と講義内容の関連性が明確になるように指示しながら講義を行い、予習・復習がし易いように心がけている。プロジェクターの使用は、写真や複雑な図などの板書出来ないものに限って行なう。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - 2) 総括的評価
- a) 知識定期試験（100％）にて評価する。
S（90％以上）：合格
A（80～90％未満）：合格
B（70～80％未満）：合格
C（60～70％未満）：合格
D（60％未満）：不合格
再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

最新衛生薬学（別府、平塚編 廣川書店）

〔参考書〕

裁判化学（吉村編著）衛生薬学 健康と環境（永沼、姫野、平塚編 丸善）薬毒物試験法と注解 2017（日本薬学会編）衛生試験法・注解 2015（日本薬学会編）

〔オフィスアワー〕

小倉 健一郎 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室2）但し、要事前連絡。
西山 貴仁 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室3）但し、要事前連絡。
大沼 友和 いつでも可。薬物代謝安全性学教室 研究棟 403（研究室2）但し、要事前連絡。

〔所属教室〕

小倉 健一郎 薬物代謝安全性学教室 准教授
西山 貴仁 薬物代謝安全性学教室 講師
大沼 友和 薬物代謝安全性学教室 助教

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨む。また、講義後の復習を必ずおこない、不明な箇所等についてはオフィスアワーを有効に活用して指導を受けるようにして下さい。

〔学生へのフィードバック〕

講義時間中に行う演習問題とその解説を通じて、学習内容の理解度を高める。

〔教員からの一言〕

3年前期の「化学物質と生体影響」の学習を基盤として、農薬、PCB、ダイオキシン、重金属類など代表的な環境汚染性物質が「なぜ危険なのか？」そして「どうすればそれらの脅威から回避できるのか？」について学習します。更に、それら有害化学物質から「食の安全」はどのように担保されているのか？また、有害化学物質による「人体や生態系への悪影響の防止」はどのようになされているのか？など、わが国の「リスク評価とリスク管理」について学習します。くすり（薬・毒物）の専門家として必須の知識です。この講義も薬学部ならではの内容です。しっかり勉強して下さい。

製剤設計学

Pharmaceutical Technology

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

高島 由季

学習目標 (GIO) 医療に使用される薬物は、錠剤、カプセル剤、注射剤などのように製剤化されたものである。薬剤学は、物理薬剤学、生物薬剤学(薬物動態制御学)、製剤設計学、薬物送達学に分かれる。医薬品創製における製剤化では、薬物の化学的、物理的、生物学的性質を明らかにし、薬剤学の知識を集結して、有効性と安全性が高く、使用され易いように工夫された、患者をはじめとする使用者に最適な優しい製剤 (user-friendly medicine) に仕上げる必要がある。また、医療現場での適正使用においても、製剤とその機能を正しく把握することは必須である。本科目では、製剤化の意義と製剤の性質を理解するため、薬物や製剤材料の物性、製剤の種類、製造法、品質評価法等の製剤設計学に関する基礎と理論及びその技術について、実施例も挙げて講義する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	日本薬局方製剤総則(通則、製剤各条)について説明できる。	E5-2-1-1~6
2	製剤化の概要と意義について説明できる。	E3-1-1-5, E5-2-1-1
3	経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-1-1-1, E5-1-3-2~3, E5-1-4-1, E5-2-1-2
4	粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。	E5-1-3-4, E5-1-4-1, E5-2-1-3
5	注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-1-3-2~4, E5-1-4-1, E5-2-1-4
6	皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-1-2-1, E5-1-3-4, E5-2-1-5
7	その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。	E5-2-1-6
8	代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。	E5-1-4-1, E5-2-2-1
9	製剤化の単位操作、汎用される製剤機械について説明できる。	E5-2-2-2
10	代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。	E5-2-2-2
11	汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。	E5-1-4-3, E5-2-2-3
12	製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。	E5-2-2-4
13	製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。	E5-2-2-4, E5-2-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	高島	製剤総論:製剤通則、製剤包装通則、製剤各条、生薬関連製剤各条	1, 2
2	"	経口投与製剤(散剤)単位操作(粉碎、分級、混合)固形製剤に用いる医薬品添加剤	1~3, 8~10, 13
3	"	経口投与製剤(顆粒剤)単位操作(造粒、乾燥)	1~3, 8~10, 13
4	"	経口投与製剤(錠剤)単位操作(打錠、コーティング)	1~3, 8~10, 13
5	"	経口投与製剤(カプセル剤、液剤など)単位操作	1~3, 8~10, 13
6	"	口腔内に適用する製剤(トローチ剤など)	1, 2, 4, 8
7	"	経粘膜投与製剤(吸入剤、点耳剤、点鼻剤)	1, 2, 4, 8
8	"	経粘膜投与製剤(坐剤、膣剤)	1, 2, 4, 8, 12, 13
9	"	経皮投与製剤(軟膏剤、クリーム剤 他)生薬関連製剤	1, 2, 6, 7~10, 13
10	"	無菌製剤(注射剤、輸液剤)単位操作	1, 2, 5, 8~12
11	"	無菌製剤(透析用剤、点眼剤)	1, 2, 4, 5, 7~12
12	"	無菌製剤に用いる添加剤、滅菌法および無菌操作法	5, 9, 12
13	"	製剤に適用される容器と包装	1, 11
14	"	日本薬局方の製剤試験法	12, 13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助資料を提供し、講義を進行しながら空欄部分への記入もしくは要点を筆記させるようにしている。製

剤の製造機械の原理や動作等の講義や概略図だけでは理解し難い内容については、WebClass にて配信する動画を学生各自が観ることで理解が深められるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
実際に病院や薬局で使用されている最新の製剤について、その製造技術、製造法および設備などをパワーポイントや補助資料を用いてわかり易く解説する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 講義内又は WebClass で演習問題等を提示し、繰り返し知識の到達レベルを確認する。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (100%) によって総合的に評価する。

〔教科書〕

「最新薬剤学」第 11 版（廣川書店）

〔オフィスアワー〕

高島：在室の時はいつでも可。ただし、予め連絡を入れること。

〔所属教室〕

高島 製剤設計学教室 研究棟 2 号館 3 階 3 0 8 - 1

〔準備学習（予習・復習等）〕

本科目の理解を深めるには、2 年次科目「物理薬剤学」の知識が大切になりますので復習しながら受講して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

演習問題等を提示して理解度チェックを行い、理解度の低い内容について主に解説し、フィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

安全かつ有効な医薬品を造るためには、1、2 年次に修得した基礎知識の応用が必要不可欠です。丸暗記ではなく、製剤の種類、その剤形にする目的や製造法など、医薬品製造の流れや原理をきちんと理解しながら学習するよう努めて下さい。

生物薬剤学

Biopharmaceutics

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

井上 勝央 (全クラス)

学習目標 (GIO) 生体内における薬物の量的・時間的な変化を理解できるようになるために、薬物の生体内運命について学習する。投与された薬物が体内を巡り、体外へ排泄されるまでの各過程（吸収、分布、代謝、排泄）を規定する因子やその生理機構に関する知識を習得する。さらに、体内での薬物動態を定量的に解析・予測できるようになるために、薬物速度論に関する基本的知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物の生体膜透過における単純拡散やトランスポーターがかかわる促進拡散および能動輸送の特徴と薬物動態における役割を説明できる。	E4-1-1-1~2
2	経口投与されたあるいは非経口投与された薬物の吸収について説明できる。	E4-1-2-1~2
3	薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。	E4-1-2-3
4	薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4-1-2-4
5	初回通過効果について説明できる。	E4-1-2-5
6	薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。	E4-1-3-1
7	薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。	E4-1-3-2
8	薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。	E4-1-3-3
9	血液-組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。	E4-1-3-4
10	薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。	E4-1-3-5
11	薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4-1-3-6
12	代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。	E4-1-4-1
13	薬物の尿中排泄機構について説明できる。	E4-1-5-1
14	腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。	E4-1-5-2
15	代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	E4-1-5-3
16	薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	E4-1-5-4
17	薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	E4-1-5-5
18	線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。	E4-2-1-1
19	線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与【単回および反復投与】、定速静注）（知識）	E4-2-1-2
20	体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識）	E4-2-1-3
21	モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。	E4-2-1-4
22	組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。	E4-2-1-5
23	薬物動態学-薬力学解析（PK-PD 解析）について概説できる。	E4-2-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	井上	序論 (何を学ぶか) 生体膜透過機構	1
2	井上	生体膜透過機構	1
3	井上	薬物の吸収 I (pH 分配理論)	2
4	井上	薬物の吸収 II (消化管吸収、特に小腸からの吸収)	3
5	井上	薬物の吸収 III (吸収に影響する要因)	4
6	井上	薬物の分布 I (臓器分布)	5、9、10
7	井上	薬物の分布 II (タンパク結合)	6、7、8、11
8	井上	薬物の排泄 I (尿中排泄)	12、13、14、15

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9	井上	薬物の排泄 II (胆汁中排泄、その他の組織での排泄)	16、17
10	井上	薬物速度論 I (モデル非依存の速度論解析、1-コンパートメントモデル)	18、19、20、21
11	井上	薬物速度論 I (吸収を伴う薬物速度論 I (1-コンパートメントモデル、尿中排泄の解析)	18、19、21
12	井上	薬物速度論 II (生理学的モデル)	22
13	井上	薬物速度論 III (バイオアベイラビリティ、PK-PD 解析)	5、18、22、23

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業内容に関する学生の理解を確認するために、授業の随所に簡単な X 問題や演習問題を取り入れている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

教科書の記述で特に重要な部分を補助プリントとして配布し、解説している。必要な理論式の誘導を行い、練習問題を解くなど理解度が増すように努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：補助プリントに含まれる演習問題により評価する。

c) 態度：受講態度により評価する。出席不良者に対しては受験停止の措置を講じることがある。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験 (100%) により評価する。

・ S (90 % 以上) : 合格

・ A (80 ~ 90 % 未満): 合格

・ B (70 ~ 80 % 未満): 合格

・ C (60 ~ 70 % 未満): 合格

・ D (60 % 未満) : 不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

最新薬剤学 第 11 版 (尾関哲也、井上勝央 編著、廣川書店)

〔参考書〕

パートナー薬剤学 改訂第 3 版 (原島秀吉、伊藤智夫、寺田勝英 編著、南江堂)

〔オフィスアワー〕

在室のときにはいつでも可。

質問は、講義終了後の質問時間やオフィスアワーを利用して下さい。メールによる質問も受け付けますが、送信アカウントは大学のもの (学生番号@) に限定し、授業開講期間のみ受け付けます (個人的アカウントからの送信や最終回終了後の送信に対しては返信しません)。

〔所属教室〕

井上 勝央 薬物動態制御学教室 研究棟 1 号館 3 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。

予習：初回の講義で提示する各回の講義内容について、事前に教科書を読み、問題点、疑問点を抽出しておくこと。

復習：各回の講義内容に関する練習問題 (初回の授業で配布) を解くこと。

〔学生へのフィードバック〕

前年度の定期試験で理解度が低かった内容について演習・解説を行う。定期試験後には、フィードバック講義を行う。

〔教員からの一言〕

計算式を使う内容が随所出てきますが、理解できないまま放置しないで、疑問はできるだけ早めに解決し、理解を深めてください。

薬物送達学

Drug Delivery System

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

根岸 洋一

高島 由季

学習目標 (GIO) 薬物送達システム (Drug Delivery System: DDS) は、薬物の体内動態を精密に制御し、「望ましい濃度-時間パターン」かつ「選択的」に薬物を標的臓器へ送り込むことによって、治療の最適化を目指す新しい薬物投与システムである。本講義では、医薬品開発における DDS 技術とその意義について、最近の研究例やトピックスを交えて講義する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。	E5-3-1-1~2
2	DDS の概念と有用性について説明できる。	E5-3-1-1~2
3	代表的な放出制御型製剤 (徐放性製剤を含む) を列挙し、その利点について説明できる。	E5-2-1-2, E5-3-2-1~3
4	代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。	E5-1-4-1, E5-2-1-2, E5-3-2-2~3
5	代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。	E4-1-4-4, E5-3-4-1~3
6	代表的な標的指向型製剤を列挙し、その利点について説明できる。	E5-3-3-1~3
7	代表的な核酸医薬の特徴と利点について説明できる。	E5-3-3-1, E5-3-3-3
8	代表的な抗体医薬の特徴と利点について説明できる。	E5-3-3-1, E5-3-3-3
9	代表的な DDS 技術の導入が必要な疾患と薬物を列挙することができる。	E5-3-3-1~3
10	代表的なドラッグキャリアを列挙し、そのメカニズムを説明できる。	E5-1-4-1, E5-3-3-1~3
11	再生医療における DDS 技術の有用性について概説できる。	E5-3-2-1, E5-3-2-3
12	薬物の溶解性と吸収性について説明できる。	E4-1-2-1~3, E5-1-1-1, E5-1-1-3
13	薬物の溶解性に関わる薬物物性及び影響因子について説明できる。	E5-1-1-1~4
14	難水溶性薬物の溶解性改善による吸収性改善技術を列挙し、説明できる。	E5-1-1-3, E5-1-1-5, E5-1-3-1, E5-3-4-1~3
15	放出制御型製剤 (即放性、徐放性、腸溶性製剤) からの薬物放出特性およびその機構について説明できる。	E5-1-1-5, E5-3-1-2, E5-3-2-1, E5-3-2-3
16	粘膜吸収型製剤 (経口投与製剤、経肺投与製剤) の特徴と利点について説明できる。	E4-1-2-1, E5-2-1-2~3, E5-3-1-2, E5-3-3-2~3
17	薬物と製剤材料の安定性に影響する因子、安定化法を列挙し、説明できる。	E5-1-1-3~4, E5-1-4-2~3, E5-3-2-1
18	利便性製剤への DDS 技術の適用例を挙げ、その特徴について説明できる。	E5-3-2-3, E5-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	根岸、高島	DDS の基本概念	1, 2
2	根岸、高島	放出制御型製剤 I (概念)	3, 4
3	根岸、高島	放出制御型製剤 II (徐放性製剤等)	3, 4, 9
4	根岸、高島	放出制御型製剤 III (製造と薬物放出機構)	3, 4, 9
5	根岸、高島	プロドラッグ	5
6	根岸、高島	標的指向型製剤 I (微粒子製剤)	6, 9, 10
7	根岸、高島	標的指向型製剤 II (核酸医薬等)	7-9, 11
8	根岸、高島	標的指向型製剤 III (抗体医薬等)	7-9, 11
9	根岸、高島	高分子医薬	8-10,
10	根岸、高島	粘膜吸収型製剤 I (薬物の溶解性と吸収性)	12, 13, 19
11	根岸、高島	粘膜吸収型製剤 II (難水溶性薬物の DDS)	14-16
12	根岸、高島	粘膜吸収型製剤 III (不安定薬物の DDS)	17
13	根岸、高島	経肺投与型製剤	16, 18
14	根岸、高島	総合演習	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義を進行しながら、テキスト内の空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

あらかじめ目標とするキーワードを提示し、目標を明確にしている。

テキストの書き込みのチャンスを増やし、講義に集中できる工夫をしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 項目ごとに理解度チェックテストを行い、フィードバックを行う。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験によって評価する(100%)。

〔教科書〕

薬物送達学テキスト 2020年度版(生協にて販売)

〔参考書〕

図解で学ぶDDS(橋田監修、高倉編 じほう)

The DDS 薬学が語るDDSの世界(米谷編 京都廣川書店)

最新薬剤学(第11版)(尾関、井上、廣川書店)

難水溶性薬物の物性評価と製剤設計の新展開(川上監修 シーエムシー出版)

〔オフィスアワー〕

在室の時はいつでも可。ただし、予め連絡を入れること。

〔所属教室〕

根岸 薬物送達学教室 研究棟1号館3階

高島 製剤設計学教室 研究棟2号館3階

〔準備学習(予習・復習等)〕

本科目の理解には、2年次科目「物理薬剤学」、3年次科目「製剤設計学」と「生物薬剤学」の知識が基礎となるため、良く復習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

授業内に理解度チェックテストを行い、理解度が低かった内容に関して捕捉説明を行っている。

〔教員からの一言〕

最近の医薬品開発においては、患者のQOL向上にDDS技術が必要不可欠となっています。本講義の知識は、実践的な医療薬学に直結しますので、理解を深めるように努めてください。

個別化医療 I

Personalized Medicine I

第 3 学年 後期 3 年必修科目 1 単位

降幡知巳 (全クラス)

柴崎浩美 (A, B, E, F)

横川彰朋 (C, D, G, H)

学習目標 (GIO) 安全で有効な薬物治療を行うためには、科学的な根拠 (Evidence-Based Medicine) に基づいて、一人ひとりの患者の病状や背景を考慮して薬物を選択し、適正な投与量と投与法を決定することが大切になる。そこで本講義では、薬物代謝酵素、トランスポーターの遺伝子多型、治療薬物モニタリングの意義、疾患時の臨床薬物動態学、薬物動態の予測法など、個別化薬物治療 (テーラーメイド薬物治療) の基本となる項目について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	テーラーメイド薬物治療の意義と薬剤師の役割について説明できる。	E3-3-5-1
2	薬物代謝酵素、トランスポーター、受容体の遺伝子多型について説明できる。	E3-3-1-1
3	薬物代謝酵素の遺伝子多型と血中薬物濃度、薬効・毒性発現の関連性について、例をあげて説明できる。	E3-3-1-2
4	薬物代謝酵素の遺伝子多型を考慮した薬物投与設計について説明できる。	E3-3-1-3, E3-3-5-2, E4-1-4-3
5	薬物間相互作用について説明できる。	E4-1-2-4, E4-1-3-6, E4-1-4-5, E4-1-5-5
6	薬物治療の個別化における治療薬物モニタリング (TDM) の重要性を説明できる。	E4-2-2-1
7	投与設計に必要な薬物動態に関する基本的理論、薬物動態学的パラメーターの算出法を説明できる。	E4-2-1-1, E4-2-1-3, E4-2-1-5
8	薬物動態学的パラメーター (消失半減期、全身クリアランス、分布容積) について説明し、計算できる。	E4-2-1-1~3
9	定速静注、反復投与における投与設計ができる。	E4-2-1-1, E4-2-1-4, E4-2-1-6
10	代表的な薬物の体内動態の変動要因について説明できる。	E3-3-4-1~3
11	肝疾患時における薬物動態の変動や薬物投与法について、例をあげて説明できる。	E3-3-3-2
12	腎疾患時における薬物動態の変動や薬物投与法について、例をあげて説明できる。	E3-3-3-1
13	心疾患時における薬物動態の変動や薬物投与法について、例をあげて説明できる。	E3-3-3-3
14	ベイジアン法 / ポピュレーションファーマコキネティクスの概念について説明できる。	E4-2-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	降幡	遺伝子多型診断による薬物投与の個別化 (1) 遺伝子多型と臨床薬物動態学	1, 2, 3
2, 3	"	遺伝子多型診断による薬物投与の個別化 (2) 薬物代謝酵素、トランスポーター、受容体の遺伝子多型	2, 3, 4
4	"	遺伝子多型診断による薬物投与の個別化 (3) 遺伝子多型から薬物動態の予測	3, 4
5	"	薬物間相互作用	5, 10
6	柴崎, 横川	TDM による薬物投与の個別化: TDM の意義	1, 6
7, 8	"	投与設計に必要な薬物動態に関する基本的理論	7, 8, 9
9	"	疾患時の薬物投与の個別化 (1) 薬物動態学的パラメーターの算出	10
10	"	疾患時の薬物投与の個別化 (2) 肝疾患	11
11	"	疾患時の薬物投与の個別化 (3) 腎疾患	12
12	"	疾患時の薬物投与の個別化 (4) 心疾患	13
13	"	個々の患者における薬物動態の予測とポピュレーションファーマコキネティクスの概念	14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書の確認問題等を行うように指示している。小テストを実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

教科書の例題を用い、問題解決能力を養う。教科書の確認問題を利用し、国家試験、CBT に対する力を養う。学会・学術論文および医療現場における最新情報を紹介して、実務実習に対応できるようにする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価 a: 知識: 講義時間内テストの結果を評価する。

2) 総括的評価 a: 知識: 講義時間内テスト、定期試験にて評価する。再試験を 1 回実施する。定期試験 (80%)、講義時間内テスト (20%) として評価する。成績評価 60% 以上を合格とする。出席不良者は受験停止とすることがある。

3) 成績の評価基準 (総括的評価)

S (90% 以上) : 合格

A (80 ~ 90% 未満) : 合格

B (70 ~ 80% 未満) : 合格

C (60 ~ 70% 未満) : 合格

D (60% 未満) : 不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

テーラーメイド医療 薬物治療の個別化 第 2 版 (古田、柴崎、横川 著、京都廣川書店)

〔参考書〕

臨床薬物動態学 (加藤隆一 著、南江堂) 今日の治療薬 (南江堂)

〔オフィスアワー〕

降幡 月～金の在室中はいつでも可。(ただし、メールにてあらかじめ予約してください) 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 2 階

柴崎 月～金の在室中はいつでも可。(ただし、メールにてあらかじめ予約してください) 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

横川 月～金の在室中はいつでも可。(ただし、メールにてあらかじめ予約してください) 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

〔所属教室〕

降幡知巳 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 2 階

柴崎浩美 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

横川彰朋 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業前に該当する章を簡単に読んで大筋を理解しておくこと。復習として、教科書に掲載した確認問題、例題、課題を行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

講義時間内テストの解説を行うとともに、答案に多く見られた間違いを示し注意を促す。

〔教員からの一言〕

講義内容の理解のために、教科書に掲載した各項のまとめを復習と知識の定着に利用して下さい。

薬理学 III

Pharmacology III

第 3 学年 前期 3 年必修科目 1 単位

田野中 浩一、丸ノ内 徹郎

学習目標 (GIO) 薬理学 I および II に続いて、循環器、血液系、消化器および呼吸器に作用する薬物について学ぶ。本講義では、これら薬物の細胞内情報伝達系などの分子生物学的な理論に基づく作用機序および有害事象を含む副作用を中心に薬物治療の基盤について習得する。薬剤師の職能に直結する重要な科目であり、機能形態学、生化学および有機化学などの様々な関連科目の広範な知識を駆使して考えるための能力が要求される。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	血管の構造・生理機能および利尿（電解質代謝）を含めた血圧調節について説明できる。	C7-1-7-2, C7-2-5-1, C7-2-7-1~2, E2-3-4-1
2	代表的な高血圧症治療薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。高血圧症の病態生理について解説できる。	C4-3-7-1, E2-3-1-1, E2-3-1-4, E2-3-4-1
3	代表的利尿薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。利尿による降圧作用に加え、浮腫の治療についても解説できる。	C7-2-7-1~2, E2-3-1-4, E2-3-3-1, E2-3-4-1
4	心臓の構造および生理機能について説明できる。薬物の作用点としての受容体を介した細胞内情報伝達系を構成する酵素への作用を理解し、心収縮運動の機序とその制御について説明できる。	C7-1-7-1~3
5	代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。狭心症および心筋梗塞の病態生理について解説ができる。	E2-3-1-3, E2-3-4-1
6	代表的な心不全治療薬（強心薬を含む）を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。急性および慢性心不全の病態生理について解説できる。	E2-3-1-2, E2-3-4-1
7	代表的な抗不整脈薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。上室性および心室性不整脈の病態生理について解説できる。	E2-3-1-1, E2-3-4-1
8	血小板凝集の機序について説明できる。末梢循環障害に及ぼす血小板凝集の病態生理学的役割について解説できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1
9	代表的な抗血小板薬および血管拡張薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。末梢循環障害の病態生理およびその薬物治療の戦略について解説できる。	E2-3-2-2
10	血液凝固および線溶系の機序および病態生理学的意義について解説できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1, E2-3-2-2
11	代表的な抗凝固薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。血液凝固系亢進による疾患の病態生理について解説できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1, E2-3-2-2, E2-3-2-4
12	代表的な血栓溶解薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。再灌流障害の病態生理およびそれに伴う有害事象について解説できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1, E2-3-2-2, E2-3-2-4
13	代表的な止血薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1, E2-3-2-1
14	血球分化およびそれに関連する血球分化促進因子を挙げ、その機能について説明できる。貧血、白血球減少症および血小板減少症の病因および特徴について簡潔に解説できる。	C7-1-14-1, E2-3-2-3
15	代表的な貧血治療薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。貧血の病態に応じた治療薬の選択を解説できる。	E2-3-2-3
16	代表的な白血球減少症および血小板減少症への治療薬を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。	E2-3-2-5
17	炎症の経過について説明できる。	E2-2-1-2~3
18	代表的な非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用および有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-1-1
19	代表的な副腎皮質ステロイド薬（ステロイド性抗炎症薬）を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-1-1
20	消化管の構造、機能、神経支配、ホルモンの作用、オータコイドの作用及び主要な疾患の主症状と病態を説明できる。	C7-1-9-1~2
21	代表的な消化薬、胃機能調整薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-6, E2-4-3-1
22	上部および下部消化管潰瘍に対する代表的治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-1~2, E2-4-2-6, E2-4-3-1

番号	内容	コアカリとの関連コード
23	代表的な制吐薬、催吐薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-8, E2-4-3-1
24	代表的な瀉下薬、止瀉薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-7, E2-4-3-1
25	代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-3, E2-4-2-5, E2-4-3-1
26	代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-4-2-4, E2-4-3-1
27	呼吸器の構造およびその機能について説明できる。呼吸に伴う反射反応について説明できる。代表的な呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬を挙げ、作用機序および適用を説明できる。薬物の作用機序を基に、症状に応じた治療薬の選択について解説できる。	C7-1-8-1, E2-4-1-4
28	代表的な気管支喘息治療薬および慢性閉塞性肺疾患治療薬を挙げ、作用機序および副作用について説明できる。これらの病因・病態および薬物治療の基本的な戦略について解説できる。	E2-4-1-1~2
29	代表的な間質性肺炎および肺線維症の治療薬を挙げ、作用機序および副作用について説明できる。これらの病因・病態および薬物治療の基本的な戦略について解説できる。	E2-4-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	丸ノ内	高血圧症治療薬 1	1, 2
2	丸ノ内	高血圧症治療薬 2	1, 2
3	丸ノ内	利尿薬	1, 3
4	丸ノ内	虚血性心疾患治療薬	4, 5
5	丸ノ内	心不全治療薬	4, 6
6	丸ノ内	抗不整脈薬	4, 7
7	田野中	末梢循環障害治療薬	1, 8
8	田野中	肺高血圧症治療薬、血液に作用する薬物 1	9, 10, 11
9	田野中	血液に作用する薬物 2	12, 13
10	田野中	造血系に作用する薬物	14, 15, 16
11	田野中	抗炎症薬	17, 18, 19
12	田野中	消化器系に作用する薬物 1	20, 21, 22, 23
13	田野中	消化器系に作用する薬物 2	24, 25, 26
14	田野中	呼吸器に作用する薬物 1	27, 28
15	田野中	呼吸器に作用する薬物 2	28, 29

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に薬理学だけでなく、関連科目の復習事項を提示し、発展的な学習に取り組むように指示している。講義資料を活用し、関連科目で履修した内容を把握するように指導している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・ 講義資料を予め配布し、学生に次回の講義に関する予習を行えるように配慮している。講義、参考書および講義資料から、学んだことをノートに纏め、各学生の独自のテキストが作成できるように指導する。
- ・ 講義中の質疑応答を行うために、講義回数を最低 15 回確保する。学生の理解度に応じて、補講を入れる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 講義内で薬理学で履修した項目だけでなく、その他の関連科目に関する質問を行う。学生が、知識の整理と補充に取り組むようにする。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験で評価する (100%)。不合格者には再試験を 1 回実施する。なお、追試験者への再試験は実施しない。

出席不良の学生には単位認定を行わない。受講者には全出席を要求するが、已むを得ず欠席した場合には、欠席届に欠席理由を証明する書類を添付したものを 1 週間以内に提出する (入院などの長期欠席の場合は、復学後 1 週間以内)。不備がある場合には欠席届を受理しない。

〔教科書〕

薬系薬理学書 (南江堂)

〔参考書〕

ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 代謝疾患 (オーム社)

グラフィカル 機能形態学 (京都廣川書店)

薬理学実習の実際とデータの見方 (南山堂)

薬名〔語源〕事典（武蔵野大学出版会）

〔オフィスアワー〕

田野中および丸ノ内 18:00～20:00（なお、薬理学実習が入っていない期間は14:00～18:00）
分子細胞病態薬理学教室、ただし、来室する際には、予め連絡を入れることとする。なお、連絡無しの対応はできない。

〔所属教室〕

分子細胞病態薬理学教室 研究2号館5階(504)

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義用資料を配布しているので、講義前に各自講義範囲の確認を行うように指示している。講義後の復習の方が、予習よりも重要である。講義資料を基に、機能形態学、生化学および有機化学を中心に関連する科目についても、その都度復習を行うように指導する。

〔学生へのフィードバック〕

- ・ 講義内での質疑応答およびオフィスアワーでフィードバックを行う。
- ・ 定期試験（本試験）終了後に、不合格者へのフィードバック講義を実施する。なお、フィードバック講義については、本試験合格者でも積極的に学習に取り組む者には聴講を認める。
- ・ 本科目は15回の講義からなる。暦上、15回の講義回数確保できない場合は、不足分の補講を行う。ただし、学生への講義期間中のフィードバックが必要と判断した場合、適宜、補講を行うこととする。

〔教員からの一言〕

- ・ 本講義では非常に多くの薬物が登場し、それらは臨床で用いられているものです。実務実習では、講義で履修した薬物に必ず接することになります。薬剤師は、薬物に関する説明ができないということは許されません。真摯な態度での学習を求めます。
- ・ 薬理学は暗記科目ではありません。本講義では、学生諸氏に薬物の作用機序だけでなく、有害事象を含めた副作用およびそれらを勘案した臨床用途について総合的に考える能力を身に着けることを要求します。各講義での情報量が多いので、必ず講義後の復習を実践してください。特に、疾病と薬物治療の基礎になるものです。当該科目での病態への理解に役立つので、併せて学習してください。

〔備考〕

- ・ 毎回出席を取ります。出席回数が、全講義回数の2/3に達しない場合は、原則として定期試験の受験資格を与えない。
- ・ 欠席した場合には、当該講義日から1週間以内に、欠席する事由が生じたことを証明するものを添付した欠席届を提出しなければいけない。期間外の提出は受理しない。原則として遅刻を認めないので、欠席扱いとする。
- ・ 薬理学は暗記科目ではありません。本講義では、薬物の作用機序だけでなく、有害事象を含めた副作用およびそれらを勘案した臨床用途について総合的に考える能力を身に着けることを要求します。各講義での情報量が多いので、必ず講義後の復習を実践してください。特に、疾病と薬物治療の基礎になるものです。当該科目での病態への理解に役立つものなので、併せて学習してください。

疾病と薬物治療 III

Diseases and Pharmacotherapy III

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

市田 公美

藤田 恭子

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、薬物治療に関する基本的知識を修得する。
疾病と薬物治療の(Ⅰ)～(Ⅷ)のうち本講義では、代表的な腎疾患、泌尿器・生殖系疾患に関して、その病態生理、臨床症状、検査・診断、治療および患者指導について学習する。さらに、治療に用いられる代表的な医薬品に関する基礎的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	腎臓の解剖と機能について概説できる。	C7-1-10-1, C7-2-7-1～2
2	腎臓の代表的疾患を挙げることができる。	E2-3-3-2～3, E2-3-3-5
3	糸球体腎炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E2-3-3-5
4	ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E2-3-3-3
5	腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E2-3-3-2
6	痛風・高尿酸血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E2-5-1-3
7	糖尿病性腎症、薬剤性腎症、尿細管障害、腎癌について概説できる。	E2-3-3-5
8	泌尿器・生殖系の代表的疾患を挙げることができる。	C7-2-10-1, C7-2-2-1, E2-3-3-6, E2-5-2-5
9	尿路感染症、尿路結石の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C8-4-2-4, C8-4-2-7, E1-2-1-1, E2-3-3-5, E2-3-4-1, E2-7-3-4～5
10	前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C7-2-2-1, E1-1-1-4, E2-3-3-6, E2-3-4-1
11	前立腺癌、排尿障害、膀胱癌について概説できる。	C7-2-2-1, E1-1-1-2, E1-1-1-4, E1-1-1-7, E2-1-1-1～2, E2-3-3-4, E2-5-2-1, E2-7-8-11～12
12	乳癌の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C7-2-2-1, E1-1-1-2, E2-5-2-1, E2-7-8-13
13	子宮癌、子宮内膜症、卵巣癌の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	C7-2-10-1, C7-2-2-1
14	異常妊娠、異常分娩、不妊について概説できる。	C7-2-10-1, C7-2-2-1, E1-1-1-7, E2-3-3-7～8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	市田	腎疾患の種類と病態および治療薬 (1)	1
2	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (2)	2, 3
3	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (3)	2, 4
4	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (4)	2, 5
5	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (5)	2, 6
6	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (6)	2, 7
7	"	腎疾患の種類と病態および治療薬 (7)	2, 7
8	藤田	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (1)	8, 9
9	"	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (2)	8, 10
10	"	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (3)	8, 11
11	"	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (4)	8, 12
12	"	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (5)	8, 13
13	"	泌尿・生殖系疾患の種類と病態および治療薬 (6)	8, 14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配付し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるなどを行っている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

本講義内容は機能形態学や薬の効き方等の関連科目と密接な関係があるので、それらの科目を有機的に結びつけ、知識の定着と理解が深まるように工夫している。要点を整理し、図解を取り入れた補助プリントを配布し、学習しやすいように努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 補助プリントに提示した演習問題を行なう。

b) 態度: 受講態度により評価する。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験にて評価する（100%）、再試験を1回実施する。

b) 態度: 受講態度により評価する。但し、受講態度によっては受検停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

薬学生のための新臨床医学 第2版（市田公美、細山田真編 廣川書店）

〔参考書〕

疾病と病態生理 改訂第4版（市田公美、辻勉、秋葉聡編 南江堂）

〔オフィスアワー〕

市田、藤田いつでも可。（市田は金曜日を除く）、ただし、要予約。

病態生理学教室：研究2号館6階。

〔所属教室〕

市田 病態生理学

藤田 病態生理学

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義一週間前にWebClassへ講義資料を配布するので、事前に読んでおくこと。講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むこと。講義後に教科書と配布プリントの復習をおこなうことで理解が深まり記憶に残りやすくなる。

〔学生へのフィードバック〕

学期途中のアンケート実施に基づいたフィードバックを行う。

疾病と薬物治療Ⅳ

Diseases and Pharmacotherapy IV

第3学年 前期 3年必修科目 1単位

長谷川 弘、市田 公美（取り纏め）

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確に患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病及び薬物治療に関する基本的知識を修得する。本講義では、代表的な消化器系疾患に関して、その病態生理、臨床症状、検査・診断、治療および患者指導について学習する。さらに、治療に用いられる代表的な医薬品に関する基本的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	食道、胃・十二指腸の代表的な疾患（悪性腫瘍を含む）を列挙し、それらの病態生理、診断、治療を概説できる。	C7-1-9-1, C7-2-2-1, E1-2-1-1, E2-4-2-1, E2-4-2-6, E2-4-2-8, E2-7-3-2, E2-7-7-2, E2-7-8-3, E2-7-8-8
2	食道、胃・十二指腸疾患の代表的な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E1-2-1-1, E2-4-2-1, E2-4-2-6, E2-4-2-8, E2-7-3-2, E2-7-8-8
3	腸の代表的な疾患（悪性腫瘍を含む）を列挙し、それらの病態生理、診断、治療を概説できる。	C7-1-9-1, E1-2-1-1, E2-4-2-2, E2-4-2-6~7, E2-4-2-9, E2-7-3-2, E2-7-7-2, E2-7-8-8
4	腸疾患の代表的な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E1-2-1-1, E2-4-2-2, E2-4-2-6~7, E2-4-2-9, E2-7-3-2, E2-7-8-4, E2-7-8-8
5	肝臓・胆道・膵臓の代表的な疾患（悪性腫瘍を含む）を列挙し、それらの病態生理、診断、治療を概説できる。	C7-1-9-2, E1-2-1-1, E1-2-2-3, E1-2-2-6, E1-4-3-1, E2-4-2-3~5, E2-7-3-2, E2-7-4-4, E2-7-7-2, E2-7-8-8
6	肝臓・胆道・膵臓疾患の代表的な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	E1-2-1-1, E2-4-2-3~5, E2-7-3-2, E2-7-4-4, E2-7-8-8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	長谷川	総論 消化器系疾患でみられる症候	1, 3, 5
2	"	消化管疾患-1 食道、胃・十二指腸疾患の病態および治療薬 (1)	1, 2
3	"	消化管疾患-2 食道、胃・十二指腸疾患の病態および治療薬 (2)	1, 2
4	"	消化管疾患-3 食道、胃・十二指腸疾患の病態および治療薬 (3)	1, 2
5	"	消化管疾患-4 腸疾患の病態および治療薬 (1)	3, 4
6	"	消化管疾患-5 腸疾患の病態および治療薬 (2)	3, 4
7	"	消化管疾患-6 腸疾患の病態および治療薬 (3)	3, 4
8	"	肝・胆・膵疾患-1 肝疾患の病態および治療薬 (1)	1, 5, 6
9	"	肝・胆・膵疾患-2 肝疾患の病態および治療薬 (2)	5, 6
10	"	肝・胆・膵疾患-3 肝疾患の病態および治療薬 (3)	5, 6
11	"	肝・胆・膵疾患-4 肝疾患の病態および治療薬 (4)	5, 6
12	"	肝・胆・膵疾患-5 胆・膵疾患の病態および治療薬 (1)	5, 6
13	"	肝・胆・膵疾患-6 胆・膵疾患の病態および治療薬 (2)	5, 6
14	"	肝・胆・膵疾患-7 胆・膵疾患の病態および治療薬 (3)	5, 6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
単元毎に問題演習を行う。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
本講義内容は機能形態学や薬理学等の関連科目と密接な関係があるので、それらの科目を有機的に結びつ

け、知識の定着と理解が深まるように工夫している。要点を整理し、図解を取り入れた講義用プリントを配布し、学習しやすいように努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：補助プリントに提示した演習問題を行う。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験にて評価する（100％）。再試験を1回実施する。

但し、受講態度によっては受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

講義用プリント

〔参考書〕

薬学生のための新臨床医学 第2版（市田公美ら編 廣川書店）

病気がみえる vol.1 消化器（メディックメディア）

薬がみえる vol.3（メディックメディア）

治療薬マニュアル（医学書院）

今日の治療薬（南江堂）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、要予約。

〔所属教室〕

長谷川 病態生理学教室 研究2号館6階 604-2

〔準備学習（予習・復習等）〕

・ 疾病の概念を理解するためには、各臓器・器官の生理的役割を理解しておくことが必要です。「機能形態学Ⅰ」で学んだ消化器系器官の生理的役割について復習してください。

・ 消化器系に作用する多くの薬物が登場します。消化器系に作用する薬物とその薬理作用は、3年前期に開講される「薬理学Ⅲ」で学びます。本講義と「薬理学Ⅲ」を連携して学び、治療薬への理解を深めてください。

・ 講義用補助プリントは、それを必要とする講義日の少なくとも1週間前に配布しますので、事前に予習してください。

・ 薬剤師国家試験問題から消化器系に関連した問題を抜粋した問題集をお配りしますので、復習に利用してください。解答・解説もついていますので参考にしてください。

〔学生へのフィードバック〕

・ 講義開始時には、前回講義の復習を行い、知識の定着を確認できるようにする。

医薬情報 I

Pharmaceutical Information I

第 3 学年 前期 3 年必修科目 1 単位

山田 安彦
土橋 朗
高柳 理早
片桐 文彦

学習目標 (GIO) 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、薬物投与設計を立案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。医薬品情報については、その収集・評価・加工・提供・管理に関する基本的事項を修得する。患者情報については、患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。	E3-1-1-1
2	医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。	E3-1-1-2
3	医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。	E3-1-1-3
4	医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。	E3-1-1-4
5	医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。	E3-1-1-5
6	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。	E3-1-2-1
7	医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。	E3-1-2-2
8	厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。	E3-1-2-3
9	医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。	E3-1-2-4
10	医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。	E3-1-2-5
11	医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。	E3-1-2-6
12	MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。	E3-1-3-2
13	医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。	E3-1-3-3
14	医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。	E3-1-3-5
15	病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。	E3-1-7-1
16	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。	E3-2-1-1
17	患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	E3-2-1-2
18	問題志向型システム（POS）を説明できる。	E3-2-2-1
19	SOAP 形式などの患者情報の記録方法について説明できる。	E3-2-2-2
20	医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。	E3-2-2-3
21	患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。	E3-2-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	山田	医薬情報概論	1、15
2	高柳	医薬品の開発過程で得られる情報	3
3	"	医薬品の市販後に得られる情報と、 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度	2、4、5
4	"	医薬品情報の情報源とその見方 (1)	6~11

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	"	医薬品情報の情報源とその見方 (2)	6 ~ 11
6	"	医薬品情報の情報源とその見方 (3)	6 ~ 11
7	"	医薬品情報の情報源とその見方 (4)	6 ~ 11
8	"	医薬品情報の情報源とその見方 (5)	6 ~ 11
9	片桐	患者情報 (1)	16、17
10	"	患者情報 (2)	18 ~ 21
11	土橋	医薬品情報データベースの活用	12
12	"	医薬品情報の収集、評価	13
13	"	医薬品情報の加工、提供	14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

適宜補助資料を使用し、講義の進行とともにポイントを記入させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各回において修得すべき SBO を提示し目標を明確にしている。
講義では、教科書のみならず必要に応じて補足資料を使用し、理解を得やすくしている。
重要なポイントは強調し、教科書等への書き込みを薦めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 課題、演習問題を行う。

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験により評価する (100 %)。

〔教科書〕

理論医薬品情報学 (山田安彦編著) 京都廣川書店、2017 年

〔参考書〕

特に指定しない

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可。

但し、メールによる事前予約が必要 (山田、高柳、片桐)。

〔所属教室〕

山田 安彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
土橋 朗 情報教育研究センター DR 棟 4 階 2043 号室
高柳 理早 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
片桐 文彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義を受ける前に講義予定の項目を確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨む。
教科書や配布資料等を活用し、講義後の復習を必ず行う。

〔学生へのフィードバック〕

課題や演習問題の解説を通じてフィードバックする。

〔教員からの一言〕

適切な薬物治療を行うためには、医薬品情報と患者情報を統合して検討し、薬学的な観点で評価することが不可欠です。本講義では、これらを理解し実践するための基本的事項を学びます。

〔備考〕

実務家教員担当科目

薬理学Ⅳ

Pharmacology IV

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

田野中 浩一、丸ノ内 徹郎

学習目標 (GIO)

薬理学ⅠからⅢに続いて、本講義では、糖尿病治療薬、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、腎・泌尿器に作用する薬物、脂質異常症治療薬、抗リウマチ薬、高尿酸血症・痛風治療薬、耳鼻咽喉・皮膚に作用する薬物および抗悪性腫瘍薬に関する基本的知識を習得する。本講義では、これら薬物の細胞内情報伝達系などの分子生物学的な理論に基づく作用機序および有害事象を含む副作用を中心に薬物治療の基盤について習得する。薬剤師の職能に直結する重要な科目であり、機能形態学、生化学および有機化学などの様々な関連科目の広範な知識を駆使して考えるための能力が要求される。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	糖尿病が代謝に及ぼす病態生理学的変化について、簡潔に説明できる。	E2-5-1-1, E2-5-3-1
2	代表的な抗糖尿病薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-5-1-1, E2-5-3-1
3	アレルギー疾患の発症機序について説明できる。	E2-2-2-1
4	代表的な抗アレルギー薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-2-1, E2-2-2-3~6, E2-2-4-1
5	免疫制御および免疫疾患について、説明できる。	E2-2-2-2
6	代表的な臓器特異的自己免疫疾患に対する治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-2-7, E2-2-4-1
7	代表的な全身性自己免疫疾患に対する治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-2-8, E2-2-4-1
8	代表的な免疫抑制薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-2-9, E2-2-4-1
9	代表的な急性・慢性腎不全治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-3-3-2, E2-3-4-1
10	代表的なネフローゼ症候群への治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-3-3-3, E2-3-4-1
11	代表的な膀胱機能障害への治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-3-3-4, E2-3-4-1
12	慢性腎臓病、尿路結石への治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-3-3-5, E2-3-4-1
13	代表的な抗リウマチ薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-2-3-1, E2-2-3-3
14	代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-5-1-3, E2-5-3-1
15	代表的な脂質異常症治療薬(動脈硬化症治療薬)を挙げ、それらの作用機序および主な副作用に基づいた薬理作用について説明できる。動脈硬化症の主因の一つである脂質異常症の病態生理について解説できる。	E2-5-1-2, E2-5-3-1
16	耳鼻咽喉疾患での機能異常と構造変化について簡潔に解説できる。	E2-6-2-2
17	代表的なめまい治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-6-2-1, E2-6-4-1
18	皮膚組織の構造および皮膚疾患での病態生理学的変化について簡潔に説明できる。	C7-1-6-1
19	代表的なアトピー性皮膚炎治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-6-3-1, E2-6-4-1
20	代表的な乾癬症治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-6-3-2, E2-6-4-1
21	代表的な褥瘡治療薬を挙げ、作用機序を基にした適用および薬理作用に加え、有害事象を含めた副作用について説明できる。	E2-6-3-3, E2-6-4-1
22	細胞増殖の機序(細胞周期、増殖信号および増殖因子)および悪性腫瘍の種類について簡潔に説明できる。	C6-4-3-1, C6-4-4-1, C6-5-5-2, C6-6-2-2, C6-7-1-1, C6-7-3-1, E2-7-7-1, E2-7-7-3
23	アルキル化薬および核酸代謝拮抗薬について作用機序、適用、代表的な副作用について説明できる。	C4-3-4-1, C4-3-6-1~3, E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13
24	アルカロイド由来の抗悪性腫瘍薬の作用機序、適用、特徴ある副作用について説明できる。	E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13
25	抗生物質由来の抗悪性腫瘍薬の作用機序、適用、特徴ある副作用について説明できる。	E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
26	分子標的薬の作用機序、適用、特徴ある副作用について説明できる。	E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13, E2-8-1-1~3
27	ホルモン由来抗悪性腫瘍薬の作用機序、適用、特徴ある副作用について説明できる。	E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13
28	上記以外の抗悪性腫瘍薬の作用機序、適用、特徴ある副作用について説明できる。 抗悪性腫瘍薬の効果を高める薬物および副作用を軽減する薬物の適用および作用機序について説明できる。	E2-7-10-1, E2-7-8-1, E2-7-8-3~13

授業内容

回 数	担 当	内 容	対応 (SBOs)
1	丸ノ内	抗糖尿病薬 1	1
2	丸ノ内	抗糖尿病薬 2	2
3	丸ノ内	抗アレルギー薬	3, 4
4	丸ノ内	免疫抑制薬	5~8
5	丸ノ内	腎機能・泌尿器障害治療薬	9~12
6	田野中	抗リウマチ薬	13
7	田野中	高尿酸血症・痛風治療薬	14
8	田野中	脂質異常症治療薬	15
9	田野中	耳鼻咽喉疾患治療薬	16, 17
10	田野中	皮膚疾患治療薬 1	18, 19
11	田野中	皮膚疾患治療薬 2	20, 21
12	田野中	抗悪性腫瘍薬 1	22, 23
13	田野中	抗悪性腫瘍薬 2	23, 24
14	田野中	抗悪性腫瘍薬 3	25, 26
15	田野中	抗悪性腫瘍薬 4	27, 28

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に薬理学だけでなく、関連科目の復習事項を提示し、発展的な学習に取り組むように指示している。講義資料を活用し、関連科目で履修した内容を把握するように指導している。学習する範囲が広いので、薬理学ⅠからⅢの講義資料および関連科目のテキストも見直すように指導している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・ 教科書等に未掲載の最新の作用機序や副作用情報、および新薬に関する情報は講義資料を用いて、提供およびそれに関する解説をしている。
- ・ 講義資料を予め配布し、キーワードを示し、何を学ぶか目標を明確にし、学生に次回の講義に関する予習を行えるように配慮している。講義、参考書および講義資料から、学んだことをノートに纏め、各学生の独自のテキストが作成できるように指導する。
- ・ 機能形態学、生化学などで得た知識を可能な限り復習し、これら知識と病態、そして薬の効くプロセス（作用機序・薬効）を連動させて考え、応用力を養えるよう努めている。
- ・ 講義中の質疑応答を行うために、講義回数を最低 15 回確保する。学生の理解度に応じて、補講を入れる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識： 講義内で薬理学で履修した項目だけでなく、その他の関連科目に関する質問を行う。学生が、知識の整理と補充に取り組むようにする。

2) 総括的評価

a) 知識： 定期試験で評価する (100%)。不合格者には再試験を 1 回実施する。なお、追試験者への再試験は実施しない。

出席不良の学生には単位認定を行わない。受講者には全出席を要求するが、已むを得ず欠席した場合には、欠席届に欠席理由を証明する書類を添付したものを 1 週間以内に提出する（入院などの長期欠席の場合は復学後 1 週間以内）。不備がある場合には欠席届を受理しない。

〔教科書〕

薬系薬理学書（南江堂）

〔参考書〕

ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 代謝疾患（オーム社）

グラフィカル 機能形態学（京都廣川書店）

薬理学実習の実際とデータの見方（南山堂）

薬名〔語源〕事典（武蔵野大学出版会）

〔オフィスアワー〕

原則として、14 時以降とする。ただし、予め連絡し、面談時間を指定するので、来室は時間厳守とする。

予約無しへの対応はしない。

〔所属教室〕

分子細胞病態薬理学教室（研究2号館5階504）

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・ 講義用資料を配布しているので、講義前に各自講義範囲の確認を行うように指示している。講義後の復習の方が、予習よりも重要なので予習よりも復習に重点を置いた指導を行っている。
- ・ 講義資料を基に、機能形態学、生化学および有機化学を中心に関連する科目についても、その都度復習を行うように講義の中で指導している。

〔学生へのフィードバック〕

- ・ 講義内での質疑応答およびオフィスアワーでフィードバックを行う。
- ・ 定期試験（本試験）終了後に、不合格者へのフィードバック講義を実施する。なお、フィードバック講義については、本試験合格者でも積極的に学習に取り組む者には聴講を認める。
- ・ 本科目は15回の講義からなる。暦上、15回の講義回数確保できない場合は、不足分について補講を行う。ただし、学生への講義期間中のフィードバックが必要と判断した場合、適宜、補講を行うこととする。

〔教員からの一言〕

- ・ 本講義では非常に多くの薬物が登場し、それらは臨床で用いられているものです。実務実習では、講義で履修した薬物に必ず接することになります。薬剤師は、薬物に関する説明ができないということは許されません。真摯な態度での学習を求めます。
- ・ 薬理学は暗記科目ではありません。本講義では、学生諸氏に薬物の作用機序だけでなく、有害事象を含めた副作用およびそれらを勘案した臨床用途について総合的に考える能力を身に着けることを要求します。各講義での情報量が多いので、必ず講義後の復習を実践してください。

〔備考〕

- ・ 毎回出席を取ります。出席回数が、全講義回数の2/3に達しない場合は、原則として定期試験の受験資格を与えない。
- ・ 欠席した場合には、当該講義日から1週間以内に、欠席する事由が生じたことを証明するものを添付した欠席届を提出しなければいけない。期間外の提出は受理しない。原則として遅刻を認めないので、欠席扱いとする。
- ・ 薬理学は暗記科目ではありません。本講義では、薬物の作用機序だけでなく、有害事象を含めた副作用およびそれらを勘案した臨床用途について総合的に考える能力を身に着けることを要求します。各講義での情報量が多いので、必ず講義後の復習を実践してください。特に、疾病と薬物治療の基礎になるものです。当該科目での病態への理解に役立つものなので、併せて学習してください。

疾病と薬物治療 V

Diseases and Pharmacotherapy V

第 3 学年 後期 3 年必修科目 1 単位

平野 俊彦
杉山 健太郎
恩田 健二
田中 祥子

学習目標 (GIO) 薬物療法が治療上重要な疾患のうち、呼吸器系疾患、免疫・アレルギー疾患（関節リウマチ、重症筋無力症等を含む）、移植医療、眼および耳鼻咽喉の疾患における身体の病的変化を病態生理学的に理解するために、これらの疾患の概念、分類、症候、臨床検査値、および診断に関する基本的知識を修得する。併せてこれらの疾患に対する薬物療法の概念を理解するために、代表的治療薬に関する一般的知識を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	呼吸器系の成り立ちとその異常に基づく疾患について説明できる。	E2-2-4-1
2	呼吸機能検査法とその意義について説明できる。	E1-2-2-6, E2-4-1-1 ~ 2
3	閉塞性気道疾患（気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫）の病態生理と適切な治療薬について説明できる。	E2-4-1-1 ~ 2
4	肺炎と肺結核の病態生理、および各疾患の適切な治療薬について説明できる。	E2-4-1-3, E2-7-3-1, E2-7-3-3
5	免疫系の成り立ちとその異常に基づく疾患について説明できる。	E2-2-2-2
6	代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。	E2-2-2-3, E2-6-2-2, E2-6-3-1
7	自己免疫疾患（全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、重症筋無力症など）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-2-7 ~ 8
8	アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-2-5
9	アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-6-3-1
10	後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-4-5
11	臓器移植（腎臓、肝臓）について、拒絶反応・日和見感染症・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-2-2-9, E2-7-4-2
12	眼の構造と機能、および眼に関する代表的な疾患を概説できる。	E2-6-1-1, E2-6-1-3
13	緑内障の病態生理と適切な治療薬について説明できる。	E2-6-1-1
14	白内障の病態生理と適切な治療薬について説明できる。	E2-6-1-2
15	加齢黄斑変性の病態生理と適切な治療薬について説明できる。ぶどう膜炎について概説できる。	E2-6-1-3 ~ 4
16	めまい（メニエール病）の病態生理と適切な治療薬について説明できる。	E2-6-2-1
17	かぜ症候群、鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎の病態生理および治療薬について概説できる。	E2-7-3-1, E2-7-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平野	呼吸器系の成り立ちと呼吸機能検査および気管支喘息について	1, 2, 3
2	平野	気管支喘息の病態および症状薬物治療 (1)	1, 2, 3
3	平野	気管支喘息の病態および症状薬物治療 (2)	3
4	平野	慢性閉塞性肺疾患の症状、病態、および治療薬	3
5	杉山	肺炎、肺結核の原因、症状、検査、病態、および治療	4
6	杉山	免疫系の成り立ち、アレルギーの種類、および代表的な自己免疫疾患の病態生理と治療薬について	5, 6
7	杉山	関節リウマチの病態生理と適切な治療薬について	5, 7
8	杉山	全身性エリテマトーデス、アナフィラキシーショックの病態生理と治療薬について	5, 7, 8
9	杉山	アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎の病態生理と適切な治療薬について	5, 6, 9

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	杉山	後天性免疫不全症候群 (AIDS) と臓器移植に関連した病態生理と適切な治療薬	5、10、11
11	田中	重症筋無力症の発症機序、症状、検査、病態、および治療について	7
12	恩田	眼の構造と機能、および眼に関する代表的な疾患を概説できる。	12、13
13	恩田	白内障、加齢性黄斑変性、ぶどう膜炎の病態生理および治療薬	14、15
14	恩田	耳の構造と機能、およびめまい (メニエール病) の病態生理、治療薬、かぜ症候群、鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、病態生理および治療薬	16、17

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業内容に関する学生の理解度を確認するため、授業中随所で簡単な (Yes, No の) 質問を用意している。

LS の 5~14 回目では、補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

教科書や配布プリントの内容を基本とし、板書、資料、およびスライドによってその十分な補足説明を行っている。一部 WebClass を活用して資料を配布する予定。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:出席状況と受講態度により評価する。レポート点などの複数の評価方法は用いない。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験により評価する (100%)。レポート点などの複数の評価方法は用いない。

〔教科書〕

「コンパス薬物治療学」原明義、小山進編 (南江堂)

〔参考書〕

5~10、12~14 回目では、補助プリントも使用

〔オフィスアワー〕

平野 俊彦 月~金の在室中はいつでも可。臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 2 階教授室)

杉山 健太郎 月~金の在室中はいつでも可。臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 1 階研究室)

恩田 健二 月~金の在室中はいつでも可。臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 1 階研究室)

田中 祥子 月~金の在室中はいつでも可。臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 2 階研究室)

〔所属教室〕

平野 俊彦 臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 2 階教授室)

杉山 健太郎 臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 1 階研究室)

恩田 健二 臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 1 階研究室)

田中 祥子 臨床薬理学教室 (医療薬学研究棟 2 階研究室)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

教科書および参考書などで、次回の講義の SBO 項目を予習しておく事をすすめます。「イラストでみる疾病の成り立ちと薬物療法」(医学評論社)などの参考書も有用です。教員のオフィスアワーを活用し、不明な部分を放置しないよう教員に尋ねてください。

〔学生へのフィードバック〕

教科書や配布プリントを良く理解すること。また、前回講義で実施した内容の演習問題を講義の中で取り入れている。

〔教員からの一言〕

図表を多く使った教科書、プリント等を講義に使い、板書と合わせ分かりやすい解説の工夫を心がけます。しかしそれでも分からない所は、放置せず質問にきてください。

担当者は薬剤師であり医師ではありませんが、臨床研修や臨床研究の経験を生かし、臨場感のある講義を意識しています。

3 年後期の段階では、身体の基本構造や機能と疾病の成り立ちや病態に関する基本的なところを理解し、修得することが大事です。興味があれば、アドバンスの部分を独自に勉強することは否定しませんが、ここでの基礎力充実が高学年のアドバンスな科目できっと生きてきます。

〔備考〕

実務家教員担当科目

疾病と薬物治療 VI

Diseases and Pharmacotherapy VI

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

下枝 貞彦 山田 純司

学習目標 (GIO) 患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。本講義では、悪性新生物及び循環器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	血液・造血器系について概説できる。	C7-1-14-1
2	以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)腎性貧血、鉄芽球性貧血	E2-3-2-3
3	以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)	E2-7-8-5
4	悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-8-6
5	播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-2-4
6	以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複)(E2(7))【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)	E2-3-2-5
7	以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる：心房性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(Af)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(Vf)、房室ブロック、QT延長症候群。	E2-3-1-1
8	急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-2
9	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-3
10	以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる：本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	E2-3-1-4
11	以下の疾患について概説できる：閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患	E2-3-1-5

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	下枝	悪性新生物-1	1,2
2	"	悪性新生物-2	3
3	"	悪性新生物-3	1,3
4	"	悪性新生物-4	1,4
5	"	悪性新生物-5	5
6	"	悪性新生物-6	6
7-8	山田	高血圧	10
9-10	"	虚血性心疾患	9,11
11	"	心不全	8
12-13	"	不整脈	7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら空欄部分を記入させるようにしている。また、講義中に教科書へのマークや書き込みを促し、13回の講義終了後には教科書が学生各自が作成し自らに適した「まとめの学習ノート」として仕上がるように仕向けている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

各種疾患の診療ガイドラインに基づいて講義を行い、症例や処方例を紹介することにより具体的なイメージを持たせるようにしている。パワーポイントや書画カメラを利用して、写真や医療器具など、視覚に訴える資料を活用している。また、疾患ごとに最初の講義時間を関連する解剖生理学や生化学的知識の復習に充てており、本論の理解を深めるように促している。初学者といえども現場で直ぐに役立つ講義内容を目指している。

〔成績評価方法〕

総括的評価 a) 知識：定期試験（100%）の結果に基づいて評価する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

下枝 教科書は能動的薬物治療論（京都廣川）を使用、その他 WebClass にて講義資料を事前に提示する。
山田 疾病と薬物治療 VI（心血管疾患）。生協にて販売。

〔参考書〕

疾患と治療薬 改訂第6版（南江堂）
visual core pharma 薬物治療学 改定7版（南山堂）
カラーテキスト血液病学 第2版（中外医学）
血液専門医テキスト 日本血液学会編集（南江堂）
処方管理学（南山堂）
ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 高血圧（コアコンテンツ）
ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 虚血性心疾患（コアコンテンツ）

〔オフィスアワー〕

下枝 火曜日の終日、水曜日の午前中以外はいつでも可。但し、事前にメール（shimoeda@toyaku.ac.jp）による予約が必要。

山田 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

下枝 臨床薬剤学教室（がん指導薬剤師） 医療薬学研究棟2階 M207号室
山田 臨床医療薬学センター 医療薬学研究棟3階 M303号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に、シラバスを開いて講義予定項目のSBOsを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に向けてその内容を伝え、解説を加える等の対応を行う。また、特に必要性の高いものについては翌年以降の講義内容に反映させる。

〔教員からの一言〕

分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義のときに質問してください。

〔備考〕

実務家教員担当科目

疾病と薬物治療 VII

Diseases and Pharmacotherapy VII

第 3 学年 後期 3 年必修科目 1 単位

山田 安彦

下枝 貞彦

片桐 文彦

学習目標 悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。	E2-7-7-1
2	悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	E2-7-7-2
3	悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。	E2-7-7-3
4	以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	E2-7-8-1
5	抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。	E2-7-8-2
6	抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。	E2-7-8-3
7	代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX 等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E2-7-8-4
8	骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-7
9	以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆のう・胆管癌、膵癌	E2-7-8-8
10	肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-9
11	以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍	E2-7-8-10
12	以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌	E2-7-8-11
13	腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-12
14	乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-13
15	がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。	E2-7-9-1
16	がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-9-2
17	悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。	E2-7-10-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	山田 安彦 片桐 文彦	悪性腫瘍の病態と治療	1、2、3
2	山田 安彦 片桐 文彦	抗悪性腫瘍薬 (1)	4、17
3	山田 安彦 片桐 文彦	抗悪性腫瘍薬 (2)	4、17
4	山田 安彦 片桐 文彦	抗悪性腫瘍薬 (3)	4、17

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	山田 安彦 片桐 文彦	抗悪性腫瘍薬の副作用・相互作用・耐性 (1)	5、6
6	山田 安彦 片桐 文彦	抗悪性腫瘍薬の副作用・相互作用・耐性 (2)	5、6
7	下枝 貞彦	乳癌の臨床と薬物治療	14
8	下枝 貞彦	肺癌の臨床と薬物治療	10
9	下枝 貞彦	消化器系癌の臨床と薬物治療	9
10	下枝 貞彦	生殖器系癌の臨床と薬物治療	12
11	下枝 貞彦	腎・尿路系癌の臨床と薬物治療 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔 癌、骨肉腫の臨床と薬物治療	8、11、13
12	下枝 貞彦	抗悪性腫瘍薬の主な副作用とその対処法 代表的ながん化学療法レジメン	6、7
13	下枝 貞彦	がん終末期医療と緩和ケア	15、16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

WebClass 等で、修得レベルを確認できるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

基本的に修得すべき事項が教科書にまとめてあり、予習、復習の際に役立てられるようにしている。ポイントとなるところは写真や事象などを提示し、印象づけるように工夫している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:例題を提示して繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験により評価する (100%)。出席不良者 (全体講義の 3 分の 1 以上の欠席者) に対しては実験停止の措置を講じることがあるので注意すること。欠席者において、病気等の適切な理由がある場合は欠席届等を提出すること。

〔教科書〕

がん薬物治療学 (山田安彦 編著 京都廣川書店)

〔参考書〕

処方管理学 (太田伸、下枝貞彦ら 編著 南山堂)

新臨床腫瘍学 (改訂第 5 版): がん薬物療法専門医のために (日本臨床腫瘍学会編 南江堂)

〔オフィスアワー〕

山田 安彦 原則いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

下枝 貞彦 火曜日の終日、水曜日の午前中以外はいつでも可。但し、メールによる予約が必要。

片桐 文彦 原則いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

山田 安彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 (がん指導薬剤師) 医療薬学研究棟 2 階 M207 号室

片桐 文彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、教科書およびテキスト (プリント) の該当範囲を読んでから講義に臨むこと。また、講義の後は必ず復習をすること。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べること。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問すること。なお、講義で用いる資料がある場合、前日の 18 時まで WebClass にアップするので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むこと。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔教員からの一言〕

疾病と薬物治療 VI の造血器腫瘍と合わせ、本講義を受けることで臨床現場で必要となる悪性新生物の基礎知識と薬物療法について網羅的に学ぶことができる。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医薬情報Ⅱ

Pharmaceutical Information II

第3学年 後期 3年必修科目 1単位

山田 安彦

高柳 理早

片桐 文彦

学習目標 (GIO) 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、薬物投与設計を立案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工に加え、臨床研究デザイン、薬効解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。具体的には、医薬品情報の薬学的評価、EBMの実践、生物統計、臨床研究デザイン、薬効解析に関する基本的事項を修得する。また、これらの情報解析に基づいて薬物治療の最適化を評価するための基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。	E3-1-6-1
2	臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。	E3-1-6-2
3	観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。	E3-1-6-3
4	副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。	E3-1-6-4
5	優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。	E3-1-6-5
6	介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。	E3-1-6-6
7	統計解析時の注意点について概説できる。	E3-1-6-7
8	介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。	E3-1-6-8
9	臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。	E3-1-6-9
10	基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）を説明できる。	E3-1-5-1
11	帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。	E3-1-5-2
12	代表的な分布（正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布）について概説できる。	E3-1-5-3
13	主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。	E3-1-5-4
14	主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。	E3-1-5-6
15	基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。	E3-1-5-7
16	EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。	E3-1-4-1
17	代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。	E3-1-4-2
18	臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的事項を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。	E3-1-4-3
19	メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。	E3-1-4-4
20	医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。	E3-1-7-2
21	個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。	E3-3-5-1
22	代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を評価できる。	E2-11-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	高柳	臨床研究の種類とデザイン (1)	1~8、17、19

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2	"	臨床研究の種類とデザイン (2)	1~8、17、19
3	"	臨床研究の結果を表すパラメータ	9
4	"	臨床成績を読むための生物統計 (1)	10~15
5	"	臨床成績を読むための生物統計 (2)	10~15
6	"	臨床成績を読むための生物統計 (3)	10~15
7	"	臨床成績を読むための生物統計 (4)	10~15
8	片桐	EBM	16~18
9	山田	医薬品情報の評価 (1)	20~22
10	"	医薬品情報の評価 (2)	20~22
11	"	薬物投与設計の理論 (1)	20~22
12	"	薬物投与設計の理論 (2)	20~22
13	"	医薬品の比較・評価	20~22

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

適宜補助資料を使用し、講義の進行とともにポイントを記入させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各回において修得すべき SBO を提示し目標を明確にする。
講義では、教科書のみならず必要に応じて補助資料を使用し、理解を得やすくする。
重要なポイントは強調し、教科書等への書き込みを薦める。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 課題、演習問題を行う。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 定期試験により評価する (100 %)。

〔教科書〕

理論医薬品情報学 (山田安彦編著) 京都廣川書店、2017 年

〔参考書〕

特に指定しない。

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可。但し、メールによる事前予約が必要。

〔所属教室〕

山田 安彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
高柳 理早 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
片桐 文彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義を受ける前に講義予定の項目を確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨む。
教科書や配布資料等を活用し、講義後の復習を必ず行う。

〔学生へのフィードバック〕

課題や演習問題の解説を通じてフィードバックする。

〔教員からの一言〕

適切な薬物治療を行うためには、医薬品情報と患者情報を統合して検討し、薬学的な観点で評価することが不可欠です。前期の医薬情報 I の講義に引き続き、医薬品の臨床効果の評価や比較を行うために必要な方法論を理解し実践するための基本的事項を学びます。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療薬学英语特論Ⅰ

English (Topics)Ⅰ

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

卒論指導教員

学習目標 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

医療薬物薬学英語特論Ⅰ

English (Topics)Ⅰ

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

卒論指導教員

学習目標 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

医療衛生薬学英语特論 I

English (Topics) I

第 4 学年 前期 4 年必修科目 1 単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

薬事関連法規と制度 II

Pharmaceutical Affairs Law II

第 4 学年 前期 4 年必修科目 1 単位

益山 光一

学習目標 (GIO) 薬剤師は医療人の一員として医療法により定められており、医療を取り巻く環境も関係法規に基づき実施されている。これらの法律は、疾病構造の変化や急速に進む高齢化社会の中で、日々前進し、改正が行われている。最近では、地域包括ケアや在宅医療の推進など、薬剤師も地域医療のチームの一員となった取り組みも強く求められている。

ここでは主に、医療法と医療保険制度、加えて薬剤師が特に管理を必要とする医薬品の管理規定及び社会保障制度におけるこれからの薬剤師の課題について学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令と規定について概説できる。	B-2-1-4
2	医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定その意義について説明できる。	B-2-1-5
3	医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-6
4	健康被害救済制度について説明できる。	B-2-2-10
5	麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	B-2-3-1
6	覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について説明できる。	B-2-3-2
7	毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	B-2-2-2
8	日本の社会保険制度の枠組みと特徴について説明できる。	B-3-1-1
9	医療保険制度について説明できる。	B-3-1-2
10	療養担当規則について説明できる。	B-3-1-3
11	公費負担医療制度について概説できる。	B-3-1-4
12	介護保険制度について概説できる。	B-3-1-5
13	薬価基準制度について概説できる。	B-3-1-6
14	調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	B-3-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	益山	毒物及び劇物取締法	7
2	益山	麻薬及び向精神薬取締法 (1) 麻薬の規制	5
3	益山	麻薬及び向精神薬取締法 (2) 向精神薬の規制	5
4	益山	覚せい剤取締法、あへん法、大麻取締法	6
5	益山	医療法 (1) 医療の担い手 医師、歯科医師、保健師助産師、看護師、薬剤師等	2
6	益山	医療法 (2) 医療提供の理念	3
7	益山	医療法 (3) 医療提供体制	3
8	益山	医療関係者の状況 医師法等	1
9	益山	医療保険 (1) 健康保険法	8、9、11
10	益山	医療保険 (2) 国民健康保険	8、9、10
11	益山	医療保険 (3) 薬価基準、調剤報酬等	13、14
12	益山	高齢者医療保健制度	8、9
13	益山	介護保険制度のしくみ、医薬品医療機器総合機構法と患者の被害救済	4、12
14	益山	診療報酬改定について	13、14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

薬剤師の今の問題について、考える時間を設けるとともに、講義内容については確認の小テスト（演習問題）を実施する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
できるだけわかりやすく、体系化しながら講義を行っている。講義はプロジェクターを用い、図表、写真を多用する。必要な資料は webclass 上に参考資料として掲載するが、基本的には教科書に基づき予習し、講義に持参すること。また小テストと称する演習問題を行い、知識の確認を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を行い、自己評価させる。また、成績不良者には課題を課す。

2) 総括的評価

a) 知識：定期テスト（80%）、小テスト（20%）にて評価する。再試験を1回行う。

<総括的評価>

- ・S（90点以上～100点）：合格
- ・A（80点以上～90点未満）：合格
- ・B（65点以上～80点未満）：合格
- ・C（55点以上～65点未満）：合格
- ・D（55点未満）：不合格

〔教科書〕

2019-2020「薬事法規・制度 解説」薬事衛生研究会（薬事日報社）

〔参考書〕

やさしい医薬品医療機器等法（第2版、じほう）

〔オフィスアワー〕

益山 光一 いつでも可 ただしメールで予約してください。

〔所属教室〕

益山光一 薬事関係法規研究室 教育3号館1階3102-2

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義の際に次の講義範囲として教科書での指定範囲に目を通して、疑問点や興味のある点を見つけてください。また、小テストの内容はできるだけ早い時点で、講義内容を思い出しながら、復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

教科書の内容について、その内容説明と解説等を行い、各講義毎に最終的な理解を確認するための小テストを実施し、後日、WebClassにて解説をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

わが国は世界的に類のない速さで高齢化が進んでおり、在宅医療や医療経済的視点など医療現場は大きく変わりつつあります。そのような変化の中、医療人として薬剤師も調和し、従前の取り組みだけではなく、前進しなくてはなりません。この講義で、制度上必要とされる薬剤師とはどのような姿なのかを知り、そのためにどうすべきか、考えていきましょう。

薬物動態学

Pharmacokinetics

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

井上 勝央 (全クラス)

降幡 知巳 (全クラス)

柴崎 浩美 (医療薬学科、医療衛生薬学科)

横川 彰朋 (医療薬物薬学科)

学習目標 (GIO) 最適な薬物治療を行うためには、体内動態に基づく薬物の特性や患者の病態および背景を理解し、個々の患者に適した医薬品の選択や用法・用量の設定を行わなければならない。本講義では、個々の患者に適した投与設計を提案できるようなるために、これまでに修得した薬物の体内動態ならびに個別化薬物治療に関する基本的知識を基盤として、体内動態の定量的解析・予測ならびに数式モデルによる投与設計を行うための知識を修得する。さらに、治療薬物モニタリング (TDM) の意義を理解し、TDM が有効な薬物における患者ごとの投与設計法を習得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。	E4-2-1-1
2	線形コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。	E4-2-1-2
3	薬物動態学的パラメーター (生物学的半減期、組織クリアランス、固有クリアランス、全身クリアランス) について説明し、計算できる。	E4-2-1-1, E4-2-1-5
4	生物学的半減期を用いて、血中薬物濃度の時間推移を予測することができる。	E4-2-1-1 ~ 2
5	薬物動態学的パラメーターの数値を用いて、吸収、分布、代謝および排泄に関わる薬物の体内動態特性を説明できる。	E4-2-1-1 ~ 2, E4-2-1-5
6	薬物動態学的パラメーターが変動したときの薬物の体内動態の変化を説明できる。	E4-2-1-1 ~ 2, E4-2-1-5
7	薬物動態学的パラメーターに基づいて薬物の生物学的利用能やその変動要因を説明できる。	E4-2-1-1 ~ 2, E4-2-1-5
8	モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し、説明できる。	E4-2-1-4
9	肝代謝により非線形性を示す薬物の体内動態について、薬物動態学的パラメーターを用いて説明できる。	E4-2-1-3
10	至適血中濃度を維持するための投与計画について薬物動態学的パラメーターを用いて説明できる。	E4-2-2-3
11	代表的な薬物相互作用と投与計画について説明できる。	E4-1-2-4, E4-1-3-6, E4-1-4-5, E4-1-5-5
12	疾患時 (合併症) における薬物の投与計画について説明できる。	E3-3-3-1 ~ 3
13	年齢的要因: 高齢者、小児における薬物投与法の注意点について、例をあげて説明できる。	E3-3-2-1 ~ 2
14	生理学的要因: 妊婦、授乳婦における薬物投与法の注意点について、例をあげて説明できる。	E3-3-4-1 ~ 3
15	ポピュレーションファーマコキネティクスに基づく投与法と応用例について説明できる。	E4-2-2-4
16	治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。	E4-2-2-1
17	血液試料の採取法と薬物の血中濃度測定法を説明できる。	E4-2-2-2
18	TDM が必要とされる代表的な薬物の投与計画について説明できる。	E4-2-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	井上	モデル非依存性の薬物動態の解析	1、8
2	"	コンパートメントモデルによる薬物動態の解析	1、2、4
3	"	クリアランス理論に基づく薬物動態の解析	1、3
4	"	薬物動態パラメータを用いた体内動態予測 1: 分布性、腎クリアランス	3、5、6、7
5	"	薬物動態パラメータを用いた体内動態予測 2: 生物学的利用能 (バイオアベイラビリティ)	3、4、6、7
6	"	薬物速度論に関する基礎演習	1、2、3、4、5、6、7、8
7	柴崎、横川	投与計画 1: 定速静注、反復投与、定常状態における投与設計と血中濃度予測	10
8	"	投与計画 2: 疾患時における投与設計	12

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9	"	投与計画 3: 高齢者、小児、妊婦、授乳婦における薬物投与の個別化	13、14
10	"	TDM の実際 1: TDM の意義、対象薬物、測定法と採血および試料の取り扱い	15、16、17
11	"	TDM の実際 2: 抗てんかん薬、喘息治療薬、抗生物質、免疫抑制薬等の TDM	9、18
12	降幡	投与計画 4: 薬物相互作用 (吸収、分布、排泄過程) を考慮した投与設計	11
13	"	投与計画 5: 薬物相互作用 (代謝過程) を考慮した投与設計	11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業内容に関する学生の理解を確認するために、授業中に確認問題や演習問題を取り入れている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 演習問題、小テストにより評価する

2) 総括的評価

a) 知識: 定期試験 (100%) により評価する。出席不良者は定期試験の受験資格を失うことがある。

S (90% 以上) : 合格

A (80 ~ 90% 未満) : 合格

B (70 ~ 80% 未満) : 合格

C (60 ~ 70% 未満) : 合格

D (60% 未満) : 不合格

再試験の成績・・・合格の場合 C

〔教科書〕

講義回数 1~6: 最新薬剤学 第 11 版 (尾関哲也、井上勝央 編著、廣川書店)

講義回数 7~13: テーラーメイド医療 ~ 薬物治療の個別化- 第 2 版 (古田、柴崎、横川 著、京都廣川書店)

〔参考書〕

講義回数 1~6: パートナー薬剤学 改訂第 3 版 (原島秀吉、伊藤智夫、寺田勝英 編著、南江堂)

講義回数 7~13: 臨床薬物動態学 (加藤隆一 著、南江堂)、今日の治療薬 (南江堂)

〔オフィスアワー〕

在室中はいつでも可 (ただし、メールにてあらかじめ予約して下さい)

〔所属教室〕

井上勝央 薬物動態制御学教室 研究 1 号館 3 階

降幡知巳 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 2 階

柴崎浩美 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

横川彰朋 個別化薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: 講義内容について、事前に教科書を読み、問題点、疑問点を抽出しておくこと。

復習: 講義内容に関する初回の授業で配布する練習問題あるいは教科書に掲載した確認問題、例題、課題を行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

配布資料の演習問題や教科書の確認問題等のうち、間違えやすい問題に関して、講義内で解説を行う。

〔教員からの一言〕

講義内容の理解のために、教科書に掲載した各項のまとめを復習と知識の定着に利用して下さい。

疾病と薬物治療 VIII

Diseases and Pharmacotherapy VIII

第 4 学年 前期 4 年必修科目 1 単位

畝崎 榮

竹内 裕紀

学習目標 (GIO) 神経系・筋疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-1-3-8
2	Parkinson（パーキンソン）病の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-1-3-9
3	認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症等）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-1-3-10
4	てんかんの病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-1-3-7
5	片頭痛の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-1-3-11
6	進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症について説明できる（体性神経系）。	E2-1-2-4
7	筋萎縮性側索硬化症について説明できる（中枢神経系）。	E2-1-3-14
8	褥瘡の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。	E2-6-3-3
9	精神疾患：統合失調症の治療薬の薬理（機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-1-3-4
10	精神疾患：気分障害（うつ病、双極性障害）の治療薬の薬理（機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-1-3-5
11	精神疾患：睡眠障害の治療薬の薬理（機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-1-3-3, E2-1-3-14
12	精神疾患：不安神経症・心身症の治療薬の薬理（機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	
13	精神疾患：薬物依存症、アルコール依存症の治療薬の薬理（機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-1-3-14

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	畝崎	脳血管疾患の病態と薬物療法	1
2	"	パーキンソン病の病態と薬物療法	2
3	"	認知症の病態と薬物療法	3
4	"	てんかんの病態と薬物療法	4
5	"	片頭痛の病態と薬物療法	5
6	"	進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症の病態と薬物療法	6~7
7	"	褥瘡の病態と治療	8
8	竹内	精神疾患の概要	9-13
9	"	統合失調症の病態と薬物療法	9
10	"	気分障害（うつ病と双極性障害）の病態と薬物療法	10
11	"	睡眠障害（不眠症、過眠症（ナルコレプシー））の病態と薬物療法	11
12	"	不安神経症・心身症の病態と薬物療法	12
13	"	薬物依存症、アルコール依存症の病態と薬物療法	13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

必要に応じて Q&A を実施している。

例題を提示している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

教科書の指定および講義プリントを配布し、講義内容を明確にしている。パワーポイントなどを使用し、講義に集中できるよう配慮している。練習問題を作成し、重要なポイントを確認できるよう工夫している。

〔成績評価方法〕

総括的評価

知識：定期試験（100％）にて評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

病気と薬物療法 精神疾患/神経・筋疾患 改定2版（オーム社）

〔参考書〕

治療薬マニュアル（医学書院）

今日の治療薬（南江堂）

今日の治療指針（医学書院）

薬がみえる Vol.1（MEDIC MEDIA）

その他、各疾患ごとに専門書を使用（プリントに記載）

〔オフィスアワー〕

畝崎 いつでも可。ただし要予約 医療棟 3F 畝崎教授室

〔所属教室〕

畝崎 医療実務薬学教室

竹内 東京医科大学病院 薬剤部

〔準備学習（予習・復習等）〕

教科書を体系的に用いて講義をしますので、対応 SBO s の予習をして講義に臨んでください。講義を聴きながら感じたこと、考えたことや疑問をノートに書き留めることで、自分の問題意識を明確にして能動的に講義に臨んでください。

〔学生へのフィードバック〕

講義の要点に関する例題等を提示し解説している。

〔備考〕

実務家教員担当科目

臨床推論 I

Clinical Reasoning I in Pharmacotherapy

第 4 学年 前期 4 年必修科目 1 単位

市田 公美

川口 崇

学習目標 (GIO) 疾病に伴う症状などの的確な患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、病態を理解する上で必要な症候の知識を修得する。さらに、症候から疾患を推定するための、臨床推論の理論、病歴、検査、副作用などの基本的な知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	全身及び皮膚疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
2	血液疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
3	呼吸器疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
4	循環器疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
5	消化器疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
6	腎・泌尿器疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
7	神経疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
8	婦人科及び整形外科疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
9	眼科及び耳鼻科疾患の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、該当疾患を推測できる。	E1-2-1-1
10	臨床推論の意義とその思考方法について説明できる。	T-1
11	風邪とその周辺疾患について、病態生理と鑑別疾患を説明できる。	T-1
12	疼痛を生じる代表的な疾患について、病態生理と鑑別疾患を説明することができる。	T-1
13	患者情報である病歴の種類を挙げ、説明できる。	E3-2-1-1 ~ 2
14	バイタルサインを挙げ、基本的な解釈を説明できる。	E3-2-1-1, E3-2-2-3
15	代表的な検査の特性を感度・特異度・尤度に基づいて説明できる。	E1-2-2-1 ~ 8, E3-2-1-1
16	有害事象と副作用の違いを説明できる。	E3-2-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	川口 崇	臨床推論の基本 (臨床推論の定義、活用法、理論、法的側面)	10
2	川口 崇	セルフケアの推論 (風邪の定義、風邪の病態生理と症状、風邪様症状の鑑別)	11
3	川口 崇	セルフケアの推論 (痛み、痛みの問診、腹痛のレッドフラッグサイン)	12
4	川口 崇	病歴と身体所見 (病歴の種類、病歴の聴取方法、身体所見、バイタルサイン)	13, 14
5	川口 崇	検査特性 (検査や所見の考え方、感度/特異度/尤度の算出と考え方)	15
6	川口 崇	副作用の推論 (有害事象と副作用の違い、評価方法、因果関係の判定 (推論))	16
7	川口 崇 (外部講師)	臨床推論の実践 ケーススタディ	10-16
8	市田 公美	発熱、全身倦怠感、肥満・やせ、発疹、掻痒、貧血、出血傾向	1、2
9	市田 公美	呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、喘鳴	3
10	市田 公美	胸痛、頻脈・徐脈 (心悸亢進・動悸)、低血圧、ショック、チアノーゼなど	4
11	市田 公美	悪心・嘔吐、吐血・下血、腹痛、下痢、便秘、腹部膨満、黄疸など	5
12	市田 公美	脱水、浮腫、タンパク尿、血尿、多尿・乏尿、頻尿、排尿障害	6

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
13	市田 公美	頭痛、意識障害、運動障害、知覚障害、睡眠障害、けいれん、月経異常、めまい、聴力障害、視力障害、関節痛・関節腫脹など	7, 8, 9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・必要に応じて補助プリントを配布し、講義を進行しながら空欄部分を記入させるようにする。
- ・症例を用いる場合、学生同士で考える時間を設けている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

臨床で実際に遭遇しうるケースを提示し、より実践的なイメージを持たせるようにしている。事前実務実習や実務実習で役立つ講義内容を目指している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:講義中に学生への質問により評価する。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:定期試験 (100%) にて評価する。

〔教科書〕

薬学生のための新臨床医学 (廣川書店)

総合診療医が教える よくある気になるその症状 レッドフラッグサインを見逃すな! (じほう)

〔参考書〕

今日の診断指針 (医学書院)

ここからはじめる! 薬剤師のための臨床推論 (じほう)

目指せ感染症マスター! 抗菌薬処方支援の超実践アプローチ (南山堂)

〔オフィスアワー〕

市田公美 金曜日以外はいつでも可。但し、メールによる予約が必要。

川口 崇 メールによる予約をしてください。

〔所属教室〕

市田公美 病態生理学教室 研究2号館6階

川口 崇 医療実務薬学教室 DR棟3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。

〔教員からの一言〕

症状毎に疾患を捉えることにより、今まで学んできた疾患の知識の整理・統合ができる。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医薬情報演習

Seminar in Pharmaceutical Information

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

山田 安彦 高柳 理早 片桐 文彦 木村 耕二

土橋 朗 倉田 香織 山田 寛尚

学習目標 (GIO) 薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、薬物投与設計を立案したり、臨床上の問題点を解決したり、医薬情報を育薬に応用したり、医薬品開発に必要な情報を理解できるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン、薬効解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理、EBMの実践、生物統計、臨床研究デザインおよび解析に関する基本的事項を修得するとともに、患者からの情報の収集、評価および薬物治療の個別化に関して必要な基本的事項を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）	E3-1-3-1
2	MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）	E3-1-3-2
3	臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）	E3-1-3-4
4	二群間の差の検定（t検定、 χ^2 検定など）を実施できる。（技能）	E3-1-5-5
5	臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）	E3-1-6-9
6	医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有用性や安全性について比較・評価できる。（技能）	E3-1-7-2
7	医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）	E3-1-7-3
8	個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）	E3-3-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-3	臨床薬効解析学教室	薬物治療に役立つ情報（1） 医薬品の評価	1、6
4-6	"	薬物治療に役立つ情報（2） 医薬品の比較	1、6、7、8
7-9	"	薬物治療に役立つ情報（3） 臨床研究デザインと解析、EBM、生物統計	3、4、5
10-12	情報教育研究センター	薬物治療に役立つ情報（4） EBMの5つのステップ、臨床研究論文を読む	2、3、5、8
13	臨床薬効解析学教室 情報教育研究センター	試験	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

ワークシートを配布し、演習を進行しながら、空欄部分を記入させる。

Think-Pair-Shareによる症例検討を行う。

TBL&PBLによる症例検討を行う。

e-ポートフォリオの作成を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

オリジナルのワークシート等を用いてプロダクト作成を行う。

発表・討論を実施しながら、演習の各段階で修得状況を確認し、教員からのフィードバックを行っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：課題を提示して繰り返し行う。

b) 技能：演習時間内に、手法等についてこまめにフィードバックする。

c) パフォーマンス：各演習内容の到達度をルーブリック評価表を用いて評価する。

2) 総括的評価

- a) 知識：試験等を総合評価する（60%）
- b) 技能：演習成果物等を通して総合評価する（20%）
- c) パフォーマンス：演習内容全般の到達度をルーブリック評価表を用いて評価する（20%）

〔教科書〕

別途指示する。

〔参考書〕

理論医薬品情報学（山田安彦 編著、京都廣川書店）

標準医療薬学 医薬情報評価学（山田安彦 編集、土橋朗 編集協力、医学書院）

治療薬マニュアル（医学書院）

今日の治療薬（南江堂）

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可。

〔所属教室〕

山田・高柳・片桐・木村 臨床薬効解析学教室 研究2号館2階204号室

土橋・倉田・山田 情報教育研究センター DR棟4階D404号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

3年次「医薬情報Ⅰ」、「医薬情報Ⅱ」の講義内容を復習しておくこと。

実習4日目は、TBL & PBLの実施のため、事前課題を実施してから参加すること。資料は2週間前にWebClassより配布する。必要な時間は人によるが、概ね1時間程度。

復習として、図書館・情報センター主催のPubMed講習会などへの参加を薦める。

〔学生へのフィードバック〕

適宜行う。

〔備考〕

実務家教員担当科目

調剤学

Dispensing Pharmacy

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

杉浦 宗敏 今井 志乃ぶ

学習目標 (GIO) 薬剤師を取り巻く環境は大きく変化している。調剤の概念は、「患者情報の収集から薬剤交付後の有効性、安全性の確認」と広がりを見せており、医薬品の適正使用を確保するために薬物療法のすべてに対して薬剤師が責任を負う必要があると解釈できる。薬学教育6年制の導入により、5年次に医療機関において実務実習を受けることになる。本講義では実務実習事前学習に連携して、基本的な調剤に関する知識と技術を習得することを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。	A-1-2-2
2	医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	A-1-2-3
3	保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	A-4-1-1
4	多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	A-4-2-1
5	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A-4-3-1
6	薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	B-2-1-1
7	薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	B-2-1-2
8	薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-3
9	薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。	B-2-1-4
10	医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-5
11	医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。	B-2-1-6
12	個人情報の取扱いについて概説できる。	B-2-1-7
13	薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。	B-2-1-8
14	後発医薬品とその役割について説明できる。	B-3-2-3
15	地域における薬局の機能と業務について説明できる。	B-4-1-1
16	医薬分業の意義と動向を説明できる。	B-4-1-2
17	かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	B-4-1-3
18	医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。	E3-1-2-4
19	医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。	E3-1-2-5
20	医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。	E3-1-2-6
21	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。	E3-2-1-1
22	患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	E3-2-1-2
23	調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	F-2-1-1
24	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	F-2-2-1
25	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F-2-2-2
26	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F-2-2-3
27	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F-2-2-4
28	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	F-2-2-5
29	主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	F-2-3-2
30	後発医薬品選択の手順を説明できる。	F-2-3-4
31	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F-2-3-5
32	妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	F-2-4-2
33	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F-2-4-5
34	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F-2-4-7

番号	内容	コアカリとの関連コード
35	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F-2-5-8
36	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
37	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
38	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
39	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
40	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
41	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的手技を説明できる。	F-3-3-4
42	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
43	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
44	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	杉浦	調剤学の概念（総論）	1-17
2	杉浦	処方せんの見方（総論）	23、25-28
3	杉浦	投与設計の理論	18-30
4～6	杉浦	処方監査の理論（1）-（3）	18-30、32-40、44
7～9	今井	薬剤調製の理論（1）-（3）	18-44
10	杉浦	調剤薬監査の理論	18-44
11-12	杉浦	服薬指導の理論	18-44
13	杉浦	処方提案、処方変更提案	18-44

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

経験に基づいた薬剤師体験を学生の講義にフィードバックするよう心がけ、授業を構成する。

〔成績評価方法〕

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験（100%）で総合的に評価する。

〔教科書〕

理論調剤学 京都広川書店

〔参考書〕

第14改定 調剤指針 薬事日報社

治療薬マニュアル 医学書院

〔オフィスアワー〕

杉浦 宗敏：いつでも可。但し、メールによる事前予約が必要。

医療棟3階304号室

〔所属教室〕

杉浦 宗敏、今井志乃

医薬品安全管理学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにすること。また、講義の後は必ず復習し、判らない内容は参考書等で調べること。

〔学生へのフィードバック〕

授業中に形成的評価を実施するとともに、必要に応じて小テストなどを実施し能動的学習を促す。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医薬品安全性評価学

Safety and Risk Assessment of Medicines

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

杉浦 宗敏

別生 伸太郎

学習目標 (GIO) 医薬品をめぐる様々な事故が頻発している。医薬品の適正使用を促し、医療安全を確保するために薬剤師が積極的に関わる必要がある。薬学教育6年制の導入に伴い5年次に医療機関において実務実習を受けるが、本講義では4年次の事前実務実習に連携して、基本的な医薬品の適正使用による医療安全に関する知識を習得することを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	WHO による患者安全の考え方について概説できる。	A-1-3-2
2	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3
3	医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	A-1-3-4
4	代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	A-1-3-6
5	医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	A-2-2-1
6	薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	A-2-2-2
7	医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	A-2-2-3
8	「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。	B-2-2-1
9	患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	A-2-3-2
10	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A-2-3-3
11	保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	A-4-1-1
12	多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	A-4-2-1
13	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A-4-3-1
14	製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。	B-2-2-5
15	「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。	B-2-2-7
16	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。	E3-1-2-1
17	医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。	E3-1-2-2
18	厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。	E3-1-2-3
19	医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。	E3-1-2-4
20	医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。	E3-1-2-5
21	医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。	E3-1-2-6
22	医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。	E3-1-3-3
23	EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。	E3-1-4-1
24	代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。	E3-1-4-2
25	臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。	E3-1-4-3
26	メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。	E3-1-4-4
27	処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F-2-6-1
28	特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。	F-2-6-2

番号	内容	コアカリとの関連コード
29	代表的なインシデント（ヒヤリハット）アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）	F-2-6-3
30	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7
31	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
32	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
33	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
34	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
35	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
36	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1
37	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
38	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
39	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。	F-4-1-3
40	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。	F-4-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	杉浦	医療倫理と医薬品安全管理	1.2.5～10
2	杉浦	職種間コミュニケーション	12.13.37.38.
3	杉浦	地域医療および医療機関間の連携とリスクマネジメント	11.39.40.
4	杉浦	医療事故の定義・分類と代表的な事例（1）	2.3.27.29.
5	杉浦	医療事故の定義・分類と代表的な事例（2）	2.3.27.29.
6	杉浦	医療事故の発生要因と分析法（1）	2.3.27.29.
7	杉浦	医療事故の発生要因と分析法（2）	2.3.27.29.
8	杉浦	医療事故の防止対策（1）	1.3.27.29.30.
9	杉浦	医療事故の防止対策（2）	1.3.27.29.30.
10	別生	医薬品作用の評価法（1）	14～26. 28.31.33.34.
11	別生	医薬品作用の評価法（2）	14～26. 28.31.33.34.
12	別生	医薬品作用の評価法（3）	14～26. 28.31.33.34.
13	杉浦	まとめ	1-40

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

実例・症例を紹介しながら、知識の確認を図る。

〔成績評価方法〕

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験（100％）によって評価する。ただし、受講態度によっては定期試験の受験停止措置を講じることがある。

〔教科書〕

医薬品安全管理論 京都廣川書店

〔参考書〕

医療安全 メディカ出版

医療安全学 篠原出版新社

これだけは身に付けたい患者安全のためのノンテクニカルスキル超入門 メディカ出版

〔オフィスアワー〕

別生 伸太郎 事前に予約が必要。薬学実務実習教育センター 教育5号館5階教員室

杉浦 宗敏 事前に予約が必要。医薬品安全管理学教室 医療棟3階304号室

〔所属教室〕

別生 伸太郎 薬学実務実習教育センター

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

次回の講義で扱う内容を教科書を使用して予習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕
講義内容等に対する質問等は随時回答する。

〔備考〕
実務家教員担当科目

病態栄養管理学

Pathologic Nutrition

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

川口 崇

平田 尚人

下枝 貞彦

学習目標 (GIO) 医療の高度化が急速に進み、薬剤師においても専門性が求められている。病院や薬局など臨床現場で業務に従事する薬剤師は、自己研鑽を積むことによって多様な分野で専門薬剤師の資格取得を進めている。本講義では、栄養管理に対する専門薬剤師取得に必要な知識や技術の概略を解説し、将来臨床現場で活躍する薬剤師を目指す学生の専門分野を明確にすることを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	D1-3-1-1
2	各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	D1-3-1-2
3	食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	D1-3-1-3
4	五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。	D1-3-1-4
5	エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。	D1-3-1-5
6	日本人の食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
7	栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	D1-3-1-7
8	疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	D1-3-1-8
9	代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。	E1-3-1-1
10	栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-4-3
11	栄養療法に関わる基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
12	患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、栄養療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）	F-3-1-2
13	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の栄養学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
14	基本的な身体所見を観察・測定し、栄養状態の評価できる。	F-3-1-4
15	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた輸液処方設計ができる。	F-3-3-1
16	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、輸液の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
17	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F-3-3-4
18	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
19	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
20	代表的な疾患に用いられる輸液の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1
21	栄養サポートチームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
22	在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集を行うことができる。	F-5-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平田 尚人	輸液とは 細胞外と細胞内の水の移動を理解する 2種類の等張液を知る 輸液製剤は全て生理食塩液と5%ブドウ糖から成り立っている 点滴されている輸液を見て薬剤師・薬学生としてのかかわり方を知る 栄養輸液は維持薬である 膠質輸液について	8,11,18

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2	平田 尚人	輸液の処方設計 栄養サポート シナリオ 処方設計における計算の流れ TPN 開始処方？ 処方設計の逆が鑑査である TPN 開始処方が決まったら	9,12,13,14
3,4	平田 尚人 下枝 貞彦	5 大栄養素 脂質 アミノ酸 糖質 微量元素 ビタミン	1,2,3,4
5	下枝 貞彦	輸液モニタリング 高血糖 (投与速度、glycation、脱水、意識障害) 低血糖 (意識障害、投与速度、脳・赤血球) 必須脂肪酸欠乏症 (皮膚症状、エイコサノイド) 肝機能異常 (ALT>AST、脂肪肝) 腎機能異常 (NPC/N,BUN,Cr, 腎前性腎不全) 水・電解質 (投与量、GIK) 微量元素欠乏・過剰症 (微量元素製剤の弱点、Mn) ウエルニッケ脳症・乳酸アシドーシス (b ビタミン B1 不足) 浮腫・肺水腫 (スターリングの仮説) リフィーディング症候群 (急速過剰栄養) 酸・塩基平衡異常 (ブドウ糖、CO ₂ 、滴定酸度)	19,20
6	下枝 貞彦	リスクマネジメント TPN 製剤の組成を理解する キット製剤の構造を理解する	17,21
7	下枝 貞彦	経腸栄養剤 経腸栄養の特徴 経腸栄養の適応 経腸栄養の禁忌 投与方法の比較 経腸栄養法の利点 各経腸栄養剤	12,13,21,22
8	川口 崇	水、電解質輸液の基本	18
9	川口 崇	水・電解質異常 (水分・Na の異常)	19,20
10	川口 崇	水・電解質異常 (K の異常) 水、電解質の欠乏量輸液の考え方	19,20
11	川口 崇	水・電解質異常 (酸・塩基平衡の異常)	10,20
12	平田 尚人	処方鑑査① 処方設計と処方鑑査	5,6,7
13	平田 尚人	処方鑑査② 演習問題	10,15,16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
教科書にある練習問題を実際に解き、解説を加えている。
各回に学生を指名して発表させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
具体的な症例や事例を示すことで、考える力を養うための手法が学習できる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：課題、演習問題を行う。解説にてフィードバックする。

2) 総括的評価

知識：定期試験 (授業内) にての結果に基づいて評価する (100%)。必要に応じて追再試験を 1 回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

教科書は「薬学輸液療法 京都広川書店」を使用する。講義資料を用いることもある。
講義資料は WebClass より各自で印刷し、講義時に持参すること。なお講義資料がある場合は、原則として講義前日の 18 時を目途に WebClass 上で公開される。

〔参考書〕

病態栄養認定管理栄養士のための病態栄養ガイドブック (改訂第 5 版) 南江堂
別冊「医学のあゆみ」病態栄養学 UPDATE 医歯薬出版
認定 NST ガイドブック 2017 (改訂第 5 版) 南江堂
一般社団法人日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック 南江堂
よくわかる輸液療法のすべて 北岡建樹 永井書店
やさしく学ぶための輸液・栄養の第一歩 日本静脈経腸栄養学会 非売品
レジデントノート 17(3):2015 水・電解質異常 羊土社
より理解を深める体液電解質異常と輸液 改訂 3 版 中外医学社

〔 オフィスアワー 〕

川口 崇 いつでも可。ただし要予約。

DR 棟 3F 医療実務薬学教室

平田 尚人 水曜日以外はいつでも可。但し、メールによる予約が必要。

医療棟 2 階 M206 室

下枝 貞彦 火曜日以外はいつでも可。但し、メール (shimoeda@toyaku.ac.jp) による予約が必要。

医療棟 2 階 M207 室

〔 所属教室 〕

川口 崇 医療実務薬学教室 講師

平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授

〔 準備学習 (予習・復習等) 〕

70 分の授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、テキスト (プリント) の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の 18 時までに WebClass にアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔 学生へのフィードバック 〕

講義内容等に対する質問等は随時回答する。各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。

さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔 教員からの一言 〕

高齢社会を迎え、糖尿病、腎臓病などの複数疾患を抱える高齢者の増加やフレイル、サルコペニアなど全身的栄養管理が重要となっている。疾患の病態解明や治療・予防医療、介護分野において栄養学の重要性が増し、病態栄養学に精通した薬剤師が医師、管理栄養士などの他職種と連携し、様々な疾患の栄養療法について、科学的根拠に基づいてテーラーメイドで実践することが求められている。

今後、本分野における薬剤師の役割が、保険薬局を中心に益々重要になることは明白である。

〔 備考 〕

実務家教員担当科目

個別化医療Ⅱ

Personalized Medicine II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

堀祐輔 秋山滋男 恩田健二 田中祥子

学習目標 薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得し、個々の患者に応じた最適な薬物療法を実践できる知識を修得する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物体内動態 (PK) および薬物感受性 (PD) の個人差を考慮した、薬物療法を説明できる。	E4-2-1-6
2	患者の体格・背景・病態および薬剤に適した用量・用法の設定について、例を挙げて説明できる。	F-3-3-9
3	患者の背景・状態に適した剤型や投与経路を選択できる	F-3-3-3~4
4	遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。	E3-3-1-1~3, E3-3-5-2, F-3-3-2
5	新生児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-2-1, F-3-3-2
6	妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-4-2, F-3-3-2
7	高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-2-2, F-3-3-2
8	腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3-3-3-1, F-3-3-2
9	血液浄化法施行患者 (血液透析など) における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3-3-3-1
10	肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる	E3-3-3-2, F-3-3-2
11	心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。	E3-3-3-3
12	薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙でき、個別化治療における時間薬理学の考え方を修得する。	E3-3-4-1
13	各種検査値異常の患者および栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-4-3, F-3-4-7
14	薬剤併用時における併用療法の考え方や相互作用、ポリファーマシーについて、注意すべき点を説明できる。	E4-1-2-4, E4-1-3-6, E4-1-4-5, E4-1-5-5
15	薬物投与後の効果の判定や副作用や有害事象のモニタリングにおける注意点を説明できる。	F-3-4-1, F-3-4-6~9
16	個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。	E3-3-5-1, F-3-4-10

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	堀祐輔	PK/PD の個人差を考慮した薬物療法	1
2	堀祐輔	患者の体格・背景・病態・服薬コンプライアンスを考慮した用量・用法の設定および剤型、投与経路の選択	2, 3
3	堀祐輔	遺伝的多型に基づく薬物療法の個別化 薬剤併用時における注意点 (併用療法、相互作用、ポリファーマシー)	4, 14
4	田中祥子	新生児、小児における薬物療法	5
5	恩田健二	妊娠・授乳期における薬物療法	6
6	秋山滋男	高齢者における薬物療法	7
7	堀祐輔	腎機能低下時における薬物投与設計	8
8	堀祐輔	血液浄化法施行患者 (血液透析など) における薬物投与設計	9
9	堀祐輔	肝機能低下時における薬物投与設計 心機能低下患者における薬物投与設計	10, 11
10	秋山滋男	生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) による薬物治療への影響および時間薬理学	12
11	秋山滋男	各種検査値異常のある患者および栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) の薬物療法の注意点	13
12	秋山滋男	効果および副作用モニタリング	15
13	堀祐輔	個別化治療の症例解説	16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

必要に応じて Q&A を実施している。
例題を提示している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

講義プリント本のより、講義内容を明確にしている。パワーポイントなどを使用し、講義に集中できるよう配慮している。練習問題を作成し、重要なポイントを確認できるよう工夫している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：例題・症例を提示し修得度を評価する。

2) 総括的評価

a) 知識：定期試験（100％）にて評価する。再試験を1回実施する。

〔教科書〕

講義プリントまたは WebClass

〔参考書〕

臨床薬理学第4版（医学書院）

ライフステージや疾患背景から学ぶ臨床薬理学（羊土社）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし要予約 実務実習教育センター 臨床薬理学教室

〔所属教室〕

実務実習教育センター 臨床薬理学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義プリント（または WebClass）を体系的に用いて講義をしますので、対応 SBO s の予習をして講義に臨んでください。講義を聴きながら感じたこと、考えたことや疑問をノートに書き留めることで、自分の問題意識を明確にして能動的に講義に臨んでください。

〔学生へのフィードバック〕

講義の要点に関する例題・症例等を提示し解説している。

〔教員からの一言〕

今まで学んできた薬理学・薬物体内動態学・疾病と薬物治療等の知識に基づき、実際の個々の患者に適した薬物治療を実践するために、総合的に考える力を身につけて下さい。

〔備考〕

実務家教員担当科目

薬局・病院薬学

Practical and Hospital Pharmacy

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

藤崎 玲子
堀 祐輔
杉浦 宗敏
平田 尚人
下枝 貞彦

学習目標 (GIO) 薬局薬剤師と病院薬剤師は、患者の薬物療法に関する情報を相互に提供し、円滑な連携関係を構築することにより、医療安全の確保に資することを目的としている。医療機関の中で行なわれている薬に関する患者サービスが、分業によって地域に広がった場合でも同じサービスを受けられるようにしなければならない。そのためには、病院薬剤師と薬局薬剤師が共通の認識を持ち、調剤と情報提供が行なわれる必要がある。そこで本講は、薬局薬剤師と病院薬剤師の役割を学ぶことを通じて、薬業連携で薬剤師が職能を果たすことのできる環境を作るための基礎的知識を身につけることを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。	A-1-2-2～3, A-1-2-6～7, A-1-3-4
2	医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種との連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1
3	社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。	B-3-1-1～7, B-3-2-1～4
4	地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。	B-4-1-1～6, B-4-2-1～4
5	医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。	F-1-3-1～2
6	医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。	F-4-1-1～3, F-4-2-1
7	地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。	F-5-1-1～3, F-5-2-1～2, F-5-4-1～2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	下枝 貞彦	医療人として薬剤師が果たすべき役割	1
2	杉浦 宗敏	①緩和医療を通じて考える多職種連携協働とチーム医療 ②医療の担い手として期待される薬剤師の役割と薬学的管理の基本的な流れ	2, 5, 6
3	堀 祐輔	①かかりつけ薬局・薬剤師の役割 ②地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)	4.5.7
4	杉浦 宗敏	①医療安全に関わる多職種連携協働とチーム医療 ②医療の担い手として期待される薬剤師の役割と薬学的管理の基本的な流れ	5.6
5	堀 祐輔	①在宅(訪問)医療・介護への参画 ②地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)	7
6	堀 祐輔	①調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組み ②医薬品と医療の経済性を加味した薬剤師の役割とポリファーマシー ③病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法	4.5.7
7	平田 尚人	①臨床における中毒各論 ②各種中毒事例への薬剤師対応	5.6
8	下枝 貞彦	地域の保健、医療、福祉と社会における薬局の役割(医薬分業) 地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師	4.7
9	平田 尚人	災害時医療と薬剤師: 災害拠点病院および災害時医療体制の概要、災害派遣医療チーム(DMAT)および医療救護班と薬剤師の役割	2.4.7

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	藤崎 玲子	スポーツファーマシストの役割を通じ薬剤師の代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。	2.4.7
11	堀 祐輔	医薬品の市場の特徴と流通の仕組み	3.4
12	下枝 貞彦	地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画	7
13	下枝 貞彦	保健、医療、福祉と社会における保険薬局・病院薬局の役割総括	1~7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。教科書にある練習問題を実際に解き、解説を加えている。各回に学生を指名して発表させている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

具体的な症例や事例を示すことで、考える力を養うための手法が学習できる。本学附属薬局で保険薬局業務に従事する現役薬剤師や、長年にわたる病院勤務経験のある教員が、自らの経験も踏まえ講義を行うことで、臨場感のある知識を修得できる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：課題、演習問題を行う。解説にてフィードバックする。

2) 総括的評価

知識：定期試験(授業内)にての結果に基づいて評価する(100%)。必要に応じて追再試験を1回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

ケーススタディ 薬局病院薬学 京都廣川書店

〔参考書〕

学校と学校薬剤師 2011 薬事日報社

くすり教育のヒント 中学校学習指導要領をふまえて 薬事日報社

薬学と社会 医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療(臨床薬学テキストシリーズ) 中山書店

薬剤師業務の基本[知識・態度]第3版~薬局管理から服薬指導、リスクマネジメント、薬学的管理、OTC医薬品、病棟業務まで(新ビジュアル薬剤師実務シリーズ) 羊土社

〔オフィスアワー〕

藤崎 玲子

各講義日の全講義終了後であれば対応可。但し、メールによる予約が原則必要。希望者は、下枝貞彦(shimoeda@toyaku.ac.jp)に、その旨をメールにて連絡すること。

杉浦 宗敏 いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。医療棟3階 M304号室

平田 尚人 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療棟2階 M206室

下枝 貞彦 火曜日以外はいつでも可。但し、メール(shimoeda@toyaku.ac.jp)による予約が必要。医療棟2階 M207室

堀 祐輔 薬学実務実習教育センター 教育5号館6階 5605室

〔所属教室〕

藤崎 玲子 株式会社望星薬局 教育・実習支援課 課長

堀 祐輔 薬学実務実習教育センター 教授

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 教授

平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、テキスト(プリント)の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の18時までにWebClassにアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔教員からの一言〕

院外処方せん発行率の大幅な上昇や、薬学教育は6年制に延長され、既に6年制のカリキュラムを終了した薬剤師が社会で活躍している。薬学教育年限の延長を踏まえ、病院の薬局における薬剤師の役割や保険薬局で勤務する薬剤師の役割にも、当然のことながら大きな変化が生じている。そこで本講義では、これら社会情勢の変化に伴う新たな病院の薬局や保険薬局における薬剤師の役割について解説し、今後両薬剤師がどのように連携をとることによって、国民からさらに信頼を得られる職種へと大きく発展していくのか、その方向性を考える。

〔備考〕
実務家教員担当科目

一般用医薬品学

Nonprescription Drugs

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

成井 浩二

井手 眞喜雄

葦沢 龍人

畝崎 榮（取り纏め）

学習目標 (GIO) 薬剤師として顧客からの相談に応じ、顧客のセルフメディケーションについての支援を行い、それぞれの顧客に最適な要指導医薬品・一般用医薬品（以下「OTC 医薬品」と略記）を販売し、医薬品の適正使用や健康管理についての情報提供と助言を行うために、OTC 医薬品とセルフメディケーション支援についての知識・技能・態度を修得する。

薬局・ドラッグストアにおけるセルフメディケーション支援とそれに伴う OTC 医薬品の販売は、薬剤師の重要な職務です。処方調剤と異なり、OTC 医薬品を求める顧客は相談対象の健康トラブルについて医療機関の受診を受けていない場合が多いため、薬剤師の相談対応と助言は大変重要です。本講義では、OTC 医薬品について上記の学習目標 (GIO) のもとで学びます。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師が行うセルフメディケーション支援について説明できる。(知識)	A-1-2-6, B-4-1-1, B-4-1-3~4, E2-9-1-1
2	OTC 医薬品を販売する際に遵守しなければならない法規・制度が説明できる。(知識)	B-2-1-1~3, B-2-2-10, E2-9-2-1
3	OTC 医薬品販売に特有な相談対応時のコミュニケーションの特徴と重要性を説明できる。(知識・技能)	A-3-1-3~8, A-3-2-2
4	OTC 医薬品販売に際して顧客から必要な情報を聴取できる。(知識・技能・態度)	A-3-1-4~6, E2-9-4-1
5	相談対応時に頻出する症状について、生ずる原因とそれらに伴う代表的疾患を推定し受診勧奨を要する症状を説明できる。(知識)	E1-2-1-1, E2-9-3-1, E2-9-4-1
6	OTC 医薬品販売に際して顧客から得た情報を分析、評価し、必要に応じて医師への受診勧奨ができる。(知識・技能・態度)	E1-2-1-1, E1-4-3-1, E2-9-3-1
7	顧客の健康状態に最も適した OTC 医薬品を選択できる。(知識・技能)	E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
8	OTC 医薬品について適切な情報提供ができる。(知識・技能)	E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1, E3-1-2-4~5
9	顧客との会話を通じ、使用中の OTC 医薬品の効果、副作用に関する情報を収集できる。(知識・技能)	E2-9-7-1, E2-9-8-1
10	OTC 医薬品で発現する可能性がある副作用および薬物相互作用を列挙し、その対応策を説明できる。(知識)	E2-9-7-1, E2-9-8-1
11	各薬効群の OTC 医薬品に配合される主な成分を列挙し、それらの効能効果、使用上の注意、副作用など適正使用に必要な情報が説明できる。(知識)	E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
12	OTC 医薬品として販売される代表的な漢方薬の効能効果・使用上の注意など適正使用に必要な情報が説明できる。(知識)	E2-10-3-1, E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
13	要指導医薬品・第一類医薬品の主な成分を列挙し、それらの効能効果、使用上の注意、副作用など適正使用に必要な情報が説明できる。(知識・技能)	E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
14	セルフメディケーションに活用するための保健機能食品の適切な選択と情報提供ができる。(知識・技能)	D1-3-2-6, E2-10-1-4, E2-9-6-1, E2-9-7-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	成井 浩二	OTC 医薬品概説 OTC 医薬品をめぐる法律と制度 OTC 医薬品の特徴と添付文書	1, 2
2	成井 浩二	OTC 医薬品の情報提供に必要な基礎知識 1 販売後のアフターケアと副作用など有害事象回避のための必要事項 相談対応時に頻出する症状とその原因および疾患、受診勧奨を要する症状	3, 4, 5, 6, 9, 10
3	井手 眞喜雄	OTC 医薬品をめぐる法律と制度 OTC 医薬品の製品開発・製造販売承認・販売	2

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
4	成井 浩二	かぜ症候群関連の OTC 医薬品 1 解熱鎮痛薬	7,11,12,13
5	成井 浩二	かぜ症候群関連の OTC 医薬品 2 鎮咳去痰薬	7,11,12,13
6	成井 浩二	かぜ症候群関連の OTC 医薬品 3 鼻炎用薬	7,11,12,13
7	成井 浩二	消化器症状に適用される OTC 医薬品 1 胃腸薬 (制酸薬、消化薬、鎮痛鎮痙薬、H2 ブロッカー、総合胃腸薬)	7,11,12,13
8	葦沢 龍人	セルフメディケーションにおける薬剤師のプライマリケア	3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 13
9	成井 浩二	OTC 医薬品の情報提供に必要な基礎知識 2 OTC 医薬品販売の手順・プロセス 各段階でのポイント、OTC 医薬品販売時のコミュニケーションの特徴と重要性	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
10	成井 浩二	消化器症状に適用される OTC 医薬品 2 止瀉薬、瀉下薬、整腸薬	7,11,12,13
11	成井 浩二	外用薬 1 痔疾用薬、化膿性皮膚疾患用薬、水虫・たむし用薬	7,11,12,13
12	成井 浩二	外用薬 2 化膿性皮膚疾患用薬、点眼薬	7,11,12,13
13	成井 浩二	いわゆる健康食品	14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・授業中に書き込む形式のプリントを作成し、授業で活用します。
- ・Web Class に授業資料を up し、学生自ら学ぶことができるように工夫しています。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

薬局カウンターで実際に遭遇した多数の相談事例・受診勧奨事例などを随所で紹介します。ご自分が実際に薬局のカウンターで薬剤師業務をしていることを想定して、自分ならどのように対応するかなどを考えて下さい。

〔成績評価方法〕

知識：定期試験 (100%)

〔教科書〕

OTC 医薬品学 薬剤師にできるプライマリケア (渡辺謹三ら著 南江堂)

〔参考書〕

OTC メディケーション虎の巻 (泉澤恵執筆・監修、日経ドラッグインフォメーション編、日経 B P 社)
一般薬日本医薬品集 < 2017-18 > (日本医薬品集フォーラム監修、じほう)
必要があればこのほかの参考書も随時講義中に紹介します。

〔オフィスアワー〕

成井 浩二：いつでも可、メールまたは電話で在室を確かめてから来ると無駄足がなくなります。

〔所属教室〕

成井 浩二：一般用医薬品学教室 ドラッグラショナル (DR) 研究開発センター 3 階
【連絡先】042-676-5825 (外線直通)、2037 (内線)、narui@toyaku.ac.jp (メール)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義プリントを Web Class に up しますので、既習の内容や既習の内容に関係した事項があったら、その部分の既習内容を復習 (30 分程度) しておくとう効果的に講義を聴講することができます。各論では、既習の医薬品について薬理学 (薬の効き方) の内容を (30 分程度) 復習すると非常に効果的です。講義後は、復習に重点を置いて学習を進めて下さい。授業で出てきた法律・制度、症状・疾患、医薬品、生薬・漢方薬などについて、すでに他の科目の講義に出てきたものは、その分野の講義内容と本講義の内容を関連づけて復習すると理解が深くなるとともに、4 年次以降の実務関連の学習の場で応用できる知識が身につきます。また、卒業後に現場で役に立つ知識になります。

〔学生へのフィードバック〕

学生からの質問に答える形でのフィードバックを行います。

〔教員からの一言〕

薬剤師実務の現場では、一般用医薬品やその周辺領域の各種製品に関する相談は地域薬局のみならず処方調剤を行う場面でも求められます。本講義の内容は、現場での薬剤師実務に直結するのみならず 4 年生の実務実習事前学習と 5 年生の薬局実務実習に密接に結びついていますので、しっかりと修得しておきましょう。

実務実習事前学習Ⅰ

Preliminary Pharmacy Practice I

第4学年 前期 4年必修科目 3単位

堀 祐輔 国分 秀也 戸張 裕子 秋山 滋男 大山 勝宏 影山 美穂 武井 佐和子 濱田
真向 別生 伸太郎 増田 多加子
山田 純司
成井 浩二
遠藤 朋宏
東京医科大学 冷水 育

学習目標 実務実習事前学習Ⅰは実務実習事前実習と連携して、卒業後、医療、健康保険事業に参画できるようになるための5年次の病院実務実習・薬局実務実習に先立って、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を学内で修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療の担い手を守るべき倫理規範や法令について討議する。	F-1-2-1
2	患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。	F-1-2-2
3	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。	F-1-2-3
4	病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	F-1-3-1
5	病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	F-1-3-2
6	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	F-1-3-3
7	病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	F-1-3-4
8	薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。	F-1-3-5
9	調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	F-2-1-1
10	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	F-2-2-1
11	処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F-2-2-2
12	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F-2-2-3
13	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F-2-2-4
14	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	F-2-2-5
15	処方せん等に基づき疑義照会ができる。	F-2-2-6
16	薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。	F-2-3-1
17	主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	F-2-3-2
18	処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。	F-2-3-3
19	後発医薬品選択の手順を説明できる。	F-2-3-4
20	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F-2-3-5
21	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	F-2-3-6
22	抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。	F-2-3-7
23	処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。	F-2-3-8
24	適切な態度で、患者・来局者と対応できる。	F-2-4-1
25	妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	F-2-4-2
26	患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。	F-2-4-3
27	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。	F-2-4-4
28	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F-2-4-5
29	患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。	F-2-4-6
30	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F-2-4-7
31	代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。	F-2-4-8

番号	内容	コアカリとの関連コード
32	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F-2-5-1
33	医薬品管理の流れを概説できる。	F-2-5-2
34	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-3
35	特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-4
36	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5
37	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F-2-5-6
38	薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F-2-5-7
39	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F-2-5-8
40	処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F-2-6-1
41	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。	F-2-6-2
42	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。	F-2-6-3
43	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
44	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。	F-2-6-5
45	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる	F-2-6-6
46	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7
47	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
48	患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。	F-3-1-2
49	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
50	基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。	F-3-1-4
51	薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。	F-3-2-1
52	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
53	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
54	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
55	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F-3-3-4
56	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
57	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
58	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1
59	代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。	F-3-4-2
60	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。	F-3-4-3
61	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
62	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
63	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。	F-4-1-3
64	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。	F-4-2-1
65	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。	F-4-2-2
66	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	F-5-1-1
67	在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	F-5-1-2
68	在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	F-5-1-3
69	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。	F-5-3-1
70	代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。	F-5-3-2
71	代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。	F-5-3-3
72	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。	F-5-3-4
73	災害時医療について概説できる。	F-5-4-1

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
	堀	薬剤師業務	1-73
	堀	処方解析 (薬局) a	10,12,13,14,18,19,52,53
	別生	在宅医療	66-68
	増田 (多)・冷水	医療連携 I・II	3,7,47,61,62,63,64
	秋山	調剤と処方箋	12-14、16,17,19
	影山	処方から調剤	11,18
	秋山	注射薬調剤 I・II	12,21,44,55,56
	大山	服薬指導の基礎 Ib	10,53
	濱田	配合変化理論	55,56
	国分	処方提案 a・b・c	22 48 51 53
	戸張	処方監査 I・II	9,10,12,13,14,54
	武井	医薬品管理 I・II	1,32-34,35,37,38
	遠藤	放射性医薬品	36
	国分	院内感染	44-45
	堀	服薬指導の基礎 Ia	2,23-25,39,41,48
	濱田	製剤実務	49,58
	山田 (純)	服薬指導の基礎 II	24-31
	増田 (多)・戸張	POS	28,51,60
	薬学実務実習教育センター	客観試験	1-73
	堀	処方解析 (薬局) b	10,12,13,14,18,19,52,53
	大山	薬物投与 I・II	10,53
	影山	計量計算演習	
	影山	薬剤の使用法 I	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・臨床現場で用いる実薬を実際に使用して実習を行っている。
- ・評価表を用いて学生相互ならびに教員によるチェックを行っている。実習最後に、その評価表とコメントを各自で記入してもらい、理解度の調査を行うと共に、理解不足の点について解説を加えている。講義中にクイズ形式の問題を行い、学生からの解答を基に解説を加えている。講義最後に各自の回答とコメントを記入してもらい、フィードバックを行っている。
- ・症例について PC 等持ち込み可の調査時間を設けて、学生 3 人 1 組による TBL (Team Based Learning) を行っている。
- ・症例をベースとした TBL を行っている。TBL のプロダクトは、全員が必ず発表者となるような学習方略により、リーダーシップや情報発信能力の醸成に心がけている。
- ・生体シミュレータを活用した実技試験を授業内で実施している。
- ・模擬患者さん参加のグループでの参加型実習を行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

病院・薬局実務実習に行く前の事前教育である。実務に即した講義、演習、実習、SGD など多様な内容の学習があり、必要に応じて、試験、レポート、プロダクトの作製、評価表などを活用して実務実習に必要な知識、技能、態度を修得させる。計量調剤実習については一人一台の調剤台、注射剤調剤ではクリーンベンチ内に液晶モニターの設置により、充実した実習を可能にした。また、散剤調剤台には集塵装置を設置して学生の健康面への配慮をした。更に、生体シミュレータを活用したフィジカルアセスメントやバイタルサインチェックの基本実習を導入し、今後薬剤師に求められる副作用未然防止能力の向上に資する実習を充実させた。学習内容によっては模擬患者や医療現場の薬剤師等が参画する。

〔成績評価方法〕

[形成的評価]

- 知識：授業で示した演習問題を繰り返し実施し、解説にてフィードバックする。
- 態度：実習に臨む態度で評価する。実習中に適時フィードバックする。
- パフォーマンス：口頭試問を活用して適宜習熟度を確認する。

[総括的評価]

- 知識：客観試験 (筆記試験) で評価する (90%)。
- 態度：繰り返し形成的評価を実施し改善が認められ、かつ実技試験において医療人としての基準に達していれば合格とする (10%)。
- パフォーマンス：授業内提出物、授業態度、客観試験および実技試験の結果を総合的に判断し行う。

〔教科書〕

実務実習事前学習実習書 (東京薬科大学版)
治療薬マニュアル (医学書院) または 今日の治療薬 (南江堂)

〔参考書〕

山田安彦編著 : 理論調剤学 (京都廣川書店)
日本薬剤師会編 : 第 14 改訂調剤指針増補版 (薬事日報社)
日本薬学会編 : スタンダード薬学シリーズ II7 臨床薬学 I, II, III (東京化学同人)

〔オフィスパワー〕

原則的にはいつでも可であるが、電話やメールによる事前予約が望ましい。

前期は、事前実務実習実施期間のため、18時以降のみの対応となる。

教育5号館の4階から上階の実習室および教員室は、土足厳禁です。

〔所属教室〕

各教員の居室は次の通り

薬学実務実習教育センター

教育5号館

堀 祐輔：6階 5605 教員室

国分秀也 戸張裕子：5階 5506 教員室

秋山滋男 大山勝宏 影山美穂 武井佐和子 濱田真向

別生伸太郎 増田多加子：6階 5601 教員室

臨床医療薬学センター

山田純司 大友隆之

一般用医薬品学教室

成井浩二

薬学教育推進センター

遠藤朋宏

〔準備学習（予習・復習等）〕

5年次の実務実習のための事前学習であるので、学外施設での実務実習と同様の「身だしなみ」（実習書の記載通り）で実習に臨むこと。

〔学生へのフィードバック〕

知識領域のフィードバックは、授業中の形成的評価ならびに客観試験を複数回実施することで行う。

技能・態度領域のフィードバックは、実習中の形成的評価ならびに実技試験を複数回実施することで行う。

〔教員からの一言〕

事前実務実習および実務実習は、3年生までに学んできた薬学の知識が必要です。準備学習項目に記載した関係科目については、復習しておくこと。

〔備考〕

実務家教員担当科目

実務実習事前学習Ⅱ

Preliminary Pharmacy Practice II

第4学年 後期 4年必修科目 2単位

堀 祐輔 国分 秀也 戸張 裕子 秋山 滋男 大山 勝宏 影山 美穂 武井 佐和子 別生
 伸太郎 増田 多加子 濱田 真向
 杉浦 宗敏 今井 志乃ぶ
 下枝 貞彦 平田 尚人
 山田 純司 大友 隆之
 畝崎 榮 川口 崇
 平野 俊彦 杉山 健太郎 恩田 健二 田中 祥子
 成井 浩二 富澤 明子

学習目標 (GIO) 実務実習事前学習Ⅱは、5年次の病院実務実習・薬局実務実習に先立って、前期に行った実務実習事前学習Ⅰ(事前実務実習)の効果を高めるために、修得した知識と技能・態度を駆使して患者・来局者対応から処方監査、薬剤調製、調剤薬鑑査、薬剤交付と情報の提供、服薬指導管理までの調剤全般を円滑に遂行できる能力と態度を身につける。また、TDM や処方解析、チーム医療、地域医療での薬剤師の役割等これからの薬剤師職務に関する知識・態度を総合的に修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)	F-1-2-1
2	患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)	F-1-2-2
3	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)	F-1-2-3
4	病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	F-1-3-1
5	病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	F-1-3-2
6	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	F-1-3-3
7	病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	F-1-3-4
8	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。	F-1-3-5
9	調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	F-2-1-1
10	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	F-2-2-1
11	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F-2-2-2
12	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F-2-2-3
13	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F-2-2-4
14	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	F-2-2-5
15	処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)	F-2-2-6
16	薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)	F-2-3-1
17	主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	F-2-3-2
18	処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)	F-2-3-3
19	後発医薬品選択の手順を説明できる。	F-2-3-4
20	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F-2-3-5
21	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)	F-2-3-6
22	抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)	F-2-3-7
23	処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)	F-2-3-8
24	適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)	F-2-4-1
25	妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	F-2-4-2
26	患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)	F-2-4-3
27	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)	F-2-4-4

番号	内容	コアカリとの関連コード
28	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F-2-4-5
29	患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）	F-2-4-6
30	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F-2-4-7
31	代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。（技能）	F-2-4-8
32	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F-2-5-1
33	医薬品管理の流れを概説できる。	F-2-5-2
34	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-3
35	特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-4
36	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5
37	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F-2-5-6
38	薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F-2-5-7
39	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F-2-5-8
40	処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F-2-6-1
41	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。	F-2-6-2
42	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）	F-2-6-3
43	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
44	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）	F-2-6-5
45	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
46	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7
47	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
48	患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）	F-3-1-2
49	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
50	基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）	F-3-1-4
51	薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）	F-3-2-1
52	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
53	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
54	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
55	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F-3-3-4
56	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
57	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
58	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1
59	代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報を収集または列挙できる。（知識または技能）	F-3-4-2
60	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理を立案または SOAP 形式等で記録できる。（知識または技能）	F-3-4-3
61	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
62	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
63	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。	F-4-1-3
64	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。	F-4-2-1
65	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）	F-4-2-2
66	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	F-5-1-1
67	在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	F-5-1-2
68	在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	F-5-1-3
69	地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。	F-5-2-1
70	公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。	F-5-2-2
71	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）	F-5-3-1

番号	内容	コアカリとの関連コード
72	代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）	F-5-3-2
73	代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）	F-5-3-3
74	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）	F-5-3-4
75	代表的な疾患の患者について、診断名、病態、処方薬、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	F-3-3-7
76	治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDM が有効な薬物を列挙できる。	E4-2-2-1
77	TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。	E4-2-2-2
78	薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）	E4-2-2-3
79	ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。	E4-2-2-4

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1-18	薬学実務実習教育センター 臨床薬理学 医療実務薬学 臨床医療薬学センター 一般用医薬品学教室 医薬品安全管理学教室 臨床薬剤学教室	患者・来局者対応から処方監査、薬剤調製、調剤薬鑑査、薬剤交付と情報の提供、服薬指導管理までの知識・技能・態度を総合的に修得する。	1-74
19-20	国分	TDM	76-79
21-26	臨床薬理学 医療実務薬学 臨床医療薬学センター	処方解析オリエンテーション。 薬学教育モデル・コアカリキュラムで提示されている代表的な8つの疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）に対する薬物治療において、一般的に用いられる典型例に関する処方解析。	10,28,52,58,59,60,75
27	臨床薬理学 医療実務薬学 臨床医療薬学センター	処方解析に関する試験	10,28,52,58,59,60,75

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

経験に基づいた薬剤師体験を学生の演習にフィードバックするよう心がける。
処方解析学では、様々な典型処方に関して学生各自が処方意図、薬効・副作用に関する評価方法、あるいは患者指導の要点などを調査し、それに対して教員が解説を加えることでフィードバックを行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

代表的な処方せん例を用いて受付から薬剤交付服薬指導までを一人一人が総合的に実施し、学生間で相互評価をする事で技能のみならず態度への気付を促している。また、具体的な症例や事例示すことで、考える力を養うための手法が学習できる。

処方解析学では、薬学教育モデル・コアカリキュラムで提示されている代表的8疾患に関する処方解析を行うことにより、薬物治療の総合的な理解を深めることを目的とする。本演習では、学生がこれまでに蓄積した知識を踏まえて、多くの処方箋に触れることで処方意図を的確に判断するための実践的な学習の機会とする。最後に教員による解説が加わることで学生に対して一定の到達点が明示される。こうした工夫によって学生による参加型演習授業のレベル維持に努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：授業での演習問題を繰り返し行う。
- 技能・態度：学習中に繰り返しフィードバックを行う。

2) 総括的評価

- 知識：確認試験で総合的に評価する。
- 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。

知識・技能・態度の各評価を点数化し、以下の基準により成績判定を行う。

- ・ A (80～100%) : 合格
- ・ B (65～79%) : 合格
- ・ C (55～64%) : 合格
- ・ D (55%未満) : 不合格

〔教科書〕

東京薬科大学版 実務実習事前学習実習書
演習担当者の配布資料を使用する。
処方解析学はプリントを配付する。

〔参考書〕

日本薬剤会編：第13改訂調剤指針（薬事日報社）
山田安彦編著：理論調剤学（京都廣川書店）
治療薬マニュアルなどの医薬品集

〔オフィスアワー〕

薬学実務実習教育センター：いつでも可。但し、メール等による事前予約が望ましい。教育5号館5、6階
杉浦宗敏：いつでも可。但し、メールによる事前予約が必要。医療棟3階 M304号室
下枝貞彦：火曜日以外はいつでも可。但し、メールによる事前予約が必要。医療棟2階 M207号室
平田尚人：水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要です。医療棟2階 M206号室
医療実務薬学教室：いつでも可。但し、メールによる予約が必要。DR棟3階 M302、D301号室
臨床薬理学教室：いつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療棟2階 M202、M203号室
臨床医療薬学センター：いつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療棟3階 M303、M305号室

〔所属教室〕

薬学実務実習教育センター

堀 祐輔：6階 5605 教員室

国分秀也、戸張裕子：5階 5506 教員室

秋山滋男、大山勝宏、影山美穂、武井佐和子、浜田真向、別生伸太郎、増田多加子：6階 5601 教員室

医薬品安全管理学教室

杉浦宗敏 今井志乃

臨床薬剤学教室

下枝貞彦 平田尚人

臨床医療薬学センター

山田純司 大友隆之

医療実務薬学教室

畷崎榮 川口崇

臨床薬理学教室

平野俊彦 杉山健太郎 恩田健二 田中祥子

一般用医薬品学教室

成井浩二 富澤明子

〔準備学習（予習・復習等）〕

演習および授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、テキスト（プリント）の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後には必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

〔学生へのフィードバック〕

演習中に形成的評価を実施するとともに、必要に応じて小テストなどを実施し能動的学習を促す。また提出物に対しては、コメント等学習者の振り返りとなるような方策をとり、返却する。
処方解析学では、講義の中で典型処方に関する要点をフィードバック解説する

〔教員からの一言〕

5年次の病院・薬局の実務実習を直前に控えた、前期の実務実習事前学習Ⅰ（事前実務実習）及び、疾病と薬物治療の総合学習になります。これまでの講義、実習を復習しておくこと。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療薬学特論Ⅰ 臨床で活躍する薬剤師を目指して

Topics in Clinical Pharmacist I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

馬場 広子
市田 公美
平野 俊彦
高柳 理早

学習目標 (GIO) 癌化学療法あるいは糖尿病などの専門分野で、特化した薬の知識を生かした、薬物療法の中心的担い手となる薬剤師としての素養を身につけるため、臨床で活躍する薬剤師の活動に必要な知識、技能等の基礎から臨床までを理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	循環器疾患とその薬物療法について説明できる。	E2-3-1-1～6
2	糖尿病療養指導薬剤師とその仕事について説明できる。	E2-5-1-1～3
3	ICT 薬剤師とその仕事について説明できる。	F-3-1-1～7, F-3-2-1～6
4	消化器疾患とその薬物療法について説明できる。	E2-4-2-1～9
5	がん専門薬剤師とその仕事について説明できる。	E2-7-7-1～3, E2-7-8-1～13
6	炎症性腸疾患と消化器疾患の病態及び薬物療法について説明できる。(コアカリコードは3と同様)	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平野 俊彦	ガイダンス	1～5
2, 3	西 圭史	ICT 薬剤師とその仕事について、実践内容も含めて解説する。	3
4, 5	猿田 雅之	炎症性腸疾患やその他消化器疾患の病態、および薬物療法について解説する。	6
6, 7	吉野 秀朗	循環器疾患とその薬物療法について解説する。	1
8, 9	小林 庸子	糖尿病療養指導薬剤師とその仕事について、実践内容も含めて解説する。	2
10, 11	野村 久祥	がん専門薬剤師とその仕事について、実践内容も含めて解説する。	5
12, 13	長島 文夫	消化器疾患とその薬物療法について解説する。	4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中にレポートを作成させ、講義内容をリアルタイムで考えさせる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各講義後、講義内容に関するレポートを時間内に作成し、提出してもらいます。これによって、講義内容の理解度を確認します。

〔成績評価方法〕

全講義の課題レポートにより総合的に評価する。レポート内容は、

- i) 文章構成 30 %
 - ii) レポート課題に対して的確に記述されているか 40 %
 - iii) 既定の行数に達しているか 30 %
- とする。

〔教科書〕

ハンドアウト資料等 (講義当日配布)

〔オフィスアワー〕

平野 俊彦 在室時は随時受け付けます。 医療薬学研究棟 2階 臨床薬理学教室
市田 公美 在室時は随時受け付けます。 研究2号館 6階 病態生理学教室

〔所属教室〕

馬場 広子 機能形態学教室
市田 公美 病態生理学教室
平野 俊彦 臨床薬理学教室
高柳 理早 臨床薬効解析学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

近年、癌化学療法あるいは糖尿病などの専門分野で、特化した薬の知識を生かした、薬物療法の中心的担い手となる薬剤師の出現が切望されている。本講義では、このような臨床で活躍する薬剤師の活動に必要な知識、技能などについて、医師や薬剤師など臨床現場で活躍している外来講師を招聘し、基礎から臨床までを講義する。そこで、3年生までに就学した「疾病と薬物治療」に関する教科書や教材をもう一度見直し、基本的な事項について復習しておくが良い。

〔学生へのフィードバック〕

各回講義後に、講師による質疑応答時間を設け、講義内容はもとより将来薬剤師として臨床で活躍するためのアドバイスを受けることができる。

〔教員からの一言〕

講義後外来講師に対する質問を歓迎します。積極的に質問されることを期待しています。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療薬学特論Ⅱ 医薬品開発と臨床試験

Drug Development and Clinical Studies II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

平野 俊彦 (医療薬学科)

山田 純司 (医療薬学科)

柴崎 浩美 (医療薬学科)

学習目標 医薬品開発と臨床試験（治験）に精通した薬剤師の素養を身につけるために、関連分野の現場で活躍している外来講師の講義を聴講し、もって新薬開発時に必要なⅠ～Ⅳ相試験の内容、CRCやSMOの業務と役割等について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	製薬会社の医薬品開発業務について説明できる。	E3-1-1-3～5
2	臨床試験における倫理と信頼性について概説できる。	E3-1-1-3～5, E3-1-6-1～9
3	治験におけるCRC業務およびSMOの仕事と役割について説明できる。	E3-1-1-3～5
4	皮膚科関係の治験等、治験業務の実際について概説できる。	E2-6-3-1～4, E3-1-1-3～5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1,2,3	宮崎 雅彦	治験におけるCRC業務およびSMOの仕事と役割について(株式会社 医療システム研究所)	1,2,3
4,5,6	岡宮 和弘	製薬企業における医薬品の研究開発：臨床試験における倫理と信頼性(日本たばこ産業株式会社)	1, 2
7,8	宮崎 雅彦	治験におけるCRC業務およびSMOの仕事と役割についてー皮膚科の治験の実際ー(株式会社 医療システム研究所)	1,4
9,10,11	城山 慶介	医薬品開発と臨床試験(治験関連会社の立場から)(株式会社クインタイルズ)	1,2
12,13,14	長尾 典明	製薬会社における医薬品の研究開発(鳥居薬品株式会社)	1,2
6,11,14	平野 俊彦 柴崎 浩美 山田 純司	各外来講師の講義内容に関する調査とレポート作成	1,2,3,4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義時間中にレポートを作成してもらうことにより、講義内容をリアルタイムで考えさせる。質疑応答を、講義時間中に随時受け付ける。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

医薬品開発の現場で活躍している各分野の選りすぐりの外来講師を集めました。製薬会社の新薬開発戦略や大学病院における治験業務など、医薬品開発に関する幅広いお話を聞けるとと思います。最後に、SMOの宮崎先生から実際の治験業務について、最新の情報と現場の生々しいお話を交えてまとめていただきます。各講義後、講義内容に関するレポートを時間内に提出してもらいます。これによって、講義内容の理解度を確認します。

〔成績評価方法〕

全講義の課題レポートにより総合的に評価する。レポート内容は、

- i) 文章構成 30%
- ii) レポート課題に対する的確に記述されているか 40%
- iii) 既定の行数に達しているか 30%

とする。

〔オフィスアワー〕

平野 俊彦 在室時は随時受け付けます。 臨床薬理学教室(医療薬学研究棟2階)

〔所属教室〕

平野 俊彦 臨床薬理学教室、柴崎 浩美 個別薬物治療学教室、山田 純司 臨床医療薬学センター

〔準備学習(予習・復習等)〕

3年生までに習った医薬品開発や臨床試験（第Ⅱ～Ⅴ相試験）に関する基礎事項についてざっと復習しておく、外来講師のより専門的な講義を理解しやすい。

〔学生へのフィードバック〕

講義終了後、外来講師による質疑応答時間を設け、講義内容はもとより将来のキャリアの相談なども受け付けている。

〔教員からの一言〕

臨床で活躍する薬剤師の仕事の中には、臨床試験も含まれています。また CRO や SMO への就職を希望する方にも、現場の仕事を知る貴重な講義が待っています。

医療薬学演習Ⅰ 臨床で活躍する薬剤師を目指して

Introduction to Clinical Pharmacist I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

山田 安彦 畝崎 榮 平野 俊彦 山田 純司 山口 宜秀
 高柳 理早 長谷川 弘 林 明子 片桐 文彦 大友 隆之
 藤田 恭子 中南 秀将 石橋 智子 川口 崇 木村 耕二 輪島 文明 中瀬 恵亮

学習目標 (GIO) 臨床の現場では複雑な症例も多く、それらに対応する薬物療法の中心的担い手となれる薬剤師としての素養を身につける必要がある。本演習では臨床で活躍する薬剤師に必要な知識、考え方などを学び、グループ討論や発表などの意見交換を通じて課題を解決するための能力を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	処方、症例、疾患などに関する課題において、これまでに身につけた知識を利用し問題点および疑問点・不明点を抽出できる。	A-5-1-1～5, E1-1-1-1～9, E1-2-1-1, E1-2-2-1～8, E1-3-1-1, E1-3-2-1, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E1-4-4-1, E2-1-1-1～4, E2-1-2-1～4, E2-1-3-1～14, E2-1-4-1, E2-11-1-1～3, E2-2-1-1～3, E2-2-2-1～9, E2-2-3-1～4, E2-2-4-1, E2-3-1-1～6, E2-3-2-1～5, E2-3-3-1～8, E2-3-4-1, E2-4-1-1～4, E2-4-2-1～9, E2-4-3-1, E2-5-1-1～3, E2-5-2-1～5, E2-5-3-1, E2-6-1-1～4, E2-6-2-1～2, E2-6-3-1～4, E2-6-4-1, E2-7-1-1～2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1～10, E2-7-4-1～6, E2-7-5-1～2, E2-7-6-1～2, E2-7-7-1～3, E2-7-8-1～13, E2-7-9-1～2, E2-8-1-1～3, E2-8-2-1, E2-8-3-1～4
2	1で抽出した点を重要度により分類・整理し、解決に向けた優先順位を付けることができる。	A-5-1-1～5
3	2の優先順位に従い、関連する情報を調査できる。	A-5-1-1～5
4	3で調査した内容をもとに課題を解決するための自分の意見および考えをまとめることができる。	A-5-1-1～5
5	1～4の内容をグループ内で討論し、調査内容や意見・考えを教え合いながら知識を広げることができる。	A-3-1-1～9
6	5を通じて、グループとして問題解決案をまとめることができる。	A-3-1-1～9
7	薬剤師としての立場とともに他職種ならびに患者の立場に立って意見を考えることができる。	A-3-2-1～2, A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1, A-5-1-1～5, A-5-2-1～2, A-5-3-1～2, A-5-4-1～2
8	グループ内およびグループ間の発表を通じて意見交換し、異なる意見を含む様々な意見に対して柔軟に対応できる	A-3-1-1～9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	全担当者	演習の進め方に関する説明とグループ分け、課題からの問題点の抽出および優先順位付け	1
2～10	"	抽出した問題点についての調査、調査項目に関するグループ討論、グループ間発表の準備	2-8
11～13	"	課題に関するグループ間発表と討論、教員からのフィードバック	6-8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・各回に学生同士が調査内容および発表資料について十分に討議する時間を設けている。
- ・発表会と質疑応答を行っている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

課題に関してあらかじめ各自が調査を行い考えや意見をまとめる時間を与えることで思考力を養い、その後のグループ内討論およびグループ間発表を通じて判断力や表現力を養うことができるようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：SGD・調査を通して評価。
- b) 態度：SGD・調査を通して評価。
- c) 技能：SGD・調査を通して評価。
- d) パフォーマンス：課題の調査・討論における到達度を自己評価・相互評価させている。

2) 総括的評価

- a) 知識：発表および、プロダクト。(30%)
- b) 態度：SGD・調査を通して評価。(20%)
- c) 技能：SGD・調査を通して評価。(20%)
- d) パフォーマンス：到達度に関する評価表と感想レポートを提出する。(30%)

〔オフィスアワー〕

各担当者が個別に定める。

〔所属教室〕

医療薬学科の教室の教員 病原微生物学教室、臨床薬効解析学教室、臨床医療薬学センター、臨床薬理学教室、病態生理学教室、機能形態学教室、医療実務薬学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

近年、医療における種々の専門分野で特化した薬の知識を生かした、薬物療法の中心的担い手となれる薬剤師が切望されている。本演習のねらいは、このような臨床で活躍する薬剤師の活動に関する種々の課題を設定し、それに関する調査・討論を通じて医療薬学科学生の臨床への意識を高めることにある。3年生までに修得した「疾病と薬物治療」に関する基本的事項について、ざっと復習しておくことをお勧めします。

〔学生へのフィードバック〕

グループ内討論後の段階および演習最終日のグループ間での発表・討論を行った後で教員がフィードバックを行う。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療薬学演習Ⅱ 医薬品開発と臨床試験

Drug Developments and Clinical Studies II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

平野 俊彦 杉山 健太郎 恩田 健二 田中 祥子

小倉 健一郎 西山 貴仁

土橋 朗 倉田 香織 山田 寛尚

降幡 知巳 柴崎 浩美 横川 彰朋

学習目標 医薬品開発と臨床試験（治験）に精通した薬剤師としての素養を身につけるために、演習を通じ新薬開発時（GIO）に必要な第Ⅰ～Ⅳ相試験の内容、薬物動態学、構造活性相関、薬物相互作用、および有害事象等について理解する。

行動目標（SBOs）

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医薬品開発と臨床試験（治験）に関連した課題について調査し、その内容を纏める。	A-1-2-5, A-1-3-6～7, A-5-1-1～5, E1-1-1-6, E1-1-1-8, E3-1-1-3～4, E3-1-3-1
2	1で調査した項目について、5～6名のグループの中で意見を述べ、討論できる。	A-3-1-5～9, A-5-1-1～2
3	1で調査した項目について、グループとしての意見をまとめ、発表用スライドを作成できる。	A-3-1-5～9, A-5-1-1～2
4	1で調査した項目について発表し、それに関するグループとしての意見を述べることができる。	A-3-1-5～9, A-5-1-3～4
5	他のグループの発表を聴講し、それに対して質問し、または自分の意見を述べる。	A-3-1-5～9, A-5-1-3～4

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	小倉 健一郎 他	演習の進め方に関する説明と課題に基づくグループ分け、および課題の調査	1, 2
2～10	全担当者	課題の調査、調査項目に関するグループ討論、発表用スライドと原稿の作成	2～5
11～13	全担当者	調査項目の発表と全体討論	4, 5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・各演習日ごとに調査活動レポートを提出させている。
- ・各回に学生同士が調査内容および発表資料について十分に討議する時間を設けている。
- ・発表会を行っている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

調査発表会やその準備中において質問の考え方や対応について演習し、もって討論や発表の参考とする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：中間チェック、最終チェックを行う。SGD・調査を通して評価。
- 態度：SGD・調査を通して評価。
- 技能：SGD・調査を通して評価。
- パフォーマンス：プレゼンテーション能力の到達度を中間発表を通じて評価する。

2) 総括的評価

- 知識：発表および、プロダクト（10%）。
- 態度：演習に臨む態度（50%）およびSGD・調査（20%）を通して評価。
- 技能：SGD・調査を通して評価し、達していれば合点とする。
- パフォーマンス：プレゼンテーション能力の到達度を発表会ならびにその感想レポート（20%）を通じて相互評価する。

〔オフィスアワー〕

全担当者が個別に定める。
平野俊彦 在室中は随時。
小倉健一郎 在室中は随時。

土橋 朗 在室中は随時。
降幡 知巳 在室中は随時。

〔所属教室〕

平野俊彦 臨床薬理学教室 医療薬学研究棟 2階
杉山 健太郎 臨床薬理学教室 医療薬学研究棟 2階
恩田 健二 臨床薬理学教室 医療薬学研究棟 2階
田中 祥子 臨床薬理学教室 医療薬学研究棟 2階
小倉健一郎 薬物代謝安全性学教室 研究1号館 4階
西山 貴仁 薬物代謝安全性学教室 研究1号館 4階
土橋 朗 情報教育研究センター DR棟 4階
倉田 香織 情報教育研究センター DR棟 4階
山田 寛尚 情報教育研究センター DR棟 4階
降幡 知巳 個別薬物治療学教室 医療薬学研究棟 2階
柴崎 浩美 個別薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1階
横川 彰朋 個別薬物治療学教室 医療薬学研究棟 1階

〔準備学習（予習・復習等）〕

薬剤部業務の一環として、医薬品開発と臨床試験に関する知識をもつことは重要である。本演習のねらいは、医薬品開発における課題や問題点に関する調査・討論、および大学病院薬剤部で活躍する外来講師の話を通じ、医療薬学科学生に治験業務への関心と理解を深めてもらうことにある。

〔学生へのフィードバック〕

演習最終日に、各グループの全体発表会及び質疑応答を行った後、教員がそれぞれの発表に対して総評し、フィードバックする。

〔教員からの一言〕

本演習では、医薬品開発と臨床試験に関する幅広いテーマの中から、グループごとに自由に調査テーマを選択し、自分たちの意見も交えて調査・討論内容を発表してもらう。今後の薬剤師業務や薬業界の諸問題について、じっくりと考え取り組む姿勢を養っていただきたい。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療薬物薬学特論Ⅰ 創薬概論

Topics in Clinical Applied Pharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

野水 基義 田野中浩一 高木 教夫 松本 隆司 宮岡 宏明
 一柳 幸生 柳田 顕郎 三浦 剛 益山 光一 櫻井 浩子 高島 由季 猪越 英明

学習目標 (GIO) 広範な研究領域を包含し、急速な進展を遂げている創薬科学について医療薬物薬学科所属教室が分担して解説する。授業担当者のこれまでの研究や周辺領域の話題、自身の研究が関連する創薬科学の最新情報などを取り上げ、研究の面白さを盛り込んで種々の創薬領域について紹介する。この授業で創薬科学に触れることにより、将来創薬方面に進むにあたっては多様な研究・技術の領域があることを理解し、また医療方面に進むにあたっては臨床におけるニーズを創薬現場に的確に情報発信できる知識の習得を目指している。さらに、5年次には実務実習が必修科目であり、医療現場で患者に接しながら薬について学ぶなかで、医療現場からの創薬へのニーズについて理解できることを目標としている。

講義を通して、問題意識の提示・解決法について、プレゼンテーション、レポート提出などを通して習得させる。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	遺伝子機能に基づく創薬について概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, E2-8-1-1~3
2	創薬における規制の役割及び創薬に関するニーズへの対応を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, B-2-2-1~11
3	新生児医療における未承認薬の現状、薬剤師の役割について概説できる。	A-2-1-1~3, A-2-4-1~2, A-5-1-1, A-5-3-1
4	創薬における有機合成の役割を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, C4-3-3-1~3
5	伝統医学に基づく生薬製剤の応用を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, E2-10-1-1~2, E2-10-2-1
6	海洋生物由来の医薬品を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, C5-2-4-1~3
7	創薬における薬理評価の役割を概説できる。	A-2-3-1~3, A-5-1-1, A-5-3-1
8	創薬における分析化学の役割を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, C2-6-2-1~5
9	新薬創製における薬剤学、製剤設計学の役割を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, E5-2-1-1~6
10	天然物からの医薬品開発の経緯を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, C5-2-1-1~5
11	創薬におけるメディシナルおよびプロセスケミストリーの役割を概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, C4-1-1-1~2, C4-2-4-1~2
12	タンパク・ペプチド性医薬の創製について概説できる。	A-5-1-1, A-5-3-1, E2-8-1-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	学科長	創薬概論ガイダンス	
2	高木	ゲノムとゲノム創薬の薬理評価	1
3	益山	医薬品開発に関する規制とその対応の現状	2
4	櫻井	新生児医療と医薬品	3
5	松本	有機合成化学と創薬	4
6	猪越	中医学における生薬製剤 (中成薬) について	5
7	宮岡	海洋生物からの医薬品の開発	6
8	田野中	循環薬理学系の評価について	7
9	柳田	創薬を支える分析科学の最前線	8
10	高島	創薬最前線：探索研究段階における化合物の物性と製剤学の役割	9
11	一柳	天然資源からの創薬：高等植物からの抗がん薬の開発	10
12	三浦	医薬品の創製と開発のプロセス	11
13	野水	タンパク・ペプチド性医薬について	12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義の後に各自の発展学習を求める。所属する卒論教室での課題研究の発展および自己の進路について考える機会を提供している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

本講義は医療薬物薬学独自のカリキュラムであり、医療および薬学の進歩発展に寄与するため、各教員がもつ高度で、かつ最新の研究内容とその背景を概説することによって時代に即応した医療人教育を推し進めるよう努力している。また、学生と講師陣との総合討論の場を設け、本学科教員が創薬研究を通じて時代に即応した医療人教育を推し進めていることを学生に理解してもらい、なおかつ医療の中での創薬について幅広くその考えを共有し、学生の知識・技能・態度に価値ある変化を生み出せるよう努力している。

〔成績評価方法〕

形成的評価

知識： 講義内に学生に質問し、その反応を見てフィードバックする。担当者の判断で、理解度が十分でないと思われる場合は、講義形式の解説も実施される。

態度： 講義の受講態度および質問等への対応で評価する。

総括的評価

技能： 演習課題の提出、プレゼンテーション等を総合的に評価する（100％）。

態度： 出欠を含めた受講態度を評価する。

〔教科書〕

特に指定しない。

〔参考書〕

講義担当者による資料配布等あり。

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可（野水または講義担当者に事前に連絡）

〔所属教室〕

高木 教夫（応用生化学教室）
田野中浩一（分子細胞病態薬理学教室）
野水 基義（病態生化学教室）
松本 隆司（薬品製造学教室）
三浦 剛（薬化学教室）
一柳 幸生（天然医薬品化学講座）
宮岡 宏明（生物分子有機化学講座）
柳田 顕郎（薬物生体分析学教室）
益山 光一（薬事関係法規研究室）
櫻井 浩子（生命・医療倫理学研究室）
高島 由季（製剤設計学教室）
猪越 英明（中国医学研究室）

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義の内容の一部は5年次の実務実習での先端医療に関する内容を含むので、各自の復習を要求する。復習を進めるために、講義で講義用資料などを提供する、あるいは講義の時に復すべき内容を提示するという対応を取る。なお、講義に関する予習は要求しない。

〔学生へのフィードバック〕

講義の最後に総合討論会が開催され、そこで講義に関するフィードバックが行われる。その他に、発展学習の中で不明な点が生じた場合には、講義担当者への質問という形でのフィードバックを行う。

〔備考〕

実務家教員担当科目。本講義は医療薬物薬学独自のカリキュラムであり、モデル・コアカリキュラムを基本とした画一的教育の範疇を超越したオリジナル性の高いものである。本講義は学生自身の独自性や将来構想を築くための広範な情報・知識を、担当講師の幅広い経験と知識を中心に提供するものである。

医療薬物薬学特論Ⅱ データ解析集中講座

Topics in Clinical Applied Pharmacy II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

磯崎 充宏 (ファイザー R&D 株式会社)

中村 一郎 (アステラス製薬株式会社)

柳田 顕郎

学習目標 (GIO) 医薬品の開発は候補化合物の発見から始まり、その後、製剤化試験、動物試験を経て、治験といわれる臨床試験に適用され、国による審査・承認を経て医薬品として市場に出て行く。その後、多くの医療機関で使用されている医薬品の安全性と副作用に関する情報の収集・調査が実施される。このような一連の医薬品開発において、膨大な量の情報が集められる。本特論では、1) 候補化合物の薬理学的評価、2) 臨床開発 (治験から申請) 3) 臨床使用調査 (市販後調査) のデータ解析について実例を用いて解説し、論理的展開についての基礎的理解を習得することを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医薬品開発の流れを概説できる。	B-2-2-2, G-1-1-1
2	臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	B-2-2-3, E3-1-1-3
3	医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。	E3-1-1-1~5
4	市販後調査の制度とその意義について説明できる。	E3-1-1-4
5	代表的な薬害の例について、その原因と社会的背景を説明できる。	E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E1-4-4-1
6	医薬品創製における治験の役割を説明できる。	E3-1-1-3, E3-1-6-1
7	治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。	E3-1-1-3, E3-1-6-1
8	帰無仮説と対立仮説について説明できる。	E3-1-5-2
9	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。	E3-1-5-4
10	主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U 検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。	E3-1-5-5
11	χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。	E3-1-5-5
12	最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。	E3-1-5-6
13	主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett 検定、Tukey 検定など) の概要を説明できる。	E3-1-5-1~7
14	主な多変量解析の概要を説明できる。	E3-1-5-1~7
15	臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。	E3-1-4-2
16	バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。	E3-1-6-2
17	バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。	E3-1-6-6
18	リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。	E3-1-6-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	柳田	講義のガイダンス、イントロダクション	
2	磯崎	医薬品開発のプロセス概要	1, 3
3	"	臨床疫学の基礎	2, 6, 7
4	"	臨床研究のデザイン	15
5	磯崎	生物統計の基礎 (1)	8, 9, 10
6	"	生物統計の基礎 (2)	11, 12, 13
7	"	生物統計の基礎 (3) とまとめ	14
8	磯崎	臨床試験 (1) : 概要とその意義	15
9	"	臨床試験 (2) : 生物統計の基礎と実施例	16, 17, 18
10	"	臨床試験 (3) : 生物統計の基礎と実施例	16, 17, 18
11	中村	薬害の事例と背景	5

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
12	"	市販後調査(1): 制度とその意義、ならびに実施例	4
13	"	市販後調査(2): 大規模試験と国際共同試験	4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

本特論では、学修者にさまざまな問題を提起し、その問題を次回の講義までに解決、調査するように指示している。また、講義時間内においては、1) 頻繁な質疑応答や、2) ノートPCとインターネットの積極的な活用、などの工夫により、講義担当者と学習者間の「双方向での意見交換」を重視することにより、講義時間中においても学習者が能動的な学習態度を維持できるよう工夫している。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本特論講義は生物統計の基礎をベースに論理的思考の展開の習熟を目的としているが、内容については臨床への応用のアップデートな実例を盛り込んで解説する。本講義の磯崎・中村両講師は、企業におけるそれぞれの分野の実務・実践担当者であり、理論を実例で示すことにより受講生の理解度の向上を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:(講義時間中に)口頭試問、グループ討議、練習問題の出題・解答・説明を適宜繰り返し、理解度を確認しながら講義を進めている。

2) 総括的評価

a) 知識:(講義日毎の)提出課題とレポートを採点・評価する(磯崎講義分25%×3+中村講義分25%=100%)

〔教科書〕

特になし。

講義担当者による毎回のプリント資料の配布あり。

〔参考書〕

参考図書(磯崎講義分):「一目でわかる医科統計学」第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル

〔オフィスアワー〕

磯崎・中村両講師への連絡方法(メールアドレス等)は、初回の講義の際に提示されるので、講義期間中の質問等はそちらへ直接連絡して下さい。

なお、講義全般に関する質問や、講師と直接連絡できない場合は、下記へ連絡下さい。

柳田顕郎: 生体分析化学教室(研究2号館4階405) yanagida@toyaku.ac.jp

〔所属教室〕

講義取り纏め: 柳田顕郎

生体分析化学教室(研究2号館4階405) yanagida@toyaku.ac.jp

〔準備学習(予習・復習等)〕

各講師の初回授業前の予習は特に必要ないが、基本的には、その日の講義の復習が次回の講義の予習を兼ねているので、必ず復習を行うこと。また講義後に課題が提示された場合は、次回講義前(もしくは指定日時)までに必ず課題を提出すること。

〔学生へのフィードバック〕

講義中の質疑応答で、理解度が低い項目について再度解説することでフィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

統計は、医薬品開発研究者だけでなく、医療従事者としての病院や薬局薬剤師の職務においても「必須の知識および技能」です。

統計の基礎のみならず、製薬会社における治験や製品の実話に基づく応用事例をふんだんに含む講義内容ですのでご期待下さい。

医療薬物薬学演習Ⅰ 医薬品創製と基礎（物理系・化学系）

Seminar in Clinical Applied Pharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

柳田 顕郎 東海林 敦 森岡 和大
 平島 真一 中島 康介
 一柳 幸生 蓮田 知代
 宮岡 宏明 釜池 和大
 松本 隆司 矢内 光

学習目標 (GIO) 医薬品創製は、有機化学、物理化学、生物化学を含めた極めて幅広いサイエンスを基盤として成り立っている。すなわち、独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成化学、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学などに関する知識の習得と実践の応用が必要である。本演習では、物理系薬学、化学系薬学の基礎をしっかりと築き上げ、医薬品創製に関する知識と態度を習得する。それぞれの分野での演習課題を提示し、それについて調査、まとめを行って発表する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	溶液中における各種の化学平衡反応の基本的事項について説明・計算できる。	C2-2-1-1~4, C2-2-2-1~4
2	化学物質の定性分析や定量分析の基本事項について説明・計算できる。	C2-3-1-1~2, C2-3-2-1~7
3	機器分析法、特に分光分析法や分離分析法の種類を列挙し、それぞれの原理や応用について説明できる。	C2-4-1-1~6, C2-5-1-1~5, C2-5-2-1
4	臨床現場で用いる代表的な分析技術を列挙・説明できる。	C2-6-1-1~2, C2-6-2-1~5
5	NMR スペクトルの概要と解析法を説明できる。	C2-4-2-1, C3-4-1-1~5
6	IR スペクトルの概要と解析法を説明できる。	C3-4-2-1~2
7	マスペクトルの概要と解析法を説明できる。	C2-4-3-1, C3-4-3-1~4
8	代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。	C3-4-4-1
9	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
10	基本的な有機化合物を IUPAC の規則に従って命名することができる。	C3-1-1-1
11	有機化合物の立体異性体について、例を挙げ説明できる。	C3-1-2-1~6
12	Fischer 投影式と Newman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	C3-1-2-7
13	アルケン、アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	C3-2-2-1~3
14	芳香族化合物の代表的な反応を列挙し、説明できる。	C3-2-3-1~5
15	求核置換反応、脱離反応の機構について、立体化学を含めて説明できる。	C3-3-2-1~3
16	アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、カルボン酸誘導体の性質と代表的な反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-1~2, C3-3-4-1~3
17	代表的な生薬の基原、特色、確認試験、および天然生物活性物質の構造、作用などについて説明できる。	C5-1-1-1, C5-1-2-1, C5-1-3-1~2, C5-1-4-4, C5-2-1-1~5

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	宮岡 釜池	本演習の概要説明 芳香族化合物の反応	14
2	"	求核置換反応、脱離反応	15
3	"	アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、カルボン酸誘導体の反応	16
4	平島 中島	有機化合物の命名法	9, 10
5	"	立体異性体	11, 12
6	"	アルケン、アルキンの反応	13
7	松本 矢内	標的化合物の合成- 1	11~16

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
8	"	標的化合物の合成- 2	11 ~ 16
9	"	標的化合物の合成- 3	11 ~ 16
10	一柳 蓮田	NMR スペクトル、IR スペクトル、マススペクトル	5, 6, 7
11	"	基本的な化合物の構造決定	8
12	"	生薬と天然医薬品	17
13	柳田 東海林 森岡	溶液中の化学平衡反応など	1
14	"	容量分析法など	2
15	"	分光分析法、分離分析法、臨床分析法など	3, 4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- 1) 演習問題を解答させる。
- 2) 学生同士が討議する時間を設けている。
- 3) 演習問題の答えを解説付きで発表させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

毎回、演習プリントを配布し解答させるとともに、演習問題に対するグループ討議や発表を行い、基礎知識の総合的な理解の向上を図っている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：演習問題を解くことで基本知識を学ぶとともに、知識の到達レベルを確認させる。
 - b) 技能：解答できなかった演習問題を各グループで解決させる。
 - c) 態度：毎回の出席状況、SGD に取り組む姿勢や発表態度についてフィードバックしている。
 - d) パフォーマンス評価：演習問題の解説書を作成させ、相互評価させている。
 - 2) 総括的評価
 - a) 知識：出席点と提出物を評価する。
 - b) 技能：演習問題の解説を発表させ、評価する。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で向上すれば合点とする。
 - d) パフォーマンス評価：計 5 日間分の演習問題の解答・解説書を作成させ、提出させている。
- 計 5 日間の演習内容について、毎回上記の総括的評価 (各回 20% ずつの均等評価) を行い、計 5 日間分の総合評価 (20% × 5 = 100%) で成績判定を行う。

〔教科書〕

毎回プリントを配付する。

〔参考書〕

各回の講義内容に合わせて、1-3 学年で使用した分析化学、物理化学、有機化学、生薬学、機器スペクトルの教科書や演習書を持参すること。

〔オフィスアワー〕

柳田・東海林・森岡 いつでも可。
 平島・中島 いつでも可。
 一柳・蓮田 いつでも可。
 宮岡・釜池 いつでも可。なるべくメールにて予約してください。
 松本・矢内 いつでも可。なるべくメールにて予約してください。

〔所属教室〕

柳田・東海林・森岡 生体分析化学教室 研究 2 号館 405 室
 平島・中島 薬化学教室 研究 2 号館 306 室
 一柳・蓮田 天然医薬品化学講座 研究 1 号館 201 室
 宮岡・釜池 生物分子有機化学講座 研究 2 号館 205 室
 松本・矢内 薬品製造学教室 研究 2 号館 304 室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

1 年から 3 年次の学部での講義の復習のみならず、アドバンスした内容を加えて演習している。特に、演習後に不明な点を自ら見つけ出し、復習するように指導している。

〔学生へのフィードバック〕

演習課題の発表時に、その内容、理解度をチェックし、それに応じて学生全体に補足等を行う。

医療薬物薬学演習Ⅱ 医薬品創製と基礎（生物系・医療薬学系）

Seminar in Clinical Applied Pharmacy II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

田野中 浩一 野水 基義 高木 教夫 吉川 大和 櫻井 浩子 高島 由季 林 秀樹 丸ノ内 徹郎

学習目標 (GIO) 独創的な新しい医薬品を創製するには、ゲノム科学をはじめ、分子生物学、有機合成化学、薬理学、毒性学、薬物動態学、製剤学、情報科学など、有機化学、物理化学、生物化学分野にわたる幅広いサイエンスに関する知識の習得と実践的应用が必要である。本演習では、生物系薬学、医療系薬学の基礎をしっかりと築き上げ、医薬品創製に関する知識と態度を習得する。具体的にはそれぞれの分野での演習課題を提示し、それについて調査、まとめを行って発表する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	中枢神経系の構造、神経伝達物質とその受容体を含めた脳機能および代表的な中枢神経疾患の病態を説明できる。	C7-1-4-1, C7-2-1-1~4, E2-1-3-1~14
2	中枢神経疾患・精神疾患の代表的な治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-1-3-1~14, E2-1-4-1
3	体内における糖質、アミノ酸、脂質の構造・機能、酵素の性質と役割について説明できる。	C4-1-1-1, C6-3-1-1
4	糖質、脂質およびアミノ酸の代謝異常と病態発症との関連性について説明できる。	C6-5-2-1~5, C6-5-3-1~2, C6-5-4-1~2, C6-5-5-1~3
5	核酸の構造、代謝について説明できる。	C4-3-4-1, C6-2-5-1
6	遺伝子発現、生体の代謝の総合的調節ならびに情報伝達について説明できる。	C6-4-1-1~2, C6-4-2-1~3, C6-4-6-1~2
7	物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。	E5-1-1-1~5, E5-1-2-1~2
8	物質の溶解とその速度について説明できる。	E5-1-3-1~4
9	溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。	E5-1-4-1~3
10	細胞の構造、機能および組織構築について説明できる。	C6-1-1-1~2, C6-1-2-1
11	タンパク質、糖質および脂質の分子構造について説明できる。	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-4-1
12	代表的なアミノ酸、タンパク質、糖質および脂質を列挙し、基本的性質を説明できる。	C6-3-1-1, C6-3-2-1~2
13	遺伝、進化、発生、分化について説明できる。	C7-1-1-1~3, C7-1-2-1~2
14	心臓および血管の構造・生理機能、細胞内情報伝達を含めた心機能および代表的な循環器疾患の病態を説明できる。	C7-1-7-1~2, E3-3-3-3
15	循環器疾患の代表的な治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	E2-3-1-4, E3-3-3-3
16	診療と研究の区別について説明できる。	A-2-1-1, A-2-2-1~2, A-2-4-1~2
17	被験者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A-2-3-3
18	臨床研究における被験者保護について説明できる。	A-2-4-1~3, E3-1-4-2~3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	高木・林(秀)	脳機能・中枢神経疾患治療薬 生体成分の構造・機能 生体成分の代謝、遺伝子疾患	1~6
4~6	高島	溶解と溶液の性質	7~9
7~9	野水・吉川	細胞の構造・機能と創薬 タンパク質と創薬 発生・再生と創薬	10~13
10~12	田野中・丸ノ内	生体の循環調節 循環器疾患 循環器疾患治療薬	14~15
13~15	櫻井	診療と治験、被験者保護、インフォームドコンセント	16~18

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各 SBO について、理解が不十分な箇所の調査を行う。調査結果の発表あるいは演習でのレポート作成を行い、担当者はその内容をチェックし、フィードバック等に対応する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

キーワードを示し、目標を明確にし、レポートの提出あるいはチェックテストを実施して進捗状況を確認している。

〔成績評価方法〕

形成的評価

知識： 講義内に学生に質問し、その反応を見てフィードバックする。担当者の判断で、理解度が十分でないと思われる場合は、講義形式の解説も実施される。

総括的評価

技能： 演習課題の提出、プレゼンテーション等で評価する（100%）。

各教員の評価を総合して成績評価を行う。なお、出席不良者には単位を認定しない。

〔オフィスアワー〕

学部実習および大学院講義の時間帯を除き、いつでも可とする（但し、要予約）

〔所属教室〕

応用生化学教室、分子細胞病態薬理学教室、病態生化学教室、製剤設計学教室、生命・医療倫理学研究室

〔準備学習（予習・復習等）〕

1 から 3 年次の学部での講義の復習に、アドバンスした内容を加えて講義している。特に講義後に不明な点を自ら見つけ出し、復習するように指導している。

〔学生へのフィードバック〕

学生からの質問に応える形でのフィードバックを行う。講義の中で、確認試験などを行うことにより、理解度が十分ではないと教員が判断した場合、その解説が追加される。

〔教員からの一言〕

今までの学部講義の復習にもなることです。生物系講義での理解が足りない点を進んで復習してください。

〔備考〕

A2 (薬剤師に求められる倫理観)、C4 (医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質)、C6 (細胞の構造と機能)、C7 (人体の成り立ちと生体機能の調節)、E2 (薬理・病態・薬物治療)、E5 (製剤化のサイエンス) について発展的な学習を行う。

医療衛生薬学特論Ⅰ 薬剤師の職能と自己将来展望

Topics in Clinical Biopharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

佐藤 隆、安達 禎之、藤野 智史、高橋 勉、吉江 幹浩、遠藤 朋宏

学習目標 (GIO) 医療衛生薬学科の学生は、その理念から研究、医療、保健・衛生、行政、食品、化粧品分野など多様な職業分野において活躍が期待される。6年制教育の中で自分が希望する将来の進路を考える機会を与え、その具現化に向けた方略とモチベーションを得るために、各分野で活躍の卒業生を中心とした講師の方々の講演を通じて、その分野の現状と将来展望、必要とされる知識、技能、態度、準備期間などを知り、各自必要な情報を収集し、「進路活動プラン」を立案する。また、実際に進路活動において想定される「適性検査」、「自己PR作成」、「面接」などを模擬体験して、現時点における希望進路への準備到達度を把握する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	職業分野ごとの情報をインターネットや情報誌などから収集し、纏めることができる。	E3-1-1-1, X-8-1-7
2	職業分野ごとに求められる知識、技能、態度について概説できる。	E3-1-1-2, E3-1-1-4~5, F-1-1-1~2
3	「自己PR(長所・短所などを含む)」を纏めることができる。	F-1-1-1~2, X-9-1-2, X-9-3-3
4	進路希望について、自分の考えを口頭で説明することができる。	A-5-1-1, X-9-1-2, X-9-3-3
5	医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	F-1-1-1
6	医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	F-1-1-1
7	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	A-5-3-1~2
8	薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政など)について討議する。	A-1-2-2
9	薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	A-4-3-1, F-4-1-1~2
10	医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	A-1-2-3
11	医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	A-1-2-5
12	疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	A-1-2-6
13	医薬品シーズ探索から非臨床試験、臨床試験、承認許可までの新薬創製過程を見出し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	E3-1-1-2~3
14	体験した業務を基にして、理想とする企業勤務者の姿について討議する。(態度)	F-1-1-1
15	短い日本語を英文に直すことができる。(知識・技能)	X-3-2-3~4
16	自己紹介を英語で書くことができる。(知識・技能)	X-3-2-1
17	英語による簡単な会話での質疑応答ができる。(知識・技能)	X-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~3	佐藤、安達、藤野、高橋、吉江、遠藤	授業概要説明、職業分野別講演事前準備: 医薬業界研究(グループワーク)、適性試験の実施	1,2,5-13
4~8	"	職業分野別講演事前準備: 医薬業界研究(グループワーク)、質問項目の作成、提出 職業分野別講演: 外部講師による講演、質疑応答(講演後の感想文の作成・提出)、「自己PR」の作成、提出	1-3,5-13,15,16
9~12	"	職業分野別講演復習: 医薬業界研究(グループワークおよびプレゼンテーション)	1,2,5-13
13~15	医療衛生薬学科教員	模擬面接(一部医薬品情報提供ロールプレイ) 授業感想の作成・提出	4,14,17

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. 学生は、「自己PR」を作成し、提出する。
2. 学生は、外部講師による講演において事前調査事項および感想文を作成し、提出する。
3. 学生は、医薬業界について研究し、医薬業界の将来像についてグループワーク、およびプレゼンテーションを行う。

4. 学生は、適性試験（SPI2 および社会人基礎力診断）を受験する。
5. 学生は、模擬グループ面接を受ける（学生は英語による自己紹介を行う）。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

1. 医療人として活躍するための自分の進路を考えさせる場を、4年次カリキュラムの中に取り入れている。
2. 外部講師を招いての講演および事前質問事項の準備を通じて、多岐な職業分野の情報収集および整理、選択、さらに自己PR能力を養えるような工夫をしている。
3. 適性検査や模擬面接の実施により、自己適性能力および面接力の把握ができるようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：講演、SGD を通して修得した知識を感想（レポート形式）にて纏めてポートフォリオを作成する。
- b) 技能：学生が作成した活動プランや自己PRを通してそれらの実践的な書き方についてこまめにフィードバックする。また、能力適性検査（SPI2、社会人基礎力診断）の活用方法を修得する。
- c) 態度：毎回の個別出席確認によりこまめにフィードバックする。また、能力適性検査により自己能力適性を認識する。
- d) パフォーマンス：「自己PR」や「講演感想文」を作成させ、提出させる。

2) 総括的評価

- a) 知識：自己PR票に基づく模擬面接評価、グループワークプレゼン評価によって総合的に評価する（10%）。
- b) 技能：ポートフォリオの提出により評価する（70%）。
- c) 態度：受講態度および模擬面接により評価する（10%）。
- d) パフォーマンス：ポートフォリオを作成させ、提出させる（10%）。

〔教科書〕

配布プリント

〔参考書〕

最速マスター SPI3 & Web テスト（日経 HR 就職シリーズ）
エントリーシート対策（日経 HR 就職シリーズ）
面接・グループディスカッション対策（日経 HR 就職シリーズ）
時事 & 一般常識の完璧対策（日経 HR 就職シリーズ）

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可。ただし、要事前連絡。

〔所属教室〕

佐藤 生化学教室
安達 免疫学教室
高橋 公衆衛生学教室
吉江 薬理学教室
藤野 衛生化学教室
遠藤 薬学教育推進センター

〔準備学習（予習・復習等）〕

各自が作成したポートフォリオに管理している配布資料や作成したレポート等を見直すことが、自己のキャリアデザインの予習・復習にもなります。

〔学生へのフィードバック〕

各回に学生が作成したプロダクト（医薬業界将来像等）を担当教員が確認し、改善点などをコメントする。適性試験および社会人基礎力診断の分析結果（個人票）により、客観的評価をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

大学生生活の折り返し地点。医薬業界の将来像を思い描きながら、自分の将来（就職、進学）について考えてみよう。

医療衛生薬学特論Ⅱ 先端化粧品科学（産学連携教育プログラム）

Topics in Clinical Biopharmacy II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

佐藤 隆

平尾 直靖（資生堂グローバルイノベーションセンター）

山下 豊信（資生堂グローバルイノベーションセンター）

原 英二郎（資生堂グローバルイノベーションセンター）

学習目標 (GIO) 化粧品（医薬部外品を含む）は、健康人の日常生活と深くかかわりあい、様々な目的に使用されている。本講義では、化粧品の科学的理解を深めることを目的に化粧品関連の研究および開発事例を解説する。また、化粧品科学の基礎となっている領域の多様性と実際の研究開発の理解促進も図る。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化粧品の本質を理解する（定義および科学的理解の確認）	B-2-2-1, D2-1-4-4, E5-1-3-1
2	皮膚の構造と基本機能、細胞と機能を理解する	C7-1-6-1, C8-1-1-1, D2-1-4-4, X-6-2-1
3	化粧品を支える技術要素の多様性を理解する	C7-1-6-1, C8-1-1-1
4	化粧品と薬学との関わりについての理解を深める	A-5-1-2, B-2-2-1, D2-1-4-4, E5-1-3-1
5	化粧品の研究開発の実際とその過程を事例を通して理解する	A-5-1-2, C7-1-6-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	平尾	化粧の心理科学 1：スキンケアの心身への作用とふれあいの大切さ	1、3、5
2	平尾	化粧の心理科学 2：生理心理学的研究手法ときれいであることの意味	1、3、5
3	平尾	化粧の心理科学 3：肌と心のつながりと医薬品と化粧品の違い	1、3、5
4	山下	皮膚科学と化粧品研究 1：皮膚の構造と機能	2
5	山下	皮膚科学と化粧品研究 2：紫外線が皮膚に及ぼす影響と紫外線ケア商品の開発	1、2、5
6	山下	皮膚科学と化粧品研究 3：老化と皮膚トラブルならびに化粧品による対応	1~5
7	山下	皮膚科学と化粧品研究 4：化粧品と医薬部外品の違い	1、3~5
8	山下	皮膚科学と化粧品研究 5：化粧品の有用性評価ならびに情報開発	1~5
9	原	化粧品の研究開発と実用化 1	1、3、5
10	原	化粧品の研究開発と実用化 2	1、3、5
11	原	化粧品の研究開発と実用化 3	1、3、5
12	原	化粧品の研究開発と実用化 4	1、3、5
13	原	化粧品の研究開発と実用化 5	1、3、5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・講義の補足資料を必要に応じ WebClass に掲載。
- ・受講ノートとして活用できるよう補足資料には空欄を設定する。
- ・講義時には受講者名簿をもとに随時質疑応答を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・必要に応じ講義を補完する資料を WebClass 経由で配布または配信する。
- ・化粧品技術の研究開発と実用化について、その内容とともに背景も含め解説する。

〔成績評価方法〕

(1) 形成的評価：

a) 知識：講義内の質疑応答や WebClass での習熟度テストにより到達度を確認させる。

(2) 総括的評価

a) 知識：WebClass による到達度テスト（3 回）にて総合的に評価する（100 %）。

〔教科書〕

講義で取り上げる研究開発事例の内容は、成書等に未収録の内容が多いので教科書の指定はしない。

〔参考書〕

新化粧品学（第 2 版）光井武夫 編（南山堂）

化粧品の有用性：日本化粧品技術者会編（薬事日報社）

化粧品事典：日本化粧品技術者会編（丸善）

医師・医療スタッフのための化粧品ハンドブック：平尾哲二 著（中外医学社）

トコトンやさしい化粧品の本（第 2 版）：福井寛 著（日刊工業新聞社）

〔オフィスアワー〕

1) 平尾・山下・原

講義時間終了後（質問は講義時間内にも受け付ける）

2) 佐藤

原則としていつでも可であるが、事前に予約することが望ましい

〔所属教室〕

平尾・山下・原

講師控室（講義日のみ）

佐藤

生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

・授業補足資料は事前に WebClass で配信するので確認すること。

・講義スケジュールは、日程を踏まえ講義内容が前後することもあるので、都度 WebClass で確認すること。

・配布する補足資料に各自補記、追記するなどして理解を深めること。

〔学生へのフィードバック〕

到達度テストについては内容の解説と確認を行う。

〔備考〕

本講義は株式会社資生堂の協力のもと、資生堂 GIC 支援教育プログラムとして開講します。

* GIC とは、Global Innovation Center の略号。

医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり①

Seminar in Clinical Biopharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

三巻 祥浩 黒田 明平 横須賀 章人 松尾 侑希子 井口 巴樹

学習目標 (GIO) テーマ1：一般用医薬品を中心としたセルフメディケーションの提案
セルフメディケーションとは、自分自身で健康を管理し、または疾病を治療することで、WHOでは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義している。本演習を通じ、一般用医薬品や保健機能を有する食品の提案という観点から、セルフメディケーションの推進のために薬剤師が果たすべき役割について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	セルフメディケーションの推進のために、薬剤師が果たすべき役割を説明できる。(知識)	A-1-2-6, B-4-1-4, E2-9-1-1, F-5-3-1
2	セルフメディケーションに有用な一般用医薬品の効能・効果と使用上の注意を説明できる。(知識)	E2-9-2-1, E2-9-5-1, F-5-3-3
3	セルフメディケーションに有用な特定保健用食品、栄養機能食品を列挙できる。(知識)	E2-9-6-1, E2-9-7-1
4	一般用医薬品を販売する際の注意点を説明できる。(知識)	E2-9-3-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
5	一般用医薬品の適切な情報提供ができる。(技能)	E2-9-7-1, E2-9-8-1
6	症状から判断して、適切な受診勧奨ができる。(技能)	E2-9-3-1, E2-9-4-1, E2-9-8-1, F-5-3-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	漢方資源応用学教室	セルフメディケーションにおける薬剤師の役割について、様々な視点から考察する。(講義・演習)	1~6
4~7	"	一般用医薬品の種類と適応症、販売する際の注意点、適切な情報提供の方法などを習得する(講義・演習)	1~6
8~9	"	グループ討論の重要性について、コンセンサスゲームを行って理解する。(演習)	1~6
10~13	"	調剤併設型ドラッグストアの店舗見学を行い、セルフメディケーションにおける薬剤師の役割について、理解を深める。(見学・演習)	1~6
14	"	まとめとレポート作成(演習)	1~6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

見学やグループ討議など、参加型学習を中心とした演習プログラムを組んでいる。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本学卒業生の協力のもと、調剤併設型ドラッグストアの見学を実施している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：調査・討論した内容を評価し、随時フィードバックする。
- 技能：プレゼンテーションの技能を評価し、随時フィードバックする。
- 態度：見学時の態度、グループ討議への参加状況、プレゼンテーションの態度を観察し、随時フィードバックする。
- パフォーマンス：演習の最後に総合討論を行い、習熟度を確認する。

2) 総括的评价

- 知識：一般用医薬品や特定保健用食品、栄養機能食品などに関する基礎的知識をレポートにより評価する(50%)。
- 態度：見学やグループ討議、プレゼンテーションの態度、レポート・課題の提出状況を総合して評価する(50%)。
- パフォーマンス：形成的評価により判断する。

〔教科書〕

講義プリントを配布

〔オフィスアワー〕

三巻 祥浩 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

三巻 祥浩 漢方資源応用学教室 研究2号館4階408教授室
横須賀 章人 漢方資源応用学教室 研究2号館4階408室
松尾 侑希子 漢方資源応用学教室 研究2号館4階408室
井口 巴樹 漢方資源応用学教室 研究2号館4階408室
黒田 明平 薬学教育推進センター 教育2号館2110室

〔準備学習（予習・復習等）〕

代表的な一般用医薬品、特定保健用食品、栄養機能食品を予習したうえで、演習に臨むこと。課題・レポート作成を中心に、演習内容を復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

演習の発表内容やレポートを評価し、内容の正否をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

楽しみながら学べるように内容を工夫しています。

調剤併設型ドラッグストアの見学では、一般用医薬品の相談・販売の手法を経験豊かな薬剤師の先生方から直接説明していただけます。さらに、普段見ることのできないドラッグストアのバックヤードも見学できます。

〔備考〕

調剤併設型ドラッグストアは営業・開局中に見学しますので、お客様や患者さんがいます。薬学生として相応しい身だしなみ、服装、態度を厳守することが求められますので、それを了承のうえで選択して下さい。また、見学場所への移動にかかる交通費（京王堀之内-小田急線はるひ野駅、片道283円など）は個人負担をお願いいたします。

医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり② (産学連携教育プログラム)

Seminar in Clinical Biopharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

早川 磨紀男、安藤 堅

学習目標 (GIO) テーマ2：保健機能を有する食品の有用性とリスク管理の必要性
生活習慣病に係る医療費が財政に大きな負担を与えている背景から、国では「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を策定し、国民自らが健康増進に努め、こうした病を予防しようとする考え、すなわち「セルフメディケーション」を推進している。本演習では、一般用医薬品（OTC薬）（漢方薬も含む）、保健機能を有する食品、健康状態を知るための分析技術などの視点から、「セルフメディケーション」への薬剤師の関わり方についての知識・態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	保健機能を有する食品として市販されている「保健機能食品」、「特定保健用食品」、「栄養機能食品」、「健康補助食品」などについて、法律上の定義の有無、市場での販売の実態を説明することができる。	D1-3-2-6
2	メタボリックシンドローム、生活習慣病などの予防に役立つ可能性のある特定保健用食品として、どのような商品が市販されているかを調査し、説明することができる。	D1-3-2-6
3	身近な薬局で、どのような保健機能食品、栄養補助食品、いわゆる「健康食品」が市販されているかを調査し、それらの商品のリスク管理に対して薬剤師が果たす役割について討議できる。	E2-10-1-4, E2-9-1-1, E2-9-6-1, F-5-3-1, F-5-3-5
4	いわゆる「健康食品」が健康被害を引き起こした事例を調査し、原因について調査することにより、リスク管理の実態と問題点について討議できる。	E2-10-1-4, E2-9-1-1, E2-9-6-1, F-5-3-1, F-5-3-5
5	食品成分と医薬品との相互作用の事例を調査することにより、リスクを回避するために必要な注意点を説明できる。	E2-9-7-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2	早川、安藤	現場薬剤師の経験談を含めた導入講義	1、2
3~5	"	現場薬局を訪問するにあたってのブレ教育(グループ学習)	2~5
6~10	"	現場薬局の訪問と「健康食品」による健康被害に関する調査	2~5
11~14	"	調査資料の作製と報告(グループ学習)	1~5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

本演習では、いわゆる「健康食品」がもたらす健康被害について、自ら問題意識を持った上で、履修者2名ずつがペアになって、あらかじめ内諾を得た薬局を訪問し、来店患者を対象に「健康食品」による健康被害の有無について調査を行う。実際の患者から聞き取り調査を行うという「パフォーマンス課題」に取り組むことで、適切な接遇を学ぶとともに、調査結果を発表することでプレゼンテーション能力を磨くことを目指す。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

スモールグループディスカッションを中心に参加型演習、授業をすすめる。プレゼンテーション学習も積極的にとり入れる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：調査した内容をパワーポイント等にまとめる。

技能：プレゼンテーション、調査報告等をグループ学習で行い、フィードバックを繰り返す。

態度：接遇、相談応需、調査報告を行い、その態度を終了時にフィードバックする。

2) 総括的評価

知識：セルフメディケーションに関する情報を正しく伝えられることをプレゼンテーション用に作成した資料から評価する(30%)。

技能：ロールプレーの際の相談応需の仕方などから評価する(30%)。

態度：ロールプレー時の服装・態度から評価する(20%)。

パフォーマンス：訪問先薬局からの患者に対する接遇の様子に関するフィードバックコメントから評価する(20%)。

〔オフィスパワー〕

早川 要予約 衛生化学教室 研究1号館4階 402-0号

安藤 原則いつでも可 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔所属教室〕

早川 衛生化学教室 研究1号館4階 402-0号

安藤 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

3年次の栄養素の化学などの講義で取り上げた「機能性表示食品制度」などの知識を演習に先立って復習すること（70分以上）。

〔学生へのフィードバック〕

各学生が訪問した薬局の薬剤師の方から、訪問時の振る舞いなどについて、フィードバックコメントをいただき、調査結果発表後にそのコメントを各学生に伝達する。

〔教員からの一言〕

訪問した薬局の先生方からは、調査中の皆さんの接遇態度などについて、コメントをいただき、それを演習後に皆さんにフィードバックするようにしています。例年、「緊張したが、楽しかった」という感想が聞かれます。

医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり③

Seminar in Clinical Biopharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

袴田 秀樹、小谷 明、山本 法央、町田 晃一

学習目標 (GIO) テーマ3：セルフメディケーションのための簡易計測
生活習慣病に係る医療費が財政に大きな負担を与えている背景から、国では「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を策定し、国民自らが健康増進に努め、こうした病を予防しようとする考え、すなわち「セルフメディケーション」を推進している。本演習では、一般用医薬品（OTC薬）（漢方薬も含む）、保健機能を有する食品、健康状態を知るための分析技術などの視点から、「セルフメディケーション」への薬剤師の関わり方についての知識・態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	イムノクロマトグラフィーを利用した妊娠検査薬の検査原理を説明できる。	C2-6-2-1~2, C2-6-2-4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
2	イムノクロマトグラフィーを利用した排卵日検査薬の検査原理を説明できる。	C2-6-2-1~2, C2-6-2-4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
3	酵素反応と電流計測を利用した血糖値測定装置の測定原理を説明できる。	C2-6-2-1, C2-6-2-3~4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
4	酵素反応と吸光測定を利用した血糖値測定装置の測定原理を説明でき、且つ、自己の血糖値を測定できる。	C2-4-1-1, C2-6-2-1, C2-6-2-3~4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
5	酵素反応と電流計測を利用した血中乳酸測定装置の測定原理を説明できる。	C2-6-2-1, C2-6-2-3~4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
6	発色反応を利用した尿検査試験紙による尿糖及び尿蛋白の検査原理を説明できる。	C2-6-2-1, C2-6-2-4, E2-9-1-1, Y-3-18-2
7	赤色光及び赤外線 LED を利用した経皮的動脈血酸素飽和度測定器の測定原理を説明できる。	C2-4-1-1, C2-6-2-1, E2-9-1-1, Y-3-18-2
8	圧電素子又は水銀柱を利用した血圧計の測定原理を説明できる。	C2-6-2-1, E2-9-1-1, Y-3-18-2
9	半導体式又は燃料電池式アルコールセンサーの測定原理を説明できる。	C2-6-2-1, E2-9-1-1, Y-3-18-2
10	HbA1C の測定原理を説明できる。	C2-5-1-3, C2-6-2-1~3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~2	分析化学教室	1) 概要説明、生体試料の取り扱いに関する注意 2) 血糖測定器による自己血糖測定 (実習)	3, 4
3~4	分析化学教室	3) HbA1c 測定についての講義 4) HbA1c 測定 (実習)	10
5~6	分析化学教室	5) 簡易計測機器の測定原理、使用方法などに関する調査・発表資料の作成 6) 簡易計測機器の測定原理、使用方法などに関するグループ討論及び相互評価	1~9
7~8	分析化学教室	7) 簡易計測機器に関する説明及び相互評価 8) グループ討論、ポスター作成	1~9
9~10	分析化学教室	9) 簡易計測機器の測定原理、使用方法などに関する調査・発表資料作成 10) 簡易計測機器の測定原理、使用方法などに関するグループ討論及び相互評価	1~9
11~12	分析化学教室	11) 簡易計測機器に関する発表及び相互評価 12) グループ討論、ポスター作成	1~9
13~14	分析化学教室	13) 簡易計測機器についてのポスター発表 14) 「薬局における簡易計測」についての講義 (総括)	1~9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

SGD を 4 回実施している。
プレゼンテーションを 4 回行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

演習であるが、実際に自分で簡易計測をするので、すべて実習室で行う。教室教員による導入講義の後、血糖測定器のメーカーの方に「血糖測定器」の取り扱いについての講義していただき、自己の血糖値測定

実習を行う。また、臨床検査受託機関の方に HbA1c の測定について講義していただき、自己の HbA1c 測定実習を行う。その後は、スモールグループに分かれて簡易計測機器の測定原理や使用方法について調査し、異なる簡易計測機器を担当している学生間での発表や相互評価を行った後、スモールグループ内でポスターを作成する。最終日には、作成したポスターを用いて簡易計測機器に関する発表を行った後、薬局薬剤師の先生から「薬局における簡易計測」についてのまとめの講義を聞き、セルフメディケーションのための簡易計測を総括する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：プレゼンテーションに対して相互評価を行う。

2) 総括的評価

a) 知識：プレゼンテーション（40%）及びレポート（60%）

〔教科書〕

プリントの webclass での配布

〔オフィスアワー〕

袴田 秀樹 いつでも可、ただし要予約

〔所属教室〕

分析化学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

webclass から必要な資料をダウンロードし、PC に保存してから演習に臨んで下さい。試料としてヒト（自身）の血液と尿を使用しますので、インフォームドコンセントを取ります。

〔学生へのフィードバック〕

プレゼンテーションに対するコメント、最終日の総括講義などによって、フィードバックします。

〔備考〕

本演習は、薬局で使われている分析化学の応用を実体験してもらうことに主眼を置いており、薬学教育コアカリキュラムの C2-6 分析化学の臨床応用に加え、C2-4 機器を用いる分析法の一部にも対応した広い範囲をカバーします。

医療衛生薬学演習Ⅰ セルフメディケーション：薬剤師の関わり④

Seminar in Clinical Biopharmacy I

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

杉浦 宗敏 今井 志乃ぶ

下枝 貞彦 平田 尚人 畔蒜 祐一郎

学習目標 (GIO) 生活習慣病に係る医療費が財政に大きな負担を与えている背景から、国では「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」を策定し、国民自らが健康増進に努め、こうした病を予防しようとする考え、すなわち「セルフメディケーション」を推進している。本演習では、漢方や芳香精油、保健機能を有する食品、健康状態を知るための分析技術、OTC薬などの視点から「セルフメディケーション」への薬剤師の関わり方について知識・技能を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。	E2-9-1-1
2	主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。	E2-9-2-1, E2-9-5-1
3	漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。	E2-9-6-1, E2-9-7-1
4	疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。	F-5-3-9
5	医師への受診勧告を適切に行うことができる。	E2-9-4-1
6	セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。	E2-9-5-1, F-5-3-2
7	顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	E2-9-8-1
8	医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	A-5-3-1
9	医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	A-1-2-2
10	災害時に果たす薬剤師の役割について理解し、災害時の地域医療や環境衛生の維持、被災者のセルフメディケーションに貢献する。	B-4-1-5, Y-6-10-1
11	医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	A-1-3-4
12	セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	B-4-1-4
13	医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。	E3-1-1-1
14	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。	E3-1-2-1
15	医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。	E3-1-3-3
16	EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。	E3-1-4-1
17	病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。	E3-1-7-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1.2.3	杉浦、今井	OTC医薬品の選択と医療安全に関する事例検討<グループ学習>	1~7.11.12
4.5.6	杉浦、今井	OTC医薬品の選択におけるエビデンス構築に関する事例検討<グループ学習>	1~7.13~17
7,8	下枝、平田、畔蒜	保険薬局・ドラッグストアが抱える問題点を多角的に捕捉し、それをどのように考えるのか、自ら述べる事ができる。 インターネットによる一般用医薬品の販売のありかたについて考える 薬剤師は、登録販売者制度とどのように向き合っていくべきなのかを考える	1~7
9,10	下枝、平田、畔蒜	未来の保険薬局・ドラッグストアのあるべき姿について、自ら述べる事ができる。 健康情報拠点薬局について知る 「健康サポート機能」として新たに保険薬局・ドラッグストアが創生可能な、薬剤師職能や薬剤師業務は何か具体的な事業案を考える	1~9
11,12,13	下枝、平田、畔蒜	医療の担い手として、薬剤師に必要な災害時の知識やスキルについて考え、実行できる。	10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に学生を指名して発表させている。レポート提出を複数回させている。

各回にバズセッションを設定し、学生同士で討議させている。

各回に学生同士が討議する時間を設けている。

S G Dを複数回実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

ブレインストーミングの手法を取り入れ、少人数制で、1つの課題について掘り下げた議論を行える。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を提示し、繰り返し知識の到達レベルを確認する。

b) 態度：演習期間中を通じて観察記録をつけ、毎日の終了時にフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識：提出物を総合的に評価する（50％）。

b) 態度：受講態度（出席等）を繰り返し形成的に評価し向上すれば合とする（50％）。

〔オフィスアワー〕

杉浦 いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。医療薬学研究棟 3階 M304号室

今井 いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。ドラッグラショナル研究開発センター（DR棟）4階

D401号室

下枝 火曜日以外はいつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療薬学研究棟 2階 M207号室

平田 水曜日以外はいつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療薬学研究棟 2階 M206号室

畔蒜 いつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療薬学研究棟 2階 M206号室

〔所属教室〕

杉浦、今井：医薬品安全管理学教室

下枝、平田、畔蒜：臨床薬剤学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し講義に臨むようにしてください。また、演習の後は必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

〔学生へのフィードバック〕

各演習の終了時にその日に行った演習内容のポイントを演習中に用いた資料を振り返りながら復習する。

また、演習開始時においても前回の演習内容を冒頭で復習して、次の演習につなげる工夫をしていく。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医療衛生薬学演習Ⅱ 臨床応用薬学への課題研究チュートリアル

Seminar in Clinical Biopharmacy II

第4学年 前期 4年必修科目 1単位

林 良雄 田村 和広 根岸 洋一 青山 洋史 吉江 幹浩 谷口 敦彦

伊集院良祐 多田 壘 濱野 展人 田口 晃弘 草間 和哉 齊藤 亮平 桑原 直子 今野 翔

学習目標 (GIO) 学科の理念に示したとおり、少子高齢者社会を迎え、慢性・難治性疾患は著しく増加している。これらの疾患に対する薬学的アプローチ法や薬剤師の関わりについての考え方や技能を高めるために、本演習では医療衛生薬学学科の各研究室において課された課題研究テーマの基盤作りを行う。そのため、それに関連した題材を取り上げ、インターラクティブなチュートリアルトレーニングを実施する。各自、調査・研究に基づいた資料を作成し、個別指導教員（チューター）との討議を通じ、課題や問題を解決するための理論的かつ応用可能な発展的展開ができる能力を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	学生は、臨床応用薬学に関する下記4領域から一つの分野を選択後、本演習で調査する課題（以下、調査課題）を設定し、領域を担当するチューターとの個別討議を通じて、学習目標の達成をめざす。尚、領域の選択においては過不足が生じないように人数調整を実施する。	A-2-3-1~2
2	《領域》① 医療および薬物送達学に関する領域（根岸、多田、高橋）	E5-1-4-1, E5-1-4-3, E5-2-1-1~5, E5-2-3-1, E5-3-1-1~2, E5-3-2-1~3, E5-3-3-1~3, E5-3-4-1~3
3	《領域》② 医療および薬物の生物活性に関する領域（田村、吉江、草間、桑原）	E1-1-1-1~9, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E1-4-4-1, E2-1-1-1~3, E2-2-1-1~3, E2-2-2-1~9, E2-2-3-1~4, E2-3-1-1~6, E2-3-2-1~5, E2-3-3-1~8, E2-4-1-1~4, E2-4-2-1~9, E2-5-1-1~3, E2-5-2-1~5, E2-6-1-1~4, E2-6-2-1~2, E2-7-7-1~3, E2-7-8-1~13, E2-8-1-1~3, E2-8-3-1~4
4	《領域》③ 医療および細胞情報伝達系に関わる創薬科学に関する領域（青山、伊集院、齊藤）	C2-6-2-5, C4-1-1-2, C4-2-3-1, C4-3-1-1, C6-6-2-5
5	《領域》④ 医療およびペプチド・蛋白質関連の創薬科学に関する領域（林、谷口、田口、今野）	C4-1-1-1~2, C4-3-4-6, E5-3-1-1, G-3-1-1
6	具体的な行動目標:上記①~④の領域において本演習の調査課題を自ら設定し、その調査計画を立てることができる。	G-3-1-1, G-3-2-1
7	具体的な行動目標: 調査課題の目的を説明できる。	G-3-2-1
8	具体的な行動目標: 調査課題を実施できる。	G-3-3-1
9	具体的な行動目標: 調査課題の資料を作成し、適切に説明できる。	G-3-5-1
10	具体的な行動目標: 調査課題の進捗を踏まえ、課題における問題点を説明できる。	G-3-5-1
11	具体的な行動目標: 調査課題に関して討議できる。	G-3-4-1, G-3-5-1
12	具体的な行動目標: 調査課題に関する今後の展開を立案できる	G-3-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	林	趣旨説明、領域の設定	1
2~3	領域毎担当	調査課題の設定およびチュートリアル	1
4~7	林	領域講話（話題提供）	1~5
8~12	領域毎担当	課題活動（必要に応じて随時チュートリアルを実施）	1~5
13	〃	チュートリアル	1~5
14	〃	課題報告会	1~5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・学生の希望に沿った課題を設定して、担当チューターとの個別討議をしながら、課題の調査、資料の作成を行う。
- ・演習時間外であっても、随時、チューターとの相談、打ち合わせを行える環境にある。
- ・領域講話においては、十分な質疑応答の時間を確保している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：課題調査の理解度をチュートリアルをおこない評価。
- b) 技能：課題調査資料の作成とその資料を用いたプレゼンテーション能力をチュートリアルをおこない評価。
- c) 態度：出席、受講態度、課題調査の取り組み態度を評価。
- d) パフォーマンス：課題調査資料を用いたプレゼンテーションについてチュートリアルをおこない評価。

2) 総括的評価

- a) 知識：形成的評価で改善が認められれば合とする。
- b) 技能：形成的評価で改善が認められれば合とする。
- c) 態度：出席、受講態度、プレゼンテーションの態度、課題レポートの提出状況を総合的に評価する（40%）。
- d) パフォーマンス：課題調査資料を用いたプレゼンテーションの内容を総合的に評価する（60%）。

〔教科書〕

〔オフィスアワー〕

いつでも可

〔所属教室〕

林 良雄	薬品化学教室
田村 和広	薬理学教室
根岸 洋一	薬物送達学教室
青山 洋史	分子機能解析学教室
吉江 幹浩	薬理学教室
谷口 敦彦	薬品化学教室
伊集院良祐	分子機能解析学教室
多田 豊	薬物送達学教室
濱野 展人	薬物送達学教室
田口 晃弘	薬品化学教室
草間 和哉	薬理学教室
齊藤 亮平	分子機能解析学教室
桑原 直子	薬理学教室
今野 翔	薬品化学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

学科の目標と関連した疾病の予防や創薬に精通できるように関連教科を再度、復習してください。特に、健康、環境科学、老年期医療、再生医療、予防医療の知識を深めます。

〔学生へのフィードバック〕

課題の調査資料の作成にあたり、チューターとの個別討議の中でフィードバックを行う。

総合演習 I

Comprehensive Seminar in Pharmacy I

第 4 学年 前期 4 年必修科目 2 単位

各分野担当教員（ガイダンス等で周知する）

学習目標 (GIO) これまで学んだ基礎薬学科目に関する知識を総合的に整理して、薬剤師として必要な知識基盤を確固たるものとし、質の高い薬剤師を目指す。総合演習 I では、日本薬局方に収載されている通則、確認試験、純度試験、定量法の基礎知識の確認及び演習。生物系科目の基本事項の確認及び演習。機器分析学の復習及び構造解析の実践。さらに、有機化学の応用として生体分子と医薬品の化学による理解を深めていく。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	日本薬局方の意義と構成について説明できる。	B-2-2-8
2	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-1-2
3	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。	C2-3-2-5
4	日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	C2-3-2-6
5	日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	C2-3-2-7
6	日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。	E1-1-3-1
7	日本薬局方収載の生薬総則および生薬試験法について説明ができる。	C5-1-4-2
8	分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。	C2-4-1-6
9	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
10	赤外吸収 (IR) スペクトルの原理と測定法を概説できる。	C2-4-1-3
11	IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	C3-4-2-1
12	IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。	C3-4-2-2
13	核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を概説できる。	C2-4-2-1
14	^1H および ^{13}C NMR より得られる情報を概説できる。	C3-4-1-1
15	有機化合物中の ^1H NMR において、代表的なプロトンの、おおよその化学シフト値を示すことができる。	C3-4-1-2
16	^1H NMR の積分値を説明することができる。	C3-4-1-3
17	^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。	C3-4-1-4
18	代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR スペクトルから決定できる。	C3-4-1-5
19	マススペクトルより得られる情報を概説できる。	C3-4-3-1
20	測定化合物に適したイオン化法を選択できる。	C3-4-3-2
21	ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントイオンピーク) を説明できる。	C3-4-3-3
22	代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。	C3-4-3-4
23	代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。	C3-4-4-1
24	医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。	C4-3-1-1
25	医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。	C4-3-2-1
26	プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。	C4-3-2-2
27	細胞の構造と機能	C6-1-1-1 ~ 2, C6-1-2-1, C6-1-3-1
28	生命現象を担う分子	C6-2-1-1, C6-2-2-1 ~ 2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1
29	生命活動を担うタンパク質	C6-3-1-1, C6-3-2-1 ~ 2, C6-3-3-1, C6-3-3-3, C6-3-4-1 ~ 2
30	生命情報を担う遺伝子	C6-4-1-1 ~ 2, C6-4-2-1 ~ 3, C6-4-3-1, C6-4-4-1 ~ 5, C6-4-5-1, C6-4-6-1 ~ 2

番号	内容	コアカリとの関連コード
31	生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	C6-5-1-1, C6-5-2-1~5, C6-5-3-1~2, C6-5-4-1~2, C6-5-5-1~3
32	細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	C6-6-1-1, C6-6-2-1~5, C6-6-3-1~2
33	細胞の分裂と死	C6-7-1-1~2, C6-7-2-1, C6-7-3-1~2
34	人体の成り立ち	C7-1-1-1~3, C7-1-10-1, C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-1-13-1, C7-1-14-1, C7-1-2-1~2, C7-1-3-1~4, C7-1-4-1~2, C7-1-5-1~2, C7-1-6-1, C7-1-7-1~3, C7-1-8-1, C7-1-9-1~2
35	生体機能の調節	C7-2-1-1~4, C7-2-10-1, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1, C7-2-5-1, C7-2-6-1, C7-2-7-1~2, C7-2-8-1, C7-2-9-1
36	身体をまもる	C8-1-1-1~4, C8-1-2-1~3, C8-1-3-1~5
37	免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	C8-2-1-1~6, C8-2-2-1~4
38	微生物の基本	C8-3-1-1, C8-3-2-1~6, C8-3-3-1, C8-3-4-1~2, C8-3-5-1~2
39	病原体としての微生物	C8-4-1-1~2, C8-4-2-1~9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~9	日本薬局方担当教員	日本薬局方関連試験法	1~9
10~19	機器分析担当教員	構造解析	10~23
20~25	有機化学担当教員	医薬品の化学構造と性質、作用	24~26
26~31	生物担当教員	生物系薬学	27~39

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、講義しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

予め演習問題などを与え、予習し易い様にしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 出題範囲を決め小テスト、低得点者の再テスト、レポート提出などを繰り返す。

2) 総括的評価

a) 知識: 総合演習試験を行い、各自の到達度を評価する (100%)

〔教科書〕

プリント配布

〔参考書〕

1年から3年までに使用した教科書、ノート、参考図書

〔オフィスアワー〕

いつでも可

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: 講義項目を事前に知らせるので、低学年で使用した教科書、参考書等で疑問点をはっきりさせておいて下さい。

復習: 講義内容を整理するとともに、関連の国家試験問題を数多くといて下さい。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や要望などに対して、必要に応じて講義中に全学生に対してその内容を伝え、解説等を加えるなどの対応を行っている。

〔教員からの一言〕

全4年生が一斉に受講するものと、各学科ごとに受講するものがあるのでガイダンス等で配布される総合演習Ⅰのスケジュールを必ず確認して下さい。1年から3年までの基礎科目をこの時期に総復習し、後期

から始まる総合演習 II に備えて下さい。

総合演習Ⅱ

Comprehensive Seminar in Pharmacy II

第4学年 後期 4年必修科目 4単位

各分野担当教員（ガイダンスで周知する）

学習目標 (GIO) 1～4年生前期までに学習した内容を、総合的に復習、弱点強化し、基礎力の充実を図ることを目的とする。薬学を取り巻く、基本事項、社会と薬学、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、衛生薬学医療薬学、薬学臨床に関する基本的知識の確認及び理解度を高める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師の使命	A-1-1-4～7, A-1-2-2～8, A-1-3-2～7, A-1-4-1～4
2	薬剤師に求められる倫理感	A-2-1-1～4, A-2-2-1～3, A-2-3-2～4, A-2-4-1～2
3	信頼関係の構築	A-3-1-1～4, A-3-1-9, A-3-2-1
4	多職種連携協働とチーム医療	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-5-1
5	自己研鑽と次世代を担う人材の育成	A-5-1-3, A-5-1-5, A-5-2-1～2, A-5-3-1
6	人と社会に関わる薬剤師	B-1-1-1
7	薬剤師と医薬品等に係る法規範	B-2-1-1～8, B-2-2-1～11, B-2-3-1～3
8	社会保障制度と医療経済	B-3-1-1～7, B-3-2-1～4
9	地域における薬局と薬剤師	B-4-1-1～6, B-4-2-1～5
10	物質の構造	C1-1-1-1～3, C1-1-2-1～7, C1-1-3-1～6, C1-1-4-1～5
11	物質のエネルギーと平衡	C1-2-1-1～3, C1-2-2-1～7, C1-2-3-1～5, C1-2-4-1～4, C1-2-5-1～3, C1-2-6-1～4, C1-2-7-1～2
12	物質の変化	C1-3-1-1～3, C1-3-1-5～7
13	分析の基礎	C2-1-1-1～3
14	溶液中の化学平衡	C2-2-1-1～4, C2-2-2-1～4
15	化学物質の定性分析・定量分析	C2-3-1-1～2, C2-3-2-1～7
16	機器を用いる分析法	C2-4-1-1～5, C2-4-2-1, C2-4-3-1, C2-4-4-1～2, C2-4-5-1～2
17	分離分析法	C2-5-1-1～5, C2-5-2-1
18	臨床現場で用いる分析技術	C2-6-1-1～2, C2-6-2-1～5
19	化学物質の基本的性質	C3-1-1-1～9, C3-1-2-1～8
20	有機化合物の基本骨格の構造と反応	C3-2-1-1～5, C3-2-2-1～3, C3-2-3-1～5
21	官能基の性質と反応	C3-3-1-1, C3-3-2-1～3, C3-3-3-1～2, C3-3-4-1～3, C3-3-5-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1～2
22	化学物質の構造決定	C3-4-1-1～5, C3-4-2-1～2, C3-4-3-1～4
23	無機化合物・錯体の構造と性質	C3-5-1-1～5
24	医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質	C4-1-1-1～2, C4-1-2-1～4
25	生体反応の化学による理解	C4-2-1-1～2, C4-2-2-1～3, C4-2-3-1～2, C4-2-4-1～2

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
26	医薬品の化学構造と性質、作用	C4-3-1-1, C4-3-2-1~2, C4-3-3-1~3, C4-3-4-1~6, C4-3-5-1~5, C4-3-6-1~3, C4-3-7-1
27	薬になる動植物	C5-1-1-1~4, C5-1-2-1, C5-1-3-1~2, C5-1-4-1~5
28	薬の宝庫としての天然物	C5-2-1-1~5, C5-2-2-1~2, C5-2-3-1, C5-2-4-1~3
29	細胞の構造と機能	C6-1-1-1~2, C6-1-2-1, C6-1-3-1
30	生命現象を担う分子	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1
31	生命活動を担うタンパク質	C6-3-1-1, C6-3-2-1~2, C6-3-3-1~3, C6-3-4-1~2
32	生命情報を担う遺伝子	C6-4-1-1~2, C6-4-2-1~3, C6-4-3-1, C6-4-4-1~5, C6-4-5-1, C6-4-6-1~2
33	生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	C6-5-1-1, C6-5-2-1~5, C6-5-3-1~2, C6-5-4-1~2, C6-5-5-1~3
34	細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	C6-6-1-1, C6-6-2-1~5, C6-6-3-1~2
35	細胞の分裂と死	C6-7-1-1~2, C6-7-2-1, C6-7-3-1~2
36	人体の成り立ち	C7-1-1-1~3, C7-1-10-1, C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-1-13-1, C7-1-14-1, C7-1-2-1~2, C7-1-3-1~4, C7-1-4-1~2, C7-1-5-1~2, C7-1-6-1, C7-1-7-1~3, C7-1-8-1, C7-1-9-1~2
37	生体機能の調節	C7-2-1-1~4, C7-2-10-1, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1, C7-2-5-1, C7-2-6-1, C7-2-7-1~2, C7-2-8-1, C7-2-9-1
38	身体をまもる	C8-1-1-1~4, C8-1-2-1~3, C8-1-3-1~5
39	免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	C8-2-1-1~6, C8-2-2-1~4
40	微生物の基本	C8-3-1-1, C8-3-2-1~6, C8-3-3-1, C8-3-4-1~2, C8-3-5-1~2
41	病原体としての微生物	C8-4-1-1~2, C8-4-2-1~9
42	社会・集団と健康	D1-1-1-1, D1-1-2-1~3, D1-1-3-1~4
43	疾病の予防	D1-2-1-1~2, D1-2-2-1~4, D1-2-3-1~3, D1-2-4-1~2, D1-2-5-1~2
44	栄養と健康	D1-3-1-1~8, D1-3-2-1~7, D1-3-3-1~3
45	化学物質・放射線の生体への影響	D2-1-1-1~7, D2-1-2-2~5, D2-1-3-1~3, D2-1-4-1~4
46	生活環境と健康	D2-2-1-1~4, D2-2-2-1~3, D2-2-3-1~6, D2-2-4-1, D2-2-4-3, D2-2-5-1~2, D2-2-6-1~3
47	薬の作用	E1-1-1-1~9, E1-1-3-1
48	身体の病的変化を知る	E1-2-1-1, E1-2-2-1~8
49	薬物治療の位置づけ	E1-3-1-1, E1-3-2-1
50	医薬品の安全性	E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E1-4-4-1

番号	内容	コアカリとの関連コード
51	神経系の疾患と薬	E2-1-1-1~3, E2-1-2-1~2, E2-1-2-4, E2-1-3-1~11, E2-1-3-14, E2-1-4-1
52	免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬	E2-2-1-1~3, E2-2-2-1~9, E2-2-3-1~4, E2-2-4-1
53	循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬	E2-3-1-1~5, E2-3-2-1~5, E2-3-3-1~8, E2-3-4-1
54	呼吸器系・消化器系の疾患と薬	E2-4-1-1~4, E2-4-2-1~9, E2-4-3-1
55	代謝系・内分泌系の疾患と薬	E2-5-1-1~3, E2-5-2-1~5, E2-5-3-1
56	感覚器・皮膚の疾患と薬	E2-6-1-1~4, E2-6-2-1~2, E2-6-3-1~4, E2-6-4-1
57	病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬	E2-7-1-1~2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1~10, E2-7-4-1~6, E2-7-5-1~2, E2-7-6-1~2, E2-7-7-1~3, E2-7-8-1~13, E2-7-9-1~2
58	バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	E2-8-1-1~3, E2-8-2-1, E2-8-3-1~4
59	要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション	E2-9-1-1, E2-9-2-1, E2-9-3-1, E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
60	医療中の漢方薬	E2-10-1-1~4, E2-10-2-1~3, E2-10-3-1
61	薬物治療の最適化	E2-11-1-1~3
62	医薬品情報	E3-1-1-1~5, E3-1-2-1~6, E3-1-3-2~3, E3-1-3-5, E3-1-4-1~4, E3-1-5-1~7, E3-1-6-1~9, E3-1-7-1
63	患者情報	E3-2-1-1~2, E3-2-2-1~4
64	個別化医療	E3-3-1-1~3, E3-3-2-1~2, E3-3-3-1~3, E3-3-4-1~3, E3-3-5-1~2
65	薬物の体内動態	E4-1-1-1~2, E4-1-2-1~5, E4-1-3-1~6, E4-1-4-1~5, E4-1-5-1~5
66	薬物動態の解析	E4-2-1-1~6, E4-2-2-1~4
67	製剤の性質	E5-1-1-1~5, E5-1-2-1~2, E5-1-3-1~4, E5-1-4-1~3
68	製剤設計	E5-2-1-1~6, E5-2-2-1~4, E5-2-3-1
69	DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)	E5-3-1-1~2, E5-3-2-1~3, E5-3-3-1~3, E5-3-4-1~3
70	薬学臨床の基礎	F-1-1-1~3, F-1-3-1~5
71	処方せんに基づく調剤	F-2-1-1, F-2-2-1~5, F-2-3-2, F-2-3-4~6, F-2-4-2~3, F-2-4-5, F-2-4-7, F-2-5-1~8, F-2-6-1~4, F-2-6-6~7
72	薬物療法の実践	F-3-1-1, F-3-1-3~4, F-3-2-1, F-3-3-1~6, F-3-4-1~3
73	チーム医療への参画【A(4)参照】	F-4-1-1~3, F-4-2-1~2
74	地域の保健・医療・福祉への参画【B(4)参照】	F-5-1-1~3, F-5-2-1~2, F-5-3-2, F-5-3-4, F-5-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~3	物理化学・分析化学担当教員	物理系薬学	10-18

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
4~7	化学系担当教員	化学系薬学	19-28
8~11	生物系担当教員	生物系薬学	29-42
12~15	薬理学、疾病と薬物治療学担当教員	医療薬学	48-62
16~19	動態学、薬剤学担当教員	医療薬学	66-70
20	情報学担当教員	医療薬学	63-65
21~24	衛生化学担当教員	衛生薬学	43-47
25~26	臨床系薬学担当教員	薬学臨床	71-75
27~28	薬事関連法規担当教員	薬学と社会	6-9
29	医療心理学担当教員	基本事項	1-5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義前に演習を行い、自身の弱点を押さえることにより講義に集中できるようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:出題範囲を決め、演習を行い、結果を速やかにフィードバックする。成績が下位の学生には補講への出席を課す。

2) 総括的評価

a) 知識:総合演習試験 (ペーパー試験)・100 %

〔教科書〕

プリント配布

〔参考書〕

1~4年生前期までに使用した教科書等を適宜使用する。

必要に応じて WebClass に補助資料を掲載する。

〔オフィスアワー〕

何時でも可、ただし前もって予約をしてください。

〔所属教室〕

三浦典子 薬学教育推進センター 教育棟 2109 室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: 講義予定項目を事前に知らせるので、教科書、参考書などで疑問点をはっきりとさせておいてください。

復習: 講義内容を整理するとともに、関連問題を数多く解いてください。また、演習で誤ったところは必ずやり直してください。

〔学生へのフィードバック〕

演習の結果は、演習終了後、速やかに Webclass と掲示板で公開し、学生にフィードバックする。

医療薬学英语特論 II

English (Topics) II

第 5 学年 通年 5 年必修科目 1 単位

卒論指導教員

学習目標 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

医療薬物薬学英語特論 II

English (Topics) II

第 5 学年 通年 5 年必修科目 1 単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

医療衛生薬学英语特論 II

English (Topics) II

第 5 学年 通年 5 年必修科目 1 単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 国際化が進む昨今の国内環境において、薬剤師も、国際的感覚を備え持つことが要求される。英文学術誌や雑誌、英字新聞等の読解により科学英語の知識習得は勿論のこと、国際的視野に立った幅広い見識を身に付けていく。各卒論教室にて英語による討論や発表等による演習形式で実施する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	将来、医療現場や学会会議、さらには企業においては海外でも折衝等で必要とされる実用的且つ実践的な英語力を身に付ける。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-13	各卒論担当指導教員	各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラム	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各卒論配属教室、研究室、センター内で、専門性と特色を活かしたプログラムを基に、グループ学習を中心に行う。

英語によるプレゼンテーション、英会話、TOEIC 受験を通して能動的に知識・態度を醸成する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各卒論教室の専門性と特色を生かしたプログラムを基に、グループ学習 (討論・発表) を中心に行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：輪読等を繰り返し、内容の把握度をチェックする。

2) 総括的評価

a) 知識：レポート提出などにより英語対応力、内容理解力等を総合的に評価する (100%)。

〔教科書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔参考書〕

各教室、研究室、センターで指定する。

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う。

〔所属教室〕

配属された各教室、研究室、センター。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

英語を始めとする語学能力は、卒論期間中に予習・復習を繰り返すことで醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ学習等において、担当教員から、専門分野における英語について、適宜、フィードバックする。

医療プロフェッショナリズム

Medical Professionalism

第5学年 後期 5年必修科目 1単位

益山 光一 北垣 邦彦 櫻井 浩子

学習目標 (GIO) 豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献することが薬剤師に求められている。

本講義では、これまでの薬学の基本的な知識や技能に加え、医療現場の課題（病院実習や薬局実習で遭遇の難しい課題を含め）、あるいは医療の担い手として必要な態度と能力を養うとともに、医療倫理、コミュニケーション、法制度、社会薬学の観点から、薬物療法の専門家たる薬剤師としての心技体に必要な内容や事例の理解や習得を行う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。	A-1-2-1
2	薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。	A-1-2-2
3	健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-6
4	薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7
5	現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。	A-1-2-8
6	保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	A-4-1-1
7	多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	A-4-2-1
8	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A-4-3-1
9	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。	A-4-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	孫	在宅医療 (1)	
2	孫	在宅医療 (2)	
3	孫	在宅医療 (3)	
4	中澤・坪井・櫻井	新生児医療 (1)	1,2,5,6,7,8,9
5	中澤・坪井・櫻井	新生児医療 (2)	1,2,5,6,7,8,9
6	中澤・坪井・櫻井	新生児医療 (3)	1,2,5,6,7,8,9
7	嶋根	薬剤師に求められる社会的役割 (1) ～薬物乱用防止に対する薬剤師の関わり～	1,2,4
8	笠原	薬剤師に求められる社会的役割 (2) ～地域医療への薬剤師の参画か～	1,2,3,5
9	嶋根・笠原・北垣	薬剤師に求められる社会的役割 (3)	1,2,3,4,5
10	溝神	高齢者の薬物療法 (1)	
11	溝神	高齢者の薬物療法 (2)	
12	溝神	高齢者の薬物療法 (3)	
13	栞原	薬剤師の臨床現場における現状と課題 (1)	
14	栞原	薬剤師の臨床現場における現状と課題 (2)	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. 講義のなかで、個人ワーク、グループワークを取り入れる。
2. グループワークで出された意見・感想について発表し、学生全体で共有する。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:授業課題遂行のための基礎知識
 - b) 技能:議論での発言

- c) 態度:グループ内議論への参加
- 2) 総括的評価
- a) 知識:課題レポートの提出 (80%)
- b) 技能:発表成果物のまとめ方
- c) 態度:受講態度やSGDへの参加態度 (20%)

〔教科書〕
なし

〔参考書〕

在宅療養の薬学的謎解き (日本在宅薬学会)
周産期医療と生命倫理入門 (窪田昭男・齋藤滋・和田和子編著 メディカ出版)
危険ドラッグ問題の表と裏 (薬事日報社)

〔オフィスアワー〕

益山 光一
北垣 邦彦
櫻井 浩子:いつでも可。ただし事前にメールで予約をしてください。

〔所属教室〕

益山 光一 薬事関係法規研究室 教育3号館1階3102-2
北垣 邦彦 社会薬学研究室 教育3号館1階3102-3
櫻井 浩子 生命・医療倫理学研究室 教育3号館1階3102-1

〔準備学習(予習・復習等)〕

医療倫理、法制度、社会薬学について、講義終了後、復習として、SGDとその発表内容を踏まえ、薬剤師として考えるべきこと、習得すべき技能は何か、改めて考えてください。

〔学生へのフィードバック〕

SGDの発表に対し、教員からのコメント及び総括を行う。
WEB上に学生の意見を登録させ、その意見を講師が掘り下げて行く。

〔教員からの一言〕

薬剤師の社会的な役割と裁量はますます重要なものになりつつあり、それとともに独立して担う責任も重くなります。それに答えられるだけの科学性と倫理性、対応能力等を、医療プロフェッショナルとして、身につけてほしいと思います。

そのため講義では、多様化した社会の中で揺るぎのない医療倫理や薬剤師としての姿勢の基本や、現場に直結する問題でありながらも病院実習や薬局実習では教わり難い課題等を学びます。基本的な知識と考え方をぜひ主体的に受講してください。

〔備考〕

講義日程日を確認のこと(11月12日から11月20日講義開催)
非常勤講師
孫尚孝(株式会社ファーマシイ)
中澤祐介(静岡県立こども病院新生児科)
坪井彩香(静岡県立こども病院薬剤部)
嶋根卓也(国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部)
笠原大吾(沖縄県薬剤師会)
溝神文博(国立長寿医療研究センター薬剤部)
栗原 健 (日本病院薬剤師会専務理事)

薬学アップデート

Pharmacy Updates

第6学年 前期 6年必修科目 3単位

袴田 秀樹、山田 純司、緒方 正裕、黒田 明平

学習目標 (GIO) 薬学の広範な基礎知識に基づいて4年次までに学んだ医療薬学、創薬科学、あるいは健康・環境科学、さらに実務実習を通じて体験学習した臨床薬学に関する専門領域の知識を確実に定着させるための総括的学習の一環として、これまでの約6年間で学んだ内容のうち基本的な項目を幾つか取り上げ、もう一度整理して復習する。さらに、新薬や法規改正、診療ガイドライン改訂など、最新の情報を新たに追加する。このことにより、実務実習以降、各自で学習した断片的な知識を系統的に統合し、すでに身に付けた知識と融合させて総括する。なお、選択専門科目IIのうち臨床薬物動態学特論と病理解剖学特論は医療薬学科の科別必修科目に指定されている。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	物質の物理的性質	C1-1-1-1~3, C1-1-2-1~7, C1-1-3-1~6, C1-1-4-1~5, C1-2-1-1~3, C1-2-2-1~7, C1-2-3-1~5, C1-2-4-1~4, C1-2-5-1~3, C1-2-6-1~4, C1-2-7-1~2, C1-3-1-1~7
2	化学物質の分析	C2-1-1-1~3, C2-2-1-1~2, C2-2-1-4, C2-2-2-1~4, C2-3-1-1~2, C2-3-2-1~7, C2-4-1-1~5, C2-4-2-1, C2-4-3-1, C2-4-4-1~2, C2-4-5-1~2, C2-5-1-1~5, C2-5-2-1, C2-6-1-1~2, C2-6-2-1~5
3	化合物の性質と反応	C3-1-1-1~9, C3-1-2-1~8, C3-2-1-1~5, C3-2-2-1~3, C3-2-3-1~5, C3-3-1-1~2, C3-3-2-1~3, C3-3-3-1~2, C3-3-4-1~3, C3-3-5-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1~2, C3-4-1-1~5, C3-4-2-1~2, C3-4-3-1~4, C3-4-4-1, C3-5-1-1~5
4	生体分子・医薬品の化学による理解	C4-1-1-1~2, C4-1-2-1~4, C4-2-1-1~2, C4-2-2-1~3, C4-2-3-1~2, C4-2-4-1~2, C4-3-1-1, C4-3-2-1~2, C4-3-3-1~3, C4-3-4-1~6, C4-3-5-1~5, C4-3-6-1~3, C4-3-7-1
5	自然が生み出す薬物	C5-1-1-1~4, C5-1-2-1, C5-1-3-1~2, C5-1-4-1~5, C5-2-1-1~5, C5-2-2-1~2, C5-2-3-1, C5-2-4-1~3
6	生命現象の基礎	C6-1-1-1~2, C6-1-2-1, C6-1-3-1, C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1, C6-2-8-1, C6-3-1-1, C6-3-2-1~2, C6-3-3-1~4, C6-3-4-1~2, C6-4-1-1~2, C6-4-2-1~3, C6-4-3-1, C6-4-4-1~5, C6-4-5-1, C6-4-6-1~2, C6-5-1-1, C6-5-2-1~5, C6-5-3-1~2, C6-5-4-1~2, C6-5-5-1~3, C6-6-1-1, C6-6-2-1~5, C6-6-3-1~2, C6-7-1-1~2, C6-7-2-1, C6-7-3-1~2, C7-1-3-3~4

番号	内容	コアカリとの関連コード
7	人体の成り立ちと生体機能の調節	C7-1-1-1~3, C7-1-10-1, C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-1-13-1, C7-1-14-1, C7-1-2-1~2, C7-1-3-1~3, C7-1-4-1~2, C7-1-5-1~2, C7-1-6-1, C7-1-7-1~3, C7-1-8-1, C7-1-9-1~2, C7-2-1-1~4, C7-2-10-1, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1, C7-2-5-1, C7-2-6-1, C7-2-7-1~2, C7-2-8-1, C7-2-9-1
8	生体防御と微生物	C8-1-1-1~4, C8-1-2-1~3, C8-1-3-1~5, C8-2-1-1~6, C8-2-2-1~4, C8-3-1-1, C8-3-2-1~6, C8-3-3-1, C8-3-4-1~2, C8-3-5-1~2, C8-4-1-1~2, C8-4-2-1~9
9	健康	D1-1-1-1, D1-1-2-1~3, D1-1-3-1~4, D1-2-1-1~2, D1-2-2-1~4, D1-2-3-1~3, D1-2-4-1~2, D1-2-5-1~2, D1-3-1-1~8, D1-3-2-1~7, D1-3-3-1~3
10	環境	D2-1-1-1~7, D2-1-2-1~5, D2-1-3-1~3, D2-1-4-1~4, D2-2-1-1~5, D2-2-2-1~3, D2-2-3-1~6, D2-2-4-1, D2-2-4-3, D2-2-5-1~2, D2-2-6-1~3
11	薬の作用と体の変化	E1-1-1-1~9, E1-1-2-1, E1-1-3-1, E1-2-1-1, E1-2-2-1~8, E1-3-1-1, E1-3-2-1, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E2-1-2-2
12	薬理・病態・薬物治療	E2-1-1-1~3, E2-1-2-1~2, E2-1-2-4, E2-1-3-1~11, E2-1-3-14, E2-1-4-1, E2-10-1-1~4, E2-10-2-1~3, E2-10-3-1, E2-11-1-1~3, E2-2-1-1~3, E2-2-2-1~9, E2-2-3-1~4, E2-2-4-1, E2-3-1-1~5, E2-3-2-1~4, E2-3-3-1~8, E2-3-4-1, E2-4-1-1~4, E2-4-2-1~9, E2-4-3-1, E2-5-1-1~3, E2-5-2-1~5, E2-5-3-1, E2-6-1-1~4, E2-6-2-1~2, E2-6-3-1~4, E2-6-4-1, E2-7-1-1~2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1~10, E2-7-4-1~6, E2-7-5-1~2, E2-7-6-1~2, E2-7-7-1~3, E2-7-8-1~11, E2-7-8-13, E2-7-9-1~2, E2-8-1-1~3, E2-8-2-1, E2-8-3-1~4, E2-9-1-1, E2-9-2-1, E2-9-3-1, E2-9-4-1, E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
13	薬物治療に役立つ情報	E3-1-1-1~5, E3-1-2-1~6, E3-1-3-1~5, E3-1-4-1~4, E3-1-5-1~7, E3-1-6-1~9, E3-1-7-1, E3-2-1-1~2, E3-2-2-1~4, E3-3-1-1~3, E3-3-2-1~2, E3-3-3-1~3, E3-3-4-1~3, E3-3-5-2
14	薬の生体内運命	E4-1-1-1~2, E4-1-2-1~4

番号	内容	コアカリとの関連コード
15	製剤化のサイエンス	E5-1-1-1~5, E5-1-2-1~2, E5-1-3-1~4, E5-1-4-1~3, E5-2-1-1~6, E5-2-2-1~4, E5-2-3-1, E5-3-1-1~2, E5-3-2-1~3, E5-3-3-1~3, E5-3-4-1~3
16	薬学臨床の基礎	F-1-1-1~3, F-1-3-1~7, F-1-3-9~15, F-2-1-1~4, F-2-2-1~11, F-2-3-2, F-2-3-4~8, F-2-3-10, F-2-3-12~13, F-2-3-15, F-2-3-17~19, F-2-4-2~15, F-2-5-1~13, F-2-6-1~14, F-3-1-1~7, F-3-2-1~6, F-3-3-1~14, F-3-4-1~13, F-4-1-1~9, F-4-2-1~4, F-5-1-1~6, F-5-2-1~4, F-5-3-1~9, F-5-4-1~3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	緒方	ガイダンス	
2~14	学内教員	薬物動態学、病理解剖学、構造活性相関、医薬品創製、感染制御学、ゲノム情報学の分野から、例えば悪性腫瘍、抗菌薬療法、製剤素材などの項目を取り上げて、関連する内容を横断的に講義する。必要に応じて模擬試験とその解説などを採り入れた授業形式を使い分ける。	1~10
15~27	学内教員	取り上げる学習項目を新たにし、2~14回シリーズと同様な方針で進める。	11~16
28	緒方	成績判定試験	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に教科書プリントへのマークや書き込みを促し、講義終了後には教科書が学生各自が作成し自らに適した「まとめの学習ノート」として仕上がるように仕向けている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

学生の学習意欲を刺激し、短期間のうちに最高レベルまで意識を高揚させることに努めている。その目的を達成するために、範囲は狭くても確実な収穫を学生に実感させる授業を行う。広く浅い知識を扱うことを避け、「この分野のこの領域は完全に理解した」と確信できる収穫を約束する。

〔成績評価方法〕

総括的評価 a) 知識：試験（100%）の結果に基づいて評価する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

講義中にプリントを配付する。

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

袴田 秀樹（分析化学教室）
山田 純司（臨床医療薬学センター）
緒方 正裕（薬学教育推進センター）
黒田 明平（薬学教育推進センター）

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に講義予定項目を確認し、教科書等で該当範囲を予習してから講義に臨むようにしてください。また、講義の後には必ず復習してください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次の講義のときに質問してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。また、特に必要性の高いものについては翌年以降の授業内容に反映させている。

演習の結果は、演習終了後、速やかに Webclass と掲示板で公開し、学生にフィードバックする。

〔教員からの一言〕

限られた時間の中で全ての分野・範囲を取り上げることはできませんが、6年間の総括という大仕事に向かって有効な動機付けとして機能することを期待します。

総合薬学演習Ⅰ

Comprehensive Pharmaceutical Sciences I

第6学年 後期 6年必修科目 6単位

各分野担当教員（ガイダンスで周知する）

学習目標 (GIO) これまで学んできた薬学専門科目に関する知識を総合的に整理し、高度化・多様化する医療の一翼を担う薬剤師として必要な知識基盤を確固たるものとする。総合薬学演習Ⅰは、基本事項・社会と薬学、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、衛生薬学、医療薬学、薬学臨床で構成される。

「基本事項・薬学と社会」では、薬剤師に必要な法規・制度・倫理について知識を整理し、薬事行政に応用できる知識を習得する。「化学系薬学」では、有機化合物としての医薬品の物性、反応性、分子レベルでの医薬品の作用機序等に関する基礎知識の整理と、基本的な知識を複数組み合わせ合わせた応用力を身につける。「物理系薬学」では、医薬品・生物分子を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な考え方を整理し、臨床や薬学研究で適切に応用できる知識を習得する。「生物系薬学」では、生体の構造、機能及び生体成分の代謝などに関する基礎的知識、また感染症の病原体、免疫のしくみなどに関する基礎的知識を整理し、薬物治療へ応用できる知識を習得する。「衛生薬学」では、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、生態学などの基礎的知識を整理し、臨床現場や保健行政分野で応用できる知識を習得する。「医療薬学」では、医薬品の薬理作用と相互作用、病態、薬物治療に関する知識や医薬品の体内動態、製剤に関する知識を習得する。臨床薬学では、病院・薬局長期実務実習における経験を基に医療現場で通用する実践力のある知識を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師の使命	A-1-1-4～7, A-1-2-2～8, A-1-3-2～7, A-1-4-1～4
2	薬剤師に求められる倫理感	A-2-1-1～4, A-2-2-1～3, A-2-3-2～4, A-2-4-1～2
3	信頼関係の構築	A-3-1-1～4, A-3-1-9, A-3-2-1
4	多職種連携協働とチーム医療	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-5-1
5	自己研鑽と次世代を担う人材の育成	A-5-1-3, A-5-1-5, A-5-2-1～2, A-5-3-1
6	人と社会に関わる薬剤師	B-1-1-1
7	薬剤師と医薬品等に係る法規範	B-2-1-1～8, B-2-2-1～11, B-2-3-1～3
8	社会保障制度と医療経済	B-3-1-1～7, B-3-2-1～4
9	地域における薬局と薬剤師	B-4-1-1～6, B-4-2-1～5
10	物質の構造	C1-1-1-1～3, C1-1-2-1～7, C1-1-3-1～6, C1-1-4-1～5
11	物質のエネルギーと平衡	C1-2-1-1～3, C1-2-2-1～7, C1-2-3-1～5, C1-2-4-1～4, C1-2-5-1～3, C1-2-6-1～4, C1-2-7-1～2
12	物質の変化	C1-3-1-1～3, C1-3-1-5～7
13	分析の基礎	C2-1-1-1～3
14	溶液中の化学平衡	C2-2-1-1～4, C2-2-2-1～4
15	化学物質の定性分析・定量分析	C2-3-1-1～2, C2-3-2-1～7
16	機器を用いる分析法	C2-4-1-1～5, C2-4-2-1, C2-4-3-1, C2-4-4-1～2, C2-4-5-1～2
17	分離分析法	C2-5-1-1～5, C2-5-2-1
18	臨床現場で用いる分析技術	C2-6-1-1～2, C2-6-2-1～5
19	化学物質の基本的性質	C3-1-1-1～9, C3-1-2-1～8

番号	内容	コアカリとの関連コード
20	有機化合物の基本骨格の構造と反応	C3-2-1-1~5, C3-2-2-1~3, C3-2-3-1~5
21	官能基の性質と反応	C3-3-1-1, C3-3-2-1~3, C3-3-3-1~2, C3-3-4-1~3, C3-3-5-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1~2
22	化学物質の構造決定	C3-4-1-1~5, C3-4-2-1~2, C3-4-3-1~4
23	無機化合物・錯体の構造と性質	C3-5-1-1~5
24	医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質	C4-1-1-1~2, C4-1-2-1~4
25	生体反応の化学による理解	C4-2-1-1~2, C4-2-2-1~3, C4-2-3-1~2, C4-2-4-1~2
26	医薬品の化学構造と性質、作用	C4-3-1-1, C4-3-2-1~2, C4-3-3-1~3, C4-3-4-1~6, C4-3-5-1~5, C4-3-6-1~3, C4-3-7-1
27	薬になる動植物	C5-1-1-1~4, C5-1-2-1, C5-1-3-1~2, C5-1-4-1~5
28	薬の宝庫としての天然物	C5-2-1-1~5, C5-2-2-1~2, C5-2-3-1, C5-2-4-1~3
29	細胞の構造と機能	C6-1-1-1~2, C6-1-2-1, C6-1-3-1
30	生命現象を担う分子	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1
31	生命活動を担うタンパク質	C6-3-1-1, C6-3-2-1~2, C6-3-3-1~4, C6-3-4-1~2
32	生命情報を担う遺伝子	C6-4-1-1~2, C6-4-2-1~3, C6-4-3-1, C6-4-4-1~5, C6-4-5-1, C6-4-6-1~2
33	生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	C6-5-1-1, C6-5-2-1~5, C6-5-3-1~2, C6-5-4-1~2, C6-5-5-1~3
34	細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	C6-6-1-1, C6-6-2-1~5, C6-6-3-1~2
35	細胞の分裂と死	C6-7-1-1~2, C6-7-2-1, C6-7-3-1~2
36	人体の成り立ち	C7-1-1-1~3, C7-1-10-1, C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-1-13-1, C7-1-14-1, C7-1-2-1~2, C7-1-3-1~4, C7-1-4-1~2, C7-1-5-1~2, C7-1-6-1, C7-1-7-1~3, C7-1-8-1, C7-1-9-1~2
37	生体機能の調節	C7-2-1-1~4, C7-2-10-1, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1, C7-2-5-1, C7-2-6-1, C7-2-7-1~2, C7-2-8-1, C7-2-9-1
38	身体をまもる	C8-1-1-1~4, C8-1-2-1~3, C8-1-3-1~5
39	免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	C8-2-1-1~6, C8-2-2-1~4
40	微生物の基本	C8-3-1-1, C8-3-2-1~6, C8-3-3-1, C8-3-4-1~2, C8-3-5-1~2
41	病原体としての微生物	C8-4-1-1~2, C8-4-2-1~9
42	社会・集団と健康	D1-1-1-1, D1-1-2-1~3, D1-1-3-1~4
43	疾病の予防	D1-2-1-1~2, D1-2-2-1~4, D1-2-3-1~3, D1-2-4-1~2, D1-2-5-1~2
44	栄養と健康	D1-3-1-1~8, D1-3-2-1~7, D1-3-3-1~3

番号	内容	コアカリとの関連コード
45	化学物質・放射線の生体への影響	D2-1-1-1～7, D2-1-2-2～5, D2-1-3-1～3, D2-1-4-1～4
46	生活環境と健康	D2-2-1-1～4, D2-2-2-1～3, D2-2-3-1～6, D2-2-4-1～3, D2-2-5-1～2, D2-2-6-1～3
47	薬の作用	E1-1-1-1～9, E1-1-3-1
48	身体の病的変化を知る	E1-2-1-1, E1-2-2-1～8
49	薬物治療の位置づけ	E1-3-1-1, E1-3-2-1
50	医薬品の安全性	E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E1-4-4-1
51	神経系の疾患と薬	E2-1-1-1～3, E2-1-2-1～2, E2-1-2-4, E2-1-3-1～11, E2-1-3-14, E2-1-4-1
52	免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬	E2-2-1-1～3, E2-2-2-1～9, E2-2-3-1～4, E2-2-4-1
53	循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬	E2-3-1-1～5, E2-3-2-1～5, E2-3-3-1～8, E2-3-4-1
54	呼吸器系・消化器系の疾患と薬	E2-4-1-1～4, E2-4-2-1～9, E2-4-3-1
55	代謝系・内分泌系の疾患と薬	E2-5-1-1～3, E2-5-2-1～5, E2-5-3-1
56	感覚器・皮膚の疾患と薬	E2-6-1-1～4, E2-6-2-1～2, E2-6-3-1～4, E2-6-4-1
57	病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬	E2-7-1-1～2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1～10, E2-7-4-1～6, E2-7-5-1～2, E2-7-6-1～2, E2-7-7-1～3, E2-7-8-1～13, E2-7-9-1～2
58	バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	E2-8-1-1～3, E2-8-2-1, E2-8-3-1～4
59	要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション	E2-9-1-1, E2-9-2-1, E2-9-3-1, E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E2-9-8-1
60	医療中の漢方薬	E2-10-1-1～4, E2-10-2-1～3, E2-10-3-1
61	薬物治療の最適化	E2-11-1-1～3
62	医薬品情報	E3-1-1-1～5, E3-1-2-1～6, E3-1-3-2～3, E3-1-3-5, E3-1-4-1～4, E3-1-5-1～7, E3-1-6-1～9, E3-1-7-1
63	患者情報	E3-2-1-1～2, E3-2-2-1～4
64	個別化医療	E3-3-1-1～3, E3-3-2-1～2, E3-3-3-1～3, E3-3-4-1～3, E3-3-5-1～2
65	薬物の体内動態	E4-1-1-1～2, E4-1-2-1～5, E4-1-3-1～6, E4-1-4-1～5, E4-1-5-1～5
66	薬物動態の解析	E4-2-1-1～6, E4-2-2-1～4
67	製剤の性質	E5-1-1-1～5, E5-1-2-1～2, E5-1-3-1～4, E5-1-4-1～3
68	製剤設計	E5-2-1-1～6, E5-2-2-1～4, E5-2-3-1
69	DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)	E5-3-1-1～2, E5-3-2-1～3, E5-3-3-1～3, E5-3-4-1～3
70	薬学臨床の基礎	F-1-1-1～3, F-1-2-1～3, F-1-3-1～5
71	処方せんに基づく調剤	F-2-1-1, F-2-2-1～6, F-2-2-8, F-2-3-1～8, F-2-4-1～8, F-2-5-1～8, F-2-6-1～7
72	薬物療法の実践	F-3-1-1～4, F-3-2-1, F-3-3-1～6, F-3-4-1～3

番号	内容	コアカリとの関連コード
73	チーム医療への参画〔A(4)参照〕	F-4-1-1~3, F-4-2-1~2
74	地域の保健・医療・福祉への参画〔B(4)参照〕	F-5-1-1~3, F-5-2-1~2, F-5-3-1~4, F-5-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~10	疾病と薬物治療担当教員	医療薬学	48-63
11~20	生物系系担当教員	生物系薬学	29-42
21~30	薬理系担当教員	医療薬学	48-63
31~40	化学系担当教員	化学系薬学	19-28
41~50	衛生化学担当教員	衛生薬学	43-47
50~56	薬学と社会、法規担当教員	基本事項、薬学と社会	1-9
57~64	物理、分析系担当教員	物理系薬学	10-18
65~70	薬剤、薬物動態系担当教員	医療薬学	64-69
71~80	臨床系薬学担当教員	薬学臨床	70-75

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

予め講義内容に関するキーワードを知らせ、予習しやすい様にしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:出題範囲を決め、演習を行い、結果を速やかにフィードバックする。成績が下位の学生には補講への出席を課す。

2) 総括的評価

a) 知識:総合演習試験(ペーパーテスト)を行い、到達度を評価する(100%)。

〔オフィスアワー〕

何時でも可能。ただし、前もって予約をしてください。

〔準備学習(予習・復習等)〕

予習:講義予定項目を事前に知らせるので、教科書、参考書などで疑問点をはっきりとさせておいてください。

復習:講義内容を整理するとともに、関連問題を数多く解いてください。また、演習で誤ったところは必ずやり直してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や要望については、必要に応じて全学生へその内容を伝えたり、掲示するなどの対応を行っている。

演習の結果は、演習終了後、速やかに WebClass と掲示板で公開し、学生にフィードバックする。

総合薬学演習Ⅱ（総括）

Comprehensive Pharmaceutical Sciences II

第 6 学年 後期 6 年必修科目 1 単位

各分野担当教員

学 習 目 標 (GIO) 医療の担い手として必要とされる基本的な知識等のほか、薬学の全領域に及ぶ一般的な理論や、医療を中心とした実践の場において必要とされる知識・技能・態度について、6 年間の学習を振り返り、演習を繰り返すことで、総合的な実力を身につける。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	基本事項	A-1-1-4～7, A-1-2-2～8, A-1-3-2～7, A-1-4-1～4, A-2-1-1～4, A-2-2-1～3, A-2-3-2～4, A-2-4-1～2, A-3-1-1～4, A-3-1-7～9, A-3-2-1, A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-5-1, A-5-1-2～5, A-5-2-1～2, A-5-3-1, A-5-4-2
2	薬学と社会	B-1-1-1, B-2-1-1～8, B-2-2-1～11, B-2-3-1～3, B-3-1-1～7, B-3-2-1～4, B-4-1-1～6, B-4-2-1～5

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
3	基礎薬学（物理、化学、生物）	C1-1-1-1～3, C1-1-2-1～7, C1-1-3-1～6, C1-1-4-1～5, C1-2-1-1～3, C1-2-2-1～7, C1-2-3-1～5, C1-2-4-1～4, C1-2-5-1～3, C1-2-6-1～4, C1-2-7-1～2, C1-3-1-1～3, C1-3-1-5～7, C2-1-1-1～3, C2-2-1-1～2, C2-2-1-4, C2-2-2-1～4, C2-3-1-1～2, C2-3-2-1～7, C2-4-1-1～5, C2-4-2-1, C2-4-3-1, C2-4-4-1～2, C2-4-5-1～2, C2-5-1-1～5, C2-5-2-1, C2-6-1-1～2, C2-6-2-1～5, C3-1-1-1～8, C3-1-2-1～6, C3-1-2-8, C3-2-1-1, C3-2-1-3, C3-2-1-5, C3-2-2-1～3, C3-2-3-1～5, C3-3-1-1, C3-3-2-1～3, C3-3-3-1～2, C3-3-4-1～3, C3-3-5-1, C3-3-6-1, C3-3-7-1～2, C3-4-1-1～4, C3-4-2-1～2, C3-4-3-1, C3-4-3-3, C3-5-1-1～5, C4-1-1-1～2, C4-1-2-1～4, C4-2-1-1～2, C4-2-2-1～3, C4-2-3-1～2, C4-2-4-1～2, C4-3-1-1, C4-3-2-1～2, C4-3-3-1～3, C4-3-4-1～6, C4-3-5-1～5, C4-3-6-1～3, C4-3-7-1, C5-1-1-1～4, C5-1-2-1, C5-1-3-1～2, C5-1-4-1～2, C5-1-4-4～5, C5-2-1-1～5, C5-2-2-1～2, C5-2-3-1, C5-2-4-1～3, C6-1-1-1～2, C6-1-2-1, C6-1-3-1, C6-2-1-1, C6-2-2-1～2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1, C6-3-1-1, C6-3-2-1～2, C6-3-3-1～3, C6-3-4-1～2, C6-4-1-1～2, C6-4-2-1～3, C6-4-3-1, C6-4-4-1～5, C6-4-5-1, C6-4-6-1～2, C6-5-1-1, C6-5-2-1～5, C6-5-3-1～2, C6-5-4-1～2, C6-5-5-1～3, C6-6-1-1, C6-6-2-1～5, C6-6-3-1～2, C6-7-1-1～2, C6-7-2-1, C6-7-3-1～2, C7-1-1-1～3, C7-1-10-1, C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-1-13-1, C7-1-14-1, C7-1-2-1～2, C7-1-3-1～2, C7-1-4-1～2, C7-1-5-1～2, C7-1-6-1, C7-1-7-1～3, C7-1-8-1, C7-1-9-1～2, C7-2-1-1～4, C7-2-10-1, C7-2-2-1, C7-2-3-1, C7-2-4-1, C7-2-5-1, C7-2-6-1, C7-2-7-1～2, C7-2-8-1, C7-2-9-1, C8-1-1-1～4, C8-1-2-1～3, C8-1-3-1～5, C8-2-1-1～6, C8-2-2-1～4, C8-3-1-1, C8-3-2-1～6, C8-3-3-1, C8-3-4-1～2, C8-3-5-1～2, C8-4-1-1～2, C8-4-2-1～9

番号	内容	コアカリとの関連コード
4	衛生薬学	D1-1-1-1, D1-1-2-1~3, D1-1-3-1~4, D1-2-1-1~2, D1-2-2-1~4, D1-2-3-1~2, D1-2-4-1~2, D1-2-5-1~2, D1-3-1-1~8, D1-3-2-1~7, D1-3-3-1~3, D2-1-1-1~7, D2-1-2-2~5, D2-1-3-1~3, D2-1-4-1~4, D2-2-1-1~4, D2-2-2-1~3, D2-2-3-1~6, D2-2-4-1, D2-2-4-3, D2-2-5-1~2, D2-2-6-1~3
5	医療薬学	E1-1-1-1~9, E1-1-3-1, E1-2-1-1, E1-2-2-1~8, E1-3-1-1, E1-3-2-1, E1-4-1-1, E1-4-2-1, E1-4-3-1, E2-1-1-1~3, E2-1-2-1~2, E2-1-2-4, E2-1-3-1~12, E2-1-3-14, E2-1-4-1, E2-10-1-1~4, E2-10-2-1~3, E2-10-3-1, E2-11-1-1~3, E2-2-1-1~3, E2-2-2-1~9, E2-2-3-1~4, E2-2-4-1, E2-3-1-1~5, E2-3-2-1~5, E2-3-3-1~8, E2-3-4-1, E2-4-1-1~4, E2-4-2-1~9, E2-4-3-1, E2-5-1-1~3, E2-5-2-1~5, E2-5-3-1, E2-6-1-1~4, E2-6-2-1~2, E2-6-3-1~4, E2-6-4-1, E2-7-1-1~2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1~10, E2-7-4-1~6, E2-7-5-1~2, E2-7-6-1~2, E2-7-7-1~3, E2-7-8-1~13, E2-7-9-1~2, E2-8-1-1~3, E2-8-2-1, E2-8-3-1~4, E2-9-1-1, E2-9-2-1, E2-9-3-1, E2-9-5-1, E2-9-6-1, E2-9-7-1, E3-1-1-1~5, E3-1-2-1~6, E3-1-3-2~5, E3-1-4-1~4, E3-1-5-1~4, E3-1-5-6~7, E3-1-6-1~9, E3-1-7-1, E3-2-1-1~2, E3-2-2-1~4, E3-3-1-1~3, E3-3-2-1~2, E3-3-3-1~3, E3-3-4-1~3, E3-3-5-1~2, E4-1-1-1~2, E4-1-2-1~5, E4-1-3-1~6, E4-1-4-1~5, E4-1-5-1~5, E4-2-1-1~6, E4-2-2-1~4, E5-1-1-1~5, E5-1-2-1~2, E5-1-3-1~4, E5-1-4-1~3, E5-2-1-1~6, E5-2-2-1~4, E5-2-3-1, E5-3-1-1~2, E5-3-2-1~3, E5-3-3-1~3, E5-3-4-1~3
6	薬学臨床	F-1-3-1~5, F-2-1-1, F-2-2-1~6, F-2-3-4~6, F-2-3-8, F-2-4-2~3, F-2-4-5, F-2-4-7, F-2-5-1~8, F-2-6-1~7, F-3-1-1, F-3-1-3~4, F-3-2-1, F-3-3-1~9, F-3-4-1~3, F-4-1-1~3, F-4-1-6, F-4-2-1~3, F-5-1-1~6, F-5-2-1~4, F-5-3-2, F-5-3-4, F-5-4-1

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~14	基本事項、薬学と社会、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学衛生薬学、医療薬学、薬学臨床担当教員	演習問題、問題解説を中心に進める。	1~6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

提示された問題について、個人あるいはグループ学習により、解説を加え、問題対応能力を高める。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 演習を行い、結果を速やかにフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識: 総合薬学演習試験を行い、到達度を評価する (100%)。

〔教科書〕

演習問題を含むプリントを配布。

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、事前に予約することが望ましい。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習: 講義予定項目を事前に知らせ、教科書、参考書などで疑問点を明確にさせている。

復習: 講義内容を整理するとともに、関連の薬剤師国家試験問題を数多く解くように指導している。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問、要望などに対して、必要に応じて講義中に全学生に伝達する他、WebClass と掲示板で公開している。

〔教員からの一言〕

総括的評価 (総合薬学演習試験) においては、薬学教育モデル・コアカリキュラム及び実務実習モデル・コアカリ関連教科、すなわち、物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 (総合薬学演習 I の範囲を含む) の他、本学における 6 年間の学修内容を総括した試験問題が用いられます。本演習内で全ての範囲を網羅することは困難ですので、各自で十分な準備の上、試験に臨んでください。

地球環境概論

Introduction to Global Environment

第1学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

高橋 勇二 梅村 知也 (生命科学部)

藤原 泰之 (薬学部)

学習目標 (GIO) 今日、人類の活動は、地域の環境や地球全体の環境にさまざまな形で関わっており、社会問題となっていることも多い。生活環境と健康についての理解を深めるため、化学物質や生態系を構成する生物等に視点を置き、水や大気の問題解決に向けて、人類がどう対処すべきであるかを考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地球規模の環境問題の成因について概説でき、人への影響を説明できる。また、典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	D2-2-1-1, D2-2-2-1
2	生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。また、生態系における生物の多様性を理解する。	D2-2-1-2
3	化学物質の環境動態 (生物濃縮など) について例をあげて説明できる。	D2-2-1-3
4	環境中に存在する主な放射性核種を挙げ、また、電離放射線を列挙して、人の健康への影響について説明できる。	D2-1-4-1 ~ 2
5	環境保全に関する国際的な取り組みを把握し、人が生態系の一員であることを認識して、環境問題を討議する。	D2-2-1-4 ~ 5
6	主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。	D2-2-4-1
7	主な大気汚染物質の濃度測定と、健康影響について説明できる。	D2-2-1-1, D2-2-4-2
8	大気環境、大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。	D2-2-1-1, D2-2-4-3
9	薬物の乱用による健康への影響について説明できる。	D2-1-1-5
10	環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) や重金属などの有害化学物質が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。	D2-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	梅村	生態系や健康への影響が懸念される化学物質について	3, 10
2	"	大気・海洋汚染の現状と汚染物質の輸送・循環・生物濃縮について	2, 5, 6
3	"	東アジア地域における越境大気汚染問題について	6, 8
4	"	都市部での大気環境汚染問題について	7
5	藤原	地球環境と生態系、四大公害病について	1, 2, 3, 7
6	"	放射性核種と放射線、放射線の生体影響について	4
7	"	非電離放射線の種類と生体影響、オゾン層破壊について	1, 3, 5
8	"	世界のヒ素汚染、水銀汚染について	1, 5
9	"	医薬品等による水環境汚染について	1, 5, 10
10	高橋	人間活動と環境 (1) 人間活動がもたらした温暖化と気候変動について	1, 8
11	"	人間活動と環境 (2) 人類の進化と適応の過程、人口増加機構について	5
12	"	人間活動と環境 (3) 健康の維持と環境保全の関わりについて	5, 10
13	"	人間活動と環境 (4) 薬害と環境汚染による健康被害について	9, 10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中の重要点や疑問点について考える時間を与えるなどの工夫により、積極的な受講姿勢を促す。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義ごとに授業参加の積極度を評価し、学生の習熟状況の把握に努める。また、担当教員ごとに評価することで、問題解決能力に必要な能力の拡大を図る。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：出席とともに質問を出させたりすることにより、理解を深める。

b) 技能：小レポートや質問等により、技能評価を行う。

c) 態度：講義ごとに受講態度を評価する。

2) 総括的評価

a) 知識：担当教員によるまとめの試験やレポート等をもとに総合的に評価する。配点は、3名の担当教員の時間数に応じた配点（藤原は40%、梅村と高橋は各30%）とする。

3) 成績評価（総括的評価）

- ・S（90%以上）：合格
- ・A（80～90%未満）：合格
- ・B（70～80%未満）：合格
- ・C（60～70%未満）：合格
- ・D（60%未満）：不合格

〔教科書〕
指定しない。

〔参考書〕
必要に応じて、講義の中で紹介する。

〔オフィスアワー〕
下記連絡先に連絡して、予約すること。

〔所属教室〕

高橋	生命科学部環境ストレス生理学研究室	研究3号館4階
梅村	生命科学部生命分析化学研究室	研究3号館3階
藤原	薬学部公衆衛生学教室	研究1号館4階

〔準備学習（予習・復習等）〕
授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。社会問題となっている環境に関わる記事やニュースを、新聞やTVで理解しておいてください。また、講義で理解したことを、2日以内に確認しなおしてください。

〔学生へのフィードバック〕
課題やレポートの返却時にフィードバックを行う。

障がい論

Disability Studies

第1学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

今野 明子

学習目標 (GIO) これからの医療人にはコミュニケーションが大変重要になってきます。この授業では、見た目ではわかりにくい「聴覚障がい」を取り上げ、聴覚障がいのコミュニケーション手段の一つである「手話」を学ぶことを中心に、聴覚障がいの文化や生活の様子、福祉制度や課題等について理解を深めていきます。そこから、相手の状態や気持ちを思いやり、適切に対応するというコミュニケーションの基本を習得し、自分自身のコミュニケーション能力を高めることをめざします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	手話の基本的な表現技術を習得し、簡単な会話ができる。	A-3-1-1~2
2	手話による歌、ダンス、演劇などの魅力を理解できる。	A-3-1-3
3	聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について説明し、実践できる。	A-3-1-1~3
4	聴覚障がい者に対して、相手の状況や気持ちを配慮し、適切な対応ができる。	A-3-1-3, A-3-1-5, A-3-1-7~8
5	聴覚障がい者の生活や文化、福祉制度を理解し、課題を検討できる。	A-3-1-3, A-3-1-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	今野	オリエンテーション 手話の魅力 手話の歌	1、2、5
2	"	基本的な手話表現 (挨拶・名前) デフファミリーの生活	1、3、4、5
3	"	基本的な手話表現 (住所)	1、3、4、5
4	"	指文字表現 聴覚障がいに関する基礎知識	1、3、4、5
5	"	基本的な手話表現 (趣味・好き嫌い) 聴覚障がい者の生活	1、2、3、4、5
6	"	基本的な手話表現 (家族) 聴覚障がい者の教育	1、3、4、5
7	"	基本的な手話表現 (数字) 聴覚障がい者の文化	1、2、3、4、5
8	"	医療現場で役立つ手話 聴覚障がい者の就労	1、3、4、5
9	"	場面ごとの会話練習 (1) 聴覚障がい者の情報保障	1、3、4、5
10	"	場面ごとの会話練習 (2) 聴覚障がい者をサポートする福祉機器、福祉制度	1、3、4、5
11	"	聴覚障がい者による講演	1、2、3、4、5
12	"	さまざまなコミュニケーション方法 (筆談、口話、身振り等) の学習 コミュニケーションのポイント	1、3、4、5
13	"	手話実技試験	1、3、4、5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・学生同士が手話で会話する時間を設けている。
- ・映像視聴時には、リアクションペーパーを提出させている。
- ・手話実技試験は、発表会形式で行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・手話実技の時間を多くとり、一人ひとりの手話をチェックしながら、確実に覚えるようにする。
- ・聴覚障がい者を招いて、生きた手話に触れながら生活体験談を聞く。
- ・聴覚障がい者の生活や教育、就労の様子を収めた映像を多く視聴して、聴覚障がい者の生活や文化、日本の障がい者福祉制度と課題について理解を深める。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：映像視聴時や講演会時にはリアクションペーパーを提出させている。
- b) 技能：手話実技について、こまめにフィードバックしている。
- c) 態度：受講態度 (実技への取り組み方、提出物等) を加味する。

2) 総括的評価

- a) 知識：レポート提出1回。他の提出物とあわせて、総合的に評価する。(50%)
- b) 技能：手話表現の実技試験を行う。(40%)
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で向上すれば合点とする。(10%)

〔教科書〕

特になし（適宜プリント配布）

〔参考書〕

『持ち歩き やさしい手話の本』豊田直子著 日本文芸社

〔オフィスアワー〕

前期・月曜、後期・木曜の授業時間帯前後 薬学事務課にて可。

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業で学習した手話表現を日常生活でも活用して覚えること。

〔学生へのフィードバック〕

- ・手話実技では学生同士がお互いの手話表現を見ることにより、自身の表現のふりかえりを行う。
- ・レポートや提出物には教師がコメントを加え、さらに考察を深めるための示唆を与える。

〔教員からの一言〕

手話は難しいと考えている人が多いと思いますが、実際に手を動かしてみると手話の面白さや奥深さを実感する人も多いです。自分の世界を広げ、コミュニケーション能力を磨くという意味でも、ぜひ挑戦してみてください。

社会学

Sociology

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

長島 祐基

学習目標 (GIO) この授業では社会学の様々な論点を踏まえつつ、民主主義や大学、労働、医療といった問題を考える中で、働くことや大学で学ぶことなど、身の回りの問題と社会の大きな仕組みや動きとの関係を考えていきます。前半では社会学とはどのような学問なのかを踏まえた上で、民主主義や公共性、コミュニケーションといったトピックを社会学の立場から考えていきます。後半では大学と社会の関係、労働の変化といった戦後日本の社会変化を踏まえた上で、大学をめぐる問題や労働や医療に関する問題、日本の民族問題を扱います。また、受講者が将来薬学関係の道に進む学生であることを考え、20世紀の医療をめぐる問題や医療の記録にも着目し、医療人の社会的責任の問題も扱います。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	B-1-1-1
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。	A-1-1-2
3	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。	A-1-2-1
4	現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。	A-1-2-8
5	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。	B-1-3-1
6	自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。	A-4-4-1
7	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。	A-4-5-1
8	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。	A-5-1-3
9	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。	A-5-1-4
10	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	長島	オリエンテーション	1, 2, 5
2	長島	20世紀の社会と社会学の発展	1, 2, 3, 4, 5
3	長島	社会調査と現代社会	1, 2, 3, 8, 9
4	長島	民主主義と現代社会	1, 2, 3, 4, 7
5	長島	コミュニケーションと現代社会(1)	1, 3, 5, 6, 7
6	長島	コミュニケーションと現代社会(2)	1, 3, 5, 6, 7
7	長島	大学と社会	1, 3, 4, 6, 8, 10
8	長島	労働問題と現代社会(1)	1, 3, 5, 7
9	長島	労働問題と現代社会(2)	1, 3, 5, 7
10	長島	医療問題と現代社会	1, 2, 3, 4, 5, 7
11	長島	医療の記録と現代社会	1, 2, 3, 4, 5, 7
12	長島	日本の民族問題	1, 4, 5, 6
13	長島	授業まとめ	4, 5, 8, 9, 10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業内で複数回課題を設定し、リアクションペーパーを提出する。
レポート執筆を通じて、問いを設定し、情報を収集・選択し、論理的にまとめ表現する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

リアクションペーパーをもとに双方向的な授業を行う。
課題をこなしながら社会的な思考を身につける。
映像資料を活用し、関心・理解を高める。

当たり前を疑う思考法を身につける。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識: 課題をおこない、解説にてフィードバックする。
- b) 技能: レポート執筆とコメントを通じて技能を習得する。
- c) 態度: リアクションペーパーをもとに確認する。
- d) パフォーマンス: 課題とレポート執筆を通じて習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- a) 知識: リアクションペーパー・コメント課題(合計20%)、中間課題(30%(15%×2))、期末レポート(50%)として評価する。
- b) 技能: レポートにより評価する。
- c) 態度: リアクションペーパーにより評価する。
- d) パフォーマンス: 形成的評価により判断する。

〔教科書〕

とくに指定しません。

毎回の授業でレジюме・資料を配布します。

〔参考書〕

社会学全般としては、長谷川公一ほか, 2007, 『社会学』有斐閣.
社会調査に関しては、盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣.
そのほか、配布するレジюме・資料のなかで参考となる文献を紹介します。

〔オフィスアワー〕

授業の前後に質問を受け付けます。

また、メールでの質問にも対応します。

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業で配布されたレジюме・資料を事前・事後によく読んでください。

受講者は、講義の内容をもとにレポート執筆に取り組みます。

計画的に執筆を進めていってください。

〔学生へのフィードバック〕

リアクションペーパーを紹介し授業の中で適宜コメントをつけます。

中間レポートに対して最終回の授業でコメントやアドバイスをを行います。

〔教員からの一言〕

社会学の学問体系を踏まえつつ、物事を歴史的・理論的に考える視点を養います。受講生の多くが医学・薬学を志す人であることを考え、戦後の様々な活動と医療の世界との接点も幾つか取上げます。自分たちが生きる世界と大きな問題が繋がっていること、歴史と今が密接に繋がっていることを考えて頂ければと思います。

現代経済論

Contemporary Economics

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

五十嵐 中

大森 正博

学習目標 医療スタッフの一員として必要な、医療経済学と経済学全般の考え方の基礎を習得・理解する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	経済学および医療経済学の基礎を理解する。	B-3-1-1~7, B-3-2-1~4
2	日本の医療に関する問題点を概説できる。	B-3-1-1~7, B-3-2-1~4
3	日本の医療制度を概説できる。	B-3-1-1~7, B-3-2-1~4, Y-2-2-1
4	医療サービスの性質と、医療制度との関係を概説できる。	B-3-1-1~7, B-3-2-1~4
5	医療保険制度の基本を概説できる。	B-3-1-1~7, B-3-2-1~4, Y-2-2-1
6	医療サービスの供給者としての、医療関係者および医療機関の役割を概説できる。	Y-2-2-1
7	医療政策・医療規制・医療技術評価の基本を概説できる。	Y-2-2-1, Y-2-3-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	五十嵐	現代経済論・概論	1
2	"	日本の医療の問題点	2
3	"	日本の医療保障制度・概説(1)	3
4	"	日本の医療保障制度・概説(2)	3
5	"	医療サービスの性質と医療制度(1)	4
6	"	医療サービスの性質と医療制度(2)	4
7	"	競争と規制	5
8	大森	医療保険制度(1)	5
9	"	医療保険制度(2)	6
10	"	医療サービスの供給者の行動(1)	6
11	"	医療サービスの供給者の行動(2)	7
12	五十嵐	医療経済学から薬剤経済学へ(1)	7
13	"	医療経済学から薬剤経済学へ(2)	7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
ワークショップ形式を一部に導入する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
一方通行の授業とならないように、書き込みプリントを中心とした講義を行う。

〔成績評価方法〕

1) 総括的評価

a) 知識: 試験によって評価する。(100%)

〔教科書〕

五十嵐 中「ちゃんとした薬剤経済学」(京都廣川書店)

〔参考書〕

大森正博. 医療経済論 (シリーズ・現代経済の課題). 岩波書店; 2008.

〔オフィスアワー〕

特になし

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業プリントの内容の復習。

〔学生へのフィードバック〕
さらに発展的な学習を希望する学生には、教育プログラムやワークショップの紹介も行う。

数学 II

Mathematics II

第 1 学年 後期 (選択) 一般教養 1 単位

片野 修一郎

学習目標 (GIO) 【微分方程式序論】 前期までに学んだ内容を基礎にして、より高度な数学を学ぶ。高等学校のカリキュラムを超える内容は、この数学 II で初めて現れる。具体的には、2 年次以降で学習する薬学系専門科目に現れる微分方程式が自力で解けること、それらの教科書の数学的記述の部分がスラスラ読めるようになる (数学を使う 2 年次以降の専門科目が余裕でわかってしまうこと、結果を覚えるのではなく本に出ている微分方程式が自力で解ける) ことを目標としたい。反応次数・反応速度定数・半減期・薬物動態などの薬学的現象を微分方程式を用いて数学的に表現する方法を理解し、独力で計算が進められることも後半の主要課題の一つとしたい。「用語の定義すらわかっていない」まま、2 年次以降の関連科目の授業を受けるというようなことがないように、徹底的に用語の意味を説明することにも留意したい。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	1 変数関数の高次導関数が計算できる。Taylor (Mac'Laurin) 展開の意味と意義を理解し、具体的にそれを求めることができる。	X-7-3-2
2	まず、前期の積分についてもう一度復習し、きちんとわかっていることを確認する。広義積分、特に無限積分の概念を理解し、それらを計算できる。これを理解していると、2 年次の統計学に現れる連続型確率変数の確率計算の意味がわかる。	X-7-3-3
3	運動や反応速度に代表される現象が位置関数や濃度関数の微分によって捉えられることを理解する。反応次数・反応速度定数・半減期の数学的表現や意味を理解し、それらを求めることができる。	X-4-2-1, X-5-3-3
4	微分方程式とは何かを理解する。微分方程式論にまつわる種々の概念 (一般解、特殊解、特異解、階数、初期条件など) を理解する。常微分方程式の作り方がわかる。	X-7-3-4
5	変数分離型微分方程式の意味を理解し、求積法によってそれが解ける。薬学で必要になる微分方程式はほぼこのタイプだけである。可能なら、ベキ級数を用いた解法も紹介する。	X-7-3-4
6	1 階線型常微分方程式の意味を理解し、求積法によってそれが解ける。線型性という性質が解の構造にどのように影響するのかについても可能な限り理解する (定数変化法)。	X-7-3-4
7	定数係数齊次 2 階線型常微分方程式を固有方程式を用いて解くことができる。固有方程式の解のあり方によって、それぞれが特有の物理現象を表現することを知る。解の独特な構造の美しさを味わう。	X-7-3-4
8	薬物動態に現れる 1-コンパートメントモデルの数学的定式化について理解する。得られた微分方程式が自力で解ける。	E4-2-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	片野	当講義のイントロダクション。フェルメールの絵の贋作問題が、放射性元素に関する微分方程式を用いて解決されたことを紹介し、「微分方程式とは何か」というおおよその展望をもってもらう。	4
2~3	"	1 変数関数の高次導関数と Taylor 展開。その過程で合成関数の微分法の復習もしたい。	1
4~6	"	前期の積分の復習と置換積分・部分積分。部分分数分解を必要とする有理関数の積分。	2
7	"	広義積分 (無限積分)。	2
8	"	物理の運動方程式を微分方程式として捉える。物理現象を微分方程式として捉え、それを具体的に立てる。反応次数・反応速度定数・半減期などの数学的表現や意味を理解し、それを求める。	3, 4
9	"	常微分方程式の意味と様々な用語の定義。「微分方程式を解く」という言葉の意味を知る。微分方程式を解くことが積分すること (求積法) であることを知る。	3, 4
10,11	"	変数分離型の常微分方程式の解法。これは薬学で最も頻繁に現れる非常に基本的な微分方程式を含む。指数関数の特徴を微分方程式を通して捉え直す。	5, 6, 7
11,12	"	正規形の 1 階線型常微分方程式の解法。これも薬学で頻繁に現れる。	5, 6, 7
13	"	定数係数齊次 2 階線型常微分方程式の解法。これは物理の減衰振動などに典型的に現れる。	5, 6, 7

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
14,15	"	薬物動態で最も基本となる 1-コンパートメントモデルの微分方程式による数理モデルについて理解する。クリアランスの数学的表現の仕方を学ぶ。	8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・講義を進行しながら、自らの手を動かして演習問題を解いたり、それらを黒板で発表する機会を多く設ける予定です。数学はわいわい議論しながらやった方が絶対楽しいし、理解も深まります。
- ・理解が深まる面白いレポート課題を適宜課します。
- ・時間が許せば、Taylor 展開やフーリエ展開の様子を数式処理ソフトを使って描画した結果などもスクリーンに映して visual 的に確認してもらいます。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・授業では、説明と演習を交互に取り入れる。
- ・演習課題を学生が黒板に書いて発表する機会をできるだけ設定します。
- ・沢山の言葉を用いて可能な限り丁寧にゆっくり説明しています。特に用語や式の意味をわかりやすく説明することに心を砕いています。
- ・後でノートをひっくり返したときにきちんと読めるように、板書はフルセンテンスを書くように心がけています。
- ・数式処理ソフトによる映像なども適宜ご覧にいきます。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：演習問題の授業時間内での発表やレポート問題の提出、質問 (するのと答えるのと両方)、WebClass への詳細な解説記事の掲載などを通して主体的に考えることを促す。

2) 総括的評価

- a) 知識：基本的には定期試験 (100%) で評価するが、授業時間内の演習問題の解答発表、質問、レポートの提出などは勘案する。

〔教科書〕

片野修一郎著『根底から理解する 微分積分学入門』(ムイスリ出版)
前期の数学Ⅰで使ったものです。

〔参考書〕

前期にも紹介した

小林賢・熊倉隆二編『わかりやすい薬学系の数学演習』(講談社)
は本講義の問題演習にも、国試対策にも使えます。授業で使用することはありません。

〔オフィスアワー〕

毎週火曜午後学習相談の時間を設けていますが、それとは無関係に質問は 2109 研究室にていつでも受け付けます。予約などは不要。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109

〔準備学習 (予習・復習等)〕

前期までの学習内容が完全にわかっていること、それに尽きます。「微分」とついていますが、純粋に微分するのは微分方程式を立てるときだけで、微分方程式を解くときは「積分」します。ですから、積分に不安があるようでは微分方程式は扱えません。とりわけ「積分」をしっかり理解しておく必要があります。

〔学生へのフィードバック〕

普段から時間の許す範囲でできるだけ多くの演習問題を (ときには黒板に出てもらって) 解いてもらい、その結果を見て、「どこがいいのか、どこが悪いのか」といった講評を加え、解説を入念にすることでフィードバックとする。学問は正解を覚える作業のことではありません。ですから、「問題は何か」「自分は何が理解できていないのか」「なぜそれが間違いなのか」を認識することから学問の学びは始まるのです。それを認識してもらうのがフィードバックです。本当なら、皆さん自身が学習の過程で必然的に実行していなくてはならない当たり前のことなのです。時には、わざと間違ったことを書いて皆さんがそれに気づくかどうか試すこともあるかもしれません。

〔教員からの一言〕

前期の数学Ⅰがあまりに基礎的な内容だったので不満を感じた人も、当講義は大学で初めて学ぶ内容がほとんどなのでやり甲斐を感じることでしょう。本格的な数学をやっていると実感することができると思います。扱い方や説明の仕方を変更することもあるので、講義内容の順番が多少入れ替わる可能性があります。

また、これは本講義を受講するような、数学への意欲が高い人たちにも見受けられることですが、基本的な式の変形が妙に回りくどかったり下手だったりすることが数学の学習への障害になっていることがあるようです。中学数学の基本を馬鹿にしないで、自分のやっている計算を普段からよく見つめる姿勢が大事です。「何が問題なのか」「何が変数で何が定数なのか」といったことを曖昧にしたままで式変形に溺れる人も非常に多いです。数学は、ロボットのように機械的に正確に式変形をすればできるようになるというのは、日本の若者の大多数が陥っている勘違いです。

倫理学

Ethics

第1・2学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

櫻井 浩子 猪俣 敦夫 津田 侑 降旗 聖子

学習目標 (GIO) 現代社会においては、情報の漏洩などが発生すると盗難や窃盗とは異なり完全に元の状態に戻すことはほぼ不可能である。このため「情報」を適切に保護し、維持・管理し、運用をするといったことを網羅的に学んでおくことは私たちの生活において必須であり、そこに潜むリスクを見つけ出すことは喫緊の課題である。講義前半では、情報セキュリティを学ぶ上で特に医療全体において必要となるインターネットの技術的側面から、システムの安全性、リスクマネジメント、サイバーリスクといった幅広い領域を扱うこととする。後半では、医療現場における患者の個人情報について取り上げる。近年病院においてはチーム医療が常識的取り組みとなり、医療者全体が患者の個人情報を含んだ情報を共有することで、より患者のニーズに近い医療を提供できるようになった。一方、これらの情報は個人情報保護の視点、守秘義務さらには医療者としての倫理的配慮の元に適切に管理されなければならない。そこで、病院における具体例をもとに、薬剤師に必要とされる倫理観について考え、多角的視点から臨床事案に対応できる知識を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	インターネットの仕組みを概説できる。	X-8-1-4
2	データベースの特徴と活用について概説できる。	X-8-2-5
3	ネットワークセキュリティーについて概説できる。	X-8-3-1
4	知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。	A-2-3-4
5	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。	A-5-1-5
6	個人情報の取扱いについて概説できる。	B-2-1-7
7	在宅移行への病院と薬局、地域福祉、患者家族との連携について概説できる。	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1
8	医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	A-1-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	猪俣	情報セキュリティ基礎：インターネットとその裏に潜むリスクインターネット技術を概観するとともに、サイバーリスクとして過去に起きたサイバー事件や情報セキュリティに関わる法律に触れる	1, 2, 3, 5
2	猪俣	情報セキュリティ基礎：暗号技術共通鍵暗号と公開鍵暗号の仕組みを理解し、インターネットとの関わりを概観する	1, 2, 3, 5
3	津田	サイバー攻撃の脅威とその歴史：ネットワークを介した攻撃（サイバー攻撃）の脅威や歴史を実例を交えながら紹介する	1, 2, 3, 5
4	津田	医療情報システム概論：電子カルテや遠隔医療情報システムを始めとした医療現場における情報システムを紹介し、そこで取り扱われる情報についてまとめる	1, 2, 3, 4, 5, 6
5	津田	医療情報システムとサイバーセキュリティ：第3、第4回講義を踏まえ、医療情報システムを扱う上でのリスクについて実例を交えながら考える	1, 2, 3, 4, 5, 6
6	津田	情報セキュリティインシデントへの対応：医療現場で発生しうる情報セキュリティインシデント(事故)を想定し、その対応方法を学ぶ	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8
7	降旗	入院：電子カルテの取り扱い－患者の個人情報とプライバシー情報について	4, 5, 6
8	降旗	入院：電子カルテの取り扱い－職員同士の個人情報とプライバシー情報について	4, 5, 6
9	降旗	退院：在宅医療への情報提供、薬薬連携について	4, 6, 7
10	降旗	外来：治療に対する同意－遺伝子検査について	4, 6
11	降旗	外来：インシデントについて	8
12	降旗	病院における情報管理	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
13	櫻井	まとめ	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

発言に機会を設け、講義内容を主体的に考え理解するよう促す。
積極的な思考を促すため、テーマを決めグループワークを実施する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
WebClassにて講義資料をダウンロードできるようにし、授業外学習を促す。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:授業内における質疑応答により到達レベルを評価する（20％）。

2) 総括的評価

a) 知識:定期テストにより行う（80％）。

〔教科書〕

毎回の授業でレジュメと資料を配布します。

〔オフィスアワー〕

何時でも可。事前にメールで予約をしてください。

〔所属教室〕

櫻井 浩子 生命・医療倫理学研究室 教育3号館1階3102-1

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義前にWebClassに資料をアップするので、事前に読んでおくこと。
講義のときに自分の考えを発表できるように下調べをしておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

学生の発表に対し、解説を加える。

〔教員からの一言〕

哲学概論

Introduction to philosophy

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

岸・ツグラッゲン・エヴェリン

学習目標 (GIO) Philosophy (哲学) とは知を愛することを意味する。哲学するとは、あらゆる物事に対し「なぜ」を問い続ける営みである。哲学は、人間が自分の行動を反省し、よりよい人生を送るための考え方や知識を参考材料として提供しようとするものである。よりよい人生を送るためには、自分とはどのような存在であるかということに関する自然科学的・社会的な考察を行うとともに、どのような生き方がよりよい生き方であるかについて、それなりに思索する必要がある。自然科学、社会科学による人間研究の成果を参照しつつ、総合的な人間学について理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	人間についての進化論の意義を理解する。	X-1-1-1
2	人間の心についての多様な見方を理解する。	X-1-1-1
3	近代の心身二元論について理解する。	X-1-1-1
4	哲学的な知識論、真理論について理解する。	X-1-1-1
5	哲学的な言語論について理解する。	X-1-1-1
6	生命哲学について理解する。	X-1-1-1
7	哲学と平和について理解する。	X-1-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	ツグラッゲン	哲学的人間学の課題	
2	ツグラッゲン	進化論的人間観	1
3	ツグラッゲン	人間の心 (1) 近代哲学における心の概念	2
4	ツグラッゲン	人間の心 (2) 脳科学と心の概念	2
5	ツグラッゲン	人間の行動 利己的遺伝子説の意義	1
6	ツグラッゲン	心身二元論とその困難	3
7	ツグラッゲン	人間の知識 (1) 合理論の考え方 アプリオリ	4
8	ツグラッゲン	人間の知識 (2) 経験論の考え方 アポステリオリ	4
9	ツグラッゲン	一、言語論的展開 フレーゲの言語哲学 一、ウィトゲンシュタインの言語哲学 『論理哲学論考』、 『哲学探究』	5
10	ツグラッゲン	カント哲学の紹介 『永遠平和のために』の抜粋を読む	7
11	ツグラッゲン	スピノザ哲学の紹介と哲学史上の意義 『エチカ』の抜粋を読む	3, 6
12	ツグラッゲン	生命哲学の起源と発展について	6
13	ツグラッゲン	『ラッセル・アインシュタイン宣言』を読む	7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
レポートを提出させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
毎時間、プリントを配布して、授業内容を明示している。

〔成績評価方法〕
定期試験の結果に授業への出席を加味して総合評価する。なお、出席不良者に対しては受験停止の措置を講ずることがあるので注意すること。初回のガイダンスで説明する。

〔教科書〕
とくに使用しない。(プリント配布)

〔参考書〕
授業中に紹介する。

〔オフィスアワー〕
授業の前後の時間。要予約。

〔準備学習（予習・復習等）〕
配布プリントをよく理解する。

〔学生へのフィードバック〕
zraggen@soka.ac.jp までメールしていただければ、返答します。

〔教員からの一言〕
初回の授業でガイダンス用プリントを配布するので、出席すること。
質問などがあれば、zraggen@soka.ac.jp までメールで連絡してください。

美術・デザイン

Art and Design

第1・2学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

新倉 慎右

学習目標 (GIO) 近世までの西洋美術を中心に、芸術がたどってきた歴史を概観する。異文化の芸術作品を見て考えることを通して、知識の吸収だけでなく、想像力や感性といった、人として生きてゆく上で基本的かつ重要な能力を養う。それと同時に芸術がいかに当時の社会や思想と深く関わっていたかを知ること、多様な価値観の存在を認識し、主体的に考察することで柔軟な姿勢を育むことを目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	造形された作品の「かたち」「色彩」「モチーフ」をよく観察し、どのように見えるか、なぜそのような表現が生まれたかについて主体的に考えることができる。	X-1-1-1~2
2	芸術作品が生み出された歴史的状況についての知識を持ち、社会と美術の関わりについて理解できる。	X-1-1-1~3
3	芸術作品の鑑賞とそれに関する主体的な考察・想像によって精神的に豊かに生きていくための感性を養う態度を身につける。	X-1-1-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	新倉	イントロダクション	1、2、3
2	新倉	先史美術、エジプト美術、ギリシャ美術	1、2、3
3	新倉	ローマ美術、ビザンティン美術	1、2、3
4	新倉	中世キリスト教美術	1、2、3
5	新倉	ロマネスク美術	1、2、3
6	新倉	ゴシック美術(1)	1、2、3
7	新倉	ゴシック美術(2)	1、2、3
8	新倉	ルネサンス美術(1)	1、2、3
9	新倉	ルネサンス美術(2)	1、2、3
10	新倉	ルネサンス美術(3)	1、2、3
11	新倉	マニエリスム美術	1、2、3
12	新倉	バロック美術	1、2、3
13	新倉	授業内試験	1、2、3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回ごとに作品についてのディスクリプションをしたり、作品から想像できる物語を記述し、提出してもらう。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

出来る限り数多くの美術作品を紹介し、平易な言葉で解説する。漫然と「見る」のではなく、造形イメージに対して能動的に関わることができるよう、講義ごとに芸術作品を1点選び、簡単な記述作業をしてもらう。目で見ただけのものについて自分なりに考え、さらにそれを言葉にして表明する機会を設けることで、感性と想像力の向上と自己表現力の養成を図る。

〔成績評価方法〕

出席、受講態度および期末試験により総合的に評価する。
記述シートを平常点とし、期末試験と合わせて総合評価とする。
(平常点:50%、試験:50%)

〔教科書〕

特になし。適宜、資料を配布する。

〔参考書〕

必要に応じ、講義中に紹介する。

〔オフィスアワー〕

講義終了後

〔準備学習(予習・復習等)〕

特に必要なし。

〔学生へのフィードバック〕

各回に回収した記述シートの中からよく書けているもの、興味深い内容のものを抽出し、次回授業冒頭に紹介する。

〔教員からの一言〕

講義で芸術作品を目にし、技法や背景となる歴史について学ぶことで得られるのは、知識や教養だけではありません。芸術作品を見て何を感じたかを能動的に考えることにより想像力を養い、自らの感性を鍛えることができます。これらは人間の根本を形成しているだけではなく、社会で生きていく上で常に必要とされ、また人生を豊かに送る手助けともなる重要な能力です。それゆえ、芸術に関心を持ち、主体的に課題に取り組み、自らの感性を豊かにすることに積極的な学生の履修を希望します。

文章表現

Japanese Composition

第1・2学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

天野 かおり

学習目標 (GIO)

「書き方」とは「考え方」です。

文章を書くとき、書き手は改めて自分の「考え」や「考え方」を問い直すことになります。自分なりの考えを、誰にでも理解できるように示す 이것이、文章の基本です。

本講義では、文章を書く際の手順を一つ一つ解説していきます。受講者は実際に作文を提出し、添削例を通して各々の文章力向上を図って下さい。

また手順と共に、文章構成法に必要な「日本語表現に関する知識」も学んでいきます。

今後の社会生活に要求される「的確に考えを伝える」技術を、文章で実践的に磨く講義です。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	読み手の存在を意識し、取扱説明書などの資料から「読みやすい文章」を考える。	X-9-2-1~2
2	わかりやすく効果的な、言葉の選択方法を学ぶ。辞書という身近な資料について知る。	X-9-2-1~2
3	例文を観察し、誤解なく読みやすい表記の方法を確認する。	X-9-2-1~2
4	手順を踏まえて、主題の選択・抽出方法を確認する。	X-9-2-1~2
5	事実と意見を識別し、それが読み手に伝わる文章構成を考える。	X-9-2-1~2
6	主題に沿って、どのように材料を集めればよいかを考える。	X-9-2-1~2
7	材料の並べ方を工夫し、簡潔に伝える方法を探る。	X-9-2-1~2
8	主題と材料を生かし、文章の「設計図」を作成する。	X-9-2-1~2
9	目上の人へ用件を伝える手紙文を通し、適切な敬意表現について考える。	X-9-2-1~2
10	同一の資料をもとに、各自で内容を文章化する。そこから文体という個性・価値観を考える。	X-9-2-1~2
11	一般的な「レポート」の基本構成と、それにふさわしい表現を確認する。	X-9-2-1~2
12	代表的な段落構成とその効果を知り、読みやすく伝わりやすい文章を検討する。	X-9-2-1~2
13	他者の文章から主題・特色を正確に読み解き、自分の意見を出す。そして、それらを第三者にわかりやすく伝える文章を検討する。	X-9-2-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	天野	はじめに 「他人に提出する文章」の条件	1
2	"	文章の目的と執筆手順 取扱説明書を知る	1
3	"	適切な「ことば」の収集・選択 辞書を知る	2
4	"	読んでもらうための「文・ことば・表記ルール」(復習と実践)	3
5	"	「主題」の選択手順、事実と意見の識別	4、5
6	"	主題を支える「材料」の収集・選択方法	6
7	"	材料の適切な配置、わかりやすい説明文とは	7
8	"	崩壊しないための「アウトライン」作成方法	8
9	"	マナーとしての敬意表現(復習)、「正式な手紙」の文章構成・表現(実践)	9
10	"	選択した「文体」に現れる個性・価値観	10
11	"	一般的なレポートの基本構成、資料引用する際の心得	11、13
12	"	段落・トピックセンテンスの効果、タイトルの役割とは	12、13
13	"	まとめ	13

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

・毎回リアクションペーパーを配布し、講義内容に関するブレインストーミングや各自の現状を記入させている。

・短い字数の課題を、複数回提出させている。課題添削例は後日、講義内で分かち合う。

・課題提出の際、主題一覧・自己評価表への記入で「他者に渡す文章として適切か」を客観視させている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：①講義内容に応じた質問に対して、自身の経験と照合し、具体的に表現する（リアクションペーパー）。②講義内容が、文章構成法の全体像においてどのような位置付けにあるかを理解し、実践する（課題）。

2) 総括的評価

a) 知識：各回のリアクションペーパー（15%）、提出課題・レポート（85%）から総合的に評価する。

c) 態度：繰り返しの形成的評価で向上が認められれば、それを最終評価に加味する。

〔教科書〕

資料を適宜配布する。

〔参考書〕

「大学生のためのレトリック入門」（速水博司、蒼丘書林）

「理科系の作文技術」（木下是雄、中公新書）

その他、以下の日本語表現にも積極的に触れて欲しい。

- ・「取扱説明書」の文章（主に医薬品・化粧品・家電製品に付属のもの）
- ・「ブックレビュー」「書評」の文章（雑誌や新聞紙上に、実名で公開されたもの）
- ・国語辞書や類語辞書の「語釈」（複数の読み比べを勧める。）

〔オフィスアワー〕

天野： 講義終了後、講師控室前にて

ただし、事前に薬学事務課へ問合せること（その際、「自分の氏名」と「用件（簡潔に）」の両方を必ず事務課担当者に伝え、指示を待つこと）。

〔準備学習（予習・復習等）〕

課題のテーマは、その現状と背景について各自でも調査・把握しておく（事前調査・補足調査）。

また課題のテーマと自分との関わりについて、講義前後を問わず分析しておく（ブレインストーミング）。

以上の予習（講義前ブレインストーミング・事前調査）と復習（講義後ブレインストーミング・補足調査）は、各々60分を目安として効率よく行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

毎回提出するリアクションペーパーの記入例・各提出課題へのコメント例は、参考資料として随時配布しアドバイスを行う。

〔教員からの一言〕

文章力向上のためにも、課題・レポートは必ず全て提出すること。

法学

Jurisprudence

第1・2学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

井上 恵子 (弁護士)

学習目標 (GIO) 私達は、社会生活を営むために法に関わりながら生きています。これは薬学生であっても、薬剤師として働いていく場合でも変わりはありません。むしろ、薬剤師は、国家資格であり、法により様々な規制を受けるため、法に密接に関わっているといえるでしょう。また、医療従事者であれば、患者の自己決定権の尊重のためにインフォームドコンセントを実施する必要があるなど、人権に関する知識も重要であり、法を理解しておく必要があります。

この講義では、法の基礎知識を学び法的思考を身につけるとともに、薬剤師・薬学・医療従事者特有の法的問題についての知識も習得することを目的とします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	法や法律とは何か及び主な法の種類(薬剤師・薬学に関わる法律を含む)について説明できる。	B-1-4-1
2	人権の種類及び制限について説明できる。	F-1-2-1
3	自己決定権について説明できる。	F-1-2-5
4	意思表示や契約の意味について説明できる。	B-2-1-1
5	契約の無効、取消、解除について説明できる。	B-2-1-1
6	成年後見制度や未成年者の保護について説明できる。	B-2-1-1, F-5-1-2
7	家族法や相続について説明できる。	B-2-1-1
8	調剤過誤(医療過誤)について説明できる。	B-2-1-8, F-2-1-1, F-2-6-1
9	特許権・著作権等の知的財産権について説明できる。	B-2-1-1
10	個人情報や企業秘密の保護について説明できる。	B-2-1-7, F-1-2-7
11	労働法について説明できる。	B-2-1-1
12	行政法(薬事法・薬剤師法等を含む)について説明できる。	B-2-1-3, F-2-1-3
13	刑事責任について説明できる。	B-2-1-8

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	井上	法とは何か	1
2	井上	人権とは何か	2,3
3	井上	契約の成立・有効性①	4,5
4	井上	契約の成立・有効性②	4,5
5	井上	成年後見制度、未成年者の保護	6
6	井上	家族法(婚姻、親子等)	7
7	井上	家族法(相続等)	7
8	井上	調剤過誤(医療過誤)①	8
9	井上	調剤過誤(医療過誤)②	8
10	井上	知的財産権、企業秘密、情報の保護	9
11	井上	労働法	10
12	井上	行政法、刑事法	11、12
13	井上	総括、確認試験	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
適宜、授業中に問題点について考えてもらう時間を作っています。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
なるべく具体的事例を用いて解説します。

〔成績評価方法〕

<評価>

- ・S(80%以上) : 合格
- ・A(75~80%未満): 合格

- ・ B (65 ~ 75 %未満) : 合格
 - ・ C (55 ~ 65 %未満) : 合格
 - ・ D (55 %未満) : 不合格
- 以上を目安として評価します。
なお、試験は論文試験を予定しています。(100%)

〔教科書〕
指定なし。適宜レジュメや資料を配付します。

〔オフィスアワー〕
授業終了後適宜質問を受け付けます。

〔準備学習(予習・復習等)〕
特に必要ありません。法的に問題になった事件のニュース等を読んでおき、何が問題の所在になったのかを確認しておくとうましいです。

〔学生へのフィードバック〕
必要に応じて、講義において行います。

〔教員からの一言〕
法的な知識や法的思考は、社会で生活していく上で役立つものが多くあります。興味がある方は是非選択してください。

基礎情報学演習 II

Essential Information Science Practice II

第 1 学年 後期 (選択) 一般教養 1 単位

土橋 朗

倉田 香織

山田 寛尚

学習目標 (GIO) アウトラインプロセッシングに基づく文書作成や、意思決定活動に向けた表計算ソフトウェアの利用、分子モデリング、グラフィクスプログラミング、表現ツールとしての Web 活用、医療情報に対する秘匿や認証の方法、構造化文書の作成とインターネットへの公開など Information and Communication Technology (ICT) への理解を深め、その実践能力を身に付ける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	表計算ソフトウェアを用いて汎用的な関数処理や乱数を用いた基礎的なシミュレーションを行うことができる。	X-8-2-2
2	データベース機能を用いてデータの集計処理と視覚化を行い、基礎的なデータマイニングを行うことができる。	X-8-2-2
3	ワードプロセッサのアウトライン機能を用いて、長い文書の作成と文書の構成が変更できる。	X-8-2-2
4	Desk Top Publishing (DTP) に必要な技術について説明できる。	X-8-2-2
5	HTML による文書の表現方法を理解し、文書構造に則した Web ページデータの作成ができる。	X-8-1-3
6	医薬品に関する XML 形式のデータを作成し、XSLT と CSS の仕組みを使ってインターネット上に公開することができる。	X-8-1-3 ~ 4
7	情報の秘匿と認証の仕組みを説明することができる。	X-8-3-2
8	ChemBioOffice を用いて有機化合物をモデリングし、その安定コンホマーを分子力学法により探索することができる。	X-8-2-3
9	ChemBioOffice を用いて有機化合物をモデリングし、分子動力学法により分子運動をシミュレーションすることができる。	X-8-2-3
10	プロテインデータバンク (PDB) からタンパク質データをダウンロードし、ChemBioOffice を用いて描画することができる。	X-8-2-3
11	グラフィクスプログラム言語である Design by Numbers (DBN) を用いて画像をプログラミングすることができる。	X-8-2-3
12	医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	倉田、山田	計算ソフトウェアの高度の利用法 (1)	1
2	"	計算ソフトウェアの高度の利用法 (2)	1
3	"	計算ソフトウェアの高度の利用法 (3)	2
4	"	ワードプロセッサの高度の利用法	3、4
5	"	インターネットの高度の利用法 (1)	5
6	"	インターネットの高度の利用法 (2)	6
7	"	インターネットの高度の利用法 (3)	7
8	土橋、山田	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (1)	8
9	"	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (2)	8、9
10	"	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (3)	8、10
11	"	ChemBioOffice を使って分子モデリングを学ぶ (4)	8、9、10
12	"	Design by Numbers (DBN) を使ってプログラムを読む、書く (1)	11
13	"	Design by Numbers (DBN) を使ってプログラムを読む、書く (2)	11
14	土橋、倉田、山田	総合演習	12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業では 1 つ以上の課題に取り組む。授業後に理解度を自己評価していただきます。単位認定課題を実施

した感想とルーブリックによる自己評価を行い、eポートフォリオを作成する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

基礎情報学演習Ⅱは演習を主体とし、各テーマに沿って操作手順を示したプリントに従い、演習を行います。また、各テーマ終了時に単位認定課題を課し、各自でPC活用の習熟度を評価できるようにしています。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：

b) 技能：演習時間内に、PC操作の手法についてフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識：単位認定課題（50％）と演習課題（20％）、受講態度（30％）を加味して総合的に評価する。

b) 技能：知識に準じる。

なお、出席不良者（1/3以上の欠席者）および課題提出不良者（1/3以上の未提出）に対しては単位を認定しない場合がある。

〔教科書〕

各テーマに沿って事前準備、操作手順、課題を示したプリントを作成する。

〔参考書〕

特に指定しない。

〔オフィスアワー〕

特に設定しませんが、できれば前もって予約をしてください。

〔所属教室〕

土橋 朗 情報教育研究センター DR棟4階 センター長室

倉田 香織 情報教育研究センター DR棟4階 センター教員室

山田 寛尚 情報教育研究センター DR棟4階 センター教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義前にWebClassへ講義資料を配布するので、事前に読んでおくこと。

参考資料や課題を配布するので、よく読んで理解に努めること。

〔学生へのフィードバック〕

授業終了後に理解度調査を行い、その結果を授業翌日にフィードバックします。

フィードバックの内容をふまえて、単位認定課題を実施してください。

計算科学

Computational Science

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

横島 智、緒方 浩二

学習目標 (GIO) 薬学、ひいては科学全体への理解を深めるために、コンピューターを活用して何が出来るのか、その利点と限界を、具体的にソフトウェアを利用しながら学ぶ。主に量子化学計算と分子動力学計算を扱い、この講座の修了後には、興味を持った分子について、この2つの計算手法については、自分で計算して出来るようになることを目標とする。加えて、コンピューターを使っていく上で大事な点は、他の計算科学についても同様であることが多いので、その都度、他の計算科学の話題にも触れていき、コンピューターを主体的に使いこなす上での考え方と技能を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
2	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
3	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
4	分子軌道を計算できる。	T-1
5	分子の振動について説明できる。	T-1
6	赤外吸収スペクトルを計算できる。	T-1
7	紫外可視吸収スペクトルを計算できる。	T-1
8	タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	Y-3-6-2
9	タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	Y-3-6-1
10	分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。(知識・技能)	Y-3-20-1
11	ドラッグデザインにおけるコンピューターの利用法を説明できる。	Y-3-38-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	計算科学の概略	
2	"	量子化学計算 (分子軌道)	1,2,4
3	"	量子化学計算 (構造最適化)	
4	"	量子化学計算 (振動解析)	5,6
5	"	量子化学計算の計算科学的背景	
6	緒方、横島	創薬における計算科学の役割	11
7	横島	量子化学計算 (励起状態)	3,7
8	"	分子動力学計算 (構造の作成)	
9	"	分子動力学計算 (構造最適化)	
10	"	分子動力学計算の計算科学的背景	8,9
11	"	分子動力学計算 (温度一定のシミュレーション)	10
12	"	分子動力学計算 (物理量の計算)	10
13	"	計算科学の様々な技法と薬学と関係したトピックス	11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

授業中に実際にノートパソコンにソフトをインストールして計算を行ってもらおう。また、プログラミングにも少し取り組む。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各単元において、パソコンを用いて具体的な問題に取り組んでもらうことで、パソコンを活用するノウハウを段階を踏みながらその場で身につけることが出来る。また、プログラミングの基礎を少しではあるが学ぶことで、ソフトウェアをただ使うばかりでなく、その背景にあるものを意識できるようになる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識・技能:授業中に見回りながら確認していく。

態度:コンピューターを使って計算をしていく上で心がけなければいけないことを授業中に見回りながら指摘していく。

2) 総括的評価

知識:計算課題の提出物の内容を評価する。(100%)

技能:計算課題を実行し提出すること自体が技能評価の対象である。

また、課題は全て提出しなければならない。

〔教科書〕

特に教科書は指定せず、適宜資料を与える。

〔参考書〕

量子化学については

「量子化学入門(上)(下) 米沢貞次郎、他著 化学同人」

がよく書けている。

分子動力学については

「コンピュータ・シミュレーションの基礎(第2版)分子のミクロな性質を解明するために 岡崎進・吉井

範行著 化学同人」

が詳しい。

〔オフィスアワー〕

いつでも可。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター(教育2号館1階2109室)

普段、教育3号館2階の3205室にいます。

〔準備学習(予習・復習等)〕

計算などでコンピューターを使うので、必ず、毎授業コンピューターを持参して下さい。また、WebClassに授業で使うスライドを載せますので、予習、復讐のために活用して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

課題提出締め切り後、提出された課題を示しながら、良かった点、問題点、課題の持つ意味や、薬学との関連、関連分野との関係などについて解説します。また、授業前、授業中、授業後すべてを通じて適宜受講生の疑問に答え、それを授業に反映します。

〔教員からの一言〕

きちんと身につけることができれば、他の授業で出てきた興味ある分子の性質を、自分で計算して調べたりすることもできます。ただ、計算は時間がかかるものなので、何でも簡単に計算できるとは思わないで下さい。

基礎栄養学

Basic Nutrition

第1学年 前期・後期 (選択) 一般教養 1単位

安藤 堅

学習目標 (GIO) 栄養の偏りや不規則な食事など、食生活の乱れが肥満や生活習慣病の発症に繋がることを理解する。健康の維持や増進に必要な栄養摂取(食生活)に関する基本的な知識を習得するとともに、自らの食生活の実態を知ることによって健康を意識し、健康の維持や増進に適切な食習慣の獲得をめざす。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	健康とはなにか、健康の維持増進における栄養摂取の重要性について理解する。	D1-1-1-1, D1-3-1-8
2	栄養素の役割と働き、栄養的な価値を説明できる。	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-6-1, C6-2-7-1, D1-3-1-1~3
3	食品に含まれる非栄養素成分の機能性と有用性について説明できる。	D1-3-1-4
4	食品のエネルギーの利用やエネルギー代謝について説明できる。	C6-5-1-1, D1-3-1-5
5	自己の必要エネルギー量の概要を知り、食生活に役立てることができる。	C6-5-1-1, D1-3-1-5
6	栄養素の過不足と生活習慣病との関わりについて説明できる。	D1-2-3-1~2, D1-3-1-7
7	食生活と生活習慣病との関わりについて討議する。	D1-2-3-3
8	我が国の健康増進政策(食育)について概説できる。	D1-2-1-2
9	食事摂取基準について説明できる。	D1-3-1-6
10	摂食調節に関わる生理活性物質を挙げ、その作用機構について説明できる。	C7-2-2-1, C7-2-6-1
11	栄養補給と日内リズムとの関わりについて説明できる。	C7-2-2-1
12	生活習慣病発症予防のために、個々のライフスタイルに応じた適切な食生活のあり方を提供できる。	F-5-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	安藤	導入(健康とは、栄養とは) 食生活調査(プレ調査)(演習)	1
2	"	食品成分(栄養素)の種類と働き	2
3	"	食品成分(非栄養素)の機能性と有用性	3
4	"	食品の成分変化と栄養	2, 3
5	"	食品のエネルギーとその利用、 ライフスタイル(身体活動)と栄養必要量	4, 5
6	"	小テスト(中間評価)	1-5
7	"	栄養素の過不足と生活習慣病、我が国の栄養摂取の現状	6
8	"	我が国の食育・健康増進対策	8
9	"	食事摂取基準の概念と利用法	9
10	"	食生活調査(ポスト調査)と討論(演習)	1-9, 12
11	"	食欲と摂食調節	10
12	"	からだのリズムと栄養	11
13	"	小テスト(総合評価)	1-12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・講義プリントを配布し、講義を進行しながらプリント内の空欄部分を記入させるようにしている。
- ・日々の生活活動状況と食事内容(栄養バランス)を継続的に記録することにより、健康管理を行うとともに、健康維持のための適切な食生活とは何かについて考えてもらう。
- ・講義時間内に演習を実施し、講義で得た知識を活用する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・食生活調査を行い、意識の向上に努めている。授業で学んだことが日々の食生活に活かせるように、普段摂っている食材を題材としてとりあげている。
- ・1年生の「生化学I」「生物学」「細胞生物学」とともに、2年生の「栄養と食品機能」「健康保持と疾病予防」など健康の維持増進に関連する科目の理解度を上げるための導入講義としての役割を意識し、講義の

途中で小テストを実施し、基礎的知識を身につけさせている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：講義や演習中に適宜口頭試問やチェックテストなどを行う。

技能：生活活動状況や食事内容が適切に記録できているかどうか評価し、フィードバックする。

態度：受講態度（演習に対する取り組みや出席状況など）から評価し、フィードバックする。

2) 総括的評価：演習評価（課題、レポート、パフォーマンス）(45%)、小テスト(25%)、受講態度(30%)として評価する。

知識：演習課題の内容と小テストにより評価する。

技能：生活活動状況や食事内容の記録から、適切な食生活のあり方を考察できるか評価する。

態度：受講態度（演習等の授業に臨む姿勢）から総合的に評価する。

パフォーマンス：演習課題やレポートから、自己分析力や考察の表現力を評価する。

〔教科書〕

講義時にプリント配布

〔参考書〕

第3版最新衛生薬学（別府正敏、平塚明 編集 廣川書店）

日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

〔オフィスアワー〕

いつでも可 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309教員室

〔所属教室〕

薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義資料はWebClassに授業前に毎回アップします。アップされる度に資料をしっかりと読み、その内容について予習を70分以上行ってください。授業は1年科目の「生化学Ⅰ」「生物学」「細胞生物学」の講義で扱う生体分子（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）やエネルギー代謝に関する内容が関連します。予習とともに授業後の復習も70分以上行ってください。

〔学生へのフィードバック〕

講義や演習中に適宜口頭試問やチェックテストなどを行い、授業内容の理解度をフィードバックする。

演習課題を通じて生活活動状況や食事内容の記録が適切かどうか評価し、フィードバックする。

授業中に受講態度（演習に対する取り組み方や出席状況など）を観察し、フィードバックする。

〔教員からの一言〕

食事記録をつけることで、自分に合った健康管理の方法がわかります。1年生の時から習慣にすることで、健康で充実した大学生生活をおくりましょう。

ヘルスプロモーション概論

Health Promotion for Pharmacists

第1・2学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

武田 典子
横山 典子
藤井 紀美子

学習目標 「健康を語る人になる」が目標です。

(GIO)

本授業では、健康の維持・改善に対する施策や薬剤師の取り組みの現状を知り、国民が、自分らしい生活を送ることのできる健康増進の支援について理解を深めることを目的としています。食事と運動・身体活動支援の実際も含めて学び、日本健康マスター検定合格に必要な知識の取得を目指します。

科目名のヘルスプロモーションとは、「人々が自ら健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されている21世紀の健康戦略です。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	健康と健康を支える仕組みと薬剤師の係りを理解する	A-1-1-3, A-1-2-6, A-4-1-1, B-3-1-1, B-3-2-2, B-4-1-3, B-4-1-6, B-4-2-1~2, D1-1-2-3, F-1-3-5
2	身体活動・運動について、不足の悪影響と増進の健康効果を理解し、具体的な取り組みを学ぶ	A-1-2-6, A-1-2-8, A-5-3-1, D1-2-1-2, D1-2-3-1~2, F-5-3-4
3	栄養・食生活、口腔について、健康の課題を理解する	D1-2-1-1~2, D1-2-3-1~2, D1-3-1-7
4	感染症の理解と対策・予防・治療の理解。健康の啓発と災害時対応を理解する	A-1-2-6, B-4-1-5, F-5-2-1
5	ロコモティブシンドロームについて理解する	A-1-2-6, A-1-2-8, A-3-2-1, D1-2-1-2
6	食事と生活習慣病の関連性について理解する	D1-2-3-1~2, D1-3-1-5, D1-3-1-7, F-5-3-4
7	心の健康と良質な睡眠への対策と気を付けたい病気について理解する	A-1-2-6~7, A-3-2-1, B-4-1-4, F-5-3-8
8	健康寿命の延伸と高齢者の健康について運動の役割を理解する	A-1-2-6, A-1-2-8, A-3-2-1, D1-2-1-2
9	生活習慣病患者の食事指導について理解する	A-1-2-6, A-1-2-8, D1-2-1-1~2, D1-3-1-7~8
10	がん対策、嗜好品の見直し・健康食品・保健機能食品・OTC薬の理解について理を理解する	A-1-2-6, B-4-1-4, D1-3-2-6, F-5-2-1, F-5-3-8
11	健康の啓発・健康改善法	A-1-2-6, A-3-1-3, A-3-1-8~9, A-5-3-2, A-5-4-2
12	女性のライフステージ毎の特徴について理解する	A-1-2-6, A-1-2-8
13	ヘルスプロモーションにおける薬剤師の役割について、課題と展望を探り考えを発表する	A-1-2-8, A-1-4-4, A-4-5-1, A-5-1-1, A-5-2-1~2, A-5-3-1, B-4-2-5, F-1-2-3, F-5-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	武田 典子 横山 典子	ヘルスプロモーション、健康リテラシー、医療保険制度、国の健康施策、薬剤師の使命と役割	1
2	横山 典子 武田 典子	身体活動・運動の影響 国民の運動習慣を増やす具体策	2
3	藤井 紀美子 武田 典子	栄養・食生活、口腔の課題と対策、健診の制度について	3
4	武田 典子 横山 典子	感染症と対策、ワクチン、法律とデータ、健康を守る、救急の知識	4
5	横山 典子 武田 典子	ロコモティブシンドロームの病態、原因、状態の確認、防止法	5
6	藤井 紀美子 武田 典子	疾病に影響する食習慣と健康寿命につながる食事について	6
7	武田 典子 横山 典子	ストレス、考え方の癖、睡眠の質、不安症、うつ	7

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
8	横山 典子 武田 典子	高齢者の食事と運動、認知症予防、フレイル、転倒予防	8
9	藤井 紀美子 武田 典子	糖尿病、減量の食事指導の実際 エネルギー収支の算出方法	9
10	武田 典子 横山 典子	喫煙、酒、緑茶、コーヒー、発がん因子とがん対策、サブリン・OTC薬	10
11	横山 典子 武田 典子	健康関連法とデータ、健康の維持	11
12	藤井 紀美子 武田 典子	妊娠、出産、女性ホルモンの影響による女性のからだの特徴について	12
13	武田 典子 横山 典子 藤井 紀美子	ヘルスプロモーションの重要性、健康長寿に向けた課題と薬剤師の展望についてグループワークと発表	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

ヘルスプロモーションに関する理解を深めるため、授業テーマについて少人数グループでの討議の時間を設けます。最終授業では、「ヘルスプロモーション概論」の総括として、グループ討議を行いその内容を発表します。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

本講義では、「日本健康マスター検定」の公式テキストを教科書とし、検定合格が可能な知識の習得を目指します。要点及び知識の習得が確認できるようにします。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：健康リテラシーを習得し、他者に話せるようになることを目指します。

2) 総括的評価

a) 知識：確認テスト、レポートで総合的に評価します。(100%)

〔教科書〕

日本健康マスター検定公式テキスト NHK出版

〔参考書〕

日本人の食事摂取基準（第一出版）

糖尿病食事療法のための食品交換表第7版（日本糖尿病学会 文光堂）

エクササイズ科学 健康体力づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践（田中 喜代次 編集 文光堂）

健幸華齢 (Successful Aging) のためのエクササイズ 単行本（財団法人日本体育協会 監修 サンライフ出版）

中高年者の疾病予防・改善のための運動プログラム（田中 喜代次 編集 ナップ）

中高年者の元気長寿のための運動プログラム（財団法人日本体育協会 監修 ナップ）

メディカルフィットネスQ & A（日本メディカルフィットネス研究会 編集 社会保険研究所）

〔オフィスアワー〕

授業の際、質問したい講師名と質問内容を、連絡先と共にお知らせください。

〔準備学習（予習・復習等）〕

Web class で資料を配信します。

テキストを用いて予習復習し、講義内容の理解を深めてください。

〔学生へのフィードバック〕

グループワークの状況に応じて、また質問に応じて、フィードバックを行います。

〔教員からの一言〕

「健康を語る人になる」を目標に掲げ、履修後には「日本健康マスター検定」試験に合格のレベルまで達するよう、健康関連知識を学習します。薬学生の「健康マスター」として、セルフケアやコミュニティケアの活動をしていただくことも可能になります。

〔備考〕

本講義修了者を対象に、2月または3月にドラッグストア No1 のウエルシア薬局(株)の本部の見学会を設けます。働く薬剤師の姿を見て、説明を聞き、質問し、学生時代に取り組むべきことを自ら探れるように、企画します。

数学を巡る世界

Harmony in the Mathematical Universe

第1学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

片野 修一郎

学習目標 (GIO)

皆さんの多くは、数学という学問を、まず公式があって、計算してなんらかの答を求めるもの、という程度に認識しているのではないのでしょうか。もう少し大人びた人なら、薬学のような理科系の学問を勉強するための基礎をなすもの、とでも答えるでしょうか。そのような認識が誤っているとは言いませんが、数学には、自然科学の基礎を支える土台としての側面の他に、思想・哲学の体系としての側面があるのです。

人類が文明を築き、文化を創出して以来、今日のように学問が細分化されるまでの3000年ほどのうち、圧倒的に長い期間、数学は森羅万象を司る普遍的哲学の一種でした。そして、極めて高度に抽象的で難解な体系へと変貌した現代にあっても、数学は一種の思想体系であり続けています。日本人が抱きがちな「計算」というイメージとはかなりかけ離れた側面をもっているというのが本当の姿です。

「数学が思想である」とはどういうことなのか、「数学的精神」とは何か、それがこの講義のテーマです。「これがその答ですよ」などと提示したりはしません。答なんか端からありません。皆さんのそれぞれが講義を聞いて、今まで学習してきた数学とは違った姿をそこに認めてくれればいいのです。それが真実の姿なのです。1つのものにはいろいろ違った側面があり、多様なものの見方・解釈の仕方ができ、それらは背後でつながっている、ということを実感してもらえたらいいですね。そのような「思想としての数学」や「数学的精神」が、古代から現代に至るまでいかに人々の心を捉えてきたのか、いかに存在してきたのか、いかに変容してきたのか、について時代の流れに沿って概観してゆきます。後期だけの講義ですので、取り上げることのできるトピックは、話したいことのごく一部に過ぎませんが、意識的に人文科学とか芸術のような、世間的には数学と無関係だと思われる分野から紹介します。たとえば、作曲家たちは極めて強く「数学的なもの」に惹かれてきました。ルネサンス期の芸術家たちにも「数学的精神」が深く息づいています。そういう事実と接したとき、理科系とか文科系とかいうレッテルなど無意味であることが皆さんにもきつとわかってもらえると思います。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	古代オリエント世界で生まれた数学が、さまざまな時代・文化・地域・宗教の中で、それらと不可分に絡み合いながら、ある形をとってある分野の中にその精神を覗かせる、その姿のいくつかを現代の立場で分析し鑑賞する。	X-1-1-1~3, X-1-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	片野	【人類誕生以前】植物は数学を知っている。植物界を支配する数学法則。	1
2	"	【古代ギリシアおよび近代】美術作品などにしばしば使われる黄金長方形と植物界の数学法則との神秘的関係。黄金比を作曲理論に応用した20世紀ハンガリーの作曲家バルトークについて。	1
3	"	【古代メソポタミア】粘土板に記されたバビロニア数学の驚くべきレベル。そのような数学が生まれた時代的・地域的背景。	1
4	"	【古代エジプト】バビロニアとは異なるタイプの数学がなぜエジプトで生まれたか。ふたつの文明の特性の違いを知る。	1
5	"	【古代ギリシア】現代数学の直接の祖先はギリシア数学である。そして、この時代から数学は思想的側面をもつようになる。ギリシア文明がそれまでの他の文明とどれほど変わっているか。なぜそれがギリシアにだけ生まれたのか。そしてそれらが今日我々が学んでいる数学にどのように関わっているのか。	1
6	"	【古代ギリシア】実は数学者ではなかったピュタゴラスとその教団の思想。音階の発明者として伝わるピュタゴラスの作った音階を試す。プラトンの『ティマイオス』を読む。	1
7	"	【ルネサンス】ピュタゴラスの時代からこの頃まで、音楽と数学と天文学は同じ学問であった。宗教の発展と共に複雑な音楽が作られるようになり、そのための音律が発明された。具体的に楽曲を聴きながら、ピュタゴラス音律から平均律までの音律の変遷を辿る。担当者が作曲した旋律を基に、中世の音楽がどのように変遷してきたかを Muscore というソフトを使って聴いてもらう。平均律と対数の誕生が、ほぼ時期を一にしている理由など。	1

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
8,9	"	【ルネサンス】デューラーの銅版画『メレンコリアI』に彫られた数学的オブジェを巡る謎。工芸家榎本和子氏の研究の紹介。	1
10	"	【バロック】フリードリヒ大王に献呈されたバッハ晩年の作品『音楽の捧げもの』にみられる数学的構造。譜面を読みながら聴いてもらう。	1
11,12	"	【現代】バッハ作品と本質的に同じ構造を巧みに用いて作られた現代の暗号理論 RSA について。	1
13,14	"	【近現代】バッハ作品に現れる数学的構造を抽象化した群構造を、婚姻構造研究に応用した文化人類学者 Levi = Strauss について。マルクス思想やサルトルの実存主義を乗り越えたとされる構造主義とは何か。	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義の中に現れる題材に直に手を触れて体験してもらう。たとえば、松ぼっくりを拾ってくる、正5角形をコンパスも定規もなしに作ってもらう、輪ゴムを張った一弦琴を弾いてドレミファソラシドの音階を出す、音楽を聴いてもらう等々。また、古代の人々が考えたのと同じ問題を考えてもらい、その解答を黒板で発表してもらう、また全員でそれを題材に討議する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・狭量な世界観を壊すような話題が紹介できれば嬉しい。
- ・人文科学・芸術・歴史・宗教等に跨った分野横断的な数学の話をする。数学という学問が、試験のために公式を覚えて計算するだけのお粗末な代物では決してなく、歴史や宗教や芸術などと複雑に絡み合いながら、人類の歩みに寄り添い続けた学問であるということの一端でも感じられるようにしたい。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:課題を逐次課し、授業内に発表してもらってみんなで一緒に考えたり、レポート課題を提出してもらう。

2) 総括的评价

a) 知識:試験はしない。提出された種々のレポート、質問への解答、および授業内の課題への解答発表の合計 (100%) によって総合的に評価する。

〔教科書〕

教科書はありません。トピックごとにプリント資料を配布します。

〔参考書〕

必要に応じて紹介します。

〔オフィスアワー〕

普段は下記所属教室にいます。聞きたいことがあれば、在室している限りいつでも受け付けます。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター 2109 研究室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

講義の性質上、特に予習・復習すべきことはありません。それより、自分が知らなかった世界に触れたことをきっかけにして、どんどん本を読んでください。大学の授業というのは、本来皆さんが自ら興味をもって勉強をしていくきっかけや刺激を与えるためにあるものです。自分がいかに狭い世界観の中で生きてきたのかということに気づき、その世界を広げ、異なる価値観の存在を知り、多様なものの見方に触れるのに、読書ほどってつけの媒体はありません。若いうちに沢山の刺激を受け、触発されて下さい。大いに批判もして下さい。本を読まない国民は減びます。

〔学生へのフィードバック〕

宿題にした課題を発表してもらい、みんなで一緒に考え、討議する題材としたい。

〔教員からの一言〕

皆さんは普段から「問題の正解を答えられること」ばかりを訓練していると思われるので、レポート課題の中には答がないようなものや、どのように考えたらいいのかすぐにはわからないようなものを積極的に含めます。また、講義から触発された自由研究や、関連書籍を自主的に読んで書いた感想文なども受け入れます (場合によってはそれらの方を高く評価する)。学校の授業の中でしか数学と取り組んでこなかったという人にとっては、「数学の勉強 = 試験の対策」だったでしょう。試験の対策が結果的に数学の深い理解や興味の喚起に結びつけはよいのですが、実態はそれとは全く違っています。この授業には、至る所にふいに、様々な数学が現れます。今までこんな形で数学に触れた経験はないでしょうから、たぶん最初はびっくりするでしょう。でも、学校の試験にしか通用しない数学なんて、考えてみればたいへん奇妙です。日本では、その奇妙なことが堂々とまかり通っています。数学がいかに色々な分野に使われているかの例として、数学を用いた現代の暗号理論とか群論のような一見難しげなものや、構造主義のような大人びた思想も紹介する。もちろん、やさしく解説します。

また、譜面を読みながら楽曲を聴くことがあるので、譜面が読めるといいですね。

〔備考〕

時間不足のため、予定した内容全部は話きれないことが確実です。何を削るか悩んでいます。諸君も、この話は是非聞きたい、というのがあったらリクエストして下さい。授業内容には掲載してありませんが、他にも「レオナルド・ダ・ヴィンチはどのような思想の下にあのような絵を描いたのか」「建築家アントニオ・ガウディがサグラダ・ファミリアに潜ませた様々な数学的曲面について」など、他にも面白い話はいっぱいあります。

健康スポーツ

Health and Physical Education

第1学年 後期 (選択) 一般教養 1単位

中山 恭一

学習目標 (GIO) 健康は、「運動することによって作られる」、「バランスの良い食事によって作られる」、「良好な人間関係によって作られる」、「十分な睡眠、休養によって作られる」、これらはどれも正しくとても大切なことですが、どれも必要条件であっても十分条件とは言えません。つまり、私達の心や身体はこうした一つひとつの健康行動がうまいタイミングで作用し合い、互いによりリズムカルに配置された時、より効果的に働くように仕組みられています。

21世紀を共に生きる私達にとって、「自分の健康は自分で守る」、これは基本的な責任であり、ひとりの地球市民として生きる私達一人ひとりの基本姿勢とも言えます。将来の医療従事者となる皆さんにとっては、さらに「家族の健康」、「社会の健康」ひいては「地球の健康」が重要なテーマです。そしてこの授業では、その基本となる皆さん自身の心身の状態をより良いものにしてゆく力(フィットネスマネジメント能力) & 生涯スポーツの実践能力をより効果的に学ぶと同時に、身に付けて頂きたいと思います。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	身体活動を通じて行動することの大切さを理解する。	A-4-1-1, A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1
2	生涯スポーツの実践能力を修得する。(技能)	A-5-3-1~2
3	体力の保持・増進する能力を修得する。(技能・態度)	A-3-1-5~9, C7-1-5-1~2, D1-2-1-2, D1-2-2-3, D1-3-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	中山	自ら自分のための運動プログラムを作成	1,3
2	中山	各自の運動プログラムの実践 身体活動と脳とところとからだとの関係; 実践例を分析	1~3
3	中山	各自の運動プログラムの実践 身体活動が脳とところとからだに及ぼす影響(脳の可塑性等)	1~3
4~11	中山	各自の運動プログラムの実践 スポーツ全般に関する課題レポート	1~3
12	中山	各自の運動プログラムの実践 最終課題レポートの準備	1~3
13	中山	各自の運動プログラムの実践 最終課題レポート: 題目「後期期間中にスポーツ(身体活動; 運動プログラム)を通して各自の心身の変化を科学的根拠を基に分析し、自身の日常生活に活かす工夫を考察する」	1~3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

自身で作成した運動プログラムを日々実践し、週単位で振り返り自己評価を繰り返す。また日頃から {ダイエットアプリ「フィンク」(無料)} 等を積極的に活用し、栄養&運動&休息等のサポートを受け、自身のコンディションを把握・分析し日常生活に活かす。またこれらを資料にし科学的根拠を基に自身の取り組みを振り返り、最後に日常生活に生きる工夫を考えレポートとしてまとめる。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

生涯スポーツとしての位置付けを重要視し、将来的に健康の保持増進を計るための指導を取り入れている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 各回のスポーツ全般に関する課題レポート・最終課題レポート(各回の課題のポイントを理解し取り組んでいる)

b) 技能, c) 態度: 毎回の運動プログラムの実践(「各回の行動目標を理解し取り組んでいるか」に関して日々記録をつけ、こまめに個人にフィードバックしている)

2) 総括的評価

a) 知識: 各回のスポーツ全般に関する課題レポート(40%), 最終課題レポート(20%)

b) 技能, c) 態度: 毎回の運動プログラムの実践(40%)

〔教科書〕

適時、プリント等を配布する。

〔参考書〕

ジョン・レイティ著「脳を鍛えるには運動しかない！」NHK 出版
中野ジェームズ修一著「中野ジェームズ修一の DIET DIARY」マガジンハウス

〔オフィスアワー〕

何かありましたら以下のアドレスにご連絡ください。
nakkan@toyaku.ac.jp

〔所属教室〕

生命科学部体育・スポーツ研究室

〔準備学習（予習・復習等）〕

体調管理に日頃からダイエットアプリ「フィンク」(無料)等を積極的に活用し栄養&運動&休息等のサポートを受け、自身のコンディショニングに役立ててください。

授業で分からないことがあれば、参考書&雑誌&インターネット等を利用し、まずは自分で調べてみて下さい。それでも理解出来ないこと、又は新しい発見・気づき等があれば是非メールにて伝えて下さい。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想等に対して必要に応じて、全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行う。

〔教員からの一言〕

スポーツ全般に関する課題レポートを通して、様々なスポーツの魅力に迫って行ってください。

この授業は、オンライン等による教材・資料配布型授業です。基本的にメールで課題等の指示を出すので、その指示に従って下さい。配布された資料を参照し、教員の指示する課題や作業を行い、指示された期日・手段で課題を提出して下さい。

〔備考〕

「フィットネスマネジメント」とは、「自分を大切に作る行為」「自分を愛する行為」と言えます。それは「単に病気でない」といった消極的な状態ではなく、「より積極的にその幸福に向けて生き生きとした生活をおくっている心やからだの状態」を意味しています。そして、私達がそのような状態を手に入れるためには、「心」、「運動」、「栄養」、「休養」といったトータルな心身への働きかけが重要で、こうした自己の心身への適切な働きかけを私達は「フィットネスマネジメント」と呼んでいます。

人の健康は日々の一つひとつの行動の積み重ねであり、その獲得には日々の習慣を焦らずコツコツと着実に、健康的なものに変えていくしか方法がありません。そして、この授業ではその具体的な健康づくりのための効果的な行動計画をサポートすることを目的としています。

薬学のおゆみ

Advances in Pharmaceutical Sciences

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

薬学部教員

学習目標 (GIO) 薬学は、医薬品のみならず生薬などの天然物を含む化学物質全般を扱う学問であり、その研究範囲は有機化学、物理化学、生化学、分析化学、衛生化学など多岐に渡る。さらに、医療の中では、薬の適正使用実現のため、研究による様々な工夫がされてきた。これから薬学を学ぶにあたって、これまでの薬学研究のおゆみとこれからの展望に触れ、薬学への関心と興味を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	A-1-2-2
2	医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	A-1-2-3
3	医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-2-5
4	薬学の歴史的な流れと医療における薬学の役割について説明できる。	A-1-4-1
5	薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	A-1-4-2
6	薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	A-1-4-3
7	将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。	A-1-4-4
8	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。	A-5-2-2
9	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1~9	薬学部教員	講義担当教員による薬学研究の歴史と最先端研究内容紹介	1~9

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義の最後に講義内容に関する小テストを実施し、自身で理解度を確認できる。また、それを活用しながら講義内容を振り返ることができる。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 講義の最後に小テストを実施する。

2) 総括的評価

a) 知識: 小テストの合計得点(100%)から判定する。

〔オフィスアワー〕

各講義担当教員が指定する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

講義担当教員の所属教室のホームページなどで予め研究内容を確認しておくこと。また、講義後の小テストを復習しながら、講義内容を振り返ること。

〔学生へのフィードバック〕

研究内容などに興味を持ち、さらに詳しく知りたい学生には、各講義担当教員が個別に対応する。

病気とくすり

Diseases and Medication

第1学年 前期 (選択) 一般教養 1単位

大山 勝宏 恩田 健二 山田 純司 堀 祐輔

学習目標 (GIO) わが国では、現在、高齢化社会の到来をひかえ、国民のヘルスケアへの意識が高まり、健康の保持と増進、あるいは疾病の予防と治療について、多くの関心が寄せられている。そして、「病気とくすり」に関する知識は今や一般教養となりつつある。そこで本講義では、専門的な薬学の学修に先立ち、疾病と医薬に関する一般的な知識を修得するために、「病気とくすり」にまつわる様々な話題に触れて教養を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬物の投与から排泄までの過程で、薬効に影響を及ぼす因子を概説できる。	E4-1-2-3~5, E4-1-4-2, E4-1-4-5, E4-1-5-1
2	医薬品の定義を概説できる。	B-2-2-1, E2-9-2-1, E2-9-6-1
3	代表的な製剤の種類とその特性について説明できる。	E5-2-1-1~2, E5-2-1-5, E5-3-1-1
4	医薬品を適正に取り扱うために必要な項目を概説できる。	A-1-2-3, E1-1-1-1, E1-1-1-7, E1-4-1-1, E2-2-2-4, E3-1-1-1, E3-1-2-4
5	医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規について概説できる。	B-2-2-2, E3-1-1-3~4
6	代表的な疾患とその治療薬のメカニズムを説明できる。	E1-1-1-2, E2-2-2-3, E2-4-2-1, E2-5-1-1, E2-7-3-1, E2-7-8-1
7	薬効に影響を与える飲食物や薬の組み合わせとそのメカニズムを説明できる。	E4-1-2-1, E4-1-2-3~4
8	薬剤師が地域貢献のために実施しうる項目を説明できる。	B-4-1-4, B-4-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	山田	目的に合わせた薬の投与方法 (薬物動態・薬剤選択)	1
2, 3	山田	体内における薬の旅 (薬物動態・個別化医療)	1
4	堀	薬を取り巻く規制 (薬事関連法規・制度)	2
5	堀	薬の種類と工夫 (製剤設計)	3
6	堀	薬の正しい使い方 (医薬品適正使用)	4
7	恩田	薬ができるまで (医薬品開発)	5
8, 9	恩田	薬の効く仕組み (薬理・病態・薬物治療)	6
10	大山	薬の相互作用 (薬物相互作用)	1,7
11	大山	薬効に影響を及ぼす飲食物 (医薬品安全管理)	1,7
12	大山	地域での保健 (地域包括ケア・セルフメディケーション)	8
13	大山	総括・確認試験	1-8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に教科書へのマークや書き込みを促し、全講義終了後には、学生各自が作成し、自らに適した「まとめの学修ノート」として仕上がるように仕向けている。

〔成績評価方法〕

総括的評価 a) 知識：確認試験 (100%) の結果に基づいて評価する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

プリント：WebClass に掲載するので、各自ダウンロードして準備すること。

〔参考書〕

今日からモノ知りシリーズ「トコトンやさしい薬の本」 加藤哲太 (日刊工業新聞社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、メールによる予約が必要。

〔所属教室〕

大山 勝宏 薬学実務実習教育センター 教育5号館 5601 教員室
恩田 健二 臨床薬理学教室 医療薬学研究棟 2階
山田 純司 臨床医療薬学センター 医療薬学研究棟 3階 M303 号室
堀 祐輔 薬学実務実習教育センター 教育5号館 5605 教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を受ける前に、シラバスを開いて講義予定項目のSBOsを確認し、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に向けてその内容を伝え、解説を加える等の対応を行う。また、特に必要性の高いものについては翌年以降の講義内容に反映させる。

〔教員からの一言〕

1年～4年次までの間に学修する『医療薬学』の内容を先取りし、「この先、何を学ぶために、どの科目を順番に学修して行くのか」、つまり「何のために勉強するのか」を教えます。

どうしてそうなるのか、なぜそうするのか、にこだわって解説します。

何となく概観するのではなく、初等ながらも、しっかりとした知識を身に付けます。

〔備考〕

実務家教員担当科目

英語検定 I

English for Proficiency Tests I

第 1・2 学年 前期 (選択) 外国語 1 単位

大野 真

神田 玲子

首藤 理彩子

学習目標 (GIO) 就職の際にも重要な TOEIC や英検などの英語能力検定試験に対応する基礎力を養うために、問題演習を行って設問形式に慣れながら、リスニング力と速読力を養い、頻出語彙と文法事項を取得する。目標としては、全員が TOEIC550 点あるいは英検二級、上位者は TOEIC700 点以上あるいは英検準一級を目指す。着実な語彙力と文法知識を基盤とした上で、ナチュラルスピードの英文を聞き取り、また、素早く文章の大意を把握する訓練を積む。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各種検定試験 (TOEIC、英検、TOEFL) の特徴を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	ラジオ講座の活用法を理解する。	X-3-3-1~4
3	検定試験の問題形式と傾向を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
4	まとまった文章を聞き取ることができる。	X-3-3-1~4
5	まとまった文章を速読して内容を理解できる。	X-3-1-1~2
6	検定試験に必要な文法事項を習得する。	X-3-2-1
7	検定試験に必要な語彙を習得する。	X-3-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、神田、首藤	前期授業のイントロダクション	1、2
2~12	"	前期テキストの演習	3~7
13	"	前期試験	3~7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

レポートの提出あるいは小テストを頻繁に実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

大学内で TOEIC 試験を定期的実施しているため、その結果を分析し、学生の苦手とする部分を重点的に指導する。また、TOEIC の問題をテーマ別に分類することにより、有機的な思考力を養うように配慮している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識：試験 (70%)、提出物や小テスト (30%) を総合的に評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

鶴岡公幸他『シチュエーションごとに解く TOEIC 完全対策問題集』(松柏社)

〔参考書〕

「入門ビジネス英語」や「実践ビジネス英語」などの NHK ラジオ講座

〔オフィスアワー〕

大野 真 いつでも可。但し、要予約。

非常勤講師 薬学事務課にて 薬学部事務にて要予約。

〔所属教室〕

大野 真 第 2 英語研究室 教育 3 号館 3 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

授業ごとに予習と復習を各々 30 分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕
授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい個所を確認している。

英語検定 II

English for Proficiency Tests II

第 1・2 学年 後期 (選択) 外国語 1 単位

大野 真

神田 玲子

首藤 理彩子

学習目標 (GIO) 就職の際にも重要な TOEIC や英検などの英語能力検定試験に対応する基礎力を養うために、問題演習を行って設問形式に慣れながら、リスニング力と速読力を養い、頻出語彙と文法事項を取得する。目標としては、全員が TOEIC550 点あるいは英検二級、上位者は TOEIC700 点以上あるいは英検準一級を目指す。着実な語彙力と文法知識を基盤とした上で、ナチュラルスピードの英文を聞き取り、また、素早く文章の大意を把握する訓練を積む。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各種検定試験 (TOEIC、英検、TOEFL) の特徴を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
2	ラジオ講座の活用法を理解する。	X-3-3-1~4
3	検定試験の問題形式と傾向を理解する。	X-3-1-1~2, X-3-2-1~4, X-3-3-1~4
4	まとまった文章を聞き取ることができる。	X-3-3-1~4
5	まとまった文章を速読して内容を理解できる。	X-3-1-1~2
6	検定試験に必要な文法事項を習得する。	X-3-2-1
7	検定試験に必要な語彙を習得する。	X-3-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	大野、神田、首藤	後期授業のイントロダクション	1、2
2~14	"	後期テキストの演習	3~7
15	"	後期試験	3~7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

レポートの提出あるいは小テストを頻繁に実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

大学内で TOEIC 試験を定期的実施しているため、その結果を分析し、学生の苦手とする部分を重点的に指導する。また、TOEIC の問題をテーマ別に分類することにより、有機的な思考力を養うように配慮している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を繰り返し行う。

2) 総括的評価

a) 知識：試験 (70%)、提出物や小テスト (30%) を総合的に評価する。ただし、欠席の多い者あるいは毎回の授業や提出物等に真剣に取り組まない者は、受験停止の措置を講ずることがある。

〔教科書〕

鶴岡公幸他『シチュエーションごとに解く TOEIC 完全対策問題集』(松柏社)

〔参考書〕

「入門ビジネス英語」や「実践ビジネス英語」などの NHK ラジオ講座

〔オフィスアワー〕

大野 真 いつでも可。但し、要予約。

非常勤講師 薬学事務課にて 薬学部事務にて要予約。

〔所属教室〕

大野 真 第 2 英語研究室 教育 3 号館 3 階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

テキストやプリントの予習・復習を行い、授業内容を着実に消化してください。重要語句・構文を英語で正確に書けるようにすること。

授業ごとに予習と復習を各々 30 分以上行うことが望ましい。

〔学生へのフィードバック〕
授業での提出課題をチェックして、学生の間違えやすい個所を確認している。

英会話 I

English Conversation I

第 1・2 学年 前期 (選択) 外国語 1 単位

Donna McInnis

Sebastian Brooke

学習目標 (GIO) By the end of the course students will have acquired skills necessary to start and maintain conversations entirely in English at the false-beginner to pre-intermediate levels for 10-20 minutes.

The core skills of focus are listening, speaking, vocabulary and grammar. Additionally, reading and writing skills will be taught where these may be associated with the core skills. Presentation skills are not necessarily included.

This course enhances English language skills development in accordance with English Communication I & II.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Listening: awareness of stress patterns at sentence levels; awareness of difference between syllable-timed and stress-timed languages; awareness of regional accent variations	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1, X-3-3-3
2	Speaking: awareness of sub-skills necessary for effective communication; awareness of stress patterns at sentence levels for such effective communication	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-2~3
3	Vocabulary in a level-appropriate range; input and output fluency; awareness of depth in vocabulary knowledge; awareness of knowledge network regarding pronunciation, concept, usage, and collocation	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1~3, X-9-2-2
4	Grammar: practical, automatic syntactic processing with realistic levels of accuracy rather than impractical, conscious and effortful adherence to prescribed rules through language analysis	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-3-3-1~3, X-9-2-2
5	Reading and writing skills where these are thought to be associated with the core skills	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-2-1, X-9-2-2
6	Study skills for effective language learning, with focus on vocabulary expansion and fluency improvement	X-1-1-2, X-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	Donna McInnis Sebastian Brooke	- The assessment system will be clearly explained, demonstrated, tested, and/or concept-checked so that it will be understood thoroughly and be applicable by student to their coursework throughout the semester - Students experience some pair/group work to familiarise themselves to skill-based activities - Students are given out-of-class assignments	1 - 5
2-13	Donna McInnis Sebastian Brooke	- Skill-based classroom activities - Planned/impromptu ad-hoc mini lessons focused on study skills and individual weaknesses - Speaking activities (some of) assessed weekly - Listening tasks/activities - Weekly listening tasks outside of class, to be closely monitored and assessed - Other activities each teacher provides	1 - 6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

Promotion of active learning:

Students will acquire target language through classroom activities which simulate real-life communication as closely as realistically possible; they will be frequently communicating either in pairs or small groups using the target language. They may also check understanding of given instructions using L1/L2 in pairs/small groups.

These activities in and outside of classes are guided by the communicative approach and are designed to

1. maximize students' language input and output and to
2. allow students to acquire target language skills by using the target language (English) in order to achieve communicative goals, based on intrinsic motivation wherever possible, rather than to practise purely for the purpose of practising ('because we must/because the teacher said so').

To effectively achieve the above goals, lecturing ABOUT the language and/or teacher talking time (TTT)

will be effectively controlled.

Students are consistently encouraged to take initiative in improving class management.

Overall, this course is designed to be communicative, student-centred and skill-based, which is understood to be an ideal form of active learning in language classroom.

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

Emphasis on skills development:

The course places emphasis on developing the areas of language and skills which students tend to lack, i.e., speaking and listening skills, fluency in all relevant skills, online processing of the language, approximately pre-intermediate to lower-intermediate levels of vocabulary as pointed out in research. It hires eclectic approach to effectively develop these skills.

Students are assessed mostly by continuous assessment. This means their performance will be assessed and recorded weekly throughout the course. The use of this method encourages not only to closely monitor learning but to develop fluency by:

1. regular, substantial amount of speaking practice where fluency is rewarded, and
2. allowing students to speak out more confidently, without excessive worries about committing errors typical in terminal assessment because frequent assessment compensates for any underachievement at a given time.

〔成績評価方法〕

Cumulative assessment to encourage improvements through frequent assessment

No final exams

(試験はありません。評価は授業期間内に完結しますので、気を付けてください。)

The below is an example showing the basic idea. The actual scales and detailed information will be provided by each teacher in Week (以下は評価の特徴を表わすための例です。実際の評価方法は各担当教員から第1週に通知されます。)

1. 10% Active participation clearly observable, such as speaking out in class, carefully organised notes, helping out friends, supporting class management, pointing out teacher's spelling errors, etc.

(出席しているだけでは得点はありません。積極的な学習態度が明白に認められる時にのみ、得点出来ません。)

2. 40% Speaking skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation) assessed weekly. The more you speak out the better your skills and therefore, scores.

(発話は毎週評価します。概して、発話量が多ければ多いほど高得点が取れるうえ、上達しやすいため、さらに高得点を狙うことができます。間違いを恐れずどんどんしゃべって下さい。)

3. 20% Listening skills (聴解技能)

4. 10% Any other assignments (その他の課題)

5. 20% Achievement tests on vocabulary, speaking, coursebook and other subjects

(教科書、語彙、発話などに関する小テスト)

〔教科書〕

English File: 3rd edition Pre-Intermediate Student's Book

〔参考書〕

・辞書(二言語もしくは単言語)

You will not be allowed to use any digital communication devices. Make sure to prepare an electronic or paper dictionary.

(授業中は電子通信機器の使用は認めません。必ず、電子辞書その他を準備してください。)

〔オフィスアワー〕

Office hours:

薬学事務課もしくは直接担当の先生に予約してください。

Arrange with your teacher or the Yaku-jimu office.

〔準備学習(予習・復習等)〕

Coursework outside of classes:

To be notified by your teacher

各担当教員から指示する

〔学生へのフィードバック〕

Class feedback:

Class will receive mini lessons focused on individual weaknesses observed during lessons and/or through assignments outside of lessons.

Students will also receive constant feedback on their speaking skills development.

〔教員からの一言〕

Learning to speak a second language can be more than enjoyable. You will be able to make friends, build confidence in learning, and above all, enhance overall language skills not just speaking. Challenge yourself to see how much you can improve in a year!

(外国語の発話力を身に付けることは楽しいだけではありません。友達が出来たり、学習に自信が付いたり、何よりも他の言語技能全体が向上します。一年でどれだけ上達するか、自分自身の課題として挑戦してみてください。)

英会話 II

English Conversation II

第 1・2 学年 後期 (選択) 外国語 1 単位

Donna McInnis

Sebastian Brooke

学習目標 (GIO) By the end of the course students will have acquired skills necessary to confidently start and maintain conversations entirely in English at the false-beginner to pre-intermediate levels for 20 minutes or longer.

The core skills of focus are listening, speaking, vocabulary and grammar required in a day to day conversation, i.e., in a business situation where the goal is to establish rapport through communication. Reading and writing skills will be taught where they are associated with the above core skills. Presentation skills may be practised where the above core skills are adequately established.

This course enhances English language skills development in accordance with English Communication I & II.

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	Listening: awareness of stress patterns at sentence and syllable levels; awareness of difference between syllable-timed and stress-timed languages; awareness of regional accent variations	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1~3
2	Speaking: acquisition of sub-skills necessary for effective communication; being able to manipulate stress patterns at sentence and syllabic levels for such effective communication	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1~3
3	Vocabulary in a level-appropriate range; input and output fluency; awareness of depth in vocabulary knowledge; acquisition of knowledge network regarding pronunciation, concept, usage, and collocation	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1~3
4	Grammar: practical, automatic syntactic processing with realistic levels of accuracy rather than impractical, conscious and effortful adherence to prescribed rules through language analysis	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1~3
5	Reading and writing skills where these are thought to be associated with the core skills	X-1-1-2, X-1-1-4, X-3-3-1~3
6	Study skills for effective language learning, with focus on vocabulary expansion and fluency improvement	X-1-1-2, X-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	Donna McInnis Sebastian Brooke	- The assessment system will be clearly explained, demonstrated, and/or concept-checked so that it will be understood thoroughly and be applicable by student to their coursework throughout the semester - Students experience some pair/group work to familiarise themselves to skill-based activities - Students are given out-of-class assignment	1 - 5
2-13	Donna McInnis Sebastian Brooke	- Skill-based classroom activities - Planned/impromptu ad-hoc mini lessons focused on study skills and individual weaknesses - Speaking activities (some of) which are assessed weekly - Listening tasks/activities - weekly listening tasks outside of class, to be closely monitored and assessed - Other activities each teacher provides	1 - 6

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

Students will acquire target language through classroom activities which simulate real-life communication as closely as realistically possible; they will be frequently communicating either in pairs or small groups using the target language. They may also check understanding of given instructions using L1/L2 in pairs/small groups.

These activities in and outside of classes are guided by the communicative approach and are designed to

1. maximize students' language input and output and to
2. allow students to acquire target language skills by using the target language (English) in order to achieve communicative goals, based on intrinsic motivation wherever possible, rather than to practise purely for the purpose of practising ('because we must/because the teacher said so').

To effectively achieve the above goals, lecturing ABOUT the language and/or teacher talking time (TTT)

will be effectively controlled.

Students are consistently encouraged to take initiative in improving class management.

Overall, this course is designed to be communicative, student-centred and skill-based, which is understood to be an ideal form of active learning in language classroom.

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

Emphasis on skills development:

The course places emphasis on developing the areas of language and skills which students tend to lack, i.e., speaking and listening skills, fluency in all relevant skills, online processing of the language, approximately pre-intermediate to lower-intermediate levels of vocabulary as pointed out in research. It hires eclectic approach to effectively develop these skills.

Students are assessed mostly by continuous assessment. This means their performance will be assessed and recorded weekly throughout the course. The use of this method encourages not only to closely monitor learning but to develop fluency by:

1. regular, substantial amount of speaking practice where fluency is rewarded, and
2. allowing students to speak out more confidently, without excessive worries about committing errors typical in terminal assessment because frequent assessment compensates for any underachievement at a given time.

〔成績評価方法〕

Cumulative assessment to encourage improvements through frequent assessment

No final exams

(試験はありません。評価は授業期間内に完結しますので、気を付けてください。)

The below is an example showing the basic idea. The actual scales and detailed information will be provided by each teacher in Week (以下は評価の特徴を表わすための例です。実際の評価方法は各担当教員から第1週に通知されます。)

1. 10% Active participation clearly observable, such as speaking out in class, carefully organised notes, helping out friends, supporting class management, pointing out teacher's spelling errors, etc.

(出席しているだけでは得点はありません。積極的な学習態度が明白に認められる時にのみ、得点出来ません。)

2. 40% Speaking skills (fluency, accuracy, vocabulary, pronunciation) assessed weekly. The more you speak out the better your skills and therefore, scores.

(発話は毎週評価します。概して、発話量が多ければ多いほど高得点が取れるうえ、上達しやすいため、さらに高得点を狙うことができます。間違いを恐れずどんどんしゃべって下さい。)

3. 20% Listening skills (聴解技能)

4. 10% Any other assignments (その他の課題)

5. 20% Achievement tests on vocabulary, speaking, coursebook and other subjects

(教科書、語彙、発話などに関する小テスト)

〔教科書〕

English File: 3rd edition Pre-Intermediate Student's Book

〔参考書〕

・辞書(二言語もしくは単言語)

You will not be allowed to use any digital communication devices. Make sure to prepare an electronic or paper dictionary.

(授業中は電子通信機器の使用は認めません。必ず、電子辞書その他を準備してください。)

〔オフィスアワー〕

Office hours:

薬学事務課もしくは直接担当の先生に予約してください。

Arrange with your teacher or the Yaku-jimu office.

〔準備学習(予習・復習等)〕

Coursework outside of classes:

To be notified by your teacher

各担当教員から指示する

〔学生へのフィードバック〕

Class will receive mini lessons focused on individual weaknesses observed during lessons and/or through assignments outside of lessons.

Students will also receive constant feedback on their speaking skills development.

〔教員からの一言〕

Learning to speak a second language can be more than enjoyable. You will be able to make friends, build confidence in learning, and above all, enhance overall language skills not just speaking. Challenge yourself to see how much you can improve in a year!

(外国語の発話力を身に付けることは楽しいだけではなくありません。友達が出来たり、学習に自信が付いたり、何よりも他の言語技能全体が向上します。一年でどれだけ上達するか、自分自身の課題として挑戦してみてください。)

ドイツ語Ⅰ

German I

第1・2学年 前期 (選択) 外国語 1単位

勅使川原 聖子

渡辺 幸子

学習目標 (GIO) ドイツ語の最初歩をアルファベットから学びます。日本語はもちろん、英語との類似点や相違点を明らかにしながら、基本レベルのドイツ語文法を理解し、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになります。また、ドイツ語やドイツ語圏の文化について理解を深めることをあわせて目標とします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ドイツ語の発音の特徴を理解し、未知の単語もつづりを見て発音できるようになる。	X-1-1-2
2	ドイツ語の初級文法の仕組みを体系的に理解する。	X-1-1-1~2
3	ドイツ語技能検定4級に合格できる程度の基礎的総合力をつける。	X-1-1-2
4	ドイツ語圏の文化や芸術に親しみ、日本と比較しながら日本やドイツ語圏のありようを考える。	X-1-1-1~3, X-1-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	勅使川原、渡辺	前期授業のイントロダクション / アルファベット	1
2	"	つづりと発音 / あいさつ	1、2、3、4
3	"	「お大事に」 / 人称代名詞、動詞の現在人称変化	2、3、4
4	"	動詞の位置、疑問文	2、3、4
5~6	"	「ネスレ」 / 重要不規則変化動詞、名詞の性	2、3、4
7	"	名詞の格、定冠詞と不定冠詞	2、3、4
8	"	「介護ロボット」 / 不規則動詞の現在人称変化	2、3、4
9	"	名詞の複数形	2、3、4
10	"	「ジャガイモ」 / 冠詞類、否定文	2、3、4
11~12	"	「歯磨き粉」 / 人称代名詞の格変化、再帰表現	
13	"	まとめと試験	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

文法項目ごとに補助プリントを配布し、空欄に記入させながら講義を進めている。毎回宿題を課し、学生を指名して解答を求めている。また、期末テストとは別に小テストを複数回実施し、学習到達度を学生自身が客観的に確認できるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

板書はもちろん、空欄補充式の補足プリントによる丁寧な文法解説と問題演習、耳からも発音を習得できるよう、繰り返しをいとわない発声練習と聞き取り練習、ドイツ語圏への関心を高めるための映像資料の活用。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a: 知識 小テスト、提出課題、毎回の宿題などにより行う。
c: 態度 受講態度 (出席状況、宿題への取り組み) により評価する。

2) 総括的評価

- a: 知識 定期試験、平常点 (出席、小テスト、提出物) により総合的に評価する。
c: 態度 受講態度 (出席状況、宿題への取り組み) により評価する。

〔教科書〕

木戸紗織 著 『身近なドイツ語一話したくなる10のトピッカー』 (朝日出版社)

〔参考書〕

辞書と合わせて初回の授業で紹介する。

〔オフィスアワー〕

水曜午後 薬学事務課にて

〔準備学習 (予習・復習等)〕

毎回の授業で、予習と復習を兼ねた宿題が出ますので、授業内容をきちんと消化できるよう、必ずやってくるようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

宿題についてはもちろん、課題や小テストについても返却時に解説を行います。理解が不十分であったり、追加の練習問題を希望する場合には、補習プリントを随時配布します。

〔教員からの一言〕

ドイツ語は、ひと昔前のような医療関係者必須の言語ではなくなりましたが、レントゲンやアレルギーといった、ドイツ語に由来する医療用語、薬や病気などの名称は、今でもたくさん使われています。英語と同じ系統をもつ言語ですが、ドイツ語の特性をきちんと把握できれば、英語や日本語をより深く理解できるようにもなります。わからない部分は積極的に質問してください。

〔備考〕

独和辞典は毎回持参のこと。

ドイツ語Ⅱ

German II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

勅使川原 聖子

渡辺 幸子

学習目標 (GIO) ドイツ語Ⅰの学習内容を定着・発展させ、ドイツ語で簡単なコミュニケーションをはかれるようにする。また引き続きドイツ語圏の文化について理解を深めることをあわせて目標とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	ドイツ語の初級文法の仕組みを体系的に理解する。	X-1-1-2
2	自分の意志や希望を伝え、出来事を報告するなどの易しい会話表現を習得する。	X-1-1-1～2
3	ドイツ語技能検定4級に合格できる程度の基礎的総合力をつける。	X-1-1-2
4	ドイツ語圏の文化や芸術に親しみ、日本と比較しながら日本やドイツ語圏のありようを考える。	X-1-1-1～3, X-1-1-6

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	勅使川原、渡辺	後期授業のイントロダクション / 前期の復習	1、3
2～3	"	「PEZ」 / 前置詞	1、2、3、4
4～5	"	「ツァイス」 / 複合動詞	1、2、3、4
6～7	"	接続詞	1、2、3、4
8	"	「赤ちゃんポスト」 / 話法の助動詞、未来形	1、2、3、4
9 10	"	非人称の es	1、2、3、4
11	"	「ビール」 / 3基本形	1、2、3、4
12	"	現在完了形	1、2、3、4
13	"	「エニグマ」 / 過去形	1、2、3、4
14	"	zu 不定詞	1、2、3、4
15	"	まとめとテスト	1、2、3、4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

文法ごとに補助プリントを配布し、空欄に記入させながら講義を進めている。宿題を毎回課し、学生を指名して解答を求めている。また、期末テストとは別に小テストを実施し、学習到達度を学生自身も客観的に確認できるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

板書はもちろん、空所補充式の補足プリントによる丁寧な文法解説と問題演習、耳からも発音を習得できるように繰り返しをいとわない発声練習、ドイツ語圏への関心を高めるための映像資料の活用。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a: 知識 小テスト、提出課題、毎回の宿題などにより行う。
c: 態度 受講態度 (出席状況、宿題への取り組み) により評価する。

2) 総括的評価

a: 知識 定期試験、平常点 (出席、小テスト、提出物) により総合的に評価する。
c: 態度 受講態度 (出席状況、宿題への取り組み) により評価する。

〔教科書〕

木戸紗織 著 『身近なドイツ語一話したくなる10のトピッカー』 (朝日出版社)

〔オフィスアワー〕

水曜午後 薬学事務課にて

〔準備学習 (予習・復習等)〕

毎回の授業で、予習や復習を兼ねた宿題が出ますので、授業内容をきちんと消化できるよう、宿題は必ずやってくるようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

宿題についてはもちろん、課題や小テストについても返却時に解説を行います。理解が不十分であったり、追加の練習問題を希望する場合には、補習プリントを随時配布します。

〔教員からの一言〕

ドイツ語は、ひと昔前のような医療関係者必須の言語ではなくなりましたが、カルテやアレルギー、レントゲンといった、ドイツ語に由来する医療用語、薬や病気などの名称は今でもたくさん使われています。英語と同じ系統の言語ですが、ドイツ語の特性をきちんと把握できれば、英語や日本語をより深く理解できるようにもなります。わからない部分は積極的に質問してください。

〔備考〕

独和辞典は毎回持参のこと。

中国語Ⅰ

Chinese I

第1・2学年 前期 (選択)外国語 1単位

三浦 久仁子

学習目標 中国語の初歩的学習事項を理解・習得し、簡単な会話と読み書きができる。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各回の学習事項に基づき、簡単な会話と読み書きが行なえる。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	三浦	授業の説明 第1講 音節・ピンイン・簡体字・声調・単母音	
2	"	第2講 二重母音・三重母音 第3講 n・ngで終わる母音・そり舌母音	
3	"	第4講 子音(1) 第5講 子音(2)	
4	"	第6講 声調変化・軽声・r化 第7講 声調の組み合わせ練習・簡単なあいさつ	
5	"	第1課 あなたは日本人ですか(人称代名詞・"是"構文)	
6	"	第1課の復習 第2課 これは何ですか(指示代名詞・疑問詞疑問文)	
7	"	第2課の復習 第3課 あなたはコーヒーを飲みますか(動詞述語文・省略疑問文)	
8	"	第3課の復習 第1～3課 総復習	
9	"	第4課 私は上野動物園に行きたいです(数・日にち・時刻の言い方)	
10	"	第4課の復習 第5課 キャンパスにはいくつ食堂がありますか(数量表現・存在と所在を表す文)	
11	"	第5課の復習 第6課 あなたの妹は本当にかわいいです(年齢の言い方・所有を表す文・形容詞述語文)	
12	"	第6課の復習 第4～6課 総復習	
13	"	期末テスト	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・必要に応じ補助プリントを配布
- ・復習のための小テストを実施
- ・各回できる限り多くの学生に発言させる

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
中国語を学ぶ上で文化的な背景も理解するため視聴覚教材なども使用する。

〔成績評価方法〕

- ・期末試験(持ち込み不可)の結果と平常点(出席状況・授業態度・小テストの結果・課題の提出状況)を総合して評価する。
- ・教室に来ているだけで授業に参加していない者は欠席とみなす場合があるので注意すること。また、受講状況不良のものに対しては受験停止の措置などを講ずる場合があるので注意すること。

〔教科書〕

『花咲く中国語』(三宅 登之, 張 国 ċŠŘ, 石黒 ひさ子, 池上 貞子 著/朝日出版社)

〔オフィスアワー〕

講義終了後

〔準備学習(予習・復習等)〕

予習: 授業の前に今回学ぶであろう部分に目を通し何を学ぶのか確認しておいてください。

復習: 中国語を話せるようになるには、正しい発音を身につけることと中国語に耳を慣らすことがカギで

す。教科書についている CD をスマートフォンなどに入れすぐに聞けるようにしておき、耳に中国語の音を印象づけてください。

〔学生へのフィードバック〕

中国語を書いたものを提出してもらい、漢字やピンイン（発音表記）が正しく書けているかチェックをします。

〔教員からの一言〕

- ・中国語をはじめて学ぶ人を対象とした授業です。（学習経験者・母語話者等には勧められません。）
- ・各自教科書を購入して持参してください。
- ・授業では各自声を出して発音練習をしたり、文章を音読することも求められますので承知のうえで受講してください。

中国語Ⅱ

Chinese II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

三浦 久仁子

学習目標 前期に引き続き、中国語の初歩的学習事項を理解・習得し、簡単な会話及び読み書きができる。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	各回の学習事項に基づき、簡単な会話・読み書きが行なえる。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	三浦	前期の復習 第7課 昨日あなたは大学に行きましたか (語気助詞"了"・連動文)	
2	"	第7課の復習 第8課 あなたは京都に行ったことがありますか (経験を表す文・動作の回数の言い方)	
3	"	第8課の復習 第9課 私たちは三時間歌いました (動作の時間の長さの言い方・動作の実現・完了を表す"了"・選択疑問文)	
4	"	第9課の復習 第7～9課総復習	
5	"	第10課 これはあれより甘い (比較構文)	
6	"	第10課の復習 第11課 ショートメールを送れますか (可能を表す助動詞・禁止表現)	
7	"	第11課の復習 第12課 書き終わりましたか (動作の進行を表す表現・結果補語)	
8	"	第12課の復習 第10～12課総復習	
9	"	第13課 私が見えますか (可能補語・使役構文)	
10	"	第13課の復習 第14課 あなたは中国語が本当に上手です (様態補語・存現文)	
11	"	第14課の復習 第15課 私は服をベランダに干しました (受け身表現・"把"構文)	
12	"	第15課の復習 第13～15課総復習	
13	"	総復習	
14		期末テスト	
15		まとめ	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・必要に応じ補助プリントを配布
- ・復習のための小テストを実施
- ・各回できる限り多くの学生に発言させる

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

中国語を学ぶ上で文化的な背景も理解するため視聴覚教材なども使用する。

〔成績評価方法〕

- ・期末試験 (持ち込み不可) の結果と平常点 (出席状況・授業態度・小テストの結果・課題の提出状況) を総合して評価する。
- ・教室に来ているだけで授業に参加していない者は欠席とみなす場合があるので注意すること。また、受講状況不良のものに対しては受験停止の措置などを講ずる場合があるので注意すること。

〔教科書〕

『花咲く中国語』(三宅 登之, 張 国 ċŠŘ, 石黒 ひさ子, 池上 貞子 著 / 朝日出版社)

〔 オフィスアワー 〕

講義終了後

〔 準備学習（予習・復習等） 〕

予習：授業の前に教科書に目を通し前回何を勉強したか思い出しておきましょう。

そして今回学ぶであろう部分に目を通し何を学ぶのか確認しておいてください。

復習：学んだことを身につけるには、授業のあとでよく復習することが必要です。

教科書付属の CD を聞いて、本文を音読して、中国語の発音に耳が慣れるようにしましょう。

〔 学生へのフィードバック 〕

中国語の漢字が正しく書けているか課題を通して確認します。また授業中に発音チェックも行います。

〔 教員からの一言 〕

授業でわかったと思っても、あとで発音したり書いたりしてみると難しいことやわからないことに気づくことがあると思います。わからないことがあれば遠慮なくどんどん質問してください。

フランス語Ⅰ

French I

第1・2学年 前期 (選択) 外国語 1単位

森本 信子

学習目標 (GIO) フランスの文化と言語に親しみ、基礎的なフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目標とする。文法の学習、発音練習、聞き取り、会話練習、作文等を通して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	フランス語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。	X-3-1-2
2	フランス語を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。	X-1-1-2
3	フランス語の基礎的音声を聞き分けることができる。(技能)	X-3-3-1
4	フランス語の会話を聞いて内容を理解して要約できる。(技能)	X-3-3-2
5	フランス語による簡単なコミュニケーションができる。(技能・態度)	X-3-3-3
6	自己紹介文、手紙文などをフランス語で書くことができる。(知識・技能)	X-3-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1, 2	森本	こんにちは。私の名前はカナです。	1~6
3, 4	"	Leçon 1 バゲットを一本、お願いします!	"
5, 6	"	Leçon 2 これ、何ですか、この果物?	"
7, 8	"	Leçon 3 あなたは学生ですか?	"
9, 10	"	Leçon 4 ワインは好きですか。	"
11, 12	"	Leçon 5 ビスケットとチョコレートを持ってるよ。	"
13	"	学習のまとめ	"
14	"	期末試験	"

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・各回に小テストを実施している。
- ・学生を指名して発表させている。
- ・学生同士の会話練習を行っている。
- ・レポートを提出させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・自ら考えながら答えを探す授業を展開している。
- ・ペアやグループでの会話練習を行い、状況に応じた実用的なフランス語を身につけるよう指導している。
- ・小テストによるフィードバックを行い、予習、授業、復習の基本的な語学学習の方法を定着させて、将来の自己研さんに役立つよう指導している。
- ・フランス語の歌などを通して独特のリズムを体得させている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：練習問題を多く解かせ、小テストを行って螺旋的に知識を定着させている。
- b) 技能：音読と口頭練習により、実践的な会話力を身に付けさせている。
- c) 態度：積極的な参加を推奨して観察し、こまめにフィードバックをしている。

2) 総括的評価

- a) 知識：定期試験 (50%)、小テスト (10%) を総合的に評価する。
- b) 技能：音声の聞き分け、内容理解、作文力等を口頭試問や発表等で評価する (20%)。
- c) 態度：フランス語による積極的なコミュニケーションを評価する (20%)。

〔教科書〕

『ブティ・シュマン (改訂版)』(大塚 陽子著、白水社)

〔参考書〕

『クラウン仏和辞典』(三省堂)

『パスポート仏和・和仏小辞典』(白水社)

『コレクション フランス語 3 文法』(西村、曾我、田島著、白水社)

『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある』(清岡智比古著、白水社)

〔オフィスアワー〕

森本信子 いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

森本信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・授業でどんなことを学習するのか事前に教科書に目を通しましょう。
- ・前回分の復習小テストを毎回行います。短時間でも復習をする習慣をつけましょう。
- ・授業ごとに予習と復習を各々30分程度行うとよいでしょう。

〔学生へのフィードバック〕

- ・小テストやレポートに対するフィードバックを行います。

〔教員からの一言〕

新しい言語を学ぶことはとても楽しいことです。是非積極的に取り組んでください。

フランス語Ⅱ

French II

第1・2学年 後期 (選択) 外国語 1単位

森本 信子

学習目標 (GIO) フランスの文化と言語に親しみ、基礎的なフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目標とする。文法の学習、発音練習、聞き取り、会話練習、作文等を通して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	フランス語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。	X-3-1-2
2	フランス語を学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。	X-1-1-2
3	フランス語の基礎的音声を聞き分けることができる。(技能)	X-3-3-1
4	フランス語の会話を聞いて内容を理解して要約できる。(技能)	X-3-3-2
5	フランス語による簡単なコミュニケーションができる。(技能・態度)	X-3-3-3
6	自己紹介文、手紙文などをフランス語で書くことができる。(知識・技能)	X-3-2-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1, 2	森本	Leçon 6 私はスーパーマーケットに行くの。	1~6
3, 4	"	Leçon 7 むしろ飛行機に乗りなよ。	"
5, 6	"	Leçon 8 そうしたいのだけど...	"
7, 8	"	Leçon 9 授業は何時に終わるの?	"
9, 10	"	Leçon 10 彼女にはもう会っていないの。	"
11, 12	"	Leçon 11 カフェ・デリスで会おう。	"
13, 14	"	学習のまとめ	"
15	"	期末試験	"

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・各回に小テストを実施している。
- ・学生を指名して発表させている。
- ・学生同士の会話練習を行っている。
- ・レポートを提出させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・自ら考えながら答えを探す授業を展開している。
- ・ペアやグループでの会話練習を行い、状況に応じた実用的なフランス語を身につけるよう指導している。
- ・小テストによるフィードバックを行い、予習、授業、復習の基本的な語学学習の方法を定着させて、将来の自己研さんに役立つよう指導している。
- ・フランス語の歌などを通して独特のリズムを体得させている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：練習問題を多く解かせ、小テストを行って螺旋的に知識を定着させている。
 - b) 技能：音読と口頭練習により、実践的な会話力を身に付けさせている。
 - c) 態度：積極的な参加を推奨して観察し、こまめにフィードバックをしている。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識：定期試験 (50%)、小テスト (10%) を総合的に評価する。
 - b) 技能：音声の聞き分け、内容理解、作文力等を口頭試問や発表等で評価する (20%)。
 - c) 態度：フランス語による積極的なコミュニケーションを評価する (20%)。

〔教科書〕

『ブティ・シュマン (改訂版)』(大塚 陽子著、白水社)

〔参考書〕

- 『クラウン仏和辞典』(三省堂)
- 『パスポート仏和・和仏小辞典』(白水社)
- 『コレクション フランス語3 文法』(西村、曾我、田島著、白水社)
- 『フラ語入門、わかりやすいにもホドがある』(清岡智比古著、白水社)

〔オフィスアワー〕

森本信子 いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

森本信子 第4英語研究室 教育3号館3階

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・授業でどんなことを学習するのか事前に教科書に目を通しましょう。
- ・前回分の復習小テストを毎回行います。短時間でも復習をする習慣をつけましょう。
- ・授業ごとに予習と復習を各々30分程度行うとよいでしょう。

〔学生へのフィードバック〕

小テストやレポートに対するフィードバックを行います。

〔教員からの一言〕

フランス語の新しい表現も増えてきます。楽しみながら、1つずつ押さえていきましょう。

ゼミナールI

Group Seminar I

第1学年 後期 (選択)ゼミナール 1単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	【①医療人として】 1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) 3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-1~7
2	【②薬剤師が果たすべき役割】 1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-1~8
3	【③患者安全と薬害の防止】 1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-1~7
4	【④薬学の歴史と未来】 1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	A-1-4-1~4
5	【①生命倫理】 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-1~4

番号	内容	コアカリとの関連コード
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	A-2-2-1～3
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度） 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度） 	A-2-3-1～4
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度） 	A-2-4-1～3
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度） 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度） 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度） 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度） 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度） 	A-3-1-1～9
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度） 	A-3-2-1～2
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度） 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度） 	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度） 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能） 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能） 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能） 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度） 	A-5-1-1～5
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度） 	A-5-2-1～2
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能） 	A-5-3-1～2
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度） 2. 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度） 	A-5-4-1～2

番号	内容	コアカリとの関連コード
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	B-1-1-1, B-1-2-1, B-1-3-1, B-1-4-1, B-1-5-1
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。 	B-2-1-1～8
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。 	B-2-2-1～11
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	B-2-3-1～3
20	<p>【④医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	B-3-1-1～7
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	B-3-2-1～4
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	B-4-1-1～6
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) 	B-4-2-1～5

番号	内容	コアカリとの関連コード
24	3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度) 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度) 1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度) 5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D1-2-3-3, D2-1-1-5, D2-1-2-1, D2-2-1-5
25	2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能) 4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	E1-3-2-1, E1-4-4-1
26	【②臨床における心構え】 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	F-1-2-1~7
27	【①医療機関におけるチーム医療】 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	F-4-1-1~3
28	GI0 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-1-1, G-1-2-1, G-1-3-1, G-1-4-1
29	GI0 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲	G-2-1-1, G-2-2-1, G-2-3-1
30	(1) 人と文化 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	X-1-1-1~8
31	【1. 人の行動とその成り立ち】 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。	X-2-1-1~6
32	【2. 動機づけ】 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。	X-2-2-1~3
33	【3. ストレス】 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。	X-2-3-1~3

番号	内容	コアカリとの関連コード
34	<p>【4. 生涯発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。 	X-2-4-1～3
35	<p>【5. パーソナリティー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。 	X-2-5-1～4
36	<p>【6. 人間関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動（援助、攻撃等）について概説できる。 3. 集団の中の人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。 	X-2-6-1～4
37	<p>【1. 基本操作】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。（知識・技能） 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能） 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線 LAN を使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度） 7. インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。（技能） 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能） 	X-8-1-1～8
38	<p>【2. ソフトウェアの利用】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。（態度） 2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。（技能） 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。（技能） 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。（技能） 5. データベースの特徴と活用について概説できる。 	X-8-2-1～5
39	<p>【3. セキュリティーと情報倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークセキュリティーについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度） 3. データやメディアを適切に管理できる。（態度） 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度） 6. ソーシャルネットワークサービス（SNS）の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティーに関する情報を収集することができる。（技能） 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。（技能・態度） 	X-8-3-1～8
40	<p>【1. プレゼンテーションの基本】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。（技能） 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。（技能） 	X-9-1-1～3
41	<p>【2. 文書によるプレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。（知識・技能） 2. 目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。（知識・技能） 	X-9-2-1～2
42	<p>【3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。（技能） 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。（技能・態度） 4. 質問に対して的確な応答ができる。（技能） 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。（知識・態度） 	X-9-3-1～5

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	委員会メンバー	（前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施） ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス(別冊)にて指定した内容	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期:次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1~2年次に3種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学びたいゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

開講内容等詳細は別途資料を参照。

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。

〔学生へのフィードバック〕

ゼミナール担当者が指定する。

ゼミナールII

Group Seminar II

第2学年 前期 (選択)ゼミナール 1単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	【①医療人として】 1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) 3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-1~7
2	【②薬剤師が果たすべき役割】 1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-1~8
3	【③患者安全と薬害の防止】 1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-1~7
4	【④薬学の歴史と未来】 1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	A-1-4-1~4
5	【①生命倫理】 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-1~4

番号	内容	コアカリとの関連コード
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	A-2-2-1～3
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度） 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度） 	A-2-3-1～4
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度） 	A-2-4-1～3
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度） 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度） 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度） 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度） 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度） 	A-3-1-1～9
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度） 	A-3-2-1～2
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度） 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度） 	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度） 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能） 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能） 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能） 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度） 	A-5-1-1～5
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度） 	A-5-2-1～2
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能） 	A-5-3-1～2
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度） 2. 後輩等への適切な指導を实践する。（技能・態度） 	A-5-4-1～2

番号	内容	コアカリとの関連コード
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	B-1-1-1, B-1-2-1, B-1-3-1, B-1-4-1, B-1-5-1
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。 	B-2-1-1～8
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 	B-2-2-1～11
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	B-2-3-1～3
20	<p>【④医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	B-3-1-1～7
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	B-3-2-1～4
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	B-4-1-1～6
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) 	B-4-2-1～5

番号	内容	コアカリとの関連コード
24	3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度) 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度) 1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度) 5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D1-2-3-3, D2-1-1-5, D2-1-2-1, D2-2-1-5
25	2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能) 4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	E1-3-2-1, E1-4-4-1
26	【②臨床における心構え】 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	F-1-2-1~7
27	【①医療機関におけるチーム医療】 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	F-4-1-1~3
28	GI0 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-1-1, G-1-2-1, G-1-3-1, G-1-4-1
29	GI0 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲	G-2-1-1, G-2-2-1, G-2-3-1
30	(1) 人と文化 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	X-1-1-1~8
31	【1. 人の行動とその成り立ち】 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。	X-2-1-1~6
32	【2. 動機づけ】 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。	X-2-2-1~3
33	【3. ストレス】 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。	X-2-3-1~3

番号	内容	コアカリとの関連コード
34	【4. 生涯発達】 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。	X-2-4-1～3
35	【5. パーソナリティー】 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。	X-2-5-1～4
36	【6. 人間関係】 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動（援助、攻撃等）について概説できる。 3. 集団の中の人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。	X-2-6-1～4
37	【1. 基本操作】 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。（知識・技能） 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能） 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線 LAN を使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度） 7. インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。（技能） 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能）	X-8-1-1～8
38	【2. ソフトウェアの利用】 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。（態度） 2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。（技能） 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。（技能） 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。（技能） 5. データベースの特徴と活用について概説できる。	X-8-2-1～5
39	【3. セキュリティーと情報倫理】 1. ネットワークセキュリティーについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度） 3. データやメディアを適切に管理できる。（態度） 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度） 6. ソーシャルネットワークサービス（SNS）の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティーに関する情報を収集することができる。（技能） 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。（技能・態度）	X-8-3-1～8
40	【1. プレゼンテーションの基本】 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。（技能） 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。（技能）	X-9-1-1～3
41	【2. 文書によるプレゼンテーション】 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。（知識・技能） 2. 目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。（知識・技能）	X-9-2-1～2
42	【3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション】 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。（技能） 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。（技能・態度） 4. 質問に対して的確な応答ができる。（技能） 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。（知識・態度）	X-9-3-1～5

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	委員会メンバー	（前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施） ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス(別冊)にて指定した内容	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期:次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1~2年次に3種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学びたいゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

開講内容等詳細は別途資料参照。

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。

〔学生へのフィードバック〕

ゼミナール担当者が指定する。

ゼミナール III

Group Seminar III

第 2 学年 後期 (選択)ゼミナール 1 単位

薬学部教員ならびに非常勤講師

学習目標 (GIO) 優れた医療人となるためには、必修科目で学ぶ基本的な知識と技能、さらには態度に加え、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識を持ち、的確な見識を持って行動できるようになることが望まれる。ゼミナールは少人数クラス単位で実施する選択科目であり、科目を自らの興味で選んで履修することで自主性を養い、演習、グループ討論、プレゼンテーションなどの能動的な学習方法を実践することで、優れた医療人となるための技能や態度を醸成する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	【①医療人として】 1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) 2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) 3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) 4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) 6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-1~7
2	【②薬剤師が果たすべき役割】 1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) 2. 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 4. 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 5. 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。 6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 8. 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-1~8
3	【③患者安全と薬害の防止】 1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) 2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。 3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列举し、その原因と防止策を説明できる。 5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度) 6. 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	A-1-3-1~7
4	【④薬学の歴史と未来】 1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。 4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	A-1-4-1~4
5	【①生命倫理】 1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度) 2. 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。 3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度) 4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-1~4

番号	内容	コアカリとの関連コード
6	<p>【②医療倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 	A-2-2-1～3
7	<p>【③患者の権利】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度） 2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度） 	A-2-3-1～4
8	<p>【④研究倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度） 	A-2-4-1～3
9	<p>【①コミュニケーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度） 6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度） 7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度） 8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度） 9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度） 	A-3-1-1～9
10	<p>【②患者・生活者と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。（態度） 	A-3-2-1～2
11	<p>【多職種連携協働とチーム医療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。 2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。（態度） 5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。（知識・態度） 	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1, A-4-4-1, A-4-5-1
12	<p>【①学習の在り方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。（態度） 2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（技能） 3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。（知識・技能） 4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能） 5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度） 	A-5-1-1～5
13	<p>【②薬学教育の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度） 	A-5-2-1～2
14	<p>【③生涯学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能） 	A-5-3-1～2
15	<p>【④次世代を担う人材の育成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度） 2. 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度） 	A-5-4-1～2

番号	内容	コアカリとの関連コード
16	<p>【人と社会に関わる薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) 3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) 4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) 5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) 	B-1-1-1, B-1-2-1, B-1-3-1, B-1-4-1, B-1-5-1
17	<p>【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。 5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 7. 個人情報の取扱いについて概説できる。 8. 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。 	B-2-1-1～8
18	<p>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。 2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。 4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 7. 「医薬品等の取扱いに関する医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 10. 健康被害救済制度について説明できる。 11. レギュラトリーサイエンスの必要性和意義について説明できる。 	B-2-2-1～11
19	<p>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 	B-2-3-1～3
20	<p>【④医療、福祉、介護の制度】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 2. 医療保険制度について説明できる。 3. 療養担当規則について説明できる。 4. 公費負担医療制度について概説できる。 5. 介護保険制度について概説できる。 6. 薬価基準制度について概説できる。 7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 	B-3-1-1～7
21	<p>【②医薬品と医療の経済性】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 2. 国民医療費の動向について概説できる。 3. 後発医薬品とその役割について説明できる。 4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 	B-3-2-1～4
22	<p>【①地域における薬局の役割】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。 3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 5. 災害時の薬局の役割について説明できる。 6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 	B-4-1-1～6
23	<p>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアの理念について説明できる。 2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 3. 学校薬剤師の役割について説明できる。 4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度) 	B-4-2-1～5

番号	内容	コアカリとの関連コード
24	3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度) 5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度) 1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度) 5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D1-2-3-3, D2-1-1-5, D2-1-2-1, D2-2-1-5
25	2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能) 4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	E1-3-2-1, E1-4-4-1
26	【②臨床における心構え】 1. 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) 2. 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) 3. 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) 4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) 5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) 6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) 7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)	F-1-2-1~7
27	【①医療機関におけるチーム医療】 1. 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 2. 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 3. 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニックパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	F-4-1-1~3
28	GI0 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。 1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-1-1, G-1-2-1, G-1-3-1, G-1-4-1
29	GI0 自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。 1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲	G-2-1-1, G-2-2-1, G-2-3-1
30	(1) 人と文化 1. 人の価値観の多様性が、文化・習慣の違いから生まれることを、実例をあげて説明できる。 2. 言語、歴史、宗教などを学ぶことによって、外国と日本の文化について比較できる。 3. 文化・芸術に幅広く興味を持ち、その価値について討議する。(態度) 4. 文化活動、芸術活動を通して、自らの社会生活を豊かにする。(態度) 5. 日本社会の成り立ちについて、政治、経済、法律、歴史、社会学などの観点から説明できる。 6. 日本の国際社会における位置づけを、政治、経済、地理、歴史などの観点から説明できる。 7. 宇宙・自然現象に幅広く興味を持ち、人との関わりについて説明できる。 8. 地球環境保護活動を通して、地球環境を守る重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	X-1-1-1~8
31	【1. 人の行動とその成り立ち】 1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考、性格との関係について概説できる。 2. 行動と人の内的要因、社会・文化的環境との関係について概説できる。 3. 本能行動と学習行動について説明できる。 4. レスポンデント条件づけとオペラント条件づけについて説明できる。 5. 社会的学習(モデリング、観察学習、模倣学習)について概説できる。 6. 健康行動の理論(健康信念モデル、変化のステージモデルなど)について概説できる。	X-2-1-1~6
32	【2. 動機づけ】 1. 生理的動機、内発的動機、および社会的動機について概説できる。 2. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連について概説できる。 3. 適応(防衛)機制について概説できる。	X-2-2-1~3
33	【3. ストレス】 1. 主なストレス学説について概説できる。 2. 人生や日常生活におけるストレスについて例示できる。 3. ストレスコーピングについて概説できる。	X-2-3-1~3

番号	内容	コアカリとの関連コード
34	<p>【4. 生涯発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの発達の原理について概説できる。 2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達の特徴および発達課題について概説できる。 3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因について概説できる。 	X-2-4-1～3
35	<p>【5. パーソナリティー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格の類型について概説できる。 2. 知能の発達と経年変化について概説できる。 3. 役割理論について概説できる。 4. ジェンダーの形成について概説できる。 	X-2-5-1～4
36	<p>【6. 人間関係】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係における欲求と行動の関係について概説できる。 2. 主な対人行動（援助、攻撃等）について概説できる。 3. 集団の中の人間関係（競争と協同、同調、服従と抵抗、リーダーシップ）について概説できる。 4. 人間関係と健康心理との関係について概説できる。 	X-2-6-1～4
37	<p>【1. 基本操作】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターを構成する基本的装置の機能と接続方法を説明できる。 2. スマートフォン、タブレット端末などのモバイル機器を安全かつ有効に利用できる。（知識・技能） 3. 電子データの特徴を知り、適切に取り扱うことができる。（技能） 4. インターネットの仕組みを概説できる。 5. 無線 LAN を使用するための注意点について概説できる。 6. マナーを守り、電子メールの送信、受信、転送などができる。（技能・態度） 7. インターネットに接続し、Web サイトを閲覧できる。（技能） 8. 検索サイト、ポータルサイトの特徴に応じて、必要な情報を収集できる。（技能） 	X-8-1-1～8
38	<p>【2. ソフトウェアの利用】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトウェア使用上のルール、マナーを守る。（態度） 2. ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いることができる。（技能） 3. グラフィックソフト、化学構造式描画ソフトを用いることができる。（技能） 4. 画像ファイルの形式とその特徴に応じて、データを適切に取り扱うことができる。（技能） 5. データベースの特徴と活用について概説できる。 	X-8-2-1～5
39	<p>【3. セキュリティーと情報倫理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークセキュリティーについて概説できる。 2. アカウントとパスワードを適切に管理できる。（技能・態度） 3. データやメディアを適切に管理できる。（態度） 4. 著作権、肖像権、引用と転載の違いについて説明できる。 5. ネットワークにおける個人情報の取り扱いに配慮する。（態度） 6. ソーシャルネットワークサービス（SNS）の種類と特徴、留意すべき点について説明できる。 7. 情報倫理、セキュリティーに関する情報を収集することができる。（技能） 8. コンピューターウイルスの侵入経路に応じて、適切な予防策を講じることができる。（技能・態度） 	X-8-3-1～8
40	<p>【1. プレゼンテーションの基本】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションを行うために必要な要素を列挙できる。 2. 目的に応じて適切なプレゼンテーションを構成できる。（技能） 3. 目的、場所、相手に応じた、わかりやすい資料を作成できる。（技能） 	X-9-1-1～3
41	<p>【2. 文書によるプレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定められた書式、正しい文法に則って文書を作成できる。（知識・技能） 2. 目的（レポート、論文、説明文書など）に応じて適切な文書を作成できる。（知識・技能） 	X-9-2-1～2
42	<p>【3. 口頭・ポスターによるプレゼンテーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口頭発表とポスター発表の違いと特徴について説明できる。 2. 課題に関して意見をまとめ、決められた時間内で発表できる。（技能） 3. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫をする。（技能・態度） 4. 質問に対して的確な応答ができる。（技能） 5. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点および改良点を指摘できる。（知識・態度） 	X-9-3-1～5

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	委員会メンバー	（前期ならびに後期開始前の時期：ゼミナールガイダンスとして実施） ゼミナールの目指すもの、受動的学習と能動的学習、ゼミナール選択についてなどの総論を講義する。さらに、定期的にゼミナールアンケートを実施する	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2~15	各ゼミナール担当者	シラバス(別冊)にて指定した内容	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs
16	委員会メンバー	(前期ならびに後期開始前の時期:次期ゼミナールガイダンスと同時開催) ゼミナールで実施したアンケートをフィードバックする	上記のSBOsならびに各ゼミナールの分野に関するSBOs

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1~2年次に3種類のゼミナールを選択することによって、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服し、まったく未知の分野に挑戦するなど、必修科目では味わえない、さまざまなことを吸収してくれることを期待しています。少人数、グループ学習を通して、問題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が徐々に醸成されてきます。3~6年次さらには社会で求められる重要な能力ばかりです。自らの判断で有益にすごしてもらいたいと願っています。

「選択」は自己責任で行う重要なアクションです。カリキュラムは必修科目が多いので、このようなアクションをする絶好のチャンスです。ガイダンス時に配布される資料を読みこなし最も学びたいゼミナールを選択してください。必修科目には無い醍醐味が味わえます。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

ゼミナールは約90名の薬学部教員が各々1単位を開講する。テーマは各々の教員が指定する。実施例を以下に示す。テーマならびに履修に関する関連事項はガイダンス時に説明する。受講時期は1年次後期から2年次後期までであり、3単位以上を履修する。集中講義形式を基本とし、前期または後期の実習のない週の午後3週間、合計6日間に実施することを基本とする。

開講内容等詳細は別途資料参照。

〔成績評価方法〕

提出物、参加態度等を総合的に判断する。

〔教科書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔参考書〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔オフィスアワー〕

ゼミナール担当者が指定する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

ゼミナールのコアタイムに実施されるグループ討議は、各個人のパフォーマンスレベルの高さによって質が左右されます。演習問題の回答でも、皆が十分な予習をしていることによって、質の高い解説が行われることとなります。プレゼンのための資料作りは、コアタイム以外の時間に行っていくことが前提となります。質の高いコアタイムを築くために、予習復習を十分に行ってください。

〔学生へのフィードバック〕

ゼミナール担当者が指定する。

構造有機化学

Structural Theory of Organic Chemistry

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

一柳 幸生

学習目標 (GIO) 複雑な有機化合物の構造および立体化学を解析するうえで、NMR スペクトルが多くの重要な情報を提供する。本講義では、 ^1H NMR スペクトルを中心に、MS、IR スペクトルを演習形式で解析し、機器スペクトルによる構造解析法について理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-2-1
2	^1H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。	C3-4-1-1
3	^1H NMR の積分値の意味を説明できる。	C3-4-1-3
4	^1H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。	C3-4-1-4
5	代表的な化合物の部分構造を ^1H NMR から決定できる。	C3-4-1-5
6	代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。	C3-4-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	一柳	^1H NMR および ^{13}C NMR スペクトルの原理と概要	1
4~6	"	^1H NMR および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報	2、3、4
7~8	"	^1H NMR スペクトルの応用	2、3、4
9~11	"	^1H NMR スペクトルの解析	2、3、4
12~13	"	種々の機器スペクトルデータを用いた構造解析	5、6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、演習形式を多く採り入れている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

演習問題の解釈について受講者が自ら発表を行う、参加型の講義形式で実施する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識：演習問題を適時行う。

2) 総括的評価

知識：試験で評価する(100%)。再試験は行わない。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版(上)(J. McMurry 著 伊藤ら訳 東京化学同人)

講義用プリント

〔参考書〕

有機化合物のスペクトルによる同定法 第8版 (R.M. Silverstein 著 岩澤ら訳 東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可。

〔所属教室〕

天然医薬品化学講座 研究1号館2階

〔準備学習(予習・復習等)〕

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行ってください。授業を受ける前に、教科書の該当範囲を読んでから講義に臨んでください。また、配布資料を中心に講義後の復習を必ず行ってください。分からないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。

〔学生へのフィードバック〕

学生の演習問題への回答について補足解説を行っている。

〔教員からの一言〕

低分子有機化合物の構造決定は、多くの場合機器スペクトルの解析により行われます。スペクトル解析による化合物の構造決定にチャレンジしてみたい方にお勧めします。但し、機器スペクトル解析に習熟するには相応の努力が必要です。本科目は1回でも欠席すると、爾後の講義を理解することが難しくなります。

全ての講義に出席可能であることを確認のうえ受講申請しましょう。

反応有機化学

Organic Reaction Mechanism

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

矢内 光

学習目標 有機反応における軌道概念に関する基本事項を修得する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子価結合法と分子軌道法の基礎概念を説明できる。	C1-1-1-1~2
2	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
3	基本的な有機反応の分類と反応機構を説明できる。	C3-1-1-6~9
4	代表的なペリ環状反応を列挙し、その特徴を説明できる。	C3-2-2-1
5	求核置換反応と脱離反応を列挙し、その特徴を説明できる。	C3-3-2-2~3
6	反応における電子効果、立体効果、立体電子効果の基本概念を説明できる。	C3-3-6-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	矢内 光	原子価結合法と分子軌道法	1, 2
4~6	矢内 光	Woodward-Hoffman 則とフロンティア軌道理論	2, 3
7~9	矢内 光	ペリ環状反応 (電子環状反応と Diels-Alder 反応)	2, 4, 6
10~12	矢内 光	極性反応における立体電子効果	2, 5, 6
13	矢内 光	総合演習	1~6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義と問題演習を通じて、概念を理解し、説明することを求めます。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

演習問題に対する取り組みと、受講態度で評価する。

2) 総括的評価

試験の結果で評価します (100%)。

〔教科書〕

適宜、講義資料を配布します。

〔参考書〕

『フロンティア軌道論で理解する有機化学』(稲垣ら 著, 化学同人)

『フロンティア軌道法入門 有機化学への応用』(I・フレミング 著, 福井 監修, 講談社)

『マクマリー有機化学(上, 中, 下)』第9版 (J. McMurry 著, 伊藤ら 訳, 東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可 (ただし, 要予約)

〔所属教室〕

矢内 光 薬品製造学教室 研究2号館 304室

〔準備学習(予習・復習等)〕

これ以前の有機化学系科目の内容を前提として、講義を進めるので、よく復習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

個別に、講義や演習問題に対する質問を受け付ける。

〔教員からの一言〕

これ以前の有機化学系科目の復習ではありません。

講義では取り扱われてこなかった、分子軌道法に基づいた反応の記述を試み、反応に対する深い理解の醸成を目指します。

細胞工学

Cell Technology

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

安達 禎之

山中 大輔

学習目標 (GIO) 近年の医薬品開発において、遺伝子工学や細胞工学の発展と共に培われてきた技術はきわめて重要な位置を占めている。さらにヒトゲノム情報の整備、新たな再生医療技術の発達により、今後生まれてくる医薬品や医療技術は、既存の遺伝子工学や細胞工学に加え、ゲノム情報、再生医療技術の利用などにより一層多様化することが予想される。本講義では、医療におけるバイオテクノロジーの重要性を理解するためにその根幹を成す遺伝子工学及び細胞工学の基本を学習する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	遺伝子の基本的構造について説明できる。	C6-4-2-1~3
2	遺伝子の転写の機構について説明できる。	C6-4-4-1~4
3	遺伝子発現からタンパク質合成までの過程を説明できる。	C6-3-2-1, C6-4-4-5
4	遺伝子組換えの基本的な手法について概説できる。	C6-4-6-1
5	遺伝子工学に必要な酵素類、ベクターについて説明できる。	C6-4-6-1
6	遺伝子クローニングについて概説できる。	C6-4-6-1~2
7	細胞への遺伝子導入の方法について説明できる。	C6-4-6-1, C8-3-2-4, C8-4-1-1
8	細胞を用いた遺伝子産物の効率的な生産方法について説明できる。	C6-4-6-1~2
9	細胞を用いた遺伝子産物の効率的な生産方法について説明できる。	C6-4-6-1
10	細胞融合法について説明できる。	C8-2-2-2
11	抗体産生ハイブリドーマの作製法について概説できる。	C8-2-2-2
12	抗体分子の基本構造について説明できる。	C8-1-3-4
13	単クローン抗体と多クローン抗体の違いについて説明できる。	C8-2-2-2
14	キメラ抗体、ヒト型抗体の作製法について概説できる。	C8-2-2-3
15	遺伝子組換え型抗体医薬品の利点について説明できる。	C8-2-2-3
16	ゲノム編集技術の医療への応用について概説できる。	C6-4-1-1~2, C6-4-5-1, C6-4-6-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	安達、山中	バイオテクノロジー概説 (ビデオを見ながら)	1,4
2	"	遺伝子の基本的構造と機能	1,2
3	"	遺伝子からタンパク質発現までの流れ	3
4	"	組換え DNA 実験の定義と方法論	4,5,6
5	"	組換え DNA 実験の定義と方法論	4,5,6
6	"	細胞への遺伝子導入とその発現制御	2,7,8
7	"	遺伝子工学、発生工学による医薬品の生産と再生医療への応用	8,9
8	"	細胞分化の制御と細胞機能との関わり。ゲノム編集技術の応用	9,16
9	"	抗体分子の基本構造、抗体産生機構	11
10	"	単クローン抗体の作製技術	10,11,12,13
11	"	キメラ抗体、ヒト型抗体の作製と抗体医薬への応用	14,15
12	"	抗体を用いた分析方法の診断への応用	14,15,16
13	"	総括	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

学生の理解を助けるためにプリントを作製し、講義解説を進めながら課題に対処させ提出させている。講義内容確認のためのチェックテストを毎回行い、解答を提出させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

チェックテストについて毎回 正解と解説を行い、知識の定着を図っている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識:小テスト、Webclass 講義資料などを項目ごとに行う。

2) 総括的評価

a) 知識:定期試験(ペーパー試験 100%)

〔教科書〕

基礎から学ぶ遺伝子工学(羊土社)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、要予約。

〔所属教室〕

免疫学教室 研究2号館505号室

〔準備学習(予習・復習等)〕

毎回、講義に用いるスライドファイルを事前に Web に掲載しているので予習用の参考資料として活用してください。

〔学生へのフィードバック〕

チェックテストの正解と正答率を毎回示します。難易度を知るとともに、どのように解釈すべきかを解説します。

代謝生化学

Biochemical Metabolisms

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

今田 啓介

坂上 弘明

学習目標 (GIO) 生体に摂取された物質あるいは生体を構成する成分の化学反応(代謝)から生じる生体エネルギーや生理活性物質は、生物(ヒト)における生命活動調節に欠くことはできない。当該科目では、生物学、細胞生物学および生化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだ糖質、脂質、タンパク質および核酸代謝とエネルギー産生機構について、基本的な知識を復習し、これらの代謝調節を統合的に理解することを学習目標とする。また、これら代謝の異常と疾病との関連性を復習し、生化学的視点から代表的な代謝調節薬の作用について理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な糖質、脂質、アミノ酸(タンパク質)および核酸(ヌクレオチド)の種類、構造、性質、役割を説明できる。	C6-2-1-1, C6-2-2-1~2, C6-2-3-1, C6-2-4-1, C6-2-5-1
2	細胞小器官の構造と機能を説明できる。	C6-1-2-1
3	酵素反応の特性と反応速度論、酵素反応に対する補酵素および微量金属の役割を説明できる。	C6-3-3-1~3
4	解糖系(基質レベルのリン酸化)の特徴と経路について説明できる。	C6-5-2-1
5	ピルビン酸の代謝、アルコール発酵と乳酸発酵について説明できる。	C6-5-2-1, Y-3-53-2
6	クエン酸回路について説明できる。	C6-5-2-2
7	ペントースリン酸回路やグルクロン酸経路の生理的意義と解糖系との繋がりについて説明できる。	C6-5-5-3
8	糖新生およびグリコーゲン代謝およびそれらのホルモン調節について説明できる。	C6-5-2-4~5
9	電子伝達系(酸化リン酸化)におけるATP産生について説明できる。	C6-5-2-3
10	電子伝達系および酸化リン酸化の阻害物質を挙げ、その阻害機構を説明できる。	Y-3-53-1
11	脂肪酸の酸化(β 酸化)について説明できる。	C6-5-3-1
12	ケトン体の生成とその生体内利用について説明できる。	C6-5-4-1
13	脂肪酸の生合成、伸長と不飽和化について説明できる。	C6-5-3-1, C6-5-4-2
14	リン脂質の分解およびアラキドン酸代謝経路とその阻害物質について説明できる。	Y-3-59-1
15	コレステロールの生合成経路と代謝について説明できる。	C6-5-3-2
16	貯蔵脂肪からの脂肪酸の動員機構について説明できる。	C6-5-4-2
17	脂質の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	E2-5-1-2
18	アミノ酸の転移・除去(酸化的脱アミノ化)について説明できる。	C6-5-5-1
19	尿素回路(オルニチン回路)について説明できる。	C6-5-5-1
20	アミノ酸が関与する特殊な生体成分の生合成について、アミノ酸ごとに説明できる。	C6-5-5-1
21	アミノ酸の代謝異常により生じる代表的な疾患を挙げ、その病態を概説できる。	C6-5-5-1
22	核酸塩基の代謝(生合成と分解)とその代謝調節薬について説明できる。	C6-5-5-2

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	今田、坂上	糖質、脂質、アミノ酸(タンパク質)、核酸(ヌクレオチド)の種類、構造と性質	1
2~3	今田	酵素の特性と酵素反応速度論	3
4~5	"	糖質代謝	2, 4~8
6~7	"	電子伝達系	9, 10
8~9	"	脂質代謝	11~17
10	坂上	アミノ酸代謝	18~21
11~12	"	核酸代謝	22
13	今田、坂上	試験	1~22

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. WebClass を利用した予習課題により、その時点での理解度を把握すると共に、予め講義のポイントを確認できるようにしている。
2. 補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。
3. 講義終了時の演習問題（小テスト）を利用して、講義後も復習できるようにしている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

1. 1年生の「生物学」、「細胞生物学」および「生化学Ⅰ」、2年生の「生化学Ⅱ」および「生化学Ⅲ」で学習した内容を横断的に理解するため、演習問題（小テスト）を活用した知識の統合化を試みる。
2. WebClass では、講義に使用する補助プリントおよびスライド資料（一部）についても公開している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 毎回、講義前の WebClass による予習課題でその時点での知識を確認する。また、講義後の演習問題（小テスト）により知識レベルの到達度を確認する。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: WebClass の予習課題（25%）、演習問題（小テスト）（25%）および定期試験（50%）にて評価する。

〔教科書〕

薬学領域の生化学 第2版（伊東 晃編集 廣川書店）

〔参考書〕

生物系薬学Ⅰ（スタンダード薬学シリーズⅡ-4）生命現象の基礎（日本薬学会編 東京化学同人）

生物系薬学Ⅳ 演習編（日本薬学会編 東京化学同人）

ハーバー・生化学（上代 淑人監訳 丸善）

ロスコスキー生化学（田島 陽太郎監訳 西村書店）

マッキー生化学（市川 厚監修 福岡 伸一監訳 化学同人）

〔オフィスアワー〕

原則としていつでも可であるが、事前に予約するのが望ましい。

〔所属教室〕

今田 啓介 薬学基礎実習教育センター 教育1号館3階

坂上 弘明 生化学教室 研究2号館6階

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・必ず WebClass の予習課題に取り組んでください。
- ・教科書および講義プリント（WebClass により事前配布）は事前に読んで、講義に臨んでください。
- ・前回の講義内容を必ず復習して、次回の講義に臨んでください。

〔学生へのフィードバック〕

- ・授業中に実施する演習問題（小テスト）の解説（フィードバック）を次回の講義で行います。

〔教員からの一言〕

- ・生化学に苦手意識をもち、生化学の理解度を深めたいと考えている学生に受講して頂きたいと思います。
- ・教科書を読んで理解することを心がけてください。また、WebClass を活用して繰り返し勉強する習慣をつけてください。

化粧品科学

Cosmetic Science

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

北村 謙始

学習目標 (GIO) 化粧品 (通常、化粧品と同義語) は、健康人の日常生活と深くかかわりあい、様々な目的で使用されている。化粧品 (薬用化粧品といわれる医薬部外品を含む) は、医薬品医療機器等法で定義されているように、人の身体の清潔、美化、魅力づけ等を目的に用いられ、その作用は緩和なものであり、医薬品とは本質的に異なっている。また、化粧品を支える研究開発、技術領域は、皮膚科学、製剤化技術、原料・素材開発、ヒューマンサイエンス、品質保証技術開発等、薬学とも関連の深い多彩な領域を含んでいる。本講では、化粧品の概要および科学的理解の向上を目標とし、化粧品の基本的特性に加え、主たる研究技術領域について具体例も示しながら解説する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化粧品の特性の理解 (役割、定義、種類等)	B-2-2-1, C7-1-6-1, X-1-1-1
2	化粧文化、歴史を知る	X-1-1-1
3	化粧品の品質特性の理解	B-2-2-1
4	皮膚の構造と基本機能ならびに皮膚の細胞と機能の理解	C7-1-6-1, C8-1-1-1, D2-1-4-4, X-6-2-1
5	化粧品主要成分の理解	B-2-2-1, E5-1-3-1
6	化粧品の基本的な製剤技術の理解	C7-1-6-1, C8-1-1-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	北村	化粧品概要 (1): 化粧品の特性と定義、化粧品の分類、化粧品と法規、化粧品の品質特性	1, 3, 4
2	"	化粧品概要 (2): 化粧品の歴史、文化および皮膚の概要	1, 2, 4
3	"	皮膚科学: 皮膚の構造、生理機能、皮膚の計測技術と皮膚の外観	3, 4, 5
4	"	皮膚科学: 皮膚細胞と機能	4
5	"	環境と皮膚: 紫外線と皮ふ、紫外線ケア化粧品の技術	3, 4, 5, 6
6	"	化粧品技術の研究開発例 (1) 化粧品成分の開発例	1, 3, 4, 5
7	"	化粧品技術の研究開発例 (2) 化粧品技術の応用例	1, 3, 4, 5
8	"	化粧品と感性の科学: 消費者の感性を製品に映し込む取り組みと製品への応用	1, 3, 4
9	"	化粧品の製剤技術概要: 化粧品の基本的な原料と製剤技術	4, 6
10	"	化粧品各論 1: 乳化技術の概要とスキンケア化粧品	5, 6
11	"	化粧品各論 2: メーキャップ化粧品の基礎 (色彩の科学)	5, 6
12	"	化粧品各論 3: 芳香化粧品の基礎 (香りとニオイの科学)	3, 4, 6
13	"	総括: 講義内容の要点の確認	1~6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・講義の補足資料を必要に応じ Web class に掲載。
- ・受講ノートとして活用できるよう補足資料には空欄を設定する。
- ・講義時には受講者名簿をもとに随時質問を行う。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・講義の要点については、補完する資料を授業時または前日までに配布、配信するので都度 Web class で確認すること。
- ・化粧品成分、製剤に触れる機会の提供。
- ・講義資料は図、動画を組み込むなどを工夫し理解の促進を図る。

〔成績評価方法〕

- ・理解度の確認を定期試験 (筆記試験) にて行う (100%)。

〔教科書〕

授業の補足資料を配布、配信するので教科書の指定はしない。

〔参考書〕

新化粧品学（第2版）（光井武夫編 南山堂）
化粧品の有用性（日本化粧品技術者会編 薬事日報社）
化粧品事典（日本化粧品技術者会編 丸善）

〔オフィスアワー〕

- ・講義日 昼休み～講義終了時頃 講師控室
- ・質問等は授業時間内にも受け付ける

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業を補足する資料は Webclass に掲載するが、あくまで補足資料なので授業の中で必要事項は自己で補記、追記するなどして理解を深めること。

〔学生へのフィードバック〕

最終授業で講義の要点について講義資料を基に確認する。

アドバンス有機化学

Advanced Organic Chemistry

第3学年 後期 (選択) 専門科目 I 1 単位

古石 裕治

学習目標 (GIO) 複素環はヘテロ環ともいわれ、N, O, S 原子などのヘテロ原子を含む多様な環構造が存在しており、それぞれが特徴ある化学的性質を示します。複素環化合物の多くは天然物や生体関連物質としても存在し、有効な生物活性を有するものは医薬品や農薬として重要な役割を果たしています。本科目では、医薬品に含まれる代表的な複素環を中心として、構造化学的分類、化学的性質、反応性、合成法等について学習します。「アドバンスト」的な内容としては、複素環の合成反応における「軌道理論」を紹介する予定です。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
2	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
3	代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
4	薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
5	有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	C3-1-1-4
6	基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。	C3-1-1-9
7	芳香族性の概念を説明できる。	C3-2-3-2
8	代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。	C3-2-3-4
9	代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。	C3-2-3-5
10	求核置換反応の特徴について説明できる。	C3-3-2-2
11	アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-5-1
12	含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。	C3-3-7-2
13	医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。	C4-3-3-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石	複素環と医薬品	1、3
2	古石	複素環化合物の分類：脂肪族複素環および芳香族複素環の構造と名称	3、4
3	古石	有機化合物の塩基性度 1：構造と塩基性度	11、12
4	古石	有機化合物の塩基性度 2：塩基性度の支配因子	7、8、11、12
5	古石	芳香族複素環化合物の電子構造と性質 1： π 電子不足系	8
6	古石	芳香族複素環化合物の電子構造と性質 2： π 電子過剰系	8
7	古石	π 電子不足系芳香族複素環化合物の反応と合成 1	9
8	古石	π 電子不足系芳香族複素環化合物の反応と合成 2	9、10
9	古石	π 電子過剰系芳香族複素環化合物の反応と合成 1	9
10	古石	π 電子過剰系芳香族複素環化合物の反応と合成 2	9
11	古石	脂肪族複素環を含む医薬品の合成	13
12	古石	芳香族複素環を含む医薬品の合成	13
13	古石	縮合複素環化合物 (キノリン、イソキノリン、インドール類) の性質と反応	8
14	古石	縮合複素環化合物の合成および医薬品に含まれる重要な縮合環	6、8、9、13
15	古石	総合演習 (授業内試験)	1~13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

理解度の自己確認のために、演習問題を課します。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

あらかじめ重要なキーワードを提示し、学習目標を明確に伝えます。授業は資料プリントを用いて、板書・プロジェクターで行い、反応式・反応機構等が正確に記述できるように指導します。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：演習問題を課して、学生自身が自分の理解度を確認できるように促します。

2) 総括的評価

a) 知識：総合演習（授業内試験 100 %）にて評価します。

態度：課題への取り組み（一部、レポート）、出席状況から評価する。

〔教科書〕

講義プリントを配布します。

〔参考書〕

マクマリー有機化学（上、中、下）（J. McMurry 著 伊東ら訳 東京化学同人）

〔オフィスアワー〕

原則として、いつでも可能です。

〔所属教室〕

古石 裕治（薬学教育推進センター）

〔準備学習（予習・復習等）〕

本科目の履修に際しては、授業前には3年前期までに学んだ「有機化学」を予習し、授業後には演習問題を解いて復習することを勧めます。

〔学生へのフィードバック〕

授業各回において、前回の授業内容のポイントを再度伝えて確認し、質疑応答を通してフィードバックを行います。

薬剤経済学

Pharmacoeconomics

第3学年 後期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

五十嵐 中

大西 佳恵

学習目標 医薬品の合理的使用を目指し、その社会経済的価値を評価するための基本的な考え方と現状とを学ぶ。(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤経済学を学ぶ際の土台として、生物統計学や臨床試験の基礎知識を習得する。	T-1
2	薬剤経済評価の具体的な手法を理解する。	T-1
3	介入のコスト(費用)を評価する手法を理解する。	T-1
4	介入のアウトカム(効果・費用・便益)を評価する手法を理解する。	T-1
5	経済評価と密接に関連する、医療保険制度・薬価制度についての理解を深める。	T-1
6	既存の薬剤経済評価研究を批判的に吟味する手法を学ぶ。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	大西 佳恵	薬剤経済学とは、研究デザイン	1
2	"	エンドポイント、プラセボ、研究倫理	1
3	五十嵐 中	薬剤経済評価の基礎手法 1	2
4	"	薬剤経済評価の基礎手法 2	2
5	"	コスト(費用)の扱い方	3
6	"	アウトカム(効果・効用・便益)(1)	4
7	"	アウトカム(効果・効用・便益)(2)	4
8	"	メタアナリシスとシステムティック・レビュー	4
9	"	モデルを使った薬剤経済評価	3、4
10	"	医療費と診療報酬制度・薬価制度(1)	5
11	"	医療費と診療報酬制度・薬価制度(2)	5
12	"	薬剤経済評価研究の実際(1)	6
13	"	薬剤経済評価研究の実際(2)	6
14	大西 佳恵	薬剤経済評価研究の批判的吟味(1)	6
15	"	薬剤経済評価研究の批判的吟味(2)	6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

討議時間を設けるとともに、ワークショップを実施する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

パワーポイントをただ流す「受け身」の授業だけでなく、ディスカッションや論文の批判的吟味など、能動的に授業に参加できるような工夫をしている。

〔成績評価方法〕

学期末試験ないしレポートおよび出席状況を総合して評価する。

〔教科書〕

五十嵐 中「ちゃんとした薬剤経済学」(京都廣川書店)

〔参考書〕

五十嵐中, 佐條麻里. 「薬剤経済わかりません!!」(東京図書, 2014)

〔オフィスアワー〕

五十嵐 中 いつでも可。(できれば事前に e-mail にて連絡のこと)
大西佳恵 授業の前後の時間帯。

〔準備学習（予習・復習等）〕
授業で配布したプリントの内容を復習すること

〔学生へのフィードバック〕
必要に応じて行う。

地域保健薬学概論

The Role of the Pharmacist in Community Health

第3学年 後期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

戸張 裕子 (日本禁煙学会専門薬剤師、日本公衆衛生学会認定専門家)

倉持 素樹 (小山富士見台病院 日本精神神経学会精神科専門医)

馬場 寛子 (医療法人社団碧水会長谷川病院 日本病院薬剤師会認定精神科専門薬剤師)

中島 研 (国立病院機構相模原病院薬剤部 妊婦・授乳婦専門薬剤師)

平林 史子 (DNDi)

(講義予定順)

学習目標 地域社会において、医療分野のみならず、地域の人々の健康維持・増進に貢献できる薬剤師になるために、(GIO) 保健ならびに福祉分野における現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬剤師の役割とその意義を理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	地域保健の概念を理解する。	D1-2-1-1
2	地域保健の推進に関わる法律や制度について理解する。	D1-2-1-2
3	健康教育の基礎知識とその方法について説明できる。	E1-3-1-1, E2-9-6-1
4	地域における疾病予防、健康維持増進のために、薬剤師が果たす役割を概説できる。	A-1-2-6, E2-9-1-1
5	代表的な労働災害や職業性疾患とその予防対策について概説できる。	D1-2-5-2
6	現代社会における精神保健の諸問題と精神保健の実践について理解する。	Y-1-2-2
7	地域における疾病予防、健康維持増進のために、薬剤師が果たす役割を概説できる。	D1-2-5-1
8	学校保健の意義と学校薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-3
9	ニコチン、アルコール、薬物等の物質依存とギャンブル、ゲーム等の行動嗜癖に関する予防対策を説明できる。	A-1-2-6~7, D1-2-3-2, D2-1-1-5, F-5-2-1
10	能動および受動喫煙関連疾患を理解し、能動および受動喫煙防止対策を説明できる。	A-1-2-6, D1-2-3-2, F-5-2-1, Y-1-2-1
11	自殺防止対策における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7, F-5-2-1, Y-1-2-2
12	母子保健対策について説明できる。	D1-2-4-2
13	周産期保健医療・小児保健医療における薬剤師の支援について説明できる。	F-1-3-10
14	諸外国(国際社会の中での地域)における薬剤師の活動を、日本と比較しながら説明できる。	Y-2-5-2
15	地域社会における保健、医療、福祉の現状と問題点について、地域による違いについて討議する。	Y-2-5-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	戸張	地域保健概論(歴史的発達過程、保健医療制度、関連法)	1, 2
2-3	戸張	健康教育とヘルスプロモーション 地域保健・産業保健における薬剤師の役割(生活習慣病予防・労働災害防止対策など)	3, 4, 9, 10
4-5	倉持, 馬場, 戸張	精神保健概論(現代社会における精神保健の諸課題とアプローチ) 精神保健における薬剤師の役割(自殺予防に関する薬剤師の取り組みと精神疾患患者のリハビリと再発予防など)	3, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12
6-7	戸張	学校保健概論(学校環境衛生と学校安全、学校薬剤師) 学校保健における薬剤師の役割(喫煙予防・禁煙支援・薬物乱用防止など)	8, 9, 10, 11
8-9	中島, 戸張	母子保健概論 (現代社会における諸問題として、こどものインターネットやゲーム依存、デジタル障害も含む) 周産期・小児保健医療における薬剤師の役割	9, 13, 14
10-11	平林, 戸張	国際保健概論 国際保健における薬剤師の役割	15, 16
12-13	戸張	地域における薬剤師の役割と今後への展開 (総括)	16

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・テーマに沿った公衆衛生上の問題を提示し、その解決策について学生同士が討議する時間を設けている。
- ・リアクションペーパー（アンケート）を実施している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・基本的な知識を活用し、課題を解決する能力を醸成するために、参加型の講義形式としている。
- ・公衆衛生学上の諸問題ならびに解決策について各自の考えをレポートにまとめることにより、国内外の保健・医療・福祉における薬剤師の役割とその意義について理解を深めると共に、論理的な思考力を養うことを目指している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a: 知識：授業内確認テストを用いて、知識の到達レベルを確認している。

2) 総括的評価

a: 知識：授業内確認テスト（20%）、課題提出物（80%）にて評価する。

評価（総括的評価）

- ・S（90%以上）：合格
- ・A（80～90%未満）：合格
- ・B（70～80%未満）：合格
- ・C（60～70%未満）：合格
- ・D（60%未満）：不合格

〔教科書〕

必要時、WebClassに講義資料を配布する。

〔参考書〕

- 「精神保健医療福祉白書 2018/2019: 多様性と包括性の構築」精神保健医療福祉白書編集委員会（中央法規出版）
- 「精神科薬物療法マニュアル」日本病院薬剤師会精神科専門薬剤師部門試験委員会（南山堂）
- 「精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法」鈴木利人他（南山堂）
- 「顧みられない熱帯病：グローバルヘルスへの挑戦」P. ホッテズ他（東京大学出版会）
- 「ノー・タイム・トゥ・ルーズ：エボラとエイズと国際政治」P. ピオット他（慶應義塾大学出版会）
- 「公衆衛生マニュアル 2020」柳川 洋他（南山堂・2020年4月発売予定）

〔オフィスアワー〕

戸張 裕子: いつでも可。但し、メール等による事前予約が望ましい。

倉持 素樹: 講義終了後。

馬場 寛子: 講義終了後。

中島 研: 講義終了後。

平林 史子: 講義終了後。

〔所属教室〕

戸張 裕子: 薬学実務実習教育センター 教育5号館5階5506教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義については予習の必要はない。講義後に各自復習し、講義中に挙げた公衆衛生上の問題について、自身で調べて理解を深めること。その上で不明な点については、オフィスアワーや次回の講義時を利用して質問すること。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想については、必要に応じて講義中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。また、授業内確認テストのフィードバックについても同様に、講義中に解説を行っている。

〔教員からの一言〕

薬剤師は、調剤や医薬品の供給を通じて地域住民の健康に寄与しています。

しかし、公衆衛生といった広い視野から、医療分野のみならず、保健ならびに福祉分野の問題点についても認識し、それらの健康問題を解決するといったアプローチが、これからの薬剤師には求められていると言えます。

本講義では、あらゆる地域の様々な健康問題を扱います。学生の皆さんには、薬剤師として、これら諸問題の解決方法を考えてもらいたいと思います。

〔備考〕

実務家教員担当科目

漢方薬物学Ⅱ

Kampo Medicine II

第3学年 後期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

三巻 祥浩 黒田 明平 横須賀 章人 松尾 侑希子 三宅 克典

学習目標 2年次前期・後期の「植物薬品学」「生薬学」、3年次前期の「漢方薬物学Ⅰ」のアドバンス科目として、漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効との関係、重要な健康保険適用漢方薬の適応症と臨床応用、漢方薬のエビデンスに関する研究成果、漢方薬の使用上の注意と副作用、漢方薬と西洋薬との薬物相互作用の理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	漢方系生薬の基原、薬用部位を説明できる。	C5-1-2-1
2	漢方系生薬の主要成分を列挙できる。	C5-2-1-1
3	漢方系生薬の主要成分の生合成経路を説明できる。	C5-1-3-1, C5-2-1-1, Y-3-42-2~4
4	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効との関係を説明できる。	C5-2-1-3~5
5	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の副作用との関係を説明できる。	C5-1-3-2
6	代表的な漢方薬の適応症を説明できる。	E2-10-2-2
7	漢方薬の臨床応用例を列挙できる。	E2-10-2-3
8	漢方薬の使用上の注意を説明できる。	E2-10-3-1
9	漢方薬と西洋薬との相互作用を説明できる。	E2-10-3-1
10	漢方薬のエビデンスに関する研究成果を例示できる。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横須賀	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (1)	1~6
2	"	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (2)	1~6
3	松尾	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (3)	1~6
4	"	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (4)	1~6
5	三巻	漢方薬の副作用と使用上の注意 (1)	5、8、9
6	新井 信 小池 一男	漢方薬の臨床応用とエビデンス (1)	6、7、10
7	黒田	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (5)	1~6
8	"	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (6)	1~6
9	新井 信 小池 一男	漢方薬の臨床応用とエビデンス (2)	6、7、10
10	黒田	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (7)	1~6
11	三宅	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (8)	1~6
12	三巻	漢方系生薬の主要成分と漢方薬の薬効への関与 (9)	1~6
13	"	漢方薬の副作用と使用上の注意 (2)	5、8、9
14	三巻、黒田、 横須賀、松尾	まとめ (レポート作成)	1~10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中に問題演習を行い、受講生に解答の解説を行ってもらう。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

3年次前期までの生薬系科目の復習をしながら、漢方薬の臨床応用やエビデンスに関する研究例など、より深い内容の講義を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：CBT レベルの問題演習を行い、知識の定着度を確認する。
- 態度：受講態度不良者に対しては改善の指導をする。
- パフォーマンス：国家試験の問題を用いて演習を行い、習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- 知識：レポートにより評価する (100%)。

〔教科書〕

漢方薬物学Ⅱ講義ノート（生協にて購入すること）

〔参考書〕

薬学生のための漢方薬入門第4版（指田、三巻編著、廣川書店）

パートナー生薬学改訂第3版増補（竹谷、木内、小松編、南江堂）

パートナー天然物化学改訂第3版（海老塚、森田、阿部編集、南江堂）

今日の治療薬2020（浦部、島田、河合編集、南江堂）

〔オフィスアワー〕

三巻 祥浩 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。研究2号館408教授室

〔所属教室〕

三巻 祥浩 漢方資源応用学教室 研究2号館408教授室

横須賀 章人 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

松尾 侑希子 漢方資源応用学教室 研究2号館408室

黒田 明平 薬学教育推進センター 教育2号館2110室

三宅 克典 薬用植物園

〔準備学習（予習・復習等）〕

授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。「植物薬品学」「生薬学」「漢方薬物学Ⅰ」の講義内容を復習して、講義に臨むこと。復習は、漢方薬物学Ⅱ講義ノートと配布資料を十分に活用すること。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、問題演習を実施し、解答の正誤をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

国家試験前になると、なかなか生薬や漢方薬の勉強に時間がさけないと思います。この講義で、生薬の基礎から漢方の臨床応用まで、しっかりと学んでおくことを推奨します。

〔備考〕

東海大学医学部専門診療学系漢方医学講座教授の新井 信先生と東邦大学薬学部生薬学教室教授の小池一男先生に、それぞれ2コマずつ講義をお願いしています。新井先生は2限目の講義を、小池先生は3限目の講義を担当します。履修申請の際の参考にしてください。

スキンケア入門

Introduction to Skin Care

第3学年 後期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

佐藤 隆

秋元賀子

坂上弘明

宮地良樹 (京都大学名誉教授)

片桐千華 (資生堂グローバルイノベーションセンター)

田中志保 (東京女子医科大学皮膚科学教室)

学習目標 (GIO) 皮膚(肌)は「目に見える臓器」であり、内なる「健康」のバロメーターでもある。また、皮膚のトラブルが改善すれば健常者のみならず患者も精神的に健康を取り戻すことができる。すなわち、病を治す「治療」に対し、治癒した皮膚(肌)を健康な状態に維持するのがスキンケアである。当該科目では、スキンケアの適正化を啓発できる知識、技能や態度を有する薬学生を育成するために、皮膚バリア機能に関する基本的な知識を習得し、肌トラブルや皮膚老化(しわ, しみ)に対する化粧品を活用したスキンケア指導の事例について学ぶ。また、美容皮膚科に関連した基礎知識と美容医療の実例を学ぶとともに、化粧品・スキンケア専門家としての資格を取得するために化粧品・美容総合検定試験の合格を目指す。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	皮膚の構造と機能を説明することができる。	C7-1-6-1
2	皮膚の付属器官を挙げ、その機能を概説できる。	C7-1-6-1
3	皮膚の主な細胞外マトリックスの種類と機能を説明できる。	C6-6-3-2, Y-3-56-1
4	皮膚バリア機能について概説できる。	C7-1-6-1
5	代表的な皮膚疾患を挙げ、その病態および治療法(薬)について概説できる。	E2-6-3-1, E2-6-3-4
6	皮膚に対する太陽光の功罪について概説できる。	D2-1-4-4, D2-2-1-1
7	医薬部外品と化粧品の違いを説明することができる。	B-2-2-1
8	紫外線対策の基準である SPF および PA について説明できる。	D2-1-4-4
9	皮膚老化(しわ, しみ)について概説することができる。	X-6-7-2~3, Y-3-56-1
10	抗老化(アンチエイジング)に関する化粧品や美容医療について概説できる。	B-2-2-1, X-6-7-2
11	化粧品・スキンケアに関するアドバイスをすることができる。	F-5-3-3~4, F-5-3-6~8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	佐藤	授業ガイダンス 皮膚の構造と機能	1, 2
2~3	佐藤、坂上	皮膚バリア機能、太陽光による皮膚老化	3, 4, 6, 8, 9
4~5	片桐	肌の老化や肌トラブルを抱える患者(健常人を含む)への 化粧品・スキンケア指導	5~11
6~7	田中	美容医療に関する基礎と臨床	5, 6, 8, 10, 11
8	宮地	光老化とアンチエイジング	4, 6~10
9~10	佐藤	皮膚疾患の病態とスキンケア指導の事例(ビデオ学習)	5, 11
11~12	秋元	化粧品・美容総合検定に向けた演習およびその解説	1~10
13	佐藤, 秋元	化粧品・美容総合検定試験	1~11
14	秋元	化粧品・美容総合検定に関するフォローアップ演習	1~11

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・外部講師の講義内容に関する事前調査とグループ単位で質問事項を作成する。
- ・外部講師による講義についてレポートを作成、提出する。
- ・ビデオ学習に関してレポートを作成、提出する。
- ・化粧品・美容総合検定試験の合格に向けた小テストに取り組む。

[授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)]

- ・化粧品科学と美容皮膚科学分野の外部講師(企業人、臨床医)を招いて最新的话题を紹介している。

- ・ビデオ学習により皮膚疾患について視覚的に理解を深める工夫をしている。
- ・化粧品・美容総合検定試験への対策から、適正かつ実践的なスキンケア知識を向上させる工夫をしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 企業人や臨床医の講義, ビデオ学習や検定試験問題に取り組むことで知識レベルの到達度をレポートにて確認する。

2) 総括的評価

a) 知識: 検定試験 (50%) および課題提出物 (50%) にて総合的に評価する。

〔教科書〕

検定試験参考図書 コスメマイスタースキンケアマイスター (メディカルレビュー社)

〔参考書〕

たった 20 項目で学べる スキンケア (学研メディカル秀潤社)

看護師さん、薬剤師さんに贈るやさしく学べる皮膚疾患 32 (メディカルレビュー社)

Q & A で学ぶ 美容皮膚科ハンドブック (メディカルレビュー社)

〔オフィスアワー〕

原則としていつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

佐藤 隆 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

坂上 弘明 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

秋元 賀子 生化学教室 研究 2 号館 6 階 6 0 5 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

教科書の演習問題に取り組むこと。

〔学生へのフィードバック〕

検定試験についてフォローアップ講義を行う。

〔教員からの一言〕

化粧品とともにスキンケアに関する実践的知識を習得した薬剤師を目指しましょう。

臨床薬学概論

Introduction to Clinical Pharmacy

第3学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

堀 祐輔 秋山 滋男 影山 美穂 武井 佐和子

- 学習目標 (GIO)**
- ・薬剤師綱領に示されている薬剤師の任務、責務を果たすために、医薬分業、医療制度、医療保険、介護保険制度、医薬品の供給・流通・安全監視、医療経済など、薬剤師を取り巻く社会構造や環境を理解し、説明できる。
 - ・薬剤師として広い視点に立って、各自の目指すべき薬剤師としての将来像を考察する。
 - ・国民から求められる薬剤師になるために、医療人としての自覚を高める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。	A-4-5-1
2	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	F-1-3-3
3	病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	F-1-3-4
4	病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。	F-1-3-6
5	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
6	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
7	代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。	F-3-3-7
8	治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案できる。	F-3-3-8
9	患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方立案を提案できる。	F-3-3-9
10	薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。	F-3-4-10
11	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。	F-4-2-1
12	高齢者の生理的特性と社会的背景を説明できる。	F-2-4-2
13	患者心理を把握した適切な服薬指導の重要性について説明できる。	Y-1-2-1
14	慢性疾患と急性疾患の違いについて説明できる。患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を説明できる。	F-4-1-5
15	在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)	F-5-1-6
16	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)	F-5-3-4
17	来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)	F-5-3-7
18	麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	B-2-3-1
19	がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-9-2
20	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	E2-1-3-2
21	終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。	F-1-3-11
22	患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	A-1-2-1
23	調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	B-3-1-7
24	医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	A-1-3-1
25	地域における薬局の機能と業務について説明できる。	B-4-1-1
26	病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
27	高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-2-2
28	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
29	処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)	F-2-2-7
30	収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)	F-2-4-15

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	堀 祐輔	薬剤師業務の概略を理解する	22,23
2	堀 祐輔	薬局薬剤師の業務① (処方箋監査、処方解析)	22,24,25,29
3	堀 祐輔	薬局薬剤師の業務② (最終監査、服薬指導、薬歴管理)	22,23,24,30
4	堀 祐輔	保険制度、介護保険	22,23,25
5	影山美穂	生活習慣病に対する取り組み	14,15,16,17
6	影山美穂	高齢者医療における役割	12,26,27
7	影山美穂	アドヒアランス、コンプライアンスの向上に向けた役割	12,13
8	武井佐和子	医療用麻薬と薬剤師	18,19
9	武井佐和子	緩和ケアと薬剤師	20,21,28
10	秋山滋男	病棟業務における薬剤師の役割	2,3,4
11	秋山滋男	病棟業務の症例 (患者アセスメントに基づいた薬学的アプローチ: 処方提案)	9,10
12	秋山滋男	病院薬剤師におけるチーム医療の役割 薬薬連携の重要性	1,11
13	秋山滋男	現場が求める病院薬剤師とは (期待される薬剤師)	5,6,7,8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

課題に対する発表を行って頂き、学生同士が討論する時間を設けます。
教員より、意見や考えを求めることがあります。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：講義初めに数回小テストを行います。
- b) 技能・態度：講義内容に関する討論を通じて、発表のやり方を習得して頂きます。

2) 総括的評価

a) 知識：講義で行う小テスト、レポートおよび発表の内容により評価します (100%)。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

WebClass に掲載した資料または、講義中に配布したプリント

〔オフィスアワー〕

堀祐輔、武井佐和子、秋山滋男、影山美穂：いつでも可。ただし、事前に電話かメールで予約をしてください。

〔所属教室〕

堀祐輔 薬学実務実習教育センター 教育5号館6階
武井佐和子 薬学実務実習教育センター 教育5号館6階
秋山滋男 薬学実務実習教育センター 教育5号館6階
影山美穂 薬学実務実習教育センター 教育5号館6階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

キーワードを調査したり、各授業の復習をすると、より理解が深まります。

〔学生へのフィードバック〕

小テストでの解説、講義中の発表、レポートに対するコメントなどを通して、疑問点の解決や重要点を示していきます。

〔備考〕

実務家教員担当科目

実践有機化学

Practical Synthetic Organic Chemistry

第3学年 後期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

松本隆司 (全履修者)

学習目標 (GIO) 医薬品の開発は、生物活性天然有機化合物の化学合成に始まり、より優れた医薬品としての特性を備えた分子の創製へと続いていく。本科目では、そのような医薬品分子の開発という観点から、これまでに学習してきた有機化学の内容を見直し、また、未習の事項を学習する。さらに、実際の生物活性化合物・医薬品分子の合成を例にとり、分子設計、合成デザイン、および実践について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	課題として与えられた化合物の合成法を立案し、説明できる。	Y-3-32-1
2	反応中間体(カルボカチオン, カルボアニオン, ラジカル, カルベン)の構造と性質を説明できる。	Y-3-19-1
3	代表的な官能基変換反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-29-11
4	代表的な炭素-炭素結合生成反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-30-3
5	代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-31-1
6	代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	Y-3-31-2
7	官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	Y-3-31-3
8	光学活性化合物を合成する意義と、そのための代表的な手法を説明できる。	Y-3-31-4
9	医薬品製造における原子経済(原子効率)について説明できる。	Y-3-33-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	松本	生物活性化合物の構造と化学合成の概要	1
2	松本	合成デザインと逆合成解析(1)	1, 2
3	松本	合成デザインと逆合成解析(2)	1, 2
4	松本	骨格形成反応	1, 2, 4
5	松本	官能基変換反応	1, 2, 3
6	松本	有機反応の選択性-化学選択性(1)	1, 3, 5, 7
7	松本	有機反応の選択性-化学選択性(2)	1, 3, 5, 7
8	松本	有機反応の選択性-位置選択性	1, 4, 5, 7
9	松本	有機反応の選択性-立体選択性(1)	1, 3, 6
10	松本	有機反応の選択性-立体選択性(2)	1, 3, 6
11	松本	有機反応の選択性-立体選択性(3)	1, 4, 6
12	松本	生物活性化合物の合成デザインと逆合成解析, その実践(1)	1~9
13	松本	生物活性化合物の合成デザインと逆合成解析, その実践(2)	1~9
14	松本	生物活性化合物の合成デザインと逆合成解析, その実践(3)	1~9

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

適宜、課題による演習を実施する。

[成績評価方法]

1) 形成的評価

a) 知識: 課題演習により、知識の到達レベルの確認する。

c) 態度: 受講状況、課題・演習の結果を記録する。

2) 総括的評価

a) 知識: レポートで評価する(100%)。

c) 態度: 課題・演習への取り組み態度が不良である場合には減点する。また、成績評価のためのレポートの提出を認めないことがある。

〔教科書〕

有機合成の戦略－逆合成のノウハウ (C.L. ウィリス, M. ウィリス 著, 富岡 訳, 化学同人)

〔参考書〕

マクマリー有機化学 第9版 (上、中、下) (J. McMurry 著 伊藤ら訳 東京化学同人)

有機反応機構 (P. Sykes 著, 久保田尚志 訳, 東京化学同人)

ウォーレン 有機化学 (W. Warren ら 著, 野依ら 訳, 東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。 但し、要予約。

〔所属教室〕

松本隆司 薬品製造学教室 研究2号館3階304

〔準備学習 (予習・復習等)〕

本科目の学習内容を理解するには、これ以前の有機化学系科目を習得していることが必要である。必ず、よく復習しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

講義や課題に対する質問に、個別に対応する。

〔教員からの一言〕

具体的に「合成したい化合物」があるときに、これまでに学習した有機化学の知識を総動員して、どうすればそれが合成できるかを考えます。これまでの有機化学の講義で不足していた内容を随時補います。結果として、有機化学の知識全体を見直すことにつなげたいと思っています。

中医学概論

Introduction to Traditional Chinese Medicine

第4学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

猪越 英明

学習目標 (GIO) 生薬は医薬品の原点であり、漢方をはじめとする東洋医学は、今日その有用性が高く評価されつつある。なかでも中国の伝承医学は「中国医学(中医学)」と呼ばれ、中国においては中医薬大学等で体系だった医学教育が現在も行われ、中西医結合(中医学と西洋医学の両面から治療を行う)など新たな試みがなされている。本邦においても、西洋医学とともに漢方療法が行われる機会が増えており、薬剤師として漢方療法の基礎である中医学の知識が求められている。本講義では、中医基礎理論および、漢方薬の使い方、注意点などを中心に解説する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	中医学の歴史を学ぶ	T-1
2	中医学の基礎理論を学ぶ	T-1
3	中医学的な病気のとらえ方を理解する	T-1
4	中医学的な診断方法を理解する	T-1
5	代表的な方剤の使い方と注意点を理解する	T-1
6	現代医療において漢方薬がどのような様に使われているかを理解する	T-1
7	経絡(ツボ)理論を学ぶ	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	猪越	中医学の歴史	1
2	"	中医学の基礎理論(整体観、陰陽・五行説)	2
3	"	中医学から見た人体の生理1(気・血・津液)	3
4	"	中医学から見た人体の生理2(五臓六腑など)	3
5	"	中医診断学1:問診の仕方など(四診)	4
6	"	中医診断学2:舌の見方(四診)	4
7	"	弁証論治1:八綱弁証からわかること	4
8	"	弁証論治2:気血津液弁証からわかること	4
9	"	弁証論治3:臓腑弁証からわかること	4
10	"	方剤の基礎知識:主な方剤の性質、効能及び副作用などの注意点	5
11	"	実践中医学1:風邪の初期対策、アレルギー疾患対策など	6
12	"	実践中医学2:生活習慣病対策、婦人科疾患対策など	6
13	"	鍼灸(ツボ・経絡)の基礎知識	7

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

実際に自分の舌をみる授業を行います。(開催の時、手鏡を持参してください)

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
初学者にも理解できるよう、スライドを中心に分かりやすく解説する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識:課題、演習問題を行う。解説にてフィードバックする。
- 技能:演習問題を行い、中国医学の捉え方に必要な技能を習熟する。
- 態度:受講態度または課題提出により評価する。授業は講義テキストに書き込む形式である。
- パフォーマンス:小テストを数回を行い習熟度を確認する。

2) 総括的評価

- 知識:定期試験にて評価する。定期試験(70%)、課題(30%)として評価する。
- 技能:課題提出により評価する。
- 態度:受講態度により評価する。
- パフォーマンス:形成評価により判断する。

〔教科書〕

生協にて販売する講義テキストを用いる。

〔参考書〕

わかる中医学入門 (邱紅梅 著 燎原書店)

中医学入門 (神戸中医学研究会編著 東洋学術出版社)

中医臨床のための中薬学 (神戸中医学研究会編著 東洋学術出版社)

中医臨床のための方剤学 (神戸中医学研究会編著 東洋学術出版社)

〔オフィスアワー〕

猪越 / 水曜日 (授業後)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習は特に必要ありません。復習など、さらに勉強したい方には教材を提供します。

〔学生へのフィードバック〕

学生からの質問にこたえる形式でフィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

漢方の実践を学びたい方は聴講ください。

〔備考〕

実務家教員担当科目

病理組織学

Histopathology

第4学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

塚本 哲

学習目標 主要病変における臓器・組織の形態変化を知り、疾患の概念を系統的に理解する。
(GIO)

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	病理学総論・各論の枠に沿って、人体に生じる様々な疾患を理解する。	E2-1-1-1～4, E2-1-2-1～4, E2-1-3-1～14, E2-1-4-1, E2-2-1-1～3, E2-2-2-1～9, E2-2-3-1～4, E2-2-4-1, E2-3-1-1～6, E2-3-2-1～5, E2-3-3-1～8, E2-3-4-1, E2-4-1-1～4, E2-4-2-1～9, E2-4-3-1, E2-5-1-1～3, E2-5-2-1～5, E2-5-3-1, E2-6-1-1～4, E2-6-2-1～2, E2-6-3-1～4, E2-6-4-1, E2-7-1-1～2, E2-7-10-1, E2-7-2-1, E2-7-3-1～10, E2-7-4-1～6, E2-7-5-1～2, E2-7-6-1～2, E2-7-7-1～3, E2-7-8-1～13, E2-7-9-1～2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	塚本	病理学総論 (病理学概論 細胞障害)	1
2	塚本	病理学総論 (代謝障害 炎症)	1
3	塚本	病理学総論 (循環障害)	1
4	塚本	病理学総論 (腫瘍)	1
5	塚本	病理学総論 (腫瘍)	1
6	塚本	病理学総論 (免疫異常 遺伝子異常 発生発達異常 外因による疾患)	1
7	塚本	病理学各論 (循環器疾患)	1
8	塚本	病理学各論 (呼吸器疾患)	1
9	塚本	病理学各論 (消化器疾患)	1
10	塚本	病理学各論 (血液疾患)	1
11	塚本	病理学各論 (内分泌・代謝疾患 腎疾患)	1
12	塚本	病理学各論 (泌尿器疾患 乳腺疾患)	1
13	塚本	病理学各論 (女性・男性生殖器疾患)	1
14	塚本	病理学各論 (神経・筋・骨・皮膚・眼・耳疾患)	1

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教科書に沿って解説・補足するので、よく聞いて自分が理解できる言葉で記録してください。

〔成績評価方法〕

定期試験 (100%)

〔教科書〕

「改訂2版 カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学」メジカルビュー社 (ISBN:978-4-7583-0097-1)

〔参考書〕

病気がみえる 第1-11巻 (メディックメディア)

薬がみえる 第1-3巻 (メディックメディア)

〔オフィスアワー〕

講義終了後になるべく長く残るようにしますので自由にどうぞ。

〔準備学習（予習・復習等）〕

解剖学や生理学を十分に復習しておいてください。当時の本やノートを講義に持参して講義を聞けば更に理解が深まると思います。

〔学生へのフィードバック〕

皆さんの質問に対する回答で皆にも役に立つ知識などあれば、随時講義に盛り込んでゆきますので、良い質問を待っています。

〔教員からの一言〕

この限られた回数で、医学の根幹をつくっている病理学を全て語ることも自体が、もとより不可能なこと。どうしても自分でもたくさん学んでもらわないとなりません。病理学に限らず多数の教科書を読んで、毎日勉強し続けることを習慣にしてください。ただ、つらかったら続きませんので、勉強は楽しく、でも怠らせずに。

臨床医学概論

Introduction to Clinical Medicine

第4学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

中村 洋典 東京医科大学八王子医療センター 消化器内科・臨床講師

学習目標 (GIO) 「臨床医学概論」では、消化器疾患の病気の定義、病態生理、診断法、治療法について講義します。大学病院の一勤務医として病院での実臨床、医療の現場の実際も交えて講義します。講義内容は各臓器別を基本として、薬学部ということにとらわれず消化器疾患に興味をもって頂けるような内容としています。医療に関わる勤務を希望する学生諸子において、どのような疾患に興味があるのか、また自身の適正につき各々が再考することを学習目標とします。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	消化器疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。	E1-3-1-1, E1-3-2-1
2	胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	C7-1-9-1
3	肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	C7-1-9-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	中村 洋典	消化管総論 解剖・生理から基本検査まで	E1-2-1-1
2	中村 洋典	咽喉頭から食道疾患	E2-7-7-3 E2-7-8-8 E2-4-2-1
3	中村 洋典	胃・十二指腸(良性疾患)	E2-4-2-1 E2-7-3-2
4	中村 洋典	胃・十二指腸(悪性疾患)	E2-7-7-3 E2-7-8-8
5	中村 洋典	小腸・大腸・腹膜疾患(良性)	E1-2-1-1 E2-4-2-2 E2-4-2-6 E2-4-2-7 E2-7-3-2
6	中村 洋典	大腸悪性疾患	E2-7-7-3 E2-7-8-8
7	中村 洋典	肝臓疾患	E2-4-2-3 E2-7-4-4 E2-7-8-8
8	中村 洋典	胆道疾患	E2-4-2-5 E2-7-3-2 E2-7-8-8
9	中村 洋典	膵疾患	E2-4-2-4 E2-7-8-8
10	中村 洋典	消化器疾患と栄養	F4-1-9 D1-3-1-8
11	中村 洋典	がんの治療と緩和医療	E2-7-7-3
12	中村 洋典	消化器がんと検診	E2-7-7-3
13	中村 洋典	試験	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

教員が適宜、臨床における質問を投げかけながら、診断・治療について個別に考え検討します。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

できるだけ画像を用いて、わかりやすい講義を心掛けたいと思います。
医師・薬剤師の国家試験の過去問などの解説も交えて理解を深めたいと思います。

〔成績評価方法〕

前期末の試験(100%)

〔教科書〕

病気がみえる vol.1 消化器(第5版) MEDIC MEDIA 3600円+税

〔オフィスアワー〕

東京医科大学八王子医療センター
042-665-5611 PHS 7769 AM9-PM5

(月火水金)

e-mail: h-n@tokyo-med.ac.jp

〔所属教室〕

東京医科大学八王子医療センター
消化器内科

〔準備学習(予習・復習等)〕

不要

〔学生へのフィードバック〕

当日の授業の内容についての質問・疑問点などあれば、適宜返答しますが、質問内容によっては翌週の講義の最初にお答えします。

〔教員からの一言〕

近年、医療も目まぐるしく進歩しています。医療の実際に触れることにより、学生諸子の各々が多岐に渡る未来の選択肢を考える機会の一助となればと思います。

〔備考〕

実務家教員担当科目

臨床栄養学

Clinical Nutrition or Clinical Nutrition Science

第4学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

早川 洋子

学習目標 (GIO) 服薬指導では、疾病に関して食事等のアドバイスを求められる機会も増え、必要性も高まっている。このような現状を踏まえ、患者の食事や生活の状況を分析し、患者やその家族に対して実践的な食生活の情報を伝えられるようになるために、年齢・性別・ライフスタイル等の特徴、食事・運動・睡眠等の生活習慣に関する知識を習得し、患者とのコミュニケーション能力を高める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	栄養バランスのとれた三大栄養素について、食事バランスガイドや四群点数方式等を使い説明ができる。	D1-3-1-3
2	妊娠期・授乳期の特徴と食事や生活のポイントについて説明ができる。	F-2-4-2, F-2-4-13
3	乳幼児期・学童期・思春期の特徴と食事や生活のポイントについて説明ができる。	F-2-4-2, F-2-4-13
4	成人期・更年期の特徴や食事や生活のポイントについて説明ができる。	C7-2-10-1
5	高齢期の特徴と食事や生活のポイントについて説明ができる。	F-2-4-13
6	生活習慣病と食事や生活の関連性について説明ができる。	D1-2-3-1~3, D1-3-1-8
7	糖尿病・高血圧・脂質異常症の食事や生活のポイントについて説明ができる。	C6-2-1-1, C6-5-2-4, C6-5-3-2, C7-2-5-1, C7-2-6-1, D1-3-1-8
8	腎機能障害、肝機能障害、高尿酸血症、貧血の食事や生活のポイントについて説明ができる。	C7-1-9-2, D1-3-1-8
9	骨粗鬆症の食事や生活のポイントについて説明ができる。	C7-1-5-1, D1-3-1-8
10	胃腸疾患、便秘、下痢の食事や生活のポイントについて説明ができる。	C7-1-9-1, D1-3-1-8
11	身体活動基準と運動療法について説明ができる。	T-1
12	時間栄養学について理解する。	T-1
13	睡眠、冷え症の影響と食事や生活について理解する。	C7-2-8-1
14	過栄養と低栄養、肥満とやせについて説明ができる。	C6-5-4-1~2
15	カウンセリングのポイントを理解する。	A-3-1-7~9, F-2-4-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	早川	栄養バランスと三大栄養素、食事バランスガイド、四群点数方式など	1, 7
2	"	カウンセリングのポイント	15
3	"	ライフステージ：妊娠期、産褥期、授乳期、乳幼児期	1, 2, 7, 8, 10, 13, 14
4	"	ライフステージ：学童期、思春期	3, 12, 13, 14
5	"	ライフステージ：成人期、更年期	4, 6, 9, 13, 14
6	"	ライフステージ：高齢期	5, 7, 8, 9, 10, 11, 14
7	"	咀嚼、嚥下、小テスト	3, 5
8	"	生活習慣病、腎機能障害、減塩	1, 7, 8, 14
9	"	糖尿病、高血圧、脂質異常症	1, 4, 5, 6, 7, 8, 14
10	"	肝機能障害、高尿酸血症、貧血	1, 2, 3, 4, 6, 8,
11	"	身体活動基準と運動療法、骨粗鬆症	4, 6, 7, 9, 11, 14
12	"	胃腸疾患、便秘、下痢	2, 3, 5, 6, 10, 13
13	"	時間栄養学、睡眠、小テスト	6, 12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

グループによる症例検討や実習する時間を設けている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- 1) 講義内容を元に症例を提示し、食事や生活の具体的なイメージを持たせ、実践的なアドバイスができるようにしている。
- 2) 市販のベビーフードや低たんぱく食品等の試食を行う。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:テスト
 - b) 態度:討議や実習の取り組み
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:テスト（60％）
 - b) 態度:討議や実習の取り組み（40％）

〔教科書〕

WebClassへ講義資料を配布する。

〔参考書〕

わかりやすい臨床栄養学 三共出版
実践栄養管理パーフェクトマスター 学研

〔オフィスアワー〕

講義終了後またはメール（hayakawa-y@hb.tp1.jp）
で受ける。

〔準備学習（予習・復習等）〕

WebClassに資料を公開する。

〔学生へのフィードバック〕

グループ討議の発表や症例検討について解説を行う。

〔教員からの一言〕

講義では、理論より実践的な内容を中心に行います。5年生からの実務実習や将来薬剤師になった時にも活かせるような食事、運動、生活等の知識を管理栄養士の立場からお伝えします。

応用薬物学

Applied Pharmacology

第4学年 前期 (選択) 専門科目Ⅰ 1単位

田野中 浩一 丸ノ内 徹郎

学習目標 (GIO) 1年次から3年次の薬理学で履修した自律神経系、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患および代謝疾患に作用する薬物についての理解を深める。実務実習での疾病と薬物治療に関する基礎的な知識を復習し、臨床での応用力をつけることを目的とする。機能形態学などの基礎科目の復習も同時に行う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	心臓および血管の構造について説明できる。	C7-1-7-1~2
2	自律神経系および神経体液性因子の電解質平衡を含めた循環調節の機序について説明できる。	C7-2-5-1, C7-2-7-1~2, E2-1-1-1~2
3	降圧薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	C6-6-2-4, E2-3-1-4, E2-3-3-1, E2-3-4-1
4	利尿薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	C7-1-10-1, C7-2-7-1~2, E2-3-3-1, E2-3-4-1
5	抗狭心症薬・心不全治療薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-3-1-2, E2-3-4-1
6	抗不整脈薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-3-1-1, E2-3-4-1
7	糖尿病での糖代謝調節について説明できる。	C6-5-2-1, C6-5-3-1, C7-2-6-1
8	抗糖尿病薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-5-1-1, E2-5-3-1
9	リポタンパク質の機能および脂質異常症との関係について説明できる。	C6-3-4-2, C6-5-3-2
10	脂質異常症(動脈硬化症)治療薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-5-1-2, E2-5-3-1
11	血小板凝集および血液凝固・線溶系について説明できる。	C7-1-14-1, C7-2-9-1, E2-3-2-1
12	末梢循環改善薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-3-2-2
13	抗凝固薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-3-2-2
14	消化管の構造および機能について説明できる。	C7-1-9-1, E2-1-1-1~2
15	消化管潰瘍の発症機序について説明できる。	C7-1-9-1
16	上部消化管潰瘍治療薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-4-2-1, E2-4-3-1
17	下部消化管潰瘍治療薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-4-2-2, E2-4-2-6, E2-4-3-1
18	呼吸器の構造および機能について説明できる。	C7-1-8-1, E2-1-1-1~2
19	喘息治療薬を作用機序で分類し、それぞれの特徴および薬物の有害事象への対処について説明できる。	E2-2-2-1, E2-4-1-1~3, E2-4-3-1
20	喘息発作に対する発作抑制薬および長期管理薬の違いを説明できる。	E2-2-2-1, E2-4-1-1~3, E2-4-3-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	丸ノ内	自律神経系と生体機能 1 (循環調節)	1, 2
2	丸ノ内	循環器疾患治療薬 1	3, 4
3	丸ノ内	循環器疾患治療薬 2	5
4	丸ノ内	循環器疾患治療薬 3	6
5	丸ノ内	糖尿病治療薬	7, 8
6	田野中	動脈硬化症治療薬	9, 10
7	田野中	末梢循環改善薬 1	11
8	田野中	末梢循環改善薬 2	12
9	田野中	造血系作用薬	13
10	田野中	消化管疾患治療薬 1	14, 15
11	田野中	消化管疾患治療薬 2	16, 17

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
12	田野中	呼吸器疾患治療薬 1	18
13	田野中	呼吸器疾患治療薬 2	19、20

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義内容について、その理解度を評価するためのレポートおよび小テストを実施する。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

講義内容の理解を促進させるため、小テストでの理解度の低いところを解説する。

〔成績評価方法〕

総合的評価

知識: レポートおよび小テスト評点の合計で評価する (100%)。欠席すると、その回の評価は理由の如何を問わず 0 点になります。

〔教科書〕

薬系薬理学書 (南江堂)

講義用資料 (薬理学 III、IV)

〔参考書〕

グラフィカル機能形態学 (京都廣川書店)

ガイドラインで理解する疾病と薬物治療 (オーム社)

薬名 [語源] 事典 (武蔵野大学出版会)

〔オフィスアワー〕

学生実習期間中は、実習後に対応する。面談時間を設けるために、予約を取ること。

〔所属教室〕

分子細胞病態薬理学教室 (研究 2 号館 5 階)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

薬理学 III および薬理学 IV の当該項目を予習する。復習に関しては、講義で重要事項と指摘したところを再度学習する。各項目の理解度をレポートにより、各自確認する。

〔学生へのフィードバック〕

理解度の低い項目の要点を、フィードバックする。

〔教員からの一言〕

定期試験期間での試験および再試験は実施しませんので、受講者は必ず出席してください。

〔備考〕

本講義は、薬理学関連の理解を深めるためのものです。

医薬情報特論

Advanced Topics in Pharmaceutical Information Science

第 5 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

山田 安彦

高柳 理早

片桐 文彦

学習目標 薬物治療に必要な情報の収集・評価・加工・提供に基づく臨床上の問題解決、薬物投与設計の立案、および創薬や育薬への応用を行うための実践的な知識を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	創薬に関わる医薬情報について概説できる。	E3-1-1-3, E3-1-3-3
2	育薬に関わる医薬情報について概説できる。	E3-1-1-4, E3-1-3-3
3	創薬と育薬の橋渡しをするための医薬情報について概説できる。	E3-1-6-1
4	製薬企業における医薬品情報活動について概説できる。	E3-1-1-2, E3-1-1-4
5	医療現場における医薬品情報活動について概説できる。	E3-1-1-2, F-3-2-1~2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-3	山田 安彦	医薬情報の見方と考え方 (1)	2
4-6	片桐 文彦	医薬情報の見方と考え方 (2)	1
7,8	近澤 洋平 (公益財団法人 MR 認定センター)	製薬企業における医薬品情報活動の現状と今後	4
9-11	高柳 理早	医薬情報の見方と考え方 (3)	3
12,13	若林 進 (杏林大学医学部 付属病院)	医療現場における医薬品情報活動の現状と今後	5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

補助プリントを配布し、空欄や補足部分に記入させる。
講義時間中にレポートを作成することにより、講義内容をリアルタイムで検討させる。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
a) 知識：補助プリントによる演習問題等を行う。
- 2) 総括的評価
a) 知識：全講義のレポートにより総合的に評価する (100%)。

〔参考書〕

理論医薬品情報学 (山田安彦編著) 京都廣川書店、2017 年

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可。但し、メールによる事前予約が必要。

〔所属教室〕

山田 安彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
高柳 理早 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室
片桐 文彦 臨床薬効解析学教室 研究 2 号館 2 階 204 号室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

- 3、4 年次の医薬情報 I、医薬情報 II および医薬情報演習の内容を復習しておいてください。

〔学生へのフィードバック〕

講義終了後、質問時間を設けて理解不足であった点を解説するようにする。

〔教員からの一言〕

より臨場感を持って医薬情報を捉えることができるよう、MR 認定センターおよび大学病院薬剤部から招聘した外来講師による現場の話を交えて実施します。

〔備考〕
実務家教員担当科目

医療経済学特論

Advanced Topics in Health Economics and Pharmacoeconomics

第5学年 前期 (選択)専門科目Ⅱ 1単位

五十嵐 中

大西 佳恵

学習目標 医療経済評価・薬剤経済評価について、その理解に必要な統計学や医療制度に関する知識を復習するとともに、最先端の分析手法と政策への応用の実例を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療経済学・薬剤経済学の基礎を概観する。	
2	薬剤経済学を学ぶ際の土台としての、EBM (科学的根拠に基づく医療) や生物統計学の基礎知識を復習する。	
3	薬剤経済評価の基礎的な分析手法を理解する。	
4	応用的な薬剤経済評価の手法を理解する。	
5	薬剤経済評価の政策への応用例について、世界・日本の事例を理解する。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	五十嵐	医療経済学・概論	1
2、3	五十嵐	薬剤経済学とEBM・生物統計学(1)	2
4~6	五十嵐	薬剤経済学とEBM・生物統計学(2)	2
7、8	五十嵐	薬剤経済分析・基礎編(基礎的な分析手法の復習と、コスト・アウトカムの評価法)	3
9~12	五十嵐	薬剤経済分析・応用編(感度分析・モデル分析・シミュレーション)	4
13~15	五十嵐	社会の中での薬剤経済評価 政策決定への応用法	5

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕
ワークショップ形式を一部に導入する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕
パワーポイントを眺めるだけの「受け身」の授業でなく、能動的に参加できるような授業をめざす。

〔成績評価方法〕
学期末試験ないしレポートおよび出席状況を総合して評価する。

〔教科書〕
五十嵐中、佐條麻里. 薬剤経済わかりません!! 東京図書; 2014.
五十嵐中、佐條麻里. 医療統計わかりません!! 東京図書; 2010.

〔オフィスアワー〕
特になし

〔準備学習(予習・復習等)〕
授業の内容の復習を行うこと

〔学生へのフィードバック〕
さらに発展的な学習を希望する学生には、教育プログラムやワークショップの紹介も行う。

レギュラトリーサイエンス

Regulatory Science

第5学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

益山 光一
井上 勝央
北垣 邦彦
五十嵐 中
内海 潤
成川 衛

学習目標 (GIO) レギュラトリーサイエンスとは、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた科学的な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。これからの医薬品開発に関して、治療効果や安全性に加え、社会的背景や評価方法、医療経済なども考慮しながら、社会との調和を図ることが重要である。また、患者から見て真に優れた医薬品が薬物療法の現場で活用されるには、医薬品の一生、すなわち探索、開発、製造、製剤設計、前臨床、治験、審査承認、市販後安全対策、適正使用等の各段階において、レギュラトリーサイエンスの概念に基づく適切な評価・調整が必須となる。本科目では、将来患者さんに安全で適切な医薬品の提供ができる薬剤師になるために、医薬品の誕生から適正使用までに対する適切な評価・調整に関する知識を習得する。また、知的財産に関する基本的な知識の修得も行う。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について概説できる。	A-1-4-1, B-2-2-11
2	医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。	C4-1-1-1~2
3	医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。	B-2-2-2
4	疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。	D1-1-1-1, D1-1-2-1~3
5	医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。	B-3-2-1
6	新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。	B-3-1-6
7	ジェネリック医薬品の役割について概説できる。	B-3-2-3
8	希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。	Y-2-3-5
9	非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	E3-1-1-3
10	臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	E3-1-1-3
11	医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。	B-2-2-2
12	市販後調査の制度とその意義について説明できる。	B-2-2-5
13	医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。	Y-2-1-2
14	医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。	E5-2-2-1~2
15	医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-5
16	医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。	E5-2-2-2~4
17	GLP、GMP、GCP、GPMSPの概略と意義について説明できる。	E3-1-1-5
18	医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	E3-1-3-5
19	代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど)について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段について考える。	A-1-3-5~7
20	薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。	Y-3-38-2
21	治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。	A-2-4-1
22	医薬品創製における治験の役割を説明できる。	B-2-2-3
23	治験(第I、II、およびIII相)の内容を説明できる。	B-2-2-2~3
24	公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。	B-2-2-3, E3-1-1-5
25	治験被験者の人権の保護と安全性の確保および福祉の重要性について説明できる。	A-2-4-1~2
26	治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。	B-2-2-3
27	治験における薬剤師の役割(治験薬管理者など)を説明できる。	A-1-2-5
28	治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。	B-2-2-3

番号	内容	コアカリとの関連コード
29	治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。	B-2-2-3
30	インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について説明できる。	A-2-3-3, B-2-2-3
31	遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。	E2-8-2-1
32	再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。	A-2-2-3, E2-8-3-3~4
33	ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例(イマチニブなど)を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。	Y-3-52-12
34	疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。	C7-1-1-3
35	臨床試験の代表的な研究デザイン(症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験)の特色を説明できる。	E3-1-6-1
36	バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。	E3-1-6-2
37	バイアスを回避するための計画上の技法(盲検化、ランダム化)について説明できる。	E3-1-6-6~7
38	リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明できる。	E3-1-6-9
39	基本的な生存時間解析法(Kaplan-Meier 曲線など)の特徴を説明できる。	E3-1-5-7
40	国民医療費の動向を概説できる。	B-3-2-2
41	保険医療と薬価制度の関係を概説できる。	B-3-1-2, B-3-1-6
42	診療報酬と薬価基準について説明できる。	B-3-1-7

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	北垣	レギュラトリーサイエンスの概念と講義概要、医薬品創製と薬害の歴史	3, 11, 12, 23
2	五十嵐	社会保障制度及び医療保障の仕組み	40, 41
3	五十嵐	国民医療費、薬価制度	40, 41, 42
4	益山	医薬品開発に関するレギュラトリーサイエンスについて(1)	1~5, 10, 21, 22, 24~30
5	内海	特許(1)	18
6	内海	特許(2)	18
7	益山	医薬品開発に関するレギュラトリーサイエンスについて(2)	7~9, 31~34
8	成川	バイオスタティクス(1)生物統計の基礎	35~37
9	"	バイオスタティクス(2)臨床への応用	35~37
10	井上	レギュラトリーサイエンスに関する最近の動向(1)	10~14
11	"	レギュラトリーサイエンスに関する最近の動向(2)	6, 15~17
12	"	薬物動態を考慮した医薬品開発	2, 3, 20
13	"	総括・総合演習	1~42

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

毎回、小テストを行っている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

初回に本講義科目の概要を解説する。各講義では、出きる限り理解しやすい資料を配布し、必要に応じて練習問題に回答させ、理解を深めるようにしている。さらに、最終回では全体の講義のまとめを行い、知識を整理し、問題解決能力の醸成に努めている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価: 練習問題を出題し、それに答えさせることにより、知識の確認を行う。
- 2) 総括的評価: 小テスト(100%)により総合的に評価する。

<総括的評価>

- ・ A (80~100%) : 合格
- ・ B (65~79%) : 合格
- ・ C (55~64%) : 合格
- ・ D (55%未満) : 不合格

〔教科書〕

使用しない

〔参考書〕

日本薬学会編:スタンダード薬学シリーズ8「医薬品の開発と生産」(東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。但し、要事前連絡。

〔所属教室〕

北垣 邦彦 社会薬学研究室 教育3号館1階3102-3
益山 光一 薬事関係法規教室 教育3号館1階3102-2
井上 勝央 薬物動態制御学教室 研究1号館3階

〔準備学習（予習・復習等）〕

本講義は、これまでに学習してきた医薬品開発に関する科目について十分に理解できていることを前提としています。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、3～4年生までに学習したの該当範囲を確認してから講義に臨むこと。また、講義後の復習を必ず行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

学生が予習で行った空語補充の正誤確認と説明を行う。
最終回で、レギュラトリーサイエンスに関する総括及び総合演習を行う。

〔教員からの一言〕

安心・安全で有効なくすりが出世の中に出ていく過程、さらにその過程におけるレギュラトリーサイエンスの必要性についてわかりやすく講義を進めていきますので、しっかり講義を聴くように努めてください。

〔備考〕

【時間割】

回数	月日（曜日）	時限
1-3	5月11日（月）	4～6
4-6	5月14日（木）	4～6
7-9	5月15日（金）	4～6
10-11	5月21日（木）	4・5
12-13	5月22日（金）	4・5

有機薬理化学特論

Drug Chemistry

第 5 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

谷口 敦彦

林 良雄

- 学習目標 (GIO)**
- ・医薬品の性質を理解することに重きを置き、有機化合物としての医薬品の物性、反応性および分子レベルでの医薬品の作用機序について理解し、医療・臨床の現場で説明できるようにする。
 - ・臨床現場で予期される問題点を有機化学的観点からとらえられるようにする。
 - ・各医薬品について、薬理作用・副作用と有機化学を関連づけて理解できるようにし、薬を化学で語れることをめざす。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。	C4-3-1-1
2	医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。	C4-3-2-1
3	プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。	C4-3-2-2
4	代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。	C4-3-3-1
5	バイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。	C4-3-3-2
6	医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。	C4-3-3-3
7	受容体・イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質について概説できる。	C4-3-5-1 ~ 5, C4-3-7-1
8	酵素に作用する医薬品の構造と性質について概説できる。	C4-3-4-1 ~ 6
9	DNA に作用する医薬品の構造と性質について概説できる。	C4-3-6-1 ~ 3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	林	抗がん剤の化学 1	6、8、9
2	"	抗がん剤の化学 2	8、9
3	"	抗がん剤の化学 3	8、9
4	"	免疫抑制剤の化学 1	5、7、8
5	"	免疫抑制剤の化学 2	7、8
6	"	抗炎症剤の化学 1	4、7、8
7	"	抗炎症剤の化学 2	7、8
8	"	プロドラッグの化学的理解	1、2、3
9	谷口	糖尿病治療薬の化学 1	1、2、4、5
10	"	糖尿病治療薬の化学 2	7、8
11	"	糖尿病治療薬の化学 3	6、7、8
12	"	降圧薬の化学 1	7、8
13	"	降圧薬の化学 2	3、7、8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

課題を与え、SGD 活動および復習により、理解の深化を図る。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

本講義を理解する上で必須な有機化学の復習を含めながら授業を進める。体系的な理解を深めるために、各論と基本原理の関係に重点を置いた解説を行う。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 小試験により確認する。
 - c) 態度: 授業態度を評価する。
- 2) 総括的評価

a) 知識: レポートにより評価する (100%)

〔教科書〕

ベーシック創薬化学 (赤路、津田、林 著 化学同人)

〔参考書〕

化学系薬学 II. 生体分子・医薬品の化学による理解 (スタンダード薬学シリーズ II 3、日本薬学会編、東京化学同人)

薬がわかる構造式集 (林、青柳、飯島 編 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

原則いつでも可。但し、要事前連絡。

〔所属教室〕

林、谷口: 薬品化学教室 研究 2 号館 3 階 3 0 5

〔準備学習 (予習・復習等)〕

1 4 年次の有機化学・生体分子の化学を十分に復習して講義に望んでください。

〔学生へのフィードバック〕

講義や課題に対する質問事項を個々の対応のみならず、学生全体にお話する。

〔教員からの一言〕

くすりを単なる白い粉でなく、その本質である化学構造に基づいて理解するための講義です。実際に臨床で使われているくすりの化学構造やそれに基づく機能を化学の言葉で理解してもらいます。すなわち、医薬品の分子レベルでの理解に繋がります。化学に立脚した、薬剤師を目指してください。

下枝 貞彦、杉浦 宗敏、平田 尚人

学習目標 (GIO) 臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、薬物治療に参画し、安全で確実な薬物療法の提供に努めなければならない。特に医療チームの中で薬剤師は、医薬品のリスクを回避を目的に、有害事象(副作用、相互作用)・薬害、薬物乱用に関して精通することが求められている。

そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提示するために、疾病にガイドラインを考慮した適正な薬物治療を理解し、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

将来、専門薬剤師を目指す学生には、その基礎となる薬学的アプローチの考え方を理解し、専門領域に特化するための準備学習となる。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。	E1-3-1-1
2	薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。	F-3-4-10
3	高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-4
4	不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-1-1
5	気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-4-1-1
6	鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	E2-4-1-4
7	アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-6-3-1
8	糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-1
9	泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-3-3-5
10	脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-2
11	統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-1-3-4
12	片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。	E2-1-3-11
13	関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-2-3-1
14	骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-2-3-2
15	呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)・感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-1
16	感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-8
17	尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-3-4
18	ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)・感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-4-4
19	抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。	E2-7-8-3
20	代表的ながん化学療法のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E2-7-8-4

番号	内容	コアカリとの関連コード
21	肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-9
22	消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-8
23	乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-13
24	生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-11
25	虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-3-1-3
26	抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。	E2-3-2-2
27	急性および慢性心不全について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-3-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応（SBOs）
1	下枝	処方解析学とは	1,2
1	下枝	薬剤師の処方解析と処方設計	2
2	平田	循環器疾患：高血圧症、虚血性心疾患	3,25
2	平田	循環器疾患；不整脈、心房細動、抗血栓治療	4,26
3	平田	循環器疾患；心不全（急性・慢性）	27
4	杉浦	腎・泌尿器疾患：糖尿病腎症、腎・尿管結石	8,9
4	杉浦	代謝性疾患：糖尿病・脂質代謝異常	8,10
5	杉浦	精神・神経疾患：統合失調症、頭痛	11,12
6	杉浦	骨・関節疾患：関節リウマチ、骨粗鬆症	13,14
7	平田	アトピー性皮膚炎 呼吸器疾患：労作時呼吸苦、喘鳴、気管支喘息、発熱、咳、全身倦怠感、結核、非結核性抗酸菌症	5,6,7,15
8	平田	感染症：市中肺炎（CAP）、医療・介護関連肺炎（NHCAP）、院内肺炎（HAP）、非定型肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎（合併症）	15
9	平田	感染症：感染性心内膜炎、胸膜炎、院内感染、手術部位感染（SSI）、カテーテル関連血流感染（CRBSI）	16
10	下枝	感染症：尿路感染症	17
11	下枝	感染症：C型肝炎	18
12	下枝	悪性腫瘍：肺がん、肝細胞がん	19,20,21,22
13	下枝	悪性腫瘍：胃、乳がん	19,20,22,23
14	下枝	悪性腫瘍：大腸癌	19,20,22
15	下枝	悪性腫瘍：前立腺癌、卵巣癌	19,20,24

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。教科書にある練習問題を実際に解き、解説を加えている。各回に学生を指名して症例内容に対するポイント、薬学的アプローチについて意見を述べさせる。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

教科書が症例ベースで構成されているため、専門領域に特化した教員が自らの臨床経験も加味しながらどのように薬学的視点からアプローチを加えていくべきなのか、臨場感を持って学生に伝えるための工夫をしている。将来専門薬剤師として、臨床現場で専門性を発揮するための基礎となる薬物療法全般に関する幅広い知識や視点を身に付け、専門薬剤師特論の講義につながるよう工夫している。

〔成績評価方法〕

総括的評価

知識：毎回の授業内試験（レポート）の結果に基づいて評価する（100%）。必要に応じて追再試験を1回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

処方管理学（南山堂）

〔参考書〕

疾患と治療薬 改訂第6版（南江堂）

visual core pharma 薬物治療学 改定7版（南山堂）

治療薬マニュアル（医学書院）

今日の治療指針（医学書院）

処方管理学（南山堂）

病気がみえる vol.2 循環器 (医療情報科学研究所)
処方 Q&A 循環器疾患 (南山堂)

〔オフィスアワー〕

下枝貞彦：火曜日の終日と水曜日の午前以外はいつでも可。但し、事前にメール (shimoeda@toyaku.ac.jp) による予約が必要。

臨床薬剤学教室 医療棟 2 階 M207 室

杉浦 宗敏：いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。

医療薬学研究棟 3 階 M304 号室

平田尚人：水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要。

臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟 2 階 M206 室

〔所属教室〕

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 教授

平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授

〔準備学習 (予習・復習等)〕

70 分の授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、テキスト (プリント) の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の 18 時まで WebClass にアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。

さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔教員からの一言〕

本講義は、長年第一線の病院薬剤師として現場経験を積み、様々な疾患に精通した教員が担当する。また、その教員はいずれにも専門分野を有しており、患者に対して薬物治療を行う際、何をポイントにチーム医療の中で薬学的アプローチを行っていくべきなのかそのコツを熟知している。

そこで、将来臨床現場において専門薬剤師を目指す学生には、各領域において専門性に特化する際、その基礎となる薬学的アプローチの考え方を理解し、医療チームの中で信頼される専門薬剤師になるための準備学習を提供する。

〔備考〕

実務家教員担当科目

専門薬剤師特論 I

Advanced Topics of Board Certified Pharmacy Specialist I

第 5 学年 後期 (選択) 専門科目 II 1 単位

下枝 貞彦

平田 尚人

今井 志乃ぶ

畔蒜 祐一郎

学習目標 (GIO) 臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、薬物治療に参画し、安全で確実な薬物療法の提供に努めなければならない。特に医療チームの中で薬剤師は、医薬品のリスクを回避を目的に、有害事象（副作用、相互作用）薬害、薬物乱用に関して精通することが求められている。

そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提示するために、疾病にガイドラインを考慮した適正な薬物治療を理解し、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療に応用するための具体的症例を呈示する。

将来、専門薬剤師を目指す学生には、実際に専門薬剤師が臨床現場でどのような視点から薬学的アプローチを行っているのかその一端を修得することができる。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	悪性腫瘍の組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	E2-7-7-2
2	代表的ながん化学療法レジメン（FOLFOX 等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E2-7-8-4
3	白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-5
4	悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-6
5	消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-8
6	生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-11
7	腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-12
8	乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-7-8-13
9	急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-3-1-2
10	虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。	E2-3-1-3
11	閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患について概説できる。	E2-3-1-5
12	急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。	F-1-3-9
13	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。	E3-1-2-1, E3-1-2-3, E3-1-2-5~6
14	MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能） 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。	E3-1-3-2~3, E3-1-3-5

番号	内容	コアカリとの関連コード
15	EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。 メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。	E3-1-4-1～4
16	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。	E3-2-1-1～2
17	医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。	E3-2-2-3～4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1,2,3	下枝	臨床腫瘍薬剤学① 実臨床からみたがん専門薬剤師の役割 固形がん編	1,2,3,4
4,5,6	畔蒜	臨床腫瘍薬剤学② 実臨床からみたがん専門薬剤師の役割 血液がん編	5,6,7,8
7,8,9	平田	心不全、先天性心疾患および心臓弁膜症の病態と薬物治療 虚血性心疾患の病態と薬物治療 循環器系救急治療および災害医療と薬剤師の役割	9,10,11,12
10,11,12	今井	医薬品情報学 臨床における医薬品情報専門薬剤師の役割	13,14,15
13,14,15	今井	診療情報管理学 ビックデータの活用と診療情報管理士の役割	13,14,16,17

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。各回に学生を指名して症例内容に対するポイント、薬学的アプローチについて意見を述べさせる。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

症例ベースで構成されている講義を展開するため、自らの臨床経験も加味しながらどのように薬学的視点からアプローチを加えていくべきなのかを臨場感を持って学生に伝えるための工夫をしている。

〔成績評価方法〕

知識：毎回の授業内試験（レポート）の結果に基づいて評価する（100%）。必要に応じて追再試験を1回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔教科書〕

講義資料は WebClass より各自で印刷し、講義時に持参すること。なお講義資料がある場合は、原則として講義前日の 18 時を目途に WebClass 上で公開される。

〔参考書〕

疾患と治療薬 改訂第 6 版（南江堂）
visual core pharma 薬物治療学 改定 7 版（南山堂）
治療薬マニュアル（医学書院）
今日の治療指針（医学書院）
処方管理学（南山堂）

〔オフィスアワー〕

下枝 貞彦 火曜日の終日と水曜日の午前以外はいつでも可。但し、事前にメール shimoeda@toyaku.ac.jp）による予約が必要。臨床薬剤学教室 医療棟 2 階 M207 室
平田 尚人：水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要。臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟 2 階 M206 室
今井 志乃ぶ いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。
DR 棟 4 階 2041 号室

〔所属教室〕

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授
平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授
今井 志乃ぶ 医薬品安全管理学教室 准教授
畔蒜 祐一郎 臨床薬剤学教室 助教

〔準備学習（予習・復習等）〕

70 分の授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目の SBO を確認し、テキスト（プリント）の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後には必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の 18 時まで WebClass にアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。

さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔教員からの一言〕

本講義が、長年第一線の病院薬剤師として現場経験を積み、様々な疾患に精通した教員が講義を行う。また、その教員はいずれにも専門分野を有しており、患者に対して薬物治療を行う際、何をポイントにチーム医療の中で薬学的アプローチを行っていくべきなのかそのコツを熟知している。

そこで、将来臨床現場において専門薬剤師を目指す学生には、各領域において専門性に特化する際、その基礎となる薬学的アプローチの考え方を理解し、医療チームの中で信頼される専門薬剤師になるための準備学習を提供する。

〔備考〕

実務家教員担当科目

マーケティング（医療用医薬品マーケティング戦略）

Marketing（Pharmaceutical Marketing Strategy）

第5学年 後期（選択）専門科目Ⅱ 1単位

林 真希子

学習目標 (GIO) 社会、経済、文化等あらゆる面でグローバル化の時代を迎えた現在、医薬品市場では「良い薬を作れば売れる」時代は終わり、「売れる薬を作り、売れる方法で売る」時代へと移行しました。つまり、これまで医薬品市場ではあまり必要とされていなかった「戦略的マーケティング」の概念が医薬品市場にも入り込み、事業を展開する上で不可欠な要素となりました。本講義では、最初にマーケティングに関する一般的な知識を習得します。次に、当該知識を医療用医薬品マーケティングに展開させ、医薬品の研究開発から販売までの各プロセスにおいて具体的にどのようなマーケティングが実施されているのかについて学びます。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	マーケティングの基礎用語を理解する。	T-1
2	マーケティング戦略の一般的なプロセスを理解する。	T-1
3	マーケティング戦略の各プロセスにおける重要ポイントを理解する。	T-1
4	日本及び世界における医薬品の市場規模の現状及び推移を説明できる。	B-3-2-1, Y-2-3-4
5	日本及び世界における医薬品に対する市場ニーズを説明できる。	D1-1-2-3, T-1
6	医薬品の特許制度及び2010年問題について説明できる。	Y-2-3-1
7	ジェネリック医薬品について説明できる。	B-3-2-3
8	日本及び世界における近年の医薬品業界再編を理解する。	T-1
9	バイオ医薬品について説明できる。	T-1
10	医療用医薬品におけるマーケティング戦略の役割を理解する。	T-1
11	医療用医薬品マーケティング戦略の一般的なプロセスを理解する。一般消費財と医療用医薬品におけるマーケティング戦略体系の違いを理解する。	T-1
12	医療用医薬品マーケティング戦略の各プロセスにおける重要ポイントを理解する。	T-1
13	希少疾病用医薬品について説明できる。	Y-2-3-5
14	薬価基準制度について説明できる。	B-3-1-6
15	組織・人材マネジメントのポイントを理解する。	T-1
16	国民医療費及び調剤医療費の動向について説明できる。	B-3-2-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	林	オリエンテーション、マーケティング概論	1-3
2	"	マーケティング概論	1-3
3	"	課題	1-3
4	"	医薬品業界	4-9
5	"	医薬品業界	4-9, 16
6	"	課題	4-9
7	"	医療用医薬品マーケティング	5, 10-14
8	"	医療用医薬品マーケティング	5, 10-14
9	"	課題	5, 10-14
10	"	マーケティング演習：映画「スーパーの女」から学ぶマーケティング戦略	15
11	"	マーケティング演習：映画「スーパーの女」から学ぶマーケティング戦略	15
12	"	課題	15
13	"	課題の総括	1-15
14	"	最終試験	4-14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・ 各授業日の最後に、その日の内容に関する課題を実施する。
- ・ 課題の実施に際し、学生同士で議論する機会を設けている。

- ・ 提出された課題の回答を紹介し、コメントする時間を設けている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

最初に一般的なマーケティングを学習することで、マーケティングを学んだことがない学生でも無理なく参加できるとともに、その後の医薬品マーケティングを円滑に学習できるようにした。各題目ごとにキーワードを提示し、重要ポイントを明確にした。各授業日の最後にその日の内容に関する課題を実施することで、効果的に復習できるようにした。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：講義日ごとに、その日の講義内容に関連する課題を実施するとともに、最終日には、講義内容に即した最終試験を行う。

2) 総括的評価

a) 知識：課題（25%）及び最終試験（75%）により評価する。

〔教科書〕

作成して配布する。

〔参考書〕

「コトラーのマーケティング入門」P. コトラー他（ピアソンエデュケーション）

「コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編」P. コトラー他（ピアソンエデュケーション）

「ゼミナール マーケティング入門」石井淳蔵他（日本経済新聞出版社）

「よくわかる医薬品業界」長尾剛司（日本実業出版社）

「医薬品マーケティングの基本戦略」M. スミス他（日経BP社）

「医療用医薬品マーケティング」前田英二（メディカルレビュー社）

「日経業界地図」（日本経済新聞出版社）

「[函解] わかる！ MBA」池上重輔（PHP文庫）

「医薬マーケティング戦略 『ザ・ガイダンス』」吉村元明（情報機構）

「DATA BOOK」（日本製薬工業協会）

〔オフィスアワー〕

いつでも可。メール（vieillerose@yahoo.co.jp）にて対応。

〔準備学習（予習・復習等）〕

以下をキーワードに、新聞、テレビ、インターネット等で報道された医薬品業界関連トピックスは一読しておいてください：「医薬品市場」「M&A / 買収 / 業界再編」「医療費 / 薬剤費」「薬価」「医薬品特許」「バイオ医薬品 / バイオ後続品」「ジェネリック医薬品 / 後発医薬品」。

〔学生へのフィードバック〕

課題において得られた回答については、それに対するコメントとともに最終日に総括する。個人の質問に対する回答は、口頭もしくは書類で提示するとともに、適宜、全履修者に対し、最終日に質問及び回答の詳細を解説する。

〔教員からの一言〕

皆さんの回りには、それぞれ試行錯誤されたマーケティングが展開されています。製品・サービスを手にした際には、どのようなマーケティングが実施されているのか、どう改良すればもっと当製品・サービスが『売れる』（顧客に『買っていただける』）ようになるのか考えてみましょう。

〔備考〕

授業内容は変更する場合があります。

生殖医療特論

Reproductive Medicine

第 5 学年 後期 (選択) 専門科目 II 1 単位

田村 和広

吉江 幹浩

恩田 健二

久慈 直昭 (東京医大・産科婦人科学教室)

学習目標 (GIO) 生殖補助医療 (ART: assisted reproductive technology) は、不妊症患者を妊娠に導く医療技術である。現在、急速に普及し国内の出生児の約 2% に至っている。日本における体外・顕微受精の件数は年間 24 万件と世界最多であり、一般不妊治療と合わせて複雑な社会的、倫理的問題に直面している。本科目では、不妊症と深く関わる生殖器系疾患の病態生理を学ぶと共に、医薬品使用の現状、薬物療法の意義について学ぶ。さらに、妊娠時における薬物治療や、卵子凍結、ES 細胞・iPS 細胞等の先端科学技術の応用、代理母・配偶子提供などが抱える社会的課題も取り上げ、薬剤師、薬学人として、必要な知識・技能を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	性腺機能の生理学を説明できる。	C7-1-11-1, C7-1-12-1, C7-2-10-1, C7-2-2-1, X-6-7-1, Y-3-58-1
2	避妊法の種類と効果について説明できる。	C7-2-10-1, E2-3-3-7
3	子宮内膜症の病態と薬物療法を説明できる。	E2-3-3-6, E2-5-2-1, E2-5-2-5
4	多嚢胞性卵巣症候群の病態と薬物療法を説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-2-1, Y-3-58-1
5	妊娠高血圧症候群 (HDP) の病態と薬物療法を説明できる。	E2-3-3-7 ~ 8
6	更年期障害の成因、症状、診断、治療について説明できる。	C7-1-12-1, C7-2-10-1, E2-5-2-1
7	不妊症の疫学、原因疾患 (女性、男性) 代表的な薬物療法を理解し、説明できる。	E2-3-3-7 ~ 8
8	不妊症検査・診断と治療を説明できる。	E2-3-3-8, E2-5-2-1
9	卵巣刺激法を説明できる。	E2-5-2-1
10	新しい医学技術 (クローン技術、万能細胞、着床前診断) を説明できる。	
11	生殖をめぐる倫理的課題 (凍結保存配偶子、配偶子提供、代理母) を理解している。	A-2-1-4, A-2-2-3
12	生殖補助医療や不妊治療をめぐる社会的問題点と生殖産業について、理解している。	A-1-2-8, A-2-1-4, A-2-2-3
13	生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。	E3-3-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1, 2	吉江	性腺機能の生理学、特に、着床に向けた子宮内膜の準備機構と性ホルモンとの関係、生殖器系作用薬	1, 2, 7
3~5	久慈	不妊症検査・診断と治療、卵巣刺激法、代表的な薬物療法と処方解析、人工授精	7~9
6~8	田村	性腺機能の生理学 (特に、排卵機構)、多嚢胞性卵巣症候群、更年期障害と更年期関連疾患 子宮内膜の機能とその異常、特に、子宮内膜症の発症・進行のメカニズムと治療の現状	1, 3, 4, 6
9, 10	恩田	胎盤形成の生理学、妊娠高血圧症候群の概説、妊娠授乳期における薬物治療	5, 13
11~13	久慈	新しい医学技術 (クローン技術、万能細胞、着床前診断)、生殖をめぐる倫理的課題 (凍結保存配偶子、配偶子提供、代理母)、生殖技術が社会に問われる点と生殖産業	10~12

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義の單元ごとに質問したり、感想を聞き、対話的授業を試みることにより、傾聴を促し、正しい知識の習得と考察ができるように方向づける。また、記述式の演習問題 (ワークシート) に取り組む時間を確保して、深い学びを目指す。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

最先端の生殖医療の知識や研究の現状を知る機会を与え、生殖・産科婦人科領域での未解決の問題点を知ることにより、受講者の興味を深める。人工授精に携わる ART の最前線で活躍する臨床医の講義を盛り込むことにより、より深い知識を習得する。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: チェックシートを配布し、解答を回収・評価する。

2) 総括的評価

a) 知識: レポート (45%)、最終試験 (55%) により、総合的に評価する。

〔教科書〕

プリント資料を配布する。

〔参考書〕

病気がみえる 9 婦人科・乳腺外科 (MEDIC MEDIA)

病気がみえる 10 産科 (MEDIC MEDIA)

〔オフィスアワー〕

吉江 幹浩 いつでも可。

田村 和広 いつでも可。

恩田 健二 いつでも可。

〔所属教室〕

吉江 幹浩 (薬理学教室)

田村 和広 (薬理学教室)

恩田 健二 (臨床薬理学教室)

久慈 直昭 (東京医大・産科婦人科学教室)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

2 年次科目 薬理学 I の講義で履修した 生殖内分泌系作用薬の内容を見直しておく。

〔学生へのフィードバック〕

講義内容に関する演習・小テストを行い、その解説をする。

プライマリケア I

Primary Care I

第 5 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

安藤 堅、大嶋 利之

学習目標 (GIO) 高齢化の進展や疾病構造の変化が進む我が国では、肥満や生活習慣病患者数が年々増加し、医療費の増大など深刻な問題が浮上している。国は健康寿命の延伸をめざし、食生活の改善や運動習慣の定着等による生活習慣病予防対策を推進しており、薬剤師はその担い手とされている。この授業は、健常者が疾病に罹患しないような健康の保持増進を図るための、また、生活習慣病患者がその症状を進展させないための栄養の摂り方や運動のとりいれ方に関する理論的実践的知識を習得することにより、個々人の生活環境を踏まえた適切な健康管理方法を提供できるようになることをめざす。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	我が国における生活習慣病対策について説明できる。	
2	我が国における食育の取り組みについて説明できる。	
3	日本人における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。	
4	食事内容を記録し、栄養摂取バランスをチェックできる。	
5	健康食品の概念を理解し、説明できる。	
6	特別用途食品について説明できる。	
7	保健機能食品を挙げ、生活習慣病対策として期待できる役割について概説できる。	
8	食品成分と医薬品との相互作用の事例を挙げ、リスク回避に必要な注意点を説明できる。	
9	健康食品に対するアドバイザースタッフのはたす役割について説明できる。	
10	運動不足に伴う身体諸機能の変化と生活習慣病との関わりを説明できる。	
11	中高年者の健康の維持増進に対し、適切な運動指導ができるようにその原理と方法を説明できる。	
12	運動可能な疾病者に対し、適切な運動指導ができるようにその原理と方法を説明できる。	
13	特定健康診査と特定保健指導について理解し、生活習慣の改善法について概説できる。	
14	健常者に対する生活習慣病の発症予防に向けた栄養指導ができる。	
15	生活習慣病患者の症状の進展等の重症化予防にむけた栄養指導ができる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-5	安藤、大嶋	我が国の健康づくり対策、適正な食生活 (栄養摂取と運動) の実践、健康食品、保健機能食品、食品の機能性	1-7,10
6-8	安藤、大嶋	食品成分と医薬品との相互作用の事例と適切な情報提供のあり方	5-9
9-11	安藤、大嶋	健康の維持増進および運動可能な患者に有効な運動のしかた	10-12
12-14	安藤、大嶋	生活習慣病の発症・重症化予防を目的とした栄養指導	1-4,13-15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義プリントを配布し、講義を進行しながらプリント内の空欄部分を記入させるようにしている。正しい情報をその場で速やかに入手し的確に提供する場面を想定し、インターネット検索を活用した演習を組んでいる。学生同士が討議する時間を設け、討議した内容を発表させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

学生が自らの食生活や運動記録をつけることによって健康管理の重要性を理解し、健康維持・増進のために必要な知識は何かを考えさせている。栄養と健康維持、生活習慣病対策に関する具体的な事例を用いた演習を行うことにより、1年生の「基礎栄養学」や2年生の「栄養と食品機能」「健康保持と疾病予防」などの健康保持・増進に関連する科目で得た知識を実践的に活用できるよう努めている。

食品や健康に関するデータや政策、関連法規などの最新情報を提供し、実践に役立つ授業となるよう努めている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識:講義や演習中に適宜口頭試問やチェックテストなどを行う。
 - b) 技能:プレゼンテーションや討議をグループ学習で行い、フィードバックする。
 - c) 態度:受講態度(グループ演習など授業に臨む姿勢、出席状況など)から評価し、フィードバックする。
- 2) 総括的評価:試験および課題(45%)、受講態度・プレゼンテーション能力・パフォーマンス(55%)として総合的に評価する。

- a) 知識:課題、発表資料、レポートの内容などから評価する。
- b) 技能:栄養・運動指導が適切にできるかどうかについて、プレゼンテーションなどから評価する。
- c) 態度:受講態度(演習や課題等に臨む姿勢)から評価する。
- d) パフォーマンス:発表資料や課題の考察や表現力について評価する。

〔教科書〕

講義ごとにプリントを配布

〔参考書〕

最新衛生薬学(別府正敏、平塚明 編集 廣川書店)
日本人の食事摂取基準 2015年版(第一出版)
NR・サプリメントアドバイザー必携(日本臨床栄養協会編 第一出版)
運動科学(室 増男 理工学社)

〔オフィスアワー〕

安藤 堅 いつでも可 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔所属教室〕

安藤 堅 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階 2309 教員室

〔準備学習(予習・復習等)〕

2年科目の「健康保持と疾病予防」、「栄養と食品機能」で学んだ身体活動とエネルギー代謝、生活習慣病、栄養素、健康食品などの健康保持・増進に関する内容が関連します。授業ごとにこれらの内容について予習と復習を70分以上行ってください。

〔学生へのフィードバック〕

授業中に適宜口頭試問やチェックテストなどを行い、授業内容の理解度をフィードバックする。個別あるいはグループ毎にプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答を通じて発表能力をフィードバックする。

授業中に受講態度(演習に対する取り組み方、出席状況など)を観察し、フィードバックする。

〔教員からの一言〕

本科目は、薬剤師による「健康(栄養、運動)相談」を想定しています。患者や顧客が問題解決できるように的確かつ適切なサポートするためのスキルを身につけることをめざしています。実務実習に臨む直前の学生には、実務実習中に役立つことを意識した内容になっています。また、実務実習後の学生には、振り返り授業として役立てていただければと思います。

プライマリケアII

Primary Care II

第5学年 後期 (選択)専門科目II 1単位

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 教授

平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授

学習目標 (GIO) 超高齢社会を迎えようとしている日本において、医療費の削減と健康寿命の延伸は喫緊の課題である。そのため、地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献するために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に薬剤師参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上につながることの重要性が認識されている。

そこで、本講義では適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得することで、地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための保険薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)	F-5-3-1
2	患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力について説明できる	A-3-1-1~9
3	低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児、妊婦・授乳婦、高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点や、対応、服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	E3-3-2-1~2, F-2-4-2
4	災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制病院・薬局と薬剤師の役割について説明できる。	F-5-4-2~3
5	災害時の薬局・薬剤師の役割について説明できる。	B-4-1-5
6	主な養生法(運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む)とその健康の保持・促進における意義を説明できる	E2-9-6-1
7	薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	A-1-2-7
8	在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-2
9	在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を説明できる。	F-5-1-4
10	地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。	E2-9-1-1
11	セルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる	E2-9-5-1
12	地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを説明できる。	F-5-1-5
13	地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を説明できる。	B-4-1-1~6, B-4-2-1~5
14	保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	A-4-1-1
15	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の具体例を説明できる。	F-4-2-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	坂口	プライマリ・ケアと薬剤師	1
2	下枝	良好な薬剤師-患者関係	2
3	下枝	プライマリ・ケアにおける服薬指導・支援	3
4,5,6	平田	薬剤師の視点で行うトリアージとアクション、フィジカルアセスメント、災害対策	4,5
7,8	杉浦	薬剤師が関わる生活習慣指導	6
9	杉浦	薬剤師によるメンタルヘルスケア	7
10,11	坂口	在宅ケア	8,9
12	下枝	プライマリ・ケアにおけるセルフメディケーション	10,11
13	平田	地域活動	12,13
14,15	平田	これからの地域連携・チーム医療	14,15

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。各回に学生を指名して実例などを交え教科書の記載内容に対するポイント、薬学的アプローチについて意見を述べさせる。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

教科書をベースに、担当教員自らの臨床経験も加味しながら、どのように薬学的視点からプライマリケア領域にアプローチを加えていくべきなのか臨場感を持って学生に伝えるための工夫をしている。

〔成績評価方法〕

総括的評価

知識：毎回の授業内試験（レポート）の結果に基づいて評価する（100%）。必要に応じて追再試験を1回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある

〔教科書〕

日本プライマリ・ケア連合学会薬剤師研修ハンドブック 基礎編（南山堂）

〔参考書〕

日本プライマリ・ケア連合学会 基本研修ハンドブック 改定2版（南山堂）

〔オフィスアワー〕

下枝 貞彦 火曜日の終日と水曜日の午前以外はいつでも可。但し、事前にメール shimoeda@toyaku.ac.jp) による予約が必要。臨床薬剤学教室 医療棟2階 M207室
杉浦 宗敏 いつでも可。但し、あらかじめ予約が必要。

医療薬学研究棟3階 M304号室

平田 尚人：水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要。臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟2階 M206室

〔所属教室〕

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授

杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 教授

平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授

〔準備学習（予習・復習等）〕

70分の授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、テキスト（プリント）の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後には必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の18時までにWebClassにアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。

さらに定期試験の模範解答を提示し、学生自ら理解不足であった箇所を振り返ることができるようにする。

〔備考〕

実務家教員担当科目

プライマリケア III

Primary Care III

第 6 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

岩瀬 哲 (埼玉医科大学病院 緩和医療科)
 春木 ひかる (東京大学医学部附属病院 看護部)
 三浦 恵美子 (聖母会聖母病院 看護部)
 山田 尚子 (東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部)
 黒田 誠一郎 (東京大学医科学研究所附属病院 薬剤部)
 坂本 岳志 (あけぼの薬局)
 杉浦 宗敏、今井 志乃ぶ、清海 杏奈

学習目標 (GIO) プライマリケアとは幅広く国民の健康福祉に関わる問題を総合的に解決していく活動である。超高齢社会を向かえたわが国においてその一端を担う薬剤師への社会の期待は大きい。プライマリケアの実践におけるキーワードには地域、包括、協調、継続などが挙げられる。本講義では多職種によるチーム医療が展開される緩和医療を例にして、プライマリケアの視点を踏まえながらチームの中で各職種が効果的な医療を実現するために専門的な知識や技術を生かすためにどのようなアプローチを行っているかを知るとともに薬剤師に求められる知識や技術を習得することを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	A-1-1-1
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	A-1-1-2
3	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	A-1-1-3
4	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	A-1-1-7
5	現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	A-1-2-8
6	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	A-2-1-1
7	生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	A-2-1-3
8	科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	A-2-1-4
9	患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	A-2-3-3
10	意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	A-3-1-1
11	対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	A-3-1-4
12	他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	A-3-1-9
13	チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	A-4-3-1
14	チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	A-4-5-1
15	在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-2
16	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	E2-1-3-2
17	がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。	E2-7-9-1
18	がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-9-2
19	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
20	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
21	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。	F-4-1-3
22	医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)	F-4-1-5
23	病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)	F-4-1-9
24	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)	F-4-2-2

番号	内容	コアカリとの関連コード
25	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)	F-5-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	杉浦、清海	概説	1-25
2-3	坂本、杉浦、清海	保険薬局における在宅緩和医療	1-25
4-6	山田、杉浦、清海	終末期がん患者の臨床心理	1-25
7-9	春木、三浦、杉浦、清海	終末期がん患者の看護	1-25
10-12	黒田、杉浦、清海	緩和医療と薬剤師	1-25
13-15	岩瀬、杉浦、清海	在宅移行ケア 遠隔診療システム	1-25
16-18	杉浦、今井、清海	プライマリケアと薬剤師の役割 まとめ	1-25

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義の中で講師との質疑を積極的に盛り込み、医療現場の現状を実感できるようにしている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

臨床現場で活躍する各職種の講師により緩和医療の現状を紹介する。チーム医療に薬剤師が関わる場面をイメージできるように実症例を盛り込んだ講義内容としている。

〔成績評価方法〕

2) 総括的評価

- a) 知識:課題レポートの提出状況と内容を総合的に評価する(75%)
- c) 態度:講師への質問や個々の意見等の発言状況を総合的に評価する(25%)

〔教科書〕

講義開始時に毎回講義内容に関するレジメを配布する。

〔参考書〕

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版:日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会編(金原出版)
臨床緩和医療薬学:日本緩和医療薬学会編(真興交易(株)医書出版部)

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、事前に連絡を入れること。
医薬品安全管理学教室(医療棟3階 M304)

〔所属教室〕

医薬品安全管理学教室

〔準備学習(予習・復習等)〕

実務実習で緩和ケアに関連した経験をした場合はその内容や学べたことを復習しておくこと。
オピオイドを中心とした鎮痛薬に関する知識を整理しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

各講義で提出したレポートは全講義終了時までに各自に返却する。

〔教員からの一言〕

講義の際には疑問に感じたことや実務実習で緩和ケアに関して経験した内容等を積極的に講師に伝えること。

〔備考〕

実務家教員担当科目

病態生理学特論

Advanced Topics in Pathophysiology

第6学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

田野中 浩一 高木 教夫 山田 純司 長谷川 弘

学習目標 循環器、中枢および代謝疾患に関し、コアカリキュラムの内容よりもさらに高度な内容について最新の研究成果を加えて解説する。本講義を通じて、医療および創薬研究を行うための知識および技術への理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	糖尿病および脂質異常症の発症および進展因子に関連する新たな知見を説明できる。	
2	糖尿病および脂質異常症治療に関する新たな知見を説明できる。	
3	心筋虚血およびその後の心機能低下に関する新たな知見を説明できる。	
4	虚血性心疾患の治療に関する新たな知見を説明できる。	
5	脳虚血後の脳実質の病態生理学的な変化に関する新たな知見を説明できる。	
6	脳虚血/再灌流障害の薬物治療に関する新たな知見を説明できる。	
7	消化器系疾患に関する新たな知見を説明できる。	
8	消化器系疾患の治療に関する新たな知見を説明できる。	
9	自律神経系の生体調節に関する新たな知見を説明できる。	
10	自律神経系の調節不全による呼吸器および血管系の疾患に関する新たな知見を説明できる。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	山田	糖尿病や脂質異常症を中心に、代謝疾患の病態生理と薬物治療について、最新の知見を交えて解説する。	1, 2
4~6	田野中	心筋虚血の病態解析を中心に、心疾患の病態生理と薬物治療について、最新の知見を交えて解説する。	3, 4
7~9	高木	虚血性脳血管障害を中心に、中枢神経疾患の病態生理と薬物治療について、最新の知見を交えて解説する。	5, 6
10~12	長谷川	肝疾患を中心に、消化器系疾患の病態生理と薬物治療について、最新の知見を交えて解説する。	7, 8
13~15	田野中	呼吸器、造血系の病態解析・薬物治療ならびに抗悪性腫瘍薬について、最新の知見を交えて解説する。	9, 10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義中の学生への質問を行い、理解度を把握する。
講義の要点の理解度を深めるために、ミニレポートを作成させる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

従来の大学院薬学研究科の修士課程での講義に相当するもので、1年次から5年次の講義をさらに発展させることを目的に開講されるものです。教員 (講師) と学生が直接意見交換しながら、学生が理解を深められるように講義を進めて行きます。教員は、最新の研究が薬物開発を含めた疾病への新たな治療法の開発にどの様に結びつくかについて解説を行うようにする。

〔成績評価方法〕

形成的評価

知識： 課題、演習問題を行う。解説にてフィードバックする。

総括的評価

知識： 講義内の小テストあるいは課題提出で評価する (100%)。

受講態度不良あるいは出席不良の学生には単位認定を行わない。なお、成績不良者への再試験などの特別措置は実施しない。受講者には全出席を要求するが、已むを得ず欠席した場合には、卒論指導教員 (教室・講座主任) が署名・押印した欠席届に、欠席理由を証明する書類を添付したものを田野中へ提出する。他の講義担当者に提出した場合および不備がある場合には欠席届を受理しない。なお、欠席届は、当該講義日から1週間以内に提出することを厳守しなければいけない。

〔オフィスアワー〕

講義に関するフィードバックについては、其々の講義担当者に予め連絡し、指定された日時に出向くこととする。

田野中； 在室時なら対応

欠席届は、田野中（分子細胞病態薬理学教室；研究2号館5階）へ提出する。他の講義担当者に提出しても受理しない。なお、体調不良、交通機関の乱れおよび就職活動は欠席理由とは認めない。

〔所属教室〕

高木 応用生化学教室（研究2号館6階）

田野中 分子細胞病態薬理学教室（研究2号館5階）

山田 臨床医療薬学センター（医療薬学棟3階）

長谷川 病態生理学教室（研究2号館6階）

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・ 本講義の内容は、学部講義および実務実習での履修内容に立脚している。病態および薬物治療での理解を深めるための発展学習を学生に指示している。
- ・ 予習は求めないが、復習は必ず行うように指示している。特に、4年次および5年次に登場した新たな薬物に関しては、重要な項目として指導している（復習での重点項目の指示）。

〔学生へのフィードバック〕

選択科目なのでフィードバック講義は企画されていないが、不明な点についての質問に対し、各教員が解説を行う。特に、生理機能、病態生理学的平衡状態および薬物の作用点を中心に解説する予定である。このフィードバックでは、学生の積極的な学びの姿勢が要求される。

〔教員からの一言〕

- ・ 単に聴講するだけでなく、講師への積極的な質問を行い、薬学教育の中の研究の重要性を理解してください。
- ・ 大学での講義・実習だけでなく、実務実習で得た知識を総合的に使用出来るようにすることを学んでください。
- ・ 欠席に関する手続きは、期日厳守とします。遅れた場合は、受理しません。

〔備考〕

モデル・コアカリキュラムの内容を発展させたもので、C6 生命現象の基礎、C7 人体の成り立ちと生体機能の調節、E1 薬の作用と体の変化、E2 薬理・病態・薬物治療に関連している。これらの中で疾患を中心に専門性の高い内容となる。

講師の都合により講義時間を変更することがあるので、常に掲示を確認して下さい。

基礎から臨床分野で行われている様々な研究が、疾病の理解および新たな治療法の開発に応用されています。研究に立脚した薬学教育の一環として本講義が実施されます。

臨床薬理学特論

Advanced Topics in Clinical Pharmacology

第6学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

平野 俊彦
杉山 健太郎
山田 安彦
高柳 理早

学習目標 医薬品の適正使用の推進や新しい医薬品の開発に携わる薬剤師になるために、ヒトを対象とした薬理学および薬物動態学を基盤とする臨床薬理学的な知識と応用力を修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	臨床薬理学の概念について説明できる。	E3-1-1-3~4, E3-1-3-3, E3-1-4-1, E3-1-4-3, E3-1-7-1, E3-2-1-1
2	時間薬理学と臨床薬理学におけるその意義について概説できる。	E3-3-4-1, E3-3-5-1, E4-1-2-3
3	我が国の製薬会社の医薬品開発におけるバイオマーカーの役割について説明できる。	E2-11-1-1, E2-7-7-1, E3-1-1-3
4	我が国の製薬会社の医薬品開発における臨床薬理学の役割について説明できる。	E2-11-1-1, E3-1-1-3
5	臓器移植の薬物療法に携わる臨床薬剤師の業務と、チーム医療におけるその役割について概説できる。	E2-2-2-9, E2-8-3-1, F-1-1-1, F-4-1-1
6	薬剤評価学の重要性を説明できる。	E1-1-1-1, E1-1-1-6, E3-1-1-1
7	医薬品の効果・副作用を薬物動態学および薬理学から理論的に評価するための基本的知識を修得する。	E1-1-1-1, E1-1-1-6
8	臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。	E3-1-4-2, E3-1-6-1
9	介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。	E3-1-6-8
10	臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。	E3-1-6-9
11	メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。	E3-1-4-4

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1、2	平野俊彦	臨床薬理学の概念、時間薬理学とその臨床応用	1、2
3、4、5	平野 俊彦、第一三共株式会社 久保 祐一	我が国の製薬会社の医薬品開発におけるバイオマーカーの重要性について	3、4
6、7	杉山 健太郎	臓器移植の薬物療法に携わる臨床薬剤師の業務と、チーム医療におけるその役割	5
8-10	山田 安彦	医薬品の効果・副作用の評価(1) 薬剤評価学 1	6、7
11-13	高柳 理早	医薬品の効果・副作用の評価(2) 薬剤評価学 2	8-11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各講義時間中にレポートを作成してもらうことにより、講義内容を講師と共にリアルタイムで考えさせる。講義時間中の質疑応答を積極的に取り入れている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

学内講師の講義に加え、臨床の最先端で活躍している外来講師の生の声も交えて、臨場感を盛り込んだ講義にしていきます。

〔成績評価方法〕

全講義のレポートにより総合的に評価する。

レポート内容は、
i) 文章校正 30%

- ii) レポート課題に対する的確に記述されているか 40 %
 - iii) 既定の行数に達しているか 30 %
- とする。

〔教科書〕

講義ごとに、随時プリント等の資料を配布

〔参考書〕

臨床薬理学、日本臨床薬理学会中野重行ら編（第2版）、株式会社医学書院、2003年
適正使用のためのくすりの見方と考え方、山田安彦著、株式会社じほう、2007年
標準医療薬学 医薬情報評価学、山田安彦編、株式会社医学書院、2009年
理論医薬品情報学、山田安彦編著、京都廣川書店、2017年

〔オフィスアワー〕

平野 俊彦 在室時は随時可 医療薬学研究教育棟 2F 臨床薬理学教室教授室
杉山 健太郎 在室時は随時可 医療薬学研究教育棟 1F 臨床薬理学教室
山田 安彦 在室時は随時可 研究2号館 2F204 臨床薬効解析学教室教授室
高柳 理早 在室時は随時可 研究2号館 2F204 臨床薬効解析学教室

〔所属教室〕

平野 俊彦 臨床薬理学教室
杉山 健太郎 臨床薬理学教室
山田 安彦 臨床薬効解析学教室
高柳 理早 臨床薬効解析学教室

〔準備学習（予習・復習等）〕

これまで薬学部において修得してきた、「疾病と薬物治療」や「医薬品開発と臨床試験」に関する基本的事項について復習しておく、各講師のより実践的かつアドバンスな講義内容をより興味深く理解できるものと思います。

〔学生へのフィードバック〕

講義終了後、外来講師等による質疑応答時間を設け、作成レポートや講義内容のフィードバックの他、学生のキャリア養成に関する相談にも乗っている。

〔教員からの一言〕

臨床薬理学は、ヒトを対象とした薬力学および薬物動態学を基盤とし、個別医療、医薬品の適正使用の推進、あるいは新しい医薬品の開発を目指す学問領域です。受講者には、臨床薬剤師あるいは医薬品開発に携わる薬剤師としてこれまで得た基礎学力を臨床へと展開するための、知識と応用力を身につけてもらいたいと思います。

〔備考〕

実務家教員担当科目。大手製薬会社から招へいた外来講師による現場の話も交え、臨場感を持った講義にしていきます。

臨床推論 II

Clinical Reasoning II in Pharmacotherapy

第 6 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

川口 崇

岩井 大

白井 浩明

学習目標 (GIO) 臨床での問題解決に必要な知識を統合的に活用し考えることができるようになるために、各疾患に関する基礎医学・薬学、臨床医学・薬学、疫学の基本および実践の事項を習得する。

本講義では、代表的な疾患を症例の経過を追跡する形式で、各時点における医学・薬学的な判断に必要な疾患の病態や薬理、薬物治療に関する基本および実践的知識を習得する。新たな知識の獲得を中心とするのではなく、臨床の経過とその経過による治療の変化を総合的に学び、知識の定着を図る。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的な疾患の病態と傷病統計を説明できる。	E2-1-3-2, E2-3-3-2~3, E2-4-2-8, E2-7-7-2~3, E2-7-8-3~4, E2-7-8-9, E2-7-8-13, E2-7-9-1~2, E3-3-2-2, E3-3-3-1
2	代表的な疾患の発見と診断に必要な検査を説明できる。	E1-2-1-1, E1-2-2-1~3, E1-2-2-5~6, E1-2-2-8
3	代表的な疾患の病態にあわせた治療戦略を説明できる。	E2-1-3-2, E2-3-3-2~3, E2-7-7-3, E2-7-8-3~4, E2-7-8-9, E2-7-8-13, E2-7-9-1~2
4	代表的な疾患に関する検査から病態を把握することができる。	E1-2-2-1~3, E1-2-2-5~6, E1-2-2-8

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	川口 崇	医療で用いられる画像から解剖と病態を推測する。	5
2	川口 崇	医療で用いられる画像から解剖と病態を推測する。	5
3	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
4	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
5	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
6	川口 崇	良性疾患における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
7	川口 崇	良性疾患における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
8	川口 崇	良性疾患における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
9	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
10	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
11	川口 崇 岩井 大 白井 浩明	悪性腫瘍における診断から薬物治療までを経時的に把握する。	1 - 4
12	川口 崇	医療で用いられる生理学的検査から不整脈を理解する。	5
13	川口 崇	医療で用いられる生理学的検査から不整脈を理解する。	5

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

アクティブラーニング用の Web ツールを用いて、授業中にリアルタイムに設問提示と回答結果の提示・共

有することにより、学生が考える・話し合う時間を設定し学習を促進する。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
断面的ではなく、臨床の経過を追跡する形式で病態の変化、病期に対応した治療の選択や検査を統合して学び、知識の定着を図るよう工夫する。リアルタイムに設問を提示し考える時間を提供する。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:講義中の設問提示とその解答により評価する。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:講義中に行う設問解答を総合的に評価する。

〔参考書〕

ここからはじめる！ 薬剤師のための臨床推論（じほう）

〔オフィスアワー〕

川口 崇 事前にメールで予約をしてください。

〔所属教室〕

川口 崇 医療実務薬学教室 DR 棟3階
岩井 大 非常勤講師（東京西徳洲会病院）
臼井浩明 非常勤講師（杏林大学医学部付属病院）

〔準備学習（予習・復習等）〕

講義の際に間違ったこと、新たに得られた知識は繰り返し復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加える等の対応を行っている。

〔備考〕

実務家教員担当科目。授業中の調べものはインターネットを活用して行ってください。また、授業中に設問提示するなどします。成績評価にも関わるこれらにはスマートフォンかPCが必要になります。教室でインターネット環境に接続できるように準備しておいてください。忘れた場合の貸し出し等はいりません。

専門薬剤師特論 II

Advanced Topics of Board Certified Pharmacy Specialist II

第 6 学年 前期 (選択) 専門科目 II 1 単位

下枝 貞彦
杉浦 宗敏
平田 尚人
影山 美穂
畔蒜 祐一郎

学習目標 (GIO)

臨床現場に関わる薬剤師は、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力が求められる。さらに近年では医療チームの一員として、薬物治療に参画し、安全で確実な薬物療法の提供に努めなければならない。特に医療チームの中で薬剤師は、医薬品のリスクを回避を目的に、有害事象(副作用、相互作用) 薬害、薬物乱用に関して精通することが求められている。

そこで本講義では、患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療を提示するために、疾病にガイドラインを考慮した適正な薬物治療を理解し、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療に応用するための具体的な症例を提示する。特に本講義は対象が実務実習を終了した 6 年生であることから、病院薬学的視点からの実践的な薬学的アプローチの手法について解説する。

将来、専門薬剤師を目指す学生には、実際に専門薬剤師が臨床現場でどのような視点から薬学的アプローチを行っているのかその一端を修得することができる。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む) 血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。	E2-7-8-3
2	代表的ながん化学療法のレジメン(FOLFOX 等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E2-7-8-4
3	胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆 aZk・胆管癌、膵癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-8-8
4	肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-8-9
5	急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病(ATL)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-8-5
6	悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-8-6
7	急性心筋梗塞、急性心不全、急性大動脈解離、重症型急性心筋炎、致命的重症不整脈、ショック等、循環器系救急疾患の病態および集中治療領域における薬物治療(医薬品の選択・用法用量・投与方法等)と患者モニタリングの要点について説明できる。	E2-3-1-1~5
8	感染性心内膜炎(IE)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、肺血栓塞栓症、開心術後の抗凝固療法等、集中治療領域における病態と薬物治療(医薬品の選択・用法用量・投与方法等)および患者モニタリングの要点について説明できる。	E2-3-2-2, E2-3-2-4~5, E2-7-3-8
9	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO 三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	E2-1-3-2
10	がん終末期の病態(病態生理、症状等) 治療と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-7-9-1~2
11	チーム医療における薬剤師の役割と重要性、多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割について説明できる。	F-4-1-1~2
12	糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	E2-5-1-1, E2-5-3-1
13	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)や地域の保健、医療、福祉に関わる職種を説明できる。	F-4-1-1~3, F-4-2-1
14	疾病の予防および健康管理、代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。	F-5-3-4, F-5-3-9

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~3	下枝	臨床腫瘍薬剤学① 実臨床からみたがん専門薬剤師の役割 固形がん編	1,2,3,4
4~6	杉浦	麻薬と緩和ケアの重要性	9.10.11
7~9	影山	糖尿病等の生活習慣病領域での薬剤師の役割	12.13.14
10~12	平田	循環器系救急疾患の病態と薬物治療 集中治療領域における薬剤師の役割	7,8
13~15	畔蒜	臨床腫瘍薬剤学② 実臨床からみたがん専門薬剤師の役割 血液がん編	1,5,6

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

各回に補助プリントを配布し、講義を進行しながら、空欄部分を記入させるようにしている。各回に学生を指名して症例内容に対するポイント、薬学的アプローチについて意見を述べさせる。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

症例ベースで構成されてる講義を展開するため、自らの臨床経験も加味しながらどのように薬学的視点からアプローチを加えていくべきなのかを臨場感を持って学生に伝えるための工夫をしている。

〔成績評価方法〕

知識：毎回の授業内試験（レポート）の結果に基づいて評価する（100%）。必要に応じて追再試験を1回実施する。但し、受講態度によっては受験資格を失うことがある。

〔参考書〕

疾患と治療薬 改訂第6版（南江堂）
visual core pharma 薬物治療学 改定7版（南山堂）
治療薬マニュアル（医学書院）
今日の治療指針（医学書院）
処方管理学（南山堂）
ICU 実践ハンドブック改訂版（羊土社）
病気がみえる vol.2 循環器（医療情報科学研究所）
循環器治療薬ファイル 第3版 薬物治療のセンスを身につける（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版（金原出版）

〔オフィスアワー〕

下枝 貞彦：火曜日の終日と水曜日の午前以外はいつでも可。但し、事前にメール shimoeda@toyaku.ac.jp）による予約が必要。臨床薬剤学教室 医療棟 2階 M207 室
平田 尚人：水曜日以外はいつでも可。ただし、事前にメールでの連絡が必要。臨床薬剤学教室 医療薬学研究棟 2階 M206 室
畔蒜 祐一郎：いつでも可。但し、メールによる予約が必要。医療薬学研究棟 2階 M206 号室
杉浦 宗敏：いつでも可。但し、メールによる事前の予約が必要。医療薬学研究棟 3階教授室 M304 室
影山 美穂：いつでも可。但し、メールによる事前の予約が必須。教育 5号館 6階教員室 (5601)

〔所属教室〕

下枝 貞彦 臨床薬剤学教室 教授
杉浦 宗敏 医薬品安全管理学教室 教授
平田 尚人 臨床薬剤学教室 准教授
影山 美穂 薬学実務実習教育センター 講師
畔蒜 祐一郎 臨床薬剤学教室 助教

〔準備学習（予習・復習等）〕

70分の授業ごとに予習と復習を各々70分以上行うこと。授業を受ける前に講義予定項目のSBOを確認し、テキスト（プリント）の該当範囲を読んでから講義に臨むようにしてください。また、講義の後は必ず復習してください。判らないことをそのままにしないで、参考書等で調べてください。自分で調べることがとても大切です。それでも理解できなければ、オフィスアワーや次回の講義の時に教員に質問してください。

なお、講義で用いる資料については前日の18時までにWebClassにアップしますので、受講者各自で印刷し資料に目を通してから講義に臨むようにしてください。

〔学生へのフィードバック〕

各講義の終了時にその日に行った講義内容のポイントを講義中に用いた資料を振り返りながら復習する。また、講義開始時においても前回の講義内容を冒頭で復習して、その日の講義につなげる工夫をしていく。

〔教員からの一言〕

本講義が、長年第一線の病院薬剤師として現場経験を積み、様々な疾患に精通した教員が講義を行う。また、その教員はいずれにも専門分野を有しており、患者に対して薬物治療を行う際、何をポイントにチーム医療の中で薬学的アプローチを行っていくべきなのかそのコツを熟知している。

そこで、将来臨床現場において専門薬剤師を目指す学生には、各領域において専門性に特化する際の基礎となる薬学的アプローチの考え方を理解し、医療チームの中で信頼される専門薬剤師になるための準備学習を提供する。

〔備考〕

実務家教員担当科目

薬局経営管理学

Administration of Practical and Community Pharmacy

第6学年 前期 (選択) 専門科目 II 1単位

塚原 俊夫、坂口 眞弓、大木 一正、添石 遼平、三溝 学、松本 有右

学習目標 (GIO) 平成19年4月から医療法の改正により「調剤を実施する薬局」は、地域住民の保健、医療及び介護(福祉)を担う「医療提供施設」になりました。それぞれの地域の薬局において、その環境に適した薬局機能を維持、管理するには調剤業務はもちろんのこと、財務や人事等においても適切なマネジメントが求められます。特に近年の我が国においては、少子超高齢社会の状況を踏まえて医療保険体制や医療環境が大きく変化し、薬局経営のあり方自体「物から人へ」という変革の時期を迎えています。勤務薬剤師であっても「薬剤師」という専門職として、地域状況に応じた職責を果たすことはもちろんのこと、薬局運営や経営基盤をしっかりと理解することは重要です。また、「薬剤師」として公共的な活動するためには薬局経営を踏まえた薬局管理学を体系的に学ぶ必要があります。本講座の講師陣は、地域保険薬局で日々仕事をし、薬局経営ならびに管理に従事されている精鋭の薬剤師の方々です。薬学生の皆さんには是非、「薬局経営の醍醐味」と「人材育成の大切さ」、そして「薬局薬剤師のやりがい」等を講師の方々から、しっかりと学んで頂きたいと思えます。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。	B-3-1-7
2	地域における薬局の機能と業務について説明できる。	B-4-1-1
3	かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	B-4-1-3
4	セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	B-4-1-4
5	災害時の薬局の役割について説明できる。	B-4-1-5
6	医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	B-4-1-6
7	地域包括ケアの理念について説明できる。	B-4-2-1
8	在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-2
9	学校薬剤師の役割について説明できる。	B-4-2-3
10	地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。	B-4-2-4
11	地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)	B-4-2-5
12	医薬分業の意義と動向を説明できる。	B-4-1-2
13	医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	A-1-3-2
14	医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	A-1-3-3
15	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-2
16	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	塚原	なぜ、今、薬局経営なのか? (薬局運営と経営の実態)	1、2、6
2	塚原	薬局の現状 (地域薬局 & 地域薬剤師会 & 都道府県薬剤師会 & 日本薬剤師会、チェーン調剤薬局 & 日本保険薬局協会、チェーンドラッグストア & チェーンドラッグストア協会)	1、2、6
3	塚原	保険薬局に求められる業務 (調剤業務の変遷を踏まえて、在宅業務、薬歴管理のあり方)	2、3、4、6
4	大木	保険請求業務のあらまし (保険調剤、在宅と居宅訪問管理)	1、6、8
5	大木	医療保険と介護保険との関係 (医療・介護・福祉)	1、2、6、7、8
6	大木	薬局に求められるマーケティング	2、4、6
7	三溝	かかりつけ薬局・かかりつけ薬剤師、健康サポート薬局、地域連携薬局、専門医療機関連携薬局について	7、8、10、11、12
8	添石	地域ケアシステムの中での多職種連携 (地域包括ケアセンター等の地域物的資源と人的資源も含む、介護認定について)	2、7、10、11

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
9	坂口	薬局で扱う商品 (医療用医薬品、一般用医薬品、薬局製剤、健康食品、介護用品、医療機器・医療材料)	3、4、7
10	坂口	薬局での研究活動 (SMO も含む) について	15、16
11	坂口	地域保険薬局の魅力 (学校薬剤師、薬と健康の週間等の地域支援活動)	3、10、11
12	松本	災害時医療と薬剤師 (地域防災訓練を含む)	5、9、13、14
13	松本	薬局における安全管理、リスクマネジメント	3、9、13、14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

ターニングポイント®のレスポンスカード (クリッカー) を利用した講義を適宜、実施します。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識:講義の中で薬局業務に係わる国家試験対策のプレテストとポストテストを実施します。
b) 態度:受講態度を観察記録により評価します。

2) 総括的評価

- a) 知識:国家試験を踏まえた現場に必要な知識習得の有無を評価します (80%)。
b) 態度:受講態度を観察記録、レポートにて評価します (20%)。

〔教科書〕

教科書なし。各講師がパワーポイント資料を配布します。

〔参考書〕

各講師が講義の中で適宜紹介します。

〔オフィスアワー〕

松本 有右 客員教授、常務理事 図書館棟4階 (042-676-5119、y-matsu@toyaku.ac.jp)
塚原 俊夫 客員教授、(有)ツカハラ薬局代表取締役 (03-3712-2689、t-tukaha@mue.biglobe.ne.jp)
坂口 眞弓 客員教授、(株)ファーマスティ取締役 (みどり薬局)(03-3851-0054、kuramaemi-dori@yahoo.co.jp)
大木 一正 客員教授、(有)クリーン薬局代表取締役 (03-3472-2411、clean-ooki@helen.ocn.ne.jp)
添石 遼平 客員教授、八王子薬剤センター薬局薬局長 (042-666-0931、ryohei-soeishi@pharma802.com)
三溝 学 客員講師、八王子薬剤センター薬局副薬局長 (042-666-0931、gaku.samizo@pharma802.com)

〔準備学習 (予習・復習等)〕

予習は必要ありません。復習は国家試験対策の一環として各小テストの内容を理解してください。

〔学生へのフィードバック〕

講師がそれぞれの講義の場でしっかりと質問等にお答えいたします。またそれぞれの講師に対してメールでのやり取りは可能です。

〔備考〕

実務家教員担当科目

薬局業務外論

Topics in Pharmacy Practice

第6学年 前期 (選択) 専門科目Ⅱ 1単位

秋澤 侑希 (日本調剤株式会社 薬事採用センター)

加村 潤 (日本調剤株式会社 教育情報部課長)

学習目標 (GIO) 保険薬局を取り巻く業界は、常に変化している。これから薬局業務を行う、更には薬局経営を考えるにあたっては、業界の情報を適切に掴み、業界の変化に柔軟に対応できなければならない。
そのため、営業やマネージャー、現場薬剤師、在宅訪問薬剤師など保険薬局の各領域、職種における実務を理解する。
また、業界知識、マネジメント力など薬局業務、薬局経営に必要な知識を身につけることを目的としている。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬局薬剤師の職能について説明できる。	A-1-2-2~3, A-1-2-6, B-4-1-1~6
2	これからの「かかりつけ薬剤師」に求められることについて説明できる。	B-4-1-3
3	在宅訪問薬剤師に求められることについて説明できる。	B-4-2-2
4	保険薬局経営のために必要なことを説明できる。	B-3-2-1~2, B-3-2-4
5	保険薬局における人材育成の必要性について説明できる。	
6	選ばれる薬局となるための薬局サービスについて説明できる。	
7	現場薬剤師から見える薬局薬剤師業務の真実について傾聴する。	B-4-1-1, B-4-1-3, B-4-1-6
8	在宅訪問薬剤師の知らない現実について傾聴する。	B-4-2-2
9	チェーン薬局における薬剤師のキャリアアップについて傾聴する。	

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	秋澤	保険薬局の経営について講義。保険薬局を経営するために知っていなければならない法律知識、経営論を理解する。	4
2、3	秋澤	薬局設計ワーク。経営者になり構造規制を考慮しながら患者さまが使いやすい薬局、業務が効率に行える薬局を設計する。	4
4、5、6	秋澤	薬局経営マネジメントワーク。薬局経営を行うにあたりマネジメント重要性をワークを通じて理解する。	4
7	加村	薬局薬剤師の職能について講義。薬局薬剤師が生き残るために何が必要かを理解する。	1
8	加村	かかりつけ薬剤師制度と薬局業界の現状について講義。今後の薬局薬剤師として求められることについて理解する。	2
9	加村	在宅訪問薬剤師業務について講義。地域包括ケアにおける薬剤師の役割を含め在宅訪問に求められていることを理解する。	3
10、11	加村	保険薬局における人材育成について講義。人材育成の必要性について理解する。	5
12	加村	薬局サービスに関する講義。選ばれる薬局になるために何が必要かを理解する。 挨拶の仕方や言葉遣いなどロールプレイを実施する。	6
13、14、15	加村	各領域、役職で活躍する薬剤師による講義。 在宅訪問薬剤師、若手の薬局薬剤師、マネージャーのやりがいを理解し、キャリアアップについて考える。	7~10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

講義にSGDを取り入れ、プロダクトの作成をすることにより、参加型の授業とする。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ①各領域の薬剤師による講義を行う。
- ②小グループ討議 (SGD) を取り入れる。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
- a) 知識: レポート提出。

b) 態度:SGD への積極的な参加、レポート提出状況によりフィードバックする。

2) 総括的評価

a) 知識 (40%) : レポート提出により評価する。

b) 態度 (60%) : 積極的な SGD への参加・発表、レポート提出状況により評価する。

〔教科書〕

指定なし。

授業時にプリントを配布。

〔参考書〕

参考書籍等、講義時に紹介。

〔オフィスアワー〕

講義日午後。但し、要事前連絡。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

授業内容を振り返り、ポイントをまとめてレポート作成してください。

疑問があれば、講義後などに相談してください。

〔学生へのフィードバック〕

課題 (レポート) に対するフィードバック。

〔教員からの一言〕

実務実習では知ることができなかった保険薬局の現場の裏側を知ることができるだけでなく、保険薬局経営に必要な知識も学習することができます。

薬局業務に携わる予定の学生ならびに薬局経営を考えている学生は、調剤薬局業界のことについてこの授業で学習してください。

〔備考〕

実務家教員担当科目

医薬品開発特論

Advanced Topics in Drug Development

第6学年 前期 (選択) 専門科目Ⅱ 1単位

恩田 健二 降幡 知巳 田中 祥子 柴崎 浩美 横川 彰朋 古瀬 純司 (講義順)

学習目標 (GIO) 近年の医薬品開発技術の進展により、これまでにない医薬品として登場した分子標的薬は、多くの難治疾患の薬物治療に変革をもたらした。その進歩は現在進行形である。本講義では、現在の臨床に欠かすことのできない存在となった分子標的薬をテーマとして取り上げ、基礎と臨床にかかる医薬品開発の話題や関連情報を最新の情報を含めて広く取り上げる。

本講義により、5年次に実務実習で得た関連知識の復習や不足部分の強化を図るだけでなく、卒業後の進路として病院、薬局、製薬企業などを問わず、分子標的薬の適正使用と安全性確保に関わる全ての薬剤師に共通する役割について理解と認識を深めることを目的とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	C7-2-4-1, C8-1-1-1, C8-1-2-1~3, C8-1-3-4~5, C8-2-1-1
2	モノクローナル抗体とポリクローナル抗体、抗体医薬、組換え体医薬品について説明できる。	E2-8-1-1~3
3	生理活性物質の受容体、細胞内情報伝達について説明できる。	E1-1-1-2~5
4	種々の疾患(免疫アレルギー疾患、関節リウマチ、膠原病、炎症性腸疾患、加齢黄斑変性、アトピー性皮膚炎、乾癬等)の病態生理、分子標的治療薬について説明できる	C8-2-1-2~5, E2-2-2-6, E2-2-3-1~2, E2-2-4-1, E2-4-1-1, E2-4-2-2, E2-6-1-3, E2-6-3-1, E2-6-3-4
5	分子標的薬の主作用と副作用、毒性および有害事象について説明できる。	E1-4-1-1, E1-4-2-1
6	代表的な副作用疾患について説明できる。	E1-4-3-1
7	抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。	E2-7-8-3
8	副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。	E3-1-6-4
9	リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)	D1-1-3-4, E3-1-6-9
10	医薬品リスクマネジメントについて説明できる。	E3-1-1-5
11	医薬品の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。	E3-1-1-3
12	データベースの特徴と活用について概説できる。	X-8-2-5
13	抗悪性腫瘍分子標的治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。	E2-7-8-1
14	代表的ながん化学療法のレジメン(FOLFOX等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	E2-7-8-4
15	白血病、悪性リンパ腫、消化器系悪性腫瘍、肺癌、生殖器腫瘍、乳癌、腎・尿路系悪性腫瘍等の薬物治療を説明できる。	E2-7-8-3, E2-7-8-5~13
16	分子標的薬の血中濃度測定法と体内動態について概説できる。	E4-2-2-1~2
17	分子標的薬の薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。	E1-1-1-6, E1-1-1-8

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1, 2	恩田	分子標的薬の総論、自己免疫疾患等における分子標的薬	1-4
3, 4	降幡	がん分子標的薬治療の発展とがんゲノム医療	5, 11-15
5, 6, 7	田中	分子標的薬の医薬品開発の事例から学ぶ	7, 11, 15
8, 9	恩田	分子標的薬の副作用と対応など	5-12
10	柴崎	分子標的薬(小分子)のTDMと相互作用	16, 17
11	横川	分子標的薬(高分子)のTDMと相互作用	16, 17
12, 13	古瀬	がんの臨床と分子標的薬治療	13-15

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

講義の中で、教員から学生に質問したり、意見を求めることがある。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識: 講義内で確認試験を実施して知識の到達レベルを確認している。

2) 総括的評価

a) 知識: 講義内確認試験(60%)およびレポート(40%)にて評価する。

〔教科書〕

WebClassにて講義資料を提示する。

〔参考書〕

臨床薬理学 / 日本臨床薬理学会編集 ; 医学書院

医薬品副作用アセスメント 南山堂

〔オフィスアワー〕

学内教員(恩田、降幡、田中、柴崎、横川)はいつでも可。但しメールでの予約が必要。学外教員(古瀬)は講義終了後が望ましい。

〔所属教室〕

恩田 健二 臨床薬理学教室

降幡 知巳 個別化薬物治療学教室

田中 祥子 臨床薬理学教室

柴崎 浩美 個別化薬物治療学教室

横川 彰朋 個別化薬物治療学教室

古瀬 純司 杏林大学医学部 腫瘍内科学教室

〔準備学習(予習・復習等)〕

講義について事前の予習は必要ありません。講義後に内容を復習し、興味を持った内容については各自で関連情報を調べ、理解を深めること。

〔学生へのフィードバック〕

学生から寄せられた質問や感想などに対して、必要に応じて授業中に全学生に対してその内容を伝え、解説を加えるなどの対応を行っている。

基礎生物学実習

Laboratory Course in Biology I : Introductory Laboratory Course in Biological Science

第 1 学年 後期 実習科目 1.5 単位

野水 基義 吉川 大和 山田 雄二 濱田 圭佑

馬場 広子 山口 宜秀 林 明子 石橋 智子

稲葉 二郎

学習目標 (GIO) ヒトのからだでは、細胞が互いに影響し合いながら統制の取れた機能を発揮する器官を形成し、さらに個体としての正常な生命活動を維持している。本実習においては、培養細胞および実験動物を用いて細胞、器官を観察することにより、個体構築に関する基礎的な知識を習得する。さらにヒトの各器官系の構造と機能調節および生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識・技能・態度を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	A-2-1-1
2	染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	C6-4-2-1
3	細胞周期とその制御機構について説明できる。	C6-7-1-1
4	細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	C7-1-2-2
5	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	C7-1-3-1
6	実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	C7-1-3-3
7	代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	C7-1-3-4, X-6-9-2
8	心臓について概説できる。	C7-1-7-1
9	血圧の調節機構について概説できる。	C7-2-5-1
10	動物実験における倫理について配慮できる。(態度)	E1-1-2-1, X-6-9-3
11	実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	E1-1-2-2
12	実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)	E1-1-2-3
13	実験動物を解剖し、臓器の配置および形態を観察する。(技能)	X-6-9-4
14	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
15	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
16	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11
17	実習の課題に関して適切に報告できる。	X-9-2-1, X-9-3-4

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-1	担当教員全員	基礎生物学概説、染色体標本の作製	1-4, 14-17
1-2	担当教員全員	染色体標本の観察、動物組織標本の観察	1-4, 14-17
2-1	担当教員全員	実験動物概論、外部形態の観察、骨格の観察、保定・投与方法	1, 5, 6, 10-17
2-2	担当教員全員	麻酔、採血、系統解剖 (1)	1, 5, 6, 10-17
2-3	担当教員全員	系統解剖 (2)	1, 5, 6, 10-17
3-1	担当教員全員	ヒトの成り立ちとその働き-血圧と心電図の測定-	1, 2, 5, 6, 17
3-2	担当教員全員	人体の主要な臓器の肉眼的および顕微鏡的観察	1, 3, 7, 17
3-3	担当教員全員	人体解剖概説	6, 8, 9, 17
4	担当教員全員	実習試験	1-13

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

本実習では、2名/1班で実習を行い、多くの体験ができるようにしている。また、常に相互に意見交換をしながら実習を進めている。班ごとに雌雄が異なる系統解剖を行い、隣の班に教えること (SGD) によって、より理解を深めることができるように工夫している。すなわち、自ら観察し、理解したことを教授することによって、さらに確かな知識になるように工夫している。これらによって、コミュニケーション能力やチームワークの大切さについて気付くように工夫している。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・実習専用の実験書を作成し、実験方法、実験の注意点を明確にしている。
- ・実習の課題について、実験書の中に書き込めるページを作っている。このページに課題の結果を書き込み、それを評価しながら口頭試問を行う。
- ・これによって、実習に対する理解度を確認した上で、フィードバックを確実にしている。
- ・心電図や血圧を測定することで、基礎知識として心電図の意味や血圧値が、不整脈や高血圧症を学ぶ上で重要であることが理解できるようにしている。すなわち、基礎知識と臨床薬学との繋がりについても理解できるように工夫している。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：各項目の課題をチェックする時に、口頭試問を行い、フィードバックする。
 - b) 技能：実習時間中に、実験手技についてフィードバックする。
 - c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
 - d) パフォーマンス：口頭試問にて、実験結果を報告させ、質疑応答を通じてフィードバックする。
- 2) 総括的評価：日々の課題(技能)と態度(60%)、実習試験の結果(40%)から総合的に評価する。ただし、それぞれの項目(知識・技能・態度)が独立して到達点(60%)以上であることとする。
- a) 知識：実習試験が60%以上で合とする。
 - b) 技能：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合とする。
 - c) 態度：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合とする。
 - d) パフォーマンス：実習期間中の形成的評価で改善が認められれば合とする。パフォーマンスの総括評価としては、実習期間中の技能及び態度の積み上げで評価する。

〔教科書〕

生物系実習1 実験書 基礎生物学実習（薬学基礎実習教育センター編）

〔参考書〕

グラフィカル機能形態学（馬場広子編 京都廣川書店）

入門人体解剖学（藤田恒夫著 南江堂）

〔オフィスアワー〕

本実習担当教員 いつでも可（原則として実習終了後）

〔所属教室〕

野水 基義、吉川 大和、山田 雄二、濱田 圭佑 病態生化学教室 研究2号館508号室

馬場 広子、山口 宜秀、林 明子、石橋 智子 機能形態学教室 研究1号館202号室

稲葉 二郎 薬学基礎実習教育センター 教育2号館3階2306号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

実習のスケジュールを確認して、該当する実験書の範囲を1時間程度予習して実習に望むこと。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ずその日のうちに1時間以上復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

実習中、手技および臓器などの機能についてその場で、こまめにフィードバックを行う。実習終了時に、口頭試問にて実習結果に対するフィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

実際に体験することによって、技能を習得し、知識を深めることを目標とする。また、命について自ら考える大切な機会である。

疾病のメカニズムを理解するためや、薬が体内でどのように作用しているかを理解するために、生物学・機能形態学的な知識が必要である。また、実習は自ら体験することによって、知識が深まる。自ら積極的に実習を行い、知識・技能の習得するように努めること。

基礎有機化学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry I : Introductory Laboratory Course in Organic Chemistry

第 1 学年 後期 実習科目 1.5 単位

松本 隆司 矢内 光 藤本 裕貴 山口 悟 (1・2・7・8)
 林 良雄 谷口 敦彦 田口 晃弘 (3・4・9・10)
 三浦 剛 平島 真一 中島 康介 阿久津 裕士 (5・6・11・12)
 土橋 保夫

学 習 目 標 有機化学の学習に必要な基礎的実験を行い、有機化合物の取扱い方法、分離法、精製法、物性値の測定法、構造確認法などについて、原理を理解して基本的な技能を習得する。また、脱離反応などの実験を通して、有機反応の基本操作手順を学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	簡単なガラス器具(キャピラリー、攪拌棒、沸騰石)を作成できる。(技能)	T-1
2	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	C3-3-1-2, X-5-3-1, X-5-3-4, X-5-4-1
3	代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)	C3-3-1-1
4	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	Y-3-32-3
5	基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
6	薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる	C3-1-1-2, X-5-2-5
7	有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	C3-1-1-9
8	カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-2
9	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-3
10	アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-5-1
11	アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-1
12	薄層クロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(技能)能)	C2-5-1-2, X-5-2-2
13	カラムクロマトグラフィーを用いて化合物の分離を実施し、化合物の溶出パラメーターを算出できる。(技能)常圧蒸留による化合物の精製ができる。	C2-5-1-2
14	常圧蒸留による化合物の精製ができる。	C1-2-5-3

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (S B O s)
1	薬品製造学教室 薬品化学教室 薬化学教室	ガラス細工	1
2	"	蒸留による有機化合物の精製：インドフェノールブルーを不純物として含むアセトンの常圧蒸留	4、6、14
3	"	有機化合物の混合物の抽出分離：分液ロートを用いた酸性物質、塩基性物質、中性物質の抽出分離	2、4、6、8、10、11
4	"	溶媒の減圧濃縮と再結晶による有機化合物の精製：ロータリーエバポレーターを用いたエーテルの減圧下での濃縮、酸性有機化合物の再結晶(熱時ろ過法)による精製	2、4
5	"	官能基の定性反応による構造推定、物性値の測定：塩化第二鉄反応によるフェノール性水酸基の検出、ジアゾカップリング反応による芳香族第一級アミンの検出、微量融点測定装置を用いた融点測定	3-7
6	"	薄層クロマトグラフィーによる有機化合物の分離分析：フタル酸ジエステル類の分離、抽出分離した化合物の純度検定と同定	4、11
7	"	カラムクロマトグラフィーによる有機化合物の分離	4、12
8	"	アシル化反応：p-アミノフェノールと無水酢酸の反応によるアセトアミノフェンの合成	4-11
9	"	総合演習(試験)	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

・毎回の実習終了後に少人数（実習プラquetteごと）での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

毎回の実習終了時に、当日の実験を記録したノートを教員がチェックして実験結果を評価しながら口頭試問を行う。この内容を踏まえて、結果の考察に重点を置いたレポートの提出を求める。さらに、実験の原理、操作に関連した課題を与え、理論に基づいた基本的技能の修得を目標とする。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：キーワードを提示して課題と演習問題によりチェックする。

b) 技能および c) 態度：基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。d) パフォーマンス：毎回の実験終了報告の際に、実験結果の評価を行いながら、技能と態度、発表能力についても助言する。

2) 総括的評価

知識：総合演習（試験）(100%)

出席及びレポートの提出状況によっては、受験停止とすることがある。

総合演習（試験）で不合格の者に対しては、再試験を1回実施する。なお、実習はすべてに出席すること。やむを得ず病気で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

〔教科書〕

化学系実習Ⅰ実験書（2020年度版）

〔参考書〕

マクマリー有機化学（上）（中） 第9版 伊東ら訳 東京化学同人

フィーザー/ウィリアムソン 有機化学実験 原書8版 磯部ら訳 丸善

新版 基礎有機化学実験 その操作と心得 畑ら著 丸善

〔オフィスアワー〕

土橋 保夫 いつでも可、要予約。 教育1号館2階1205

〔所属教室〕

松本 隆司 矢内 光 藤本 裕貴 山口 悟 薬品製造学教室 研究2号館3階

林 良雄 谷口 敦彦 高山 健太郎 田口 晃弘 薬品化学教室 研究2号館3階

三浦 剛 平島 真一 中島 康介 阿久津 裕士 薬化学教室 研究2号館3階

土橋 保夫 薬学基礎実習教育センター 1205 教員室 教育1号館2階

〔準備学習（予習・復習等）〕

・実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨むこと。

・実習で行ったことを、関連する授業の教科書等で必ず復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

毎回の実験終了時に、実験結果の評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

〔備考〕

C-2 化学物質の分析 (2) 化学物質の検出と定量 【クロマトグラフィー】

C-3 化学物質の性質と反応 (1) 化学物質の基本的性質 (2) 有機化合物の骨格 (3) 官能基

有機化学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry II : Laboratory Course in Organic Chemistry

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

宮岡 宏明 釜池 和太 太田 浩一郎 (1・2・7・8・3・4・9・10)

三浦 剛 平島 真一 中島 康介 阿久津 裕士 (5・6・11・12)

土橋 保夫

学 習 目 標 有機化学反応の実験を通して一連の実験技術を確実に習得し、さらに実験化学の重要性を認識しながら科学的な視点から実験を観察してその結果を十分に考察する。種々の官能基を有する有機化合物の多様な性質と反応性を効率的に理解して応用力を養う。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	C3-3-1-2
2	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	Y-3-32-3
3	化学反応によって官能基変換を実施できる。(技能)	Y-3-29-12
4	課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	Y-3-32-1
5	代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
6	薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。	C3-1-1-2
7	基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
8	基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	C3-1-1-9
9	有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	C3-1-1-4
10	アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-1
11	アルコール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-3-1
12	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	C3-3-4-3
13	薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-2
14	クロマトグラフィーを用いて試料を分離精製できる。(技能)	C2-5-1-5
15	アルコールの代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-4
16	カルボン酸誘導体(エステル)の代表的な合成法について説明できる。	Y-3-29-9
17	代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応)について説明できる。	Y-3-30-3

授業内容

回 数	担 当	内 容	対応 (SBOs)
1	生物分子有機化学講座 薬化学教室	本実習で実施する有機反応の全てについて反応機構を詳解する。	1~17
2	"	還元反応: アセトフェノンと水素化ホウ素ナトリウムの反応	1~11, 15
3	"	エステル化反応: 1-フェニルエタノールと <i>p</i> -トルオイルクロリドの反応	1~9, 11, 16
4	"	エステル化反応の組成生物のクロマトグラフィーによる精製	1, 2, 13, 14
5	"	カルボニル縮合反応: アセトンとベンズアルデヒドとのアルドール縮合	1~10, 17
6	"	総合演習(試験)	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

・毎回の実習終了後に少人数(実習プラquetteごと)での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

2人1組で実験を行うが、全員の実験結果を掲示により発表して比較することにより、実験技術等の問題点を自ら考察して技能のレベルアップを図る。毎回の実習終了時に、当日の実験を記録したノートを教員

がチェックして実験結果を評価しながら口頭試問を行う。この内容を踏まえて、結果の考察に重点を置いたレポートの提出を求める。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：キーワードを提示して課題と演習問題によりチェックする。
b) 技能および c) 態度：基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。d) パフォーマンス：毎回の実験終了報告の際に、実験結果の評価を行いながら、技能と態度、発表能力についても助言する。

2) 総括的評価

知識：総合演習（試験）(100%)

出席及びレポートの提出状況によっては、受験停止とすることがある。

総合演習（試験）で不合格の者に対しては、再試験を1回実施する。なお、実習はすべてに出席すること。やむを得ず病気で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

〔教科書〕

化学系実習II実験書（2020年度版）

〔参考書〕

マクマリー有機化学（上）（中） 第9版 伊東ら訳 東京化学同人
フィーザー/ウィリアムソン 有機化学実験 原書8版 磯部ら訳 丸善
新版 基礎有機化学実験 その操作と心得 畑ら著 丸善

〔オフィスアワー〕

土橋 保夫 いつでも可、要予約。 教育1号館2階1205

〔所属教室〕

宮岡 宏明 釜池 和大 太田 浩一郎 生物分子有機化学講座 研究2号館2階
三浦 剛 平島 真一 中島 康介 阿久津 裕士 薬化学教室 研究2号館3階
土橋 保夫 薬学基礎実習教育センター 1205 教員室 教育1号館2階

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨むこと。
- ・実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

毎回の実験終了時に、実験結果の評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

〔備考〕

C2 化学物質の分析

(5) 分離分析法 【クロマトグラフィー】

C3 化学物質の性質と反応

(1) 化学物質の基本的性質 (2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応 (3) 官能基の性質と反応

漢方薬物学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry II :Laboratory Course in Kampo Medicine

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

三巻 祥浩 横須賀 章人 松尾 侑希子 井口 巴樹
佐藤 弘人

学習目標 (GIO) 漢方の基礎概念、重要な漢方薬、漢方薬に配合される生薬（漢方系生薬）を学習した後、代表的な漢方煎じ薬の調製と漢方エキス製剤の品質評価に関する実習を行い、漢方薬の特徴を理解する。また、漢方系生薬の観察、官能的・化学的試験を行い、漢方系生薬の理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	漢方の基礎概念および漢方薬の特徴を概説できる。	E2-10-1-1, E2-10-1-3, E2-10-2-1~3, E2-10-3-1, E2-7-3-1, Y-5-2-1~3
2	代表的な漢方系生薬を列挙し、それらの基原植物や主要成分、薬理作用を概説できる。	C5-1-1-1, C5-1-2-1, C5-1-3-1
3	かぜ症候群に対して、漢方湯剤を用いた治療方法を説明できる。	E2-10-1-3, E2-10-2-1~2, E2-7-3-1
4	漢方煎じ薬（湯剤）を調製できる。（技能）	Y-5-2-3, Y-6-2-2
5	漢方煎じ薬とエキス製剤について、それぞれの長所と短所を説明できる。	Y-5-2-3
6	官能的な試験により漢方系生薬を同定できる。（技能）	C5-1-4-3~4, Y-3-41-1
7	化学的な試験により漢方系生薬を同定できる。（技能）	C5-1-4-3~4, Y-3-41-1
8	形態学的な観察により漢方系生薬を同定できる。（技能）	C5-1-1-2, C5-1-4-3, Y-3-41-1
9	漢方湯剤、散剤、丸剤の特徴を概説できる。	E5-2-1-6, Y-5-2-3
10	指標成分に着目した漢方薬の品質試験を実施できる。（技能）	C2-5-1-2, C5-1-4-1
11	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。（技能・態度）	Y-3-32-3
12	自身の安全と周囲の安全に配慮して実験を行う。（態度）	T-1
13	適切な保護具を付けて実験を行う。（態度）	T-1
14	積極的・能動的に実験を行う。（態度）	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	漢方資源応用学教室	重要な漢方薬とそれらに配合される生薬を解説した後に演習を行い、漢方薬に関する基礎知識を習得する。	1、2、5
2	"	かぜ症候群に頻用されている 8 種の漢方湯剤を調剤し、湯剤を調製して、色、におい、味を確認する。その結果を医療用漢方エキス剤と比較し、漢方エキス剤の簡便さ、服用のしやすさを体感して、エキス剤の有用性を理解する。	3-6、11-14
3	"	「安中散」と「桂枝茯苓丸」について、配合されている生薬の性状（色、におい、味、形態の特徴）を確認し、また数種の生薬については化学的な確認試験を行い、その結果が日届の規格と一致しているか考察する。	6-9、11-14
4	"	「安中散」散剤、医療用「安中散」エキス製剤、OTC「安中散」製剤について、「アネトール」と「ケイヒアルデヒド」を指標とした成分分析を行い、各製剤中の「アネトール」と「ケイヒアルデヒド」の含有量を比較する。	7、10、11-14
5	"	「茵苴蒿湯」「茵苴五苓散」「芍薬甘草湯」「大黃甘草湯」「大黃牡丹皮湯」「半夏厚朴湯」のいずれかの未知検体について、各処方に配合されている生薬の特徴的な成分を指標に鑑別を行う。	6、7、10、11-14
6	"	1 回目から 5 回目までのまとめと試験	1-10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

毎回の実習終了後に少人数（実習プラッテごと）での口頭試問を行い、解答の正否について学生間で討論してもらう。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

基礎系実習科目であるが、医療用漢方エキス製剤のにおいや味、服用しやすいか否かを確認するなど、実務に繋がる実習も行っている。実習操作終了後に毎回口頭試問を実施し、形成的評価を行っている。あらかじめ記入事項を示したレポート用紙を配布し、実習目的、実習内容、実習操作、結果、考察などの記述漏れがないようにしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：毎回の実習終了時に口頭試問を行う。
- b) 技能：正しい実験手技について、繰り返し指導を行う。
- c) 態度：実習に対する取り組み姿勢を観察し、口頭試問時にフィードバックする。

2) 総括的評価

- a) 知識：実習試験の得点（40％）とレポート・課題の記述内容（25％）で評価する。
- b) 技能：未知検体の鑑別結果で評価する（10％）。
- c) 態度：レポート・課題の提出状況、実習に対する取り組み姿勢を総合して評価する（25％）。

〔教科書〕

化学系実習Ⅱ 実験書（薬学基礎実習教育センター編）

〔参考書〕

第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）

薬学生のための漢方薬入門第4版（指田、三巻編著、廣川書店）

パートナー生薬学改訂第3版増補（竹谷、木内、小松編、南江堂）

〔オフィスアワー〕

三巻 祥浩 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

佐藤 弘人 原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

三巻 祥浩 漢方資源応用学教室 研究2号館408 教授室

横須賀 章人 漢方資源応用学教室 研究2号館408 室

松尾 侑希子 漢方資源応用学教室 研究2号館408 室

井口 巴樹 漢方資源応用学教室 研究2号館408 室

佐藤 弘人 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2206 室

〔準備学習（予習・復習等）〕

実習する項目に関して、実習書の解説をよく読んで毎回1時間は予習して実習に臨むこと。また、実習項目ごとに、終了後その日のうちに、結果のまとめと考察、課題を1時間以上行い復習を十分に行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

レポートに誤りがあった場合はその箇所・内容を指摘し、再提出を要請する。

知識および技能の基準未達者に対しては、基準に達していない項目を個人ごとに明示し、再度口頭試問を行う。再三のフィードバックによっても基準に達しない場合は、再実習の対象とする。

〔教員からの一言〕

実習を安全に行ってもらうために、実習初日にアレルギーの有無などに関するアンケート調査を実施します。回答内容は守秘しますので、ご協力をお願いいたします。

〔備考〕

2日目、3日目の実習では漢方薬および生薬の官能試験（味の確認）を行うので、ミネラルウォーターを用意すること。ジュース、お茶など味のあるものは不可とする。

分析化学実習

Laboratory Course in Physical Chemistry I : Analytical Chemistry Laboratory

第 2 学年 前期 実習科目 1.5 単位

袴田 秀樹 小谷 明 山本 法央 町田 晃一 (1・2・5・6・7・8・11・12)

柳田 顕郎 東海林 敦 森岡 和太 (3・4・9・10)

高橋 浩司

学 習 目 標 (GIO) 容量分析に主眼を置き、薬学を学ぶ上で必要となる分析化学の基本的な知識、技能、態度を身につける。先ず、試料中に存在する物質の種類および濃度を知るために、酸・塩基や酸化還元などの各種の化学平衡に基づいた定量法の基本的知識と技能を修得する。加えて、機器分析法の基本的知識と技能を身につけ、医薬品を含む化学物質をその性質に基づいて分析できるようにする。同時にバリデーションの考え方を身につけ、得られた分析データの評価方法を修得する。これらの実験を通して、保護具の使用法と使用する意義、器具や装置の正しい使用法、環境への影響を考慮した廃液の適切な処理方法などを学び、安全かつ適切な実験を行うための知識、技能、態度を修得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
2	溶液の濃度計算と調製ができる。(知識・技能)	X-5-3-1
3	質量保存の法則について説明できる。	X-5-3-2
4	代表的な化学変化を化学量論にとらえ、その量的関係を計算できる。(技能)	X-5-3-3
5	分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	C2-1-1-1
6	化合物の秤量、溶解、抽出、乾燥、ろ過、濃縮を実施できる。(技能)	X-5-4-1
7	測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	C2-1-1-2
8	分析法のバリデーションについて説明できる。	C2-1-1-3
9	電極電位(酸化還元電位)について説明できる。	C1-2-7-2
10	酸・塩基平衡の概念について説明できる。	C2-2-1-1
11	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4
12	pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	C2-2-1-2
13	溶液の pH を測定できる。(技能)	C2-2-1-3
14	酸化還元平衡について説明できる。	C2-2-2-3
15	酸化と還元について電子の授受を含めて説明できる。	X-5-3-5
16	Nernst の式が誘導できる。	Y-3-4-1
17	中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-1
18	酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	C2-3-2-4
19	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	C2-3-2-5
20	分配平衡について説明できる。	C2-2-2-4
21	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
22	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
23	クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	C2-5-1-5
24	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
25	分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)	C2-4-1-6
26	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
27	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11
28	適切な保護具をつけて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (SBOs)
1	生体分析化学 分析化学	容量分析用標準液の調製と標定、0.1mol/L の水酸化ナトリウム液のファクターの算出	1、2、3、4、5、6、7、10、11、12、17、26、27、28

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2	生体分析化学 分析化学	目視指示薬を用いた酸塩基滴定、リン酸の定量	1、2、3、4、5、 6、7、10、11、 12、13、17、26、 27、28
3	生体分析化学 分析化学	電位差滴定法による多塩基酸の滴定曲線の作成、電位差計の装置の理解、リン酸の定量	1、2、3、4、5、6、 7、10、11、12、 17、26、27、28
4	生体分析化学 分析化学	酸化還元滴定、0.1mol/L チオ硫酸ナトリウム液の調製と標定、0.05mol/L ヨウ素液の調製と標定	1、2、3、4、5、 6、7、9、14、15、 16、18、26、27、 28
5	生体分析化学 分析化学	日本薬局方収載医薬品の容量分析、アスコルビン酸の定量	1、2、3、4、5、 6、7、9、14、15、 16、18、19、26、 27、28
6	生体分析化学 分析化学	分析法バリデーション、日本薬局方収載計量器を用いるときの測定精度の評価	4、5、6、7、8、 27、28
7	生体分析化学 分析化学	紫外可視吸光光度法、吸光光度計の装置の理解、吸収スペクトルの解析、モル吸光係数の算出と食品着色料の定量	1、2、3、4、5、 6、7、24、25、 26、27、28
8	生体分析化学 分析化学	高速液体クロマトグラフィー (HPLC) による日本薬局方収載医薬品の定量、HPLC 装置の理解、システム適合性試験、内標準法によるインドメタシンカプセル中のインドメタシンの定量	1、2、3、4、5、6、 7、20、21、22、 23、26、27、28
9	生体分析化学 分析化学	容量分析、機器分析、実験データの取り扱いについて、試験	1、2、3、4、5、 6、7、8、9、10、 11、12、13、14、 15、16、17、18、 19、20、21、22、 23、24、25

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

滴定に関する理解度チェックの小テストを2回実施している。

レポートを各実習項目ごとに提出させている。

学生の理解を助けるために補助プリントを配布している。

成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能 (実習結果) について評価し、実習中にフィードバックしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

各学生が臨床の薬剤師として必要な分析化学の基本的知識や技術をより良く修得できるようにするために、容量分析に必要な溶液濃度の計算や試料調製、滴定操作、得られた実験値からのファクターや目的成分含量の計算、分析法バリデーションに基づいた分析結果の客観的評価を各個人で行う。実験結果は口頭もしくはインターネットを介して報告し、結果に対する評価および実験結果に影響を与える要因について職員からのフィードバックを受ける。

また、これらの結果と各実習項目に関連し出題された課題について小グループで調査、考察を行いレポートにまとめ、提出する。提出されたレポートは職員により評価され、内容に関してフィードバックを受ける。さらに実地試験として、未知検体を用い、その中に含まれる目的成分の定量を行い、定量結果を報告する。報告された定量結果は職員により評価され、評価結果は学生へフィードバックされる。その評価結果から定量結果に影響を与えた要因などを考察し、実習で得られた知識・技術の修得達成度を学生自らも評価する。また、未知検体を取り扱うことにより、実試料を扱うときの注意点や責任に関しても学ぶ。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：各項目ごとにレポートと課題の提出を行う。
- 技能：実習中の手技について、実習時間内にフィードバックする。
- 態度：実習に取り込む姿勢について、実習時間内にフィードバックする。
- パフォーマンス：実験結果を報告させ、質疑応答を通じて発表能力をフィードバックする。

2) 総括的評価

- 知識：試験、レポートを総合的に評価する。
- 技能：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- パフォーマンス：提出されたレポートの結果・考察の表現力について評価する。

3) 評価方法と総括的評価に与える寄与率

実習試験 (知識) 50 %、レポート (知識・技能) 20 %、実地試験 (技能・態度) 30 %

〔教科書〕

物理系実習Iテキスト

薬学生のための分析化学 第4版 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

薬学生のための分析化学問題集 (四宮一総編集 廣川書店)

なるほど分析化学-数字となかよくする本 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

〔参考書〕

第十七改正日本薬局方解説書 (廣川書店)

イラストで見る化学実験の基礎知識 (丸善)

〔 オフィスアワー 〕

柳田 顕郎 いつでも可。 研究 2 号館 405 号
袴田 秀樹 いつでも可、ただし要事前予約。 研究 2 号館 406 号
高橋 浩司 いつでも可。 教育 2 号館 2 階 2209

〔 所属教室 〕

柳田 顕郎 東海林 敦 森岡 和大 生体分析化学教室
袴田 秀樹 小谷 明 山本 法央 町田 晃一 分析化学教室
高橋 浩司 薬学基礎実習教育センター

〔 準備学習（予習・復習等） 〕

実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨んでください。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習してください。

〔 学生へのフィードバック 〕

実習中に小テストを行い、滴定の計算（ファクターの求め方、定量値計算）に関するフィードバックを行っている。

実験結果を口頭で職員へ報告してもらい、その結果に対する評価および実験結果に影響を与える要因について、その場で職員から学生へフィードバックを行っている。

〔 備考 〕

C2 化学物質の分析（1）分析の基礎、（2）溶液中の化学平衡、（3）化学物質の定性分析・定量分析、（4）機器を用いる分析法、（5）分離分析法

物理化学・分析化学実習

Laboratory Course in Physical Chemistry II : Physical and Analytical Chemistry Laboratory

第 2 学年 後期 実習科目 1.5 単位

青山 洋史 伊集院 良祐 齊藤 亮平 (物理化学実習)

柳田 顕郎 東海林 敦 森岡 和大 (分析化学実習)

高橋 浩司

学 習 目 標 (GIO) 単位、有効数値の取扱い、濃度計算、機器分析法などに関する分析化学演習を通して、薬学分野における数
量的な取り扱いの基本を修得する。日本薬局方一般試験法の物理的試験法に記載の機器分析の基本的な原
理、測定法を理解する。さらに、薬学に関連する題材をとりあげた物理化学実習を通して、物質の化学変化
や変化の過程、反応速度、エネルギー変化などの物理化学的諸現象の理解を深める。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	溶液の濃度計算と調製ができる。(技能)	X-5-3-1
2	酸・塩基平衡の概念について説明できる。	C2-2-1-1
3	pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	C2-2-1-2
4	溶液の pH を測定できる。(技能)	C2-2-1-3
5	緩衝作用や緩衝液について説明できる。	C2-2-1-4
6	紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-1
7	蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-2
8	イオン強度について説明できる。	C1-2-6-4
9	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	C2-5-1-1
10	液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	C2-5-1-3
11	電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	C2-5-2-1
12	SI 単位系について説明できる。	X-4-1-2
13	基本単位を組み合わせた組立単位を説明できる。	X-4-1-3
14	反応次数と速度定数について説明できる。	C1-3-1-1
15	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	C1-3-1-2
16	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	C1-3-1-4
17	旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。	C2-4-1-5
18	相平衡と相律について説明できる。	C1-2-5-2
19	状態図について説明できる。	C1-2-5-3
20	物質の溶解平衡について説明できる。	Y-3-2-1
21	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	C1-2-2-7
22	代表的な物理変化、化学変化に伴う熱力学量(エンタルピー変化、エントロピー変化、ギブスエネルギー変化など)を説明し、求めることができる。(技能)	Y-3-1-1
23	希薄溶液の束一的性質について説明できる。(知識)	C1-2-6-1
24	分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	C2-1-1-1
25	測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	C2-1-1-2
26	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
27	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11
28	適切な保護具を着けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (SBOs)
1	生体分析化学	分析化学計算演習(単位・有効数字の取扱い、濃度計算、pH 算出について)	1、2、3、12、13
2	"	pH 緩衝液の基本的性質の理解、リン酸緩衝液の調製と緩衝能について	3、4、5、24、25、26、27、28
3	"	紫外可視吸光度測定法、蛍光光度法、旋光度測定法、クロマトグラフィー、電気泳動に関する演習	6、7、8、9、10、11、17

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
4	分子機能解析学	物理化学実習の内容、原理、目的、基本事項の説明、高分子化合物の粘度測定の実習と演習	12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、26
5	"	ショ糖の加水分解反応に伴う旋光度変化の測定 (反応速度定数と半減期の算出)	12、13、14、15、16、17、24、25、26、27、28
6	"	相の混和および分離温度の測定 (水-フェノール相互溶解度曲線の作成)	18、19、24、25、26、27、28
7	"	安息香酸の水に対する溶解度の測定 (溶解エンタルピーの算出)	20、21、22、24、25、26、27、28
8	"	凝固点降下度の測定 (溶質の分子量を算出)	23、24、25、26、27、28
9	"	実験結果のまとめ、実習試験	12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

〔物理化学実習〕

実験方法の原理および実験結果の解釈について、常にグループで討論して意見を纏めさせ、口頭試問で確認し、さらに実習レポートに記載するように指導している。

毎回の実習終了後に少人数での口頭試問を行い、解答の是非について教員を中心として討論を行っている。成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能 (実習結果) について評価し、実習中にフィードバックしている。さらに、実習レポートを提出させ、各自の理解度を確認し、必要に応じて個別の指導を行う。

〔分析化学実習〕

実習テキスト内に課した演習問題について、グループで協議しながら解答させている。

演習問題のレポートを職員へ提出させ、その場で評価と内容に関するフィードバックを行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

〔物理化学実習〕

講義 (物理化学 I、物理化学 II、物理化学 III) で理解しにくい行動目標について実験を行い、実験終了後に教員を中心とする小グループで実験結果を討論することにより、行動目標が明確に理解できるよう工夫している。また、薬の調剤にからめて教授することにより、試料を「正確にはかる」、「移すこと」の重要性が理解できるように工夫している。

〔分析化学実習〕

分析化学に必要な基礎的知識に対する理解を深めるため、各実習項目に関連した演習問題を、まず各自が考えて解答し、そこで生じた問題点をグループで協議しながら解答へ導く。その解答をまとめたレポートを職員に提出し、その場で評価と内容に関するフィードバックを受ける。また、緩衝液の基本的性質をより深く理解するために、実験も併行して行う。さらに、機器分析の演習問題を通して、分析法についての理解を深める。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a: 知識: 各項目ごとにレポートと課題の提出を行う。
- b: 技能: 実習中の手技について、実習時間内にフィードバックする。
- c: 態度: 実習に取り込む姿勢について、実習時間内にフィードバックする。
- d: パフォーマンス: 口頭試問を通じて発表能力をフィードバックする。

2) 総括的評価

- a: 知識: 実習態度、試験、レポートを総合的に評価する。
- b: 技能: 繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。
- c: 態度: 繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とする。実習、演習態度、課題を総合的に評価する。
- d: パフォーマンス: 提出されたレポートの結果・考察の表現力について評価する。

3) 評価方法と総括的評価に与える寄与率

実習試験 (知識) 45 %、レポート・課題提出 (知識・技能) 45 %、口頭試問 (知識・態度) 10 %

〔教科書〕

物理化学実習 II テキスト

物理化学要論 第 7 版 (アトキンス著、千原英昭・稲葉 章訳 東京化学同人)

薬学生のための分析化学 第 4 版 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

薬学生のための分析化学問題集 (四宮一総 編集 廣川書店)

なるほど分析化学-数字となかよくする本 (楠文代/渋澤庸一編集 廣川書店)

〔参考書〕

第十七改正日本薬局方解説書 (廣川書店)

薬学領域の物理化学 (渋谷 皓編集 横松 力、湯浅洋子他著 廣川書店)

〔オフィスアワー〕

青山 洋史 いつでも可。 ただし要事前連絡。 研究 1 号館 303 号室

柳田 顕郎 いつでも可。 研究 2 号館 405 号室

高橋 浩司 いつでも可。 教育 2 号館 2209 号室

〔所属教室〕

分子機能解析学教室 青山 洋史 伊集院 良祐 齊藤 亮平
生体分析化学教室 柳田 顕郎 東海林 敦 森岡 和大
薬学基礎実習教育センター 高橋 浩司

〔準備学習（予習・復習等）〕

実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨んでください。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習してください。

〔学生へのフィードバック〕

[物理化学実習]

毎回の実習終了時に少人数で口頭試問を行い、実習中に学生へフィードバックしている。また、実習最終日に提出された実習レポートの内容を確認し、必要に応じて個別にフィードバックを行っている。

[分析化学演習]

毎回の実習終了時に提出されたレポートを確認して、グループ毎にその場でフィードバックを行っている。

〔備考〕

[物理化学実習]

C1 物質の物理的性質 (1) 物質の構造、(2) 物質のエネルギーと平衡、(3) 物質の変化

[分析化学実習]

C2 化学物質の分析 (1) 分析の基礎、(2) 溶液中の化学平衡、(3) 化学物質の定性分析・定量分析、(4) 機器を用いる分析、(5) 分離分析法

微生物・免疫学実習

Laboratory Course in Biology II : Laboratory Course in Microbiology and Immunology

第 2 学年 後期 実習科目 1.5 単位

中南 秀将 輪島 丈明 中瀬 恵亮
 安達 禎之 山中 大輔
 安藤 堅 稲葉 二郎

学 習 目 標 薬学の微生物に関する研究は、病原体の研究から医薬品の開発へ進み、さらに感染症の予防・診断に関わる免疫学へと発展してきた。本実習においては、基礎的な細菌、細菌ウイルスの取り扱いからスタートし、抗生物質の効力測定などを習得した後、免疫学に関する抗体の凝集反応、白血球の抗菌反応、アレルギー反応などについて学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
2	施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。	F-2-6-12
3	臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。	F-2-6-13
4	滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	C8-3-5-1
5	主な滅菌法および消毒法について説明できる。	C8-3-5-2
6	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
7	主な滅菌法および消毒法を実施できる。	Y-3-64-1
8	学校薬剤師の業務を体験する。	F-5-2-3
9	地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。	F-5-2-4
10	無菌操作を実施できる。	C8-3-6-2
11	代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。	C8-3-6-3
12	細菌の構造と増殖機構について説明できる。	C8-3-2-2
13	グラム染色を実施できる。	C8-3-6-1
14	細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。	C8-3-2-1
15	細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。	Y-3-65-1
16	代表的な細菌を同定できる。	Y-3-65-2
17	抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	C8-1-3-4
18	抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）	C8-2-2-4
19	免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	C8-1-2-2
20	アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	C8-2-1-2
21	動物実験における倫理について配慮できる。	E1-1-2-1
22	実験動物を適正に取り扱うことができる。	E1-1-2-2
23	実験動物での代表的な投与方法が実施できる。	E1-1-2-3
24	実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。	C7-1-3-3
25	代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。	C7-1-3-4
26	脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。	C6-2-8-1
27	適切な保護具を付けて実験を行う。（態度・技能）	F-2-6-11, F-2-6-13
28	周囲の安全に配慮して実験を行う。（態度・技能）	F-2-6-11
29	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。（態度・技能）	F-2-6-11, F-2-6-13

授業内容

回 数	担 当	内 容	対応 (SBOs)
1	病原微生物学教室、薬学基礎実習教育センター	衛生的手洗いの実践、無菌試験（直接法・メンブランフィルター法）、細菌の培養、バクテリオファージの観察（増殖試験）	1-11、27-29

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2	病原微生物学教室, 薬学基礎実習教育センター	細菌の同定、細菌の培養、手指付着細菌の検出、空中落下細菌の検出、鼻腔内グラム陽性細菌の検出、バクテリオファージの宿主特異性試験、細菌の増殖曲線の作成	3、8、10-12、27-29
3	病原微生物学教室, 薬学基礎実習教育センター	グラム染色法、細菌の生化学的試験、薬剤感受性ディスク試験	13-16、27-29
4	病原微生物学教室, 薬学基礎実習教育センター	薬剤感受性ディスク試験、演習	1、4-6、12、14、15、27-29
5	病原微生物学教室, 薬学基礎実習教育センター	実習試験	1-16
6	免疫学教室, 薬学基礎実習教育センター	凝集反応の観察、ELISA (1)	17、18、27-29
7	免疫学教室, 薬学基礎実習教育センター	免疫組織の抗菌作用、マクロファージの貪食作用(1)、ELISA (2)	18、19、22、24、25、27-29
8	免疫学教室, 薬学基礎実習教育センター	マクロファージの貪食作用(2)、ELISA (3)	18、19、26、27-29
9	免疫学教室, 薬学基礎実習教育センター	ラットを用いた PCA 反応の観察、イムノクロマトグラフィを用いたヒト血中 IgE の検出	17-24、26、27-29
10	免疫学教室, 薬学基礎実習教育センター	実習試験	17-25

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・学生の理解を助けるためにプリントを作成し、実習の解説を進めながら、課題に対処させている。
- ・毎回の実習時間中に、実験方法の原理や実験操作の意義、実験結果の解釈についてグループ討議させ、実習終了時に各学生にそれらについて口頭試問することにより、実習の理解度や習熟度を確認し、指導している。
- ・実習レポートのテンプレートを配布することにより、レポートの書き方や記述すべき点を明確にしている。
- ・実習レポートは、内容を詳細に確認し、間違っている部分や不足した部分に対して指摘し、再提出を求めている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

微生物学実習では、できる限り一人一人の学生が興味を持って微生物を取り扱い、観察できるように代表的な細菌を含め身体に付着している微生物も実習材料として用いている。さらに、学校薬剤師の業務の一部を実習に取り入れ、実務への応用も配慮している。また、実習で取り扱う一部の材料はグループ毎に変え、得られる結果が異なるようにし、個々の実験データに責任を持たせる実習を行っている。さらに、日々の実習終了時に必ず各班毎の各学生に口頭で質問することで、実習の習得を確認、指導している。免疫学実習では、実習書に加えて実験内容を図示したスライドを別途掲載し、実験方法や原理をイメージしやすいよう配慮している。項目によっては測定対象の検体もグループごとに変え、得られる結果が異なるようにし、個々の実験データに責任を持たせる実習を行っている。さらに、項目毎に各学生に口頭質問することで、実習の習熟度を確認、指導している。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：各実習項目毎に、個別あるいはグループ毎に口頭試問を兼ねた面談を行い、フィードバックする。
 - b) 技能：実習時間に、実験手技について、こまめにフィードバックする。
 - c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
 - d) パフォーマンス：グループワーク能力の到達度を共通の評価表を使用して、実習終了時にグループ毎に評価している。
- 2) 総括的評価：実習試験 (40%)、態度・パフォーマンス・実習レポート (技能) (60%) を総合的に評価する。
 - a) 知識：実習試験が 60% 以上で合とする。
 - b) 技能：実習期間中の形成的評価におけるフィードバックで改善されれば合とする。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とするが、総合評価に含める。
 - d) パフォーマンス：実習レポートを提出させ、結果・考察の表現力について評価する。

〔教科書〕

薬学実習書 生物系実習 II

〔参考書〕

新しい微生物学 (廣川書店)
 戸田新細菌学 (南山堂)
 ブラック微生物学 (丸善)
 免疫学概説 (廣川書店)
 免疫学イラストレイテッド (南江堂)
 免疫学実習スライド
 配布プリント

〔 オフィスアワー 〕

病原微生物学教室（中南、輪島、中瀬） いつでも可 研究2号棟5階
免疫学教室（安達、山中） いつでも可 研究2号棟5階
薬学基礎実習教育センター（安藤） いつでも可 教育2号館3階 2309 教員室
薬学基礎実習教育センター（稲葉） いつでも可 教育2号館3階 2306 教員室

〔 所属教室 〕

中南、輪島、中瀬 病原微生物学教室
安達、山中 免疫学教室
稲葉、安藤 薬学基礎実習教育センター

〔 準備学習（予習・復習等） 〕

微生物学実習では、2年で講義した微生物学と病原微生物学の体験の場所です。講義した微生物の内容をもう一度復習し、生きた微生物の形態や臭い、そして抗菌薬の効き方を体験してください。また、薬剤感受性試験や抗菌薬の作用は、3年の感染制御学にも関連していることを覚えておいてください。免疫学実習では、2年後期に受講する必修科目「免疫学」と並行して行われます。実験を通して免疫学の基礎を理解することを目標の一つにしています。講義と実習により、免疫の奥深さ・免疫反応の面白さを知り、3年の「臨床免疫学」に向けた基礎固めとしてください。実習項目ごとに、実習書および関連の教科書等を用いて予習を1時間行ってください。さらに、実習を行ったその日のうちに、1時間以上を目安に、結果のまとめ、考察をするなど、復習を必ず行ってください。

〔 学生へのフィードバック 〕

- ・実習期間中を通じて実習態度や実験手技を観察し、こまめにフィードバックする。
- ・毎日の実習終了時に、グループ毎に各学生に口頭試問を行い、実習内容の理解度やグループワーク能力の到達度をフィードバックする。
- ・実習レポートは、詳細に確認し、間違っている部分や不足した部分に対して指摘し、再提出を求める。

〔 教員からの一言 〕

微生物実習は、「滅菌に始まり、滅菌で終わります」。普段、見ることができない身近な微生物の世界を覗いてください。

免疫学実習は、ナノグラムオーダーでの物質測定から動物実験まで、精細かつ熟練を必要とする手技もあります。手技の良し悪しが実験結果を大きく左右するなど難しい実習項目もありますが、積極的にチャレンジして実験の面白さを体験してください。

〔 備考 〕

C8 生体防御と微生物

天然医薬品化学実習

Laboratory Course in Organic Chemistry III : Laboratory Course in Chemistry of Natural Medicines

第 3 学年 前期 実習科目 1.5 単位

一柳 幸生 蓮田 知代

三宅 克典

佐藤 弘人

学 習 目 標 代表的な薬局方収載生薬の確認試験および生薬の成分含量測定法を学んだのち、薬局方収載切断生薬の未知検体について、薬局方確認試験に基づいた形態観察および化学的分析による同定実験を行うことにより、代表的な生薬の基本的知識とそれらを活用するための基本的技能を修得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	代表的な生薬の確認試験を説明できる。	C5-1-4-2, C5-1-4-4
2	生薬の成分含量測定法を説明できる。	C5-1-4-1~2
3	日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	C5-1-2-1
4	日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。	C5-1-3-1
5	代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	C5-1-4-3
6	代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	Y-3-41-1
7	天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	C5-2-3-1
8	代表的な生薬の純度試験を説明できる。	C5-1-4-5
9	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	Y-3-32-3
10	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	T-1
11	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	T-1

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (S B O s)
1	天然医薬品化学講座 薬用植物園	センナ、キキョウ、サイコの確認試験	1,2,3,4,6,7,8,9,10,11
2	天然医薬品化学講座 薬用植物園	ロートコン、オウレンの確認試験	1,2,3,4,6,7,8,9,10,11
3	天然医薬品化学講座 薬用植物園	チンピ、ジギトキシンの確認試験・切断生薬(未知検体)の鑑定(1)	1,5,6,7,8,9,10,11
4	天然医薬品化学講座 薬用植物園	切断生薬(未知検体)の鑑定(2)	5,6,7,8,9,10,11
5	天然医薬品化学講座 薬用植物園	切断生薬(未知検体)の鑑定(3)	5,6,7,8,9,10,11
6	天然医薬品化学講座 薬用植物園	器具点検, 実習試験	1,2,3,4,5,7,8

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1,2日目に生薬の代表的な確認試験を行い、2日目実習終了後に少人数(実習プラquette単位)で口頭試験を実施する。学生間で討論のうえ解答してもらう。

3,4,5日目の生薬(日本薬局方収載品)の鑑定では、数種類の生薬を混合した未知検体を各自鑑定する。結果について、鑑定理由の説明と鑑定した生薬の詳細をレポートで説明させている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

未知検体を各自が工夫しながら確認する過程を通して問題解決型の実習を取り入れている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識：随時口頭試問を行う。
- b) 技能：実習時間に、手技についてこまめにフィードバックする。
- c) 態度：常時観察してフィードバックする。

2) 総括的评价：記述試験(40%)、生薬未知検体の鑑定とその成果物、結果説明レポート(30%)、実習態度(20%)と実習レポート(10%)を総合的に評価する。ただし、それぞれの項目(知識、態度、技能)が独立して到達点以上であることとする。

- a) 知識：記述試験、生薬未知検体の鑑定と口頭試問が到達点以上であれば合とすが、総合評価に含める。
- b) 技能：生薬未知検体の鑑定結果、実習期間中の形成的評価を総合評価に含める。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とすが、総合評価に含める。

〔教科書〕

化学系実習Ⅲ 実習書(薬学基礎実習教育センター編)

〔参考書〕

第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

パートナー生薬学(竹谷、木内、小松編 南江堂)

パートナー天然物化学(海老塚、森田、阿部編 南江堂)

〔オフィスアワー〕

いつでも可、要予約。 天然医薬品化学講座 研究1号館2階

〔所属教室〕

一柳 幸生 天然医薬品化学講座 研究1号館2階

蓮田 知代 天然医薬品化学講座 研究1号館2階

三宅 克典 薬用植物園

佐藤 弘人 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2階

〔準備学習(予習・復習等)〕

本実習は、実験操作および結果の解析・考察を通じて、2年次前期科目「植物薬品学」、2年次後期科目「生薬学」で習得する生薬系分野の基礎知識についての理解を深める内容となっています。

実習する項目に関して、講義教科書、実習書、日本薬局方を参考にして毎回1時間は予習して実習に望むこと。

また、毎回終了後その日のうちに実習項目ごとに結果のまとめと考察を行う(1時間以上)など、復習を十分に行うこと。また、実習中の口頭試問にて不明瞭な点は各自で復習する。

〔学生へのフィードバック〕

実習中の繰り返しの指導により作成されたレポートが基準に達していない場合、指導後に再提出をしてもらう。知識および技能の基準未達者に対しては、基準に達していない項目を明示し、再度実習または口頭試問を行う。

医薬品合成実習

Laboratory Course in Organic Chemistry III : Laboratory Course in Organic Medicinal Chemistry

第 3 学年 前期 実習科目 1.5 単位

松本 隆司 矢内 光 藤本 裕貴 山口 悟 (1・2・7・8)

林 良雄 谷口 敦彦 田口 晃弘 (3・4・9・10)

宮岡 宏明 釜池 和太 太田 浩一朗 (5・6・11・12)

土橋 保夫

学 習 目 標 有機化学および医薬品化学の講義で修得する知識を基礎として、有機化学反応を組み合わせることで医薬品の合成 (GIO) 実験を行い、医薬品合成法の基本的知識、技能、態度を習得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	カルボン酸のエステル化を実施、説明できる。	C3-3-4-3
2	活性メチレンのアルキル化を実施、説明できる	C3-3-4-3, C3-3-7-1
3	減圧蒸留を実施、説明できる	C1-2-5-3
4	縮合環化による複素環化合物の合成を実施、説明できる	C3-3-4-3, C3-3-7-1
5	日本薬局方の確認試験を実施、説明できる。	C2-3-1-2
6	実験に使用した廃液を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
7	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
8	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11

授業内容

回 数	担 当	内 容	対応 (SBOs)
1	生物分子有機化学講座 薬品製造学教室 薬品化学教室	<i>p</i> -アミノ安息香酸をエタノールと硫酸でエステル化して、局所麻酔薬である <i>p</i> -アミノ安息香酸エチルを合成する。	1、6、7、8
2	"	2-エチルマロン酸ジエチルを臭化ペンチルとナトリウムエトキシドでアルキル化する。	2、6、7、8
3	"	2-エチル-2-ペンチルマロン酸ジエチルを減圧蒸留で精製する。	3、6、7、8
4	"	2-エチル-2-ペンチルマロン酸ジエチルを尿素と縮合環化して催眠鎮静作用を有するでアミルバルビタールを合成する。	4、6、7、8
5	"	<i>p</i> -アミノ安息香酸エチルおよびアミルバルビタールの融点測定ならびに官能基の呈色反応(日本薬局方の確認試験)を行う。	5、6、7、8
6	"	総合演習(試験)	

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

・毎回の実習終了後に少人数(実習プラquetteごと)での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

毎回の実習終了時に、当日の実験を記録したノートを教員がチェックして実験結果を評価しながら口頭試問を行う。この内容を踏まえて、結果の考察に重点を置いたレポートの提出を求める。いくつかの医薬品の合成を課題として、合成反応と実験方法の立案を課題として与える。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識：キーワードを提示して課題と演習問題によりチェックする。

b) 技能および c) 態度：基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。d) パフォーマンス：毎回の実習終了報告の際に、実験結果の評価を行いながら、技能と態度、発表能力についても助言する。

2) 総括的評価

知識：総合演習（試験）(100%)

出席及びレポートの提出状況によっては、受験停止とすることがある。

総合演習（試験）で不合格の者に対しては、再試験を1回実施する。なお、実習はすべてに出席すること。やむを得ず病気で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

〔教科書〕

化学系実習Ⅲ 実験書（2020年度版）

〔参考書〕

マクマリー有機化学（上）（中） 第9版 伊東ら訳 東京化学同人
フィーザー/ウィリアムソン 有機化学実験 原書8版 磯部ら訳 丸善
新版 基礎有機化学実験 その操作と心得 畑ら著 丸善

〔オフィスアワー〕

土橋 保夫 いつでも可、要予約。 教育1号館2階1205

〔所属教室〕

宮岡 宏明 釜池 和大 太田 浩一朗 生物分子有機化学講座 研究2号館2階
松本 隆司 矢内 光 藤本 裕貴 山口 悟 薬品製造学教室 研究2号館3階
林 良雄 谷口 敦彦 田口 晃弘 研究2号館3階
土橋 保夫 薬学基礎実習教育センター 1205 教員室 教育1号館2階

〔準備学習（予習・復習等）〕

- ・実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨むこと。
- ・実習で行ったことを、関連する授業の教科書等で必ず復習すること。

〔学生へのフィードバック〕

基礎的な化学実験の技能の習得と実験態度については、実験中にチェックしてフィードバックする。

〔備考〕

- C-4 化学物質の性質と反応
- (1) 化学物質の基本的性質 (2) 有機化合物の骨格 (3) 官能基
- C-5 ターゲット分子の合成
- (1) 官能基の導入・変換

生化学実習

Laboratory Course in Biology III : Biochemistry and Molecular Biology

第 3 学年 前期 実習科目 1.5 単位

佐藤 隆、水野 晃治、秋元 賀子、坂上 弘明

高木 教夫、林 秀樹、岩谷 結衣

今田 啓介

学 習 目 標 (GIO) 1、2 年次の授業科目である生化学 I、II および III で、生体成分の構造・性質と機能、それらの代謝、遺伝子とその発現について学んだ。本実習ではこれらを踏まえ、酵素タンパク質および核酸 (DNA および RNA) を実際に取り扱い、逆転写-ポリメラーゼ連鎖反応 (RT-PCR) 法およびポリアクリルアミドゲル電気泳動法などの実験を通じてそれらの性質と働きについて理解する。さらに酵素活性、核酸の構造、薬の効き方を解析する生化学的な実験技術を修得する。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。[知識]	C6-3-3-1
2	代表的な酵素の活性を測定できる。[技能]	C6-3-3-4
3	酵素反応における至適 pH および金属イオンの役割について説明できる。[知識]	C6-3-3-2
4	酵素反応速度論について説明できる。[知識]	C6-3-3-1
5	DNA と RNA の構造および機能について説明できる。[知識]	C6-2-5-1
6	遺伝子工学に関する基本的技術を挙げ、それらについて説明できる。[知識]	C6-4-6-1
7	DNA の物理化学的性質を説明できる。[知識]	C6-2-5-1
8	DNA を生体組織から抽出できる。[技能]	C6-2-8-1
9	DNA の分光学的定量法を説明し、それを実施できる。[知識・技能]	C6-2-8-1
10	RNA の物理化学的性質を説明できる。[知識]	C6-2-5-1
11	RNA の逆転写反応と逆転写酵素について説明できる。[知識]	C6-4-6-1
12	PCR 法による遺伝子増幅の原理を説明し、それを実施できる。[知識・技能]	C6-4-6-1
13	DNA を電気泳動法により分離できる。[技能]	C2-5-2-1, C6-2-8-1
14	薬物による遺伝子発現制御メカニズムの具体例を挙げ、それを説明できる。[知識]	C6-4-1-1, C6-4-4-1 ~ 5
15	DNA 塩基配列の決定法を説明できる。[知識]	C6-2-5-1, C6-4-6-1
16	タンパク質の主要な機能を列挙できる。[知識]	C6-3-1-1
17	タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。[知識]	C6-2-4-1
18	タンパク質の分離・同定法を説明し、実施できる。[知識・技能]	C6-2-4-1, C6-2-8-1
19	タンパク質の分子量測定法を説明し、実施できる。[知識・技能]	C2-5-2-1, C6-2-4-1, C6-2-8-1
20	実験に使用した廃液を適切に処理する。[態度・技能]	F-2-6-11, F-2-6-13
21	実験に用いる器具、機器を正しく丁寧に扱う。[技能・態度]	F-2-6-11
22	適切な保護具を付けて実験を行う。[態度・技能]	F-2-6-11, F-2-6-13
23	周囲の安全に配慮して実験を行う。[態度・技能]	F-2-6-11

授業内容

回 数	担 当	内 容	対 応 (S B O s)
1	担当教員全員	酵素反応の至適 pH および金属イオンの影響	1-3, 20-23
2	"	酵素反応の経時変化および酵素量との関係	1, 2, 20-23
3	"	酵素反応速度論	1, 2, 4, 20-23
4	"	仔牛胸腺 DNA の調製	5-8, 20-23
5	"	DNA の熱変性	5-7, 9, 20-23
6	"	RT-PCR 法による標的遺伝子の増幅	5, 6, 10, 11, 12, 15, 20-23
7	"	アガロースゲル電気泳動法による PCR 産物の同定	6, 7, 13, 14, 20-23

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
8	"	ポリアクリルアミドゲル電気泳動による酵素タンパク質の分離同定 I: ゼラチンゼイモグラフィ法	1-3、16-18、20-23
9	"	ポリアクリルアミドゲル電気泳動による酵素タンパク質の分離同定 II: ゲルの染色および酵素タンパク質の解析	1-3、14、18、19、20-23
10	"	実習試験	1-19

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1. 実習内容の理解度チェックの小テストを実施している。
2. 各実習項目終了毎に、レポートを作成させ、提出させている。
3. 補助プリントを配布し、実習説明をしながら、空欄部分を記入させるようにしている。
4. 学生を指名して、実験結果を発表させている。
5. 実習終了後に、実習グループ毎での口頭試問を行い、実験方法の原理や実験結果の解釈などについて、教員を中心にグループ内で討論を行っている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

1. 実習項目に対応する教科書のページを実習書に記載し、授業との関連を捉えやすくしている。
2. 実習書の中に提出用レポート用紙が印刷されており、ミシン目が入っている。学生は実習項目が終了ごとにレポート用紙に必要事項を記入し、ミシン目に沿って切り離し、提出できるようになっている。
3. 基礎的な生化学の実験のみならず疾患関連分子を標的とした最新の遺伝子発現解析実験を取り入れることで、学生が病態機構を多角的、かつ統合的に理解することができるようになっている。
4. 生化学実習では、実習中に教員が巡回し、実験の細やかな指導・観察を行っている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 実習項目終了毎にレポートを提出させ、教員が確認してフィードバックする。また、実習期間中に関連知識の確認のための小テストを行う。
 - b) 技能: 教員が学生の実験手技を観察しながら適宜技術指導を行い、こまめにフィードバックする。
 - c) 態度: 実習期間中を通じて観察し、態度不良などについてはその場でフィードバックを行い改善を促す。
 - d) パフォーマンス: 実習を通じて自身のパフォーマンスを、ルーブリック評価表を用いて自己評価させる。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識: 小テストおよび最終日に行う実習試験から総合的に評価する。なお原則として実習試験の得点が6割以上を合格の条件とする。
 - b) 技能: 実習期間中の観察と実験結果から総合的に評価する。
 - c) 態度: 実習期間中の観察により総合的に評価する。
 成績は、実習試験 (60%)、小テスト (20%)、技能・態度 (20%) により総合的に評価する。

〔教科書〕

薬学実験書 (東京薬科大学編)

〔参考書〕

薬学領域の生化学 第2版 (伊東 晃編集 廣川書店)
 スタンダード薬学シリーズII 生物系薬学I 生命現象の基礎 (日本薬学会編 東京化学同人)

〔オフィスアワー〕

生化学教室: 原則としていつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。
 応用生化学教室: 原則としていつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。
 薬学基礎実習教育センター: 原則としていつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

佐藤 隆 生化学教室 研究2号館6階
 水野 晃治 生化学教室 研究2号館6階
 秋元 賀子 生化学教室 研究2号館6階
 坂上 弘明 生化学教室 研究2号館6階
 高木 教夫 応用生化学教室 研究2号館6階
 林 秀樹 応用生化学教室 研究2号館6階
 岩谷 結衣 応用生化学教室 研究2号館6階
 今田 啓介 薬学基礎実習教育センター 教育1号館3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

生化学実習は、1年次から2年次にかけて学んだ生化学の講義内容を基礎とし、その知識を体現する場です。実習に臨むにあたり、予め実習書を読んでおくとともに、教科書を見直すなど生化学の内容を復習しておいて下さい。また、実習で行ったことを、課題レポートなどを活用して必ず復習して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

実習中は、教員が巡回しながら実験手技やデータ解析について細かく指導し、その場でフィードバックしている。また、各実習項目のレポートについても、確認後すぐに返却し、補足説明などを行っている。さらに、実習内容に関する理解度チェックのための小テストについても、解答を公表し自学習に役立てると共に、理解不十分と思われる内容について補足説明を加えている。

〔教員からの一言〕

実習は複雑な操作法が伴います。必ず前日までに実習書を読んで手順を予習しておくこと。

薬理学実習

Laboratory Course in Fundamental Pharmacy I : Pharmacology

第 3 学年 前期 実習科目 1.5 単位

田野中 浩一 丸ノ内 徹郎 矢野 絵美

田村 和広 吉江 幹浩 草間 和哉 桑原 直子

稲葉 二郎

学習目標 (GIO) 医薬品の薬理作用に関する知識は薬剤師および薬学を学ぶものにとって必須である。薬理学は、様々な化合物や天然物から医薬品としての有用性を判断する医薬品開発や薬剤師としての職能に直結する重要な科目であり、機能形態学、生化学、有機化学など広範囲の知識も合わせて要求される。本実習では、実験動物を適切に使用する心構え(態度)と正確なデータ取得のための技能を身につけ、臓器レベルあるいは個体レベルでどのような機序を介して薬物の効果が発揮されるかを理解し、講義・演習で得た知識と効果的に連動させ、科学的思考の醸成することを目的とする。また、グループでの実習を通して、チームワークの大切さを理解し、コミュニケーション能力を身につける。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	動物実験における倫理について配慮する。(態度)	E1-1-2-1, X-6-9-3
2	実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	E1-1-2-2
3	実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)	E1-1-2-3
4	中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-1-3-12
5	中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)	E2-1-3-13
6	自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-1-1-4
7	知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-1-2-3
8	腎臓のネフロンに作用する代表的な薬物(利尿薬)の効果を測定できる。(技能)	E2-3-3-1
9	循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	E2-3-1-6
10	薬物効果の評価方法を学び、実習で得られたデータの集計とその評価ができる。(技能)	E3-1-5-5, X-9-2-1~2, X-9-3-2, X-9-3-4
11	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
12	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
13	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	担当者全員	麻酔薬の作用、中枢神経系疾患に関する SGD	1-5、10-13
2	担当者全員	利尿薬の作用	1-3、8、10-13
3	担当者全員	鎮痛薬の作用	1-3、7、10-13
4	担当者全員	演習 1 および薬効評価	1-10
5	担当者全員	腸管平滑筋に作用する薬物	1-3、6、10-13
6	担当者全員	血管平滑筋に作用する薬物	1-3、9-13
7	担当者全員	心臓に作用する薬物	1-3、9-13
8	担当者全員	演習 2	1-10
9	担当者全員	実習試験	1-10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・ 学生の理解を助けるためにプリントを作成し、実習後の解説を進めながら、課題に対処させている。
- ・ 実験方法の原理および実験結果の解釈について、常に SGD で学生の意見を纏めさせ、口頭試問で確認し、さらに実習レポートに記載するように指導している。
- ・ 成績評価では、実習試験だけでなく、実習中の態度、技能(実習結果)について評価し、実習中にフィードバックしている。さらに、実習レポートを提出させ、各自の理解度を確認し、必要に応じて個別の指導

を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

本実習では、4～5名のグループで実習を行う。実験目的の理解、手技習得、SGDによるデータ解析を行い、総合的な理解ができるようにする。実習レポートには、実験結果・考察だけでなく、実習中の口頭試問への対応やSGDの内容についての記述も要求する。また、グループで実習を行うことによって、チームワークの大切さを理解し、コミュニケーション能力の醸成ができるように工夫している。さらに、薬の作用を直接観察することによって、臨床効果を理解できるように工夫している。

〔成績評価方法〕

定期的の実習室内を巡回し、実験手技およびその科学的根拠についてグループあるいは個別に指導を行う。実験内容（目的などを含む）およびその関連知識に関する口頭試問とフィードバックを行い、態度・技能の評価を行う。なお、態度の評価には積極的な参加および提出物の期限遵守も含める。これらの評価に加え、実習試験と実習レポート（課題）の結果から総合的に成績評価を行う。

1) 形成的評価

- a) 知識：実習時間中あるいは終了時にグループ毎に口頭試問を行い、フィードバックする。
- b) 技能：実習時間に、実験手技について、こまめにフィードバックする。
- c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
- d) パフォーマンス：口頭試問にて実験結果を報告させ、質疑応答を通じて、結果の解釈、発表能力についてフィードバックする。

2) 総括的評価：実習試験（40%に換算）、態度と実習レポート（技能）（60%）を総合的に評価する。ただし、それぞれの項目（知識・技能・態度）が独立して到達点（60%）以上であることとする。

- a) 知識：実習試験が60%以上で合とする。
- b) 技能：実習期間中の形成的評価におけるフィードバックで改善されれば合とする。
- c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とするが、総合評価に含める。
- d) パフォーマンス：実習レポート（実習中ポートフォリオと同等）を提出させ、結果・考察の表現力について評価する。

〔教科書〕

医療系実習Ⅰ 薬理学実習（薬学基礎実習教育センター編）

〔参考書〕

薬理学実習の実際とデータの見方（日本私立薬科大学協会薬理学関連教科検討委員会編 南山堂）
グラフィカル機能形態学（京都廣川書店）
薬系薬理学書（南江堂）

〔オフィスアワー〕

本実習担当教員 いつでも可（原則として実習終了後）

〔所属教室〕

田野中浩一、丸ノ内徹郎、矢野絵美 分子細胞病態薬理学 研究2号館504号室
田村和広、吉江幹浩、草間和哉、桑原直子 薬理学 研究2号館404号室
稲葉二郎 薬学基礎実習教育センター 教育2号館2306号室

〔準備学習（予習・復習等）〕

実習する項目に関して毎回1時間は予習して実習に望むこと。また、実習項目ごとに、終了後その日のうちに、結果のまとめと考察を1時間以上行い復習を十分に行うこと。また、実習中のSGDおよび口頭試問にて不明瞭な点は各自で復習する。演習講義の時間を設けており、学習すべき要点を再度指示する。同時に学生はその理解度を確認し、学習を進める。

〔学生へのフィードバック〕

実習中は、実験ごとに、口頭試問または実習後の実験結果解析を行って、結果の解釈に関するフィードバックを行う。また、提出してもらったレポートを確認し、間違い等がある場合には、レポートに記載して返却することによってフィードバックを行う。

〔教員からの一言〕

本実習では、単に薬理学関連の実験を行うだけでなく、実習及び演習の中で機能形態学、生化学、有機化学等の関連科目の復習も行う。実習中に教員が実習班ごとにあるいは演習中に各自に様々な質問をするので、十分な返答ができない場合には、実習班内で良く検討し、その結果をレポートに加えること。

衛生化学・公衆衛生学実習

Laboratory Course in Health and Environment

第3学年 後期 実習科目 1.5単位

藤原 泰之 篠田 陽 高橋 勉 恒岡 弥生

早川磨紀男 藤野 智史 大嶋 利之

安藤 堅

学習目標 人とその集団の健康の保持・増進に貢献できるようになるために、栄養と健康に係わる食品の安全性、及び生活環境を取り囲む汚染物質や公害を引き起こす現象等について理解し、もってこれらに関する基本的知識、技能、態度を習得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)	D1-3-2-2
2	食品中のタンパク質の栄養的な価値(栄養価)を説明し、セミマイクロケルダール法によるタンパク質含有量の測定を実施できる。	D1-3-1-3
3	プロビタミン A (β -カロテン) の役割を説明し、食品中に含まれる β -カロテンを定量できる。	D1-3-1-1
4	ビタミン B_1 の役割を説明し、蛍光光度法を用いてビタミン B_1 を定量できる。	D1-3-1-1
5	食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)	D1-2-3-3
6	室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-5-1
7	主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	D2-2-4-2
8	水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-3-3
9	下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	D2-2-3-4
10	水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	D2-2-3-5
11	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	D2-1-4-1
12	代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	D2-1-4-2
13	人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	D2-2-1-5
14	リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)	D1-1-3-4
15	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
16	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11, F-2-6-13
17	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	F-2-6-11

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	衛生化学教室, 薬学基礎実習教育センター	脂質試験	1, 15~17
2	"	窒素化合物(タンパク質)試験	2, 15~17
3	"	β -カロテンの試験	3, 5, 15~17
4	"	ビタミン B_1 の試験	4, 5, 15~17
5	公衆衛生学教室, 薬学基礎実習教育センター	室内環境: 室内空気試験	6, 13, 15~17
6	"	大気環境: 大気汚染物質試験、環境放射線試験	7, 11~17
7	"	水環境: 飲料水試験	8, 13, 15~17
8	"	水環境: 水質汚濁試験、下水処理	9, 10, 13, 15~17
9	衛生化学教室, 公衆衛生学教室, 薬学基礎実習教育センター	実習試験	1~14

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・実習レポートは、実習項目が終了する度に提出させ、各自の理解度を確認し、必要に応じて個別の指導を行う。
- ・実験項目を終了する度に振り返り講義を行い、知識の定着に努めている。
- ・実験方法の原理や実験結果の解釈について、学生を指名することにより確認している。
- ・実験項目毎に学生に口頭質問することで、実習の習熟度を確認しつつ指導している。
- ・実習時間中に、実習内容に関連した課題を与えグループ討議させることにより、栄養と健康、生活環境と健康に関する問題に対する意識の向上に努めている。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

- ・食品衛生学の実習では、学生が用いる食材を選択し、環境衛生学の実習では、学生が大学敷地内の様々な所でサンプルを採取することにより、実験データに興味を持ってもらうとともに、得られる実験結果が異なるようにすることで、それに責任を持たせるようにしている。
- ・実習書の中に、実験項目ごとに実験結果を記録するページが印刷されており、ミシン目が入っている。学生は、実験項目が終了する度にデータを記録後、切り離して提出できるようにしている。
- ・実習書の巻末に国家試験衛生薬学分野の過去問題を掲載しており、衛生薬学関連の講義（「健康保持と疾病予防」、「生活環境と健康」など）と連携して取り組めるようにしている。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識：実習項目毎に、個別あるいはグループ毎に口頭試問を兼ねた面談を行い、フィードバックする。
 - b) 技能：実習時間中、実験手技について、こまめにフィードバックする。
 - c) 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。
 - d) パフォーマンス：実験結果の報告をさせ、質疑応答を通じて発表能力をフィードバックする。
- 2) 総括的評価：実習試験（50%）、態度と実習レポート（技能）（50%）を総合的に評価する。
 - a) 知識：実習レポート、実習試験から総合的に評価する。ただし、実習試験は得点率 55% 以上で合とする。
 - b) 技能：実習期間中の形成的評価におけるフィードバックで改善されれば合とする。
 - c) 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とするが、総合評価に含める。
 - d) パフォーマンス：実習レポートを提出させ、結果・考察の表現力について評価する。

〔教科書〕

薬学実験書（東京薬科大学編）
必携・衛生試験法第 2 版（金原出版）

〔参考書〕

衛生試験法・注解 2015（金原出版）
第 17 改正日本薬局方解説書（廣川出版）
第 9 版食品添加物公定書解説書（廣川書店）
日本食品標準成分表 2015 年版（七訂）（全国官報販売協同組合）
第 3 版最新衛生薬学（廣川書店）

〔オフィスアワー〕

原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

藤原 泰之	公衆衛生学教室	研究 1 号館 4 階
篠田 陽	公衆衛生学教室	研究 1 号館 4 階
高橋 勉	公衆衛生学教室	研究 1 号館 4 階
恒岡 弥生	公衆衛生学教室	研究 1 号館 4 階
早川 磨紀男	衛生化学教室	研究 1 号館 4 階
藤野 智史	衛生化学教室	研究 1 号館 4 階
大嶋 利之	衛生化学教室	研究 1 号館 4 階
安藤 堅	薬学基礎実習教育センター	教育 2 号館 3 階 2309 教員室

〔準備学習（予習・復習等）〕

復習に重点を置いた指導を行う。実習中は、理解すべき項目を教員が指示する。加えて実習中の SGD および口頭試問にて不明瞭な点を各自が復習する。実習終了後の講義時間を設けており、学習すべき要点を再度指示する。同時に学生はその理解度を確認し、学習を進める。
実習項目ごとに、実習書および関連の教科書等を用いて予習を 1 時間行うこと。さらに、実習を行ったその日のうちに、1 時間以上を目安に、結果のまとめ、考察をするなど、復習を必ず行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

- ・実習期間中を通じて実習態度や実験手技を観察し、こまめにフィードバックする。
- ・実習項目毎に、個別あるいはグループ毎に口頭試問を行い、実習内容の理解度をフィードバックする。
- ・実習項目毎に、個別あるいはグループ毎に実験結果を報告させ、質疑応答を通じて発表能力をフィードバックする。

〔教員からの一言〕

実習のスケジュールを確認して、該当する実習書の範囲を予習して実習に臨んでください。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書やプリントで必ず復習してください。

〔備考〕

- D 衛生薬学
- D 1 健康、(3) 栄養と健康
- D 2 環境、(1) 化学物質・放射線の生体への影響、(2) 生活環境と健康

薬剤学実習

Laboratory Course in Pharmaceutics

第3学年 後期 実習科目 1.5単位

根岸 洋一 多田 壘 高橋 葉子 濱野 展人

高島 由季 茨木 ひさ子 ラユネン タトゥ

井上 勝央 岸本 久直

佐藤 弘人

学習目標 (GIO) 薬物治療においては医薬品がそのまま使用されることはまれであり、多くの場合それを錠剤、カプセル剤、注射剤などに製剤加工したものが用いられる。薬剤学実習では生物薬剤学、物理薬剤学および製剤工学関連分野の実習を通じて、医薬品の適切かつ合理的な使用方法、製剤加工の意義と方法および医薬品の供給と管理などを体得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。(C2(2)【②各種の化学平衡】4.参照)	E5-1-3-1
2	代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明できる。	E5-1-3-2
3	分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。	E5-1-3-3
4	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	C1-3-1-4
5	薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について説明できる。(C1(3)【①反応速度】1.~7.参照)	E5-1-4-2
6	反応速度と温度との関係を説明できる。	C1-3-1-6
7	流動と変形(レオロジー)について説明できる。	E5-1-2-1
8	高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。	E5-1-2-2
9	レオロジー的性質の測定法について説明できる。	T-1
10	粉体の性質について説明できる。	E5-1-1-1
11	製剤材料の物性を測定できる。	Y-5-8-4~5
12	製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。	E5-2-1-1~2, E5-2-2-1~3, Y-5-8-1
13	単位操作を組み合わせて代表的な製剤を調製できる。	E5-2-2-1~2, Y-5-8-2
14	製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。	E5-2-2-4, E5-2-3-1, Y-5-8-3~4
15	製剤に関連する代表的な試験法(製剤均一性試験法、崩壊試験法、溶出試験法、硬度試験、摩損度試験など)を実施し、品質管理に適用できる。	E5-1-1-3~5, T-1, Y-5-8-3~5
16	線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。	E4-2-1-1
17	pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	C2-2-1-2
18	溶解した物質の膜透過速度について説明できる。	T-1
19	線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)(知識、技能)	E4-2-1-2
20	モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。	E4-2-1-4
21	全身クリアランスについて説明し、計算できる。	T-1
22	体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)	E4-2-1-3
23	実験に使用した廃液・廃棄物を適切に処理する。(態度・技能)	Y-3-32-3
24	適切な保護具を付けて実験を行う。(態度・技能)	T-1
25	周囲の安全に配慮して実験を行う。(態度・技能)	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応(SBOs)
1	根岸、多田、高橋、濱野	物理薬剤学実習1 界面活性剤のCMCと可溶化能:SLSによるスダンIIIの可溶化と物性評価	1、2、3、23-25

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
2	根岸、多田、高橋、濱野	物理薬剤学実習 2 医薬品の安定性：アスピリンの溶液中での安定性におよぼす温度の影響（アレニウスプロットによる解析）	4、5、6、23-25
3	根岸、多田、高橋、濱野	物理薬剤学実習 3 レオロジーと演習	7、8、9、23-25
4	高島、茨木、ラユネン	製剤設計学実習 1 製剤原料粉体の物性：流動性評価と分散分析による解析、透過法による比表面積測定、光学顕微鏡法による粒度分布測定 錠剤の製造：打錠用顆粒の調製	10、11、12、13、23-25
5	高島、茨木、ラユネン	製剤設計学実習 2 錠剤の製造：打錠 錠剤の物性：硬度、摩損度、製剤均一性試験	12、13、14、15、23-25
6	高島、茨木、ラユネン	製剤設計学実習 3 錠剤の物性：崩壊試験、薬物溶出特性の測定と解析	14、15、23-25
7	井上、岸本	生物薬剤学実習 1 pH 分配仮説実験およびデータ解析を行い、油水分配係数、pKa を算出し、薬物の生体膜透過性と pH との関係を理解する	17、18、23-25
8	井上、岸本	生物薬剤学実習 2 薬物速度論 I：in vitro 実験により、経口投与後の薬物の血中濃度および消化管内濃度を測定し、データ解析のための各種グラフ作成法を修得する	16、19-22、23-25
9	井上、岸本	生物薬剤学実習 3 薬物速度論 II：薬物速度論 I で得られた各種データを用いて、1-コンパートメントモデルによる線形薬物速度論解析およびモーメント解析を行い、薬物速度論を理解する	16、19-22、23-25
10	担当教員全員	実習試験	1-21

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

実習を進行しながら、実習テキスト内に課した課題および演習問題について回答を記述させている。毎回の実習終了後に少人数（実習プラquetteごと又は実習ペアごと）での口頭試問を行い、解答の是非について学生間で討論してもらう。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

できるだけわかりやすく解説し、口頭試問を行うことにより理解度をフィードバックしている。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- 知識：実習時間中あるいは終了時にグループ毎に口頭で試問を行い、フィードバックする。
- 技能：実習時間に、実験手技について、こまめにフィードバックする。
- 態度：実習期間中を通じて観察を行い、その場でフィードバックする。

2) 総括的評価：実習試験（49%）、態度（15%）、口頭試問（6%）、実習レポート（30%）を総合的に評価する。ただし、それぞれの項目（知識・態度・技能）が独立して到達点以上であることとする。

- 知識：実習試験、口頭試問、実習レポートの課題の記述内容が到達点以上であれば合とすが、総合評価に含める。
- 技能：実習期間中の形成的評価におけるフィードバックで改善されれば合とすが総合評価に含める。
- 態度：繰り返しの形成的評価で改善が認められれば合とすが、総合評価に含める。

〔教科書〕

実習書（薬学基礎実習教育センター編）

〔参考書〕

最新薬剤学 第11版（尾関、井上編集、廣川書店）

〔オフィスアワー〕

いつでも可、要予約。

〔所属教室〕

根岸洋一 薬物送達学教室研究1号館3階
 多田壘 薬物送達学教室研究1号館3階
 高橋葉子 薬物送達学教室研究1号館3階
 濱野展人 薬物送達学教室研究1号館3階
 高島由季 製剤設計学教室研究2号館3階
 茨木ひさ子 製剤設計学教室研究2号館3階
 井上勝央 薬物動態制御学教室研究1号館3階
 岸本久直 薬物動態制御学教室研究1号館3階
 佐藤弘人 薬学基礎実習教育センター教育2号館2206

〔準備学習（予習・復習等）〕

本実習は、実験操作および結果の解析・考察を通じて、2年次科目の「物理薬剤学」3年次前期科目の「生物薬剤学」と「製剤設計学」で修得する薬剤学分野の基礎知識についての理解を深める内容となっています。

実習する項目に関して、実習書、WebClass、参考書を用いて毎回1時間は予習して実習に望むこと。また、実習項目ごとに、終了後その日のうちに、結果のまとめと考察、演習課題、チェックテストを1時間以上行い復習を十分に行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

実習中の繰り返しの指導により作成されたレポートが基準に達していない場合、指導後に再提出をしてもらう。知識および技能の基準未達者に対しては、基準に達していない項目を明示し、再度実習または口頭試問を行う

〔教員からの一言〕

本実習では、クラスを3グループに大別し、同時並行で実施される3分野の薬剤系実習（物理薬剤学、生物薬剤学、製剤設計学）をローテーション形式で受講してもらいます。万一の欠席は履修時間不足につながる可能性がありますので体調管理は万全に実習に取り組んでください。課題やレポートは期日を厳守して提出してください。

〔備考〕

本実習の到達目標としては E4 薬の生体内運命に関する項目、E5 製剤化のサイエンスに関する項目が相当する。

病態生理学・薬物安全性学実習

Laboratory Course in Fundamental Pharmacy II : Laboratory Course in Pathophysiology and Drug Safety

第 3 学年 後期 実習科目 1.5 単位

市田 公美、長谷川 弘、藤田 恭子
 小倉 健一郎、西山 貴仁、大沼 友和
 今田 啓介

学習目標 医療チームの一員として活躍出来る薬剤師として必要な病態生理学ならびに薬物や化学物質の毒性・安全性 (GIO) に関する知識・技術・態度を修得する。本実習においては、間接法による血圧測定を修得し、自分自身の尿を用いて腎臓による体液調節の機構および試験紙による尿一般検査について学ぶ。次いで、薬物代謝酵素の誘導、阻害および代謝的活性化機構を動物実験ならびに突然変異原性試験を通じて学ぶ。さらには薬毒物分析法ならびにシアン化合物の毒性と解毒法について学ぶ。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	血圧の調節機構について説明できる。[知識]	C7-2-5-1
2	高血圧について概説できる。[知識]	E1-2-1-1, E2-3-1-4
3	間接法による血圧測定ができる。[技能]	F-3-1-3 ~ 4
4	試験紙法による尿の一般検査の項目を列挙できる。[知識]	E1-2-2-1
5	試験紙法による尿の一般検査の測定原理を説明できる。[知識]	E1-2-2-1
6	試験紙法により尿の一般検査項目を測定できる。[技能]	E1-2-2-1, F-3-1-3 ~ 4
7	尿検査の異常から推測される疾病を挙げることができる。[知識]	E1-2-2-1
8	腎の役割について説明できる。[知識]	C7-2-7-1 ~ 2
9	腎クリアランスについて説明できる。[知識]	E4-1-5-2
10	糸球体ろ過量について説明できる。[知識]	E4-1-5-2
11	体液の調節機構について説明できる。[知識]	C7-2-7-1
12	尿の生成機構、尿量の調節機構について説明できる。[知識]	C7-2-7-2
13	Jaffe 法により尿中クレアチニンを測定できる。[技能]	E4-1-5-2, F-3-1-3 ~ 4
14	糸球体ろ過量を計算できる。[技能]	E4-1-5-2, F-3-1-3 ~ 4
15	薬物代謝酵素が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。[知識]	D2-1-3-1, E4-1-4-1, E4-1-4-3
16	薬物代謝酵素の誘導および阻害機構を概説し、動物実験により薬物相互作用の有無を判定できる。[知識・技能]	E1-1-2-2 ~ 3, E4-1-4-5
17	医薬品の安全性試験に用いられる変異原性試験 (Ames 試験) の原理を説明し、実施できる。[知識・技能]	D2-1-3-2
18	代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、解説できる。[知識]	D2-1-1-7
19	薬物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。[知識]	C2-6-1-1, Y-4-3-2
20	代表的な中毒原因物質を分析できる。[技能]	D2-1-1-7, E3-1-3-1, Y-4-3-3
21	化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を概説できる。[知識]	D2-1-1-6, Y-4-3-1
22	安全性に配慮し薬品を取り扱うとともに、廃棄物を適切に廃棄、処理する。[技能・態度]	F-2-6-11, F-2-6-13
23	適切な保護具を付けて実験を行う。[態度・技能]	F-2-6-11
24	動物実験における倫理について配慮する。[態度] 実験動物を適正に取り扱うことができる。[技能] 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。[技能]	E1-1-2-1 ~ 3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	病態生理学教室	実習項目内容説明	1 ~ 14
2	"	血圧測定、尿の一般検査 (試験紙法)	1 ~ 7, 22
3	"	腎機能と体液調節 (水、食塩水の負荷、採尿)	8 ~ 12, 22
4	"	腎機能と体液調節 (尿浸透圧および尿クレアチニンの測定)	8 ~ 14, 19, 22, 23

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
5	薬物代謝安全性学教室	薬物代謝酵素の誘導および阻害と薬物耐性	15、16、22～24
6	"	突然変異誘発試験 (Ames 試験)	17、22
7	"	シアン化合物の急性毒性と解毒剤	21～24
8	"	薬毒物分析法 (第二属不揮発性毒物)	18～23
9	病態生理学教室、薬物代謝安全性学教室	実習試験	1～21

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・レポートを各実習項目ごとに提出させている。
- ・グループ毎に実習結果を討議する時間を設けている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・実習専用の実験書を作成し、目的、操作方法等を明確にし、予習に役立てるようにしている。また、補助資料をプリントあるいは WebClass により配布している。
- ・実習がスムーズかつ安全に行えるよう、操作の前には必ずデモンストレーションを行っている。
- ・各実習項目の終了後に個別あるいはグループ面談を行い、実習項目の理解力の向上に努めている。

〔成績評価方法〕

病態生理学・薬物安全性学実習では、実習中に教員が巡回し、実習の指導・観察・評価を行う。

1) 形成的評価

- 知識：実習時間中あるいは終了時にグループ毎に口頭試問を行い、フィードバックする。
- 技能：実習時間中に、実験手技を観察し、こまめにフィードバックする。
- 態度：実習期間中を通じて観察し、実習態度不良者については、フィードバックを行い改善を促している。
- パフォーマンス：実習を通じて自身のパフォーマンスをルーブリック評価表により自己評価させる。

2) 総括的評価

- 知識：実習試験と実習レポートにて評価する。なお、実習試験成績不良者については再試験を実施するが、その際別途レポート提出を課す。
- 技能：実習期間中の観察と実験結果により総合的に判断する。
- 態度：実習期間中を通じて観察により総合的に判断する。

成績は、実習試験 (50%)、実習レポート (26%)、技能・態度 (24%) により総合的に評価する。

〔教科書〕

薬学実験書 (東京薬科大学編)

〔参考書〕

薬学生のための新臨床医学 (市田、細山田編 慶川書店)

疾病と病態生理 (橋本、佐藤、豊島編、南江堂)

治療薬マニュアル (医学書院)

今日の治療薬 (南江堂)

最新衛生薬学 (菊川、別府編 慶川書店)

衛生薬学－健康と環境－ (渡部、井村編 丸善)

〔オフィスアワー〕

病態生理学教室：原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

薬物代謝安全性学教室：原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

薬学基礎実習教育センター：原則的にいつでも可であるが、事前に予約することが望ましい。

〔所属教室〕

市田 公美 病態生理学教室 研究2号館6階

長谷川 弘 病態生理学教室 研究2号館6階

藤田 恭子 病態生理学教室 研究2号館6階

小倉 健一郎 薬物代謝安全性学教室 研究1号館4階

西山 貴仁 薬物代謝安全性学教室 研究1号館4階

大沼 友和 薬物代謝安全性学教室 研究1号館4階

今田 啓介 薬学基礎実習教育センター 教育1号館3階

〔準備学習 (予習・復習等)〕

実習は複雑な操作法が伴います。必ず前日までに実習書を読んで手順を予習して実習に臨んで下さい。また、実習で行ったことを、関連する授業の教科書や講義用プリントで必ず復習して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

病態生理学・薬物安全性学実習では、実習中に教員が巡回し、実習の指導・観察を行い、実験手技や態度など常にフィードバックを行う。また、実験結果についても個別または全体に対して解説や補足などを行う。

実務実習事前実習

Introductory Course in Pharmacy Practice

第4学年 前期 実習科目 3単位

堀 祐輔 国分 秀也 戸張 裕子 秋山 滋男 大山 勝宏 影山 美穂 武井 佐和子 濱田
真向 別生 伸太郎 増田 多加子
杉浦 宗敏 今井 志乃ぶ 清海 杏奈
下枝 貞彦 平田 尚人
畝崎 榮 川口 崇
平野 俊彦 杉山 健太郎 恩田 健二 田中 祥子
山田 純司 大友 隆之
降幡 知巳 柴崎 浩美 横川 彰朋
成井 浩二 富澤 明子
東京医科大学 冷水 育

学習目標 実務実習事前実習は実務実習事前学習Ⅰ(前期)およびⅡ(後期)と連携して、卒業後、医療、健康保険事業(GIO)に参画できるようになるための5年次の病院実務実習・薬局実務実習に先立って、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を学内で修得する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。	F-1-2-1
2	患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。	F-1-2-2
3	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。	F-1-2-3
4	病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	F-1-3-1
5	病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。	F-1-3-2
6	病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	F-1-3-3
7	病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	F-1-3-4
8	薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。	F-1-3-5
9	調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。	F-2-1-1
10	代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	F-2-2-1
11	処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。	F-2-2-2
12	処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。	F-2-2-3
13	処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。	F-2-2-4
14	処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。	F-2-2-5
15	処方せん等に基づき疑義照会ができる。	F-2-2-6
16	薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。	F-2-3-1
17	主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	F-2-3-2
18	処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。	F-2-3-3
19	後発医薬品選択の手順を説明できる。	F-2-3-4
20	代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	F-2-3-5
21	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	F-2-3-6
22	抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。	F-2-3-7
23	処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。	F-2-3-8
24	適切な態度で、患者・来局者と対応できる。	F-2-4-1
25	妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。	F-2-4-2
26	患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。	F-2-4-3

番号	内容	コアカリとの関連コード
27	患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。	F-2-4-4
28	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。	F-2-4-5
29	患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。	F-2-4-6
30	薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。	F-2-4-7
31	代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。	F-2-4-8
32	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	F-2-5-1
33	医薬品管理の流れを概説できる。	F-2-5-2
34	劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-3
35	特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。	F-2-5-4
36	代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。	F-2-5-5
37	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	F-2-5-6
38	薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	F-2-5-7
39	医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。	F-2-5-8
40	処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。	F-2-6-1
41	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。	F-2-6-2
42	代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。	F-2-6-3
43	感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。	F-2-6-4
44	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。	F-2-6-5
45	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。	F-2-6-6
46	医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。	F-2-6-7
47	基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	F-3-1-1
48	患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。	F-3-1-2
49	身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	F-3-1-3
50	基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。	F-3-1-4
51	薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。	F-3-2-1
52	代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	F-3-3-1
53	病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	F-3-3-2
54	患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。	F-3-3-3
55	皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	F-3-3-4
56	代表的な輸液の種類と適応を説明できる。	F-3-3-5
57	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。	F-3-3-6
58	代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	F-3-4-1
59	代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。	F-3-4-2
60	代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。	F-3-4-3
61	チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	F-4-1-1
62	多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	F-4-1-2
63	病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。	F-4-1-3
64	地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。	F-4-2-1
65	地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。	F-4-2-2
66	在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。	F-5-1-1
67	在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。	F-5-1-2
68	在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。	F-5-1-3
69	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。	F-5-3-1
70	代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。	F-5-3-2
71	代表的な症候に対する要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。	F-5-3-3

番号	内容	コアカリとの関連コード
72	代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。	F-5-3-4
73	災害時医療について概説できる。	F-5-4-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
	薬学実務実習 教育センター	計数	16 18
	薬学実務実習 教育センター	散剤	16 18
	薬学実務実習 教育センター	水剤	16 18
	薬学実務実習 教育センター	軟膏	16 18
	薬学実務実習 教育センター	調剤監査	12 13 14 23
	薬学実務実習 教育センター	配合変化	20
	薬学実務実習 教育センター	疑義照会	12 13 14 15
	薬学実務実習 教育センター	特殊医薬品	32 34
	薬学実務実習 教育センター	製剤	29 37
	薬学実務実習 教育センター、臨 床薬理学教室、医 療実務薬学教室	無菌 I	43 44 45
	薬学実務実習 教育センター、臨 床薬理学教室、医 薬品安全管理学	無菌 II	21
	薬学実務実習 教育センター	医療事故分析	42
	薬学実務実習 教育センター	TDM a	52,53,58
	薬学実務実習 教育センター	TDM b	52,53,58
	薬学実務実習 教育センター	フィジカル (アセスメント)	49,50
	薬学実務実習 教育センター	処方提案 S	22 48 51 53
	薬学実務実習 教育センター	患者心理	2,3
	薬学実務実習 教育センター	薬剤の使用法 II	29
	薬学実務実習 教育センター、医 療実務薬学教室	初回面談	24 26 30 48
	薬学実務実習 教育センター、臨 床医療薬学セン ター、医薬品安全 管理学教室	服薬説明	24 27 31 59 60
	薬学実務実習 教育センター、臨 床薬理学教室、個 別化薬物治療学 教室	患者応対	24 26 48
	薬学実務実習 教育センター、臨 床薬理学教室	薬剤交付	24 27 31 59 60
	一般用医薬品学教 室、薬学実務実習 教育センター	OTC	24 70 71
	薬学実務実習 教育センター	在宅医療 S	65 66 67 68
	薬学実務実習 教育センター	総合学習 (自学習)	1-73
	薬学実務実習 教育センター	総合学習 (実技試験)	1-73

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・臨床現場で用いる実薬を実際に使用して実習を行っている。
- ・評価表を用いて学生相互ならびに教員によるチェックを行っている。実習最後に、その評価表とコメントを各自で記入してもらい、理解度の調査を行うと共に、理解不足の点について解説を加えている。講義中にクイズ形式の問題を行い、学生からの解答を基に解説を加えている。講義最後に各自の回答とコメントを記入してもらい、フィードバックを行っている。
- ・症例についてPC等持ち込み可の調査時間を設けて、学生3人1組によるTBL (Team Based Learning) を行っている。
- ・症例をベースとしたTBLを行っている。TBLのプロダクトは、全員が必ず発表者となるような学習方略により、リーダーシップや情報発信能力の醸成に心がけている。
- ・生体シミュレータを活用した実技試験を授業内で実施している。
- ・模擬患者さん参加のグループでの参加型実習を行っている。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

病院・薬局実務実習に行く前の事前教育である。実務に即した講義、演習、実習、SGDなど多様な内容の学習があり、必要に応じて、試験、レポート、プロダクトの作製、評価表などを活用して実務実習に必要な知識、技能、態度を修得させる。計量調剤実習については一人一台の調剤台、注射剤調剤ではクリーンベンチ内に液晶モニターの設置により、充実した実習を可能にした。また、散剤調剤台には集塵装置を設置して学生の健康面への配慮をした。更に、生体シミュレータを活用したフィジカルアセスメントやバイタルサインチェックの基本実習を導入し、今後薬剤師に求められる副作用未然防止能力の向上に資する実習を充実させた。学習内容によっては模擬患者や医療現場の薬剤師等が参画する。

〔成績評価方法〕

[形成的評価]

- 知識：授業で示した演習問題を繰り返し実施し、解説にてフィードバックする。
- 技能：実習中に手順、手技、器具の扱い等について繰り返しフィードバックし習熟するよう努める。
- 態度：実習に臨む態度で評価する。実習中に適時フィードバックする。
- パフォーマンス：口頭試問を活用して適宜習熟度を確認する。

[総括的評価]

- 知識：客観試験で評価する(10%)。
- 技能：実技試験で評価する(90%)。
- 態度：繰り返し形成的評価を実施し改善が認められ、かつ実技試験において医療人としての基準に達していれば合格とする。
- パフォーマンス：授業内提出物、授業態度、および実技試験の結果を総合的に判断し行う。

〔教科書〕

実務実習事前学習実習書(東京薬科大学版)
治療薬マニュアル(医学書院)または 今日の治療薬(南江堂)

〔参考書〕

山田安彦編著：理論調剤学(京都廣川書店)
日本薬剤師会編：第14改訂調剤指針増補版(薬事日報社)
日本薬学会編：スタンダード薬学シリーズII7 臨床薬学I、II、III(東京科学同人)

〔オフィスアワー〕

原則的にはいつでも可であるが、電話やメールによる事前予約が望ましい。
前期は、事前実務実習実施期間のため、18時以降のみの対応となる。
教育5号館の4階から上階の実習室および教員室は、土足厳禁です。

〔所属教室〕

各教員の居室は次の通り
薬学実務実習教育センター
堀 祐輔：6階 5605 教員室
国分秀也 戸張裕子：5階 5506 教員室
秋山滋男 大山勝宏 影山美穂 武井佐和子 濱田真向
別生伸太郎 増田多加子：6階 5601 教員室

医薬品安全管理学教室

杉浦宗敏 今井志乃 清海杏奈

臨床薬剤学教室

下枝貞彦 平田尚人

医療実務薬学教室

畝崎榮 川口崇

臨床薬理学教室

平野俊彦 杉山健太郎 恩田健二 田中祥子

臨床医療薬学センター

山田純司 大友隆之

個別化薬物治療学教室

降幡知巳 柴崎浩美 横川彰朋

一般用医薬品学教室

成井浩二 富澤 明子

〔準備学習(予習・復習等)〕

5年次の実務実習のための事前学習であるので、学外施設での実務実習と同様の「身だしなみ」(実習書の記載通り)で実習に臨むこと。

〔学生へのフィードバック〕

知識領域のフィードバックは、授業中の形成的評価ならびに客観試験を複数回実施することで行う。
技能・態度領域のフィードバックは、実習中の形成的評価ならびに実技試験を複数回実施することで行う。

〔教員からの一言〕

事前実務実習および実務実習は、3年生までに学んできた薬学の知識が必要です。準備学習項目に記載した関係科目については、復習しておくこと。

〔備考〕

実務家教員担当科目

実務実習

Pharmacy Practice

第 5 学年 通年 実習科目 20 単位

杉浦 宗敏

堀 祐輔

全教室・研究室・センターの教員が担当する

学 習 目 標 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。

(1) 薬学臨床の基礎

医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場に必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。

(2) 処方せんに基づく調剤

処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

(3) 薬物療法の実践

患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

(4) チーム医療への参画

医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。

(5) 地域の保健・医療・福祉への参画

地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。

行動目標 (SBOs)

番 号	内 容	コアカリとの関連コード
1	改訂モデル・コアカリキュラム：F 薬学臨床（薬局実習）	F-1-2-4～7, F-1-3-11～15, F-2-1-2～4, F-2-2-7～11, F-2-3-9～19, F-2-4-9～15, F-2-5-9～12, F-2-6-8～12, F-3-1-5～7, F-3-2-2～6, F-3-3-7～14, F-3-4-4～13, F-4-2-3～4, F-5-1-4～6, F-5-2-3～4, F-5-3-5～9, F-5-4-2～3
2	改訂モデル・コアカリキュラム：F 薬学臨床（病院実習）	F-1-2-4～7, F-1-3-6～13, F-2-1-2～3, F-2-2-7～11, F-2-3-9～19, F-2-4-9～15, F-2-5-9～13, F-2-6-8～14, F-3-1-5～7, F-3-2-2～6, F-3-3-7～14, F-3-4-4～13, F-4-1-4～9, F-4-2-3, F-5-4-2～3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
薬局 11 週間	指導薬剤師 実習施設担当教員	(1) 薬学臨床の基礎 ②臨床における心構え ③臨床実習の基礎 (2) 処方せんに基づく調剤 ①法令・規則等の理解と遵守 ②処方せんと疑義照会 ③処方せんに基づく医薬品の調製 ④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育 ⑤医薬品の供給と管理 ⑥安全管理 (3) 薬物療法の実践 ①患者情報の把握 ②医薬品情報の収集と活用 ③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案) ④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価) (4) チーム医療への参画 ②地域におけるチーム医療 (5) 地域の保健・医療・福祉への参画 ①在宅 (訪問) 医療・介護への参画 ②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画 ③プライマリケア、セルフメディケーションの実践 ④災害時医療と薬剤師	1
病院 11 週間	指導薬剤師 実習施設担当教員	(1) 薬学臨床の基礎 ②臨床における心構え ③臨床実習の基礎 (2) 処方せんに基づく調剤 ①法令・規則等の理解と遵守 ②処方せんと疑義照会 ③処方せんに基づく医薬品の調製 ④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育 ⑤医薬品の供給と管理 ⑥安全管理 (3) 薬物療法の実践 ①患者情報の把握 ②医薬品情報の収集と活用 ③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案) ④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価) (4) チーム医療への参画 ①医療機関におけるチーム医療 ②地域におけるチーム医療 (5) 地域の保健・医療・福祉への参画 ④災害時医療と薬剤師	2

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

指導薬剤師による概略評価を基に個別指導とフィードバックが行われる。
 指導薬剤師から必要に応じて課題が出される。
 実習施設と大学で実習報告会が行われる。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

実務実習施設の指導薬剤師と担当教員 (コーディネーター) の連携のもと個々に対応する。

〔成績評価方法〕

1 形成的評価

d) パフォーマンス: 実習期間中、2, 4 週間ごとに概略評価 (ルーブリック評価など) を行う。

2 総括的評価

d) パフォーマンス: 実習期間終了後、実習期間中に行った概略評価 (ルーブリック評価など) の結果に基づいて総合的に評価する (修得度: 50%、取り組み姿勢 50%)。
 なお、全出席を原則とする。

〔教科書〕

特に定めていない。実習施設により異なる。

〔参考書〕

調剤指針 第13改訂 著者/編者: 日本薬剤師会 編 出版社: 薬事日報社
 治療薬マニュアル 著者/編者: 高久史磨・矢崎義雄監修 出版社: 医学書院

〔オフィスアワー〕

杉浦 宗敏 予約すればいつでも可能。 医薬品安全管理学教室
 堀 祐輔 予約すればいつでも可能。 薬学実務実習教育センター

〔所属教室〕

全ての教室、研究室、センターの教員がコーディネーターとなり実習施設を担当する。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

実習開始までに以下の復習をすることが望ましい。

4年次までに学習した主な疾患について病態・症状・検査所見・治療法および治療薬の特徴を復習しておくこと。

薬の知識、医療人としての態度、保険薬局および保険薬剤師に関連した制度および法律について復習しておくこと。

代表的な薬剤については、一般名と製品名を整理しておくこと。

〔学生へのフィードバック〕

実習期間中の評価ごとに、あるいは日誌、課題、実習報告書の提出、実務実習報告会での発表、それぞれの機会に、アドバイスやコメントを伝えている。

〔教員からの一言〕

医療現場での貴重な時間を有効に活用してください。

将来の進路に係らず薬剤師としての素養を修得する機会として取り組んでください。

〔備考〕

実務家教員担当科目。

薬局実務実習はⅠ期（2月～5月）、Ⅱ期（5月～8月）、Ⅲ期（8月～11月）の期間で実施し、続けて病院実務実習としてⅡ期（5月～8月）、Ⅲ期（8月～11月）、Ⅳ期（11月～2月）の期間でそれぞれ11週間実施する。

医療薬学課題研究（実験研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、実験研究コースでは、将来、研究活動に参画できるようになるために、その基本的理念および態度を修得し、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。さらに研究活動を通して、自ら得た成果を世に問う研究の醍醐味を体感する。調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
	卒論指導教員	各卒論指導教員との話し合いで、研究テーマを設定し、実験計画を立てる。教員の指導のもとで実験研究を遂行する。卒業論文の作成、卒論発表を行う。	1-27

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1) 配属決定：3年次秋に、自己推薦方式ならびに一般方式によって、学生の希望に従い配属先ならびに実験研究または調査研究コースを決定する。このプロセスは、その後の大学生生活を左右する非常に重要なステップであり、個々の決断力が求められる。配属決定に係る詳細についてはガイダンス時に詳細な資料を配布する。

2) 3年次～4年次：配属先ごとに定められた活動や、担当教員や先輩たちとのコミュニケーションを通じ、研究内容や指導方針に触れ、各自の学習のプロセスとゴールのイメージ作りをする。また、基礎的な技術を習得し、研究活動をスタートする。

3) 4年次～5年次：共用試験が終了するころから本格的に研究に専念する。長期実務実習の期間を除き、十分な時間を使って積極的に研究する。学会活動などにも参加する。

4) 6年次：8月～9月の卒論発表ならびに卒論提出に向け、卒論研究の完成に向けて精力的に研究する。大学指定の書式で要旨を作成、学科ごとに発表会を開催し(分科会)、各個人で卒論を作成し提出する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

指導教員ならびに教室の先輩との交流を通じ、研究に関する考え方、基本的な手法、実験計画の立案、実施、結果の解釈、から最終的には学会発表に至るまで、それぞれのテーマとペースに応じた個別指導を行っている。

〔成績評価方法〕

各配属先で定めた卒論研究時間、提出物、学会発表、卒論発表、卒論の内容から下記の実験研究コースの項目を基に総合的に判断する。

[項目]	[実験研究コース]	[調査研究コース]	[評価部分点(%)]
先行研究	基礎実験・情報収集	情報収集	15
先端研究	学内外の学会・研究会参加等	医療の最前線	15
研究立案	研究立案	問題解決(PBLT)	10
研究実践	実験研究	調査研究	20
卒論発表	卒論発表	卒論発表	20
論文作成	論文作成	論文作成	20

〔教科書〕

各配属先で指定する

〔参考書〕

各配属先で指定する

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う

〔所属教室〕

教室、研究室、センターにて実施する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

卒論期間は、予習・実践・復習の連続である。3年後期から6年の秋まで、これを繰り返すことで、高い課題発見解決能力を醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、実験結果の解析と評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

医療薬学課題研究（調査研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
全	コースワーク各担当教員 各卒論担当指導教員	コースワークおよびリサーチワーク	上記のSBOsならびに各リサーチワークに関するSBOs

医療薬物薬学課題研究（実験研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、実験研究コースでは、将来、研究活動に参画できるようになるために、その基本的理念および態度を修得し、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。さらに研究活動を通して、自ら得た成果を世に問う研究の醍醐味を体感する。調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
	卒論指導教員	各卒論指導教員との話し合いで、研究テーマを設定し、実験計画を立てる。教員の指導のもとで実験研究を遂行する。卒業論文の作成、卒論発表を行う。	1-27

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1) 配属決定：3年次秋に、自己推薦方式ならびに一般方式によって、学生の希望に従い配属先ならびに実験研究または調査研究コースを決定する。このプロセスは、その後の大学生生活を左右する非常に重要なステップであり、個々の決断力が求められる。配属決定に係る詳細についてはガイダンス時に詳細な資料を配布する。

2) 3年次～4年次：配属先ごとに定められた活動や、担当教員や先輩たちとのコミュニケーションを通じ、研究内容や指導方針に触れ、各自の学習のプロセスとゴールのイメージ作りをする。また、基礎的な技術を習得し、研究活動をスタートする。

3) 4年次～5年次：共用試験が終了するところから本格的に研究に専念する。長期実務実習の期間を除き、十分な時間を使って積極的に研究する。学会活動などにも参加する。

4) 6年次：8月～9月の卒論発表ならびに卒論提出に向け、卒論研究の完成に向けて精力的に研究する。大学指定の書式で要旨を作成、学科ごとに発表会を開催し(分科会)、各個人で卒論を作成し提出する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

指導教員ならびに教室の先輩との交流を通じ、研究に関する考え方、基本的な手法、実験計画の立案、実施、結果の解釈、から最終的には学会発表に至るまで、それぞれのテーマとペースに応じた個別指導を行っている。

〔成績評価方法〕

各配属先で定めた卒論研究時間、提出物、学会発表、卒論発表、卒論の内容から下記の実験研究コースの項目を基に総合的に判断する。

[項目]	[実験研究コース]	[調査研究コース]	[評価部分点(%)]
先行研究	基礎実験・情報収集	情報収集	15
先端研究	学内外の学会・研究会参加等	医療の最前線	15
研究立案	研究立案	問題解決(PBLT)	10
研究実践	実験研究	調査研究	20
卒論発表	卒論発表	卒論発表	20
論文作成	論文作成	論文作成	20

〔教科書〕

各配属先で指定する

〔参考書〕

各配属先で指定する

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う

〔所属教室〕

教室、研究室、センターにて実施する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

卒論期間は、予習・実践・復習の連続である。3年後期から6年の秋まで、これを繰り返すことで、高い課題発見解決能力を醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、実験結果の解析と評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

医療薬物薬学課題研究（調査研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
全	コースワーク各担当教員 各卒論担当指導教員	コースワークおよびリサーチワーク	上記のSBOsならびに各リサーチワークに関するSBOs

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

調査研究コースは、コースワークとリサーチワークから構成される。
コースワークは、情報収集、医療の最前線、問題解決をクラスまたはチーム/グループ単位で実施する。リサーチワークは卒論配属先で行う。
情報収集では、実務実習における症例検討の際に必要な基礎知識習得ならびに調査研究に必要な情報収集法習得のための演習を行う。さらに、実務実習で学んだ症例を利用した問題作成演習もグループ学習による取り入れる。
医療の最前線では、医療コミュニケーション習得のためのグループワークへの参加、医療の現場で活躍する講師の講演を拝聴し指定された書式でプロダクトおよびレポートを作成する。
問題解決では、小グループ学習形式（PBLT）による課題発見解決型の演習を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

学生は3年生後期に実施されるガイダンスならびに資料に基づき、実験研究コース（主に実験研究を行う）または調査研究コース（主に演習を中心に行う）を選択する。リサーチワークとして実施する課題研究は、卒論指導教員と相談して研究テーマを学生ごとに決定する。配属先の具体的な課題ならびに研究テーマは本学ホームページを参照。

調査研究コースプログラムの概要：

（課題研究に加え、下記のプログラムに参加する）詳細は、別冊資料を参照。

情報収集（5単位）：グループ学習も含めた演習形式の授業により、基礎学力の確認と醸成を行う。実務実習に臨む直前の時期（5年生第1ターム）には、医療実務分野に必要な専門知識を復習して理解を深める。リサーチワークで必要となる情報収集法を習得する。

医療の最前線（2単位）：4年生1-2月ならびに5年生第1タームには医療コミュニケーション演習をグループワークで行いプロダクトを作成提出する。医療現場で必要となるコミュニケーション能力を習得する。5年生第7タームには学外の講師による講演（オムニバス形式）を聞き、課題レポートを作成提出する。医療の最前線に関連する知識に触れ、自ら調査解析する能力を習得する。

問題解決（1単位）：小人数クラスによる演習を行い、薬学生として求められる知識・技能・態度について総合的に学ぶ。課題研究に必要な問題解決能力を習得する。

〔成績評価方法〕

情報収集は出席状況と演習総括試験の成績によって評価する。

医療の最前線は、出席状況と指定されたプロダクトおよびレポートの提出によって評価する。

問題解決は各クラスの担当者が出席状況、参加態度、プロダクトによって評価する。

リサーチワークは卒論指導教員が、調査研究内容と発表会でのパフォーマンスから評価する。

これらを総合し、総括的評価は下記の調査研究コースの項目を基に卒論指導教員が行う。

[項目]	[調査研究コース]	[評価部分点(%)]
先行研究	情報収集	15
先端研究	医療の最前線	15
研究立案	問題解決（PBLT）	10
研究実践	調査研究	20
卒論発表	卒論発表	20
論文作成	論文作成	20

〔オフィスアワー〕

コースワーク：杉浦 宗敏 随時対応する。医薬品安全管理学教室 医療棟3階 M304号室。

リサーチワーク：各卒論担当指導教員

〔準備学習（予習・復習等）〕

卒論期間は、予習・実践・復習の連続である。3年生後期から6年生までこれを継続して繰り返し、高い課題発見解決能力を醸成すること。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、調査・解析した結果の評価を行い、知識・技能・態度についてフィードバックする。

医療衛生薬学課題研究（実験研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、実験研究コースでは、将来、研究活動に参画できるようになるために、その基本的理念および態度を修得し、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。さらに研究活動を通して、自ら得た成果を世に問う研究の醍醐味を体感する。調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
	卒論指導教員	各卒論指導教員との話し合いで、研究テーマを設定し、実験計画を立てる。教員の指導のもとで実験研究を遂行する。卒業論文の作成、卒論発表を行う。	1-27

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

1) 配属決定：3年次秋に、自己推薦方式ならびに一般方式によって、学生の希望に従い配属先ならびに実験研究または調査研究コースを決定する。このプロセスは、その後の大学生生活を左右する非常に重要なステップであり、個々の決断力が求められる。配属決定に係る詳細についてはガイダンス時に詳細な資料を配布する。

2) 3年次～4年次：配属先ごとに定められた活動や、担当教員や先輩たちとのコミュニケーションを通じ、研究内容や指導方針に触れ、各自の学習のプロセスとゴールのイメージ作りをする。また、基礎的な技術を習得し、研究活動をスタートする。

3) 4年次～5年次：共用試験が終了するころから本格的に研究に専念する。長期実務実習の期間を除き、十分な時間を使って積極的に研究する。学会活動などにも参加する。

4) 6年次：8月～9月の卒論発表ならびに卒論提出に向け、卒論研究の完成に向けて精力的に研究する。大学指定の書式で要旨を作成、学科ごとに発表会を開催し(分科会)、各個人で卒論を作成し提出する。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

指導教員ならびに教室の先輩との交流を通じ、研究に関する考え方、基本的な手法、実験計画の立案、実施、結果の解釈、から最終的には学会発表に至るまで、それぞれのテーマとペースに応じた個別指導を行っている。

〔成績評価方法〕

各配属先で定めた卒論研究時間、提出物、学会発表、卒論発表、卒論の内容から下記の実験研究コースの項目を基に総合的に判断する。

[項目]	[実験研究コース]	[調査研究コース]	[評価部分点(%)]
先行研究	基礎実験・情報収集	情報収集	15
先端研究	学内外の学会・研究会参加等	医療の最前線	15
研究立案	研究立案	問題解決(PBLT)	10
研究実践	実験研究	調査研究	20
卒論発表	卒論発表	卒論発表	20
論文作成	論文作成	論文作成	20

〔教科書〕

各配属先で指定する

〔参考書〕

各配属先で指定する

〔オフィスアワー〕

各配属先の指示に従う

〔所属教室〕

教室、研究室、センターにて実施する。

〔準備学習(予習・復習等)〕

卒論期間は、予習・実践・復習の連続である。3年後期から6年の秋まで、これを繰り返すことで、高い課題発見解決能力を醸成する。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、実験結果の解析と評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

医療衛生薬学課題研究（調査研究コース）

Thesis Reserch

第4・5・6学年 通年 実習科目 12単位

卒論指導教員

学習目標 (GIO) 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。これに加え、調査研究コースでは、薬学、薬剤師、並びに医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、医療を取り巻く代表的な事象について調査し、考察する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。	G-1-1-1
2	研究には自立性と独創性が求められていることを知る。	G-1-2-1
3	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)	G-1-3-1
4	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)	G-1-4-1
5	自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	G-2-1-1
6	研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	G-2-2-1
7	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	G-2-3-1
8	研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)	G-3-1-1
9	課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)	G-3-2-1
10	研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)	G-3-3-1
11	研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)	G-3-4-1
12	研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)	G-3-5-1
13	研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	G-3-6-1
14	臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。	A-2-4-1
15	「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	A-2-4-2
16	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	A-2-4-3
17	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	A-5-1-1
18	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	A-5-1-2
19	必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	A-5-1-3
20	得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	A-5-1-4
21	インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	A-5-1-5
22	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	A-5-2-1
23	薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	A-5-2-2
24	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
25	生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	A-5-3-2
26	薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	A-5-4-1
27	後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	A-5-4-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
全	コースワーク各担当教員 各卒論担当指導教員	コースワークおよびリサーチワーク	上記のSBOsならびに各リサーチワークに関するSBOs

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

調査研究コースは、コースワークとリサーチワークから構成される。
 コースワークは、情報収集、医療の最前線、問題解決をクラスまたはチーム/グループ単位で実施する。リサーチワークは卒論配属先で行う。
 情報収集では、実務実習における症例検討の際に必要な基礎知識習得ならびに調査研究に必要な情報収集法習得のための演習を行う。
 医療の最前線では、医療コミュニケーション習得のためのグループワークへの参加、医療の現場で活躍する講師の講演を拝聴し指定された書式でプロダクトおよびレポートを作成する。
 問題解決では、小グループ学習形式（PBLT）による課題発見解決型の演習を行う。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕

学生は3年生後期に実施されるガイダンスならびに資料に基づき、実験研究コース（主に実験研究を行う）または調査研究コース（主に演習を中心に行う）を選択する。リサーチワークとして実施する課題研究は、卒業指導教員と相談して研究テーマを学生ごとに決定する。配属先の具体的な課題ならびに研究テーマは本学ホームページを参照。

調査研究コースプログラムの概要：

（課題研究に加え、下記のプログラムに参加する）詳細は、別冊資料を参照。

情報収集（5単位）：グループ学習も含めた演習形式の授業により、基礎学力の確認と醸成を行う。実務実習に臨む直前の時期（5年生第1ターム）には、医療実務分野に必要な専門知識を復習して理解を深める。リサーチワークで必要となる情報収集法を習得する。

医療の最前線（2単位）：4年生1-2月ならびに5年生第1タームには医療コミュニケーション演習をグループワークで行いプロダクトを作成提出する。医療現場で必要となるコミュニケーション能力を習得する。5年生第5タームには学外の講師による講演（オムニバス形式）を聞き、課題レポートを作成提出する。医療の最前線に関連する知識に触れ、自ら調査解析する能力を習得する。

問題解決（1単位）：小人数クラスによる演習を行い、薬学生として求められる知識・技能・態度について総合的に学ぶ。課題研究に必要な問題解決能力を習得する。

〔成績評価方法〕

情報収集は出席状況と演習総括試験の成績によって評価する。
 医療の最前線は、出席状況と指定されたプロダクトおよびレポートの提出によって評価する。
 問題解決は各クラスの担当者が出席状況、参加態度、プロダクトによって評価する。
 リサーチワークは卒業指導教員が、調査研究内容と発表会でのパフォーマンスから評価する。
 これらを総合し、総括的評価は下記の調査研究コースの項目を基に卒業指導教員が行う。

[項目]	[調査研究コース]	[評価部分点(%)]
先行研究	情報収集	15
先端研究	医療の最前線	15
研究立案	問題解決（PBLT）	10
研究実践	調査研究	20
卒論発表	卒論発表	20
論文作成	論文作成	20

〔オフィスアワー〕

コースワーク：杉浦 宗敏 随時対応する。医薬品安全管理学教室 医療棟3階 M304号室。
 リサーチワーク：各卒業担当指導教員

〔準備学習（予習・復習等）〕

卒業期間は、予習・実践・復習の連続である。3年生後期から6年生までこれを継続して繰り返し、高い課題発見解決能力を醸成すること。

〔学生へのフィードバック〕

適宜、調査・解析した結果の評価を行い、知識、技能、態度についてフィードバックする。

基礎分析化学集中講義

Intensive Class in Basic Analytical Chemistry

第 1 学年 前期 自由科目 0.5 単位

小谷 明
吉田 君成
山本 法央
町田 晃一

学習目標 (GIO) 薬の専門家として医療に関わるには、薬物や生体成分の量あるいは濃度に関する取り扱いを的確に行い、適正に表現する能力が不可欠となる。この基盤を入学早期で身につけ、分析化学系科目を修得するための導入として、基本的な計算の仕組みと関連の基礎知識を集中的に学修する。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子量、分子量を説明できる。	X-5-1-2
2	溶液の濃度計算ができる。	X-5-3-1
3	大きな数や小さな数を SI 接頭語、べき、および対数を使い、的確に表すことができる。	X-7-1-1
4	溶液の pH を計算できる。	C2-2-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1~4	小谷・吉田・山本・町田	物質を構成する原子と分子について 化学物質の量や濃度とその単位について	1, 3
5~7	"	溶液の濃度とその表し方、溶液の調製方法について 水溶液中の水素イオン濃度とその表し方について	2, 3, 4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

小テストを行い、問題を解くことを通じて理解を深めるようにしている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

小テストによって個人の一般化学の修得度合いを評価し、不合格者には理解できるまで個別の指導を行う。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

a) 知識： 毎回講義の最初に小テストを行う。教員が小テストの解説をしている間に採点を行い、解説終了後に合格者を発表する。不合格者は、後日または直後に行う再小テストおよび個別指導を受け、教員が全問理解したと判断したら、合格とする。

2) 総括的評価

a) 知識： 講義すべての合格をもって、評価する (100%)。

〔教科書〕

なるほど分析化学-数字となかよくする本 (楠文代 / 渋澤庸一 編集 廣川書店)

〔参考書〕

高校の時に使用していた教科書および参考書等

〔オフィスアワー〕

いつでも可。ただし、要予約

〔所属教室〕

小谷 明 分析化学教室 研究 2 号館 4 階 406 室
山本 法央 分析化学教室 研究 2 号館 4 階 406 室
吉田 君成 薬学教育推進センター 教育 2 号館 1 階 2109 室
町田 晃一 分析化学教室 研究 2 号館 4 階 406 室

〔準備学習 (予習・復習等)〕

ガイダンス資料で案内した授業内容の範囲を予習して講義に臨んで下さい。教科書、ノート、小テストを活用して復習を必ず行なって下さい。授業ごとに予習と復習を各々 70 分以上行うこと。

〔学生へのフィードバック〕

小テストの結果を講義中にフィードバックしている。さらに、再小テストの対象者には、自身の答案を利

用した個別指導とフィードバックを行っている。

〔教員からの一言〕

1年必修科目である「化学平衡論」「分析化学」の基礎中の基礎であるので、自由科目であるが全員受講すること。

〔備考〕

基本的に、すべて出席すること。やむを得ず病気等で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従うこと。

基礎物理学集中講義

Intensive Class in Basic Physics

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

横島 智

学習目標 (GIO) 高校で物理を十分に勉強してこなかった学生や、物理に苦手意識を持つ学生を対象として、物理学や関係する専門科目である物理化学、分析化学、有機化学、無機化学、物理薬剤学などの内容を学んでいくために必要な知識を習得し、物理特有の考え方を身につけ、さらに将来にわたって自分で勉強できるようになるために必要な学習法を身につけることを目標とする。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	物理量の基本単位の定義を説明できる。	X-4-1-1
2	SI単位について説明できる。	X-4-1-2
3	基本単位を組み合わせた組み立て単位を説明できる。	X-4-1-3
4	物理量として、スカラー量とベクトル量を区別できる。	X-4-1-4
5	有効数字を考慮した計算ができる。	X-7-1-2
6	力、質量、位置、速度、加速度、時間、仕事の間接を、運動の法則に基づき、式やグラフを用いて説明できる。	X-4-2-1
7	円運動、単振動を数式を用いて説明できる。	X-4-2-2
8	仕事、エネルギー、運動量、角運動量とはどのようなものか、例をあげながら説明できる。	X-4-2-3, X-4-3-1
9	保存則について説明できる。	X-4-3-2
10	気体についてのボイル、シャルル、ボイル・シャルルの諸法則について説明できる。	T-1
11	理想気体の状態方程式を使って、圧力、体積、温度の関係を計算できる。	T-1
12	微視的な分子運動の視点から、気体の温度、圧力、エネルギーについて説明できる。	C1-2-1-2
13	光、音、電磁波などが波であることを理解し、波の性質を表す物理量について説明できる。	X-4-4-1
14	波を特徴づける量を理解し、グラフ等から読み取ることができる。	X-4-4-1
15	電荷間に働くクーロンの法則について説明できる。	C1-1-2-2
16	電場、磁場、光について説明できる。	X-4-7-1
17	ローレンツ力について説明できる。	X-4-7-2
18	光の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-2
19	電子の粒子性と波動性について概説できる。	X-4-8-3
20	原子の軌道を説明できる。	X-5-1-3
21	エネルギーの量子化について説明できる。	C1-2-1-3
22	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
23	共役の概念を説明できる。	C1-1-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	横島	単位、スカラーとベクトル、有効数字、物体の運動と運動の3法則、落下運動と力	1,2,3,4,5,6,15,17
2	"	波の性質	13,14
3	"	円運動、単振動、角運動量	7
4	"	仕事、エネルギー、運動量	8,9
5	"	理想気体の状態方程式、気体の分子運動と温度、圧力、エネルギー	10,11,12
6	"	電場、磁場、光	15,16,17,18
7	"	電子の性質と水素原子の軌道	19,20
8	"	エネルギーの量子化、分子軌道	21,22,23

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

コンピューター (WebClass) を使って様々な問題を出し、取り組んでもらう。

〔授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）〕
簡単な実験が可能なものについてはデモをおこない、そうでないものについては、動画などを使って、物理現象を直感的に理解できるようにする。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識:小テスト
 - c) 態度:受講態度（授業の出席）
- 2) 総括的評価
 - a) 知識:授業内テスト（100%）により評価する。

〔教科書〕

薬学のための物理学（宇野正宏著 愛智出版）

〔参考書〕

高校の時に使用していた教科書および参考書等

〔オフィスアワー〕

いつでも可。

〔所属教室〕

薬学教育推進センター（教育2号館1階2109室）
普段、教育3号館2階の3205室にいます。

〔準備学習（予習・復習等）〕

基本的に、すべて出席すること。やむを得ず病気等で欠席する場合は、予め教員に連絡して指示に従ってください。また、WebClassに授業で使うスライドを載せますので、復習のために活用して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

適宜小テストをおこない、間違えやすい点や、身につけていない点などについて、学生ごとにフィードバックしていく。

〔教員からの一言〕

物理学のなかでもつまづきやすい、エネルギーと波が分かるようになるために、その部分に力を入れた構成になっています。物理学で分からなかった疑問点を思い出してからこの授業を受けると、とても分かりやすいと思います。物理化学、分析化学、有機化学、無機化学などを学ぶ上での前提知識になりますので、しっかりとものにしてください。

化学入門演習

Introductory Seminar in Chemistry

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

古石 裕治

吉田 君成

学習目標 (GIO) 「有機化学・無機化学」の学力は薬学を学ぶために必須であり、生体分子・医薬品を化学で理解するための基盤になります。特に初年次前期に学修する「基礎化学」と「無機化学」は、その礎となる大変重要な内容を含んでおり、確実に修得することが求められます。本演習では、必修科目である「基礎化学」・「無機化学」の履修をサポートするために、重要なポイントを演習形式の授業で学ぶことを目標とします。初学者が感じやすい「化学の難しさ」に対して、平易に論理的な考え方を示して基礎学力を醸成します。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
2	分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2
3	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
4	代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	C3-1-1-1
5	基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
6	有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	C3-1-1-4
7	ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
8	代表的な無機酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	C3-5-1-2
9	官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	C3-3-6-1
10	アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	C3-3-7-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石	化学結合の基礎1：混成軌道	1, 2
2	古石	化学結合の基礎2：極性共有結合と分極	1, 2, 9
3	古石	共鳴理論の基礎	3
4	古石	酸・塩基理論の基礎	7, 10
5	吉田	有機化学の基礎演習	1, 7
6	吉田	無機化学の基礎演習	2, 3, 8
7	吉田	総合演習	1~10

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

演習問題を与え、理解度を自身で確認できるように指導します。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

必修科目である基礎化学・無機化学との連携を重視して、特に理解不足の陥りやすい項目に焦点をあてます。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

2) 総括的評価

a) 知識：総合演習の結果 (100%) にて評価します。

〔教科書〕

マクマリー有機化学 第9版上巻、中巻及び下巻 (J. McMurry 著 伊東ら 訳 東京化学同人)
ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学 (青木 伸 編 化学同人) 第1版 第10刷以降のもの

〔参考書〕

化合物命名法-IUPAC 勧告に準拠- (日本化学会 命名法専門委員会編 東京化学同人)

電子の動きでみる有機反応のしくみ (奥山 格、杉村 高志 著 東京化学同人)

困ったときの有機化学 (D. R. クライン 著 竹内 敬人、山口 和夫 訳 化学同人)

〔オフィスアワー〕

古石：いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109
(学習相談受付時は教育2号館1階2110)

吉田：いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔所属教室〕

古石 裕治 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

吉田 君成 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔準備学習（予習・復習等）〕

シラバスで講義内容を確認した上で、講義1コマに対して最低でも30分程度は予習を行うことを提案します。具体的には、必修科目である基礎化学・無機化学の講義で、理解不足に陥っている部分をあらかじめ自分で探し出して下さい。その理解できていない部分を、この講義で克服することを目指して下さい。

〔学生へのフィードバック〕

授業各回において、前回の授業内容のポイントを再度伝えて確認し、質疑応答を通してフィードバックを行います。

〔教員からの一言〕

高校で学んできた化学に比較して大学の化学では、知識として覚える学習に依存するよりも、「考えて理解する学習」が効果的です。ここで培われる思考力は、他の薬学専門科目の勉強にも大変役立ちますので、地道な努力を重ねて下さい。

〔備考〕

本科目は自由単位ですが、受講の対象者および履修申請については5月中旬に掲示等で連絡します。なお、学習効果を考慮し履修人数を制限します。

化学系基礎演習

Seminar in General Chemistry

第1学年 前期 自由科目 0.5単位

古石 裕治

吉田 君成

学習目標 物質の物理的性質、化学的性質を理解するために、物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得します。さらに、酸塩基についての基本的な知識を身につけます。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	原子、分子、イオンの基本的構造について説明できる。	X-5-1-1
2	原子の電子配置について説明できる。	X-5-1-3
3	化学結合の様式について説明できる。	C1-1-1-1
4	基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	C3-1-1-3
5	共役や共鳴の概念を説明できる。	C1-1-1-3
6	有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	C3-1-1-4
7	周期表に基づいて原子の諸性質（イオン化エネルギー、電気陰性度など）を説明できる。	X-5-1-4
8	酸と塩基の基本的な性質および強弱の指標を説明できる。	X-5-3-4
9	ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	C3-1-1-5
10	酸解離定数や塩基解離定数に基づいて、酸や塩基、またはこれらの塩の水溶液や緩衝液の液性を理解し、pHを計算することができる。	C2-2-1-1~2, C2-2-1-4
11	軌道の混成について説明できる。	C1-1-1-2

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1	古石	第1テーマ：共鳴・ルイス構造 (キーワード) ルイス構造式の描き方、オクテット則、形式電荷、不飽和結合の共鳴 本講義を受講した学生は第9回講義を受講しなくてよい。	1~6
2	古石、吉田	第1テーマ：共鳴・ルイス構造 第1回講義を受講した者は吉田、しなかった者は古石の講義を受講すること。	1~6
3	古石	第1テーマ：共鳴・ルイス構造 第2回講義(古石)を受講した学生は、引き続き受講すること。	1~6
4	吉田	第2テーマ：有効核電荷と原子軌道のエネルギー準位 (キーワード) 原子の構造、最外殻電子に作用する核電荷、最外殻エネルギー準位 本講義を受講した学生は第9回講義を受講しなくてよい。	2,8
5	吉田、古石	第2テーマ：有効核電荷と原子軌道のエネルギー準位 第4回講義を受講した者は古石、しなかった者は吉田の講義を受講すること。	2,8
6	吉田	第2テーマ：有効核電荷と原子軌道のエネルギー準位 第5回講義(吉田)を受講した学生は、引き続き受講すること。	2,8
7	古石	第3テーマ：酸塩基 (キーワード) 酸及び塩基の水溶液中での振る舞い、その水溶液のpH計算 本講義を受講した学生は第9回講義を受講しなくてよい。	6~10
8	古石、吉田	第3テーマ：酸塩基 第7回講義を受講した者は吉田、しなかった者は古石の講義を受講すること。	6~10
9	古石	第3テーマ：酸塩基 第8回講義(古石)を受講した学生は、引き続き受講すること。	6~10

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
10	吉田	第4テーマ：結合角・混成軌道 (キーワード)共有結合の結合角、原子価殻電子対反発則、 混成軌道、価電子の数と配置 本講義を受講した学生は第12回講義を受講しなくて よい。	2~4,11
11	吉田、古石	第4テーマ：結合角・混成軌道 第10回講義を受講した者は古石、しなかった者は吉田の講 義を受講すること。	2~4,11
12	吉田	第4テーマ：結合角・混成軌道 第11回講義(吉田)を受講した学生は、引き続き受講する こと。	2~4,11

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

大学入学後に学んだ様々な化学関連の項目に関して、学生の理解不足を補うための復習と課題演習を行うことで、学生の積極的な学習を促します。また、WebClassに講義資料を掲載し、予習・復習が容易に行える環境を整え、学生の自学習とこれによる理解を促します。オフィスアワー、学習相談も原則常時受け付けていて、学生の自学習を補佐しています。

〔授業で行っている工夫(思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

あらかじめ重要なキーワードを提示し、学習目標を明確に学生に伝えます。授業は基本的には板書・書画カメラ映写・パワーポイント等で行い、資料プリントを配布することもあります。

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

知識:テーマごとに講義内でミニテストを行い、これについて解説を行い学生に理解を促すと同時に、学生に自分の理解度を自覚してもらいます。学生が自らの形成的評価を行うという「学生参加型形成的評価」を行うことで、その場で各自がこれからの学習の指標を立てられるようにしています。

2) 総括的評価

知識:テーマごとに実施するミニテストを回収し、その提出状況と解答内容により評価を行います。一部のミニテストを提出できなかった学生については、そのミニテストの代わりとして課題レポートを提出してもらい、これを評価します。ミニテスト提出状況(60%)、ミニテストの解答内容(40%)

〔教科書〕

ベーシック薬学教科書シリーズ4 無機化学(青木伸編 化学同人)第1版 第11刷

〔参考書〕

マクマリー有機化学第9版(上)

〔オフィスアワー〕

古石:いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109
(学習相談受付時は教育2号館1階2110)

吉田:いつでも可 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔所属教室〕

古石 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

吉田 薬学教育推進センター 教育2号館1階2109

〔準備学習(予習・復習等)〕

学生が大学入学後、または高校で既に学んでいることからテーマを選び、講義を行います。学生は各自、予告しているテーマとそのキーワードについて、高校時代及び大学入学後に学習した内容を復習してから、本科目の講義を受けてください。必要であれば、高校化学の教科書や資料集も読み直してください。こうしたことが本科目では予習となります。予習・復習をしても内容が良くわからない、というときには学習相談を受け付けます。教育2号館1階の2109室まで来てください。古石か吉田の、そのときにいる方が対応します。

〔学生へのフィードバック〕

よくある質問に関しては、周知した方が良いと判断した場合には講義内で説明を行ったり、説明のための追加資料をWebClassに掲載することがあります。

〔教員からの一言〕

大学入学直後の、化学系科目のつまづきを防ぐためにできるだけ分かりやすい講義を行うように努めます。化学は苦手だな、という学生さんも、化学の基本を見直すちょうど良い機会だと思って積極的に取り組んでください。

〔備考〕

本講義よりも早期臨床体験を優先し、早期臨床体験に参加しない日は忘れずに本講義を受講してください。皆さんは、12回開講するうち8回の講義を受講することが原則となります。ただし、各テーマの1日目の講義(第1回、4回、7回、10回講義)を受講した学生が、そのテーマの2日目(それぞれ第2回、5回、8回、11回講義)の日に早期臨床体験に参加する場合には、そのテーマについては1日目のみを受講して終了となります。その場合には、課題レポートを提出させることで各テーマ2日目の講義出席に代えます。出席についてよくわからないことがあれば、古石か吉田に相談してください。

アドバンスゼミナールIII (UCSF)

Advanced Seminar III

第3学年 後期 自由科目 1単位

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の薬学部からの客員教員

学習目標 (GIO) 薬剤師は、薬学部において習得する知識及び技能を基礎として、臨床の場において本格的な薬物治療に参画できる能力が要求される。本演習では、いち早く医療薬学教育を導入したカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 薬学部の教員によって実施される。この演習では、薬学を学ぶ学生の国際的視野を広げるとともに、薬物治療の基礎に関する講義及び討論を通じて、将来医療チームの一員として、適切な薬物療法を検討・支援する能力を養うことを目的としている。演習は、受講した学生が5年次における米国での薬学研修に参加することも視野に入れ、全て英語で行われる。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	薬剤師としての使命感を身につけ、医療人としてふさわしい態度で行動する。	A-1-1-1～4
2	薬剤師が果たすべき役割を自覚する。	A-1-2-1～3, A-1-2-6
3	多職種連携の必要性を理解し、その意義を説明できる。	A-4-1-1, A-4-2-1, A-4-3-1
4	医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。	A-5-1-1
5	生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	A-5-3-1
6	米国の医療、福祉、介護の制度について、日本と比較しながら説明できる。	B-3-1-1～2, B-3-1-4～5
7	国際的な医薬品市場の動向について説明できる。	B-3-2-1, B-3-2-3～4
8	米国における薬剤師の活動分野について、日本と比較しながら説明できる。	B-4-1-4, B-4-1-6, B-4-2-2, B-4-2-4～5
9	専門的に対応する薬剤師の薬物療法を体験する。	F-3-1-1～7, F-3-2-1～6, F-3-3-1～14, F-3-4-1～13

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-4	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の薬学部からの客員教員 各1名 Moderatorとして本学教員各1名	イントロダクション 米国における薬剤師業務の概要	1-9
5-7	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の薬学部からの客員教員 各1名 Moderatorとして本学教員各1名	チーム医療における薬剤師の役割	1、2、3、4、5、9
8-10	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の薬学部からの客員教員 各1名 Moderatorとして本学教員各1名	米国における専門薬剤師の現状	1、2、3、4、5、9
11-13	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の薬学部からの客員教員 各1名 Moderatorとして本学教員各1名	日米間における病院・薬局薬剤師の業務の違いと特徴	1、2、3、4、5、6、8

[アクティブ・ラーニングの取り組み]

- ・ゼミナール終了時に、日米間における薬剤師業務の違いに関するレポート（感想文）の提出を行う
- ・講義は教員とのディスカッションを中心に進行されるため、受講者には積極的な発言・参加姿勢を期待する

〔成績評価方法〕

1) 形成的評価

- a) 知識:講義のまとめと感想を提出してもらう。
- b) 技能:ロールプレイについて学ぶ。
- c) 態度:受講態度（出席状況等）により評価。

2) 総括的評価

- a) 知識（10%）:討議・発表により総合的に評価。
- b) 技能（10%）:ロールプレイを実践する。
- c) 態度（60%）:受講態度（出席状況等）により評価。
- d) パフォーマンス（20%）:受講後の到達度（授業への参加、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力など）を評価するために、ルーブリック評価表を用いて学生自身で評価してもらう。

〔オフィスアワー〕

講義の終了後

〔準備学習（予習・復習等）〕

英語の聞く、読む、書く力をできるだけつけるようにして下さい

〔学生へのフィードバック〕

講義終了後気軽に担当教員に質問して下さい

アドバンスゼミナールⅤ (USC・米国臨床薬学研修)

Advanced Seminar V

第 5 学年 後期 自由科目 1 単位

南カリフォルニア大学 (USC) 薬学部

東京薬科大学 薬学部国際交流運営委員会

東京薬科大学 国際交流センター

学 習 目 標 (GIO) 本プログラムは、東京薬科大学 薬学部 5 年生を対象にした臨床薬学研修プログラムである。本学の協定校である University of Southern California (USC) を 2 週間訪問し、米国の薬学教育及び薬剤師がどのように活躍しているのかを全て英語で実地体験・学習するものとなっている。現地では USC 教員による講義や地域の薬局見学、医療施設見学が実施され、全て英語で受講することとなる。米国における薬剤師は社会的にも高い評価を得た職業であり、技術・技能も最先端のものである。また、職能・職域においても日本とは大きく異なっており、米国社会においては大きな信頼を得た医療職となる。本研修を通じて視野の広い医療人としてのマインドを養成し、優れた医療の担い手となる礎を築く。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	世界の福祉に貢献する医療人としてのマインドを養う。	A-1-1-1 ~ 3, A-1-2-8, A-1-4-4, A-5-1-1
2	異なる環境下で能力を発揮するための積極性を身につける。	A-1-1-4 ~ 7, A-5-1-1
3	国際社会における多様性に触れることにより医療人としての倫理観を身につける。	A-1-1-1 ~ 3, A-1-1-5 ~ 7, A-3-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-2	USC	イントロダクション	1,2,3
3-18	USC	米国における薬剤師業務の概要、日米間における病院・薬局薬剤師の業務の違いと特徴、米国の医療機関訪問	1,2,3
19	東京薬科大学 国際交流運営委員会	研修成果発表	1,2,3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・教員と学生間のディスカッションを主として授業を進行し、受講者が各自意見を述べる機会を設ける。
- ・研修終了後に報告書を提出させる。
- ・東京薬科大学内で成果発表する機会を設ける。(ポスター発表、成果報告会等)

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

- ・研修時にはディスカッションが多く行われ、各自が思考して意見を述べなければならない環境としている。
- ・研修参加者同士で授業の不明点等を話し合う機会を設ける。

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 研修報告書を提出してもらう。
 - b) 技能: ロールプレイについて学ぶ。
 - c) 態度: 受講態度 (出席状況等) により評価。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識 (20%): 討議・発表により総合的に評価。
 - c) 態度 (60%): 受講態度 (出席状況等) により評価。
 - d) パフォーマンス (20%): 成果発表を行う。

〔オフィスアワー〕

国際交流センター (教育 1 号館 2 階)

月-金: 8:45-12:00、13:00-17:00

祝日は閉室となります。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

- ・薬学に関する基礎的な英語について理解しておいてください。
- ・事前に日米間の薬剤師の役割の違いについて学習し、現地講義に対して円滑な導入が出来るよう備えてください。

〔学生へのフィードバック〕

USC 研修には本学教員も同行し、授業態度等について現地指導を行う。

アドバンスゼミナールⅤ (UCSF・米国臨床薬学研修)

Advanced Seminar V

第5学年 後期 自由科目 1単位

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 薬学部

東京薬科大学 薬学部国際交流運営委員会

東京薬科大学 国際交流センター

学習目標 (GIO) 本プログラムは、東京薬科大学 薬学部 5年生を対象にした臨床薬学研修プログラムである。本学の協定校である University of California, San Fran Cisco (UCSF) を2週間訪問し、米国の薬学教育及び薬剤師がどのように活躍しているのかを全て英語で実地体験・学習するものとなっている。現地研修では UCSF 附属の病院や地域薬局を訪問し、日米の薬剤師職能の差異を学ぶことができる。特に病院研修では、現地の病院研修生 (レジデント) と1対1で英語によるコミュニケーションをとりながら、二日間病院の各部署を巡る実践的な内容となっている。また、UCSF の現任教員による講義も行われ、世界でも最先端の医療情報が全て英語にて提供される。米国における薬剤師は社会的にも高い評価を得た職業であり、技術・技能も最先端のものである。また、職能・職域においても日本とは大きく異なっており、米国社会においては大きな信頼を得た医療職となる。本研修を通じて視野の広い医療人としてのマインドを養成し、優れた医療の担い手となる礎を築く。

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	世界の福祉に貢献する医療人としてのマインドを養う。	A-1-1-1~3, A-1-2-8, A-1-4-4, A-5-1-1
2	異なる環境下で能力を発揮するための積極性を身につける。	A-1-1-4~7, A-5-1-1
3	国際社会における多様性に触れることにより医療人としての倫理観を身につける。	A-1-1-1~3, A-1-1-5~7, A-3-1-3

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1-2	UCSF	イントロダクション	1,2,3
3-18	UCSF	米国における薬剤師業務の概要、日米間における病院・薬局薬剤師の業務の違いと特徴、米国の医療機関訪問	1,2,3
19	東京薬科大学 国際交流運営院会	研修成果発表	1,2,3

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・教員と学生間のディスカッションを主として授業を進行し、受講者が各自意見を述べる機会を設ける。
- ・研修終了後に報告書を提出させる。
- ・東京薬科大学内で成果発表する機会を設ける。(ポスター発表、成果報告会等)

〔成績評価方法〕

- 1) 形成的評価
 - a) 知識: 研修報告書を提出してもらう。
 - b) 技能: ロールプレイについて学ぶ。
 - c) 態度: 受講態度 (出席状況等) により評価。
- 2) 総括的評価
 - a) 知識 (20%): 討議・発表により総合的に評価。
 - c) 態度 (60%): 受講態度 (出席状況等) により評価。
 - d) パフォーマンス (20%): 成果発表を行う。

〔オフィスアワー〕

国際交流センター (教育1号館2階)
月-金: 8:45-12:00、13:00-17:00
祝日は閉室となります。

〔準備学習 (予習・復習等)〕

- ・薬学に関する基礎的な英語について理解しておいてください。
- ・事前に日米間の薬剤師の役割の違いについて学習し、現地講義に対して円滑な導入が出来るよう備えてください。

〔学生へのフィードバック〕

UCSF 研修には本学教員も同行し、授業態度等について現地指導を行う。

インターンシップ

Internship

第3・4・5学年 前期・後期 自由科目 1単位

就職委員会委員長

学習目標 (GIO) 私たちは薬学を学んで卒業し、社会に役に立ついろいろな職業に就く事ができる。人に聞いたり自分で思い描いている職業を、実際に体験してより正しく理解することが、これから一生の職業を選ぶ場合に、たいへん重要なことである。限られたチャンスしかないが、いろいろな職場で、実際に仕事をしている人にその仕事について教えていただき、今後の就職活動に大いに役立てて欲しいと思う。本学のインターンシップの目的は次の通りである。① 職業意識、就業意識の促進、② 業種、職種、企業の正しい理解、③ 勉学意欲の亢進

行動目標 (SBOs)

番号	内容	コアカリとの関連コード
1	医療、医薬、化学、食品等の会社・施設等において、体験先の組織、活動内容を説明できる。	T-1
2	体験先の仕事の業務内容を認識し、その役割を説明できる。	T-1
3	体験した企業・業務に求められる社会的役割・責任、内容、重要性を説明できる。	T-1
4	体験した業務を簡略にまとめた報告書を作成できる。	T-1

授業内容

回数	担当	内容	対応 (SBOs)
1		就業体験に先立って主に5~7月に事前授業を実施して、インターンシップの「意義、心得、事前準備」「マナー、身だしなみ」などについて理解してもらう。	
2		企業就業体験は主に夏期休暇中の8~9月上旬、もしくは1月末迄に実施し、就業期間は3日間以上を原則とする。	1,2,3
3		終了後にレポート提出、学内推薦の場合は検討会および発表会などを実施する。なお、一般公募の場合も学内推薦に準ずる内容を実施する。	4

〔アクティブ・ラーニングの取り組み〕

- ・事前授業時にレジュメ等の資料を配布し、講義を進行しながらポイントを理解・記入させるようにしている。
- ・レポートを提出後に内容をチェックし、必要時には再提出させている。
- ・報告会で就業体験内容の発表させている。

〔授業で行っている工夫 (思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み)〕

インターンシップの「意義、心得、事前準備」「マナー、身だしなみ」「注意事項」などについて、配布したレジュメ等に従って丁寧に説明を行っている。就業体験先の業種・企業研究を実施した上で就業体験させている。

〔成績評価方法〕

総括的評価

a) 知識：報告書 (50%)、発表 (50%) により評価する。

なお説明会、教育会、インターンシップ実習、報告会への全出席を原則とする。

〔オフィスアワー〕

杉山 利一 いつでも可 キャリアセンター

〔準備学習 (予習・復習等)〕

学内推薦の場合、履修希望者が予定の人数を超過した場合は、受け入れ先の定員等に合わせて選考する。

〔学生へのフィードバック〕

報告会におけるインターンシップ体験状況の解説・総評、参加企業からの学生評価